

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成18年6月

木更津工業高等専門学校

目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	58
	基準3 教員及び教育支援者	99
	基準4 学生の受入	158
	基準5 教育内容及び方法	175
	基準6 教育の成果	289
	基準7 学生支援等	337
	基準8 施設・設備	407
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	442
	基準10 財務	495
	基準11 管理運営	511
IV	選択的評価事項に係る目的	550
	選択的評価事項A 研究活動の状況	552
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	601

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

木更津工業高等専門学校

(2) 所在地

千葉県木更津市

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，
電子制御工学科，情報工学科，
環境都市工学科

専攻科：機械・電子システム工学専攻，
制御・情報システム工学専攻，
環境建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成18年5月1日現在）

学生数：学 科 1,052名

専攻科 72名

教員数： 78名

2 特徴

木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、1967年6月に機械工学科，電気工学科及び土木工学科の3学科で発足し，その後，1983年4月に高専としては初めての電子制御工学科を，1990年4月には情報工学科を増設し，5学科となった。また，科学技術の発展や社会の要請，産業動向に対応し，1994年4月に土木工学科を環境都市工学科に改組し，さらに2000年4月に電気工学科を電気電子工学科に名称変更した。創設以来，教育基本法にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，(1) 人間形成 (2) 専門の科学技術の修得 (3) 心身の鍛錬を教育方針として掲げている。

1983年に高専での留学生制度が開始され，開始と同時に本校では留学生を積極的に受け入れた。それ以降現在まで連続して留学生を受け入れており国際貢献の一端を担っている。

2001年4月には，従来の5年間の準学士課程の上に更に2年間のより高度の教育を行うことを目的に，専攻科を設置した。科学技術が高度化し専門領域の境界が特定しにくくなっており，専門領域だけでなく境界領域にも柔軟に対応できる人材を求める社会的要請に応え，機械・電子システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，環境建設工学専攻の3専攻を設置した。

本校では，知能と技能を併せ持ち実社会において即戦

力として活躍する技術者の育成を目指し，実験・実習系科目の時間を多く取ってきている。卒業生及び修了生は，設計，開発，生産技術，保守など専門知識を活かした実務に優れていると産業界から高い評価を受けており，近年の不況にもかかわらず高い求人倍率となっている。

低学年教育にも力を入れ，1991年から一般教育をより充実させるために一般科目を担当している教員らが中心となり，3学年で「特別研究」を実施している。各教員が少数の学生を担当し，学生らは自ら設定した課題について1年間研究を行い，年度末に研究成果を論文として提出し，発表会を開催している。一般科目の教員らは学生との共同作業を通して学生たちに一般科目の学びの方法を伝えようとしている。

全国高専には教育寮としての学生寮が設けられているが，本校においては，学生の3分の1に当たる約340名が入寮している。寮の運営においては，「群制度」という個性的な小集団割拠方式を採用している。寮生を8群に分割し，各群に群長を置き，群の自主的な運営を尊重することにより自律的な共同生活意識を育てている。

一方，地域産業界等との連携・協力を図るために，1995年12月に技術開発相談室を設置し，2001年3月に地域共同テクノセンターを設置した。更に2004年3月には，技術振興交流会を立ち上げ地元企業等との連携による研究，教育活動の活性化を図っている。

2004年の独立行政法人化に伴い，本校の伝統的な教育方針と高専機構の中期計画を踏まえ，本校の「養成すべき人材像」を次のように定めた。

[準学士課程] 自主自立の精神と国際的視野を持ち，以下の知識及び能力と実践力を備え，他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者

- (1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- (2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- (3) 倫理的・美的価値への感受性

[専攻科課程] 自主自立の精神と国際的視野を持ち，以下の知識及び能力と実践力を備え，他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

- (1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- (2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- (3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

II 目的

1 木更津工業高等専門学校の使命及び基本方針

1.1 本校の目的

学校全体の目的は、学則第1条に「木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と規定されており、専攻科課程については、学則第37条に「専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成すること」と規定されている。

1.2 教育方針

本校は、「人間形成」、「専門の科学技術の修得」、「心身の鍛練」を教育の基本方針とする。

人間形成においては、幅広い教養を基本として、自ら考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の養成に努める。

専門の科学技術の修得においては、将来、指導的立場に立つ技術者として機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

心身の鍛練においては、学友会の部活動を奨励し、身体鍛練、豊かな情操の育成に努める。

2 達成しようとしている基本的な成果

2.1 準学士課程

準学士課程では、基礎学力と工学に関する基礎的な知識、行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力、倫理的・美的価値への感受性を備えた問題発見・解決型技術者の育成をめざし、次の4項目を達成すべき基本的な成果とする。

(1) **人間形成**： 豊かな人間性と健康な心身を培い、深く社会について理解し広い視野が持てるよう豊かな教養を身につけ、技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し技術者としての責任を自覚する。

(2) **科学技術の修得**： 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力、専攻する学科の専門分野の知識と能力、実験・実習を通してものづくりに必要な力を身につける。

(3) **コミュニケーション能力**： 日本語の記述能力、英語によるコミュニケーション基礎能力、情報技術を使いこなし発表・討論ができる能力を身につける。

(4) **創造力**： 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

2.2 専攻科課程

専攻科課程では、複合領域の知識を結びつける研究・開発能力、国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力、技術者としての社会的責任と倫理の自覚を備えた開発研究型技術者の育成をめざし、次の4項目を達成すべき基本的な成果とする。

(1) **人間形成**： 豊かな人間性と健康な心身を培い、技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し技術者としての責任を自覚する。

(2) **科学技術の修得と応用**： 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力、最も得意とする専門分野の知識と能力、異なる技術分野を理解し得意とする専門分野の知識と複合する能力、実験・実習を通しての実践的技術を身につける。

(3) **コミュニケーション能力**： 日本語の記述能力、情報技術を使いこなし日本語による発表・討論ができる能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

(4) 創造力： 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

3 学科・学系及び専攻科ごとの目的

3.1 準学士課程

※専門5学科の目的

(1) 機械工学科： 材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(2) 電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。

(3) 電子制御工学科： 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(4) 情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に，インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い，総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。

(5) 環境都市工学科： 構造力学，水理学，土質力学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境学等の環境工学の教育を行い，自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

※上記専門5学科共通の授業科目で編成される一般科目である人文学系及び基礎学系の目的

(1) 人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語及び特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を養成することを目的とする。

(2) 基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育及び専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理を理解できるようにすることを目的とする。

3.2 専攻科課程

(1) 機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と，両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(2) 制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として，意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システムに対応できる技術者を育成することを目的とする。

(3) 環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに，これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では創設時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料 1-1-①-1)。本校は、京葉工業地帯の一角を占め、日本有数の工業県である千葉県の木更津市に、最新技術の根本の原理を修得し、実社会において即戦力として活躍する技術者の育成をめざし、1967年に創設された。創設から現在に至るまで、製造業を始めとする産業界の発展に貢献しうる多くの人材を輩出し、本校が社会において担っている「ものづくり基盤の確立」という基本的な役割は、変わっていないと考えているため、この使命は現在に至るまで貫かれている。

更に、本校では 2001 年 4 月に専攻科の使命を定め、学則に掲げている(資料 1-1-①-1)。近年の技術の発展における質的变化を概観するとき、科学技術の高度化や独創的発想が求められることに加えて、専門領域の境界が特定しにくくなってきているなど、社会的背景が著しく変化してきている。高専 5 年間の教育体系を基盤として、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得・人間形成の教育を行う教育機関として発展させる必要があり、専攻科(3専攻：機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)を設置している。設立時から現在に至るまで、地域密着型の開かれた専攻科として発展してきており、学則に掲げられている使命が土台になっている。

また 1967 年 12 月、開校以来検討されてきた教育方針が明文化され(資料 1-1-①-2)、現在に至るまで本校における建学の精神として、学生及び教職員に広く浸透している。

学校としての達成しようとしている基本的な成果は、前述の教育方針(資料 1-1-①-2)から伝統的に培われてきた実学教育を、より具体的に学習・教育目標という形で明文化している。準学士課程における学習・教育目標(資料 1-1-①-3)は、2006 年 2 月に本校の伝統、建学の精神を考慮し発展的に定められ、専攻科課程における学習・教育目標(資料 1-1-①-4)は、2004 年 2 月に定められ、現在に至っている。

更に、本校では、前述の学習・教育目標を達成するために、準学士課程において、各学科・学系の教育目的を、それぞれの学科・学系の特性に応じて定めている(資料 1-1-①-5)。これらの教育目的は、科学技術の発展及び社会構造の変化に対応したカリキュラム改訂に伴い変遷し、現在に至っている。また、専攻科課程においても、各専攻の特性に応じた教育目的を、2001 年 4 月に定め現在に至っている(資料 1-1-①-6)。

資料 1 - 1 - ① - 1

本校の使命

第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(中略)

第 7 章 専攻科

(目的)

第 37 条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(出典 木更津工業高等専門学校学則)

資料 1 - 1 - ① - 2

教育方針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 学生便覧)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧)

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者を育成する。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成する。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成する。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成する。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成する。

人文学系： 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/jungakushi.html>)

各専攻の教育目的

本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科があります。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とします。以下に各専攻の教育目的を示します。

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/senkoka.html>)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、創設時より、学校が社会において担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、社会的背景の著しい変化に対応して、専攻科を設置し、その使命を定めている。これらの使命を具体化するための教育方針は、本校における建学の精神として、創設当時より明文化されている。更に、この教育方針を土台にして、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標が展開され、明文化されている。準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標を比較すると、教育方針から派生する共通的な目標を有している一方で、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得及び応用という項目において、明確な相違点がある(資料1-1-①-7)。加えて、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標を達成するために、準学士課程においては、各学科・学系の教育目的、専攻科課程においては、各専攻の教育目的が具体的に定められている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

資料 1-1-①-7 (1/2)

準学士課程および専攻科課程における学習・教育目標の相違点

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 倫理的・美的価値への感受性</p> <p>を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚</p> <p>を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。 (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>
<p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p>	<p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。 (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p>

資料 1-1-①-7 (2/2)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>3. コミュニケーション能力 高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。 (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力 国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。 (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>4. 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No. 06/02/14-1N)

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の使命(資料 1-1-①-1)は、高等専門学校創設の趣旨である「中堅技術者の養成」という目的及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。すなわち、学校教育法第 70 条の 2 に謳われている、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という目的が、本校の学則第 1 条に忠実に反映されている。また、本校の教育方針、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、更には準学士課程における各学科・学系の教育目的及び専攻科課程における各専攻の教育目的は、高等専門学校一般に求められる目的を、明確に意識して策定されている。その対応関係を示すと次のとおりである(資料 1-1-②-1)。

資料 1 - 1 - ② - 1 (1 / 3)

本校の教育目的と学校教育法との対応関係

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>本校の教育方針のうち、</p> <p>(2) 専門の科学技術の修得</p> <p>21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかねばならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。</p>	<p>本校の教育方針のうち、</p> <p>(1) 人間形成</p> <p>いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。</p> <p>(3) 心身の鍛錬</p> <p>社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。</p>
<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>(1) 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献する優れた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。</p> <p>(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。</p> <p>(3) 情報技術を使いこなす、発表・討論ができる能力を身につける。</p>

資料 1-1-②-1 (2/3)

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
機械工学科の教育目的のうち、 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、	機械工学科の教育目的のうち、 ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
電気電子工学科の教育目的のうち、 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、	電気電子工学科の教育目的のうち、 創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
電子制御工学科の教育目的のうち、 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、	電子制御工学科の教育目的のうち、 制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者育成をめざす。
情報工学科の教育目的のうち、 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、	情報工学科の教育目的のうち、 総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
環境都市工学科の教育目的のうち、 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、	環境都市工学科の教育目的のうち、 自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
	人文学系の教育目的のうち、 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことをめざす。
	基礎学系の教育目的のうち、 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

資料 1-1-②-1 (3/3)

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。</p> <p>(4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>	<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養のもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。</p> <p>(3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた</p>	<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>
<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、</p>	<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>
<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、</p>	<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No. 06/04/03-5N-1B)

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命は、高等専門学校創設趣旨及び学校教育法の目的を踏まえて策定されている。また、本校の教育方針は、学校教育法の高等専門学校の目的との対応を、明確に意識したうえで策定されている。更に本教育方針を土台にして展開されている準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的も、学校教育法の高等専門学校の目的を具現化したものとなっている。

以上のことから、本校の目的は学校教育法の定めにはずれるものではない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命は、学校要覧（資料 1-2-①-1）、ウェブページ（資料 1-2-①-2）に掲載されている。また、学生便覧（資料 1-2-①-3）にも学則に含まれる形で掲載されている。

本校の教育方針は、学校要覧（資料 1-2-①-4）、ウェブページ（資料 1-2-①-5）及び学生便覧（資料 1-1-①-2）に掲載されている。

準学士課程の学習・教育目標は、学校要覧（資料 1-2-①-6）、学生便覧（資料 1-1-①-3）及びウェブページ（資料 1-2-①-7）に掲載されている。また、準学士課程における各学科・学系の教育目的は、学校要覧（資料 1-2-①-8）、学生便覧（資料 1-2-①-9）及びウェブページ（資料 1-1-①-5）に掲載されている。ここで、学生便覧においては、表題を「各学科の専門科目及び一般科目の達成項目」とし、学生が見て分かりやすいように表現している。

専攻科課程の学習・教育目標は、学校要覧（資料 1-2-①-10）、学生便覧（資料 1-1-①-4）及びウェブページ（資料 1-2-①-11）に掲載されている。また、専攻科課程における各専攻の教育目的は、学校要覧（資料 1-2-①-12）、学生便覧（資料 1-2-①-13）及びウェブページ（資料 1-1-①-6）に掲載されている。準学士課程の場合と同様、学生便覧においては、表題を「各専攻の専門科目の達成項目」とし、学生が見て分かりやすいように表現している。

学校要覧、学生便覧については、それぞれ教職員や学生に配付し、周知が図られている（資料 1-2-①-14）。

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、年度初めの教員会議及び技術教育支援センター会議において資料を配付し（資料 1-2-①-15、資料 1-2-①-16）、周知徹底を図っている。

また、教員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的についても重点的に説明がなされている（資料 1-2-①-16）。

準学士課程の学生に対しては、新入生ガイダンス（教務主事による学習についての話）、第2学年～第5学年における年度初めの H.R.（資料 1-2-①-17）の中で、本校の使命、教育方針、準学士課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的が重点的に説明され、周知徹底が図られている。

また、専攻科課程の学生に対しては、新入生ガイダンス及び第2学年ガイダンス（資料 1-2-①-18）の中で、専攻科課程の学習・教育目標、専攻科課程における各専攻の教育目的が重点的に説

明され、周知徹底が図られている。

本校では、教員及び技術教育支援センター職員は、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、自らが所属する学科・学系の教育目的、自らが関連する専攻の教育目的について、事務職員は、本校の使命、教育方針について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。また、準学士課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科の教育目的について、専攻科課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、自らが所属する専攻の教育目的について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。

教員及び技術教育支援センター職員のアンケートの結果を見ると、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、学科・学系、専攻の教育目的全てについて、良く理解していることが分かる（資料 1 - 2 - ① - 19, 資料 1 - 2 - ① - 20）。また、事務職員のアンケートの結果を見ると、本校の使命、教育方針について、良く認識していることが分かる（資料 1 - 2 - ① - 21）。

一方、学生アンケートでは、準学士課程の学生において、本課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科の教育目的をあまり認識していないとの回答率が比較的高い。この背景として、準学士課程の学習・教育目標及び各学科・学系の教育目的を、達成項目として現在の形にまとめ明示したのは、今年度になってからであり、さらなる周知徹底の取り組みが必要であると考えられる（資料 1 - 2 - ① - 22）。専攻科課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、自らが所属する専攻の教育目的について、それぞれ良く認識している（資料 1 - 2 - ① - 23）。

資料 1 - 2 - ① - 1

本校の使命

木更津工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 学校要覧 1 頁）

資料 1-2-①-2

本校の使命

木更津工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/shimei.html>）

資料 1-2-①-3

本校の使命

6-1 学 則

第 1 章 本校の目的

（目的）

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（中略）

第 7 章 専攻科

（目的）

第 37 条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 学生便覧 79 頁，86 頁）

教 育 方 針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛練

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛練、豊かな情操の育成に努める。

(出典 学校要覧 1 頁)

本校の教育方針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/shimei.html>)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 学校要覧 4 頁)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/jungakushi.html>)

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5 年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の 5 つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(出典 学校要覧 5 頁)

各学科の専門科目及び一般科目の達成項目

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算法工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し、総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の修得を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し，国際的視野を持ち，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を身につけること。

基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。

(出典 学生便覧)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 学校要覧 18 頁)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/senkoka.html>)

資料 1 - 2 - ① - 12

各専攻の教育目的

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 学校要覧 19, 20, 21 頁)

資料 1 - 2 - ① - 13

各専攻の専門科目の達成項目

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システムの研究開発ができること。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 2 - ① - 14

教育目的の掲載状況

	「使命」「教育方針」の掲載	準学士課程，専攻科課程における学習・教育目標の掲載	各学科・学系，各専攻の教育目的の掲載	配布対象者
学校要覧	あり	あり	あり	全教職員
学生便覧	あり	あり	あり	全教職員及び学生
ウェブページ	あり	あり	あり	—

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No. 06/04/03-5N-1B)

資料 1 - 2 - ① - 15 (1 / 3)

各課程の学習・教育目標および学科・学系、専攻科ごとの目的について

各課程の学習・教育目標

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1)基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 倫理的・美的価値への感受性を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1)複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。 (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>
<p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p>	<p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。 (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p>

資料 1 - 2 - ① - 15 (2 / 3)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じた的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。 (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じた的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。 (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者育成をめざす。

資料 1 - 2 - ① - 15 (3 / 3)

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

専攻科の教育目的

本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科がある。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざす。

(出典 平成 17 年度教官会議資料)

資料 1 - 2 - ① - 16 (1 / 4)

本校の教育方針について

(1) 本校の使命

本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(2) 本校の教育方針

人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(3) 準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の 4 点の側面から学習・教育目標を設定しています。

資料 1 - 2 - ① - 16 (2 / 4)

人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (i) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (ii) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (iii) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (i) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (ii) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (iii) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (i) 日本語の記述能力を身につける。
- (ii) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (iii) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (i) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(4) 各学科・学系の教育目的

機械工学科： 材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

資料 1 - 2 - ① - 16 (3 / 4)

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(5) 専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (i) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (ii) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (i) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (ii) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (iii) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (iv) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

資料 1 - 2 - ① - 16 (4 / 4)

コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (i) 日本語の記述能力を身につける。
- (ii) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (iii) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (i) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(6) 各専攻の教育目的

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 技術教育支援センター会議資料及び初任者研修資料)

資料 1 - 2 - ① - 17

平成 18 年度入学式等日程表 (準学士課程)

	4月9日(日)	4月10日(月)		4月11日(火)		4月12日(水)		4月13日(木)
	寮 生	新 入 生	保 護 者	新 入 生	在 校 生	新 入 生	在 校 生	新 入 生
		新1年生 転入学生 編入学生		新1年生	転入学生 編入学生	新1年生	転入学生 編入学生	新1年生
9				8:50~9:10 新入生おめでとう (各教室)	8:50~9:00 2年生以上 おめでとう(各教室) 9:10 集合 (第1体育館)	8:50~9:10 新入生おめでとう (各教室)	2年生以上は 平常授業	平常授業
	9:00~ 2年生以上入寮 (昨年までの 入寮者)			9:15~10:00 9:15 1年生入場 女台築地式 (第1体育館)		9:20~10:00 学習について の話(教務主事) (図書館ホール)		
10		10:00~10:20 新入生おめでとう (各教室)	10:15 保護者集合 (第1体育館)	10:00~10:10 入寮式(全寮生) (第1体育館)		10:10~10:50 学生生活について の話(学生主事) (図書館ホール)		
		10:30~11:15 入 学 式 (第1体育館)		10:20~11:30 新入生おめでとう (各教室)	10:20~ 2年生以上おめでとう (終了後教科書 の購入)			
11		11:20~12:00 新入生おめでとう (各教室)	11:20~12:00 新入生保護者 懇談会 (第1体育館)	11:30~12:30 専門学科の紹 介 (各教室)		11:00~11:30 学生相談室長 の話 (図書館ホール)		
						11:40~12:30 新入生おめでとう (各教室)		
12		解 散	12:05~12:50 学級担任・学科 主任と保護者との 懇談会(各教室)	12:30~13:10 昼 食		12:30~13:10 昼 食		12:30~13:10 昼 食
13	13:00~ 新入生入寮 (新たに入寮 する者) 13:00~15:00 荷物整理		通学生の保護者 は解散	13:10~15:00 共通・学科の 施設案内		13:10~15:00 新入生おめでとう (各教室)		
			13:00~ 新入寮生保護者 昼食会 (寮食堂)					
14			新入寮生保護者 懇談会 (図書館ホール)					
15				15:05~16:00 寮生活について の話 (寮務主事) (寮食堂) 新入寮生のみ				
16	16:00~ 入寮諸注意							

(出典 教務資料)

資料 1 - 2 - ① - 18

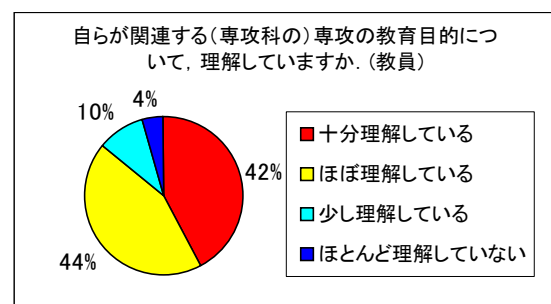
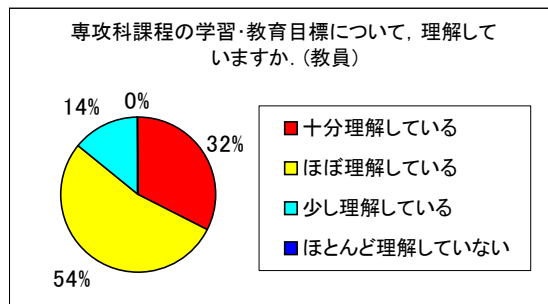
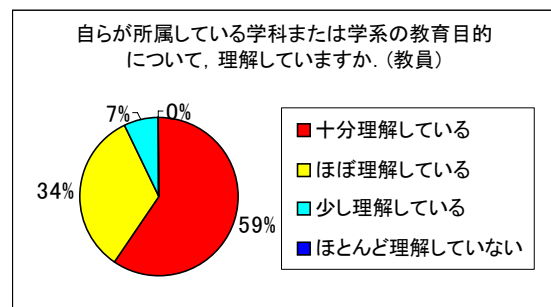
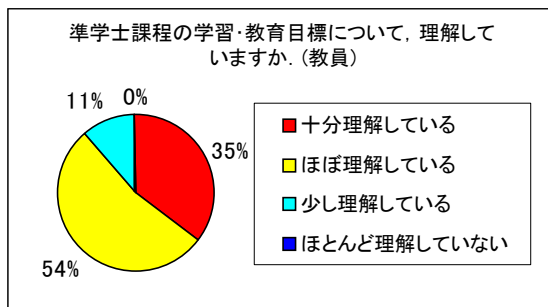
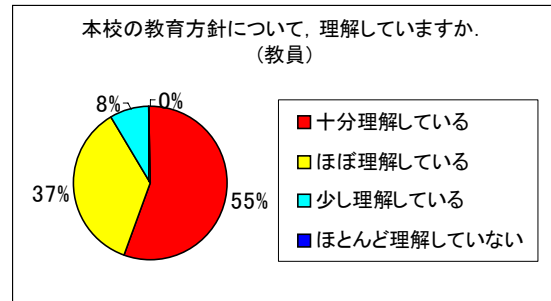
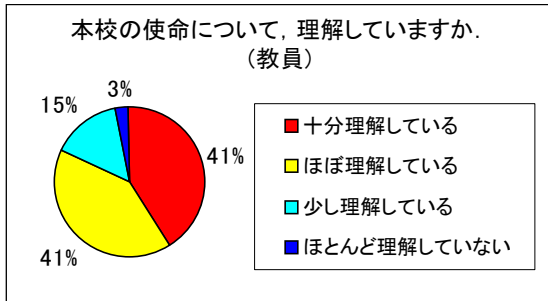
平成 18 年度入学式等日程表（専攻科課程）

	4月10日(月)		4月11日(火)		4月12日(水)	
	本科新入生	専攻科生	本科新入生	専攻科生	本科新入生	専攻科生
8			8:50~9:10 ホームルーム (各教室)	9:00~10:00 1年ガイダンス (専攻科講義室A) 専攻科長 3専攻主任	8:50~9:10 新入生ホームルーム (各教室)	8:50~ 授業開始
9			9:15~10:00 女台養育式 (第1体育館)		2年授業ガイダンス (専攻科講義室B) 副専攻科長	
10	10:00~10:20 新入生ホームルーム (各教室)	10:00~10:20 ガイダンス (専攻科講義室A)	10:00~10:10 入寮式 (全寮生) (第1体育館)	終了後解散	10:10~10:50 学生生活についての話 (学生主事) (図書館ホール)	
	10:30~11:15 入学式 (第1体育館)		10:20~11:30 新入生ホームルーム (各教室) 10:20~ 2年生以上ホームルーム (終了後 教科書の購入)		11:00~11:30 学生相談室長の話 (図書館ホール)	
11	11:20~12:00 新入生ホームルーム (各教室)	11:20~12:00 専攻科長の話 (専攻科講義室A) 終了後解散	11:30~12:30 専門学科の紹介 (各教室)		11:40~12:30 新入生ホームルーム (各教室)	
12		12:05~12:30 専攻科長と 保護者との懇談 (専攻科講義室A)	12:30~13:10 昼食		12:30~13:10 昼食	
13			13:10~15:00 共通・学科の 施設案内		13:10~15:00 新入生ホームルーム (各教室)	
14						
15			15:05~16:00 寮生活についての話 (寮務主事) (寮食堂) 新入寮生のみ			
16						

(出典 教務資料)

資料 1 - 2 - ① - 19

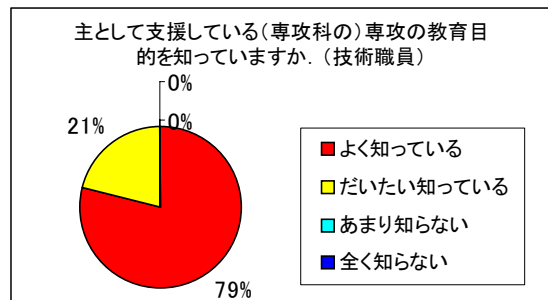
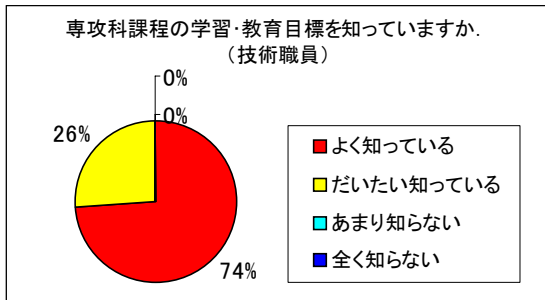
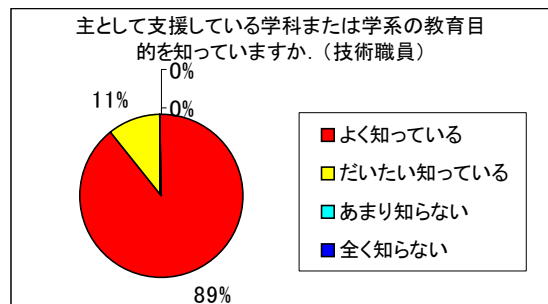
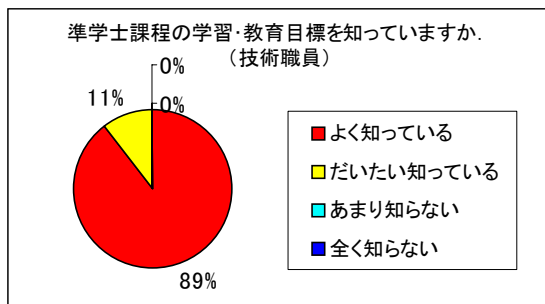
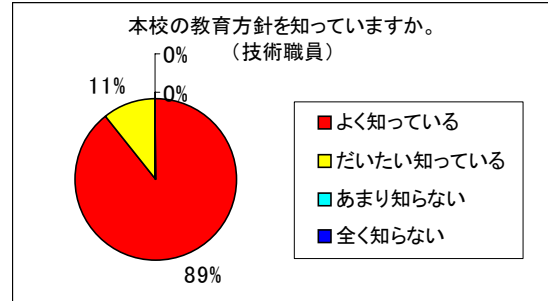
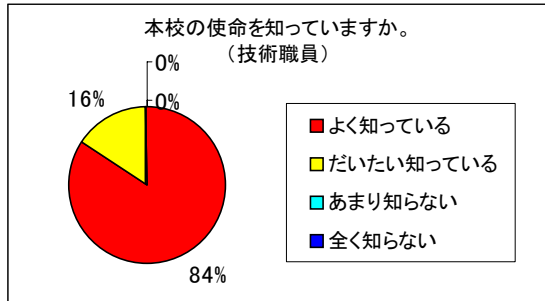
教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：教員）



（出典 ウェブページ（認証評価のページ））

資料 1 - 2 - ① - 20

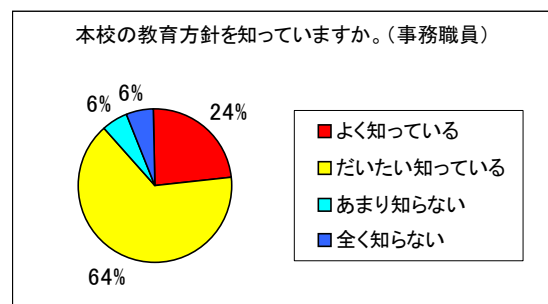
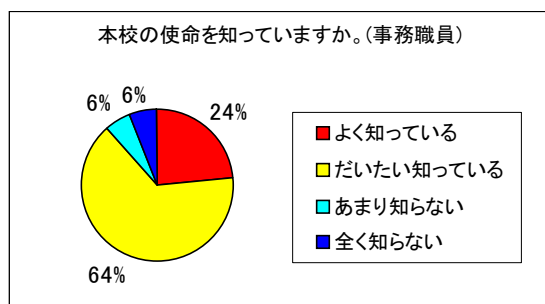
教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：技術職員）



（出典 ウェブページ（認証評価のページ））

資料 基準 1 - 2 - ① - 21

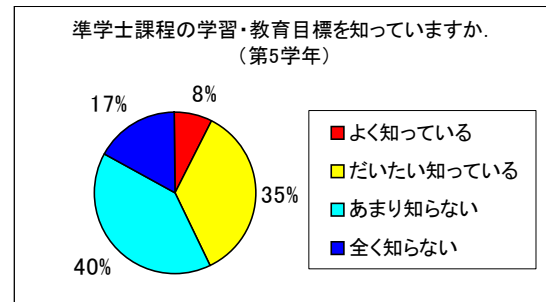
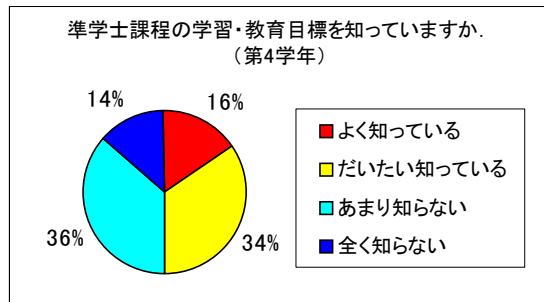
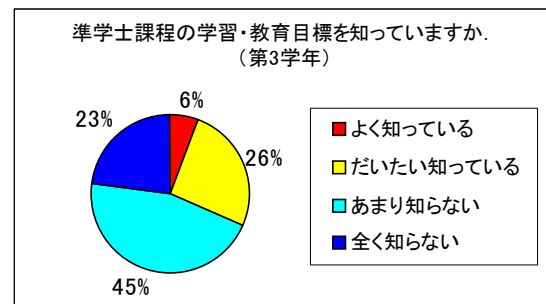
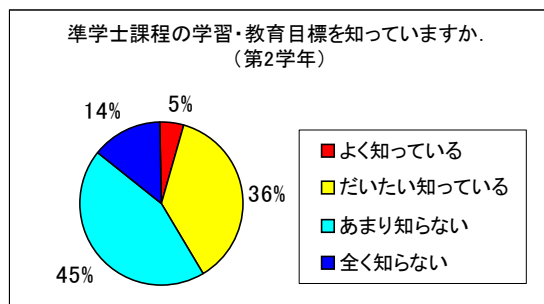
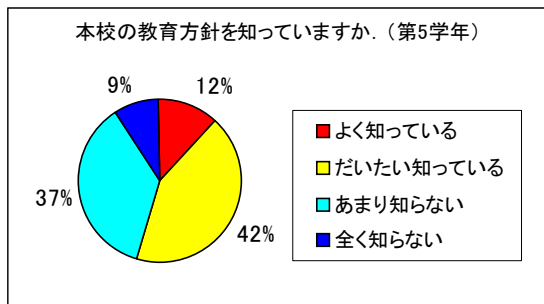
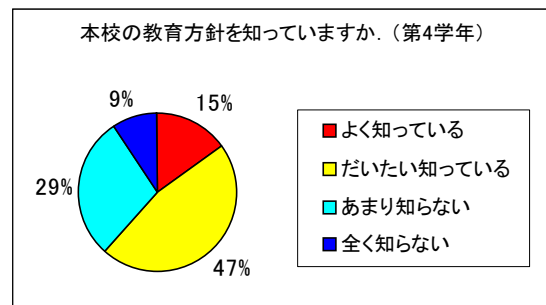
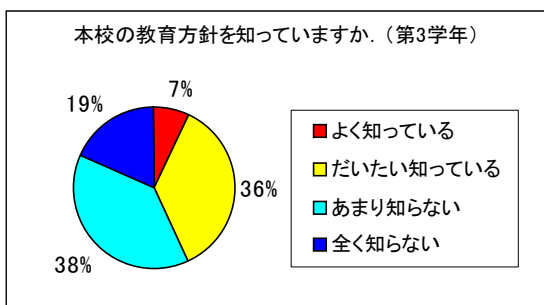
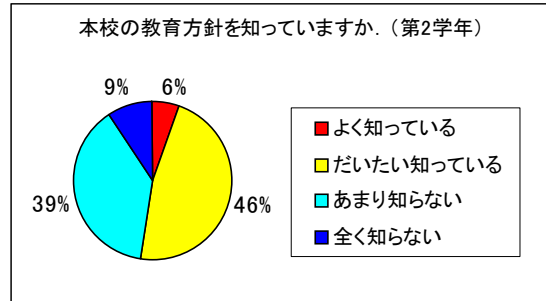
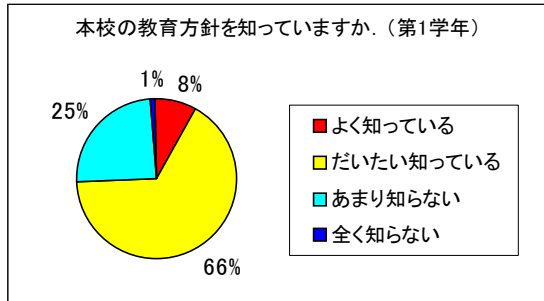
教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：事務職員）



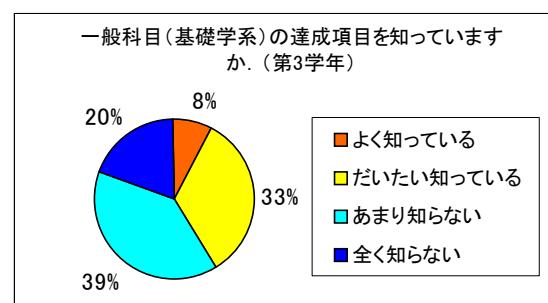
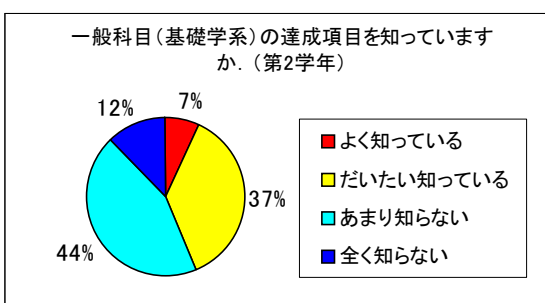
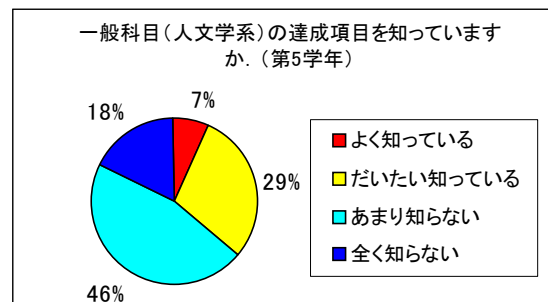
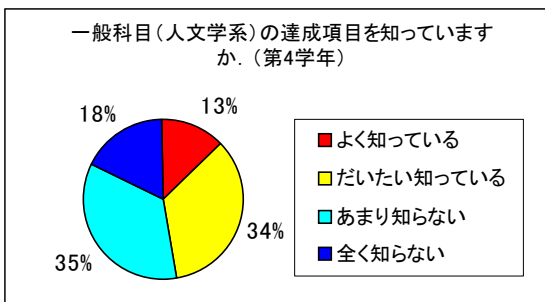
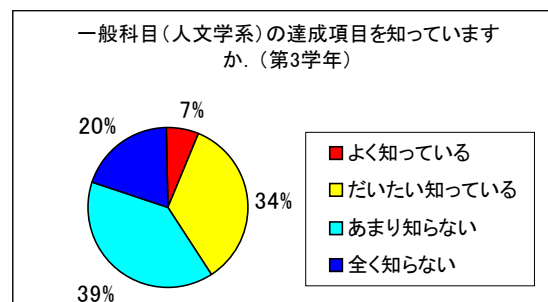
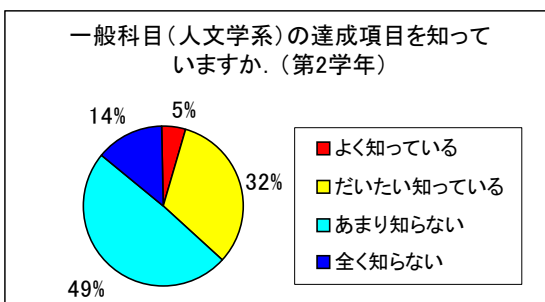
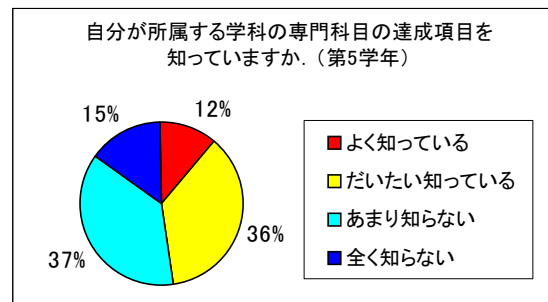
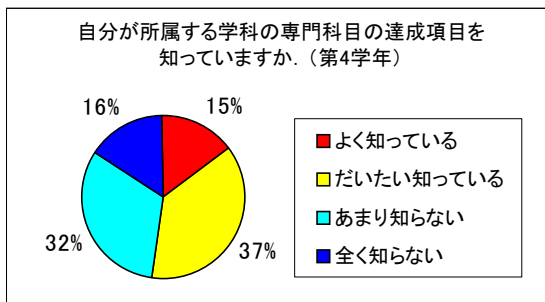
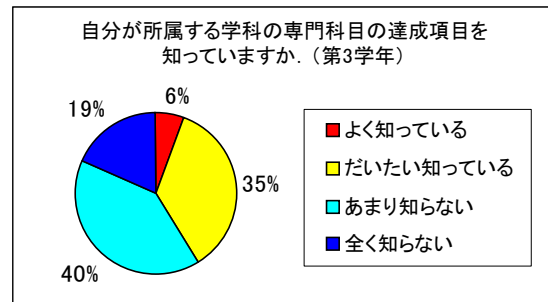
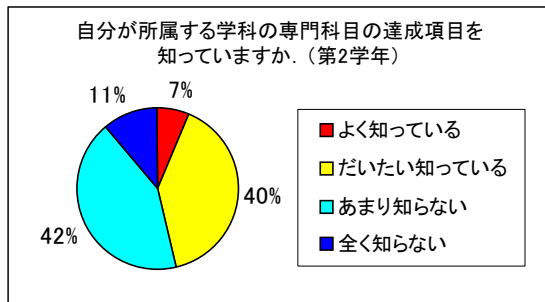
（出典 ウェブページ（認証評価のページ））

資料 1 - 2 - ① - 22 (1 / 3)

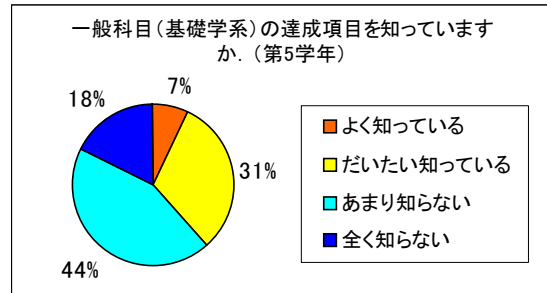
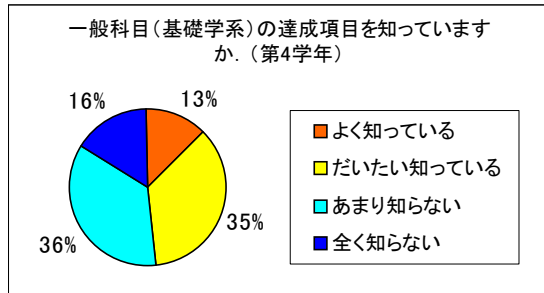
教育目的の周知度に関するアンケート結果 (対象：準学士課程学生)



資料 1 - 2 - ① - 22 (2 / 3)



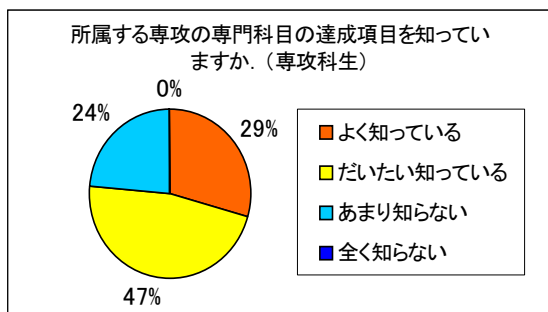
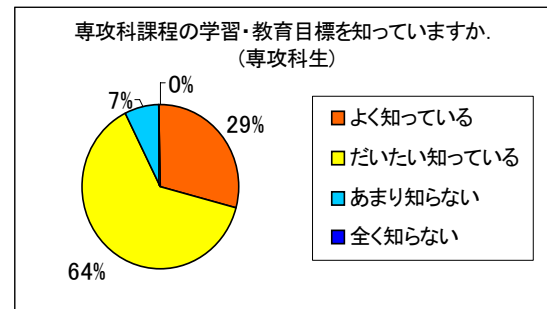
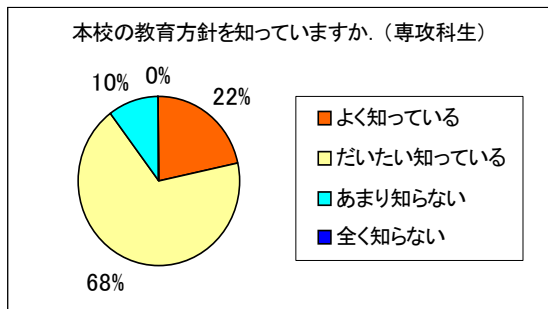
資料 1 - 2 - ① - 22 (3 / 3)



(出典 ウェブページ (認証評価のページ))

資料 1 - 2 - ① - 23

教育目的の周知度に関するアンケート結果 (対象：専攻科課程学生)



(出典 ウェブページ (認証評価のページ))

(分析結果とその根拠理由)

全教職員及び全学生に対して、冊子（学生便覧、学校要覧）の配付及びウェブページへの掲載によって、目的の周知を図っており、教職員及び学生アンケートの結果から、準学士課程における学生への周知状況に、改善の余地を残し充分ではないが、おおむね理解されているものと判断される。

以上のことから、本校では、目的が、学校の構成員に周知されている。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、全てウェブページに掲載することによって、社会に対して公表している。主として中学生を対象とした進学志望の手引にも、準学士課程における各学科・学系の教育目的（資料 1-2-②-1）、専攻科課程における各専攻の教育目的（資料 1-2-②-2）を記載し、学校説明会、一日体験入学、公開講座、テレワークセミナー、オープンセミナーで全参加者に対して配布している（資料 1-2-②-3）ほか、県内の中学校を中心として、学校の説明を訪問して行っており、進学志望の手引を配布するとともに、学校の目的の説明を行っている（資料 1-2-②-4）。

また、求人のための面談に来校された企業の担当者、進学先の大学等に対しては、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を記載した学校要覧を配布している（資料 1-2-②-5、資料 1-2-②-6）。さらに、年 2 回開催されるテクノフォーラムにおいては、施設見学等を通して本校の教育目的についての理解を深めていただいている（第 1 回から第 4 回のテクノフォーラム参加者名簿は現地閲覧資料 1 として示す）。

資料 1 - 2 - ② - 1

各学科・学系の教育目的

機械工学科： 機械工学科 5 年間の課程を卒業する人の達成目標は“材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること”です。

電気電子工学科： 電気電子工学科では、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション（通信）、エネルギーなど、幅広い分野の専門的な技術と知識を身につけ、次世代の産業社会を担えるような優れた技術者・・・創造力が豊で、自由な発想に富み、誠実な態度でもの事に取り組める人・・・を育てることを目標としています。

電子制御工学科： 制御技術は、電気・電子工学、機械工学、情報処理工学を基礎とした広範囲な技術の融合によって支えられています。電子制御工学科では、このような広い技術に対応できる、次世代の技術者の育成を教育の目標としています。

情報工学科： 現在社会のあらゆる分野でコンピュータが利用されています。科学技術だけでなく、医療、商業、流通、サービスなど、コンピュータなしには社会が機能なくなっています。さらに、画像音声も扱うマルチメディア情報システムが一層発展し、より豊かな情報化社会が約束されています。このような情報化社会の実現には多くの情報処理技術者が必要とされ、情報工学科はこの社会的要望に応じて、高度な情報処理技術をもつ技術者の育成を目標としています。

環境都市工学科： 環境都市工学科は、構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけることを目標としています。

人文学系： 人文学系では、国語、社会、外国語等の学習を通じて、心身の鍛練、コミュニケーション能力の向上をはかります。

基礎学系： 基礎学系では、数学、物理、科学等の学習を通じて、理論的思考、実験技術を身に付けさせ、国際的に通用する技術者に必要な基礎力を付けさせます。理数系科目は、普通科の高校に比べ授業時間数も多く、3年生までに多く配置されていますが、それは低学年のうちに十分な基礎力を養い、高学年での専門領域の授業に備えるためです。

(出典 進学志望の手引 5 頁, 7 頁, 9 頁, 11 頁, 13 頁, 15 頁)

資料 1 - 2 - ② - 2

各専攻の教育目的

木更津高専には、5年間の高専学科の上級コースとして、2年間の専攻科があります。高専の一貫教育という特徴を生かしながら、地域・産業界との密接な協力・連携のもとで、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力、創造能力を兼ね備えた新しい型の実践的専門技術者の養成をしています。

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに，これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざしています。

(出典 進学志望の手引 17 頁，18 頁)

資料 1 - 2 - ② - 3 (1 / 2)

一日体験入学及び公開講座実施状況

行事内容		対象者	開催日	参加者数
学校説明会（本校会場）		中学生	平成 17 年 10 月 2 日	248
学園祭における入試相談コーナー		中学生	平成 17 年 10 月 29 日 平成 17 年 10 月 30 日	57
一日体験入学	機械工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 8 月 4 日	112
	機械工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 5 日	71
	電気電子工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 6 月 18 日	117
	電気電子工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 7 月 27 日	49
	電気電子工学科（第 3 回）	中学生	平成 17 年 7 月 28 日	38
	電子制御工学科	中学生	平成 17 年 7 月 29 日	94
	情報工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 8 月 2 日	98
	情報工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 3 日	35
	環境都市工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 7 月 25 日	26
	環境都市工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 1 日	46
公開講座	タイピング 4 時間で完全マスター	中学生	平成 17 年 7 月 24 日 平成 17 年 7 月 25 日	3
	PC の自作講座 ～入門編～	中学生	平成 17 年 7 月 26 日 平成 17 年 7 月 27 日	4
	移動ロボット製作教室	中学生	平成 17 年 7 月 26 日 ～ 7 月 28 日	17
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	中学生	平成 17 年 8 月 3 日	2
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	高校生	平成 17 年 5 月 21 日	2
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	高校生	平成 17 年 10 月 22 日	2
	Pov-Ray による CG 作成入門	中学生	平成 17 年 8 月 6 日	1
テレワークセミナー	アジアの環境破壊を考える	中学生以上	平成 17 年 10 月 16 日	4
	カイロプラクティックについて	中学生以上	平成 17 年 10 月 16 日	4
	レゴロボット（第 1 回）	小中学生	平成 17 年 11 月 6 日	11
	レゴロボット（第 2 回）	小中学生	平成 17 年 11 月 19 日	10
	パワーポイントでカレンダーを作ろう	高校生以上	平成 17 年 11 月 13 日	4
	かんたん年賀状づくり	小学生以上	平成 17 年 11 月 26 日	10
	かんたん！コンクリートづくり	小学生	平成 17 年 11 月 27 日	9
	エクセルで簡単家計簿です！	小学生以上	平成 17 年 11 月 27 日	6

資料 1 - 2 - ② - 3 (2 / 2)

	行事内容	対象者	開催日	参加者数
オープンセミナー	パソコンで遊ぼう	中学生	平成 17 年 5 月 29 日	30
	ウェルネスセミナー① 誰よりも速く走ろう！ (第 1 回)	中学生	平成 17 年 6 月 11 日	14
	ウェルネスセミナー② 柔道ってどんなもの	小学生	平成 17 年 7 月 3 日	13
	パソコンによるプレート彫刻	中学生以上	平成 17 年 7 月 16 日	6
	牛乳パックで橋づくり (第 1 回)	小学生	平成 17 年 7 月 21 日	4
	牛乳パックで橋づくり (第 2 回)	小学生	平成 17 年 7 月 22 日	4
	I T 講習会	小中学生	平成 17 年 7 月 26 日	14
	英語リスニング講座	中学生以上	平成 17 年 8 月 8 日 ～ 8 月 10 日	10
	背骨と健康 (カイロプラクティックの立場から)	中学生以上	平成 17 年 8 月 21 日	25
	青少年のためのおもしろサイエンス (第 1 回)	小中学生	平成 17 年 8 月 24 日	46
	サンドブラストアート	中学生以上	平成 17 年 8 月 24 日	11
	地震が起こった時、あなたならどうする？	中学生以上	平成 17 年 8 月 28 日	9
	エレキギターを作ろう！！	小中学生	平成 17 年 10 月 1 日	7
	ウェルネスセミナー③ ジュニアバレーボール教室	小学生	平成 17 年 9 月 10 日 平成 17 年 10 月 1 日 平成 17 年 10 月 8 日	50
	パソコンで年賀状を作ろう	中学生以上	平成 17 年 10 月 23 日	13
	青少年のためのおもしろサイエンス (第 2 回)	小中学生	平成 17 年 10 月 30 日	42
	鑄造でメダルを作ろう	中学生以上	平成 17 年 11 月 12 日	6
	ウェルネスセミナー① 誰よりも速く走ろう！ (第 2 回)	中学生	平成 18 年 3 月 25 日	7

(出典 庶務及び教務資料)

資料 1 - 2 - ② - 4 (1 / 5)

中学校等訪問先一覧

項目	会場または中学校名	訪問日	進路志望の手引配布部数	
学校説明会	高専合同説明会（柏）	平成 17 年 7 月 25 日	39	
	市川会場	平成 17 年 7 月 17 日	31	
	佐原会場	平成 17 年 7 月 28 日	11	
	柏会場	平成 17 年 8 月 1 日	25	
	茂原会場	平成 17 年 8 月 2 日	8	
	館山会場	平成 17 年 8 月 3 日	5	
	成田会場	平成 17 年 8 月 3 日	20	
	銚子会場	平成 17 年 8 月 4 日	11	
	千葉会場	平成 17 年 8 月 5 日	34	
首都圏進学フェア	幕張メッセ	平成 17 年 8 月 20 日	29	
	幕張メッセ	平成 17 年 8 月 21 日	30	
	柏	平成 17 年 10 月 2 日	14	
	木更津市民会館	平成 17 年 10 月 30 日	25	
その他の説明会	船橋（学習塾対象）	平成 17 年 9 月 18 日	43	
	進学塾対象説明会（木更津高専）	平成 17 年 10 月 25 日	30	
	君津地方公立高校合同説明会（木更津市）	平成 17 年 10 月 4 日	80	
	市原市私立高校等合同説明会（市原市）	平成 17 年 10 月 14 日	30	
中学校訪問	千葉市	花園中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		幕張中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		朝日ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		高洲第 1 中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		花見川第 1 中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		緑ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		小中台中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		稲毛中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		草野中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		千葉大学教育学部付属	平成 17 年 7 月 8 日	6
		みつわ台中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6

資料 1-2-②-4 (2/5)

	幸町第 1 中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	誉田中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	泉谷中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	白井中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	土気南中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	蘇我中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	生浜中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	松ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	椿森中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
船橋市	飯山満中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	大穴中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
市川市	妙典中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
習志野市	習志野第 1 中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
	習志野第 7 中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
八千代市	八千代中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
	睦中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
松戸市	六実中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	根木内中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
我孫子市	湖北中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
	白山中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
佐倉市	井野中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	佐倉東中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	臼井南中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
四街道市	四街道西中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
印旛郡 酒々井町	酒々井中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
富里市	富里中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
白井市	南山中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
印旛郡 栄町	栄中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	栄東中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
香取郡 神崎町	神崎中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
東金市	東金中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
	東金西中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
	東金北中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
山武郡 大網白里町	大網中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	白里中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4

資料 1 - 2 - ② - 4 (3 / 5)

		増穂中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	山武郡 九十九里町	九十九里中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	茂原市	南中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		早野中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		茂原中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		東中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		本納中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
		西陵中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
		富士見中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	市原市	南総中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		ちはら台南中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		市東中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		辰巳台中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		湿津中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		菊間中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		八幡中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		八幡東中学校	平成 17 年 7 月 15 日	6
		若葉中学校	平成 17 年 7 月 15 日	6
		五井中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		国分寺台中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		国分寺台西中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		東海中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		三和中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		双葉中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		市原中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		加茂中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		千種中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
		姉崎中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
		有秋中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	姉崎東中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6	
	袖ヶ浦市	昭和中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		長浦中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		蔵波中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		平川中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		根形中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		岩根中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6

資料 1 - 2 - ② - 4 (4 / 5)

木更津市	木更津第三中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	太田中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	清川中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	鎌足中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	波岡中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	富来田中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	畑沢中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
君津市	周西中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	周西南中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	君津中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	富津中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	八重原中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	周南中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	小糸中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	清和中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	久留里中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	小櫃中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	亀山中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6
	松丘中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6
夷隅郡 大多喜町	大多喜中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
	大多喜西中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
夷隅郡 夷隅町	国吉中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 御宿町	御宿中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 大原町	大原中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 岬町	岬中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
富津市	大貫中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	佐貫中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	天羽中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	天羽東中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
安房郡 富浦町	富浦中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
安房郡 富山町	富山中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4

資料 1 - 2 - ② - 4 (5 / 5)

		天羽東中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	安房郡 富浦町	富浦中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	安房郡 富山町	富山中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	安房郡 鋸南町	鋸南中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	館山市	館山第 1 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		館山第 2 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		館山第 3 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		房南中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4

(出典 教務資料)

資料 1 - 2 - ② - 5 (1 / 2)

求人面談企業一覧

機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科
南部化成(株)	朝日電機(株)	(株)ティ・アイ・ディ	セコム(株)	東海旅客鉄道(株)
(株)オリムピック	旭化成(株)	松下電器産業(株)パナソニック	出光興産(株)	大成建設(株)
日本エア・フィルター(株)	㈱アベイラス	オートモーティブシステムズ社	(株)CRGシステムズ	(株)トーテック
出光興産(株)千葉製油所千葉工場	アルトナー	(株)ジャパンアウトソーシング	(株)トーテック	フジテック(株)
(株)トーテック	アンドール(株)	(株)堀場テクノサービス	ネクストウエア(株)	テックエンジニアリング(株)
(株)テクシア	アンドールシステムズ(株)	JFE電機(株)	サントリー(株)	人事院・関東
日本貨物鉄道(株)関東支社	イチカワ(株)柏工場	(株)CRGシステムズ	(株)テクシア	日揮プロジェクトサービス(株)
日清紡績(株)研究開発センター	出光興産(株)千葉製油所	(株)トーテック	(株)ヒップ	セコム(株)
理研ビタミン(株)	ウル(株)	サントリー(株)	TMCシステム(株)	(株)ベクトル・ジャパン
トランスコスモス(株)	宇部マテリアル	(株)テクシア	川崎マイクロエレクトロニクス(株)	コスモ石油(株)千葉製油所
キャンシステムアンドサポート(株)	㈱NTTファシリティーズ	花王(株)	日本放送協会	西日本旅客鉄道(株)
花王(株)	㈱エフ・ディ・シー(FUJITSUグループ)	(株)ヒップ	ビクターテクノプレーン(株)	京葉ガス(株)
河口湖精密(株)	エムケーチーズ(株)	日本精工(株)	東日本旅客鉄道(株)	JFEスチール(株)東日本製鉄所
(株)ヒップ	王子コンスターチ(株)	川崎マイクロエレクトロニクス(株)	アンドール(株)	環境エンジニアリング(株)
森永乳業(株)東京工場	王子製紙(株)富士工場・江戸川工場	ビクターテクノプレーン(株)	JUKI(株)	自衛隊千葉地方
協和発酵ケミカル(株)	オムロンフィールドエンジニアリング	東日本旅客鉄道(株)	(株)エフディシー	千葉ガス(株)
旭化成グループ(旭化成(株))	㈱オリエンタルランド	旭化成(株)	CTCテクノロジ(株)	(株)丸屋建設
アンドールグループ(アンドール(株))	花王(株)	昭和産業(株)	富士電気システムズ(株)	
いすゞエンジニアリング(株)	㈱カネカ	(株)エフ・ディ・シー	東海旅客鉄道(株)	
昭和産業(株)鹿島工場	川崎マイクロエレクトロニクス(株)	JUKI(株)	(株)JAL航空機整備東京	
フジテック(株)	河村産業(株)amt研究所	技研電子(株)	(株)放送衛星システム	
テックエンジニアリング(株)	㈱キクチ	東海旅客鉄道(株)	NECシステム建設エンジニアリング(株)	
(株)デボウ	技研電子(株)	富士電機システムズ(株)	(株)ウィズダム	
JUKI(株)	キャンシステムアンドサポート(株)	(株)JAL航空機整備成田	リコーテクノシステムズ(株)	
東海旅客鉄道(株)	キャン電子(株)	(株)JAL航空機整備東京	(株)バース情報科学研究所	
(株)カネカ	共栄電機(株)	(株)JALエアビテック	凸版印刷(株)	
日揮プロジェクトサービス(株)	㈱協和エクシオ	JALエンジニアテクノロジー(株)	(株)朋栄	
王子製紙(株)	協和発酵ケミカル(株)	(株)放送衛星システム	ソニーEMCS(株)木更津テック	
日産自動車(株)	㈱コムニク	日産自動車(株)	ソニーEMCS(株)小見川テック	
コスモ石油(株)千葉製油所	山九(株)	(株)日産ディーゼル技術研究所	ソニーEMCS(株)東日本OSフロントセンター	
三菱化学(株)鹿島事業所	サントリー(株)	(株)ウィズダム	日本IBM(株)プロダクトサービス	
芝工業(株)	㈱CRGシステムズ	日本電気システム建設エンジニアリング(株)	オムロンフィールドエンジニアリング(株)	
東京アイテック(株)	CTCテクノロジ(株)	(株)バース情報科学研究所	(株)日鉄エレックス	
凸版印刷(株)	JFEスチール(株)東日本製鉄所	凸版印刷(株)	(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ	
電気興業(株)	JFE電機	キャン電子(株)	東日立電子サービス(株)	
(株)日立ビルシステム	㈱システムエグゼ	電気興業(株)	オリンパス(株)	
キャン電子(株)	シチズン時計(株)	日本ビクター(株)	日本航空テクノ(株)	
ソニー・エム・シー・エス(株)小見川テック	㈱ジャパンアウトソーシング	ソニーEMCS(株)木更津テック	(株)ネオテクノ	
日本アイ・ピー・エム(株)	㈱JALエアビテック	ソニーEMCS(株)小見川テック	ダイキン工業(株)	
JFEスチール(株)東日本製鉄所	㈱JALエンジニアテクノロジー	オムロンフィールドエンジニアリング(株)	(株)日立製作所	
(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ	㈱JAL航空機整備東京	(株)日鉄エレックス	ネットワークサービスアンドテクノロジーズ(株)	
(株)マイスターエンジニアリング	㈱JAL航空機整備成田	日本たばこ産業(株)北関東工場	(株)吉野工業所	
東日立電子サービス(株)	JUKI(株)	JFEスチール(株)	(株)アルトナー	
日本ガイシ(株)	昭和産業(株)鹿島工場	東日立電子サービス(株)	東芝電波プロダクツ(株)	
オリンパスグループ(オリンパス(株))	㈱和ハッケージ(株)	セコムテクノサービス(株)	レンゴー(株)	
山九(株)	㈱スズキ技研	キャンシステムアンドサポート(株)	(株)メセナネットコム	
セコムテクノサービス(株)	㈱セガ・ロジスティクスサービス	オリンパス(株)	防衛庁	
宇部マテリアルズ(株)千葉工場	石油資源開発(株)	(株)ネオテクノ	(株)ハタシ	
(株)ハタシ	セコム(株)	日本空港テクノ(株)	(株)ソフウイング	
日立グループ((株)日立製作所)	セコムテクノサービス(株)	TDK(株)	朋和産業(株)	
ダイキン工業(株)	総合警備保障(株)	ダイキン工業(株)	ウィル(株)	
(株)ネオテクノ	ソニー・エム・シー・エス(株)小見川テック	富士石油(株)	(株)コムニク	
(株)カネセツ 東京支社	ソニー・エム・シー・エス(株)木更津テック	ネットワークサービスアンドテクノロジーズ(株)	(株)システムエグゼ	
安川エンジニアリング(株)	ソニー・エム・シー・エス(株)日本CS7021センター	安川エンジニアリング(株)	(株)協和エクシオ	
山崎製パン(株)	㈱ダイキンアプライドシステムズ	ムラテックC.C.S(株)	石油資源開発(株)	
(株)東鋼	ダイキン工業(株)	(株)アルトナー	(株)ラック	
(株)ニフコ	太平工業(株)	日本原子力発電(株)	(株)アベイラス	
王子コンスターチ(株)千葉工場	㈱タマテック	東芝電波プロダクツ(株)	(株)タマテック	
(株)アルトナー	中外テクノビジネス(株)	理化学工業(株)	フジオ・ネ・テクノ・ソリューションズ(株)	
レンゴー(株)千葉工場	TMCシステム(株)	(株)キクチ		
日本原子力発電(株)	TDK(株)	三興コントロール(株)		
中外テクノビジネス(株)	㈱テクシア	レンゴー(株)		
理化学工業(株)	電気興業(株)	(株)ソフウイング		
三興コントロール(株)	東海旅客鉄道(株)	(株)トブコン		
JFEメカニカル(株)	東京電力(株)千葉支店	道務通信エンジニア(株)		
JFE物流(株)	東芝エレベーター(株)	自衛官		
シチズン時計(株)	東芝電波プロダクツ(株)	富士工業(株)		
東芝エレベーター(株)	東日立電子サービス(株)	太平工業(株)君津支店		
太平工業(株)	道務通信エンジニア(株)	(株)成田エアポートテクノ		
(株)成田エアポートテクノ	㈱トーテック	日本ビストン(株)		
産機エンジニアリング(株)君津事業所	凸版印刷(株)	(株)ダイキンアプライドシステムズ		
(株)資生堂 鎌倉工場	㈱トブコン	(株)コムニク		
カルブ工業(株)	㈱成田エアポートテクノ	(株)セガ・ロジスティクスサービス		
阪和流通センター(株)東京	㈱日経総合印刷	日進化成(株)		
ソニー・エム・シー・エス(株)東日本CS7021センター	日産自動車(株)	富士電機EIC(株)		
(株)ソフウイング	㈱日産ディーゼル技術研究所	日本エム(株)		
朋和産業(株)	日進化成(株)	(株)協和エクシオ		
ウィル(株)	日清紡績研究開発センター	石油資源開発(株)		
(株)高田工業所	㈱日鉄エレックス	(株)ラック		
(株)三遠試験センター 東部事業所	日東電工(株)関東事業所	フジオ・ネ・テクノ・ソリューションズ(株)		
(株)ダイキンアプライドシステムズ	㈱ニフコ	(株)タマテック		
黒田精工(株)	日本アイ・ピー・エム(株)	イチカワ(株)柏工場		
(株)セガ・ロジスティクスサービス	日本エム(株)	(株)システムエグゼ		
神崎(株)	㈱日本AEパワーシステムズ			
北農工業(株)	日本貨物鉄道(株)関東支社(JR貨物)			
丸紅エネックス(株)	日本空港テクノ(株)			
石油資源開発(株)	日本原子力発電(株)			

資料 1 - 2 - ② - 5 (2 / 2)

クノール食品(株)	日本精工㈱			
(株)Mテック	日本たばこ産業㈱北関東工場			
フジオーネ・テクノ・ソリューションズ(株)	日本電気システム建設エンジニアリング㈱			
(株)スズキ技研	日本電設工業㈱			
	日本ビクター㈱			
	日本ビストンリング㈱			
	日本放送協会(NHK)			
	㈱ネオテック			
	ネットワークサービスアンドテクノロジーズ㈱			
	㈱パース情報科学研究所			
	㈱ハタシ			
	パナソニックエレクトロデバイス㈱			
	パナソニックオートモーティブシステムズ社			
	東日本旅客鉄道㈱			
	ビクターテクノプレーン㈱			
	㈱日立製作所(グループ)			
	㈱日立ビルシステム			
	㈱ヒップ			
	ファナック(株)			
	フジオーネ・テクノ・ソリューションズ㈱			
	富士重工業㈱東京事業所・群馬製作所			
	不二製油㈱			
	富士石油㈱袖ヶ浦製油所			
	フジテック㈱			
	富士電機EIC㈱			
	富士電機システムズ㈱			
	㈱朋米			
	㈱放送衛星システム			
	朋和産業㈱			
	㈱マイスターエンジニアリング			
	丸善石油化学㈱			
	ムラテックC.O.S㈱			
	森永乳業㈱東京工場			
	矢崎総業(株)			
	安川エンジニアリング㈱			
	山崎製パン㈱			
	㈱横河ブリッジ			
	㈱吉野工業所市川工場			
	㈱ラック			
	理化学工業株			
	理研ビタミン㈱			
	レンゴー㈱利根川事業所			

(出典 平成 17 年度第 5 学年担任会資料)

資料 1 - 2 - ② - 6

学校要覧の学外配布状況

配布先	配布部数	配布先	配布部数
他高専	62	岡山大学	2
高専機構本部	8	広島大学	2
北海道大学	2	山口大学	2
室蘭工業大学	2	徳島大学	2
北見工業大学	2	香川大学	2
弘前大学	2	愛媛大学	2
岩手大学	2	高知大学	2
東北大学	2	九州大学	2
秋田大学	2	九州芸術工科大学	2
山形大学	2	九州工業大学	2
茨城大学	2	佐賀大学	2
筑波大学	2	長崎大学	2
宇都宮大学	2	熊本大学	2
群馬大学	2	宮崎大学	2
埼玉大学	2	琉球大学	2
千葉大学	2	首都大学東京	2
東京大学	2	長岡造形大学	2
東京農工大学	2	前橋工科大学	2
東京工業大学	2	独協大学	2
東京海洋大学	2	日本大学	2
御茶ノ水女子大学	2	成蹊大学	2
電気通信大学	2	東京理科大学	2
横浜国立大学	2	東京工科大学	2
新潟大学	2	千葉工業大学	2
長岡技術科学大学	2	京都文教大学	2
富山大学	2	京都造形芸術大学	2
金沢大学	2	長崎総合科学大学	2
福井大学	2	放送大学	2
山梨大学	2	清和大学	2
信州大学	2	メディア教育開発センター	1
名古屋工業大学	2	国立歴史民俗博物館	1
岐阜大学	2	留学生派遣国大使館	5
静岡大学	2	国際学友会日本語学校	5
豊橋技術科学大学	2	日本国際教育協会理事長	3
三重大学	2	千葉県産業振興センター	1
京都大学	2	文部科学省	2
京都工芸繊維大学	2	千葉県教育庁指導課	1
大阪大学	2	千葉県人事委員会	1
神戸大学	2	茂原市教育委員会	2
和歌山大学	2	木更津市長	2
鳥取大学	2	木更津市記者クラブ	5
島根大学	2		

(分析結果とその根拠理由)

ウェブページに、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を全て掲載している。また、中学生向けの進学志望の手引においても、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的が記載され、学校説明会、一日体験入学、公開講座時等に積極的に説明している。また、本校近隣及び就職先等の関係企業、進学先の大学等に対して、学校要覧を配布している。

以上のことから、本校の目的が、社会に対して広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校は、高等専門学校としての目的が、学校の使命、教育方針、学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的という形で、分かりやすく定められており、教職員の目的に対する理解度がきわめて高い。
- ・ 本校の目的は、創設当時に制定された教育方針から、伝統的に培われてきた実学教育を、具体的に学習・教育目標という形で展開しており、学校教育法の目的に十分沿って策定されている。
- ・ 本校は、本校の内容を、社会一般の方々に広く理解してもらうために、ウェブページを充実させ、学校説明会、一日体験入学、公開講座、テクノフォーラム等を積極的に開催し、多くの参加者を集めている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命、2001年4月に専攻科の使命を定め、それが現在に至るまで貫かれている。これらの使命を具体化するための教育方針は、本校における建学の精神として、創設当時より明文化されている。更に、この教育方針を土台にして、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標が展開され、各学科・学系及び各専攻の教育目的をより具体的に定めることにより、学生が本校において学修する際の具体的な指針を示していることから、学校の目的は明確に定められている。

本校の使命は、高等専門学校の設置の趣旨及び学校教育法における高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり、本校の教育方針、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的は、学校教育法に定める高等専門学校の目的との関連を明確に意識して策定されていることから、本校の目的は、学校教育法の規定からはずれるものではない。

教育目的の周知方法としては、ウェブサイトを積極的に活用するとともに、教職員に対しては、学校要覧、教官会議・技術教育支援センター会議等の会議資料及び初任者研修資料等により周知し、学生に対しては、学生便覧及び各学年開始時期のガイダンス等により周知を図っている。結果として、事務職員は、本校の使命、教育方針について、十分に認識している。更に、教員及び技術教育支援センター職員は、各課程の学習・教育目標、学科・学系の教育目的、各専攻の教育目的について、十分に理解している。学生に対しては、学修を行う上で特に重要である、本校の教育方針、自らが所属する課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科又は専攻の教育目的を中心に理解を促しており、準学士課程において認識度の向上を図るために、全教室にパネル掲示する等の更なる工夫の余地があるものの、学校全体としては、目的が構成員に対し概ね良く周知されている。

また、本校の目的は、ウェブページや刊行物への掲載、学校説明会、一日体験入学や県内を中心とする中学校への訪問時の説明及び学校要覧の学外配布等によって、社会に対して広く公表されている。特に、公開講座、テクノフォーラム等を積極的に開催し、多くの参加者を集めている。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程には、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科の5学科が設置されている（資料2-1-①-1）。また、人文・自然科学系の科目の教育を担当する人文学系と基礎学系が設置されている（資料2-1-①-2）。

機械工学科は、情報、制御・電子等の分野にまでその境界の拡張が迫られている機械工学の背景をふまえ、ハードウェアの設計・製作に関する知識だけでなく、エレクトロニクスやコンピュータの応用も取り入れた教育課程によって、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者の育成を目的としている。

電気電子工学科は、電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎になる、多様な分野を対象にした教育を行っている。低学年から情報処理教育を取り入れ、工学概論や課題研究、実験実習などの少人数教育を重視し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者の育成を目的としている。

電子制御工学科では、計算機工学と制御工学を核とし電子工学、機械工学などを統合した電子制御工学の教育を行うため、実験・実習、設計製図などを多く取り入れた教育課程によって、制御システムの開発に対応できる技術者の育成を目的としている。

情報工学科では、計算機工学、ソフトウェア工学、通信工学などの基礎的な分野とともに、ネットワーク、人工知能、画像処理などの計算機応用工学を取り入れた教育課程によって、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者の育成を目的としている。

環境都市工学科では、構造力学、水理学、土質力学、情報処理を基礎とし、生態環境工学、水環境学等の環境工学を講義と演習、実験・実習を通して理解を深める教育課程によって、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えられる技術者の育成を目的としている。

これらの5学科及び基礎教育を担う人文学系、基礎学系は、本校の教育方針に基づいた準学士課程の学習・教育目標（資料2-1-①-3）に沿った学科・学系の目的を掲げて教育を行っている。各学科・学系の教育目的から準学士課程の学習・教育目標の4項目に該当する部分を抜粋して示す（資料2-1-①-4）。

資料2-1-①-1

木更津工業高等専門学校学則

第3章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織

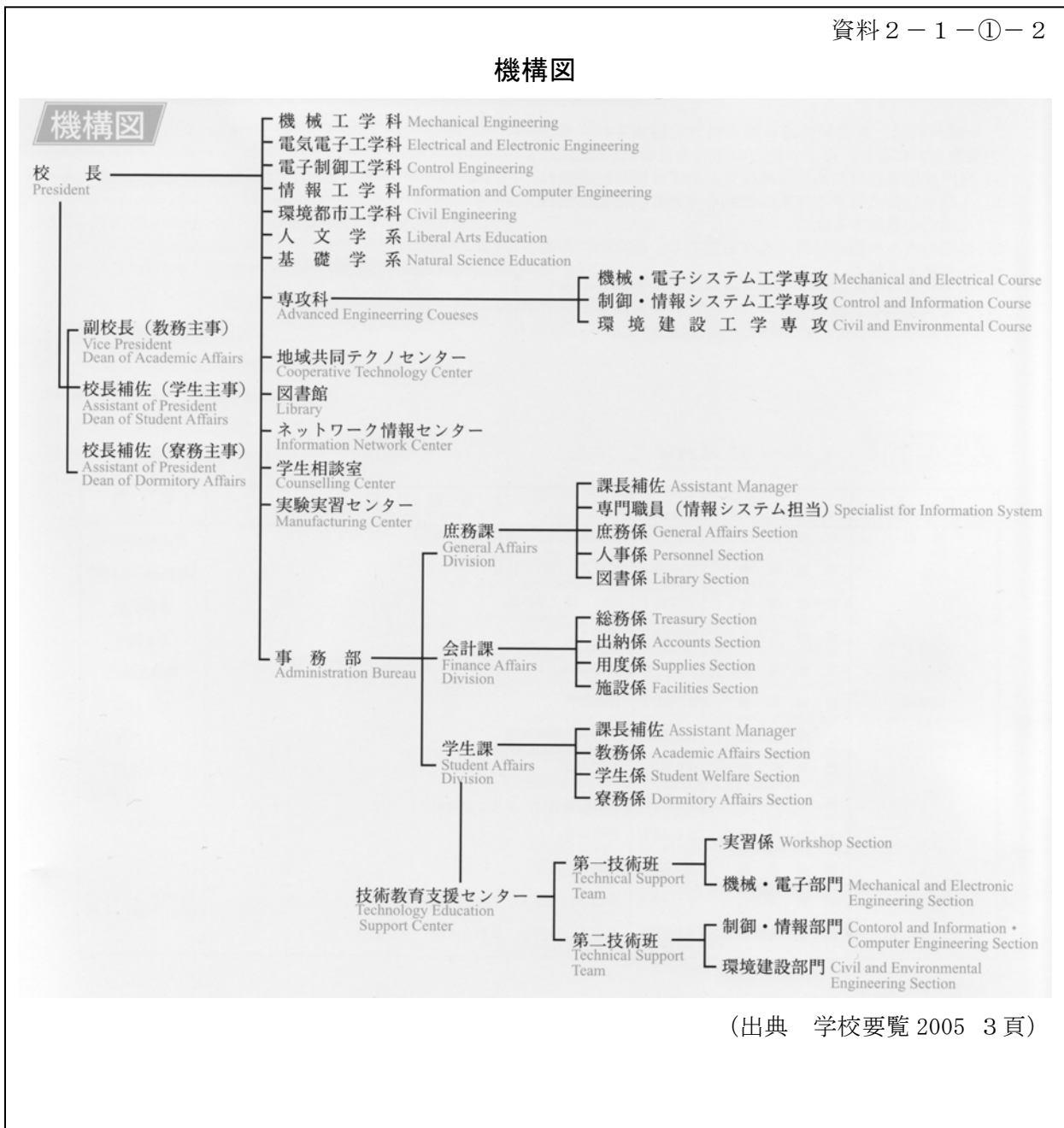
（学科、学級数及び入学定員）

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 電 子 工 学 科	1	40 人
電 子 制 御 工 学 科	1	40 人
情 報 工 学 科	1	40 人
環 境 都 市 工 学 科	1	40 人

（出典 木更津工業高等専門学校規則集 102 頁）

機構図



(出典 学校要覧 2005 3頁)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧3頁)

資料2-1-①-4

準学士課程の学習・教育目標と各学科・学系の教育目的の整合性

準学士課程 学習・教育目 標	各学科・学系の教育目的
1. 人間形成	人文学系：国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，～中略～国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。
2. 科学技術 の修得	<p>機械工学科：材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い～略～</p> <p>電気電子工学科：電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，～略～</p> <p>電子制御工学科：制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，～略～</p> <p>情報工学科：情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に，インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い～略～</p> <p>環境都市工学科：構造力学，水理学，土質力学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境学等の環境工学の教育を行い，～略～</p> <p>基礎学系：数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。</p>
3. コミュニケーション能力	人文学系：国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，～略～
4. 創造力	<p>機械工学科：～略～ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。</p> <p>電気電子工学科：～略～創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。</p> <p>電子制御工学科：～略～制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。</p> <p>情報工学科：～略～総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。</p> <p>環境都市工学科：～略～自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。</p>

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程には、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科の5学科が設置されている。さらに人文・基礎学系を含めた5学科2学系が、教育方針に沿った学習・教育目標をふまえて目的を定め、教育を実施する体制となっている。教育指導においては、少人数授業、個別指導、パソコンなどを活用した講義や実験等を積極的に行い、特に実験・実習を重視し実践的な技術を修得できるようになっている。以上のことから、学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校は専攻科を設置している。専攻科は、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻から成る。また、英語や技術者倫理、応用自然科学等の科目の教育は人文・基礎学系が担っている。

資料 2-1-②-1

木更津工業高等専門学校学則

第7章 専攻科

(専攻及び入学定員)

第39条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械・電子システム工学専攻	8人
制御・情報システム工学専攻	8人
環境建設工学専攻	4人

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 107 頁)

機械・電子システム工学専攻では、機械、電気電子の各分野に高い技術及び実践力を有する高度な技術者及び両専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた、先端技術に対応できる中核的・指導的技術者育成をめざしている。

制御・情報システム工学専攻では、情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術及びメカトロニクス技術に係わる教育指導を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる中核的・指導的技術者育成をめざしている。

環境建設工学専攻では、社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる中核的・指導的技術者育成をめざしている。

これらの3専攻は、教育方針に基づいた専攻科課程の学習・教育目標(資料 2-1-②-2)に沿った学科・学系の目的を掲げて教育を行っている。各専攻の教育目的及び人文・基礎学系の教育目的から専攻科課程の学習・教育目標の4項目に該当する部分を抜粋して示す(資料 2-1-②-3)。

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧 5頁)

資料 2-1-②-3

専攻科課程の学習・教育目標と各専攻の教育目的の整合性

専攻科課程 学習・教育目 標	各専攻の教育目的
1. 人間形成	人文学系：～略～国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。
2. 科学技術 の修得	機械・電子システム工学専攻：機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた～略～ 制御・情報システム工学専攻：情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、～略～ 環境建設工学専攻：社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる～略～ 基礎学系：数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。
3. コミュニ ケーション能 力	人文学系：～略～日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、～略～
4. 創造力	機械・電子システム工学専攻：～略～柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。 制御・情報システム工学専攻：～略～創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程には、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻が設置されており、各専攻が教育方針に沿った学習・教育目標をふまえて教育目的を定め、教育を実施する体制となっている。専攻科では、準学士課程より一歩踏み込んだ専門教育とともに、専門外分野の共通科目などを多数取り入れることで、広い視野で問題を捉えることができる技術者の育成を行っている。これらのことから、専攻科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

全学的なセンターとしてネットワーク情報センターが設置されている(資料 2-1-①-2, 資料 2-1-③-1, 資料 2-1-③-2, 資料 2-1-③-3)。これは、準学士課程及び専攻科課程

の学習教育目標「3. コミュニケーション能力」における情報技術を使いこなす技術を身につけるために重要な施設である。ネットワーク情報センター及びその管理下である特別教室（資料2-1-③-2，資料2-1-③-4）には，各種アプリケーションを導入したパソコンが1クラスの人数分以上完備されている。これは，各学科の授業に活用されるほか，実験や卒業研究，また授業時間外に学生が自学自習するために，授業時間外に開放されている（資料2-1-③-5，資料2-1-③-6，資料2-1-③-7）。

資料2-1-③-1

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

第1章 総則

（ネットワーク情報センター及びその長）

第15条 本校にネットワーク情報センターを置く。ネットワーク情報センターの運営その他必要な事項は，別に定める。

2 ネットワーク情報センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は，教授又は助教授をもって充て，副センター長は，教授，助教授又は専任講師をもって充てる。

3 センター長及び副センター長は，校長が任命し，任期は2年とする。

4 センター長は，ネットワーク情報センターの管理運営に関することを総括し，副センター長は，センター長を補佐する。

（出典 木更津工業高等専門学校規則集 203 頁）

資料 2-1-③-2

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程

第 1 条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第 15 条第 1 項に基づき、本校のネットワーク情報センターの運営その他必要な事項について定める。

第 2 条 ネットワーク情報センターは、本校の共同利用施設として、校内・外ネットワークシステムを円滑かつ効率的に運用し、教育・研究・事務及び課外活動に資することを目的とする。

第 3 条 ネットワーク情報センターは、次の業務を行う。

- (1) 教育用電子計算機（ホストマシン、大容量記憶装置、高性能プリンタ、プロッタ、共通ソフト等）の維持管理に関すること。
- (2) 共通施設設備（視聴覚室、特別教室、特別教室準備室等）の維持管理に関すること。
- (3) 校内外ネットワーク施設（ターミナルサーバ、トランシーバ等を含む）の維持管理に関すること。
- (4) 共通ソフトの開発及びフォーマットの取り決めに関すること。
- (5) 共通データベースの構築に関すること。
- (6) 利用者に対するサービス、教育体制に関すること。
- (7) その他ネットワーク情報センター長が必要と認める業務に関すること。

第 4 条 ネットワーク情報センターに次の職員を置く。

- (1) 副センター長
- (2) 事務系職員

2 副センター長は、専任教員のうちから、センター長の推薦に基づき任命し、任期は 2 年とする。

3 副センター長は、センター長を補佐し、ネットワーク情報センターの業務に従事する。

4 職員は、別に定めるところによるほか、ネットワーク情報センター長の命を受け、ネットワーク情報センターの業務に従事する。

第 5 条 ネットワーク情報センターの利用、その他必要な事項については、ネットワーク情報センター運営部会の議を経て、センター長が定める。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 702 頁)

資料 2 - 1 - ③ - 3

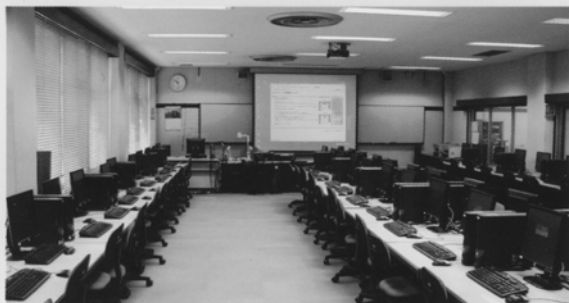
学校要覧におけるネットワークセンター紹介

ネットワーク情報センター **INFORMATION NETWORK CENTER**

本校にはおよそ 1,000 台のコンピュータがあり、その大半がキャンパス内に張り巡らされた光ケーブルからなるキャンパスネットワークに接続されている。

平成 14 年度よりキャンパスネットワークが更新され、ギガビットイーサネットによる高速な情報の伝送が可能となった。ネットワーク情報センターはこの中枢であり、キャンパスネットワークを管理するために 10 台のワークステーションを稼働し、電子メール、ホームページサイト、インターネットなどの機能を分担している。センター内の演習室には 49 台の端末機もあり、管理用に 20 台のワークステーションが稼働し、プログラミング演習、研究用計算に利用されている。また、デジタル専用回線により、他大学や研究機関を含めた広域ネットワークにも接続されている。

これにより全ての学生や教職員は、学内の多数の端末機（パソコンなど）から、いつでも高性能のコンピュータが利用でき、また、電子メールによる情報交換ができる。さらにインターネットにより国内外との電子メールの送受信や WWW ホームページにアクセスし、世界の最新情報を得ることができる。



▲ネットワーク情報センター演習室

There are approximately 1000 computers in this college, and the most is networked by the campus network which consists of an optical cable spread around within the campus.

The Campus Network is updated in april 2002 and high-speed transmission of information by Gigabit Ethernet is attained. The Network Information Center manages the central backbone of the Campus Network hosting 10 workstation which work such as E-mail, and www page site. 49 personal computers are provided as terminals in the laboratory at Information Network Center, and 20 workstations work to management.

These computers are used for the programming exercise and the research computing. Moreover, the campus network is connected by a dedicated digital line to a wide area network which provides access to other academic and research institutes.

In such environment, all faculty members and students have access to high-spec host computers and Internet from any terminals or computers in the campus network, making most of the vast variety of information on Internet such as E-mail, www, etc.

(出典 学校要覧 2005 22 頁)

資料 2 - 1 - ③ - 4

学校要覧における特別教室紹介

特別教室 **COMPUTER ASSISTED LANGUAGE LABORATORY**

この教室には、学内 LAN 及び Internet に接続されたコンピュータを始め、さまざまな音声設備や映像設備が備え付けられており、マルチメディアを駆使して授業・学習ができるようになっている。主に語学教育に利用されているが、一般・専門教育でも利用されている。

This is a computer assisted language laboratory with 48 computers fully connected to the LAN and the Internet as well as other audio/visual equipments. The lab is mainly used for language education but is open to any class of general education and other departments.

(出典 学校要覧 2005 23 頁)

資料 2-1-③-5

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター利用細則

(趣旨)

1 この細則は、木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程第 5 条に基づき、木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター（以下「センター」という。）の利用について定めるものとする。

(利用の範囲)

2 センターの利用は、次の各号に該当するものとする。

- (1) 学生の授業及びこれに伴う演習
- (2) 学生の実験及び卒業研究に関するもの
- (3) 教職員の学術研究に関するもの
- (4) その他、センター長が認めたもの

(利用者の資格)

3 センターを利用することができる者は、次の各号に該当するものとする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) その他、センター長が認めた者

(利用の手続)

4 センターを利用しようとする者は、あらかじめセンターに届出なければならない。ただし、学生の授業に関するものについては、指導する教員がセンター及び教務係に届出なければならない。

(利用時間)

5 センターの利用時間は次のとおりとする。

- (1) ネットワーク及びホストマシンは、原則として 24 時間利用することができる。
- (2) 演習室端末の利用は、月曜日から金曜日まで、8 時 50 分から 17 時までとする。
- (3) 前項に定める時間以外の学生の使用は、必ず教職員の指導のもとで行うこととする。

(利用承認の取消)

6 センター長は、利用者がこの細則に違反し、またセンターの運営に重大な支障を及ぼした場合には、センターの利用を一時停止または承認を取り消すことができる。

(雑則)

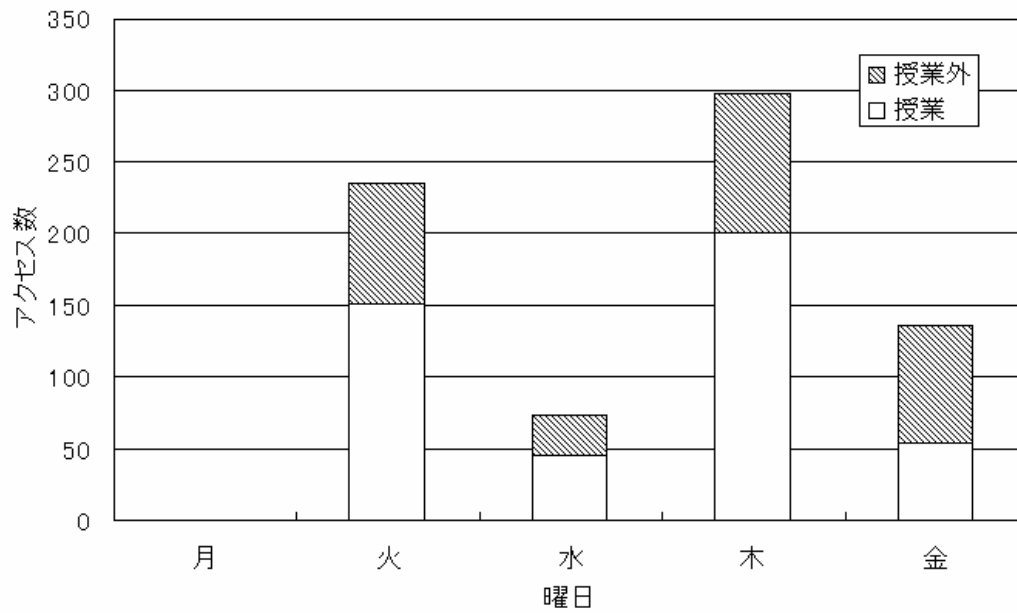
7 この細則に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は別に定める。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 703 頁)

資料2-1-③-6

ネットワーク情報センターおよび特別教室利用状況（アクセス数）



情報センター・特別教室アクセス数

(出典 ネットワーク情報センター2006年2月9日～13日アクセスログ)

資料2-1-③-7											
ネットワーク情報センター及び特別教室利用状況（授業使用）											
	曜日	教室	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限	
前期	月	ネ	D4 工業解析		M1 情報処理 I		E1 情報処理		D4 電子計算機 II		
		特	M1 英語 B		D1 英語 B	E1 英語 B	C1 英語 B	J1 英語 B			
	火	ネ	M2 情報処理 II		開放						
		特	C2 英語 B	E2 英語 B	M2 英語 B	J2 英語 B	D2 英語 B				
	水	ネ	D2 プログラミング 技法		開放		M3 情報処理 III		開放		
		特	E2 英語 B		D2 英語 B	M2 英語 B	J2 英語 B	C2 英語 B			
	木	ネ	E4 コンピュータ工学		開放		E2 工学基礎演習	開放			
		特	J1 英語 B	M1 英語 B	E1 英語 B	C1 英語 B	D1 英語 B				
	金	ネ	C2 情報処理入門		開放				C5 情報処理 III		
	後期	月	ネ	D2 工業解析		C1 情報処理入門		C4 数値解析		D4 電子計算機 II	
特			M1 英語 B		D1 英語 B	E1 英語 B	J1 英語 B			C1 英語 B	
火		ネ	E3 情報処理演習		M1 情報処理 I		E1 情報処理		授業時間外開放		
水		ネ	D2 プログラミング 技法		C3 情報処理 I		開放				
		特	M2 英語 B			E2 英語 B	J2 英語 B		C2 英語 B	D2 英語 B	
木		ネ	D2 製図		M2 情報処理 II		開放		授業時間外開放		
		特	M1 英語 B	J1 英語 B	D1 英語 B	E1 英語 B	C1 英語 B				
金		ネ	D3 情報処理		開放		C4 情報処理 II		E4 コンピュータ工学 II		
		特			D2 英語 B	E2 英語 B	C2 英語 B	J2 英語 B		M2 英語 B	
ネ：ネットワーク情報センター，特：特別教室，M：機械工学科，E：電気電子工学科， D：電子制御工学科，J：情報工学科，C：環境都市工学科，*科の記号後の数字は学年 （出典 2005 年度授業時間割より抜粋）											

（分析結果とその根拠理由）

全学的なセンターであるネットワーク情報センター及びその管理下である特別教室は、全学科の専門及び一般科目の授業で使用されている。ネットワーク情報センターは授業による使用時間外は学生に開放されており、自学自習の場となっている。アクセス数を調べた週は2年生がスキー合宿で不在であったため、授業によるアクセス数は少ない。しかし、年間を通して91時間授業に使用されており、

準学士課程及び専攻科課程の学習教育目標の「2. 科学技術の習得」及び「3. コミュニケーション能力」の目標達成に十分活用されている。また、授業が6時限までの火曜と木曜は授業時間外のアクセス数が100近いことからレポート作成などの自学自習に活用されていることが分かる。

以上のことから、ネットワーク情報センターは教育の目標を達成する上で適切に設置・運用されている。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

本校には、教育課程全体を企画調整するための体制として、運営協議会を設置しており、2005年度には16回開かれた。(資料 2-2-①-1, 資料 2-2-①-2) 運営協議会が合議決定する校務の中でも特に運営の重要事項で学生の教育にかかわるものについての審議・諮問機関として、教官会議が行われている。(資料 2-2-①-3) 運営協議会からの諮問に対し、答申・建議するために各委員会が設置されている。(資料 2-2-①-4)

運営協議会の諮問に対し、主に組織及び管理運営の改善方策にかかわるものについて答申・建議する委員会として、将来構想検討委員会が設置されており、2005年度には4回開かれた。(資料 2-2-①-5, 資料 2-2-①-6) また、主に教育課程にかかわるものについて答申・建議する委員会として、教務委員会が設置されており、2005年度には13回開かれた。(資料 2-2-①-7, 資料 2-2-①-8) 教育課程の中でも特に専攻科に特有な事項を審議する委員会として専攻科委員会が設置されており、2005年度には14回開かれた。(資料 2-2-①-9, 資料 2-2-①-10) これらの委員会の組織図及び意思決定の流れを資料 2-2-①-11に示す。各委員会における人員配置を示す役職者名簿を資料 2-2-①-12に示す。

資料 2-2-①-1

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

第3章 審議機関

(運営協議会)

第 23 条 本校の校務の執行に関する重要事項について合議決定するため、本校に運営協議会を置く。

2 前項の重要事項のうち、学生の教育にかかわるものであって、あらかじめ教官会議の議を経ることが適当であると運営協議会が認めたものについては、案を付してこれを校長が教官会議に諮問するものとする。

3 運営協議会は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、各学科主任及び各学系主任をもって構成し、校長が主宰する。

4 運営協議会の運営に関する必要な事項は、別に定める。

5 運営協議会の事務は、庶務課において処理する

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 204 頁)

運 営 協 議 会 議 事 要 旨

1. 日 時 平成18年2月2日（木）10：45～12：20

2. 場 所 第2会議室

3. 議 事

◎協議題

1. 本科成績評点・評定の改定（案）について

～省略～

2. 学修単位導入に関する学則の一部改正（案）について

～省略～

3. 平成18年度非常勤講師採用予定者について

～省略～

4. 平成17年度修了証書・卒業証書授与式及び祝賀会実施要項（案）について

～省略～

◎連絡・報告事項

1. 2年生スキー合宿研修の報告について

～省略～

2. 平成18年度寮友会役員について

～省略～

◎その他

～省略～

（出典 2005年度第16回運営協議会議事要旨）

資料 2 - 2 - ① - 3

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

第 3 章 審議機関

(教官会議)

第 22 条 本校の運営に関する重要事項であって学生の教育にかかわるものについて審議し、教員の教育研究活動に必要な情報について連絡し、及び本校における校務の執行について総合的に評価するため、本校に教官会議を置く。

2 校長は、次の各号に掲げる事項を決定しようとする場合には、あらかじめ教官会議に諮問するものとする。

- (1) 入学者の選考基準
- (2) 学業成績の評価基準
- (3) 学生の賞罰基準
- (4) 学生に対する教育指導方針
- (5) 学校の運営に関する基本的な規則等の制定又は改廃

3 この会議は、校長及び専任教員をもって構成し、議長は、校長及び主事以外の教員の互選によって定める。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 204 頁)

資料 2 - 2 - ① - 4

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

第 3 章 審議機関

(委員会)

第 28 条 本校に運営協議会の諮問に応じて答申し、これに建議するため、本校に次に掲げる委員会を置く。

- (1) 入試委員会
- (2) 教務委員会
- (3) 学生委員会
- (4) 寮務委員会
- (5) 専攻科委員会
- (6) 将来構想検討委員会
- (7) 総合情報メディア委員会
- (8) 国際交流委員会

2 前項に定める委員会の外、必要に応じ、委員会を置くことができる。

3 各委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 205 頁)

木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、将来構想検討委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の設置及び改組等に関する事。
- (2) 組織及び管理運営の改善方策に関する事。
- (3) 施設・設備の整備及び充実に関する事。
- (4) その他将来構想等に関する事。

(組織等)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 学生主事
- (3) 寮務主事
- (4) 各学科主任，学系主任及び専攻科長
- (5) 事務部長
- (6) 庶務課長，会計課長及び学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 7 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 227 頁)

将来構想検討委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年3月9日(木) 10:45～13:15

2. 場 所 第2会議室

3. 議 事

◎協議題

1. 平成19年度概算要求について

委員長から、各事業に対する要求事項を検討する旨、発議があり、各事業ごとに要求担当者から、説明を受けて審議した結果、以下のとおり要求することに決定した。

～中略～

2. 環境に配慮した取組について

委員長から、機構の環境方針を参考に本校の環境方針(案)を作成した旨、説明があり、了承された。また、環境目的及び目標、環境報告書を作成するため、ワーキンググループを設置し検討する旨、提案があり、了承された。これに伴い、各学科・学系、各課から1名推薦し、3月15日までに会計課長へ報告するよう依頼があった。

(出典 2005年度第13回将来構想検討委員会議事要旨)

木更津工業高等専門学校教務委員会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割並びに年間行事計画に関すること。
- (2) 試験及び評価その他履修に関すること。
- (3) 学校行事（学生委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) その他教務に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
 - (2) 教務主事補
 - (3) 学科・学系から選出された教員各 1 名
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 3 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 223 頁)

資料2-2-①-8

平成17年度 第13回教務委員会 議事要旨

日 時： 平成18年3月28日（火）15：20～16：00

場 所： マルチメディア講義室B

出席者： 角田教務主事，岡本主事補，鵜田主事補，
小澤委員（代理：岩崎教員），鈴木道治委員（代理：金子教員），
内田委員，栗本委員，佐藤委員，黒田教員，
椎名課長，木村係長（以上11名）

欠席者： 鬼塚主事補（出張のため）

議 事：

1. 学生の身分異動について

～省略～

2. 学業成績審査規程等の改正について

～省略～

3. その他

～省略～

以上

（出典 2005年度第13回教務委員会議事要旨）

木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、専攻科に関する特有な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
 - (2) 副専攻科長
 - (3) 各専攻主任
 - (4) その他校長が必要と認めた者
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 4 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 226 頁)

専攻科委員会（平成17年度第14回）議事要旨

日 時：平成18年3月28日（火）15：10～17：05

場 所：第2会議室

出席者：天摩(科長)，小田(M)，上原(E)，橘川(D)（高上委員の代理），
増田(J)，高橋(C)，石川(副科長)，矢野課長補佐

資 料

1. 前回議事要旨
2. 実力認定試験結果
3. 平成16年度専攻科入学者英語力 JABEE 認定結果
4. 平成17年度業務実績状況調査と自己評価の検討資料
5. 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
6. 平成18年度専攻科入学者一覧
7. 平成17年度専攻科特別研究ポスター製作・掲示の状況報告
8. 平成18年度入学式等日程表
9. 専攻科におけるインターンシップの実施要項（試案）
10. 平成17年度電気学会東京支部千葉支所研究発表会資料
11. 平成17年度専攻科研究発表補助費支出済み一覧
12. 平成17年度第2回関東信越地区国立高等専門学校専攻科長連絡会資料
13. 平成17年度教育改善：カリキュラム見直しのコンセプトと科目内容（専攻科分）
14. 日本高専学会「論文奨励賞」の創設について
15. 専攻科連絡会（学年末）の配付資料
16. 専攻科修了にあたり原稿執筆のお願い

議事要旨確認

資料通り確認した。関連して、科長から2点補足があった。

- 1) 議事6 教員の個人調書，教育研究業績の提出依頼は延期されている。
- 2) 議事7 パンフレットについては，英文和文併記にするため，4～5月に作成する。

議 事：

1. JABEE 修了認定について

～省略～

2. 中期計画の平成H17年度業務実績状況調査と自己評価（資料4）

～省略～

3. JABEE 認証評価等の関連事項

～省略～

4. 平成18年度専攻科入学予定者と学生在籍動向

～省略～

5. 平成18年度専攻科年度始め日程と業務

～省略～

6. 専攻科インターシップ実施要項（試案）

～省略～

7. 専攻科生の表彰について

～省略～

8. 専攻科生の研究発表補助費

～省略～

9. その他

～省略～

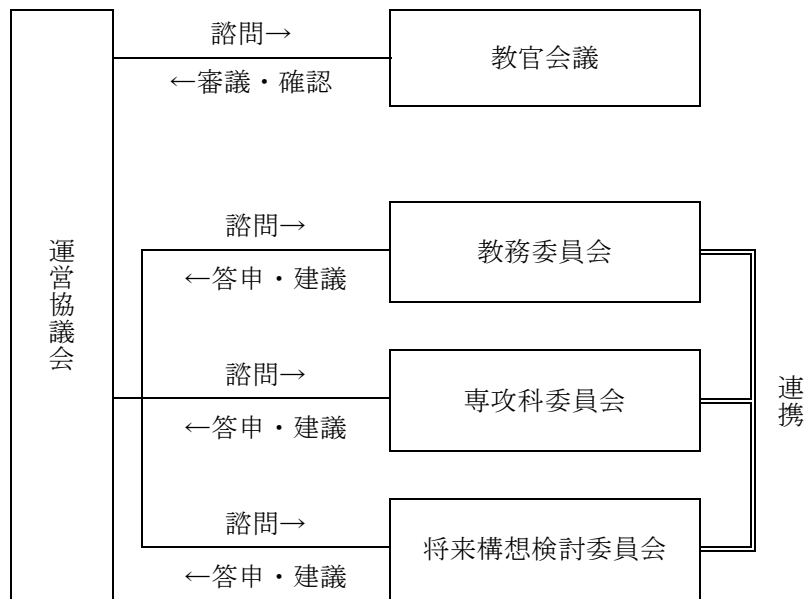
次回は，4月5日（水）15時～

以上

（出典 2005年度第14回専攻科委員会議事要旨）

資料 2-2-①-11

教育課程の企画調整における検討・運営体制組織図・意思決定の流れ



(出典 木更津工業高等専門学校規則集内容より作図)

平成 18 年度学内役職者一覧

平成 18 年 4 月 1 日現在

任期等 役職名	役 職 者					
	任期(平成17年4月～平成19年3月)	任期(平成18年4月～平成20年3月)				
主事	高遠節夫(学生)	黒田孝春(教務)・大木正喜(寮務)				
主事補	輪田正俊(教務)・鬼塚信弘(教務)	福地健一(教務)				
	丸山真佐夫(学生)・青木優介(学生)	室井美穂子(学生)				
	荒木英彦(寮務)・板垣貴喜(寮務)	岡本峰基(寮務)				
専攻科長	天摩勝洋(専攻科長:J)・石川雅之(副専攻科長:E)					
学科・学系主任	相川正美(基)・上原正啓(E)・高上輝雄(D)・増田重史(J)	篠村朋樹(人)・高橋秀雄(M)・佐藤恒明(C)				
専攻主任	上原正啓(ME)	増田重史(DJ)・佐藤恒明(CC)				
図書館長		田村和士(基)(任期:H18.4～H19.3)				
ネットワーク情報センター長		小林暁(センター長:J)・岩崎洋一(副センター長:人)・飯田聡子(副センター長:E)				
実習工場長		石出忠輝(M)				
学生相談室長		中村俊昭(人)				
地域共同テックセンター長	鈴木聡(副センター長:D)・佐藤恒明(副センター長:C)	大澤寛(センター長:E)・石出忠輝(副センター長:M)				
学年主任	1年 山下哲	2年 坂田洋満	3年 内田洋彰	4年 石井孝一	5年 臼井邦人	(任期:H18.4～H19.3)
	M1 加藤達彦	M2 坂田洋満	M3 内田洋彰	M4 小田功	M5 鈴木久夫	(任期:H18.4～H19.3)
	E1 鈴木道治	E2 吉井文子	E3 岡本保	E4 石井孝一	E5 柏木康秀	
	D1 山下哲	D2 泉源	D3 柴田育子	D4 大橋太郎	D5 臼井邦人	
	J1 栗本育三郎	J2 関口昌由	J3 武長玄次郎	J4 東雄二	J5 齋藤康之	
C1 五十嵐謙介	C2 高橋邦夫	C3 石川雅朗	C4 高橋克夫	C5 石田博樹		
留學生指導教員	内田(M)・小田(M)・鈴木(M)・熊谷(E)・柏木(E)・岡本(E)・輪田(D)・臼井(D)・東(J)・齋藤(J)・大木(C)					(任期:H18.4～H19.3)
セクハラ相談員	高遠(学)・中村(相長)・原(庶務課長)・愛甲(カウンセラー)・柳澤(看護師)・室井(人)・高橋光(学生課)					(任期:H18.4～H20.3)

任期等 委員会名	委 員 名	
	役職指定	任期(平成17年4月～平成19年3月)
入試委員会	◎黒田(教)・輪田(補)・鬼塚(補)・福地(補)	熊谷(E)・佐藤(C)
教務委員会	◎黒田(教)・輪田(補)・鬼塚(補)・福地(補)	佐藤(C)
学生委員会	◎高遠(学)・丸山(補)・青木(補)・室井(補)	石井(E)・大橋(D)・米村(J)
寮務委員会	◎大木(寮)・荒木(補)・板垣(補)・岡本(補)	坂元(D)・大枝(J)・上村(C)
専攻科委員会	◎天摩(科長)・石川(副科長)・上原(ME)・増田(DJ)・佐藤(CC)	小田(M)・高上(D)
将来構想検討委員会	◎黒田(教)・高遠(学)・大木(寮)・篠村(人)・相川(基)・高橋(M)・上原(E)・高上(D)・増田(J)・佐藤(C)・天摩(科長)・事務部長・庶務課長・会計課長・学生課長	
総合情報マイ7委員会	◎黒田(教)・田村(図長)・小林(本長)・事務部長	岩崎(人)・臼井(D)・石川(C)
国際交流委員会	◎荒木(人:任期H18.4～H20.3)	熊谷(E)・柏木(E)・岡本(E)・輪田(D)・臼井(D)・東(J)・齋藤(J)・大木(C)(任期H18.4～H19.3)
自己点検等委員会	◎黒田(教)・高遠(学)・大木(寮)・篠村(人)・相川(基)・高橋(M)・上原(E)・高上(D)・増田(J)・佐藤(C)・天摩(科長)・事務部長・庶務課長・会計課長・学生課長	
施設整備専門委員会	◎黒田(教)・会計課長・学生課長	高橋(基)・石出(M)・石川(E)・鈴木(D)・和崎(J)・石田(C)
広報委員会	庶務課長	吉井(基)・林田(M)・上村(C)
アカデミック・イノベーション推進委員会	◎黒田(教)・学生課長	小澤(人)・相川(基)・小平(E)・鈴木(D)・鬼塚(教補)
JABEE認定・認証評価推進委員会	庶務課長	◎輪田(D)・小澤(人)・加藤(人)・鎌田(基)・福地(基)・山下(基)・石出(M)・内田(M)・岡本(E)・飯田(E)・岡本(D)・和崎(J)・齋藤(J)・上村(C)・青木(C)(任期:H17.10～H19.3)
中期計画推進委員会	庶務課長	◎高橋(M)・加藤(人)・小澤(人)・福地(基)・山下(基)・大澤(E)・鈴木(D)・大枝(J)・青木(C)
情報公開委員会	◎校長・黒田(教)・高遠(学)・大木(寮)・篠村(人)・相川(基)・高橋(M)・上原(E)・高上(D)・増田(J)・佐藤(C)・天摩(科長)・事務部長・庶務課長・会計課長・学生課長	
重点研究等推進委員会	◎校長・黒田(教)・高遠(学)・大木(寮)・事務部長・庶務課長・会計課長・学生課長	相川(基)・大澤(M)・上原(E)・輪田(D)・増田(J)・高橋(C)
学生相談室委員会	◎中村(相長)・学生課長	小田(M)・大澤(E)・鈴木(D)
地域共同テックセンター運営委員会	◎大澤(学長)・鈴木聡(学副長)・佐藤(学副長)・石出(学副長)・事務部長	五十嵐(人)・高橋(基)・東(J)・高橋(C)
実習工場運営委員会	◎石出(工場)・事務部長	石川(E)・大橋(D)
技術教育支援センター運営委員会	◎学生課長(技長)・金井(技副長)・石出(工場)・小林(本長)・秋葉(班長)・白井(班長)	中村(人)・相川(基)・内田(M)・熊谷(E)・橋川(D)・大木(C)・鬼塚(教補)・立石(学生課)・須賀(学生課)
SOS事業運営委員会(SOS事業運営部会)	◎黒田(教)・事務部長・学生課長	臼井(D)・小林(J)・石川(C)
図書館運営部会	◎田村(図長)・事務部長	坂元(D)・米村(J)
ネットワーク情報センター運営部会	◎小林(本長)・岩崎(学副長)・飯田(学副長)・事務部長	齋藤(J)
安全衛生委員会	◎校長(代理 高遠(学))・清野(衛管)・会計課長(安管)・大日方(産医)	関口(基)・内田(M)・柏木(E)・橋川(D)・和田(J)・高石(C)・高山(産)・木村(学生課)・水野(学生課)

◎は委員長、斜字は校長が必要と認められた者、(教)は教務主事、(学)は学生主事、(寮)は寮務主事、(補)は主事補。
 (科長)は専攻科長、(副科長)は副専攻科長、(図長)は図書館長、(本長)はネットワーク情報センター長、(相長)は学生相談室長、(学長)は地域共同テックセンター長。
 (技長)は技術教育支援センター長、(副長)は副センター長、(工場)は実習工場長、(衛管)は衛生管理者、(安管)は安全管理者、(産医)は産業界の略

(出典 2006 年度学内役職者一覧)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動を展開する上で重要な事項を審議・運営する組織として、運営協議会を主軸に、諮問機関としての教官会議，教育課程全般にかかわる事項を担う教務委員会，専攻科特有の事項を担う専攻科委員会，組織・運営の改善方策を担う将来構想検討委員会が設置されている。これらの委員会は，各学科・学系の教員により構成され，均整の取れた人員配置となっている。各委員会は年間十数回の会議を開き，懸案事項の審議・実行を行っている。これらの委員会を統制し，教育課程全体を企画調整する役割を運営協議会が担っており，各委員会の審議結果は運営協議会に報告され，承認を受けた上で実行されている。

以上のことから，教育活動全体を企画調整し，有効に展開するための検討・運営体制が整備され，審議などの十分な活動が行われている。

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校では，2004 年度より一般科目（数学・物理・化学等）と専門科目の懇談会を年 2 回開催しており，カリキュラム改善や授業改善のための議論を行っている（資料 2-2-②-1）。懇談会では，5 年間一貫教育を円滑に実施するために，科目対応を検討・確認している。また，専門と一般科目の授業内容の対応を考慮した上で，専門学科と人文・基礎学系の教員による相互の授業見学も行っている（資料 2-2-②-2）。この懇談会の活動による教育課程改善の成果の一例として，2006 年度から実施しているカリキュラム改訂があげられる。数学科・電子制御工学科懇談会（資料 2-2-②-3）において，応用数学について第 5 学年で行われていた関数論（資料 2-2-②-4）を，編入学試験を配慮して，第 4 学年で行いたい（資料 2-2-②-5）との提案がなされ，それを反映したカリキュラム改訂が行われた。

また，これら一般科目と専門科目の内容の連携が，教員・学生に対し明確になるよう，シラバスに「関連科目」を記述する欄を設けている（資料 2-2-②-6）。

資料 2 - 2 - ② - 1

「教科と学科の懇談会」実施依頼

平成17年 5月31日

関係者各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
委員長 角田 幸紀

「教科と学科の懇談会」の実施について（依頼）

昨年度に引き続き、平成17年度においても「教科と学科の懇談会」の実施が下記のように予定されておりますので、特にJABEE認定推進委員において、準備等をお進め願います。

なお、昨年度の「教科と学科の懇談会」の議事要旨は「教職員LocalHomepage」の「FD関係」ウェブ・ページに掲載済みですので（「平成16年度 各種配付文書および雛形等」のページより閲覧可）、これらをご参考にご覧願います。

また、「教科と学科の懇談会」に関係する本年度の活動項目を以下に示しておきますので、計画的な実施をお願いいたします。

1. 授業公開特別期間

- (1) 従来と同様に、前期と後期において各1回設定されているが、これは「授業方法改善研究会」と連携するものであり、この期間に相互の授業を参観することが求められる。
- (2) 「授業公開特別期間」においては、平成16年度に作成した「授業コメント」に基づき「ピア・レビュー(peer review：同僚評価＝学科教科内等で実施)」が試行されることが期待される（この機会に「授業コメント」の校正等も行ってください）。

2. 授業方法改善研究会

- (1) 授業参観とピア・レビューが研究会の一内容となることが求められる。
- (2) 「教科と学科の懇談会」は科目の見直し等を目的としているが、これは「カリキュラム改訂」に資するためでもある。
- (3) 実施後には、議事要旨を作成し、記録として残すことが求められる。
- (4) 「教科と学科の懇談会」の実施予定は以下のように組まれているが、諸般の事情により変更となる可能性もある。

「教科と学科の懇談会」実施予定：変更の可能性あり					
	M科	E科	D科	J科	C科
数学	H16前期	H17前期	H16後期	H18前期	H17後期
物理	H17後期	H16前期	H17前期	H16後期	H18前期
化学	H18後期	H22後期	H21後期	H17後期	H16後期
英語	H19前期	H18後期	H22前期	H20前期	H19後期
国語	H20後期	H19前期	H18後期	H21後期	H20前期
社会	H21前期	H20後期	H19後期	H22前期	H21後期
体育	H22後期	H21前期	H20前期	H19後期	H22前期

以上ですが、よろしくお願いいたします。

（出典 2005年度ファカルティ・ディベロップメント委員会教科と学科の懇談会の実施依頼書）

資料2-2-②-2

数学科と電子制御工学科の懇談会資料

授業見学日程調整表（数学科目）

曜日	時限	クラス	科目	担当	見学可能教員										備考
金 12月10日	3.4	D2	解析Ⅰ	大塚	☆	☆	☆	☆	鈴木	臼井	☆	泉	岡本	坂元	
	3.4	DJ1	応用数学特論山下・鎌田		☆	☆	☆	☆	鈴木	臼井	☆	泉	岡本	坂元	
	5.6	D1	基礎数学Ⅲ	鎌田	☆	☆	☆	☆	鈴木	臼井	☆			坂元	
月 12月13日	5.6	D1	基礎数学Ⅱ	金子	角田			鶴田	☆	☆		☆	☆	坂元	
	7.8	D2	代数幾何	鈴木		高上	橋川	鶴田	☆	☆	大橋	☆	☆	坂元	
火 12月14日	3.4	D2	代数幾何	鈴木		高上			鈴木	臼井	大橋				
水 12月15日	5.6	D4	応用数学C	関口						臼井					
木 12月16日	1.2	D1	基礎数学Ⅱ	金子		高上		鶴田	鈴木	臼井	大橋	泉	岡本	坂元	D4選択実験中
	3.4	D3	解析Ⅱ	鎌田			橋川		鈴木	臼井	大橋	泉		坂元	D4選択実験中
	5	D2	解析Ⅰ	大塚	角田	高上	橋川	鶴田	鈴木	臼井	大橋	泉	岡本	坂元	

授業見学日程調整表（専門科目）

曜日	時限	クラス	科目	担当	見学可能教員			
金 12月10日	5・6	4D	工業解析	泉	鈴木道	大塚		
	7・8	4D	電気回路Ⅱ	臼井	高遠	鎌田	山下	
月 12月13日	3・4	5D	ロボット工学	鶴田	金子	関口	鈴木道	高遠
	5・6	4D	材料工学Ⅱ	高上	高遠	大塚	鈴木道	
	5・6	5D	制御工学Ⅱ	大橋	大塚	高遠	鈴木道	
火 12月14日	1・2	4D	電子回路Ⅰ	臼井	山下	金子	鎌田	大塚 関口
	3・4	4D	制御工学Ⅰ	鶴田	山下	鎌田	大塚 関口 金子	
	5・6	4D	電子工学Ⅱ	鈴木聡	大塚	関口		
水 12月15日	1・2	2DJ	学習制御	鶴田	関口			
木 12月16日	1・2	専2全	集積回路工学	橋川	鎌田	高遠	鈴木道	
	3・4	2DJ	システム制御	岡本峰	山下	大塚	鈴木道	

見学を必要としない科目（公開する授業は1人が1科目とする）

見学担当者（見学する先生を1人割り振る）

（出典 2004年度授業改善研究会（数学科・電子制御工学科懇談会）資料）

平成16年度 授業改善研究会（数学科・電子制御工学科懇談会）

1. 日時 平成16年12月16日（木） 16:30～18:00
2. 場所 第2研究棟3階 専攻科ゼミ室B
3. 出席者 (FD推進委員会) 鈴木聡, 小沢
(数学科) 高遠節夫, 鎌田勝, 関口昌由, 鈴木道治, 山下哲, 金子真隆
大塚浩史
(電子制御工学科) 角田幸紀, 橘川五郎, 鴫田正俊, (鈴木聡), 臼井邦人,
大橋太郎, 泉源, 岡本, 峰基, 坂元周作
4. 議事
 - (1) 専門科目と数学の科目間対応について
山下先生から添付資料1についての説明があり, 何ヶ所かの検討事項はあるものの全体としては大きな不整合がないことが確認された。
<検討事項>
○2年前期における電気磁気学Iにおいて, 微分, 積分等の基礎知識が必要なため授業開始時にこれらの項目について説明しているとの報告があった。これに対し, 数学でもできるだけ早い時期に実施を心がけているが, 他の項目等の関係からこれ以上早い時期の実施は難しいとの説明があり, 各専門科目で対応していくこととなった。
○大学編入学を受験する学生から編入試験に「留数」が出題されており, 応用数学での実施時期を早めてほしいとの意見があるので, 今後検討していくこととなった。
○低学年の基礎数学から高学年での応用数学に至るまで各項目は全体として1回しか教えてないため, 専門で十分役立っているかとの意見があった。添付資料1で見える限りでは, 数学での授業後に専門の授業にてそれら知識を繰り返し使用していることになっている。ただし, 学生にとって数学の授業での知識と専門での数学知識とが一致していない部分もあるので, できるだけ数学と専門で同じような記号の使用を検討し, また, 専門科目にて低学年で得た数学知識を合理的に工学へ応用していくような工夫を心がけていくこととした。
 - (2) 新入生の学力試験の結果報告について
関口先生より, 一斉テストの実施結果(添付資料2)について, 連立不等式など新指導要領の影響が出た項目があるが全体としてはここ数年間で大きな変化はないとの報告があった。ただし, 低学年授業担当の先生からは, 計算力が低下しているとの報告もあり, 数学科としてはしばらく様子を見ながら個別に対応していくとの姿勢が示された。
 - (3) 公開授業について
数学は分かりやすく丁寧な授業が実施されていた。
授業の最初で前回の復習, 今回のポイントをきちんと説明していた。
教科書のない授業ではプリント等の使用を検討された方が良い。
机間巡視の薦め。学生とのコミュニケーションではできるだけ名前を呼ぶ方が良い。
学生の指導の問題: 授業中の飲食, 遅刻, トイレへの途中退出が多い。
などの意見が出された。

添付資料

1. 専門科目と数学の科目間対応表
2. 新入生の学力試験の結果

(出典 2004年度授業改善研究会(数学科・電子制御工学科懇談会)議事要旨)

資料2-2-②-4

電子制御工学科の専門科目と数学の対応表

学年	数学の科目	期	数学の内容	学年	5年											
				専門科目	電子回路Ⅱ	制御工学Ⅱ	制御機器	計算機制御工学	精密工学	熱流体力学	電子材料	情報工学	ロボット工学	システム工学		
				期	通年	通年	通年	通年	通年	通年	後期	通年	通年	前期		
				担当教員	橘川	大橋	伊藤	呂	大森	古山	小松	清水	鷗田	杉山		
2年	代数幾何	通年	ベクトル		○									○		
			行列式	○	○										○	
			行列		○											
			行列の固有値・固有ベクトル													
	解析Ⅰ	通年	極限													
			導関数	○	○		○	○	○						○	
			定積分	○	○		○	○								○
			不定積分	○	○		○	○								○
置換積分法			○	○		○									○	
部分積分法	○	○		○									○			
3年	解析Ⅱ	通年	級数		○											
			テイラー展開	○												
			偏微分													
	解析Ⅲ	前期	重積分													
			常微分方程式	○	○					○					○	
			1階線形常微分方程式													
			2階線形常微分方程式													
			2階非線形常微分方程式													
4年	応用数学A	前期	ラプラス変換		○										○	
			逆ラプラス変換		○										○	
			フーリエ級数													
			フーリエ変換													
	応用数学B	前期	確率													○
			記述統計学													○
			推測統計学													○
	応用数学C	後期	ベクトル関数												○	
			スカラー場								○					
			ベクトル場								○					
			線積分								○					
			面積分								○					
			積分定理								○					
5年	応用数学D	前期	複素数		○		○									
			正則関数		○		○									
			コーシーの積分定理					○								
			留数定理					○								
			ネットワーク理論													
DJ1	応用数学特論	後期	偏微分方程式													

(出典 2004年度授業改善研究会(数学科・電子制御工学科懇談会)資料より抜粋)

資料2-2-②-5

懇談会が反映されたカリキュラム改訂資料

応用数学B：4年・後期・1単位

従来、専門学科によって内容が異なっていた応用数学A～Dの各科目を、その煩雑性を改め全学科共通にするために、本科目は「複素関数論」を学ぶ科目である。達成目標としては、授業に関する内容やその問題について6割の正解が得られることである。

(出典 木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－D-2頁 2006年3月発行)

資料2-2-②-6

一般科目と専門科目の内容の連携

授 業 科 目	電気回路Ⅲ		
開設学科学系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受講年科・学期	電気電子工学科4年・通年	授 業 形 態	講義
キーワード	2端子対回路、マトリックス、過渡現象、ラプラス変換、ひずみ波、級数展開		
関 連 科 目	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、解析Ⅲ、応用数学A		
担 当 教 員	飯田 聡子		
連絡先(オフィスアワー)	@ [redacted] jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教 科 書	西巻正郎・下川博文 著、「続電気回路の基礎」、森北出版、1995年、1900円(+税)		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	J. David Irwin, Chwan-Hwa Wu " Basic Engineering Circuit Analysis SIXTH EDITION" , 1996, PRENTICE HALL		
プログラム目標	(B-2)		
プログラム合格点	60点		
達 成 目 標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・2端子対回路のマトリックスを求め、入出力インピーダ	前期中間試験(22.5%)およびレポート(2.5%)で評価す		

(出典 2005年度シラバス電気電子工学科編 26頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、2004年度より一般科目と専門科目の懇談会を行っている。懇談会開催前には専門学科と人文・基礎学系の教員間で授業見学がなされており、授業方法改善に役立っている。この懇談会から出された意見が、2006年度から施行されたカリキュラム改訂に反映されるなど、教育課程改善の成果を上げている。また、専門科目と一般科目の関連内容を明確にし、専門学科と人文・基礎学系間の連携がスムーズに行われるようシラバスに関連科目が明記してある。

以上のことから、本校では一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われている。

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の事務組織は、庶務課・会計課・学生課と技術教育支援センターからなる(資料2-1-①-2)。事務組織の各役割は木更津工業高等専門学校事務組織規程に明示されている(資料2-2-③-1)。学生課は、修学指導、進路指導、課外活動など教育活動支援を主たる役割として担っている。

学級担任制の支援として、教員と学生課課長補佐が協力して学級担任の手引を年度ごとに改訂・作成し、各学級担任へ配布している（資料2-2-③-2）。第1～3学年における特別活動（HR）では、事前に特別活動調整会議が開催され、その結果として行った活動計画を教務係から校長へと報告されている。HR活動記録を資料2-2-③-3に示す。学級担任の教育活動を円滑に行えるように支援する体制として、担任会や学科会議があげられる。担任会は各学年における学級担任で構成され、合同HRの実施打ち合わせやクラスの状況についての意見交換などを行っている（資料2-2-③-4、資料2-2-③-5）。また、学科会議でも学級担任からの事案などを受け、審議や意見交換を行い学級担任の教育活動を支援している（資料2-2-③-6、資料2-2-③-7）。

本校には、学生のメンタルヘルスに関する業務を行う学生相談室が設置されている（資料2-2-③-8）。学級担任が学生の精神面の健康状態を把握し、円滑な教育活動を行うため、学生相談室の相談員と学級担任の打ち合わせや懇談会が年度当初に開かれている（資料2-2-③-9）。

工業高等専門学校という性質上、各部・同好会の技術指導の専門知識を有する教員数には限りがある。これを支援するため、各部・同好会には技術指導員をおくことができる（資料2-2-③-10）。

財政的支援には、後援会が大きく貢献している（資料2-2-③-11）。部活動費、クラス運営にかかる費用（担任経費）、専攻科学生の学会発表支援などが後援会から助成されている（資料2-2-③-12）。

資料 2 - 2 - ③ - 1

木更津工業高等専門学校事務組織規程

平成 12 年 4 月 1 日

規 則 第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校規則第 1 号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 4 号）第 9 条並びに木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年規則第 1 号）第 8 条第 1 項の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及びその所掌事務について定める。

(事務組織)

第 2 条 本校の事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

～中略～

(学生課の所掌事務)

第 5 条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関すること。
- (2) 学生の修学指導に関すること。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (4) 学生の学業成績の整理に関すること。
- (5) 学生の学籍に関すること。
- (6) 学生の進路指導に関すること。
- (7) 外国人留学生に関すること。
- (8) 学生の賞罰に関すること。
- (9) 学生の課外活動に関すること。
- (10) ネットワーク情報センターの事務に関すること。
- (11) 学生募集等の広報に関すること。
- (12) 学生課に属する公印の管守に関すること。
- (13) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
- (14) 学生の奨学金に関すること。
- (15) 学生の入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関すること。
- (16) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (17) 学生の健康管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (18) 学生のカウンセリングに関すること。
- (19) 学生の旅客運賃割引証その他証明に関すること。
- (20) 学生寮の管理運営に関すること。
- (21) 寮生の入退寮に関すること。
- (22) 寮生の生活相談等に関すること。
- (23) その他教務、厚生補導及び寮務に関する事務を処理すること。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 210 頁)

担任の手引き

まえがき

我々教員が担任として学生を指導する仕事は、学習の援助に止まらず、学校における学生生活は勿論、学生の個人的生活にまで及んで、極めて広範囲、かつ、多岐にわたる。

～中略～

また、新任の先生方が担任の仕事に困惑し、何か参考になる手引きのようなものがあればよいと言う希望もあった。それで、担任として毎年経験する指導上の要点や、日常の校務を整理し、手引きにまとめて、担任の参考に供することになった。

この手引きは、学級経営のための参考資料であり、学級担任の便宜を図るものであって、模範でもなければ完全無欠なものでもない。担任自らがこの手引きの足りないところを補い、創意工夫をこらして主体的に取り組むことが何よりも大切であることは言うまでもない。

繁忙の生活のための防備録として、日常に利用し、学級経営、学生指導の一助となれば幸いである。

目 次

1. 学級担任の役割	1
2. 学級担任の基本姿勢	2
3. 各学年の指導上のポイント	3
4. 学生の健康管理	10
5. 事件事故防止に関する指導	11
6. 特別活動（H・R）	12
7. 学級担任の業務	14

付録 1

学生及び家族の不幸と受難への対応	31
------------------	----

～以下省略～

（出典 2005 年度担任の手引より抜粋）

資料2-2-③-3

平成17年度前期特別活動実施記録

環境都市工学科

第1学年

回数	月 日	活 動 内 容	場 所
1	4月 14日	1年合同 HR/新入生合宿研修準備	図書館ホール
2	4月 21日	新入生合宿研修	鴨川青年の家
3	4月 28日	合宿研修の反省	
4	5月 12日	1年合同 HR/ネチケットについての指導	図書館ホール
5	5月 19日	球技大会の打ち合わせ	
6	5月 26日	学園祭企画の話し合い	
7	6月 2日	中間試験の事前指導	
8	6月 9日	中間試験	
9	6月 16日	1年合同 HR/エイズ講話	図書館ホール
10	6月 23日	担任指導 (学園祭クラス企画の話し合い)	
11	6月 30日	担任指導 (学園祭クラス企画の話し合い)	
12	7月 7日	環境整備	グラウンド
13	7月 14日	夏季休業前の指導	
14	9月 1日	担任指導 (夏季休業中の反省)	
15	9月 8日	学園祭クラス企画準備	
16	9月 15日	学園祭クラス企画準備	

注. 場所の欄には、教室以外の場所を使用する場合記入して下さい。

(出典 2005年度特別活動報告)

資料 2-2-③-4

学級担任会議

(学級担任会議)

第 30 条 各学級担任が、担当事項について連絡協議するため、本校に学級担任会議を置く。

- 2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。
- 3 この会議の運営その他必要事項については、学級担任会議が定める。
- 4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 206 頁)

資料 2-2-③-5

平成 17 年度担任会記録

第 1 学年

回数	月 日	概要
1	2月10日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
2	2月17日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
3	2月28日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
4	4月6日	始業式、オリエンテーションなどの日程についての打ち合わせ
5	4月25日	各クラスでの現在の様子についての報告会など
6	5月2日	1年の問題行動について
7	5月9日	6月のエイズ講習会についての打ち合わせなど
8	5月16日	6月のエイズ講習会についての打ち合わせ/合宿研修の感想文などについて
9	5月30日	1年学園祭企画についての打ち合わせなど
10	6月20日	前期中間試験の結果についての扱い/保護者面談についての情報交換
11	7月4日	1年の問題行動について
12	10月4日	最近の各クラスの状況についての意見交換
13	10月24日	1年のいじめ問題について
14	11月14日	最近の各クラスの状況についての意見交換
15	12月6日	3月の校外見学について/交通講話についての打ち合わせ
16	1月16日	交通講話についての打ち合わせなど
17	2月6日	来年度1年担任会との意見交換
18	3月9日	学年末に起きた一連の事件について
19	3月15日	来年度2年担任会との引継ぎ

(出典 2005 年度担任会記録)

資料 2-2-③-6

学科会議及び学系会議

(学科会議及び学系会議)

第 31 条 学科主任及び学系主任の所掌する校務に関して連絡協議するため、各学科及び学系に、それぞれ学科会議又は学系会議を置く。

2 これらの会議は、当該学科又は学系に属する専任教員又は関係職員をもって構成し、当該学科主任又は学系主任が主宰する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 206 頁)

資料 2-2-③-7

学科会議資料

【学科会議】

[委員会等報告]

- ・教務委員会(1/30) 時間割第 1 案の確認. 今後の留意事項として、火曜日の 2・5 年の実験の時に、他学年の授業を担当するために、1 名の教員は実験担当から外す必要がある。
- ・学生委員会(1/31) メールに詳しい議事があります。
- ・専攻科委員会(1/31) 来年度の行事予定等. 専攻科発表会のプレゼンテーション賞について。
- ・テクノセンタより X線回折装置の説明会を 3 月に行う. E 科からは岡本先生が参加する。

[議題]

1. 1/31 課題研究発表会について
欠席者(■■■■君)の成績：後日、担当の石川先生の実験室で発表させて採点する。
課題研究採点票の集計：打ち込んで柏木先生に送る。
2. 来年度 E 1 担任の鈴木道先生からの依頼
E 科の連絡担当教員を浅野先生に願います。
E 1 担任と E 科との懇談会を実施する（実施時期は鈴木先生と浅野先生で打合せて決める）

～以下省略～

(出典 2005 年度第 16 回電気電子工学科学科会議議事要旨より抜粋)

木更津工業高等専門学校学生相談室規程

昭和 61 年 2 月 20 日

規 則 第 9 号

(設置)

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室を置く。

(業務)

第 2 条 学生相談室は、学生の修学その他の日常生活に関する諸問題について本校の学生の個人相談に応じるとともに、次の業務を行う。

- (1) 学生のメンタルヘルスに関すること
- (2) 学生相談室の管理及び運営に関すること

(室長及び相談員)

第 3 条 相談室に、室長及び相談員を置く。

- 2 室長は、相談業務に従事するとともに室務を総括する。
- 3 相談員は、相談業務に従事する。

(委嘱)

第 4 条 室長は、教授又は助教授の中から校長が委嘱する。

- 2 相談員は、次の各号に掲げる者について校長が委嘱する。
 - 一 室長が推薦した者 若干名
 - 二 校長が必要と認めた者 若干名
- 3 室長及び相談員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

第 5 条 相談室の管理運営に関し審議するため、学生相談室委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 一 室長
 - 二 相談員
 - 三 学生課長
 - 四 その他校長が必要と認めた者
- 3 室長は、委員会を招集し、その議長となる。

(庶務)

第 6 条 相談室に関する庶務は、学生課学生係において行う。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 547 頁)

資料2-2-③-9

学生相談室と学級担任との打ち合わせ

-----Original Message-----

From: 学生係1 [mailto:■■■■@■■■■■■■■.jp]

Sent: Tuesday, May 17, 2005 5:19 PM

To: 柳沢 静代; 中村 俊昭; 高橋 邦夫; 小田 功; 大澤 寛 ; 鈴木 聡 ; 青木 優介; 大枝 真一; 学生課長; 清野 哲也; 鈴木 道治; 金子 真隆; 室井 美稚子; 小澤 健志; 篠村 朋樹; 鎌田 勝; 石井 孝一; 岡本 峰基; 平安 隆雄; 福地 健一; 和崎 浩幸; 石川 雅朗; 鈴木 久夫; 柏木 康秀; 臼井 邦人; 石田 博樹; 齋藤 康之; 石出 忠輝; 和田 州平; 上村 繁樹; 飯田 聡子

Subject: 学生相談室と学級担任との打ち合わせ

平成17年5月17日

学生相談室委員

学級担任 殿

学生相談室長

下記の通りカウンセラーと学級担任との
打ち合わせを行いますのでご参集ください。

記

1. 日時 6月7日(火) 13時30分から
2. 場所 第一会議室

木更津工業高等専門学校

〒292-0041

木更津市清見台東 2-11-1

学生課学生係 高橋光子

Tel 0438 (30) ■■■■

e-mail ■■■■@■■■■■■■■.jp

(出典 学生相談室と学級担任との打ち合わせ連絡メール)

資料 2 - 2 - ③ - 10

木更津工業高等専門学校学友会部・同好会技術指導員要領

昭和 56 年 9 月 17 日

細 則 第 14 号

- 1 本校学友会の部・同好会活動の技術を向上させるため、技術指導員（以下「コーチ」という。）を置くことができる。
- 2 コーチは、指導教員の指示を受けて、専門的技術指導に当たるものとする。
- 3 コーチは、指導教員の推薦に基づき校長が委嘱する。ただし、学内者からの委嘱は勤務時間外とし、本務に支障を来たさないよう配慮するものとする。
- 4 コーチは、特定の日時に技術指導に当たる。

～以下省略～

（出典 木更津工業高等専門学校規則集 569 頁）

資料 2 - 2 - ③ - 11

木更津工業高等専門学校後援会会則

（名称及び事務所）

第 1 条 この会は、木更津工業高等専門学校後援会（以下「本会」という。）と称する。

第 2 条 本会は、事務所を木更津工業高等専門学校内に置く。

（目的及び事業）

第 3 条 本会は、木更津工業高等専門学校（以下「木更津高専」という。）の充実振興について後援し、もって同校の発展に寄与することを目的とする。

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学校の諸施設、設備の充実助成に関すること。
- (2) 学生の課外活動並びに福利厚生助成に関すること。
- (3) 教職員の研究の助成に関すること。
- (4) 就職先の開拓及び斡旋の助成に関すること。
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業に関すること。

（会員）

第 5 条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 木更津工業高等専門学校に在学する学生の保護者。
- (2) 賛助会員 本会の趣旨に賛同する個人及び団体。

～以下省略～

（出典 後援会会則 1 頁）

資料2-2-③-12

後援会総会資料

平成18年度後援会クラブ活動助成費関係等の支出基準について（通知）

このことについて、学生保護者より後援会会費（入会金 15,000 円 年会費 18,000 円）を原資として従来より下記のとおり各方面にわたり補助等をしてしておりますが、平成 18 年度の取り扱いについてお知らせいたします。

記

	項目	備	考	
ク ラ ブ 活 動 助 成 費	クラブ指導費	1部・1同好会の指導に対して部同好会当たり 5,000円	後援会職員（学生課）に請求	
	クラブ物品援助費	体育系 20,000円 文化系 15,000円 同好会 10,000円	希望物品一覧を学生課学生係へ提出 （1月17日まで提出分）	
	課外活動指導費	休日に4時間以上の部活動の指導を行った場合 1回につき 1,200円	部活動指導業務実施報告書を学生課 学生係へ速やかに提出	
	合宿指導費	1泊の勤務につき 2,000円		
	活 動 助 成 費	クラブ引率旅費	交通費 実費 宿泊料 定額 日当 定額	旅行内申書は学生課学生係へ提出活 動計画に合致しているものに限る ただし、予算の範囲で調整あり
		地区大会遠征費等顧問	交通費 実費 宿泊料 定額 日当 定額	旅行内申書は学生課学生係へ提出
		負担割合	交通費・宿泊料及び弁当代の総額を後援会、学友会、学生で各1/3 乗車券は参加人数により団券・学割適用	
		全国体育大会遠征費	同 上	旅行内申書は学生課学生係へ提出
		英語弁論大会旅費	同 上	同 上
		文化発表会旅費	同 上	同 上
	その他の旅費等	交通費 実費 宿泊料 定額 その他 実費 日当 定額 （山岳部夏・冬山行、ホッケー部東日本大会、棋 道部全国将棋大会、自動車部エコラン大会等）	同 上	
厚 生 補 導 関 係 等	学生指導費	主事(3名)主事補(9名)専攻科長 金額 10,000円 副専攻科長 金額 10,000円	後援会職員（学生課）へ各自で請 求	
	担任経費	学級担任経費	1クラス 10,000円	学年主任が代表して学年分を一括 して学生課の後援会職員へ請求
		学年共通経費	各学年 20,000円	経費は学年主任が後援会職員（学生 課）に各自で請求
	新入生歓迎会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	卒業生追出会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	弔慰金	学生の父母（生計を同一にしている者）が亡 くなった場合 金額 10,000円		担任教員は、学生課学生係へ連絡
	表彰関係	表彰規程に定める表彰該当者に表彰状及び記 念品		各種大会等で上位入賞の場合は学 生課学生係へ連絡（推薦書提出）
就 職 対 策	卒業生就職懇談会		各学科 20,000円	領収書を学生課学生係へ提出
	就職依頼旅費	就職開拓旅費	各学科 30,000円	旅行内申書を学生課学生係へ提出
	卒業研究資料代	卒業研究資料代	指導教員各 10,000円	領収書を後援会職員（学生課）へ
	専攻科等研究補助	論文発表1回につき10,000円上限（交通費実費）	1人 年2回限度	後援会職員へ請求（専攻主任か ら）
	専攻科ティーチングアシ スタント	1人週4時間、年48時間上限		後援会職員へ請求（専攻科長から）

（出典 後援会総会資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学級担任が円滑に教育活動を実施するために、学生課では教育課程の編成・実施、進路指導、課外活動など多岐にわたる分野で支援を行っている。また、担任会、学科会議、学生相談室などの体制があり、人的支援を行っている。部・同好会の技術指導員を置くことができる制度なども整えられている。後援会からの財的支援も大きく、クラブ活動費、クラス運営費、専攻科生の学会発表費用などが助成されている。

以上のことから、本校では教育活動を円滑に実施するための支援体制が整備され、それらの体制は十分に機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携の一環として「教科と学科の懇談会」は2004年度から実施されている。また、創設当時から談話室という教職員用コミュニティルームを設けてきた背景もあり、積極的な議論が交わされた懇談会の内容から教育課程の改善に至るまでの成果を上げている。しかし、改善した教育課程が円滑に実施されなければ意味をなさない。本校は、事務部、学科学系教員、後援会が一丸となり、学生に最も近い場所で教育活動や校務を行う学級担任や指導教員への教育支援を行っていることで、円滑な教育課程が機能的に実施されている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準2の自己評価の概要

準学士課程には、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科の5学科が設置されている。専攻科課程には、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻が設置されている。人文・基礎学系を含めた5学科2学系及び3専攻が本校の教育方針に沿った学習・教育目標をふまえて教育目的を定め、教育を実施する体制となっている。

全学的なセンターであるネットワーク情報センターは、全学科の専門及び一般科目の授業で使用されている。ネットワーク情報センターは授業による使用時間外は学生に開放されており、自学自習の場となっている。以上のことから、ネットワーク情報センターは教育の目標を達成する上で適切に設置・運用されている。

教育活動を展開する上で重要な事項を審議・運営する組織として、運営協議会を主軸に、教官会議、教務委員会、専攻科委員会、将来構想検討委員会が設置されている。各委員会を統制し、教育課程全体を企画調整する役割を運営協議会が担っており、委員会の審議結果は運営協議会に報告され、承認を受けた上で実行されている。以上のことから、教育活動全体を企画調整し、有効に展開するための検討・運営体制が整備され、審議などの十分な活動が行われている。

本校では、学級担任が円滑に教育活動を実施するために、学生課では教育課程の編成・実施、進路指導、課外活動などの多分野で支援を行っている。また、担任会、学科会議、学生相談室などの体制があり、人的支援を行っている。財的支援では、クラブ活動費、クラス運営費、専攻科生の学会発表費用などが後援会から助成されている。以上のことから、本校では教育活動を円滑に実施するための支援体制が整備され、それらの体制は十分に機能している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は1学年5学級である。一般科目を担当する専任教員は25名(人文学系13名、基礎学系12名)であり、高等専門学校設置基準第6条(資料3-1-①-1)に基づき配置されている。

人文学系の一般科目を担当する専任教員は、13名、非常勤教員は21名である(資料3-1-①-2)。人文学系科目は本校の準学士課程における「1. 人間形成、3. コミュニケーション能力」を主に達成するために設置されている科目である。専任教員の教育機関職務年数平均は18年、非常勤教員は8年である。「1. 人間形成」では、国語や体育、社会、美術、音楽等の人間性の基礎となる教養科目があり、これらは専任教員の専門分野については専任教員が担当し、他分野については非常勤教員が補っている。また、「3. コミュニケーション能力」にかかわる国語(現代国語)等の重要科目は低学年を専任教員が担当し、高学年を教職歴・専門性ともに適した非常勤教員が担当している。英会話やドイツ語、中国語等の科目では、ネイティブスピーカーの外国人教員が非常勤教員として配置されている。

基礎学系(数学・物理学・化学等)の一般科目を担当する専任教員は12名、非常勤教員は5名である(資料3-1-①-3)。基礎学系科目は本校の準学士課程における「2. 科学技術の修得」を主に達成するために設置されている科目である。専任教員の教育機関職務年数平均は18年、非常勤教員は6年である。理数科目は、専門科目を修得するために基礎となる科目であるため、特に重要な低学年では専任教員が全ての基礎学系科目を担当している。

「3. コミュニケーション能力」「4. 創造性」を養う一般科目として、本校の特色でもある第3学年の一般特別研究がある。これは、専任の一般科目教員が、各自の専門性を活かした内容の講座を開き、学生が各講座のテーマに沿った研究内容を進め、論文作成や口頭発表等をする科目である。

資料3-1-①-1

高等専門学校設置基準

(第6条) 高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員(助手を除く。以下この条において同じ。)を置かなければならない。

2 教員のうち、第16条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に上げる数を下ってはならない。

- 一 入学定員に係る学生を1の学級に編制する場合は、10人
- 二 入学定員に係る学生を2の学級に編制する場合は、12人
- 三 入学定員に係る学生を3の学級に編制する場合は、14人
- 四 入学定員に係る学生を4の学級から6の学級までに編制する場合は、14人に3学級を超えて1学級を増すごとに4人を加えた数
- 五 入学定員に係る学生を7以上の学級に編制する場合は、26人に6学級を超えて1学級を増すごとに3人を加えた数

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3-1-①-2 (1/2)

2005年度 人文学系 教員・一般科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	教育機関 職務年数	最高学位
教授	中村俊昭	英語B	1	37	教育学士
		一般特別研究	3		
教授	平安隆雄	歴史Ⅱ	2	29	文学修士
		技術と社会	3		
		一般特別研究	3		
教授	五十嵐讓介	国語(現代国語)	1, 2	28	文学修士
		国語(古文)	2		
		一般特別研究	3		
		国文学特論	5		
教授	室井美稚子	英語A	1	29	修士(教育学)
教授	荒木英彦	英語演習	3	22	文学士
		ドイツ語Ⅰ	3		
		一般特別研究	3		
助教授	篠村朋樹	保健体育	1, 2, 5	21	修士(体育学)
		一般特別研究	3		
助教授	小澤健志	英語A	2	20	教育学修士
		一般特別研究	3		
助教授	清野哲也	保健体育	1, 2, 4	16	体育学修士
助教授	柴田育子	【在外研究員】		14.5	修士(文学)
助教授	坂田洋満	保健体育	1, 2 4, 5	10	修士(体育学)
助教授	加藤達彦	国語(現代国語)	1, 2	10	博士(文学)
		国語(古文)	2		
		一般特別研究	3		
講師	岩崎洋一	英語A	2	6	修士(教育学)
		英語B	2		
講師	武長玄次郎	歴史Ⅰ	1	1	博士(経済学)
		技術と人間	3		
		経済学	4		

資料3-1-①-2 (2/2)

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	教育機関 職務年数	最高学位
講師	竹内直人	国語(現代国語)	3	3	文学修士
講師	小林美鈴	国語(現代国語)	3,4	21	学士
講師	小嶋洋輔	国語(古文)	1,2	0.3	博士(文学)
講師	石田隆至	社会学	4	3.3	修士(社会学)
講師	今山正幾	人文地理	1	9	博士(文学)
講師	川元豊和	人文地理	1,3	19	博士(地理学)
講師	魚谷雅広	哲学	5	0.3	修士(文学)
講師	清水幸雄	法学	5	30	法学修士
講師	間宮郁子	人類学	5	0.5	博士(学術)
講師	太田潤一	心理学	5	3.5	学士
講師	Russell Keith	英会話Ⅰ	3	4	MA(Chinese) BS(Math)
		英会話Ⅱ	4		
		英会話Ⅲ	5		
講師	Allan Doyle	英会話Ⅱ	4	2	BS(Geology)
		英会話Ⅲ	5		
講師	蒲原順子	英語演習	3	0.1	修士(文学)
		総合英語演習Ⅰ	4		
		総合英語演習Ⅱ	5		
		英語特論	5		
講師	千葉健	ドイツ語Ⅰ	3	2	博士(文学)
講師	Frank-Peter Riesner	ドイツ語Ⅱ	4	10	学士
		ドイツ語Ⅲ	5		
講師	冀子武	中国語Ⅰ	4	11	修士(理学)
		中国語Ⅱ	5		
講師	久場里志	保健体育	3	1	修士 (武道・スポーツ)
講師	宮原祐徹	保健体育	3	1	修士 (スポーツ健康科学)
講師	高寄三朗	美術	1	24	修士
講師	垣浪恵美子	音楽	1	8	修士(音楽)
講師	大野敬代	日本語Ⅰ	3	4	修士(教育学)
		日本語Ⅱ	4		
		日本語Ⅲ	5		

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3 - 1 - ① - 3

2005 年度 基礎学系 教員・一般担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位
教授	田村和士	物理学Ⅱ	38	理学修士
		一般特別研究		
教授	高遠節夫	代数幾何	22	理学修士
		数学特論		
教授	高橋邦夫	基礎科学	35	博士(工学)
		物理学Ⅰ		
教授	鎌田 勝	解析Ⅰ	25	理学博士
		一般特別研究		
教授	相川正美	基礎化学	16	理学博士
		一般特別研究		
助教授	吉井文子	基礎化学	17.9	家政学修士 博士(学術)
助教授	関口昌由	基礎数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	14	博士(理学)
		代数幾何		
		解析Ⅱ・Ⅲ		
		日本事情Ⅰ		
助教授	福地健一	物理学Ⅲ	16	教育学修士 博士(工学)
		一般特別研究		
助教授	山下 哲	解析Ⅰ	11	博士(理学)
		一般特別研究		
助教授	鈴木道治	基礎数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	13	理学修士
		解析Ⅱ		
		一般特別研究		
助教授	金子真隆	基礎数学Ⅰ・Ⅱ	7	博士(数理科学)
		数学演習B		
		一般特別研究		
助教授	大塚浩史	基礎数学Ⅰ・Ⅱ	8	博士(理学)
		数学演習A		
		一般特別研究		

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位
講師	齋藤純一	解析Ⅱ	8	修士(教育学)
講師	長 新人	解析Ⅲ	9	修士(教育学)
講師	竹並紀幸	解析Ⅲ	0.3	博士(理学)
講師	平山明彦	生物学	29	歯学博士
講師	藤岡導明	地学	1	博士(理学)

(出典 2005 年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級であり、25人の専任教員が配置されており、設置基準を満たしている。

一般科目は本校の教育目的を達成するために設置されている科目である。これらの科目を担当する教員は、専任・非常勤ともに専門性や教育歴を考慮した適切な配置となっている。また、低学年の授業において、教育の核となる授業科目には重点的に専任教員が配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点 3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専門5学科（機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科）の専任教員数は52名（助手8名を含む）であり、高等専門学校設置基準（資料3-1-②-1）に基づき教員配置がなされている。本校専任教員は人文・基礎学系を合わせて77人である。うち、専門5学科の教授・助教授（39人）が占める割合は約51%である（資料3-1-②-2）。専門科目は本校の教育目的「2. 科学技術の修得、4. 創造性」を達成するために必要な科目であり、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。各学科の教員・専門科目一覧を資料3-1-②-3～7に示す。専門科目担当の非常勤教員は37名である。一般科目と同様に、低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。これらの資料から、科目内容と担当教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。一方、電気電子工学科を例にとると、電気回路や電気磁気学、情報処理等の専門基礎科目は、必ずしも専門分野と一致していないが、5学科の教員における修士以上の学位取得率は88%、非常勤教員では91%であり、専門基礎科目を教授する資質を十分持っている（資料3-1-②-8）。また、企業・公共団体の実務経験のある専門専任教員の割合は50%、非常勤教員は70%であり、実務にも明るい教員が多い。教員の前歴については人事書類を出典とするため、**現地閲覧資料2**として提示する。

資料3-1-②-1

高等専門学校設置基準

(第6条) 高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。以下この条において同じ。）を置かなければならない。

3 教員のうち、工学に関する学科において第16条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に1の学科をおくときは、8人、2以上の学科をおくときは8人に1学科を超えて1学科を増すごとに7人を加えた数を下ってはならない。この場合において、1学科の入学定員に係る学生を2以上の学級に編制するときは、これらに1学級を超えて1学級を増すごとに5人を加えるものとする。

(第7条) 高等専門学校には、演習、実験・実習または実技について補助させるために必要な相当数の専任の助手を置かなければならない。

(第8条) 専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数は一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の2分の1を下ってはならない。

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3-1-②-2

2005年度 専任教員一覧

人文学系		機械工学科		電子制御工学科	
教授	中村俊昭	教授	大藤晃義	助教授	臼井邦人
教授	平安隆雄	教授	黒田孝春	助教授	大橋太郎
教授	五十嵐讓介	教授	高橋秀雄	助教授	泉 源
教授	室井美稚子	教授	石出忠輝	講師	岡本峰基
教授	荒木英彦	助教授	内田洋彰	助手	坂元周作
助教授	篠村朋樹	助教授	鈴木久夫	情報工学科	
助教授	小澤健志	助教授	小田 功	教授	増田重史
助教授	清野哲也	講師	板垣貴喜	教授	天摩勝洋
助教授	柴田育子	助手	林田和宏	教授	栗本育三郎
助教授	坂田洋満	助手	黄野銀介	助教授	東 雄二
助教授	加藤達彦	電気電子工学科		助教授	小林 暁
講師	岩崎洋一	教授	小平真次	助教授	和崎浩幸
講師	武長玄次郎	教授	熊谷勝彦	助教授	和田州平
基礎学系		教授	石川雅之	助教授	丸山真佐夫
教授	田村和士	教授	大澤 寛	講師	齋藤康之
教授	高遠節夫	教授	上原正啓	助手	米村恵一
教授	高橋邦夫	助教授	柏木康秀	助手	大枝真一
教授	鎌田 勝	助教授	石井孝一	環境都市工学科	
教授	相川正美	助教授	岡本 保	教授	黒川章二
助教授	吉井文子	講師	飯田聡子	教授	石田博樹
助教授	関口昌由	助手	吉崎静男	教授	高橋克夫
助教授	福地健一	助手	浅野洋介	教授	大木正喜
助教授	山下 哲	電子制御工学科		教授	佐藤恒明
助教授	鈴木道治	教授	角田幸紀	助教授	石川雅朗
助教授	金子真隆	教授	高上輝雄	助教授	上村繁樹
助教授	大塚浩史	教授	橘川五郎	助教授	鬼塚信弘
		教授	鴫田正俊	講師	青木優介
		助教授	鈴木 聡	助手	高石斌夫

(出典 2005年度高等専門学校教員表より抜粋・編集)

資料3-1-②-3 (1/3)

2005年度 機械工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	大藤晃義	材料力学Ⅰ	3	材料学 材料強度学 バイオエンジニアリング	35	工学博士
		設計製図Ⅰ	3			
		工業英語	4			
		新素材	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	3,4			
		卒業研究	5			
		機械工作実習	3			
教授	黒田孝春	機構学／論理回路	4	レーザー加工 生産工学 ロボット工学 エキスパートシステム	27	博士(学術)
		機械工学概論	1			
		工学実験	1,2			
		卒業研究	5			
		製作実習／図学製図	2			
		電気工学実験	5			
		マイコン制御Ⅱ	5			
教授	高橋秀雄	材料力学Ⅱ	4	機械要素 (歯車・ベルト等)	20	博士(工学)
		図学製図	2			
		設計法Ⅱ	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	2,3			
		卒業研究	5			
		製作実習	3,4			
教授	石出忠輝	流体力学	5	流体力学	16	工学修士
		水力学	4			
		計算力学	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	3,4			
		卒業研究	5			
		工学演習Ⅱ	5			
助教授	内田洋彰	情報処理Ⅰ	1	制御工学 ロボット工学	15	博士(工学)
		自動制御Ⅰ	4			
		自動制御Ⅱ	5			
		ロボット工学	5			
		工業力学	2			
		機械工学概論	1			
		電気工学実験	5			
		工学実験				
		卒業研究	5			

資料3-1-②-3 (2/3)

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	鈴木久夫	機械工作法Ⅰ	3	摩擦・摩耗・潤滑 大気環境 太陽エネルギー スターリングエンジン	36	工学士
		熱力学／製作実習	4			
		設計製図Ⅱ	4			
		設計工学	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	1, 3, 4			
		卒業研究	5			
		工学演習Ⅰ	4			
助教授	小田 功	情報処理Ⅰ	1	光応用計測	6.5	博士(工学)
		情報処理Ⅱ	2			
		計測工学	3			
		製作実習	5			
		センサ工学	5			
		人工知能	5			
		設計製図Ⅰ	3			
		機械工学概論	1			
		工学実験	2, 3, 4			
		卒業研究	5			
		日本事情Ⅲ	3			
講師	板垣貴喜	情報処理Ⅱ	2	機械振動	9	修士(工学)
		情報処理Ⅲ	3			
		機械工学概論	1			
		工業力学	2			
		工学演習Ⅰ	4			
		工学実験	2, 3, 4			
		卒業研究	5			
		機械力学Ⅱ	5			
		シークス回路	5			
		日本事情Ⅱ	3			
助手	林田和宏	機械工学概論(補助)	1	熱流体工学 燃焼工学 レーザ応用計測	1	博士(工学)
		工学実験(補助)	2, 3, 4			
		卒業研究(補助)	5			
助手	黄野銀介	工学実験(補助)	1-4	一般・特殊加工 精密機械要素設計	0.5	博士(学術)
		卒業研究(補助)	5			
教授	田村和士	応用物理Ⅱ	4	地球物理学	38	理学修士
教授	高遠節夫	応用数学A	4	数学教育	21	理学修士
助教授	福地健一	応用物理Ⅰ・Ⅱ	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)
助教授	山下 哲	応用数学B	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学C	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	大塚浩史	応用数学D	4	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

資料3-1-②-3 (3/3)

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理Ⅱ	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理Ⅲ	5	解析力学	17	理学修士
講師	松山隼也	材料学Ⅰ	3	材料工学・料利用工学 伝熱工学・熱力学	-	博士(工学)
		材料学Ⅱ	4			
		伝熱工学	5			
講師	新倉雅樹	電気回路	3	生産システム	11	工学修士
		電子回路	3			
		数理計画法	4			
講師	大森扶美樹	材料力学	3	機械設計	2	博士(工学)
		機械力学Ⅰ	4			
		設計法Ⅰ	4			
		アクチュエータ学	5			
講師	黄野銀介	機械工作法Ⅱ	4	一般・特殊加工 精密機械要素設計		博士(学術)
講師	古山幹雄	熱機関	5	熱機関	6	博士(工学)
講師	太田匡則	流体機械	5	流体力学	-	修士(工学)
講師	西村秀和	制御工学	5	制御工学	-	工学博士
講師	住本大吾	弾塑性学	5	弾塑性学	-	博士(工学)

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3-1-②-4 (1/2)

2005 年度 電気電子工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	小平眞次	電気磁気学Ⅱ	3	通信工学 超伝導デバイス	38	工学修士
		電気電子工学実験	5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		情報通信Ⅰ	4			
教授	熊谷勝彦	コンピュータ工学Ⅰ・Ⅱ	1-4	コンピュータ工学	35	工学士
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		日本事情Ⅱ	3			
教授	石川雅之	電子回路Ⅰ	4	アナログ電子回路 フィルタ	24	博士（工学）
		回路網理論	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	2,4,5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
教授	大澤 寛	電気機器	4	パワーエレクトロニクス	19	工学修士
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	4,5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		コンピュータ実習	3			
		パワーエレクトロニクス	5			
教授	上原正啓	自動制御Ⅰ・Ⅱ	4,5	電気磁気学 電磁界理論 電磁波工学	18	博士（工学）
		電気回路Ⅰ	2			
		電気電子工学概論	1			
		工学基礎演習	2			
		電気電子製図	3			
		機械工作実習	3			
		課題研究／卒業研究	4,5			
助教授	柏木康秀	電気回路Ⅱ	3	電力エネルギー	10	博士（工学）
		高電圧大電流工学	4			
		送配電工学	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3,5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		日本事情Ⅲ	4			
助教授	石井孝一	電気磁気学Ⅰ	2	高周波工学	34	工学士
		電気計測	3			
		高周波工学	4			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	4,5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		情報通信Ⅱ	5			
助教授	岡本 保	電子工学	3	半導体工学	15	博士（工学）
		電気電子材料	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	2,5			
		課題研究／卒業研究	4,5			
		電子デバイス	5			

資料 3-1-②-4 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	飯田聡子	電気回路Ⅲ	4	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士(工学)
		情報処理	1			
		情報処理演習	3			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3			
		課題研究/卒業研究	4,5			
助手	吉崎静男	工学基礎演習(補助)	2	回路工学	36	準学士
		電気電子製図(補助)	3			
		電気電子工学実験(補助)	2-4			
		課題研究/卒業研究(補助)	4,5			
助手	浅野洋介	工学基礎演習(補助)	2	ロボティクス 制御工学	1	修士(工学)
		電気電子製図(補助)	3			
		電気電子工学実験(補助)	2-4			
		課題研究/卒業研究(補助)	4,5			
教授	高橋邦夫	応用物理Ⅱ	4	レーザー-応用光計測 光物性	35	博士(工学)
助教授	福地健一	応用物理Ⅰ	3	光応用計測	16	教育学修 博士(工学)
		応用物理Ⅱ	4			
助教授	山下 哲	応用数学C	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学B	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	金子真隆	応用数学A	4	位相幾何学	7	博士(数理学)
助教授	大塚浩史	応用数学D	5	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理Ⅱ	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理Ⅲ	5	解析力学	17	理学修士
講師	小松順麿	電磁気学Ⅲ	4	高周波工学	6	修士(工学)
講師	山崎賢一	エネルギー発生工学	4	火力発電所におけるメ ンテナンス 天然ガス掘削業務	—	修士(工学)
講師	南方英明	電子回路Ⅱ	5	ロボット工学	8	修士(工学)
講師	古山幹雄	システム工学	5	熱機関	6	博士(工学)
		機械工学概論	5			
講師	長沼大介	情報工学	5	情報理論 音響工学	14	工学修士
講師	土居信之	電気設計	5	電気機器	18	工学士
講師	栗原伸吾	電力工学	5	電力工学	4	

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3-1-②-5 (1/2)

2005 年度 電子制御工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	角田幸紀	電磁気学Ⅰ	2	電磁解析 アンテナ動作解析 アンテナ設計	34	工学博士
		電磁気学Ⅱ	3			
		卒業研究	5			
教授	高上輝雄	材料力学Ⅰ	3	精密機械工学 制御工学	39	工学博士
		材料力学Ⅱ	4			
		機械制御入門	1			
		実験実習	-			
		卒業研究	5			
教授	橋川五郎	電気回路Ⅰ	3	集積回路工学 電子回路応用	6	博士(工学)
		電気回路Ⅱ	4			
		実験実習	-			
		卒業研究	5			
教授	鵜田正俊	ロボット工学	5	制御工学 ロボティクス	19	博士(工学)
		制御工学Ⅰ	4			
		制御工学Ⅱ	5			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助教授	鈴木 聡	電子工学Ⅰ	3	半導体物性	22	博士(工学)
		電子工学Ⅱ	4			
		情報処理	3			
		卒業研究	5			
助教授	白井邦人	電子回路Ⅰ	4	電子工学 コンピュータネット ワーク	15	工学修士
		電子回路Ⅱ	5			
		プログラミング技法	2			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
		総合演習Ⅱ	4			
助教授	大橋太郎	計測工学	3	制御工学 機械工学	12	修士(工学)
		制御工学Ⅰ	4			
		電子計算機Ⅱ	4			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助教授	泉 源	【内地研究員】		アンテナ・電波伝 搬	10	学士(工学)
講師	岡本峰基	製図	2	制御工学 機械力学	2.5	博士(工学)
		機械力学	3			
		総合演習Ⅰ	3			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助手	坂元周作	工学概論/実験実習(補助)	-	超電導工学	1	博士(工学)
		プログラミング技法(補助)	2			
		卒業研究(補助)	5			
教授	田村和士	応用物理Ⅱ	4	地球物理学	38	理学修士
助教授	福地健一	応用物理Ⅰ・Ⅱ	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)

資料3-1-②-5 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	山下 哲	応用数学C	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学B	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	金子真隆	応用数学A	4	位相幾何学	7	博士(数理科学)
助教授	大塚浩史	応用数学D	5	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理Ⅱ	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理Ⅲ	5	解析力学	17	理学修士
		電子材料	5			
講師	大森扶美樹	設計工学	4	機械設計	2	博士(工学)
		精密工学	5			
講師	小松順麿	電子計算機Ⅰ	2	高周波工学	6	修士(工学)
講師	酒井智弥	工業解析	4	計算機科学 視覚情報学 波動工学	3	博士(工学)
		制御機器	5			
講師	古山幹雄	熱流体力学	5	熱機関	6	博士(工学)
講師	杉山賢司	システム工学	5	制御工学 システム工学	—	PhD(工学)
講師	清水弘幸	情報工学	5	数値シミュレーション 精密計測制御 超音波	33	工学博士
講師	呂 健明	計算機制御工学	5	信号処理工学 制御計測工学 システム設計工学	15	工学博士
講師	椎名達雄	光応用光学	4	—	—	—

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-6 (1/2)

2005年度 情報工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	増田重史	情報通信システム	5	ミリ波超高速通信 光ファイバ通信 伝送システム	4	博士(工学)
		電磁気学Ⅱ	3			
		実験・実習	3			
		課題実験/卒業研究	4,5			
教授	天摩勝洋	シミュレーション工学	5	シミュレーション モデリング 解析力学	29	工学修士
		数理計画法	5			
		論理回路	2			
		制御工学	4			
		課題実験/卒業研究	4,5			
教授	栗本育三郎	計算機インターフェース	4	光脳機能信号処理 情報処理 人工現実感	18	工学修士
		ソフトウェア設計	4			
		実験・実習	1,4			
		課題実験/卒業研究	4,5			
助教授	東 雄二	電子計算機Ⅰ	3	電子計算機 計測システム構築	31	工学士
		人工知能	4			
		半導体工学	4			
		ドキュメント書法	4			
		課題実験/卒業研究	4,5			
助教授	小林 暁	電子計算機Ⅱ	4	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 学術博士
		計算機システム	4			
		課題実験/卒業研究	4,5			
助教授	和崎浩幸	電気回路	3	ニューラルネットワークの アナログ VLSI 化	18	工学修士
		電子回路	4			
		オペレーティング・システム	4			
		計算機制御工学	5			
		実験・実習	2			
		課題実験/卒業研究	4,5			
		日本事情Ⅲ				
助教授	和田州平	データ構造アルゴリズム	3	解析学 (作用素論) 知的検索システム	13	博士(理学)
		プログラミング演習Ⅱ	3			
		情報数学	3			
		情報理論	5			
		課題実験/卒業研究	4,5			
		日本事情Ⅱ				
助教授	丸山真佐夫	コンピュータ演習	1	並列処理 クラスタ並列計算 機システム	10	博士(工学)
		コンピュータ入門	1			
		オブジェクトプログラミング	4			
		実験実習	4			
		課題実験/卒業研究	4,5			
講師	齋藤康之	プログラミング言語	2	画像工学 画像解析・処理	5	博士(情報科学)
		プログラミング演習Ⅰ	2			
		工業英語	4			
		画像情報システム	5			
		課題実験/卒業研究	4,5			

資料3-1-②-6 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助手	米村恵一	実験・実習(補助)	1-4	ヒューマンインタフェース 画像処理 認知科学	2	博士(工学)
		データ構造アルゴリズム(補助)	3			
		プログラミング演習2(補助)	3			
		課題実験/卒業研究(補助)	4,5			
助手	大枝真一	プログラミング言語(補助)	2	ニューラルネットワーク 知能システム	1	博士(工学)
		プログラミング演習I(補助)	2			
		実験・実習(補助)	2-4			
		コンピュータ演習(補助)	1			
		課題実験/卒業研究(補助)	4,5			
教授	高遠節夫	応用数学A	4	数学教育	21	理学修士
助教授	山下 哲	応用数学B・C	4	グラフ理論	11	博士(理学)

2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理I	3	素粒子理論	3	修士(理学)
		応用物理III	5			
講師	小松直樹	応用物理II	4	解析力学	17	理学修士
		電磁気学I	2			
講師	清水弘幸	計測工学	5	数値シミュレーション 精密計測制御 超音波	33	工学博士
講師	長沼大介	知能システム	5	情報理論 音響工学	14	工学修士
講師	呂 健明	信号処理工学	5	信号処理工学 制御計測工学 システム設計工学	15	工学博士
講師	末石吾朗	分散情報システム	5	プログラミング言語 コンピュータシステム オブジェクト指向	19	工学士
講師	松井伸介	情報機器	5	—	—	—

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-7 (1/3)

2005年度 環境都市工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	黒川章二	耐震工学	5	コンクリート構造	37	学士
		構造力学Ⅰ	3			
		基礎実験Ⅰ(材料)	3			
		基礎演習Ⅰ(構力)	3			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
教授	石田博樹	構造力学Ⅰ	2,4	構造工学	32	博士(工学)
		コンクリート工学	3			
		コンクリート構造Ⅰ	4			
		設計製図Ⅱ(RC橋)	4			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
教授	高橋克夫	上下水道工学	4	水環境工学	34	工学士
		水環境学Ⅱ	5			
		情報処理入門	2			
		情報処理Ⅰ	3			
		環境計画学	5			
		卒業研究	5			
教授	大木正喜	測量学/測量実習	1-3	測量学 河川工学	33	工学修士
		基礎実験Ⅱ(水理)	4			
		環境都市工学概論	1			
		測量リモートセンシング	4			
		卒業研究	5			
		日本事情Ⅲ				
教授	佐藤恒明	構造力学Ⅱ	4,5	橋構造 構造解析	17	博士(工学)
		橋構造	5			
		数値解析	4			
		都市工学実験(構造)	5			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
日本事情Ⅱ	2					
助教授	石川雅朗	水理学	3	水工水理学 生態環境工学 水産学	14	博士(水産学)
		基礎演習Ⅱ(水理)	4			
		水工学	5			
		基礎実験Ⅱ(水理)	4			
		生態環境工学	4			
		環境都市工学概論	1			
卒業研究	5					
助教授	上村繁樹	水環境学Ⅰ/水理学	4	環境衛生工学	8	博士(工学)
		環境工学実験	5			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
		廃棄物管理	5			

資料3-1-②-7 (2/3)

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	鬼塚信弘	土質力学	3, 4	地盤工学 地震工学 地質工学	12	博士(工学)
		基礎演習Ⅲ(土質)	4			
		基礎実験Ⅲ(土質)	4			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
講師	青木優介	図学	1	建設材料	4	博士(工学)
		情報処理入門	1			
		材料学	2			
		基礎実験Ⅰ(材料)	3			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
助手	高石斌夫	環境都市工学概論 (補助)	1	水処理 廃棄物処理	35	準工学士
		測量実習(補助)				
		環境工学実験(補助)				
		卒業研究(補助)	5			
教授	高遠節夫	応用数学A	4	数学教育	21	理学修士
教授	高橋邦夫	応用物理Ⅱ	4	レーザー-応用光計測 光物性	35	博士(工学)
助教授	福地健一	応用物理Ⅰ	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)
		応用物理Ⅱ	4			
助教授	山下 哲	応用数学B	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学C	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	大塚浩史	応用数学D	4	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

資料3-1-②-7 (3/3)

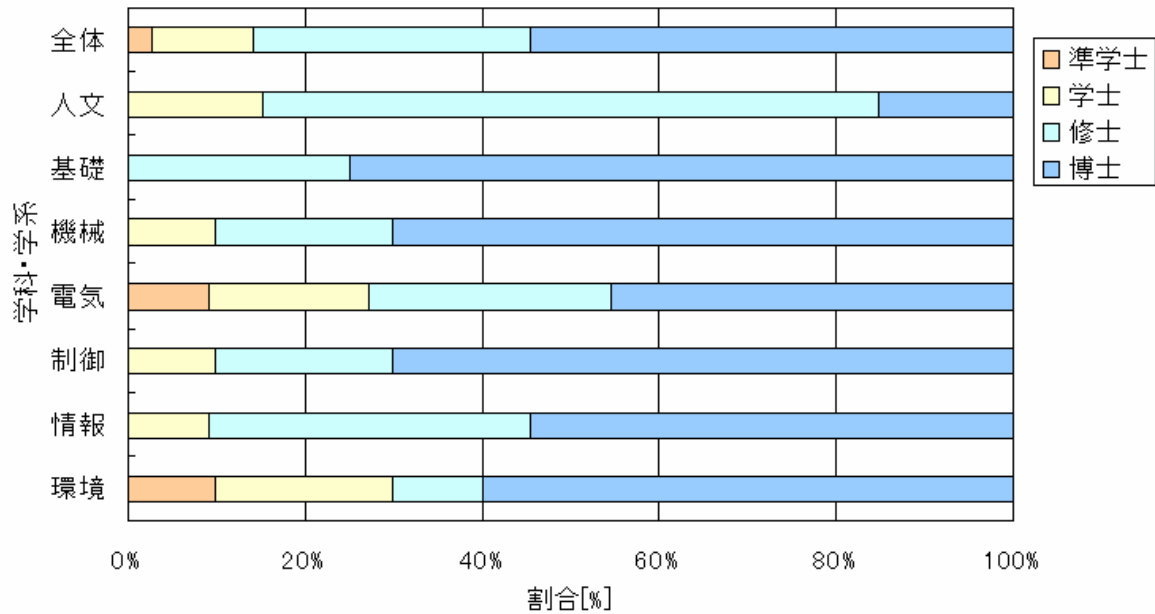
2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理Ⅱ	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	大河内保彦	設計製図1(擁壁)	4	地盤工学	5	博士(工学)
講師	石本弘治	情報処理Ⅱ	4	情報処理		
講師	森田弘昭	環境アセスメント	4	下水道工学		修士(工学)
講師	筒井純一	都市エネルギー工学	5	気象・気候学		修士(工学)
講師	小芝明弘	橋工学	5	橋梁工学		
		都市工学設計製図(鋼橋)	5			
講師	野村幸弘	環境工学概論	5	上下水道工学		修士(工学)
講師	平戸利明	コンクリート構造Ⅱ	5	プレストレストコンクリート橋		
講師	鈴木輝一	地盤工学	5	地盤工学	9	博士(工学)
講師	松井和己	情報処理Ⅲ	5	計算力学 材料力学 構造解析	2	博士(工学)
講師	寺西弘文	地域計画学	5	都市計画学		博士(学術)
講師	小梁川雅	都市交通学	5	道路工学・コンクリート 工学	21	博士(工学)
講師	立野恵一	計測通論	5	計測工学		
講師	西野木洋	景観工学	5	景観工学		
講師	河村知徳	防災工学	5	構造地質学		

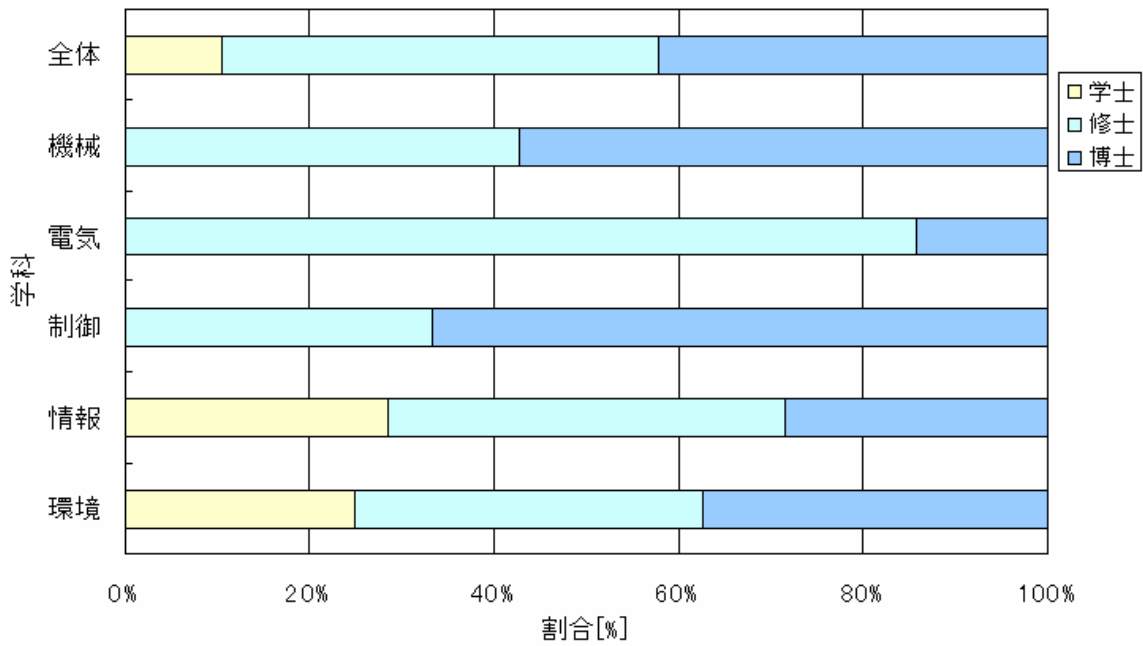
(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-8

教員の学位取得状況



専任教員の学位取得状況



非常勤教員の学位取得状況

(出典 2005年度高教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級を設置しており、専門の専任教員数は52名(助手を除くと44名)である。高等専門学校設置基準36名を下っておらず、適切な教員配置がなされている。また、本校専任教員のうち専門5学科の教授・助教授が占める割合は51%であり、設置基準第8条を満たしている。

「2. 科学技術の修得」を達成するため、一般科目と同様に、重要な低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。専任教員及び非常勤教員の学位取得の状況から、専門科目を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員及び非常勤教員も多く、実務についても明るい教員が多い。このような多様な専門や経験を持つ教員構成のもとで、実験実習や課題研究・卒業研究等を行うことにより、「4. 創造性」が達成できると考えられる。

以上のことから、本校の教育目的「2. 科学技術の修得」、 「4. 創造性」を達成するために必要な専門科目の担当専任教員及び非常勤教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置が行われている。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科共通科目は、専攻科教育目的「1. 人間形成, 3. コミュニケーション能力」を達成するのに必要な科目である。また、多分野にわたる専門科目の教授により、得意とする専門分野と他分野の知識と複合する能力を育て、「2. 科学技術の修得と応用」を達成するものである(資料3-1-③-1)。専攻専門科目は深い専門性の授業、演習・実験・研究科目を通し、本校の教育目的「2. 科学技術の修得, 3. コミュニケーション能力, 4. 創造性」を達成するために必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。資料3-1-③-2～資料3-1-③-4より、科目内容と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。専攻科科目の担当教員は、全て専任教員である。専任教員における博士号取得率は55%であり、専門科目を教授する資質を十分持っている(資料3-1-③-5)。また、企業・公共団体の実務経験率は38%であり、実務にも明るい教員が多い。教員の前歴に関する資料は人事書類を出典とするため、現地閲覧資料2として提示する。

資料 3 - 1 - ③ - 1

2005 年度 専攻科 専攻共通科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	人文	中村俊昭	技術英語 I	英語評 コミュニケーション指導	37	教育学士
教授	人文	平安隆雄	現代文明と技術者倫理	西洋史・技術教育史	29	文学修士
教授	人文	五十嵐讓介	人間と文化	近世俳諧	28	文学修士
助教授	人文	小澤健志	英語総合	アメリカ文学・アメリカ事情	20	教育学修士
講師	人文	武長玄次郎	現代文明と技術者倫理	経済学・経済史	1	博士（経済学）
教授	基礎	高橋邦夫	応用物理特論	レーザー応用光計測 光物性	35	博士（工学）
教授	基礎	鎌田 勝	応用数学特論	数理物理学	25	理学博士
教授	基礎	相川正美	環境化学特論	環境化学	14	理学博士
助教授	基礎	吉井文子	応用化学特論	分子構造活性相関	17.9	家政学修士 博士（学術）
助教授	基礎	山下 哲	応用数学特論	グラフ理論	11	博士（理学）
教授	機械	大藤晃義	バイオメカニクス	材料学 材料強度学 バイオエンジニアリング	35	工学博士
教授	機械	高橋秀雄	材料力学特論	機械要素 （歯車・ベルト等）	20	博士（工学）
教授	電気	石川雅之	回路工学	アナログ電子回路 フィルタ	23	博士（工学）
教授	電気	熊谷勝彦	デジタル回路	コンピュータ工学	35	工学士
講師	電気	飯田聡子	磁性材料工学	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士（工学）
教授	制御	高上輝雄	計測制御システム	精密機械工学 制御工学	38	工学博士
教授	制御	橘川五郎	技術英語 II	集積回路工学	6	博士（工学）
			集積回路工学	電子回路応用		
助教授	情報	小林 暁	デジタル信号処理	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 学術博士
助教授	情報	和田州平	数値解析基礎論	解析学 （作用素論）	11	博士（理学）
助教授	環境	上村繁樹	環境工学通論	環境衛生工学	7	博士（工学）

（出典 2005 年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集）

資料3-1-③-2 (1/2)

2005年度 機械・電子システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	機械	大藤晃義	破壊力学	材料学 材料強度学 バイオエンジニアリング	35	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	機械	黒田孝春	生産工学	レーザー加工 生産工学 ロボット工学 エキスパートシステム	27	博士(学術)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	機械	高橋秀雄	設計工学特論	機械要素 (歯車・ベルト等)	20	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	機械	石出忠輝	流体力学特論	流体力学	16	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	機械	内田洋彰	システム制御工学	制御工学 ロボット工学	15	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	機械	鈴木久夫	特別研究	摩擦・摩耗・潤滑 大気環境 太陽エネルギー スターリングエンジン	36	工学士
			特別実験			
助教授	機械	小田 功	フォトオプトロニクス工学	光応用計測	6.5	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
講師	機械	板垣貴喜	トライボロジー	機械振動	9	修士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助手	機械	林田和宏	特別研究(補助)	熱流体工学 燃焼工学 レーザー応用計測	1	博士(工学)
助手	機械	黄野銀介	特別研究(補助)	一般・特殊加工 精密機械要素設計	0.5	博士(学術)
教授	電気	小平眞次	ミ波パワミ波工学	通信工学 超伝導デバイス	38	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
教授	電気	熊谷勝彦	デジタル回路	コンピュータ工学	36	工学士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	電気	石川雅之	電子回路特論	アナログ電子回路 フィルタ	24	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			

資料3-1-③-2 (2/2)

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	電気	大澤 寛	パワーエレクトロニクス特論	パワーエレクトロニクス	19	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	電気	上原正啓	電磁波工学	電気磁気学 電磁界理論 電磁波工学	18	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	電気	柏木康秀	エネルギー工学	電力エネルギー	10	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	電気	石井孝一	特別研究	高周波工学	34	工学士
			特別実験			
助教授	電気	岡本 保	半導体物性	半導体工学	14	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
講師	電気	飯田聡子	特別研究	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士(工学)
			特別演習			
助手	電気	吉崎静男	特別研究(補助)	回路工学	36	准学士
助手	電気	浅野洋介	特別研究(補助)	ロボティクス 制御工学	1	修士(工学)

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-3 (1/2)

2005年度 制御・情報システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	制御	角田幸紀	通信工学	電磁解析 アンテナ動作解析 アンテナ設計	34	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
教授	制御	高上輝雄	知能機械工学	精密機械工学 制御工学	39	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
教授	制御	橘川五郎	特別研究	集積回路工学 電子回路応用	6	博士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
教授	制御	鴫田正俊	創造設計工学	制御工学 ロボティクス	19	博士(工学)
			学習制御			
			特別研究			
			特別実験			
助教授	制御	鈴木 聡	特別研究	半導体物性	22	博士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	臼井邦人	特別研究	電子工学 コンピュータネット ワーク	15	工学修士
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	大橋太郎	特別研究	制御工学 機械工学	12	修士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	泉 源	【内地研究員】	アンテナ・電波伝搬	10	学士(工学)
講師	制御	岡本峰基	システム制御	制御工学 機械力学	2.5	博士(工学)
			特別研究			
助手	制御	坂元周作	特別研究	超電導工学	1	博士(工学)
教授	情報	増田重史	情報通信工学	ミリ波超高速通信 光ファイバ通信 伝送システム	4	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	情報	天摩勝洋	シミュレーション特論	シミュレーション モデリング 解析力学	29	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	情報	栗本育三 郎	画像工学	光脳機能信号処理 情報処理	18	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	東 雄二	特別研究	電子計算機 計測システム構築	31	工学士
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	小林 暁	ソフトウェア工学	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 学術博士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	和崎浩幸	特別研究	ニューラルネットワークの アナログ VLSI 化	18	工学修士
			特別実験			
			特別演習			

資料3-1-③-3 (2/2)

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	情報	和田州平	特別研究	解析学 (作用素論)	11	博士(理学)
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	丸山真佐夫	特別研究	並列処理 クラス並列計算機システム	10	博士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
講師	情報	齋藤康之	画像工学	画像工学 画像解析・処理	5	博士(情報科学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助手	情報	米村恵一	特別研究(補助)	ヒューマンインタフェース 画像処理 認知科学	2	博士(工学)
			特別実験(補助)			
			特別演習(補助)			
助手	情報	大枝真一	特別研究(補助)	ニューラルネットワーク 知能システム	1	博士(工学)
			特別実験(補助)			
			特別演習(補助)			

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-4

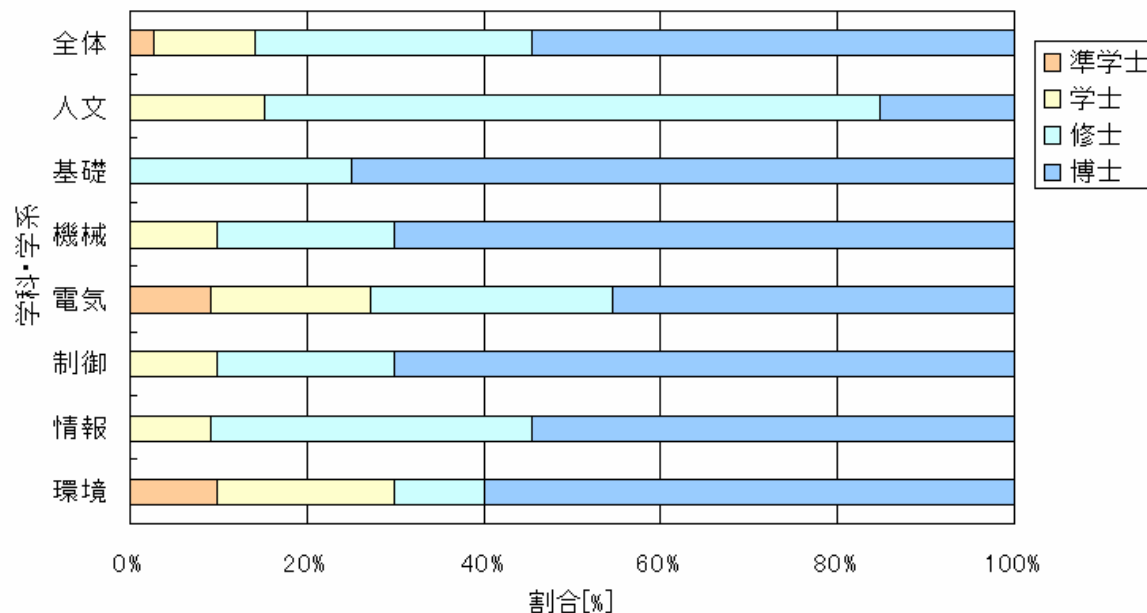
2005年度 環境建設工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位 (取得年)
教授	環境 都市	黒川章二	応用材料工学	コンクリート構造	37	学士
			特別研究			
			特別演習			
教授	環境 都市	石田博樹	応用構造工学	構造工学	32	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
教授	環境 都市	高橋克夫	環境工学特論	水環境工学	34	工学士
			特別研究			
			特別実験			
教授	環境 都市	大木正喜	環境情報・保全	測量学 河川工学	33	工学修士
			特別研究			
			特別演習			
教授	環境 都市	佐藤恒明	構造数値解析学	橋構造 構造解析	17	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	環境 都市	石川雅朗	環境情報・保全工学	水工水理学 生態環境工学 水産学	14	博士(水産学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	環境 都市	上村繁樹	専環境生物工学	環境衛生工学	8	博士(工学)
			特別研究			
			特別演習			
助教授	環境 都市	鬼塚信弘	応用地盤工学	地盤工学 地震工学 地質工学	12	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
講師	環境 都市	青木優介	特別研究	建設材料	4	博士(工学)
			特別実験			
助手	環境 都市	高石斌夫	特別研究(補助)	水処理 廃棄物処理	35	準工学士

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-5

専任教員の学位取得状況



専任教員の学位取得状況

(出典 2005年度高教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科共通科目は、本校の専攻科教育目的「1. 人間形成, 2. 科学技術の修得と応用, 3. コミュニケーション能力, 4. 創造性」を達成するのに必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。専攻科科目の担当教員は、全て専任教員である。専任教員の学位取得の状況から、専攻科の科目内容を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員及び非常勤教員も多く、実務についても明るい教員が多い。以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な専門科目の担当専任教員について専門分野の整合性が取れた適切な配置が明らかである。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育目的「1. 人間形成, 3. コミュニケーション能力」を達成するためには、教育及び学生の生活指導に熱意のある教員が必要である。また、「2. 科学技術の修得, 4. 創造性」を達成するためには、採用が必要な学科・学系と候補者の専門分野の整合性が必要である。本校では、教員組織の活動をより活発化するため、上記の条件を満たすような教員採用が行われ、広く各方面から人材を求める公募を行っている。資料3-1-④-1（1/2）では、数学の教員を公募している。資料3-1-④-2より、採用を必要としていた基礎学系では、30代の教員数が少ない。よって、応募資格では「採用時30歳程度の者」と年齢を制限し、当該学系における均整ある年齢構成を配慮している。また、応募資格(2)、(3)や提出書類の内容、面接等から、専門性や教育・学生生活指導に関して本校に適した人材を確保する配慮を行っている。また、資料3-1-④-1（2/2）では応募資格に実務経歴を条件付けている。資料3-1-④-3に教員性別構成を示す。2001年度には1名だった女性教員は2005年度には4名となっており、女性教員の採用も積極的に行われている。資料3-1-③-5に示す通り、専任教員における博士号取得率は55%である。2005年度には、電子制御工学科助教授が学位取得のため、国立大学へ機構内地研究員として1年間研修を行った。また、電気電子工学科助手1名が学位取得のため、2005年度から国立大学博士後期課程に社会人枠で修学している。これらの学位取得に対し、時間割調整等を配慮し支援している。外国人教員は準学士課程外国語科目において非常勤教員4名を任用している（資料3-1-④-4、資料3-1-④-5）。

本校では、2004年度より教職員顕彰を行っている。これは、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教員に対して行われるものである（資料3-1-④-6～8）。

資料3-1-④-1 (1/2)

2005 年度公募資料

木高専庶発第 47 号
平成18年1月13日

関係大学長・学部長・研究科長
関係機関長 殿

木更津工業高等専門学校長
河上 恭雄 (公印省略)

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 採用職名・人員 講師 1名
 2. 所 属 一般教育 (基礎学系)
 3. 専門分野 数学
 4. 担当科目 高専本科における数学及び応用数学, 専攻科における応用数学特論
 5. 応募資格 (1) 採用時において30歳程度の者
(2) 博士の学位を有する者または採用時まで博士の学位を取得見込みの者
(3) 教育・研究および学生の生活指導に熱意のある者
 6. 採用予定日 平成18年4月1日
 7. 提出書類 (1) 履歴書 (指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)
(2) 教育研究業績書 (著書, 論文, 報告等で指定様式または様式任意)
(3) 著書・論文等の別刷 (コピー可, 主要なもの3編程度)
(4) 研究業績概要 (A4版, 2000字程度, 様式任意)
(5) 教育, 研究および学生指導に対する抱負 (A4版, 2000字程度, 様式任意)
(6) 所属長 (または指導教員) の推薦書またはこれに準ずるもの
 8. 選考方法 第1次選考 (書類選考), 第2次選考 (面接)
- ※ 面接に関わる旅費等は, 応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成18年2月8日 (水) (必着)
 10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1
木更津工業高等専門学校長 宛
※1 封筒の表に「数学教員応募書類在中」と朱書し, 「簡易書留」で送付のこと。
※2 原則として, 提出された書類等の返却はいたしません。
 11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」
～省略～
「その他事務的なこと」
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3-1-④-1 (2/2)

2005 年度公募資料

木高専庶務第11号
平成17年5月16日

関係大学長・学部長
関係機関長 殿

木更津工業高等専門学校長
河上 恭雄(公印省略)

教員の公募について(依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

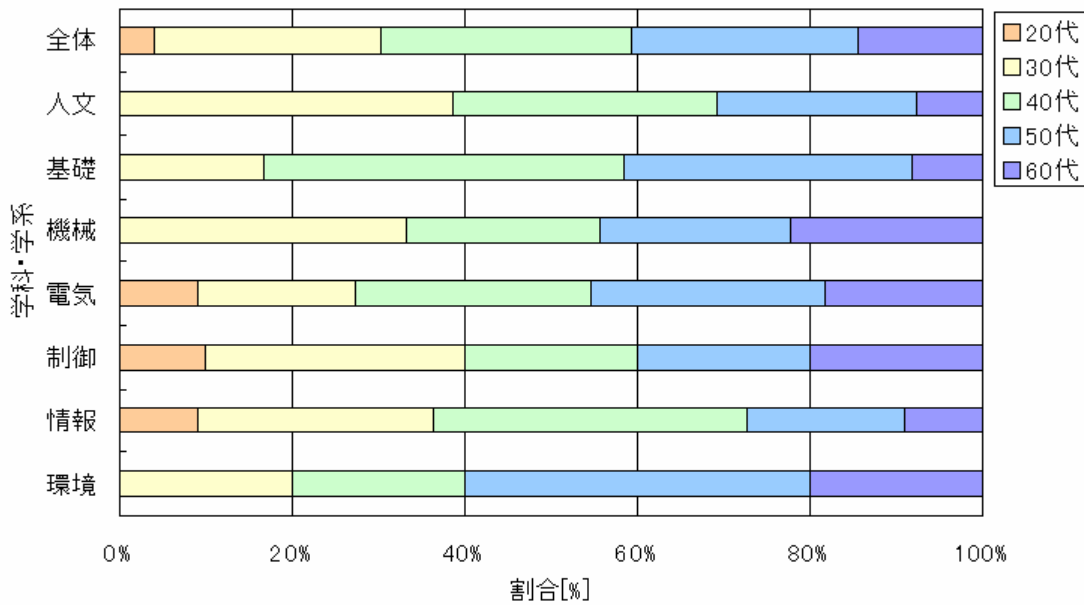
記

1. 採用職名・人員 助手1名
 2. 所 属 機械工学科
 3. 専門分野 材料・加工関連分野
 4. 担当科目 機械工学実験等
 5. 応募資格 (1)年齢40歳以上50歳以下の者(平成17年10月1日現在)
(2)博士の学位を有する者または採用時までに博士の学位を取得見込みの者
(3)5年以上の企業勤務経験のある者
(4)高専の教育、研究に情熱をもち、学生指導にも理解と熱意のある者
 6. 採用予定日 平成17年10月1日
 7. 提出書類 (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆、写真貼付)
(2)教育研究業績書(著書、論文、特許、報告等で指定様式または様式任意)
(3)著書・論文等の別刷(コピー可、主要なもの3編程度)
(4)研究業績概要(A4版、2000字程度、様式任意)
(5)教育、研究および学生指導に対する抱負(A4版、2000字程度、様式任意)
(6)推薦書(推薦者の氏名、所属と応募者との関係を記載)
 8. 選考方法 第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接)
- ※ 面接に関わる旅費等は、応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成17年6月30日(必着)
 10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1
木更津工業高等専門学校長 宛
※1 封筒の表に「機械工学科教員応募書類在中」と朱書し、「簡易書留」で送付のこと。
※2 原則として、提出された書類等の返却はいたしません。
 11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」
～省略～
「その他事務的なこと」
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3-1-④-2

教員年齢別構成

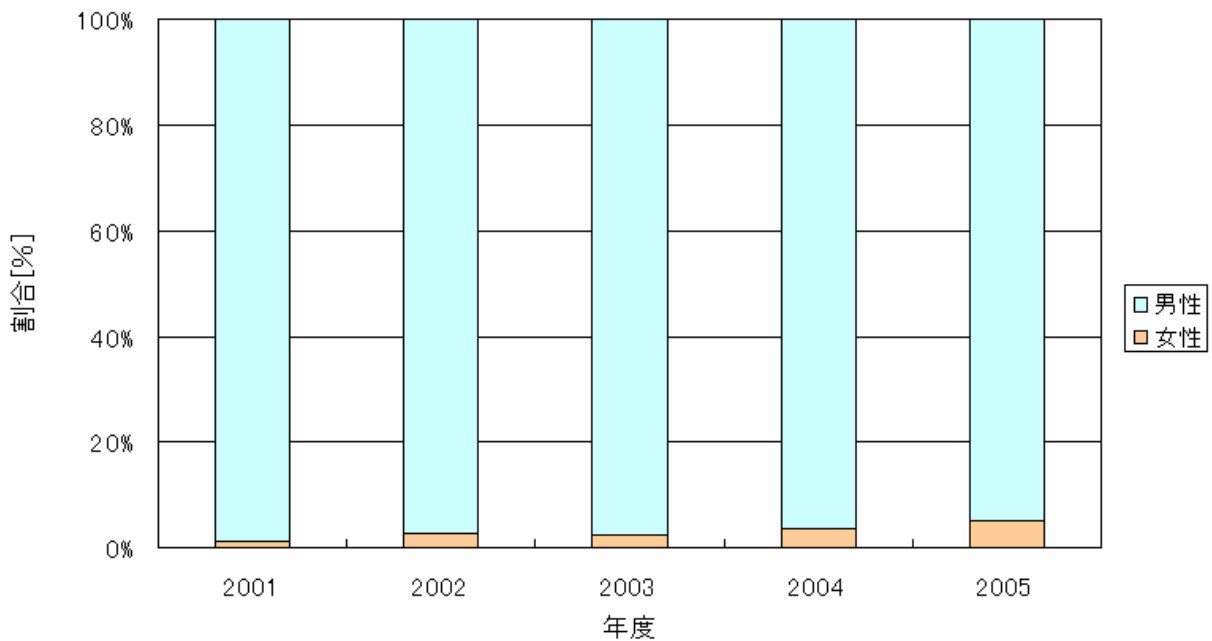


教員年齢構成

(出典 2005年度高専教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-④-3

教員性別構成



(出典 職員録・教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-④-4

2005年度 外国人教員任用状況

1. 専任教員：なし

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位 (取得年)
講師	Russell Keith	英会話Ⅰ	4	MA(Chinese)(1987) BS(Math)(1985)
		英会話Ⅱ		
		英会話Ⅲ		
講師	Allan Doyle	英会話Ⅱ	2	BS(Geology) (1981)
		英会話Ⅲ		
講師	Frank-Peter Riesner	ドイツ語Ⅱ	10	学士 (1990)
		ドイツ語Ⅲ		
講師	冀子武	中国語Ⅰ	11	修士(理学) (1993)
		中国語Ⅱ		

(出典 2005年度教員個人データより編集・抜粋)

資料3-1-④-5

外国人教員担当科目シラバス

授 業 科 目	英会話 I		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	3年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド			
関 連 科 目	英語演習、英会話Ⅱ、英会話Ⅲ		
担 当 教 員	(Keith Russell)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師室のメールボックスに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		

授 業 科 目	英会話Ⅱ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択必修 2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド			
関 連 科 目	英会話Ⅰ、英会話Ⅲ		
担 当 教 員	(Alan Doyle)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師室のメールボックスに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		

授 業 科 目	ドイツ語Ⅱ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4学年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	聞き取り練習、発音練習、会話表現、応答練習		
関 連 科 目	ドイツ語Ⅰ		
担 当 教 員	(フランク リースナー)		
連絡先(オフィス・アワー)	■■■■@■■■■.jp		

授 業 科 目	中国語Ⅰ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4年全学科・通年	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	中国語、漢語、現代漢語、語学、会話		
関 連 科 目			
担 当 教 員	冀子武		
連絡先(オフィス・アワー)	■■■■@■■■■.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		

(出典 2005年度シラバスより抜粋)

木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則

(趣旨)

第1条 木更津工業高等専門学校の組織的な運営の改善に資するため、教職員の顕彰を行うこととし、顕彰については、この規則の定めるところによるものとする。

(顕彰の対象者等)

第2条 顕彰の対象となる者は、校長及び事務部長を除く、本校に勤務する全教職員（非常勤の職員を含む。）とする。なお、組織及び任意団体等も顕彰の対象とする。

(顕彰の対象活動)

第3条 顕彰の対象となる活動は、以下の4分野におけるものとする。

- (1) 教 育：授業・課外活動・学生支援等において、顕著な教育効果を上げたと認められる活動
- (2) 研 究：研究において、顕著な業績を達成したと認められる活動
- (3) 学校運営：学校運営・学校経営において、顕著な貢献をしたと認められる活動
- (4) 地域連携：地域連携において、顕著な貢献をしたと認められる活動

(被顕彰者等の推薦)

第4条 被顕彰者等の推薦は、被顕彰者等に関係する者及び委員会等が、別紙様式1の「教職員顕彰候補者等推薦書」を校長に提出することにより行う。なお、自薦も可とする。また、推薦は随時受け付けるものとする。

(被顕彰者等の選考)

第5条 被顕彰者等の選考は、次に掲げる者の意見を聴取し、校長が決定する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員より校長が指名した若干名。
- (2) 校長が必要と認めた若干名

(顕彰の方法)

第6条 顕彰は、校長が被顕彰者に表彰状及び副賞を授与することにより行う。

(顕彰の時期)

第7条 顕彰は、毎年3月に行う。

(事務)

第8条 顕彰に関する事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 391 頁)

資料 3 - 1 - ④ - 7

教職員顕彰候補者推薦書

平成 年 月 日

木更津工業高等専門学校長 殿

推薦者等 _____ 印

教職員顕彰候補者等推薦書

木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則第 4 条に基づき、下記の者等を顕彰候補として適切と認め、推薦します。

記

分 野	(1) 教 育 (2) 研 究 (3) 学校運営 (4) 地域連携
候補者名等	
推 薦 理 由	
添付資料等	

記入上の注意

- (1) 「分野」に関しては、該当分野を○で囲むこと。
- (2) 組織等が候補である場合は、全構成員を記した上、代表者を明記すること。
- (3) 「推薦理由」は具体的に記し、その詳細が分かるような資料を添付すること。
- (4) 当推薦書を含む関係書類等の提出先は庶務課人事係とする。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 392 頁)

資料3-1-④-8 (1/2)

教職員顕彰結果通知1

平成17年6月8日

教職員各位

校長 河上 恭雄

平成16年度木更津高専教職員顕彰者について

このことについて、平成17年3月25日付けで表彰者氏名、所属及び表彰分野をお知らせしたところですが、表彰理由を付しておりませんでしたので、改めて下記のとおりお知らせします。

記

表彰者氏名	所 属	表彰分野	表 彰 理 由
大藤 晃義	機械工学科	研 究	日本の抱えている大問題の一つである高齢者の増加とハンディキャップを有する障害者に着目することにより、介護・福祉医療に対する工学の積極的な貢献を提唱し、その実践的な研究を進め学会賞を受賞した。また、地域福祉との共同研究に向けてリーダーシップを発揮すると共に、学会の役員としても重職にある。
平安 隆雄	人文学系	学校運営	学生主事として学校運営にあたり、特に、管理優先となりがちな学生指導において、学生の自主性を尊重し、学生の目の高さで学生に接し、本校伝統の明るい学生生活をさらに発展させた功績が大である。また、近隣高等学校との定期的な情報交換会を発足させ、学生指導の地域協力にも貢献した。

(出典 2004年度教職員顕彰通知)

資料3-1-④-8 (2/2)

教職員顕彰結果通知2

平成18年3月31日

教職員各位

校長 河上 恭雄

平成17年度木更津高専教職員顕彰者について

このことについて、「木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則」に基づき選考を行ない、本校における教育、研究、学校運営及び地域連携活動において顕著な功績を上げた者として、本年度は下記の者を表彰しましたのでお知らせします。

記

表彰者氏名	所 属	表彰分野	表 彰 理 由
角田 幸紀	電子制御工学科	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育改革が進む中、教務主事（副校長）として学校運営に尽力し、専攻科設置、校舎新営・改築の計画と実施、独立行政法人への移行、JABEE 認定対応など本校の発展に多大な貢献をした。 ・国際的教育の面において、海外で教育指導を行い、指導国から研修生を受け入れるなど、海外の工学教育発展に尽力、本校の国際交流に貢献した。
黒川 章二	環境都市工学科	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・JABEE 認定（・認証評価）推進委員長に就任。平成17年度 JABEE 認定審査において良好な審査結果を得るなど本校の運営に多大な貢献をした。 ・寮務主事として学校運営及び学生の生活指導に多大な貢献をした。 ・企業との共同研究を積極的に進め、その成果を学生教育、地域貢献、後進の指導に役立てた。

(出典 2004 年度教職員顕彰通知)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的を達成するために、応募資格や提出書類の内容における年齢、教育、研究、実務等の条件を配慮し、採用を行っている。その結果、均衡のとれた年齢構成となっている。また、女性教員が少ない状況であったが、近年の採用により、教員の性別構成は改善されてきている。教員の博士号取得者は55%である。2005年度は、2名の教員が学位取得に向けて活動しており、時間割調整等を配慮し支援している。外国人教員も4名（非常勤教員）を任用している。また、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に贈られる教職員顕彰を行っている。

以上のような教員組織の構成への配慮、支援、任用状況より、本校では教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が執られていると考える。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

資料3-2-①-1に高等専門学校設置基準を示す。本校における教員採用及び昇任に関する選考方法は、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている(**資料3-2-①-2**)。**資料3-2-①-3**に採用における公募書類を示す。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点において、本校の採用では**資料3-2-①-3**に示すように、応募資格(4)に採用基準を示し、提出書類(5)及び面接において採用の判断を下している。また、研究に関しては提出書類(2)～(4)を求めており、候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

昇任候補者の選考に関しても同様に**資料3-2-①-2**に示されるように明示されている。昇任候補者選考における資料として**資料3-2-①-4**を示す。高専着任後の教育業績は同資料⑤、⑧～⑩及び⑫、⑬欄に明記される。研究業績についても著書論文一覧及び著書論文等の概要を明示する。これらの資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

採用・昇格に関して教育上の能力を評価する詳細なプロセスを含む事例資料は、人事係資料であるため、**現地閲覧資料3**として提示する。

高等専門学校設置基準

(第 11 条) 教授となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者。
- 二 学位規則（昭和 28 年文部省令第九号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者。
- 三 大学（短期大学を含む。以下に同じ。）又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者。
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者。
- 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められた者。
- 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。

(第 12 条) 助教授となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において教授、助手又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者。
- 三 修士の学位又は学位規則 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者。
- 四 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められた者。
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。

(第 13 条) 講師となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第 11 条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
- 二 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者。
- 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。

(第 14 条) 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号を（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。

（出典 高等専門学校設置基準）

木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規

(趣旨)

第1条 本校専任教員の転任、退職又はその他の事由により本校専任教員の採用又は昇任を必要とする場合における採用候補者及び昇任候補者の選考手続きについては、法令又は別に定めるものの他、この内規の定めるところによる。

(教員採用・昇任候補者選考会議)

第2条 校長の諮問に応じて、教員の採用候補者又は昇任候補者の選考について校長に助言するため、教員採用・昇任候補者選考会議（以下「選考会議」という。）を置く。選考会議は、校長、教務主事、学科・学系主任をもって構成し、校長が主宰する。

(候補者の選考方法)

第3条 校長は、採用候補者選考の事由が生じたときは、あらかじめ、関係学科・学系主任に対し、候補者に係る専門分野、職名、その他の要件の提示を求め、候補者の選考方法について審議するため、選考会議を召集するものとする。

2 前項の審議において、学内での昇任により補充することが可能であると思われる場合には、昇任候補者に係る次の各号に掲げる書類を当該学科・学系主任から提出させ、選考会議で選考し、校長が昇任者を決定する。

- (1) 昇任候補者推薦書
- (2) 教員選考個人調書
- (3) 著書・論文等一覧
- (4) 著書・論文等の概要

3 前2項の審議において、公募による候補者の選考を行うこととした場合は、選考会議において公募要件を決定し公募を行う。この場合、広く各方面から人材を求めることを原則とする。なお、本校の専任教員は、学科・学系主任を通して、候補者を推薦することができるものとする。

(1) 候補者の選考は、所定の期限までに推薦された候補者について、選考会議で公募要件に定めた書類による一次審査を行う。この場合、候補者が少数である場合等については、一次審査を省略することができるものとする。

(2) 一次審査後、校長、教務主事、当該学科・学系主任及び校長が必要と認めた者による面接を行い、この面接結果を基に選考会議で候補者を選考し、校長が採用者を決定する。

(転任又は退職の申出)

第4条 この内規の実施を円滑に行うため、本校の専任教員は自己の都合で転任又は退職をしようとする場合は、あらかじめ6ヵ月前までに校長に申し出ることを原則とする。

附 則

この内規は、昭和57年10月28日から施行する。

附 則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 369 頁)

資料3-2-①-3

教員公募資料

木高専庶発第11号
平成17年5月16日関係大学長・学部長
関係機関長 殿木更津工業高等専門学校長
河上 恭雄(公印省略)

教員の公募について(依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 採用職名・人員 助手1名
 2. 所 属 機械工学科
 3. 専門分野 材料・加工関連分野
 4. 担当科目 機械工学実験等
 5. 応募資格 (1)年齢40歳以上50歳以下の者(平成17年10月1日現在)
(2)博士の学位を有する者または採用時までに博士の学位を取得見込みの者
(3)5年以上の企業勤務経験のある者
(4)高専の教育、研究に情熱をもち、学生指導にも理解と熱意のある者
 6. 採用予定日 平成17年10月1日
 7. 提出書類 (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆、写真貼付)
(2)教育研究業績書(著書、論文、特許、報告等で指定様式または様式任意)
(3)著書・論文等の別刷(コピー可、主要なもの3編程度)
(4)研究業績概要(A4版、2000字程度、様式任意)
(5)教育、研究および学生指導に対する抱負(A4版、2000字程度、様式任意)
(6)推薦書(推薦者の氏名、所属と応募者との関係を記載)
 8. 選考方法 第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接)
- ※面接に関わる旅費等は、応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成17年6月30日(必着)
 10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1
木更津工業高等専門学校長 宛
※1 封筒の表に「機械工学科教員応募書類在中」と朱書し、「簡易書留」で送付のこと。
※2 原則として、提出された書類等の返却はいたしません。
 11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」
～省略～
「その他事務的なこと」
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3-2-①-4 (1/3)

採用・昇任選考資料

教員選考個人調書

〒

採用・昇任の別	昇任	学 科	
		学 系 名	
①ふりがな 氏 名	男・女 (昭和 年 月 日生 歳)	現住所	
採用又は昇任後の 職名(学科名等)	② ()	④ 発令希望年月日	平成 年 月 日
現職(学科名等)	③ ()		
⑤ 担当授業科目名	採用昇任後担当 科 目	⑥ 最終学歴 高専・短大・大卒以後	平成 年 月
	現在担当科目	⑦ 学位・称号	
⑧ 教歴及び職歴の概要	(常勤) 年 月~ 年 月 (年)	⑨ 資格免許状	
		⑩ 教歴及び 職歴の年数	教歴 年 月() 職歴 年 月()
		計	年 月()
⑪ 過去の選考等の状況	昭和 年 月 日 ()		
⑫ 高等専門学校における 主事・主事補歴	平成 年 月~平成 年 月 (年)		
⑬ 上記以外の高等専門 学校における学生指 導歴等	昭和 年 月~平成 年 月 (年)		

「学科・学系名

」(氏名

)

資料3-2-①-4 (2/3)

著書・論文等一覧

整理 番号	発表年月日	発表課題名	学科系名	申請職名	単著・共 著の別	使用の 有無	備考
			氏 名				

年代順に記載し、特に重要なもの5編以上「概要」を添付し、番号に○を付すこと。

資料3-2-①-4 (3/3)

著書・論文等の概要

		学科名		申請職名	
		氏名			
整理番号	発表年月日	発表課題名	発表学会誌名等	単著・共著の別 共著者名，分担部分等	

(800字程度で記載のこと)

(出典 庶務課人事係書類)

(分析結果とその根拠理由)

本校における教員採用及び昇任に関しては、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点については、本校では応募資格や提出書類、面接により採用の判断を下している。研究に関しても判断基準となる提出書類を求めている。昇任候補者の選考に関しても同様に内規に明示されている。高専着任後の教育業績及び研究業績について明示された資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

以上のことから、本校における採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められており、かつ、適切に運用されている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、2004年度より教職員顕彰を行っている。これは、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に対して行われるものである(資料3-1-④-6, 資料3-1-④-7)。2004年度に学生指導にかかわる学校運営の業績を、2005年度には教育改善にかかわる学校運営の業績を顕彰した(資料3-1-④-8)。

この顕彰制度に関して、現在改正が検討されている。ファカルティデベロップメント推進委員会の主導で行っている授業評価アンケート(資料3-2-②-1, 資料3-2-②-2)の結果に対する教員の自己採点評価及び公開された授業評価アンケートに基づき、校長が教職員顕彰の対象者を決定する方向で、改正案が検討されている(資料3-2-②-3)。

授業担当者の手引きについての連絡資料

-----Original Message-----

From: OZAWA Kenji [mailto:■■■■@■■■■■■■■.jp]
Sent: Wednesday, January 05, 2005 1:39 AM
To: H16-木更津高専全教員
Subject: H17 授業担当者の手引等の送付(添付ファイルあり)

平成17年1月5日

授業担当者各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員
小澤健志

『授業担当者の手引ー平成17年度版ー』等の送付について

このたび、教務委員会、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会、JABEE認定推進委員会の3委員会の承認等を得られましたので、『授業担当者の手引ー平成17年度版ー』等につき、以下の通り配布いたします。

なお、詳細につきましては各文書に記載してありますので、シラバスの作成等につき、よろしくお願い申し上げます。

1. 同メールの添付ファイルは以下の3件になりますが、各利用方法等については、それぞれのファイル中の説明をご覧ください。

- (1) H17 授業担当者の手引 H170104. pdf
- (2) H17 シラバス雛形等 H170104. doc
- (3) 保存資料各項目表紙 H170104. pdf

※ 平成15および16年度分についても当表紙をご使用願います。

2. 先生方の庶務課前のポストに『授業担当者の手引ー平成17年度版ー』を冊子状に作成したものを配布いたしましたが、これは「H17 授業担当者の手引 H170104. pdf」と同一内容になります。
3. 非常勤講師を予定されている先生方への配布のため、前項の『授業担当者の手引ー平成17年度版ー』を学生課教務係に準備いたしましたので、必要に応じ、ご利用ください。

以上ですが、よろしくお願い申し上げます。

～中略～

(出典 FD推進委員会メール)

授業担当者の手引き

平成17年1月4日作成

授業担当者の手引

—平成17年度版—

木更津工業高等専門学校 教務委員会
ファカルティ・デベロップメント推進委員会
JABEE認定推進委員会

連絡事項

1. 平成17年度の「教育課程表」に掲載される「特別体育」および「特別学修」を含む全ての授業科目について、この手引に基づき「シラバス」の作成を行ってください。なお、シラバスの提出期限等については、以下のようになります。
※ 当手引においては、「生産システム工学」教育プログラム」のことを単に「プログラム」として示すことがあります。

提出期限：平成17年1月28日(金)17時

提出先：(1) プログラム関連科目(4年以上)：各学科学系のJABEE認定推進委員
(2) 上記以外の科目(3年以下)：各学科学系の教務委員

- ※ 担当者が決定していない非常勤講師担当の授業についても、「担当教員」等の欄を「(非常勤講師)」等とするだけで、他の項目については通常のシラバスと同様に作成してください。
2. 当手引は以下の項目から構成されておりますので、シラバス作成から事後シラバス等作成までの授業を担当される全期間においてご参照ください。なお、必要に応じ「追加情報」等が出されることもありますので、その時には当手引に付加しておいてください。
I 授業をご担当されるにあたり……………1 ページ
II シラバスの作成……………1-8 ページ
III 「学生による授業評価アンケート」の実施……………9-13 ページ
IV 中間試験および定期試験の実施……………14-16 ページ
V 「授業実施記録」の作成……………17-20 ページ
「特別学修」について……………21-22 ページ
非常勤講師の先生方への文章等の配布方法について……………23 ページ

～中略～

Ⅲ 「学生による授業評価アンケート」の実施

各科目において、以下の要領等で「学生による授業評価アンケート」を実施して頂くこととなりますので、よろしくお願いたします。

なお、実施時期が近づきましたら、「アンケート実施要領」により、改めて詳細について説明させていただきます。

1. 目的

学生による授業評価を受け、その後の授業方法等の改善に資するため。

2. 実施者

全授業担当者(助手を含む全専任教員と全非常勤講師)

3. 対象となる授業

「特別学修」等の一般的な形態と異なる授業を除く全授業科目

4. 実施時期

前期科目：前期中間試験終了後二週間程度以内

後期科目：後期中間試験終了後二週間程度以内

通年科目：前期中間試験終了後二週間程度以内

※ 受講学生への速やかなフィードバックが可能なこれらの時期での実施をお願いいたします。

※ 上記期間以外でのアンケートの実施も推奨されます(「中間で実施－フィードバック－期末で実施－改善状況の検証」等)。

5. 実施手順

(1) 各科目の特性等により、以下の4種類のうちのいずれの種類のアンケートを実施するかを決定してください。なお、アンケート形式等の詳細については「8. 補足：アンケートの特質」および後掲の例をご参照ください。

ア) マークシートによる網羅的なもの

イ) 記述式アンケート(既設10設問)

ウ) 記述式アンケート(既設3設問+7自由設問)

エ) 授業担当教員作成のオリジナル形式

(2) アンケート用紙等は、実施時期が近づきましたら学生課教務係に準備いたしますので、必要部数をお取りになり、実施してください。なお、マークシートの場合は、以下のものが別途必要になります(記述式アンケートの場合は、別途必要になるものではありません)。

ア) 「学生による授業評価アンケート収納封筒」(兼「アンケート実施報告票」)

※ 当封筒の裏に実施方法の詳細が示されています。また、当封筒は「実施報～以下省略～

(出典 授業担当者の手引き)

資料3-2-②-3

第7回 JABEE 認定・認証評価推進委員会 (JABEE 部門) 議事要旨

1. 日 時 平成18年5月9日(火) 15:20~16:25
2. 場 所 コミュニティールームG
3. 出席者 鴫田委員長, 岡本(E)委員(主査), 加藤委員, 内田委員, 齋藤委員, 大坪庶務係長

4. 議 事

～中略～

3) 教育貢献度評価(内田, 齋藤委員担当)

他高専の教員の評価方法としては, ①教員による自己採点評価, ②学生による教員の評価が行われていることから上記2点について審議した。

①について

本校でも自己採点評価を今年度から行う。

②について

現在, 各教員が行っている授業評価アンケートを公開する。

上記の件を教務委員会に依頼することとなった。また, 教員顕彰の対象者は校長が各教員の自己採点評価および公開された授業評価アンケートを基に決定するシステムとする。

～以下省略～

(出典 2006年度第7回 JABEE 認定・認証評価推進委員会(JABEE 部門)議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

本校では, 2004年度より教職員顕彰を行っている。これは, 教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に対して行われるものである。2004年～2005年度には4名の教員の業績が顕彰された。

この顕彰制度に関して, 授業評価アンケートの結果に対する教員の自己採点評価及び公開された授業評価アンケートに基づき, 校長が教職員顕彰の対象者を決定する方向で, 改正案が検討されている。

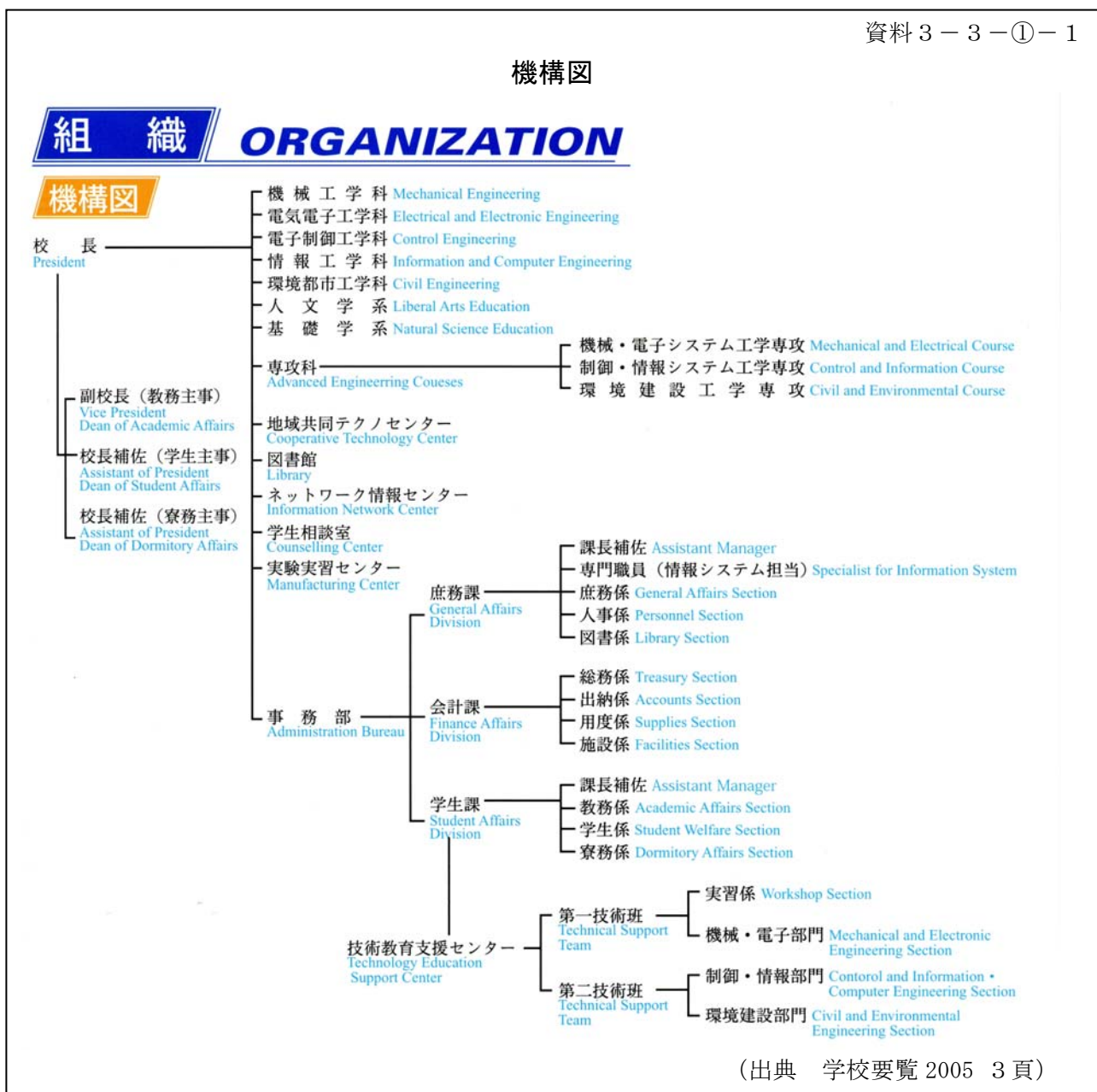
以上のことから, 本校では教員の活動に関する定期的な評価を実施するための体制は整備されているが, 評価体制のさらなる改善を目指して, 現在検討中である。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料3-3-①-1に示した組織内で，主に教育にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係，学生係，寮務係，技術教育支援センターで構成される。これらの事務組織の事務分掌を資料3-3-①-2，3に示す。これらの事務を円滑に行うため，各係長の下に事務職員が配置されている(資料3-3-①-4)。技術教育支援センターはセンター長(学生課長)と副センター長(技術専門員)の下に第1技術班，第2技術班を構成している(資料3-3-①-5)。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し，学科・学系からの依頼(資料3-3-①-6)に応じて技術教育支援を行っている。

資料3-3-①-1



(出典 学校要覧 2005 3頁)

資料 3-3-①-2 (1/3)

木更津工業高等専門学校事務分掌細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、木更津工業高等専門学校事務組織規程（平成 12 年 4 月 1 日規則第 4 号）第 6 条の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務部の課に置く専門員、専門職員及び係の事務分掌について定める。

(庶務課)

第 2 条 庶務課にその事務を分掌させるため、専門職員及び次の 3 係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 人事係
- (3) 図書係

～中略～

6 図書係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の受入れ、整理及び保管等に関すること。
- (2) 図書館資料の収集、選定に関すること。
- (3) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関すること。
- (4) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関すること。
- (5) 図書館資料の寄附受入れに関すること。
- (6) 図書購入費の経理に関すること。
- (7) 図書の契約に関すること。
- (8) 紀要の発行に関すること。
- (9) 図書館の広報に関すること。
- (10) 学術情報システムの構成に係る関連機関との連絡調整に関すること。
- (11) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (12) その他図書館に関すること。

～中略～

(学生課)

第 4 条 学生課にその事務を分掌させるため、専門員（学務担当）及び次の 3 係を置く。

- (1) 教務係
- (2) 学生係
- (3) 寮務係

資料3-3-①-2 (2/3)

- 2 専門員（学務担当）は、次の事務をつかさどるとともに、専門的見地から課長を補佐する。
- (1) 入学者の選抜に関する高度の専門的事項に関すること。
 - (2) 教育課程の編成及び実施に係る高度の専門的事項に関すること。
 - (3) 学生の修学指導に係る高度の専門的事項に関すること。
 - (4) 学生の学籍に係る専門的事項に関すること。
 - (5) 専攻科に係る専門的事項に関すること。
 - (6) その他学務に関する事務のうち、上司の命を受けた事項に関すること。
- 3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生課の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
 - (2) 入学，進級，卒業，その他学生の身分の異動に関すること。
 - (3) 入学者の募集及び選抜に関すること。
 - (4) 入学選抜の広報に関すること。
 - (5) 教育課程の編成及び実施に関すること。
 - (6) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
 - (7) 授業及び試験に関すること。
 - (8) 学生の出席等に関すること。
 - (9) 学生の大学編入等に関すること。
 - (10) 学外実習に関すること。
 - (11) 教科書及び教材に関すること。
 - (12) 外国人留学生の受入れに関すること。
 - (13) 学生の身分，学業成績及び卒業等の諸証明に関すること。
 - (14) 研究生，科目等履修生に関すること。
 - (15) 学生課に属する公印の管守に関すること。
 - (16) ネットワーク情報センターの事務に関すること。
 - (17) スペース・コラボレーション・システムの管理運営に関すること。
 - (18) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
 - (19) その他学生課の所掌で他の係に属さない事務に関すること。
- 4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の奨学に関すること。
 - (2) 学生の入学料・授業料免除及び徴収猶予に関すること。
 - (3) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
 - (4) 学生の健康管理及び安全保持に関すること。
 - (5) 学生の就職斡旋に関すること。
 - (6) 学生の課外活動及び行事に関すること。
 - (7) 学友会，その他の学生団体に関すること。
 - (8) 学生の集会，刊行物及び掲示に関すること。
 - (9) 学生の施設及び設備の使用に関すること。

資料 3-3-①-2 (3/3)

- (10) 学生のカウンセリングに関すること。
- (11) 外国人留学生の生活指導に関すること。
- (12) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
- (13) 日本スポーツ振興センターの災害給付に関すること。
- (14) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (15) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (16) 学生便覧に関すること。
- (17) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (18) その他学生の厚生補導に関すること。

5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関すること。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (3) 寮生の厚生補導に関すること。
- (4) 寮生の栄養管理及び保健衛生に関すること。
- (5) 寄宿料の免除に関すること。
- (6) 寮友会に関すること。
- (7) 外国人留学生の寮生活に関すること。
- (8) 教官の学寮宿日直に関すること。
- (9) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他学生寮に関すること。

附 則

この細則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 213～217 頁)

木更津工業高等専門学校技術教育支援センター規程

(設置)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本校技術職員の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営を図るとともにその能力及び資質の向上を図り、もって学生の実験・実習、卒業研究及び教員の教育・研究を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 センターに、次の班を置く。

- (1) 第一技術班
- (2) 第二技術班
- 2 第一技術班に次の係、部門を置く。
 - (1) 実習係
 - (2) 機械・電子部門
- 3 第二技術班に次の部門を置く。
 - (1) 制御・情報部門
 - (2) 環境建設部門
- 4 センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は学生課長をもって充て、副センター長は技術専門員の中から充てる。
- 5 センター長は組織を統括し、副センター長はセンター長を補佐する。
- 6 第1項から第3項に定める班及び部門にそれぞれ班長及び部門リーダーを置き、技術専門員及び技術専門職員の中から充てる。

～中略～

(業務)

第6条 センターは次の業務を行う。

- (1) 学生の実習の支援に関すること。
- (2) 卒業研究、実験の支援に関すること。
- (3) 学生の課外活動の支援に関すること。
- (4) 公開講座等学外者を対象とした技術教育の支援に関すること。
- (5) 民間企業との共同研究、技術援助の支援及び技術相談に関すること。
- (6) 施設設備及び機械器具等の使用、維持管理に関すること。
- (7) 実験・実習装置等の製作に関すること。
- (8) その他教育・研究の支援に必要なこと。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は運営委員会の議を経て校長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成10年10月1日から施行する。
- 2 第5条第2号、第5号及び第7号の規定により最初に選出された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

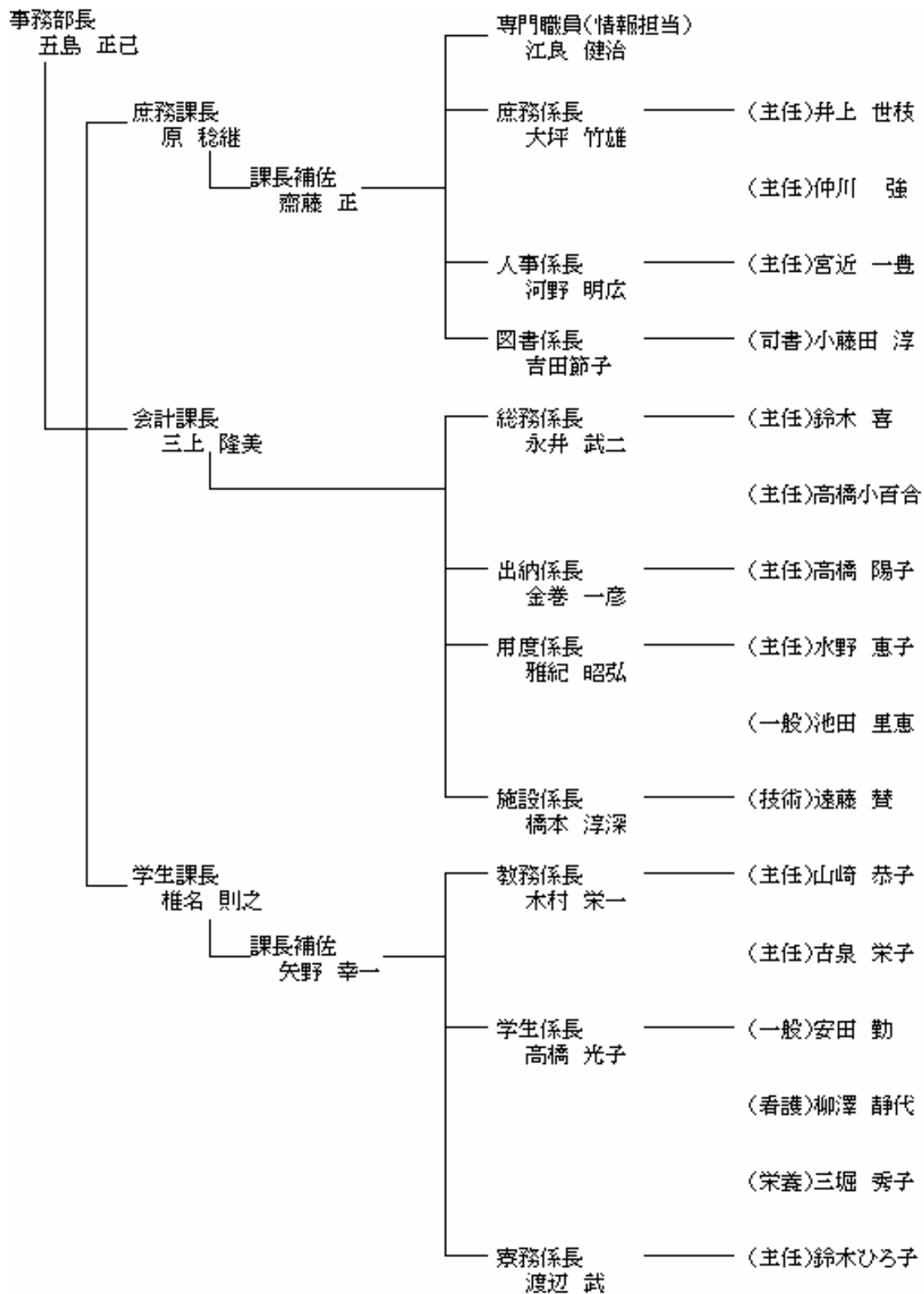
附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 241 頁)

資料 3 - 3 - ① - 4

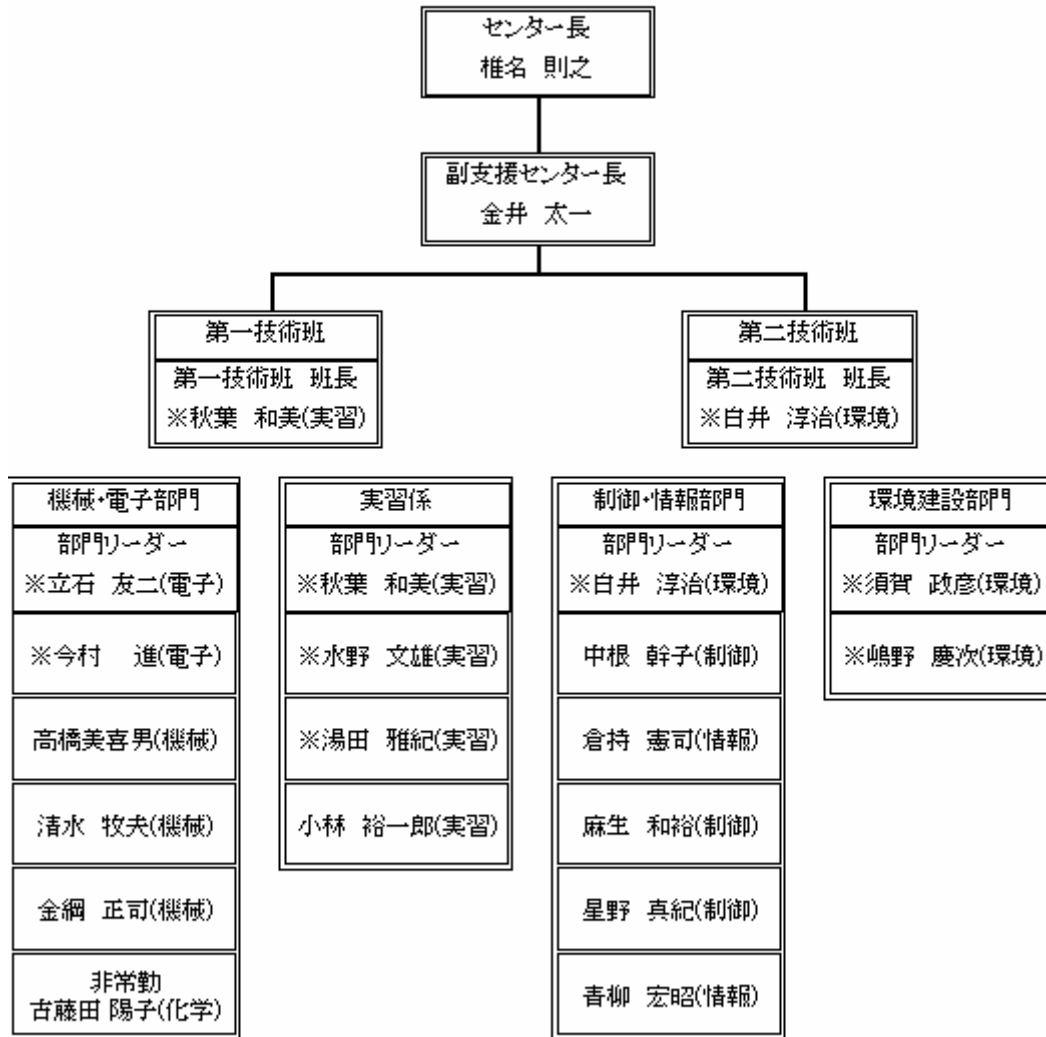
事務組織図



(出典 庶務課人事係資料)

技術教育支援センター組織図

技術教育支援センター組織図



※技術専門職員
()内は担当分野の略称

(出典 技術教育支援センター年報第 5 号 100 頁)

資料3-3-①-6

技術教育支援センターへの支援依頼票

支援依頼票

平成 年 月 日

技術教育支援センター長 殿

受付番号	学科名(課名)			
	学科主任等(課長名)		印	
	担当教官等(実施責任者)		印	
(連絡先 内線:)				
授業支援	平成 年度	<input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
	授業名			
	授業日	毎週	曜日	限
	教室名			
	授業開始前の打ち合わせ等	<input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要:平成 年 月 日 時 ~ 時	計	h
準備・後片付に要する時間	授業前 h	授業後 h	計	h
支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)			
研究支援等 その他 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 共同研究(外) <input type="checkbox"/> 共同研究(内) <input type="checkbox"/> 受託試験 <input type="checkbox"/> 学校行事 <input type="checkbox"/> 実験室等管理 <input type="checkbox"/> 学科等行事 <input type="checkbox"/> 学科事務 <input type="checkbox"/> その他	事業名			
	実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
		定期	毎週	曜日
		不定期	h/d	
実施場所				
支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)			
上記業務に必要な人数及び技能等	必要人数	必要な技能等		
	人			
特に指名する職員があるときはその職員名				

(出典 技術教育支援依頼票)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係、学生係、寮務係、技術教育支援センターで構成される。これら組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校規則集事務分掌細則及び技術教育支援センター規程に明示されている。図書係2名、教務係・学生係各3名、寮務係2名、技術教育支援センター19名の職員が配置されており、教育活動を円滑にするための支援を行うに十分な人員配置である。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し、学科・学系からの依頼に応じて実験・実習等の技術教育支援を行っている。

以上のことから、本校では教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員が適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

観点3-1-①～③において述べたとおり、専門5学科の専任教員における学位取得率は60%であり、教育目的(2)を達成するために十分な素質を持つ教員構成となっている。また、一般科目を担当する人文・基礎学系でも学位取得率は44%であるのに加え、多くの教育職歴の豊富な教員で構成されている。また、職務経験だけではなく年齢等の全体の教員構成も均衡のとれた配置となっている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準3の自己評価の概要

本校は1学年5学級であり、25人の一般科目専任教員が配置されており、設置基準を満たしている。本校の教育目的を達成するため、一般科目の担当教員を専門性や教育歴を考慮して適切に配置している。

専門の専任教員数は52名(助手8名を含む)であり、高等専門学校設置基準を満たした適切な教員配置がなされている。教育目的(科学技術の修得：準学士課程、科学技術の修得と応用：専攻科課程)の達成には、教員の専門性が重要である。担当教員の学位取得の状況から、専門科目を教授する資質は明らかであり、本校の教育目的を達成するために必要な専門科目と担当教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置となっている。

専攻科科目の担当教員は、全て専任教員である。専任教員の学位取得の状況から、専攻科の科目内容を教授する資質は十分に示されている。よって、教育目的を達成するために必要な専門科目と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置になっている。

本校では教育目的を達成するために、応募資格や提出書類の内容における年齢、教育、研究、実務等の条件を考慮し、採用を行っている。その結果、均衡のとれた教員構成となっている。このような教員構成への配慮、支援、任用状況より、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置がとられている。

教員採用及び昇任の選考方法に関しては、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。教育上の能力・研究業績という点については、応募資格や

提出書類，面接により判断している。また昇任においては，高専着任後の教育・研究業績が明示された資料を基に候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。よって，採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められ，適切に運用されていると考える。

2004年度より教職員顕彰を行っている。これは，教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に行われている。この様に本校では教員の活動に関する定期的な評価を実施するための体制は整備されているが，評価体制のさらなる改善を目指して，現在検討中である。

教育活動にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係，学生係，寮務係，技術教育支援センターで構成される。これらの事務組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校事務組織規程に明示されている。これら事務において総計29名の職員が配置されており，教育活動の支援のために適切に配置されている。

基準 4 学生の受け入れ

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到に係わる状況）

木更津高専におけるアドミッション・ポリシーは準学士課程と専攻科課程ごとに明文化されており、将来の学生に対する周知を目的とし、「入学者募集要項」（資料 4-1-①-1）と「専攻科学生募集要項」（資料 4-1-①-2）に記載されている。また、本校のホームページにも掲載されており、学内外に公開されている（資料 4-1-①-3）、（資料 4-1-①-4）。4 学年編入学についても平成 19 年度の「編入学生募集要項」から準学士課程のアドミッション・ポリシーを記載することが決まっている。この他、千葉県内の中学校訪問（資料 4-1-①-5）、各地区で開催される学校説明会（資料 4-1-①-6）において、冊子「進学志望の手引」や「入学者選抜に関する資料」を配布して、説明を行っている（資料 4-1-①-7）。

本校の教員と技術職員に対してアドミッション・ポリシーの認知の度合いを測るため、アンケートを行った（資料 4-1-①-8）。

資料 4-1-①-1

準学士課程のアドミッション・ポリシー（募集要項）

本科のアドミッション・ポリシー

木更津高専では、このようなあなたを求めています。

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術に興味・関心のある人
2. 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けたい人
3. 将来、指導的立場に立つ技術者になりたい人

※アドミッション・ポリシー…入学者選抜の基本的な考え方

（出典 平成 18 年度 入学者募集要項）

資料 4 - 1 - ① - 2

専攻科課程のアドミッション・ポリシー（募集要項）

専攻科のアドミッション・ポリシー

木更津高専専攻科では、次のような資質や意欲を持った人を求めています。

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人
3. 将来、より高度な技術課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して社会に貢献する意欲を持った人

（出典 平成 18 年度 専攻科学生募集要項）

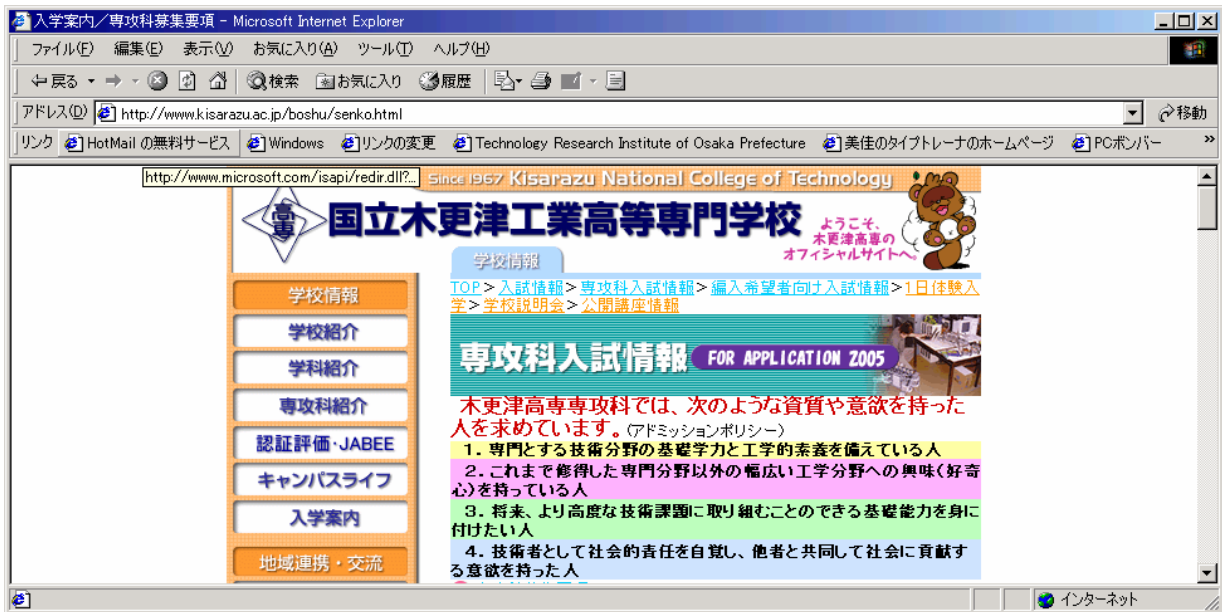
資料 4 - 1 - ① - 3

準学士課程のアドミッション・ポリシー（本校ウェブページ）

The screenshot shows a web browser window displaying the admission page for the college. The page features a navigation menu on the left with items like '学校情報', '学校紹介', '学科紹介', '専攻科紹介', '認証評価・JABEE', 'キャンパスライフ', and '入学案内'. The main content area includes a header with the college's name and logo, followed by a '学校情報' section with a breadcrumb trail: 'TOP > 入試情報 > 専攻科入試情報 > 編入希望者向け入試情報 > 1日体験入学 > 学校説明会 > 公開講座情報'. A prominent '入試情報 FOR APPLICATION 2005' banner is present, with a sub-header stating '木更津高専では、このようなあなたを求めています。 (アドミッション・ポリシー)'. Below this, three numbered criteria are listed: 1. Interest in science/technology, 2. Initiative in learning, and 3. Desire to become a technician.

（出典 <http://www.kisarazu.ac.jp/boshu/info.html>）

専攻科課程のアドミッション・ポリシー（本校ウェブページ）



(出典 <http://www.kisarazu.ac.jp/boshu/senko.html>)

資料 4-1-①-5 (1/2)

中学校訪問実施計画書

平成17年度 中学校訪問実施計画

番号	中学校名	学校所在地	電話番号	担当者
1	花園中学校			平安
	幕張中学校			
	朝日ヶ丘中学校			
2	高洲第1中学校			関口
	花見川第1中学校			
	緑ヶ丘中学校			
3	小中台中学校			大橋
	稲毛中学校			
	草野中学校			
4	千葉大学教育学部付属			高橋C
	みつわ台中学校			
	幸町第1中学校			
5	菅田中学校			栗本
	泉谷中学校			
	白井中学校			
6	土気南中学校			鬼塚
	蘇我中学校			
	生涯中学校			
7	松ヶ丘中学校	山下		
	椿森中学校			
	飯山満中学校			
8	大穴中学校	上村		
	妙典中学校			
	習志野第1中学校			
9	習志野第7中学校	板垣		
	八千代中学校			
	睦中学校			
10	六実中学校	橘川		
	根本内中学校			
	湖北中学校			
11	白山中学校	坂田		
	井野中学校			
	佐倉東中学校			
12	白井南中学校	岡本E		
	四街道西中学校			
	酒々井中学校			
13	富里中学校	天摩		
	南山中学校			
	栄中学校			
14	栄東中学校	東		
	神崎中学校			
	東金中学校			
15	東金西中学校	佐藤		
	東金北中学校			
	大網中学校			
16	白里中学校	佐藤		
	増穂中学校			
	九十九里中学校			
17	南中学校	内田		
	早野中学校			
	茂原中学校			
18	東中学校	田村		
	本納中学校			
	西陵中学校			
19	富士見中学校	内田		
	南総中学校			
	ちはら台南中学校			
20	市東中学校	田村		
	辰巳台中学校			
	湊津中学校			
21	菊間中学校	田村		
	八幡中学校			
	八幡東中学校			
若葉中学校				

資料 4-1-①-5 (2/2)

19	五井中学校		大 木
	国分寺台中学校		
	国分寺台西中学校		
	東海中学校		
20	三和中学校		室 井
	双葉中学校		
	市原中学校		
	加茂中学校		
21	千種中学校		大 塚
	姉崎中学校		
	有秋中学校		
	姉崎東中学校		
22	昭和中学校		鎌 田
	長浦中学校		
	蔵波中学校		
	根形中学校		
23	岩根中学校		高 上 岡本D
	金田中学校		
	岩根西中学校		
	中郷中学校		
24	木更津第一中学校		荒 木
	木更津第二中学校		
	木更津第三中学校		
	太田中学校		
25	清川中学校		石川E
	鎌足中学校		
	波岡中学校		
	畑沢中学校		
26	周西中学校		黒 田
	周西南中学校		
	君津中学校		
	富津中学校		
27	八重原中学校		鈴木M
	固南中学校		
	小糸中学校		
	清和中学校		
28	平川中学校	鷗 田	
	富来田中学校		
	久留里中学校		
	小櫃中学校		
29	亀山中学校	大 澤	
	松丘中学校		
	大多喜中学校		
	大多喜西中学校		
30	国吉中学校	石 井	
	御宿中学校		
	大原中学校		
	柳中学校		
31	大塚中学校	斉 藤	
	佐賀中学校		
	天羽中学校		
	天羽東中学校		
32	富浦中学校	五十嵐	
	富山中学校		
	鯉南中学校		
33	館山第1中学校	熊 谷	
	館山第2中学校		
	館山第3中学校		
	房南中学校		

合計 123校

(出典 学生課資料)

資料4-1-①-6

学校説明会報告書

平成17年度 学校説明会等実施報告

平成17年11月 1日

学校説明会

年月日	場 所	出 席 者				
		17年度	16年度	15年度	14年度	13年度
7月17日(日)	市川・現代産業科学館	31名	17名	10名	8名	10名
7月28日(木)	佐原市中央公民館	11名	5名	4名	5名	2名
8月 1日(月)	東葛テクノプラザ	25名	38名	13名	14名	21名
8月 2日(火)	茂原市駅前学習プラザ	8名	5名	7名	13名	22名
8月 3日(水)	南総文化ホール	5名	4名	3名	8名	9名
8月 3日(水)	成田市中央公民館	20名	22名	11名	33名	23名
8月 4日(木)	銚子市公正市民館	11名	9名	7名	6名	3名
8月 5日(金)	千葉市教育会館	34名	24名	28名	36名	17名
10月 2日(日)	木更津高専(生徒・保護者)	248名	158名	255名	230名	226名
10月 3日(月)	木更津高専(教諭)	16名	9名	20名	29名	29名
	合 計	409名	291名	358名	382名	362名

首都圏進学フェア

年月日	場 所	出 席 者				
		17年度	16年度	15年度	14年度	13年度
8月20日(土)	幕張メッセ	29名	50名	56名	47名	27名
8月21日(日)	幕張メッセ	30名				
10月 2日(日)	柏	14名	松戸20名			
10月30日(日)	木更津市民会館	25名	26名	36名		
	合 計	98名	96名	92名	47名	27名

その他の説明会

年月日	場 所	出 席 者				
		17年度	16年度	15年度	14年度	13年度
9月18日(日)	船橋(学習塾)	43名				
10月 4日(月)	君津地方公立高校合同説明会	80名	80名	80名	80名	80名
10月14日(金)	市原市私立高校等合同説明会	30名	30名	30名	30名	30名
10月25日(月)	進学塾対象説明会	30名	25名	9名	5名	2名
	合 計	183名	135名	119名	115名	112名

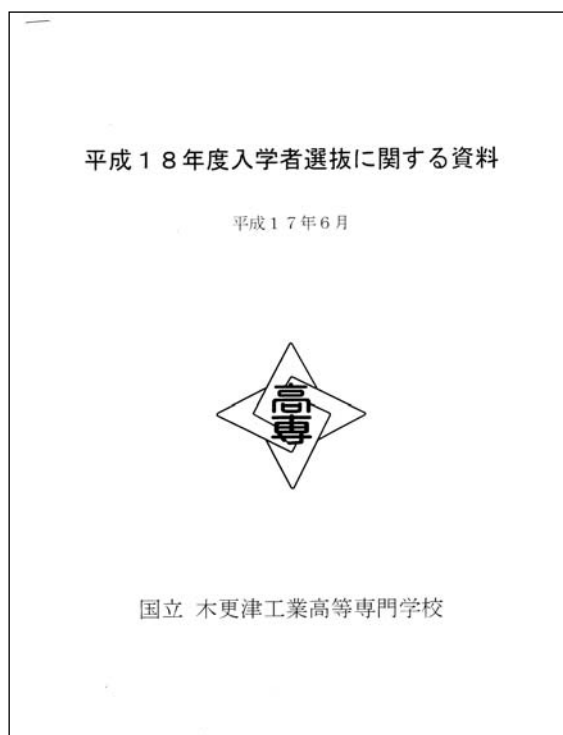
学園祭時入試相談コーナー

年月日	場 所	出 席 者				
		17年度	16年度	15年度	14年度	13年度
10月29日(土)	木更津高専	21組	17組	中止	32組	32組
10月30日(日)	木更津高専	36組	17組	中止	39組	34組
	合 計	57組	34組	中止	71組	66組

(出典 学生課資料)

資料 4 - 1 - ① - 7

「進学志望の手引」や「入学者選抜に関する資料」



(出典 学生課資料, 現地閲覧資料 4, 5)

資料 4-1-①-8

アドミッション・ポリシーの周知を測るアンケート

教員

設問（選択肢）	回答欄
準学士課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか. 1 十分理解している 2 ほぼ理解している 3 少し理解している 4 ほとんど理解していない	
専攻科のアドミッション・ポリシーを理解していますか. 1 十分理解している 2 ほぼ理解している 3 少し理解している 4 ほとんど理解していない	

設問	1	2	3	4
準学士課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか.	26	29	14	2
専攻科のアドミッション・ポリシーを理解していますか.	24	34	11	2

(計 71 名)

技術職員

設問（選択肢）	回答欄
準学士課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか. 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
専攻科のアドミッション・ポリシーを知っていますか. 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	

設問	1	2	3	4
準学士課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか.	14	4	1	0
専攻科のアドミッション・ポリシーを知っていますか.	13	5	1	0

(計 19 名)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程と専攻科課程ごとにアドミッション・ポリシーが明文化されており、募集要項とウェブページにより学内外に公開されている。4 学年編入に関しても平成 19 年度の募集要項から準学士課程のアドミッション・ポリシーが記載されることが決まっている。また、準学士課程のアドミッション・ポリシーは難しい表現を使うのを避け、中学生にも理解しやすい内容になっている。他にも千葉県内の中学校への訪問、各地区で開催する学校説明会によってアドミッション・ポリシーの周知に努めている。

教員に対するアンケート結果は回答者数 71 名に対して準学士課程のアドミッション・ポリシーを十分若しくはほぼ理解していると回答した者が 55 名 (77%)、専攻科課程のアドミッション・ポリシーに関しては 58 名 (82%)、多数の教員が認知しているといった結果が得られた。技術職員に対するアンケート結果は回答者数 19 名に対して準学士課程のアドミッション・ポリシーをよく知っているもしくは、だいたい知っていると回答した者が 18 名 (95%)、専攻科課程のアドミッション・ポリシーに関しても 18 名 (95%)、ほとんどの技術職員が認知しているといった結果が得られた。

観点 4-2-①： アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係わる状況)

準学士課程の入学者選抜の方針はアドミッション・ポリシーに沿って各学科での勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針であり、資料 4-2-①-1 に示す選抜基準に基づいて行われている。「推薦入学者選抜」は学力試験を免除し、調査書における内申点のうち主要 5 教科 (国・社・数・理・英) の配点を 2 倍にする傾斜配点によって学力を判断すると共に調査書及び推薦書記載事項に対する質問事項を含む面接並びに作文の評価によって適性を評価している。「一般入学者選抜」は主要 5 教科 (国・社・数・理・英) について学力検査を行い、その内の数学、理科、英語の得点を 2 倍にする傾斜配点によって理数系科目が得意な人物を選抜している。

4 学年への編入学選抜の方針は、高等学校を修了もしくは修了見込みの者に対して本校の各学科での勉学に支障のない学力と目的意識、意欲を十分備えた人物を選抜する方針であり、資料 4-2-①-2 に示す選抜基準に基づいて学力試験並びに面接の結果から選抜している。学力試験においては、数学、理科、英語及び専門科目について本校の準学士課程 3 年次までに修得しておくべき内容を考慮した試験範囲となっている。

専攻科課程の入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿って各専攻での勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針であり、資料 4-2-①-3 に示す選抜基準に基づいて行われている。「推薦入学者選抜」は目的意識、意欲と共に学力を評価するため、専門科目に関する口頭試問を含む面接を行っている。「一般入学者選抜」では専門とする技術分野の基礎学力を備えた人物を選抜するため、専攻ごとに専門に関する試験問題を作成し学力試験を行っている。

平成 18 年度の入学選抜方法について (準学士課程)

平成 18 年度の入学者選抜方法について

1. 推薦入学者選抜

①定員 60名 (各学科12名)

②評価方法

調査書・推薦書・面接・作文に基づき、次式により評価点を計算し、上位から合格とします。

評価点(450点) = 内申点(350点) + 適性点(100点)

$$\begin{array}{c} \uparrow \\ \text{内申点(350点)} = \text{主要5教科点(125点)} \times 2 + \text{技能4教科点(100点)} \\ \text{(国・社・数・理・英)} \qquad \qquad \qquad \text{(音・美・体・技)} \end{array}$$

- ・各教科点は、第2学年の5段階評点と第3学年の5段階評点との積です。
- ・適性点は、推薦書記載事項に対する質問を含む面接、および作文に関する評価点です。

③推薦基準

5段階評定において、原則として、主要5教科(国・社・数・理・英)の評点の平均が4以上、かつ、技能4教科(音・美・体・技)の評点の平均が3以上である者。

ただし、昨年度の場合、上記内申点の合格最低点(ボーダーライン)は約285点でした。

これは、主要5教科の評点が4.5、技能4教科の評点が4.5の場合にほぼ相当します。

(主要5教科がオール4.5、技能4教科がオール4.5の場合)

$$\begin{aligned} & (\text{第2学年評定の}4.5 \times \text{第3学年評定の}4.5) \times \text{主要5教科} \times 2 = 202.5 \text{点} \\ & + (\text{第2学年評定の}4.5 \times \text{第3学年評定の}4.5) \times \text{技能4教科} = 81.0 \text{点} \\ & \text{内申点のボーダーライン} = 283.5 \text{点} \end{aligned}$$

④推薦方法

千葉県の県立高等学校では「自己推薦」による特色化選抜制度が導入されていますが、本校では従来どおり「在籍中学校の校長推薦」とします。

2. 一般入学者選抜

①定員 本校第一志望者 140名 (各学科28名)

本校第二志望者 若干名 (④参照)

- ・本校第一志望の合格内定者は、公立高校の合格発表日より前に、原則として本人が来校して入学確約書を提出しなければなりません。
- ・本校第二志望者には、第二次選抜(面接)の対象者の受験番号を中学校長宛に通知します。公立高校の合格発表日の翌日に、対象者に面接を実施して合否を決めます。

②学力検査

入試の学力点は、各科目(国・社・数・理・英)の得点をTスコア(いわゆる偏差値、次ページ参照)に換算した後、数・理・英の3科目を2倍の重みで傾斜配点します。

$$\text{学力点} = \text{国語} + \text{社会} + (\text{数学} + \text{理科} + \text{英語}) \times 2$$

③選抜方法

- ・まず、本校第一志望者について学力点だけにより上位90名を順位付けします。次に、上記90名以外の本校第一志望者について、学力点+内申点(推薦と同じ評価方法)により順位付けします。この順位付けに従い、学科ごとにその学科を第1希望とするものについて上位から順に28名(合計140名)を合格とします。なお、末尾において、第2～3希望学科へのスライド合格の場合があります。

(出典 平成18年度入学者選抜に関する資料 2頁)

4 学年への編入の選抜方法

選考方法

学力試験，調査書，面接の結果を総合して選考する。

1 学力試験科目は、数学（基礎）・英語・理科・数学または各専門科目

試験科目	試験範囲
数 学（基礎）	「数学Ⅰ」・「数学Ⅱ」 「数学A」（確率を除く） 「数学B」のうち，数列，ベクトル（空間におけるベクトルを除く）
英 語	「英語Ⅰ」および「英語Ⅱ」
理 科	「物理Ⅰ」・「化学Ⅰ」・「物理Ⅱ」と「化学Ⅱ」のいずれかを選択
選択科目	
数 学	「数学Ⅲ」（積分法を除く） 「数学B」のうち，ベクトル 「数学C」のうち，行列とその応用
機械工学科	(1)機械に働く力と仕事 (2)材料の強さ (3)歯車 (4)鉄鋼材料 (5)各種の工作法
電気電子工学科	(1)直流回路 (2)電流と磁気 (3)静電気 (4)交流回路
電子制御工学科	(1)力学(力とエネルギー) (2)電気と磁気
情報工学科	(1)電気回路 (2)論理回路 (3)コンピュータの基本構成 (4)数の表現と処理 (5)ソフトウェアの基礎知識 (6)プログラミング技法
環境都市工学科	(1)土木構造物と力 (2)静定構造の計算 (3)静水及び流水の性質

(出典 <http://www.kisarazu.ac.jp/boshu/hennyu.html>)

資料 4 - 2 - ① - 3

平成 18 年度の入学選抜方法について（専攻科課程）

推薦選抜

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）、出身学校長から提出された調査書及び健康診断書の結果を総合して行う。

選抜日時

日 時	科 目	時 間	場 所
平成 17 年 5 月 12 日 (木)	面 接	10:00~	木更津工業高等専門学校

学力選抜

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験の成績、調査書及び面接の結果を総合して行う。

①選抜日時

日 時	科 目	時 間	場 所
前 期 平成 17 年 6 月 3 日 (金)	英 語	9:00~ 9:50	木更津工業高等専門学校
後 期 平成 17 年 11 月 1 日 (火)	数 学	10:00~ 10:50	
	専門科目	11:00~ 12:30	
	面 接	13:30~	

②出題分野（専門科目は 1 専攻を選択する）

試 験 科 目	出 題 分 野	
英 語 注) TOEICの点数による免除 制度あり（下記参照）	実用英検 2 級・工業英検 3 級・TOEIC 400 点・ TOEFL ペーパー版 435 点/CBT 120 点程度 ただし、リスニング試験は行わない	
数 学	微分積分、線形代数	
専 門 科 目	機械・電子システム工学 専攻	材料力学、熱・流体力学、電気磁気学、電気回路 より 2 科目選択
	制御・情報システム工学 専攻	力学、制御工学、電磁気学、電気回路、計算機ハード ウェア、計算機ソフトウェアより 2 科目選択
	環境建設工学専攻	構造力学、水理学、土質力学

注) 学力試験においては、TOEICの点数により英語の学力試験を免除し、TOEICの得点を英語の試験の得点として代替する制度を導入している。この制度の適用を希望する者は、以下の指示に従うこと。

対 象 者：学力選抜試験日より遡って 2 年以内に TOEIC（木更津高専以外で実施の TOEIC IP を含む）を受験し、その点数が 350 点以上の者。

免除の申請：免除の申請は願書提出時に行うものとし、それ以降の申請は認めない。

提出書類等：「Official Score Certificate (TOEIC IP の場合は Score Sheet)」の原本を提出すること（コピーは不可とする）。なお、提出された原本の返却は行わない。

換 算 方 法：TOEIC の得点について、350 点を 60 点に換算し、350 点を超える分の得点については、0.4 を乗じ、小数点以下を切り捨てた上で、60 点に加算する。
なお、加算の上限は 40 点とする（375 点で 70 点、400 点で 80 点、425 点で 90 点、450 点以上で 100 点となる）。

注 意 事 項：免除を申請した場合、英語の学力試験を受けることは認めない。

（出典 平成 18 年度専攻科学生募集要項）

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，4 学年編入学，専攻科課程の各段階の選抜において，アドミッション・ポリシーに基づいた選抜方法が採用されている。

観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係わる状況)

本校における入学者選抜に関連する事項は，教務主事，教務主事補及び各学科・学系の代表者によって構成される入試委員会によって検討されている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかという点についても検証がなされている。平成 17 年度の第 6 回入試委員会では特定科目（特に数学）の低得点入学者の入学後の成績等の追跡調査の報告があり、選抜方法の検討が行われた。（資料 4-2-②-1）。

アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかを測るため，平成 18 年度の新入生に対して資料 4-2-②-2 に示す内容のアンケートを行った。

資料 4-2-②-1

平成 17 年度入試委員会議事要旨（第 6 回）からの抜粋

(3) その他

前回の委員会で追跡調査を行うことになり、調査結果が配布された。

- ・ 特定科目の低得点入学者の入学後の成績
- ・ 推薦不合格者の一般入試での合格率
- ・ 第 2 志望者の割合

(出典 学生課資料)

資料 4-2-②-2

アドミッション・ポリシーの認知度を測るアンケート（平成 18 年度新入生対象）

設問（選択肢）	
本校では数学と理科が得意な学生を入学させていることを知っていますか.	
1 よく知っている	2 知っている
3 あまり知らない	4 全く知らない
中学生のとき理数系科目が得意でしたか.	
1 得意だった	2 わりと得意だった
3 普通だった	4 苦手だった
何かものを作ることが好きですか.	
1 とても好きだ	2 わりと好きだ
3 あまり好きでない	4 嫌いだ

設問	1	2	3	4	5
本校では数学と理科が得意な学生を入学させていることを知っていますか.	68	110	26	2	0
中学生のとき理数系科目が得意でしたか.	85	92	22	7	0
何かものを作ることが好きですか.	100	94	11	1	0

(計 206 名)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかという点については、入試委員会で追跡調査を行う等、選抜方法の検討がなされている。また、「アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学したか」を測るために行ったアンケートの結果を見ると、8割以上の学生は理数系の科目が得意でものづくりに興味があると回答している。これらのことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入ができたと考える。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係わる状況)

平成 17 年度の準学士課程の入学者数は定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない(資料 4-3-①-1)。専攻科課程では募集定員 20 名に対して入学合格者数 33 名であり、実入学者数が募集定員の 1.65 倍となっているが、教職員数に比べて入学定員が 20 名と少ないため、教育・研究に支障はでていない。

資料 4-3-①-1

平成 17 年度入学状況

入 学 状 況 Applicants and Entrants											
本 科 Department						専 攻 科 Advanced Engineering Courses (平成17年度入学生)					
区 分 Classification	機 械 工 学 科 Mechanical Eng.	電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.	電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.	情 報 工 学 科 Informatics Eng.	環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.	計 Total	区 分 Classification	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Mechanical and Electrical Course	制 御・情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Control and Information Course	環 境 建 設 工 学 専 攻 Civil and Environmental Course	計 Total
募 集 定 員 Statutory Number	40	40	40	40	40	200	募 集 定 員 Statutory Number	8	8	4	20
志 願 者 数 Applicants	75(8)	65(7)	65(1)	65(10)	67(13)	337(39)	志 願 者 数 Applicants	20	15(2)	8(5)	43(7)
学 力 試 験 入 学 者	31(1)	31(2)	30	29(4)	30(4)	151(11)	入 学 者 合 計 Entrants	16	12(1)	5(4)	33(5)
推 薦 入 学 者	12(4)	12(4)	12(1)	12(3)	12(5)	60(17)					
入 学 者 合 計 Entrants	43(5)	43(6)	42(1)	41(7)	42(9)	211(28)					
編 入 学 者 (4 年) Transfers	0	0	0	0	0	0					
留 学 生 (3 年) Foreign Students	1	1	0	1	2	5					

(注) () は女子学生を内数で示す。

(出典 2005 学校要覧 28 頁)

(分析結果とその根拠理由)

平成 17 年度の準学士課程の募集定員 200 名に対して志願者数が 337 名であった。最終的に入学者数は 211 名であり、適正な人数である。専攻科課程は、募集定員 20 名に対して志願者数が 43 名であり、最終的に入学者数が 33 名であった。しかし、本校の教職員数に比べて入学定員がもともと少ないため、教育・研究に支障はない。

(2) 優れた点及び改善を有する点

(優れた点)

本校のアドミッション・ポリシーが準学士課程と専攻科課程ごとに定められ、募集要項及びウェブページによって広く社会に公表されている。この他にも、積極的に学校説明会及び中学校訪問を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った学生が集まるよう活動している。

アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するために、準学士課程の学力選抜においては、数学、理科、英語の得点を2倍にする傾斜配点により理数系の得意な学生を選抜している。

入学者選抜に関する事項を検討する入試委員会において、入学者選抜が適切に行われているか検討されており、必要に応じて入試選抜方法の見直しが行われる。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 4 の自己評価書の概要

入学者選抜の基本方針となるアドミッション・ポリシーが準学士課程（4 学年編入学を含む）と専攻科課程ごとに明文化されており、募集要項とウェブページに掲載されている。これにより、本校を志望する学生を含め、広く社会に公表されている。また、学内でのアドミッション・ポリシーの周知の度合いを測るアンケートを行い、良好な結果が得られている。

準学士課程における入学者の選抜には、推薦入学者選抜、一般入学者選抜及び 4 学年編入学者選抜があり、各選抜方法において適切な選抜基準に基づいて学生の受入が行われている。

本校では、入学者選抜に関連する事柄は入試委員会で検討されており、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかといった点についても検証がなされている。この他に、新入学生に対してアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入がなされたかどうかを測るアンケートを行った結果、良好な結果が得られている。

平成 17 年度の準学士課程の実入学者数は定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない。専攻科課程では募集定員に対して実入学合格者数が 1.65 倍となっているが、教職員数に比べて入学定員が少ないため、教育・研究指導に支障はでていない。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到る状況）

本校では5学科とも準学士課程の学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす一般教養と専門科目の学習の基礎となる数学、物理等の基礎科目を低学年に多く配置し、専門科目は高学年になるに従い増えていく配置とし、科学技術の修得が無理なく行える授業科目の配置としている。一般科目の教育課程表を資料5-1-①-1、専門の教育課程表を資料5-1-①-2（機械工学科）、資料5-1-①-3（電気電子工学科）、資料5-1-①-4（電子制御工学科）、資料5-1-①-5（情報工学科）、資料5-1-①-6（環境都市工学科）に示す。

準学士課程の学習・教育目標を達成するための学習・教育目標の各項目と授業科目の流れについて分析したものを資料5-1-①-7示す。また、各学科の授業科目が適切に配置され体系性が保たれていることを示すため、学習・教育目標の細項目に分類した授業科目の流れを資料5-1-①-8（機械工学科）、資料5-1-①-9（電気電子工学科）、資料5-1-①-10（電子制御工学科）、資料5-1-①-11（情報工学科）、資料5-1-①-12（環境都市工学科）に示す。

一般科目の教育課程表

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考					
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	5年前	5年後						
必修	数学演習A	1															同時開講 1単位選択	
	数学演習B	1																
必修	総合英語演習Ⅰ	2															同時開講 2単位選択	
	総合英語演習Ⅱ	2																
必修	総合英語演習Ⅲ	2															同時開講 2単位選択	
	総合英語演習Ⅳ	2																
必修	開設単位数計	20	0	0	0	0	4	8	8	8	8							
	社会学	2																
必修	経済学	2																
	哲学	2																
必修	法学	2																
	国文学特論	1																
必修	英語特論	1																
	数学特論	1																
必修	人類学	1																
	心理学	1																
必修	開設単位数計	13	0	0	0	0	0	4	4	9								
	特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効										[注2]					
必修	本校以外の教育施設における学修												[注3]					
	開設単位数計	105	28	28	25	20	14	18										
必修	特別学修		[26]	[26]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	[22]	
	修得可能単位数	83	28	28	25	17	6	7										

注1 [] は、情報工学科。
 注2 特別学修の内容は別に定める。
 注3 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

本科
一般科目 (1~5年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考					
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	5年前	5年後						
必修	国語Ⅰ	9	3	3	3	2	2	1										
	国語Ⅱ	2	2	2	2	[2]	1											
必修	歴史	2	2	2	2	[0]	1											
	地理	2	2	2	2	[0]	1											
必修	人間社会学	1	1	1	1	1	1											
	社会学	1	1	1	1	1	1											
必修	音楽	1	1	1	1	1	1											
	英語A	6	3	3	2	2	2	2	1	1								
必修	英語B	4	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1						
	英語演習Ⅰ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1						
必修	ドイツ語Ⅰ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1						
	体育	10	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3						
必修	保健体育	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3						
	基礎数学Ⅰ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2						
必修	基礎数学Ⅱ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2						
	基礎数学Ⅲ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
必修	代数学Ⅰ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3						
	幾何Ⅰ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4						
必修	解析Ⅰ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2						
	解析Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
必修	解析Ⅲ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
	科学Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
必修	科学Ⅱ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2						
	物理学Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
必修	物理学Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
	物理学Ⅲ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3						
必修	基礎化学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2						
	化学研究	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
必修	特別体育	1																
	開設単位数計	72	28	28	25	16	16	18										
必修	特別学修		[26]	[26]	[18]	[18]	[18]	[18]	[18]	[18]	[18]	[18]						
	修得可能単位数																	

(出典 学生課資料)

機械工学科の専門の教育課程表

専門科目
(機械工学科・1～4年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	応用数学A	1				1		
	応用数学B	1				1		
	応用物理I	1				1		
	応用物理II	2			1			
	情報処理I	2	2					
	情報処理II	2						
	情報処理III	1			1			
	機械工学概論	1	1					
	機械工学	2				2		
	工業力学I	2		2				
必修	材料力学I	2			2			
	材料力学II	2			2			
	材料科学I	2			1			
	材料科学II	2			2			
	熱力学	1					1	
	伝熱学	2						
	流体工学	2						
	機械工作法I	2			2			
	機械工作法II	2						
	機械工作法III	2						
必修	図学製図I	2			2			
	図学製図II	2						
	設計製図I	2			1			
	設計製図II	2						
	電気回路	1						
	電子回路	1			1			
	自動制御I	1						
	自動制御II	1						
	計測工学	1						
	工学演習I	1						
必修	工学演習II	1						
	工学実習	8	1	2	2	2	1	
	製作実習	6		2	2	1	1	
	電気工学実験	1						1
	卒業研究	1						8
	開設単位数計	70	4	10	17	24	15	

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	センサ工学	1					1	
	マイコン制御	1					1	
	7タグエレクトロニクス	1					1	
必修	設計法II	1					1	
	設計法I	1					1	
	設計法III	1					1	
必修	開設単位数計	8	0	0	0	0	8	
	応用数学C	1					1	
	応用数学D	1					1	
	応用物理学	1					1	
	熱力学	1					1	
	流体力学	1					1	
	機械工学	1					1	
	材料力学	1					1	
	材料科学	1					1	
	熱力学	1					1	
必修	開設単位数計	2				2		
	開設単位数計	14	0	0	0	7	7	
	特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効					
	特別学修		本校以外の教育施設における学修					
	開設単位数計	92	4	10	17	31	30	
	一般科目	83	28	25	17	6	7	
	専門科目	92	4	10	17	31	30	
	合計	175	32	35	34	37	37	

注1 必修選択科目はメカトロコースとデザインコースのどちらから選択し、卒業に必要な単位(167単位)は他コース科目と選択科目から選択し修得すること。
 注2 特別学修の内容は別に定める。
 注3 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

授業科目配当単位数表 (5年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修	応用数学A	1				1		
	応用数学B	1			1			
	応用物理I	1				1		
	応用物理II	2	2					
	情報処理I	2				2		
	情報処理II	2					2	
	情報処理III	2						1
	機械工学概論	1	1					
	機械工学	2				2		
	力学I	2					2	
	力学II	2				2		
選択科目	材料力学I	2					2	
	材料力学II	2				2		
	材料科学I	2					2	
	材料科学II	2					2	
	熱力学	2					2	
	伝熱学	2					2	
	水力学	2					2	
	流体工学	2					2	
	機械工作法I	2					2	
	機械工作法II	2					2	
	設計製図I	2					2	
	設計製図II	2					2	
	電気回路	1					1	
	電子回路	1					1	
	自動制御I	1					1	
目	自動制御II	1					1	
	計測工学	1					1	
	工学演習I	1					1	
	工学演習II	2					2	
	工学実習	2					2	
	製作実習	8					8	
	電気工学実験	6					6	
	卒業研究	1					1	
	開設単位数計	8	4	10	17	24	15	

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修	メカトロ	1					1	
	センサ工学	1						1*
	マイコン回路	1						1
	ロボット工学	1						1
選択科目	設計力学	1					1	
	設計要素	1						1*
開設単位数計	開設単位数計	8	0	0	0	0	8	
	開設単位数計	8	0	0	0	0	8	
選択科目	数学I	1					1	
	数学II	1					1	
	物理	1						1
	機械学	1						1
	機械工学	1						1
	英語	1						1
	英知能I	1						1
	英知能II	1						1
	制御学I	1						1
	制御学II	1						1
	力学	1						1
開設単位数計	2					2		
開設単位数計	14	0	0	0	6	8		
特別学修	特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効					[注2]
	本校以外の教育施設における学修		[注3]					
開設単位数合計	開設単位数合計	92	4	10	17	30	31	
	一般科目	84	28	24	17	6	9	特別学修及び本校以外の教育施設における学修は含まない
	専門科目	91	4	10	17	30	30	
	合計	175	32	34	34	36	39	

注1 必修選択科目はメカトロコースとアゼインコースのどちらかを選択し、卒業に必要な単位(16.7単位)は他コース科目と選択科目から選択し修得すること。
 注2 特別学修の内容は別に定める。
 注3 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

電気電子工学科の専門の教育課程表

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考				
			1年	2年	3年	4年	5年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前		3年後	4年前	4年後	5年前
必修	応用数学 A	1				1											
	応用数学 B	1															
	応用数学 C	1															
	応用物理学 I	1															
	応用物理学 II	1															
選択科目	電気電子工学概論	2				2											
	工学基礎	1															
必修	電気磁気学 I	2															
	電気磁気学 II	2															
	電気回路 I	2															
	電気回路 II	2															
	電気回路 III	2															
	電気計測学	2															
	電気電子工学	2															
	電子デバイス	2															
	電気機器	2															
	電子回路 I	2															
必修	電気制御 I	2															
	電気制御 II	2															
	電気材料	2															
	情報処理	2															
	コンピュータ工学 I	0.5															
	コンピュータ実習	1															
	情報処理演習	1															
	電気電子製図	1															
	電気電子工学実験	1.4															
	機械工学実習	1															
	電気電子工学課題研究	1															
	卒業研究	8															
開設単位数計	6.4	4.5	1.0	17.5	19	17.5	19	13	13								

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考				
			1年	2年	3年	4年	5年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前		3年後	4年前	4年後	5年前
必修	配電工学	2															
	電気設計	1															
必修	電気法規	1															
	電気システム工学	1															
必修	パワーエレクトロニクス	1															
	電子回路 II	2															
必修	電子情報制御 II	1															
	電子情報制御 I	1															
必修	開設単位数計	1.2	0	0	0	0	0	0	1.2								
	数学 D	1															
必修	物理学 I	1															
	物理学 II	1															
必修	通信工学 I	1															
	通信工学 II	1															
必修	電圧発電工学	2															
	高周波工学 II	2															
必修	機械工学概論	2															
	機械工学実習	2															
必修	開設単位数計	1.8	0	0	0	0	0	0	1.8	1.3	5						
	特別学修	一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大 10 単位まで有効															
必修	開設単位数計	18	0	0	0	0	0	0	13	5							
	特別学修	本校以外の教育施設における学修															
	開設単位数計	9.4	4.5	1.0	17.5	3.2	3.0										
必修	一般科目	8.3	2.8	2.5	1.7	6											
	専門科目	9.4	4.5	1.0	17.5	3.2	3.0										
必修	合計	17.7	32.5	3.5	34.5	3.8	3.7										
	12年度以前	(178)	(32.5)	(34)	(34.5)	(38)	(39)										
必修	単位	9.4	4.5	1.0	17.5	3.2	3.0										
	特別学修	特別学修及び本校以外の教育施設における学修は含まない															

注1 必修選択科目はエネルギーコース (P) とエレクトロニクスコース (E) のどちらかを選択し、卒業に必要な単位 (167 単位) は他コース科目と選択科目から選択し修得すること。

注2 特別学修の内容は別に定める。

注3 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

(出典 学生課資料)

電子制御工学科の専門の教育課程表

専門科目
(電子制御工学科・1～5年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	応用数学 A	1				1		
	応用数学 B	1				1		
	応用数学 C	1					1	
	応用数学 D	1			1			
	応用物理 I	1					1	
	応用物理 II	2				2		
	応用物理 III	1					1	
	応用工学概論	1						
	プログラミング技法	2						
	製図	2						
	機械制御入門	2			2			
	機械力学	2			1			
	材料力学 I	1					2	
材料力学 II	2					2		
設計工学 I	2							
電気工学 I	2			2				
電気工学 II	2							
電気回路 I	2			2				
電気回路 II	2			2				
電子回路 I	2					2		
電子回路 II	2						2	
電子計算機 I	2							
情報処理	2			2				
電子計算機 II	2			2				
計測工学	2			2				
光工学 I	1					1		
制御工学 I	2					2		
制御工学 II	2						2	
制御機器	2						2	
計算機制御工学	2						2	
総合演習 I	1			1				
卒業実習	13	2	2	3	6		8	
卒業研究	8	5	10	18	22		18	
開設単位小計	73	5	10	18	22	18		

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
選択	精密工学	2					2	
	熱流体工学	2					2	
	電気回路 II	2				2		
	電子工学 II	2				2		
	電子材料	1						1
	電気解析	2				2		
	情報工学	2					2	
	ロボティクス	2					2	
	システム工学	1						1
	シミュレーション	1						1
	総合演習 II	1						1
	学外実習	2						2
	開設単位小計	19	0	0	0	9	10	
科	特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設に本校以外の教育における学修をあわせて最大10単位まで有効					[注1]
	開設単位合計	92	5	10	18	31	28	
開設単位合計	一般科目	83	28	25	17	6	7	特別学修及び本校以外の教育施設における学修は含まれない
	専門科目	92	5	10	18	31	28	
	合計	175	33	35	35	37	35	

注1 特別学修の内容は別に定める。
注2 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

(出典 学生課資料)

情報工学科の専門の教育課程表

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考												
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前		3年後	4年前	4年後	5年前	5年後							
選 択 科 目	応用物理学Ⅲ	1																		
	数理計画法	2																		
	知能システム	2																		
	信号処理工学	2																		
	画像情報システム	2																		
	分散情報システム	2																		
	情報機器	1																		
	情報制御工学	1																		
	計測制御工学	1																		
	学外実習	2																		
	開設単位合計	15	0	0	0	0	0	2	2											
	特別学修																			
	本校以外の教育施設における学修																			
	開設単位合計	91	6	9	15	31	30													
修得可能単位数	一般科目	83	26	25	19	6	7													
	専門科目	91	6	9	15	31	30													
	合計	174	32	34	34	37	37													

注1：特別学修の内容は、別に定める。
注2：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

専門科目 (情報工学科・1～5年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考											
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前		3年後	4年前	4年後	5年前	5年後						
必 修 科	応用物理学Ⅰ	1																	
	応用物理学Ⅱ	2																	
	応用数学A	1																	
	応用数学B	1																	
	応用数学C	1																	
	コンピュータ入門	2																	
	コンピュータ演習	2																	
	プログラミング言語	2																	
	プログラミング演習1	2																	
	プログラミング演習2	2																	
	情報数学	2																	
	デジタルシステム	2																	
	人工知能	2																	
	ソフトウェア設計	2																	
	論理回路	2																	
	電気回路	2																	
	電子計算機Ⅰ	2																	
	電子計算機Ⅱ	2																	
	電子回路	2																	
	半導体工学	2																	
	計算機システム	2																	
	計算機システムⅠ	1																	
	計算機システムⅡ	2																	
	計測工学	2																	
	制御工学	2																	
	工業英語	1																	
	ドキュメント書法	1																	
	情報理論	2																	
	シミュレーション工学	2																	
	計算機ネットワーク	2																	
	情報通信システム	2																	
	実験・実習	8	2																
課題研究	2																		
卒業	7																		
開設単位計	76	6	9	15	29	17													

(出典 学生課資料)

環境都市工学科の専門の教育課程表

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年後	3年前	4年後	5年前	
必修	環境工学	1				1		[注1]
	生態環境工学	2					2	
	水環境工学Ⅱ	1				1*		[注2]
	環境アセスメント	1				1		
選択	環境計画学	1					1*	
	環境工学実験	2					2*	
	構造力学Ⅱ	2				1	1	
	コンクリート構造Ⅰ	1				1		
科目	都市工学	1					1*	
	橋梁工学	1					1*	
	都市工学設計(図論)	1					1*	
	都市工学実験(構造)	2					2*	
開設単位数計		16	0	0	0	4	12	
選択科目	数値解析	1				1		
	コンクリート構造Ⅱ	1					1	
	観測工学	1					1	
	都市エネルギー工学	1				1		
選択科目	測量工学	1					1	
	防災工学	1					1	
	環境工学	1					1	
	廃棄物実習	2				2		
開設単位数計		10	0	0	0	4	6	
特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効						[注3]
本校以外の教育施設における学修		本校以外の教育施設における学修						[注4]
開設単位数計		9.2	4	9	15.5	31.5	3.2	特別学修及び本校以外の教育施設における学修は含まない
修得可能単位数	一般科目	83	28	25	17	6	7	
	専門科目	88	4	9	15.5	31.5	28	
	合計	171	32	34	32.5	37.5	35	

注1 必修選択科目は環境工学と都市コースのどちらかを選択し、卒業に必要な単位(167単位)は他コースの科目と選択科目から選択し修得すること。
 注2 *印の科目は、同時開講科目である。
 注3 特別学修の内容は別に定める。
 注4 本校以外の教育施設における学修の手続きは別に定める。

専門科目(環境都市工学科1~5年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年後	3年前	4年後	5年前	
必修	応用数学A	1				1		
	応用数学B	1				1		
	応用数学C	1					1	
	応用数学D	1					1	
	応用物理Ⅰ	1			1			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	環境都市工学概論	1					1	
	図情処理入門	1			1			
	情報処理Ⅰ	1					1	
	情報処理Ⅱ	1					1	
修	情報処理Ⅲ	1					1	
	情報処理Ⅳ	4			1			
	測量工学Ⅰ	5			2	1		
	構造力学Ⅰ	3.5			2.5	1		
	水質工学	3.5			2	1.5		
	土木材料学	2				2		
	コンクリート工学	2				2		
	橋梁工学	1					1	
	上下水道工学	2					2	
	地域計画学	1					1	
科目	都市交通工学	1					1	
	環境工学概論	1					1	
	水環境学Ⅰ	2				2		
	計測通論	1					1	
	基礎演習Ⅰ(構力)	1			1			
	基礎演習Ⅱ(水理)	0.5				0.5		
	基礎演習Ⅲ(土質)	0.5					0.5	
	設計製図Ⅰ(建築)	2					2	
	設計製図Ⅱ(RC構)	2					2	
	基礎実験Ⅰ(材料)	2					2	
基礎実験Ⅱ(水理)	2					2		
基礎実験Ⅲ(土質)	2					2		
測量実習	3			2	1			
卒業研究	8					8		
開設単位数計		6.6	4	9	15.5	23.5	14	

(出典 学生課資料)

準学士課程の授業科目の流れの説明

1. (1) 豊かな人間性と健康な心身を養う

健康な心身を養うため1年から5年まですべての学年で保健体育を必修科目として開講している。また、豊かな人間性を養う目的で1年時に音楽と美術の授業を必修として開講している。

1. (2) 深く社会について理解し、広い視野がもてるように、豊かな教養を身につける。

社会についての基礎的な理解を助けるために歴史Ⅰ、Ⅱと人文地理を1、2学年で必修科目として開講している（情報工学科のみ人文地理を3学年で開講）。また、豊かな教養を身につけるという目的から、英語以外の外国語としてドイツ語Ⅰを3学年で必修科目として開講している。高学年となる4、5学年ではドイツ語に加え中国語が選択できるようになり、その他にも社会系科目が選択科目として開講されており、豊かな教養を身につけることができる授業配置となっている。

1. (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

本格的に専門科目が増え始める3学年に「技術と人間」と「技術と社会」を必修科目として配置することで、技術者としての責任を自覚できるようになっている。

2. (1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

専門科目をスムーズに履修するという観点から、1～3年までに多くの数学、物理、化学系の科目が開講されており、自然科学の基礎知識の修得ができる授業配置となっている。さらに4、5年では応用数学や応用物理といったより高度な内容の自然科学系の授業によって論理的思考能力が身につけられる授業の配置となっている。

2. (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。

各学科とも教育目的を達成するのに必要な専門の授業科目の流れとなっている。

2. (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

5学科とも「実験実習」を1学年から4学年まで必修科目として開講している。また、5学年では「卒業研究」必修科目として開講されており、実験・実習を通してものづくりに必要な力を身につけることができるようになっている。

3. (1) 日本語の記述能力を身につける。

1～4年まで国語の授業が必修科目となっており、日本語の記述能力を身につけることができる授業配置となっている。さらに、5年で国文学特論が選択科目として開講されている。また、機械工学科では5年時に論文作成技法が選択科目として開講されており、日本語の記述能力向上ができる授業配置となっている。

3. (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。

1、2年時に必修科目として開講される英語Aと英語Bで「読む、書く、聞く、話す」の基礎を学び、3年時以降に開講される英会話及び英語の授業によって英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけることができるようになっている。

3. (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

5学年時の卒業研究において、中間発表会及び研究発表会を通して情報機器（主にPC）を使った発表と討論（自分の発表に対する受け答え）ができる能力を身につけることができるようになっている。

4. (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

人文・基礎学系の教員各自の専門に基づいたテーマに対して、学生が少人数で取り組む形態の一般特別研究（一般科目の卒研）と5学年時の卒業研究を通して問題解決能力を身につけることができるようになっている。

（出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料）

資料 5-1-①-8 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(機械工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育(必)	特別体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)
1.(2)	歴史 I (必) 人文地理(必)		歴史 II (必)			ドイツ語 I (必)		社会学(選必) 経済学(選必) 中国語 I (選必)		哲学(選必) 法学(選必) ドイツ語 III (選必) 中国語 II (選必) 人類学(選必) 心理学(選必)
1.(3)					技術と人間(必) 技術と社会(必)					

2.(1)	基礎数学 I (必) 基礎科学(必) 基礎化学(必)	基礎数学 II (必) 基礎数学 III (必) 物理学 I (必)	解析 I (必) 代数幾何(必) 物理学 II (必) 化学(必)	解析 II (必) 解析 III (必) 物理学 III (必)	応用数学 A (必) 応用数学 B (必) 数学演習 A (選必) 数学演習 B (選必) 生物学(選必) 地学(選必)	応用数学 C (選) 応用数学 D (選) 応用物理 II (必)	数学特論(選) 応用物理 III (選)
2.(2)	情報処理 I (必) 機械工学概論(必)	情報処理 II (必) 工業力学(必)	情報処理 III (必) 材料力学 I (必) 材料学 I (必) 機械工作法 I (必)	材料力学 II (必) 設計法 I (必) 材料学 II (必) 機械工作法 II (必) 熱力学(必)	弾塑性学(選) 設計工学(選必) 伝熱工学(必) 熱機関(選) 流体力学(必) 流体機械(選) 計算力学(選必) 自動制御 I (必) 制御工学(選) 機構学(必) ロボット工学(選必) アクチュエータ学(選必)		

資料 5 - 1 - ① - 8 (2 / 2)

2.(2)			電気回路 (必)	電子回路 (必) 計測工学 (必)	論理回路 (選) 数理計画法 (選) 工学演習 I (必)	マイコン制御 (必選) センサ工学 (必選) 工学演習 II (必)
2.(3)	工学実験 (必)	図学製図 (必) 製作実習 (必) 工学実験 (必)	設計製図 I (必) 製作実習 (必) 工学実験 (必)	設計製図 II (必) 製作実習 (必) 工学実験 (必) 学外実習 (選)	製作実習 (必) 工学実験 (必)	製作実習 (必) 工学実験 (必) 電気工学実験 (必)
3.(1)	国語 (必)	国語 (必)	国語 (必)	国語 (必)	国文学特論 (選) 論文作成技法 (選)	
3.(2)	英語A (必) 英語B (必)	英語A (必) 英語B (必)	英語演習 (必) 英会話 I (必)	総合英語演習 I (選必) 英会話 II (選必) 工業英語 (選)	総合英語演習 II (選必) 英語特論 (選)	英会話 III (選必)
3.(3)						卒業研究 (必)
4			一般特別研究 (必)	学外実習 (選)		卒業研究 (必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 1 - ① - 9 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(電気電子工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名										
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1.(1)	保健体育(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育(必)	特別体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)	
1.(2)	歴史Ⅰ(必) 人文地理(必)		歴史Ⅱ(必)			ドイツ語Ⅰ(必)		社会学(選必) 経済学(選必) 中国語Ⅰ(選必)		哲学(選必) 法学(選必) ドイツ語Ⅲ(選必) 中国語Ⅱ(選必) 人類学(選必) 心理学(選必)	
1.(3)					技術と人間(必) 技術と社会(必)						
2.(1)	基礎数学Ⅰ(必) 基礎科学(必) 基礎化学(必)	基礎数学Ⅱ(必) 基礎数学Ⅲ(必) 物理学Ⅰ(必)	解析Ⅰ(必) 代数幾何(必) 物理学Ⅱ(必) 化学(必)	解析Ⅱ(必) 解析Ⅲ(必) 物理学Ⅲ(必)	数学演習A(選必) 数学演習B(選必) 生物学(選必) 地学(選必)	応用数学A(必) 応用数学B(必)	応用数学C(必)	応用数学D(選)	応用物理Ⅱ(必)	応用物理Ⅲ(選)	
2.(2)	電気電子工学概論(必)	電気磁気学Ⅰ(必) 工学基礎演習(必) 電気回路Ⅰ(必)	電気磁気学Ⅱ(必)	電気磁気学Ⅲ(選)	電気回路Ⅱ(必) 電子工学(必)	電気回路Ⅲ(必) 電子デバイス(必) 電子回路Ⅰ(必)	自動制御Ⅰ(必)	情報通信Ⅰ(選) 高周波工学(必) 電気機器(必)	回路網理論(選) 電気電子材料(必) 電子回路Ⅱ(選必) 自動制御Ⅱ(選必) 情報通信Ⅱ(選必)	高電圧大電流工学(選) インバータ発生工学(必)	システム工学(選必) 機械工学概論(選必) パワーエレクトロニクス(選必) 電気設計(選必) 電気法規(選必) 送配電工学(選必)

資料 5-1-①-9 (2/2)

2.(2)	コンピュータ工学 I (必) 情報処理(必)	コンピュータ工学 I (必) 工学基礎演習(必)	コンピュータ工学 I (必) コンピュータ実習(必) 情報処理演習(必)	コンピュータ工学 II (選)	
2.(3)	電気電子工学概論	電気電子工学実験(必)	電気電子工学実験(必) 電気計測(必) 電気電子製図(必) コンピュータ実習(必) 機械工作実習(必)	電気電子工学実験(必) 学外実習(選)	電気電子工学実験(選)
3.(1)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国文学特論(選)
3.(2)	英語A(必) 英語B(必)	英語A(必) 英語B(必)	英語演習(必) 英会話 I (必)	総合英語演習 I (選必) 英会話 II (選必)	総合英語演習 II (選必) 英語特論(選) 英会話 III (選必)
3.(3)				電気電子工学課題研究(必)	卒業研究(必)
4			一般特別研究(必)	学外実習(選) 電気電子工学課題研究(必)	卒業研究(必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 1 - ① - 10 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(電子制御工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育(必)	特別体育(必)						
1.(2)	歴史Ⅰ(必) 人文地理(必)		歴史Ⅱ(必)			ドイツ語Ⅰ(必)		社会学(選必) 経済学(選必) 中国語Ⅰ(選必)		哲学(選必) 法学(選必) ドイツ語Ⅲ(選必) 中国語Ⅱ(選必) 人類学(選必) 心理学(選必)
1.(3)					技術と人間(必) 技術と社会(必)					
2.(1)	基礎数学Ⅰ(必) 基礎科学(必) 基礎化学(必)	基礎数学Ⅱ(必) 基礎数学Ⅲ(必) 物理学Ⅰ(必)	解析Ⅰ(必) 代数幾何(必) 物理学Ⅱ(必) 化学(必)	解析Ⅱ(必) 解析Ⅲ(必) 物理学Ⅲ(必)	応用数学A(必) 応用数学B(必) 数学演習A(選必) 数学演習B(選必) 生物学(選必) 地学(選必)	応用数学C(選) 応用数学D(選) 応用物理Ⅰ(必)	応用物理Ⅱ(必)	数学特論(選) 応用物理Ⅲ(選)		
2.(2)	工学概論(必) 機械制御入門(必)	製図(必)		材料力学Ⅰ(必) 電子工学Ⅰ(必) 電気回路Ⅰ(必) 電磁気学Ⅰ(必) 機械力学(必) 計測工学(必) 電子計算機Ⅰ(必) プログラミング技法(必)	設計工学(必) 材料力学Ⅱ(必) 電子工学Ⅱ(必) 電子回路Ⅱ(選) 電気回路Ⅱ(選) 制御工学Ⅰ(必) 情報処理(必)	精密工学(選) 電子回路Ⅱ(必) 計算機制御工学(必) 制御機器(必) 制御工学Ⅱ(必) ロボット工学(選) システム工学(選) 電子計算機Ⅱ(必) 工業解析(選) 光応用工(必)				

資料 5 - 1 - ① - 10 (2 / 2)

2.(3)	実験実習(必)	実験実習(必) 製図(必)	実験実習(必)	実験実習(必) 学外実習(選)	
3.(1)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国文学特論(選)
3.(2)	英語A(必) 英語B(必)	英語A(必) 英語B(必)	英語演習(必) 英会話 I(必)	総合英語演習 I(選必) 英会話 II(選必)	総合英語演習 II(選必) 英語特論(選) 英会話 III(選必)
3.(3)					卒業研究(必)
4			一般特別研究(必)	学外実習(選)	卒業研究(必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 1 - ① - 11 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(情報工学科)

◎：必修科目，○：選択必修科目，●：選択科目

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育(必)	特別体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)
1.(2)	歴史 I (必)		歴史 II (必)		人文地理(必) ドイツ語 I (必)		社会学(選必) 経済学(選必) ドイツ語 II (選必) 中国語 I (選必)		哲学 (選必) 法学 (選必) ドイツ語 III (選必) 中国語 II (選必) 人類学(選必) 心理学(選必)	
1.(3)					技術と人間(必) 技術と社会(必)					

2.(1)	基礎数学 I (必) 基礎科学(必) 基礎化学(必)	基礎数学 II (必) 基礎数学 III (必) 物理学 I (必)	解析 I (必) 代数幾何(必) 物理学 II (必) 化学(必)	解析 II (必) 解析 III (必) 物理学 III (必)	応用数学 B (必) 応用数学 A (必) 数学演習 A (選必) 数学演習 B (選必) 生物学(選必) 地学(選必)	応用数学 C (必) 応用物理 I (必) 応用物理 II (必)	数学特論(選) 応用物理 III (選)
2.(2)	コンピュータ演習(必) コンピュータ入門(必)	プログラミング演習 I (必) プログラミング言語(必)	プログラミング演習 II (必) データ構造アルゴリズム(必)	情報数学(必) 電磁気学 I (必) 電磁気学 II (必)	制御工学(必) 人工知能(必) オブジェクトプログラミング(必) オペレーティング・システム(必) 計測工学(必) 半導体工学(必)	数理計画法(選) 画像情報システム(選) 信号処理工学(選) 情報理論(必) 知能システム(選) 分散情報システム(選) ソフトウェア設計(必) シミュレーション工学(必) 情報通信システム(必) 情報機器(選)	

資料 5 - 1 - ① - 11 (2 / 2)

2.(2)		論理回路(必)	電気回路(必)	電子回路(必)	計算機制御工学(選) 電子計算機 I (必) → 電子計算機 II (必) → 計算機システム(必)
2.(3)	実験・実習(必)	実験・実習(必)	実験・実習(必)	実験・実習(必) 学外実習(選)	
3.(1)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国語(必)	国文学特論(選必)
3.(2)	英語 A (必) 英語 B (必)	英語 A (必) 英語 B (必)	英語演習(必) 英会話 I (必)	総合英語演習 I (選必) 英会話 II (選必) 工業英語(必)	総合英語演習 II (選必) 英語特論(選) 英会話 III (選必)
3.(3)				ドキュメント書法(必)	
4			一般特別研究(必)	学外実習(選) 課題実験(必)	卒業研究(必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 1 - ① - 12 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(環境都市工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)		保健体育(必)	
	美術(必)		特別体育(必)							
	音楽(必)									
1.(2)	歴史 I (必)		歴史 II (必)				社会学(選必)		哲学(選必)	
	人文地理(必)						経済学(選必)		法学(選必)	
					ドイツ語 I (必)		ドイツ語 II (選必)		ドイツ語 III (選必)	
							中国語 I (選必)		中国語 II (選必)	
									人類学(選必)	
									心理学(選必)	
1.(3)					技術と人間(必)					
					技術と社会(必)					
2.(1)	基礎数学 I (必)	基礎数学 II (必)	解析 I (必)	代数幾何(必)	解析 II (必)	解析 III (必)	応用数学 A (必)	応用数学 C (必)		
		基礎数学 III (必)					応用数学 B (必)	応用数学 D (必)		
	基礎科学(必)	物理学 I (必)	物理学 II (必)	物理学 III (必)	応用物理 I (必)		応用物理 II (必)			計測通論(必)
	基礎化学(必)	化学(必)			数学演習 A (選必)					
					数学演習 B (選必)					
					生物学(選必)					
					地学(選必)					
2.(2)	環境都市工学概論(必)	構造力学 I (必)	材料学(必)	コンクリート工学(必)	構造力学 I (必)	基礎演習 I (構力)(必)	構造力学 I (必)	構造力学 II (必選)	構造力学 II (必選)	景観工学(選)
							コンクリート構造 I (必選)	コンクリート構造 II (必選)	コンクリート構造 II (必選)	都市工学設計製図(鋼橋)(必選)
	図学(必)						設計製図 I (擁壁)(必)	設計製図 II (RC橋)(必)	橋工学(必)	橋工学(必)
									橋構造(必選)	耐震工学(必選)
					土質力学(必)		土質力学(必)	地盤工学(選)		防災工学(選)
							基礎演習 III (土質)(必)			
					水理学(必)		水理学(必)	水工学(必選)		
							基礎演習 II (水理)(必)			

資料 5 - 1 - ① - 12 (2 / 2)

2.(3)											
3.(1)		国語(必)		国語(必)		国語(必)		国語(必)		国文学特論(選)	卒業研究(必)
3.(2)		英語A(必)		英語A(必)		英語演習(必)		総合英語演習 I(選必)		総合英語演習 II(選必)	英語特論(選)
		英語B(必)		英語B(必)		英会話 I(必)		英会話 II(選必)		英会話 III(選必)	
3.(3)		情報処理入門(必)		情報処理入門(必)		情報処理 I(必)		情報処理 II(必)		情報処理 III(必)	卒業研究(必)
								数值解析(選)			
4						一般特別研究(必)		学外実習(選)			卒業研究(必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

低学年で一般科目の多くを配置し、高学年になるに従って専門科目を増やしていく授業配置は、中学卒業後の5年間で専門的な科学技術を修得するのに適した配置となっている。

また、資料5-1-①-8~12より、各学科とも学習・教育目標の細項目を達成するのに適した体系性を持った授業科目の流れとなっている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定補充教育の実施専攻科教育との連携等が考えられる。

(観点到に係わる状況)

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の教育施設における学習に関する規程が定められており、学生便覧に掲載することで学生への周知も図っている(資料5-1-②-1)。実施例として、長岡技術科学大学が実施しているインターネットを利用した遠隔授業(ウェブ講義)があげられる(資料5-1-②-2)。対象学生は準学士課程4年以上(専攻科課程生を含む)であり、平成17年度[1学期分]の講義に申し込んだ学生は準学士課程に在籍する4名で、実際に受講した学生は2名である(資料5-1-②-3)。受講学生は学修単位認定申請書(資料5-1-②-4)を提出し教務委員会で審議の上、単位が認定される。

この他にも、準学士課程の4学年を対象とした学外実習(インターンシップ)について明文化されており、学生便覧及び各学科のシラバスに記載されている(資料5-1-②-5)、(資料5-1-②-6)。平成17年度の実施状況の資料を資料5-1-②-7に示す。選択科目にも拘わらず各学科の多くの学生が履修している。

本校以外の教育施設における学習に関する規程

6 - 3 本校以外の教育施設における学修に関する規程

(趣 旨)

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第14条の3の規定に基づき、本校以外の教育施設における学修については、この規程の定めるところによる。

(学修手続き及び単位認定申請)

第 2 条 本校以外の教育施設で開設されている授業科目を履修してその単位の認定を希望する者は、あらかじめ「本校以外の教育施設における学修許可願」を校長に提出しなければならない。また、本校以外の教育施設における学修を修了し単位の認定を受けようとするときは、「本校以外の教育施設における学修単位認定申請書」を校長に提出しなければならない。

(修得単位の取り扱い)

第 3 条 単位の認定は、学則第13条第2項の規定に基づく特別学修とあわせて10単位を越えない範囲で本科における単位として認定することができる。

2 前項により認定する単位は、単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 平成 17 年度学生便覧 81 頁)

本校以外の教育施設における学習の例

平成17年度〔2学期分〕インターネットによる遠隔授業（web講義）実施要項

長岡技術科学大学では、高等専門学校との連携を推進するため、全国の高等専門学校の学生に対し、本学の授業科目によるインターネットによる遠隔授業を開講し、下記のとおり受講生を募集します。受講を希望する方は、所属する学生課が指示する期日までに申し出てください。

記

1. 授業科目等

別紙「平成17年度〔2学期分〕インターネットを利用した遠隔授業（web講義）による配信講義一覧」を参照にしてください。

授業内容については本学公式ホームページ（<http://nagaokaut.ac.jp/>）を参照にしてください。

2. 対象学年

第4学年以上の在學生及び専攻科生

3. 実施時期

平成17年10月開始予定

4. 受講コース

(1) Aコース（長岡技術科学大学の科目等履修生コース）

・インターネット授業を本学の規定により受講し、本学が行う試験に合格した学生には、本人の請求により単位等についての証明書を交付します。また、本学に編入学をした場合には、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがあります。

受講にあたっては、所属する高等専門学校の学生課へ申し出のうえ、別添『長岡技術科学大学インターネットによる遠隔授業（web講義）科目等履修生（平成17年度第2学期）募集要項』により出願書類等を直接、本学学務課学務係へ申し込んでください。

(2) Bコース（高専の単位として認定するコース）

・本学の規定により受講したインターネット授業について、高等専門学校の授業科目として単位認定を行う場合は、必要に応じ、担当教員による成績報告を作成します。この場合、受講費用は不要です。

本コース受付期間：平成17年9月15日（木）まで

資料5-1-②-2 (2/2)

5. 受講許可の通知

- ・受講の許可については、その結果を10月中旬頃に各高专へお知らせいたします。
- ・受講を許可された方には、おって「テキスト」、「パスワード」等を送付いたします。

6. その他

- ・試験実施方法等については、別に設ける「遠隔講義用ホームページ」※により通知いたします。
※<http://wbt2.nagaokaut.ac.jp/> (平成17年度配信 URL)

※申込み後のコース、受講科目の変更及び授業料の返還には応じられませんので、ご留意願います。

本件に関する照会先

長岡技術科学大学学務部学務課学務係

Tel: Fax:

E-mail :

(出典 学生課資料)

資料5-1-②-3

本校以外の教育施設における学習の実施例

平成17年度1学期 web 講義 成績報告表

高専名：木更津工業高等専門学校

科目名：e-情報技術基礎 I

担当教員

氏名	所属	素点
	電気電子工学科	-
	環境都市工学科	84

U002

02-02-

科目名：e-情報社会と情報倫理

担当教員

氏名	所属	素点
	環境都市工学科	-

科目名：e-経営情報学基礎

担当教員

氏名	所属	素点
	環境都市工学科	94

U003

02-02-

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 4

本校以外の教育施設における学修単位認定申請書

本校以外の教育施設における学修単位認定申請書

(大学等における学修単位認定申請書)

学科主任	担 任
高橋	石田

平成 17 年 10 月 7 日

木更津工業高等専門学校長 様

第 4 学年 環境都市 工学科

学籍番号 ■■■■■ 氏 名 ■■■■■

私は、下記のとおり学修を終了したので、単位の認定について申請します。

- 記
1. 教育施設の名称 長岡技術科学大学
 2. 学 修 期 間 平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 17 年 7 月 31 日
(曜日・時間帯) (曜日・ : ~ :)
 3. 授業科目名及び 情報技術基礎 I
単位数 1
 4. 添 付 書 類
 - ・ 単位修得証明書
 - ・ 成績証明書
 - ・ その他

(出典 学生課資料)

学外実習に関する資料

また、この実習の評点が50点以上の場合、単位が修得できます。実習の時期は夏季休業中の2週間程度です。

実習先等の詳細については、学級担任と相談してください。

評価方法

第4学年の学生に適用される学外実習についての評価方法は、次のとおりです。

- (1) 所属学科の授業内容に合致する実習を通算60時間（2単位の場合）以上行った者について単位の認定を行う。
- (2) 単位の認定を希望する学生は、担当教員に報告書と学外実習証明書を提出する。
- (3) 報告書には少なくとも次の事項が記載してあること。

- ① 実習の目的
- ② 実習の内容
- ③ 実習の成果
- ④ 考察
- (4) 担当教員は、提出された報告書等に基づいた成績の評価を行い、各学科の主任を経由して校長に報告する。

1-15 試験受験心得

(1) 受験準備

- ① 移動機の教室においては、机は原則として縦6列とし、試験実施に際して適切となる間隔を空けて配置すること。
- ② 試験中は、廊下側から学籍番号順に着席すること。なお、固定機の教室における着席位置については、試験監督教員の指示に従うこと。
- ③ 机上の落書きは、事前に消しておくこと。
- ④ 机の上及び中には、筆記用具及び試験監督教員が持込みを許可した物（電卓等）以外は、一切置かないこと（筆箱や下敷も置かないこと）。
- ⑤ 携帯電話等については、試験開始前に電源を切っておくこと（諸機能を含め、携帯電話等の使用は全面的に禁止する）。
- ⑥ 荷物等は、ロッカー内または教室の後方へ整理して置いておくこと。

履修登録：原則として、4月末日までにシラバスに記載された指導教員のところに行き、指示を仰ぐこと。

1-13 本校以外の教育施設における学修

本校では、教育上有益と認める場合に、他の高等専門学校や大学等で開設されている授業科目について、その学修を許可し本科における単位として認定します（6-3参照）。本科の学生でこの制度を利用する場合は、あらかじめ**本校以外の教育施設における学修許可願**を、学級担任を経て学生課教務係へ提出してください。また、本校以外の教育施設において、その授業科目の学修を修得した場合には、すみやかに**本校以外の教育施設における学修単位認定申請書**を、学級担任を経て学生課教務係へ提出してください。**特別学修**（1-12参照）とあわせて**最大10単位**まで本科における単位として認定することができます。

成績表には「〇〇大学における学修（授業科目名）」のように記載され、単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位として、その教育施設で修得した単位数が認められます。

専攻科でも**専攻科授業科目の履修等に関する規程**（6-4参照）第10条に明記されているとおり同様な制度があります。専攻科の学生でこの制度を利用する場合は、あらかじめ**大学等における学修許可願**を、専攻主任を経て学生課教務係へ提出してください。シラバスを比較検討して**教育課程表**（1-17参照）の専攻科授業科目と置き換えることができるかと判断された場合には、許可書の中にその旨が明記され、その単位を修得後すみやかに**大学等における学修単位認定申請書**を、専攻主任を経て学生課教務係へ提出してください。**最大4単位**まで専攻科における単位として認定されます。

1-14 学外実習

本校では、専門教育の比重が大きくなる**第4学年の夏季休業中**に、企業での実習体験に参加するように指導しています。

企業での実習を通して、学校での授業では得られない実務の場を体験し、第5学年において進路を決定する際の参考にすることを期待しているからです。

(出典 平成17年度学生便覧 8～9頁)

学外実習のシラバス

授 業 科 目			
学外実習			
開設学科学系	電子制御工学科	区分・単位数	選択・2単位
受講年科・学期	電子制御工学科4年・前期	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	企業実習		
関 連 科 目	4年前期までに学んだすべての科目		
担 当 教 員	臼井邦人		
連絡先(オフィス・アワー)	[REDACTED] (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(D)		
プログラム合格点	70点		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 実習内容を理解し、これまで学んだ専門知識を活用し、報告書をまとめる能力を身につける。		報告書 (80%) で評価する。	
・ 実習成果について、発表・討論する能力を身につける。		実習体験報告会 (20%) で評価する。	
履 修 上 の 注 意	企業での実習を通して、学校の授業では得られない実践的な感覚、心構えを身につけ、第5学年における進路を決定する際の判断の参考にすることを目的とする。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 企業実習	・ 7月中旬～8月末までの2～3週間程度、企業において、学科の授業内容に合致する実習を行う。 (実習先は担任と相談のうえ決定する。)		60
・ 実習体験報告会	・ 9月上旬に学内にて実習体験報告会を実施		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
評価方法 および 評価基準	企業からの実習証明書、学生から提出された報告書を80%、報告会での発表内容を20%として評価する。		

(出典 平成17年度シラバス 電子制御工学科編 35頁)

学外実習（インターンシップ）実施状況

平成17年度インターンシップ実施状況調査

学校名	木更津工業高等専門学校	番号	15	企業102	官公庁14				
実施学科名	授業科目名	必修・選択の別	取得単位数	参加者数	実施年次	実習先(複数回答可)	実施時期	実施期間	実質参加日数
機械工学科	学外実習	2	1・2	43	4	1, 2, 3	1	2・4	5～10
電気工学科	学外実習	2	1・2	25	4	1, 3	1	2・4	5～10
電子制御工学科	学外実習	2	1・2	48	4	1, 2, 3, 4	1	2・4	5～10
情報工学科	学外実習	2	1・2	45	4	1, 2, 3	1	2・4	5～10
環境都市工学科	学外実習	2	1・2	39	4	1, 2, 3	1	2・4	5～10

(記入要領)

「授業科目名」…開設している授業においてインターンシップを実施している場合は、その授業科目名を記入して下さい。

「必修・選択の別」…必修の場合は「1」を、選択の場合は「2」を記入して下さい。

「実施年次」…専攻科の場合は「専攻科1」「専攻科2」と記入して下さい。

「実習先」…以下の区分で該当する番号を記入して下さい。

- 1. 民間企業
- 2. 大学等
- 3. 官公庁
- 4. その他

「実施時期」…以下の区分で該当する番号を記入して下さい。

- 1. 夏季休業中
- 2. 冬季休業中
- 3. 春季休業中
- 4. 授業期間中
- 5. 長期休業中と授業期間中の組み合わせ

「実施期間」…以下の区分で該当する番号を記入して下さい。

- 1. 1週間未満
- 2. 1週間
- 3. 1週間～2週間未満
- 4. 2週間
- 5. 2週間～1ヶ月未満
- 6. 1ヶ月～3ヶ月未満
- 7. 3ヶ月～6ヶ月未満
- 8. 6ヶ月以上

「実質参加日数」…実施期間中に学生が参加した日数を記入して下さい。

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様化するニーズに合わせて、他の教育機関の授業を受講することを認めている。その結果、少数ではあるが、この仕組みを利用して単位を取得した学生が存在する。また、学校の授業では得られない実務経験を得る機会として4学年時にインターンシップを選択科目として設け、積極的に参加するように指導している。その結果、多くの学生がこの機会を生かして、企業での実務を体験している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる)。

(観点に係わる状況)

資料5-1-①-7~11 に示したように、各学科とも教育の目的達成を考慮した授業配置をとり、その授業形態は講義、演習、実験・実習に分類できる。

学習・教育目標にもある専門分野の修得とものづくりに必要な力を身につけるためには、専門科目の講義はもちろんだが、卒業研究を含む実験・実習を通じて専門分野の工学的現象及び問題を解析又は解く力を育成する必要がある。そのような観点から、各学科とも必修科目として実験・実習の科目を1学年から4学年までを通して配置し、5学年には卒業研究を配置している(資料5-1-①-2~6)。その他、演習系の授業を高学年に多く配置することによって、講義で身につけた知識を確かなものとする配慮がなされている。例として、英語の授業をみた場合、1学年及び2学年で講義が配置され、3学年以降は演習(英会話を含む)が配置されており(資料5-1-①-2~6)、講義と演習のバランスが適切になるように配慮されている。

特別な学生に対する配慮として、3年次に編入してくる留学生の日本語の読解力と作文能力の向上を目的とした、「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」を開講している(資料5-2-①-1)、(資料5-2-①-2)、(資料5-2-①-3)。

日本語 I のシラバス

授 業 科 目		日本語 I	
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	3年留学生・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	読解、作文		
関 連 科 目			
担 当 教 員	(大野敬代)		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア ー)	非常勤講師控え室ポストに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		
教 科 書	『日本語中級 J 501—中級から上級へ—』スリーエーネットワーク 2800円 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』アルク 2427円		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標			
プ ロ グ ラ ム 合 格 点			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 長めの文の読解に慣れる, 初級文法の復習, 書き言葉での作文が書ける		前期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力を養う, 基本文型を身に付ける, 作文の表現力の充実		前期期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実, 基本文型を身につける, 場に応じた手紙文が書ける		後期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実, 基本文型を身につける, テーマに沿った作文が書ける		後期期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
履 修 上 の 注 意	予習は毎回必要。また、作文は基本的に毎回宿題とする。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『日本語中級 J 501—中級から上級へ—』 2, 3課 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』 1~7 ・ 書き言葉による作文を書く		8 2 4
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容		2
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『日本語中級 J 501—中級から上級へ—』 5課 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』 8~10 ・ 適切な表現を用いた作文		8 2 4
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容+夏休みの宿題		—
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『日本語中級 J 501—中級から上級へ—』 6, 7課 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』 11~16 ・ 場面設定に応じた手紙を書く		7 2 3
後期中間試験	前期定期試験以降の学習内容		2
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『日本語中級 J 501—中級から上級へ—』 8, 9課 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』 17~21 ・ テーマに沿った作文を書く (内容の充実を図る)		11 3 2
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
評価方法 および 評価基準	4回の試験の平均(80%)と提出作文の評価(20%)		

(出典 平成17年度シラバス 一般科目 (各科共通) 99頁)

日本語Ⅱのシラバス

授 業 科 目			
日本語Ⅱ			
開設学科学系	人文学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	4年留学生・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	読解、作文		
関 連 科 目			
担 当 教 員	(大野敬代)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師控え室ポストに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		
教 科 書	『中・上級日本語教科書 日本への招待』 東京大学出版会 2400円 『どんな時どう使う 日本語表現文型500』アルク 2427円		
補助教科書等	適宜プリントを配布		
参 考 図 書			
プログラム目標			
プログラム合格点			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 難易度の高い文の読解に慣れる, 基本文型を身につける, 身近なテーマで書き言葉の作文が書ける, 表やグラフの説明ができる		前期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ あるテーマについて正しく読み取り, 自分の意見を発表することができる, 基本文型を身に付ける, 社会的な問題について作文が書ける, 表やグラフを正しく読み取り, 適切な説明ができる		前期期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実, 日本文化への理解を深める, 基本文型を身につける, 場に応じた手紙文が書ける		後期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実, 日本文化への理解を深める, 基本文型を身につける, 表現力の充実		後期期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
履 修 上 の 注 意 予習は毎回必要。また、作文は基本的に毎回宿題とする。			
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文		・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』テーマ1 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型500』1～7 ・ 書き言葉による作文を書く(身近なテーマ)	8 2 4
前期中間試験		前期中間試験までの学習内容	2
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文		・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』テーマ3の1, 2 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型500』8～10 ・ 書き言葉による作文(社会的なテーマ)	8 2 4
前期定期試験		前期中間試験以降の学習内容	—
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文		・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』テーマ3の3～6 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型500』11～16 ・ 場面設定に応じた手紙を書く	7 2 3
後期中間試験		前期定期試験以降の学習内容	2
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文		・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』テーマ4 ・ 『どんな時どう使う 日本語表現文型500』17～21 ・ 作文の表現力を充実させる	11 3 2
後期定期試験		後期中間試験以降の学習内容	—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
評価方法 および 評価基準	4回の試験の平均(80%)と提出作文の評価(20%)		

(出典 平成17年度シラバス 一般科目(各科共通) 100頁)

日本語Ⅲのシラバス

授 業 科 目		日本語Ⅲ	
開設学科学系	人文学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	5年留学生・通年	授 業 形 態	演習
キーワード	読解、作文		
関連科目			
担当教員	(大野敬代)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師控え室ポストに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		
教科書	『中・上級日本語教科書 日本への招待』 東京大学出版会 2400円 『日本語文法演習 自動詞・他動詞・使役・受身ーボイスー』 スリーエーネットワーク 1300円 『日本語文法演習 モダリティ』 スリーエーネットワーク 1300円 『大学生と留学生のための 論文ワークブック』 くろしお出版 2500円		
補助教科書等	適宜プリントを配布		
参考図書			
プログラム目標			
プログラム合格点			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 難易度の高い文の読解ができ、自分の意見が発表できる、自動詞と他動詞の細かい使い分けができる、表やグラフの読み取りと適切な説明ができる、与えられたテーマについて作文が書ける		前期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実、使役と受身それぞれの細かい使い分けができる、表現力の充実		前期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実、モダリティ (似たような表現の使い分け)、場に応じた手紙文が書ける		後期中間試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
・ 読解力の充実、モダリティ (似たような表現の使い分け)、レポートや論文が書ける		後期末試験 (20%) と毎回の作文 (5%) で評価する	
履 修 上 の 注 意	予習は毎回必要。また、作文は基本的に毎回宿題とする。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時間数	
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』 テーマ2 ・ 『日本語文法演習 自動詞・他動詞・使役・受身ーボイスー』の自動詞・他動詞 ・ 与えられたテーマについての作文 (書き言葉)	10 2 2	
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容	2	
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』 テーマ5の1~4 ・ 『日本語文法演習 自動詞・他動詞・使役・受身ーボイスー』の受身・使役 ・ 表現力の充実	10 2 2	
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容	—	
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』 テーマ5の5, 6 テーマ6の1~3 ・ 『日本語文法演習 モダリティ』 1 KARA ・ 場面設定に応じた手紙を書く	8 2 2	
後期中間試験	前期定期試験以降の学習内容	2	
・ 読解 ・ 文法 ・ 作文	・ 『中・上級日本語教科書 日本への招待』 テーマ6の4 ・ 『日本語文法演習 モダリティ』 6, 7, 8 ・ 『大学生と留学生のための 論文ワークブック』 資料編	6 4 6	
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容	—	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
評価方法 および 評価基準	4回の試験の平均 (80%) と提出作文の評価 (20%)		

(出典 平成17年度シラバス 一般科目 (各科共通) 101頁)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的を達成するために講義，演習，実験・実習が適切に組み合わせられており，授業形態のバランスは適切なものとなっている。また，留学生の日本語能力の向上を目的とした講義を開設するなど特別な学生に対する配慮がなされている。

観点 5-2-②：教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され活用されているか。

(観点に係わる状況)

教育課程表は教育方針に基づいて組織的に授業科目を配置したものであり，シラバスは教育課程表の中の各授業について担当教員が授業内容に関する詳細な情報を示したものであるということがシラバスの最初のページ「シラバスの利用法」(資料 5-2-②-1)に記載され，学生に周知されている。

授業担当者は，教務委員会，ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「FD 推進委員会」という。）及び JABEE 認定推進委員会がとりまとめた「授業担当者の手引きー平成 17 年度版ー」(資料 5-2-②-2)に基づいて，シラバスの作成，授業評価アンケートの実施，事後シラバスの作成を行っており，非常勤講師を含めた全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。

シラバスの利用法

シラバスの利用方法

勉学に臨むにあたり、「授業の羅針盤」とも言われる「シラバス」の利用方法および存在意義について以下に示しますので、次ページに掲載した「シラバスの読み方」と合わせ、学生諸君においては、十分にこれを活用できるよう、心掛けてください。

なお、「学習案内」を中心とする『学生便覧』の関係する箇所にも細かく目を通し、本校での学習方法等について改めて理解しておいてください。

1. 「教育課程表」は、本校の教育方針に基づいて「授業科目」を組織的に配列したものであり、『学生便覧』に掲載してあります。
2. 「シラバス」は、教育課程表の中の各授業科目について、担当教員が授業内容に関する詳細な情報を示したものです。
3. 単に勉強方法だけを示した一般的な「学習の手引」等とは大きく異なり、シラバスには、単位数や担当教員名から達成目標や評価方法等に及ぶまで、当該授業に関する全体的な情報が掲載されています。
4. よって、シラバスに良く目を通せば、計画的な学習(予習や復習)を自律的に行うことが可能となるのであり、受け身ではない各自の勉学プランを立てることが可能になります。

以上のような理由から、学生諸君には、シラバスを十分に読みこなし、達成目標や授業の進め方等について十分に理解しておくことが要求されます。

また、授業が現在どこまで進み、今後どのような方向に展開し、更に成績評価はどのように行われるのかを確認するためにも、シラバスは開講時のみならず授業を受ける過程において、そして成績が出された後までも利用されるべきものであることも心得ておいてください。

注 当シラバスの記載事項には「A4判で1ページ」という物理的な制約があります。よって、担当教員によっては開講時に「シラバス」を補足する文書を配布することもありますので、そのような場合には、そこで示された内容も合わせて理解しておいてください。

(出典 シラバス平成17年度 一般科目 (各科共通))

「授業担当者の手引き—平成17年度版—」(表紙)

平成17年1月4日作成

授業担当者の手引 —平成17年度版—

木更津工業高等専門学校 教務委員会
ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
JABEE認定推進委員会

連絡事項

1. 平成17年度の「教育課程表」に掲載される「特別体育」および「特別学修」を含む全ての授業科目について、この手引に基づき「シラバス」の作成を行ってください。なお、シラバスの提出期限等については、以下のようになります。

※ 当手引においては、「生産システム工学」教育プログラム」のことを単に「プログラム」として示すことがあります。

提出期限：平成17年1月28日(金)17時

提出先：(1) プログラム関連科目(4年以上)：各学科学系のJABEE認定推進委員

(2) 上記以外の科目(3年以下)：各学科学系の教務委員

※ 担当者が決定していない非常勤講師担当の授業についても、「担当教員」等の欄を「(非常勤講師)」等とするだけで、他の項目については通常のシラバスと同様に作成してください。

2. 当手引は以下の項目から構成されておりますので、シラバス作成から事後シラバス等作成までの授業を担当される全期間においてご参照ください。なお、必要に応じ「追加情報」等が出されることもありますので、その時には当手引に付加しておいてください。

I 授業をご担当されるにあたり……………1ページ

II シラバスの作成……………1-8ページ

III 「学生による授業評価アンケート」の実施……………9-13ページ

IV 中間試験および定期試験の実施……………14-16ページ

V 「授業実施記録」の作成……………17-20ページ

「特別学修」について……………21-22ページ

非常勤講師の先生方への文章等の配布方法について……………23ページ

3. 非常勤講師の先生におかれましては、ご不明な点については関係の委員を含む専任教員にお尋ねください。なお、雛形となる各種ファイルについては、非常勤講師控室のパソコンのデスクトップにも準備してありますので、必要に応じ、コピーを行ってください(23ページ参照)。

(出典 教務委員会, FD 推進委員会, JABEE 認定推進委員会資料, 現地閲覧資料 6)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの最初のページにシラバスの利用方法が記載されており、学生がシラバスを活用することを促す形となっている。また、シラバスの作成方法及び活用方法の詳細が「授業担当者の手引き－平成 17 年度版－」に示されており、全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。

観点 5－2－③： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係わる状況)

本校では、学生の創造力を育む教育方法として、各学科とも 5 学年の必修科目である卒業研究を重要視している。卒業研究において各教員の下で研究を行うことで学生の創造力を育てている（資料 5－2－③－1）。この他にも、3 学年で必修科目として開講されている一般特別研究（資料 5－2－③－2）、（資料 5－2－③－3）は、人文学系及び基礎学系の教員が各々の専門分野に関連する研究テーマを学生に提示し、学生が自主的に研究し、結果を論文の形にまとめる。最終的には学内で口頭発表するという形式をとっており、学生の創造性を養成する教育方法となっている。また、観点 5－1－②で述べたように、4 学年に選択科目として「学外実習」（インターンシップ）が開設されており、学生が会社での貴重な経験をする機会を設けている。

卒業研究のシラバス

卒業研究	
授業科目	機械工学科
開設学系	機械工学科5年・通年
受講年次・学期	研究、総まとめ
単位数	8単位
必修	必修
講義	講義
研究	研究、総まとめ
指導教員	機械工学科の全教員
連絡先	事前にメール等により調整を行った上で質問に答える。
教科書	各研究テーマの専門分野の参考書や学術論文
補助教科書	なし
参考図書	なし
プログラム目標	(C-2)、(D)
プログラム合格点	70点
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する専門知識を、図書館やインターネットを利用して、自主的に文献を調べて、吸収しておくことが大切である。 ・困難な課題に直面した場合は、まず自ら十分に検討して対策を考え、指導教官の助言を求める。 ・1つのテーマに複数の学生が取り組むときは、分担した成果を報告しあいながら、全員が全体の進捗状況を把握しておく。
配風の決定：4月当初に決定する。 中間発表会：前期末頃～後期初め頃の適当な時期に実施する。 研究発表会：年度末に実施する。	配風
研究テーマの例を以下に示す。	研究テーマの例を以下に示す。
音楽療法におけるリズム測定システム開発	音楽療法におけるリズム測定システム開発
射出成形プラスチック車庫の騒音に関する研究	射出成形プラスチック車庫の騒音に関する研究
嘴合せによるヒトの重心動揺	嘴合せによるヒトの重心動揺
マイクログロボットの研究	マイクログロボットの研究
土壌による炭素の蓄積に関する研究	土壌による炭素の蓄積に関する研究
液体の微細化に関する研究	液体の微細化に関する研究
切り落しを有する有柱群背後の流れのPIV解析	切り落しを有する有柱群背後の流れのPIV解析
透明物体表面の欠陥検出に関する研究	透明物体表面の欠陥検出に関する研究
6足歩行ロボットの歩行制御に関する研究	6足歩行ロボットの歩行制御に関する研究
具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。 「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。	具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。 「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。
合計授業時間数(前開および後期の定期試験は除く)	240
評価方法	中間発表会(20%)、研究発表会(40%)および卒業論文(40%)で評価する。
評価基準	評価基準

卒業研究	
授業科目	電気電子工学科
開設学系	電気電子工学科5年・通年
受講年次・学期	研究、総まとめ
単位数	8単位
必修	必修
講義	講義
研究	研究、総まとめ
指導教員	電気電子工学科の全教員
連絡先	事前にメール等により調整を行った上で質問に答える。
教科書	各研究テーマの専門分野の参考書や学術論文
補助教科書	なし
参考図書	なし
プログラム目標	(C-2)、(D)
プログラム合格点	70点
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する専門知識を、図書館やインターネットを利用して、自主的に文献を調べて、吸収しておくことが大切である。 ・困難な課題に直面した場合は、まず自ら十分に検討して対策を考え、指導教官の助言を求める。 ・1つのテーマに複数の学生が取り組むときは、分担した成果を報告しあいながら、全員が全体の進捗状況を把握しておく。
配風の決定：4月当初に決定する。 中間発表会：前期末頃～後期初め頃の適当な時期に実施する。 研究発表会：年度末に実施する。	配風
研究テーマの例を以下に示す。	研究テーマの例を以下に示す。
化合物半導体薄膜太陽電池に関する研究	化合物半導体薄膜太陽電池に関する研究
アナログ回路を中心とした電子回路の研究	アナログ回路を中心とした電子回路の研究
超伝導素子を応用したミリ波サブミリ波受信機の研究	超伝導素子を応用したミリ波サブミリ波受信機の研究
センサ素子と計測技術の研究	センサ素子と計測技術の研究
静電波、電磁波の解析、およびプロセス制御に関する研究	静電波、電磁波の解析、およびプロセス制御に関する研究
画像情報処理、およびヒューマンインターフェースに関する研究	画像情報処理、およびヒューマンインターフェースに関する研究
パワージェネレーション技術の研究と、その応用研究	パワージェネレーション技術の研究と、その応用研究
光子・電子・原子相互作用としての放電基礎過程、インパルス測定、電磁界解析等の研究	光子・電子・原子相互作用としての放電基礎過程、インパルス測定、電磁界解析等の研究
具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。 「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。	具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。 「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。
合計授業時間数(前開および後期の定期試験は除く)	240
評価方法	中間発表会(20%)、研究発表会(40%)および卒業論文(40%)で評価する。
評価基準	評価基準

資料5-2-③-1 (2/3)

授業科目		卒業研究	
開設学科学系	情報工学科	区分・単位数	必修・8単位
受講年科・学期	情報工学科5年・通年	授業形態	卒業研究
キーワード	研究、総まとめ		
関連科目	全科目		
担当教員	情報工学科全教官		
連絡先(フェイスブック)	担任：ほか(メール等による調整の上で質問に応ずる)		
教科書	各研究テーマの専門分野の参考書や学術論文など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	70点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
	・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 ・中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。		
	・与えられたテーマについての専門知識を身につける。 ・中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。		
	・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 ・中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。		
履修上の注意	・研究テーマに関する専門知識を、図書館やインターネットを利用して、自主的に文献を調べて吸収しておくことが大切である。 ・困難な課題に直面した場合は、まず自ら十分に検討して対策を考え、指導教官の助言を求める。 ・1つのテーマに複数の学生が取り組むときは、分担した成果を報告しあいながら、全員が全体の進行状況を把握しておく。		
配属の決定	4月当初に決定する。		
中間発表会	前期末頃～後期初め頃の適当な時期に実施する。		
研究発表会	年度末に実施する。		
研究テーマの例を以下に示す。			
	4足歩行ロボット 2足歩行ロボットの試作 GPS装置を用いた計測システムの開発 緑色発光素子材料の光学的評価 JAVAによる携帯情報端末用学習アプリケーションの開発 移動体通信用基地局アンテナの設計 ダイレクトコンバージョン受信機の試作 昇降圧フレキブル電源回路の設計・製作 太陽光発電システムの開発 カオス信号の統計的性質に関する研究		
	具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			240
評価方法	中間発表会(20%)、研究発表会(40%)および卒業論文(40%)で評価する。		
および			
評価基準			

授業科目		卒業研究	
開設学科学系	情報工学科	区分・単位数	必修・7単位
受講年科・学期	情報工学科5年・通年	授業形態	卒業研究
キーワード	研究、総まとめ		
関連科目	全科目		
担当教員	情報工学科全教官		
連絡先(フェイスブック)	担任：ほか(メール等による調整の上で質問に応ずる)		
教科書	各研究テーマの専門分野の参考書や学術論文など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	70点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
	・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 ・中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。		
	・与えられたテーマについての専門知識を身につける。 ・中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。		
	・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 ・中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。		
履修上の注意	・研究テーマに関する専門知識を、図書館やインターネットを利用して、自主的に文献を調べ、吸収しておくことが大切である。 ・困難な課題に直面した場合は、まず自ら十分に検討して対策を考え、指導教官の助言を求める。 ・1つのテーマに複数の学生が取り組むときは、分担した成果を報告しあいながら、全員が全体の進行状況を把握しておく。		
配属の決定	4月当初に決定する。		
中間発表会	前期末頃～後期初め頃の適当な時期に実施する。		
研究発表会	年度末に実施する。研究テーマの例を以下に示す。		
	次世代ネットワークとサバーバシステム セルオートマトンによる模倣注目度シミュレーション ニューラルネットワークによる電内放電の分類 人口現実感システムの構築 肝硬変識別を目的とした超音波診断システムの開発 自律制御が可能な小型ロボットの作成 音声解折を用いた採掘支援ソフトの製作 演習用PC群を用いたMPI並列プログラムの性能評価 表情画像の合成と評価に関する研究 記憶と学習を使う認知プロセス計測システムの開発 進化論に基づくニューラルネットワークの学習アルゴリズムの開発		
	具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教官室などで保管されている。		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			180
評価方法	中間発表会(20%)、研究発表会(40%)および卒業論文(40%)で評価する。		
および			
評価基準			

授 業 科 目		卒業研究	
開設学科学系	環境都市工学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・8単位
受講年科・学期	環境都市工学科 5年・通年	授 業 形 態	卒業研究
キーワード	研究、デザイン能力、コミュニケーション能力		
関連科目	これまでに学んだ全ての科目		
担当教官	環境都市工学科の全教員		
連絡先(アドバライザ)	事前にもメール等により調整を行った上で質問に応ずる。		
教科書	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2), (D)		
プログラム合格点	70点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。		
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。		
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。		
履 修 上 の 注 意	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究計画、実験、解析、まとめの各段階で指導教員によく相談し研究をすすめることが重要である。		
授 業 計 画			
中間発表会	：後期初めごろに実施する。		
卒業研究発表会	：年度末に実施する。		
予定される研究テーマを以下に示す。			
・ 鉄筋の局部腐食がRC梁の曲げ疲労性状に及ぼす影響 (黒川)			
・ 鉄筋局部腐食の定量化に関する研究 (黒川)			
・ コンクリート構造の温度応力に関する研究 (石田)			
・ RC部材の靱性に関する研究 (石田)			
・ 木質系廃棄物の有効利用に関する研究 (高橋)			
・ 水環境の復元・保全に関する研究 (高橋)			
・ 河川湾曲部における水制構造物の挿入効果について (大木)			
・ 耐候性鋼を使用した橋梁の現況調査について (佐藤)			
・ 魚群行動モデルによるスポンジ付着生物膜内部の測定 (上村)			
・ スポンジリアクターによる水処理に関する研究 (上村)			
・ 建設材料の材料特性評価方法に関する研究 (青木)			
・ 地盤工学に関する研究 (鬼塚)			
・ 地盤工学に関する研究 (鬼塚)			
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			240
評価方法および評価基準	評価＝中間発表 20%＋卒業研究発表会 40%＋卒業論文 40%		

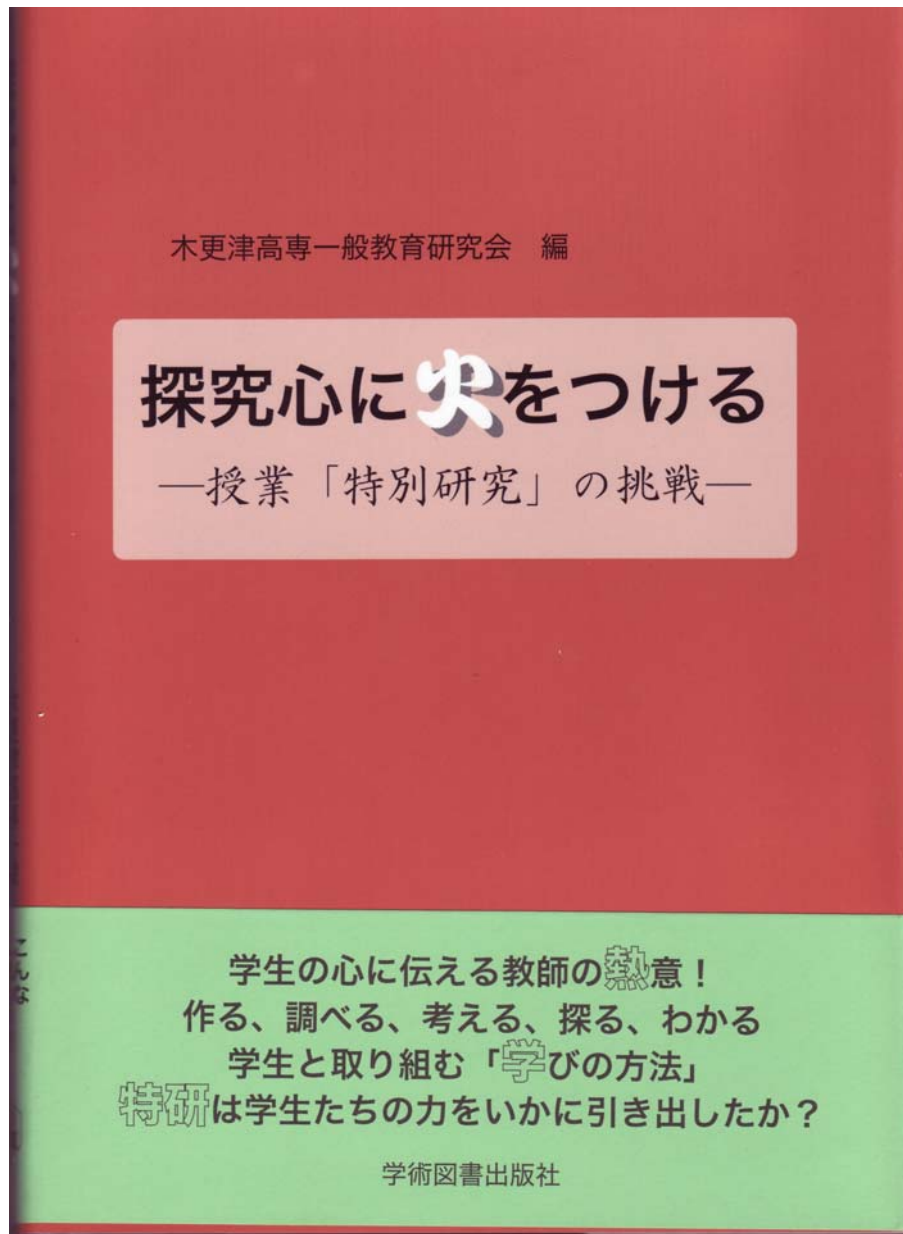
(出典 平成 17 年度シラバス)

一般特別研究のシラバス

授 業 科 目 一般特別研究			
開設学科学系	人文学系および基礎学系	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受講年科・学期	全学科3年・通年	授 業 形 態	各担当教員による
キーワード	各講座による		
関連科目	各講座による		
担当教員	下表参照		
連絡先(オフィス・アワー)	各講座ごとに指定される		
教科書	各講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
補助教科書等	各講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
参考図書	各講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
プログラム目標			
プログラム合格点			
達成目標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 研究を進める上で必要な基礎知識を、講義、書籍の講読やオーディオ資料の視聴によって習得することができる。		各講座ごとに決定する	
・ 習得した基礎知識に立脚して、新たな課題を発見することができる。		各講座ごとに決定する	
・ インターネットや実地調査、実験や計算、論理的な演繹等を駆使し、発見した課題に対する解答することが出来る。		各講座ごとに決定する	
・ 得られた結果を、専門外の人間にも分かりやすい形で四千字以上の論文にまとめることができる。		各講座ごとに決定する	
・ 口頭発表により、得られた結果を、専門外の人間にも分かりやすい形で伝達することができる。		各講座ごとに決定する(講座によっては指定されないこともある)	
・ 他の学生の発表を聴き、その内容を理解するとともに、積極的に疑問点について質問し、発表者との間でコミュニケーションをとることが出来る。		各講座ごとに決定する	
履修上の注意	学生諸君が自主的に調査や研究、時には実験や実技に取り組むという積極的な姿勢を持つこと。肝心な点は、この科目は教員と学生が共同して作り上げるということで、何よりも学生個々の意欲を期待したい。		
開 講 予 定 講 座 と 担 当 教 員 の 一 覧			
講座名		担当教員	
<ul style="list-style-type: none"> ・ たたら製鉄から日本刀へ ・ 現代日本文学精読 ・ サムライたちの見た西洋-「幕末遣外使物語」を読む ・ 国際理解 ・ 海外ドキュメンタリー番組から学ぶ欧米人の考え方・生き方 ・ アメリカ研究 ・ 体内革命2005! ・ 続・経済学を数理のメガネで見ると ・ 相対性理論とブラックホール ・ 線形代数をもう一度 ・ ゲームの理論への誘い-問題の答えは1つではないぞ ・ ネットワークの数理 ・ 「からくり」の製作 ・ 無定型炭素に関する調査・研究 ・ 放射線の物理学 		五十嵐譲介 加藤達彦 平安隆雄 中村俊昭 荒木英彦 小澤健志 篠村朋樹 金子真隆 鎌田勝 大塚浩史 鈴木道治 山下哲 田村和士 相川正美 福地健一	
評価方法 および 評価基準	各担当教員によるが、授業の参加状況や内容、学年末に提出する論文および特研発表会での発表などを総合評価する。		

(出典 平成17年度シラバス 一般科目(各学科共通) 49頁)

一般特別研究に関する書籍



(出典 「探求心に火を付ける」, 現地閲覧資料 7)

(分析結果とその根拠理由)

主に卒業研究が創造力を育む授業として位置づけられ、各教員が指導を行っている。その他にも、人文・基礎学系の教員が一般特別研究を通して創造力を育む教育を行っている。インターンシップは終了後にレポートを作成し、報告会を行うことで、新しく得た知識と経験を整理すると共に他の学生へ伝える機会を設けるといった活用を行っている。

観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規程や進級・卒業認定規程が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点到に係わる状況)

成績評価・単位認定、進級（各学年の修了）、再履修及び卒業の認定について学業成績審査規程が定められており、「学生便覧」に記載されている（資料 5-3-①-1）。この他にも同様の内容が分かり易く詳細に記述された「学習案内」が「学生便覧」（資料 5-3-①-2）に記載されており、学生への周知がなされている。また、各授業の評価方法は明確に定められシラバス（資料 5-3-①-3）に記載されており、学生への周知がなされている。また、教員は定期試験終了から 1 週間後に成績を教務係に提出することとなっており、この間に各教員は答案の返却を行い、成績に対する学生の異議申し立てを受け付けている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加して行い（資料 5-3-①-4）、修了認定及び卒業認定は、成績審査（修了認定）会議資料（現地閲覧資料 8）及び成績審査（卒業認定）会議資料（現地閲覧資料 9）に基づいて学業成績審査規程に従って行われている。

学業成績審査規程

5 授業が年度の途中で終了する授業科目で、評定がDであるものについては、願い出を審査の結果、担当教員は、適切な学習指導を行い、学年末に再評価することができる。ただし、この再評価は、最高50点とする。

6 校長は、毎学年末において、各授業科目の学業成績を、評点、評定及び修得単位数によって学生指導要録に記録する。評定Dの授業科目については、修得単位数を認めないもの（以下「未修得科目」という。）とする。

(再履修及び再試験)

第4条 未修得科目をもつ者は、次年度以降、願い出により、その未修得科目の再評価を受けることができる。

2 第4学年までの未修得科目については、再試験により再評価することができる。ただし、担当教員が必要と認める場合は、授業による再履修又は特別補講により再評価することができる。

3 前2項により単位を修得した場合は、校長は前条第6項の学生指導要録を修正するものとする。

(修了の認定)

第5条 修了の認定は、その学年末までの必修科目（特別体育の単位数を除く）及び必修選択科目のうち、未修得科目の単位数の合計が6以内の者について、特別活動等の履修状況を考慮して、校長が行う。

2 前項の規定により修了の認定を受けられなかった者であっても、第2学年以下に限り、進級させることができる。

3 前項の規定により進級できなかった者は、元の学年にとどまり、その学年の授業科目（さきに評定B以上であった必修科目及び評定C以上であった選択科目を除く。）を再履修するものとする。

4 元の学年にとどまらなかった者は、願い出により、前項の規定により再履修を必要としない授業科目も履修することができる。

(卒業の認定)

第6条 卒業の認定は、第5学年の学年末において、学則第13条に規定する授業科目のうち必修科目（特別体育の単位数を除く）及び必修選択科目について、未修得科目の単位数の合計が6以内（その第5学年におけるものは2以内）で、かつ、全修得単位数が167以上（そのうち、一般科目については75以上、専門科目については82

6-2 学業成績審査規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、学則第15条の規定に基づき、学業成績の評価並びに各学年の課程修了（以下「修了」という。）及び卒業の認定について定めたものである。

(試 験)

第2条 学業成績の評価及び学習指導の資料とするため、毎年度、前期末及び学年末に定期試験を行う。

2 前項の定期試験のほか、前期・後期において、原則として中間試験を行うものとする。

3 試験の内容及び方法については、各授業科目担当教員（以下「担当教員」という。）が定める。

4 **やむを得ない事由**により試験を受けられなかった者については、願い出を審査の結果、**追試験**を行うことができる。ただし、第4学年以下の学年末の定期試験を受けなかった者及び休学のため試験を受けなかった者については、これを行わない。

5 正当な事由によらず試験を受けなかった者、又は懲戒処分の結果、試験を受けられなかった者の試験の成績は0点とする。

6 試験中に不正行為を行った者は、その時間以降の試験を受ける資格を失い、その試験期間中の全試験科目の成績は0点とする。

(成績の評価)

第3条 担当教員は、前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験終了後、100点法によって学業成績を評価し、校長に報告するものとする。

2 前期末及び学年末の評価は、試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して行うものとする。

3 成績の評価は、100点法によって評価し、次の区分によって評定する。

評 点	100～80	79～60	59～50	49以下
評 定	A	B	C	D

4 前項において、その授業時間数の3分の1以上欠席した者についての評点は、原則として50点未満とする。

資料5-3-①-1 (2/2)

以上)である者について、校長が行う。ただし、授業料その他の国庫納入金を未納の者及び学校の物品を借用し返済しない者は、卒業の認定を保留する。

2 第2学年以上に入学した者(再入学者を除く)に対する前項の規定の適用については、入学を許可されたときに前各学年の必修科目及び必修選択科目の単位を修得したものとみなす。

(成績審査会議)

第7条 前2条(第5条及び第6条)の認定は、成績審査会議の議に基づいて行うものとする。

附 則

1. この規程は、昭和59年5月8日から施行し、昭和59年4月1日から適用する。ただし、第5条の規定は、この規定の施行の日より前に行われた試験に係る欠点科目については適用しない。

2. 木更津工業高等専門学校成績評価、学年課程修了及び卒業の認定に関する規程は、これを廃止する。

附 則

この規程は、昭和62年1月22日から施行し、昭和61年10月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成2年2月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年5月16日から施行し、平成3年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年12月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 平成17年度学生便覧78~80頁)

平成17年度学生便覧の目次

目 次

◦教育方針	
◦校章の由来	
◦専攻科の教育目的	
◦「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標	
◦学生心得	
◦行事予定表	
◦校歌（風のランナー）	
◦学生歌（友愛の丘）	
1 学習案内	
1-1 学期と授業時間	1
1-2 休業日	1
1-3 教育課程	2
1-4 授業科目	2
1-5 成績の評価	2
1-6 試験	3
1-7 再評価	4
1-8 再履修	4
1-9 修了の条件・留年・仮進級・卒業の条件	5
1-10 休学・復学・退学	6
1-11 特別体育	6
1-12 特別学修	7
1-13 本校以外の教育施設における学修	8
1-14 学外実習	8
1-15 試験受験心得	9
1-16 成績及び出欠席の訂正について	10
1-17 本科及び専攻科の教育課程表	11
1-18 専攻科の履修要領	34
1-19 シラバスの利用方法	38
1-20 「生産システム工学」教育プログラムの履修対象者	39
2 学生生活	
2-1 学生と直接関係のある事務窓口	41
2-2 諸手続	41

(出典 平成17年度学生便覧, 現地閲覧資料10)

平成 17 年度シラバスの読み方

シラバスの読み方

シラバスは、授業担当教員と学生との間で交わされる「契約書」でもあり、そこには多くの重要な情報が盛り込まれています。

以下に、各項目で示されている内容の説明を当該の欄に示しますので、自分が受講する授業のシラバスに記載された内容について、きちんと理解しておいてください。

授 業 科 目	(授業科目名)		
開 設 学 科 学 系	(授業を担当する学科学系)	区 分 ・ 単 位 数	(必修か選択か等・単位数)
受 講 年 科 ・ 学 期	(対象となる年科・学期)	授 業 形 態	(講義、演習、実験等の区別)
キ ー ワ ー ド	(授業で扱われる内容を端的に表す言葉)		
関 連 科 目	(この授業と内容的に関連がある科目)		
担 当 教 員	(担当教員名：非常勤講師については名前が括弧で囲まれている)		
連 絡 先 (オフィス・アワー)	(メールアドレス等の連絡先や質問を受け付けることが可能な時間帯)		
教 科 書	(受講者全員が購入し、ほぼ毎時間の授業において使用する書籍等のことであり、いわゆる「教科書」である。よって、編著者名、書名、出版社名、出版年に加え、「価格」が示されている。)		
補 助 教 科 書 等	(受講者全員が購入するものの、毎時間ほどの頻度ではないが、授業や学習上使用が求められる書籍のことである。よって、書名等に加え、これも「価格」が示されている。)		
参 考 図 書	(受講者が購入までする必要はないが、学習上の参考になるものとして木更津高専の図書館等に備えられている書籍のことである。よって、これに関しては、「価格」ではなく「図書分類記号」が示されている。)		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(『「生産システム工学」教育プログラム 改訂の刊』に掲載の目標が記号により示されている。)		
プ ロ グ ラ ム 合 格 点	(各科目の特性に応じ、「生産システム工学」教育プログラム合格点として60点以上が設定されている。)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
(この授業において達成されるべき目標[何ほどの程度出来るようになるべきか]が、学習順および項目別に区分して具体的に示されている。なお、「授業計画」欄には、これの詳細が示されている。)		(各達成目標につき、その具体的な評価方法[試験によるのかレポートによるのか等]と基準[評価の割合/重み]が示されている。)	
履 修 上 の 注 意	(当授業を受けるにあたっての注意事項、必要となる知識、予習復習の具体的なやり方等が示されている。また、担当教員からのメッセージや、受講に際しての心構えなどが示されることもある。)		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時間数	
(中間試験および定期試験を大きな区切りとし、どのような項目がどのような順序で扱われていくのかについて、原則として箇条書で示されている。)	(左の「項目」に対応する形で、その具体的な、あるいは更に詳細な学習内容が示されている。)	(各時間数)	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			(合計時間数)
評価方法 および 評価基準	(学業成績評価は、科目担当教員が試験の成績、学習態度等を総合的に評価して100点法で行うことになっているが、当科目の具体的な評価方法や点数の内訳が示されている。なお、ここへの記載内容に先立つものとして「学業成績審査規程」に「その授業時間数の3分の1以上欠席した者についての評点は、原則として50点未満とする」とあるので、注意すること。)		

(出典 平成 17 年度シラバス一般科目 (各学科共通), 現地閲覧資料 11)

資料 基準5—3—①—4

準学士課程修了認定会議の通知メール（全教員宛）

Mineki Okamoto

差出人: 教務係1 [akyomu-1@aidp.kisarazu.ac.jp]
送信日時: 2006年3月13日月曜日 9:47
宛先: all-teacher@kisarazu.ac.jp: 五島 正己; 原 稔継; 学生課長: 矢野 幸一; 庶務係1
件名: 修了認定会議について

平成18年 3月15日(水) 9時～
第1会議室

準学士課程卒業及び専攻科課程修了認定会議の通知メール（全教員宛）

Mineki Okamoto

差出人: 教務係1 [akyomu-1@aidp.kisarazu.ac.jp]
送信日時: 2006年3月9日木曜日 10:01
宛先: all-teacher@kisarazu.ac.jp: 五島 正己; 原 稔継; 学生課長: 矢野 幸一; 庶務係1
件名: 卒業認定・修了認定会議について

平成18年 3月10日(金) 10時～
第1会議室

(出典 学内向け事務連絡メール)

(分析結果とその根拠理由)

学業成績審査規程により、成績評価・単位認定、進級、再履修及び卒業の認定についての規定が明確に定められており、学生便覧に記載されている。同様の内容を学生にも分かりやすくしたものとして「学習案内」が学生便覧に記載されており、学生への周知がなされている。また、定期試験終了から成績提出までに1週間の期間を設け、学生の異議申し立てを受け付ける配慮がなされている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加して行い、学業成績審査規程に従って厳正に行われている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点到に係わる状況)

本校では、学級担任を担当する教員に対して「学級担任の手引き」を配付している。学級担任の手引きには、クラス運営に係わる様々な事柄に対する注意事項が記載されており、学級運営を適切に行うための資料として活用されている(資料5-4-①-1)。

1～3学年までは週1時間の特別活動(HR)の時間を設けている(資料5-4-①-2)。特別活動は学級担任が中心となって「学級担任の手引き」を参考にし、生活指導、成績指導、諸連絡、環境整備(学内及び周辺の清掃)、スポーツ、ビデオ鑑賞等を企画し実施している(資料5-4-①-3)。その他、1学年のはじめの段階で仲間作り、高専生活への適応と心身の鍛練を目標とした新入生合宿研修(資料5-4-①-4)、1～5学年を対象に心身の鍛練を目的とした球技大会、体育祭及びマラソン大会(資料5-4-①-5)、(資料5-4-①-6)、(資料5-4-①-7)、2学年を対象に団体行動と心身の鍛練を目的としたスキー合宿(資料5-4-①-8)、1～5学年を対象に広い教養を身につけることを目的とした文化デー(資料5-4-①-9)を実施している。4学年を対象に各学科で工場見学を含む見学旅行を計画し、実社会における技術を見学する機会を設けている(資料5-4-①-10)。

学級担任の手引き

目 次

1. 学級担任の役割	1
2. 学級担任の基本姿勢	2
3. 各学年の指導上のポイント	3
4. 学生の健康管理	10
5. 事件事故防止に関する指導	11
6. 特別活動 (H・R)	12
7. 学級担任の業務	14
付録1 学生及び家族の不幸と受難への対応	31

平成17年4月

木更津工業高等専門学校

(出典 学級担任の手引き, 現地閲覧資料 12)

平成17年度前期授業時間割表
平成17年度前期授業時間割表

Table with columns for 学年 (Year), 学科 (Subject), 担任 (Instructor), and 科目 (Course). It lists courses for 1st to 5th years across various departments like Mechanical Engineering, Electrical Engineering, and Information Systems.

授業時間 1時限 8:50~9:40 5時限 13:10~14:00 使用教室 (特)特別教室、(視)視聴覚室、(実)実習室、(シ)シミュレーション室、(ア)アートギャラリー、(3年)3年棟5~6時限、(4年)4年棟3~4時限、(5年)5年棟7~8時限

(出典 学生課資料)

資料5-4-①-3 (1/2)

平成17年度前期特別活動実施記録

環境都市工学科 第 1 学年

回数	月 日	活 動 内 容	場 所
1	4月 14日	1年合同HR／新入生合宿研修準備	図書館ホール
2	4月 21日	新入生合宿研修	鴨川青年の家
3	4月 28日	合宿研修の反省	
4	5月 12日	1年合同HR／ネチケットについての指導	図書館ホール
5	5月 19日	球技大会の打ち合わせ	
6	5月 26日	学園祭企画の話し合い	
7	6月 2日	中間試験の事前指導	
8	6月 9日	中間試験	
9	6月 16日	1年合同HR／エイズ講話	図書館ホール
10	6月 23日	担任指導（学園祭クラス企画の話し合い）	
11	6月 30日	担任指導（学園祭クラス企画の話し合い）	
12	7月 7日	環境整備	グラウンド
13	7月 14日	夏季休業前の指導	
14	9月 1日	担任指導（夏季休業中の反省）	
15	9月 8日	学園祭クラス企画準備	
16	9月 15日	学園祭クラス企画準備	
17	月 日		
18	月 日		
19	月 日		
	月 日		

注. 場所の欄には、教室以外の場所を使用する場合記入して下さい。

資料5-4-①-3 (2/2)

平成17年度後期特別活動実施記録

環境都市工学科 第 1 学年

回数	月 日	活 動 内 容	場 所
1	10月 6日	学園祭クラス企画準備	
2	10月 13日	環境整備	
3	10月 20日	学園祭クラス企画準備	
4	10月 17日	学園祭クラス企画準備	
5	11月 10日	1年合同HR/球技大会	グラウンド・体育館
6	11月 17日	1年合同HR/球技大会	グラウンド・体育館
7	11月 24日	担任指導	
8	12月 1日	1年合同HR/講演「だまされないぞ」	図書館ホール
9	12月 8日	中間試験	
10	12月 15日	担任指導 (ロボコンビデオ)	
11	12月 22日	担任指導 (冬休みの諸注意等)	
12	1月 12日	担任指導 (タバコの害についてビデオ)	
13	1月 19日	1,2年環境都市工学科対抗球技大会	グラウンド・体育館
14	2月 2日	1年合同HR/交通講話「ビデオ」	図書館ホール
15	2月 9日	1年合同HR/OB講演「南極の話」	図書館ホール
16	3月 2日	校外見学学習	つくば土木研究所
17	月 日		
18	月 日		
19	月 日		

注. 場所の欄には、教室以外の場所を使用する場合に記入して下さい。

(出典 学生課資料)

平成 17 年度新入生合宿研修 実施報告書

平成 17 年 5 月 2 日

平成 17 年度新入生合宿研修 実施報告

平成 17 年度新入生合宿研修実行委員長

岩崎 洋 一

本年度の新入生合宿研修は、天候にも恵まれ、予定通りのプログラムで実施することができた。今回の研修プログラムは、過去に実施されたプログラムを踏襲した部分と、新しく試みた部分とがあるが、以下に、実施状況とあわせ、総括において出された意見等を集約する。

I 実施状況

1. 目標 (1) 仲間作り (2) 高専生活への適応 (3) 心身の鍛錬
2. 参加教職員
河上校長、
高専学生主事 (総責任者)、岩崎学生主事補 (実行委員長)、丸山学生主事補、
第一学年学級担任 (金子、清野、室井、鈴木道、高橋邦各教員)、
専門学科実行委員 (内田、岡本保、泉、大枝、鬼塚各教員)、
学生課職員 (椎名学生課長、矢野学生課長補佐、高橋光学生係長、安田学生課職員)、
庶務課職員 (原庶務課長、大坪庶務係長)
3. 参加学生 新入生 211 名全員参加
4. 研修場所 千葉県立鴨川青年の家 (鴨川市大海 122-1)
5. 研修日程 平成 17 年 4 月 21 日 (木)、22 日 (金) 1泊2日
6. 研修プログラム (概要)
 - 事前指導 4月14日(木)、図書館ホールで第一学年合同ホームルームを実施。
 - 第一日目 鴨川市内をハイキング (チャレンジコース (約20km) とスタンダードコース (約13km) の2コース)。終了後、鴨川青年の家へ入所し、開講式。

19時30分より創作発表会 (前半はクラス毎、後半は各班に分かれクラス混合で実施)。
 - 第二日目 飯盒炊爨。終了後、閉講式。

II 総括

総括としては、研修目標は十分に達成できたと結論づけられたが、各論に関しては、以下の通りである。

1. 日時等
 - ・仲間作り、高専生活への適応という目標において、実施時期は適当であったと思われる。
2. ハイキング
 - ・今年度は、学生が自分の体力に応じて歩く距離を選択できるよう、チャレンジコースとスタンダードコースの2コースを設定したが、大きな事故もなく安全に実施することができた。心身の鍛錬という目標は十分達成できたとと思われる (チャレンジコース 180名、スタンダードコース 31名)。
 - ・コースを複数設定すると、スタートやゴールの時間調整の問題や教職員の配置に問題が生じるため、コースはできるだけ1つにしたほうが良い。今回のスタンダードコース (約13km) は廃止し、チャレンジコース (約20km) に統一した方がよい。
 - ・コース案内のためにポイントに看板を設置し、さらに石灰で道に矢印を書いたが、設置した看板の中には隠蔽されたものがあつた。看板設置と石灰の矢印の併用はコース案内として非常に効果的であつた。
 - ・コース案内に看板だけでなく誘導員を配置したほうが良いポイントがあつた。今回のコースでは P1 と P4。
 - ・今回は看板を設置しなかったが、設置したほうが良いポイント (P18) があつた。
 - ・トンネル内を歩くコースはできるだけ避けたほうが良い。トンネル内を歩かざるを得ない場合は、事前に懐中電灯等を準備させておいたほうが良い。
3. 創作発表会
 - ・今年度初めて導入したが、学生たちは発表のためにグループ内でコミュニケーションを十分に図り、事前に練習を重ね、仲間作りという目標は十分達成できたとと思われる。
 - ・2時間の研修時間を前半 (クラス毎) と後半 (クラス混合) に分けて行うことによりメリハリが付き、時間を有効に使うことができた。
 - ・クラス毎の発表だけでなく、クラスを混合させて発表を行ったことにより、学科を超え

(出典 学生課資料)

球技大会計画書

平成 17 年 5 月 11 日
体育委員会

三年生、四年生、五年生各位

球技大会について

今年度球技大会について体育委員会よりお知らせがあります。内容を下記に示します。

記

日時 5月26日(火) 8:55(開会式)～15:45(閉会式)

種目(場所) バスケットボール(第一体育館)
バレーボール(第二体育館)
ソフトボール(野球場、ホッケー場)
サッカー(サッカー場)

※ 雨天の場合
サッカー、ソフトボールは中止。他の競技に参加または応援をしていただきます。
以上

今年度の球技大会も学生にとって有意義なものにしたいです。どの科も優勝を目指して頑張りましょう！(最下位のクラスには後片付けをしていただきます。)

当日は、8時50分までにグラウンドへ集合してください。

平成 17 年 5 月 11 日
体育委員会

一年生、二年生各位

球技大会について

今年度球技大会について体育委員会よりお知らせがあります。内容を下記に示します。

記

日時 5月24日(火) 8:55(開会式)～15:45(閉会式)

種目(場所) バスケットボール(第一体育館)
バレーボール(第二体育館)
ソフトボール(野球場、ホッケー場)
サッカー(サッカー場)

※ 雨天の場合
サッカー、ソフトボールは中止。他の競技に参加または応援をしていただきます。
以上

今年度の球技大会も学生にとって有意義なものにしたいです。どの科も優勝を目指して頑張りましょう！(最下位のクラスには後片付けをしていただきます。)

当日は、8時50分までにグラウンドへ集合してください。

(出典 学生課資料)

平成17年度 体育祭プログラム

H. 17 体育祭プログラム

平成17年10月12日(水) (雨天の場合は1週間延期)

8:50	グラウンド集合
8:50 ~ 9:05	開会式 開式の言葉 学校長挨拶 学友会長挨拶 優勝旗返還 諸注意 閉式の言葉
9:05 ~ 9:35	大玉転がし
9:35 ~ 10:05	棒通し
10:05 ~ 10:25	部活動対抗リレー
10:25 ~ 11:05	3人4脚リレー
11:05 ~ 11:50	騎馬戦
11:50 ~ 13:00	昼休み
13:00 ~ 13:45	棒引き
13:45 ~ 14:05	職員対抗リレー
14:05 ~ 15:05	綱引き
15:05 ~ 15:30	学科対抗リレー
15:30 ~ 15:40	閉会式 閉式の言葉 成績発表 優勝旗授与 総評(学生主事) 閉式の言葉
	終了次第解散

(出典 学生課資料)

平成17年度 マラソン大会実施要項

平成17年度マラソン大会実施要項

1. 実施目的 心身の鍛錬
2. 日時・場所 平成18年1月26日(木) 9時50分～13時
(雨天の場合 平成18年2月2日(木))
実施本部 富津市民ふれあい公園内陸上競技場
9:50～ 教員打ち合わせ
10:00～ 学生集合・更衣・点呼(担任)
10:30～ 開会式(校長挨拶) 諸注意・準備運動
10:45
10:55～ 男子学生スタート
11:05～ 女子学生スタート
12:05～ 表彰式
12:25 ゴール閉鎖
12:25～ 後片付け
3. 距離 男子約10.6 km・女子約8.6 kmコースにて行う。
4. 実行委員 学生主事・主事補、教務主事補(1名)、体育科教員、学生委員、学年主任
5. 責任者 高遠学生主事(総括責任者)、丸山学生主事補(実行委員長)
6. 集計責任者 体育教員
7. 表彰 富津市民ふれあい公園内陸上競技場において 男・女1位～3位
男子は30位・女子は10位(タイム記入)まで、後日掲示
8. その他
 - (1) 当日雨天の場合、大会の有無は午前7時に総括責任者及び教務主事が判断する。判断結果は、学生課電子掲示板(<http://chaos.kisarazu.ac.jp/g/>)にも掲示する。
 - (2) 事前にマラソン大会の概要を保護者に通知し、学生本人の健康等の調査を保護者に対し実施する。
 - (3) 大会当日は、曲がり角や危険個所に教員を配置し、安全確保及び学生の誘導にあたる。健康状態に問題があると判断される場合、走るのを制止することが出来る。
 - (4) 担任は当日の学生の出欠と健康状態をチェックして所定の用紙に記入し、学生係に当日17時迄に提出する。健康状態に問題があると判断される場合、走るのを禁ずることが出来る。
 - (5) 男子更衣場所は陸上競技場スタンド、女子更衣場所は陸上競技場内各部屋とする。大会中の雨・雪などを想定し、学生は着替えを入れる大きなビニール袋を持参する。
 - (6) 貴重品は本部で管理する。学生はサインペン等で記名した小袋を持参して貴重品をそれに詰め、担任はそれらをクラス毎の袋に詰める。貴重品返却開始時刻については、クラスごとに担任と学生の間で予め打ち合わせる。持ち出しは点呼終了から担任による返却迄不可とする。それまで預けておけない携帯電話・小銭等は学生が各自管理する。

(出典 学生課資料)

平成17年度スキー合宿研修実施報告書

参加学生内訳

	M	E	D	J	C	合計
在籍数(女子)	42(1)	44(10)	43(4)	42(10)	42(7)	213(32)
参加学生	42	39	42	38	42	203
男子	41	33	38	29	35	176
女子	1	6	4	9	7	27
欠席者	0	5 ¹	1 ²	4 ³	0	10

※1 特別体育既習得者(3名), インフルエンザ(1名), 体調不良(1名)

※2 特別体育既習得者(1名)

※3 休学者(2名), 特別体育既習得者(1名), 体調不良(1名)

スキー実習参加者及び見学者数

	実習1日目		実習2日目		実習3日目	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後
実習者数	201	200	201	200	197	198
見学者数	2	3	2	3	6	5 ⁴

※ インフルエンザ発症により途中帰宅した学生を含む

4. 研修場所

国立警梯青年の家(〒969-3103 福島県郡山市猪苗代町字五輪原7136-1)
猪苗代スキー場(〒969-3102 福島県郡山市猪苗代町字葉山7105)

5. 研修日程

平成18年1月9日(月)～13日(金) 4泊5日

6. 研修プログラム(概要)

- 事前指導 12月15日(木), 第1講義室で第2学年合同ホームルームを実施
- 第1日目 バスで猪苗代へ移動, レンタル用品借り受け, 青年の家人所式, タベのつどい, スキー実習事前指導
- 第2日目 朝のつどい, スキー実習, タベのつどい, 学年企画(ドッジボール大会)
- 第3日目 朝のつどい, スキー実習, タベのつどい, クラス企画
- 第4日目 朝のつどい, スキー実習, タベのつどい, 作文とアンケート
- 第5日目 朝のつどい, 青年の家人所式, バスで木更津へ移動

平成18年1月31日

平成17年度スキー合宿研修実施報告

スキー合宿研修実行委員長
岩崎 洋一

今年度のスキー合宿研修は, 例年になく全国的に大雪が降ったため実施が心配されたが, 研修期間中は天候にも恵まれ, 予定通りのプログラムを実施することができた。研修中, 残念ながら4名の学生がインフルエンザを発症したため, 研修途中で帰宅させることとなったが, それ以外は大きな事故もなく無事に研修を終えることができた。

今年度の研修プログラムは, 過去に実施されたものを踏襲した部分がほとんどであったが, 以下, 実施状況とあわせ, 総括において出された意見等を集約する。

I 実施状況

1. 目標

- (1) 正しいスキー技術を修得すると共に, 団体行動の秩序と規律を体得し, 協調の精神を養う。
- (2) 団体生活を通して相互の理解と親交を深め, 豊かな学生生活を創造する英知を培う。
- (3) 雪山の自然に親しみ, 体力の増強を図り, 健全な学生生活のための新たな活力を培う。

2. 参加教職員(男子13名, 女子2名, 計15名)

河上校長
高遠学生主事(総責任者),
岩崎学生主事補(実行委員長), 青木学生主事補(副実行委員長)
石井, 鎌田, 岡本峰基, 小澤, 篠村 各第2学年学級担任
吉井, 林田, 米村 各学科・学系実行委員
矢野学生課長補佐, 安田学生課職員, 柳澤看護師

3. 参加学生

2年生 203名(男子176名, 女子27名)
(インフルエンザ発症のため4名が途中帰宅)

(出典 学生課資料)

平成17年度の文化デーに関する資料

平成17年11月10日

教 官 各 位

教 務 主 事

文化デー〔講演会〕について

11月16日（水） 木更津市民会館大ホールで文化デー（講演）を実施します。

受付・入場開始	13時20分～
挨拶・紹介	13時55分～14時00分
講演時間	14時00分～16時00分
演 題	「日本人のものづくり」
講 演 者	鈴木 一 義 先生 国立科学博物館理工学第2研究室主任研究官

（学級担任 各位）

1. 市民会館での誘導要領

当日は、学生出欠を2階大ホールで13時20分から行い、同時に2階から入場となり、14時00分文化デー開始となります。

学級担任は時間までに集合し出欠の確認及び誘導をお願いします。

2階ホールに学年毎に受付場所を設置します。

2. 学生への注意事項

- (1) 当日の授業は4時限（12時）で終了となる。
- (2) 学生は全員必ず13時45分までに入場すること。
〔参考：路線バス時刻（高専前発） 12:07 12:29 12:47 13:07 〕
注意：路線バスを利用する場合は早めのバスを利用すること。
- (3) 13時20分から市民会館2階ホールで出席をとること。
- (4) 会場内での飲食をしないこと。
- (5) 講演中の入場・退場を禁止する。また、私語は慎むこと。
- (6) 館内にゴミを散らかさないこと。最後に周りのゴミを拾うこと。
- (7) 終了後は現地解散とすること。
- (8) 当日は、他の催しも予定されており、駐車場の混雑が予想されるので、バスを利用するよう指導する。

（出典 学生課資料）

資料5-4-①-10

平成17年度4学年見学旅行日程一覧表

平成17年度4学年見学旅行日程一覧

平成17年10月6日

学 科 ・ 人 員	見 学 日	見 学 場 所	所在地	宿泊地
機械工学科 学生 40名 引率 鈴木(久)・林田	11/1(火)	ナショナルセンター・ パナソニックセンター	大阪市	神戸市
	11/2(水)	㈱クボタ 阪神工場	兵庫県尼崎市	大阪市
	11/3(木)	自由行動		大阪市
	11/4(金)	朝食後解散		
電気電子工学科 学生 31名 引率 柏木・立石	11/1(火)	東芝 重電研究所	川崎市	大阪市
	11/2(水)	サントリー京都ビール工場	京都府長岡京市	大阪市
		シャープ歴史文化ホール	奈良県天理市	
	11/3(木)	自由行動		大阪市
11/4(金)	朝食後解散			
電子制御工学科 学生 43名 引率 白井・麻生	11/1(火)	マツダミュージアム	広島市	広島市
	11/2(水)	㈱ミットヨ広島事業所呉工場	広島県呉市	大阪市
		市内見学	広島市	
	11/3(木)	自由行動		大阪市
	11/4(金)	三洋電機㈱大東事業所	大阪府大東市	
見学後解散				
情報工学科 学生 46名 引率 齋藤・大枝	11/1(火)	日立ユビキタス スクエア	横浜市	奈良市
	11/2(水)	シャープ天理総合開発センター	奈良県天理市	京都市
	11/3(木)	自由行動		京都市
	11/4(金)	朝食後解散		
環境都市工学科 学生 40名 引率 石田・白井	11/1(火)	屋久島環境文化研修センター	鹿児島県熊本郡屋久町	屋久町安房
	11/2(水)	研修センター	〃	屋久町宮之浦
		ヤクスギランド	〃	
	11/3(木)	屋久島自然散策(自由行動)	〃	鹿児島市
	11/4(金)	朝食後解散		

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

1～3学年は週1時間の特別活動(HR)の時間を設け、様々な活動を通して人間の素養の涵養がなされるように配慮されている。その際、活動内容の偏りをなくすため、学級担任は「学級担任の手引き」をもとにバランスの良い活動計画をたてている。この他にも、新入生合宿研修、球技大会、体育祭、マラソン大会、スキー合宿、文化デー、見学旅行といった多くの行事が実施されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点到に係わる状況)

生活指導面では学生主事、3名の学生主事補及び各学科・学系の代表となる学生委員によって構成される学生委員会(資料5-4-②-1)が中心となり、学級担任及び他の教員と協力して指導に当たっている。また、「学級担任の手引き」(資料5-4-①-1)には、学級担任の役割、基本姿勢、各学年の指導上のポイント及び学生の健康管理と事故防止に関する指導に関して記述されている。学級担任はこれらの内容を参考にしてきめ細かい生活指導を行っている。

また、各学科・学系から1名と学生課長及び学生課職員(看護師)で構成される学生相談室委員会(資料5-4-②-2)が組織されており、学校生活に係わる様々な不安、家庭問題や健康問題に不安を感じる学生の相談に乗っている。この他、毎週1日(火曜日)カウンセラーが来校し学生の相談に乗っており、平成17年度の相談件数は延べ人数で239件であった(資料5-4-②-3)。この他、交通安全教育の一環として、車両通学を許可された学生は車両通学生組織(略称 STG)に参加し(資料5-4-②-4)、学生主事、主事補と STG 指導教員が実施する安全運転教習を受けることが義務づけられている(資料5-4-②-5)。

本校には、学生組織としての学友会が存在し、学友会規約(資料5-4-②-6)に基づいて活発な課外活動を行っている。学友会には文化部(10)、運動部(20)及び同好会(15)が結成され指導教員の下活動を行っている(資料5-4-②-7)。具体的な活動状況を示す資料として施設使用予定及び活動予定表を示す(資料5-4-②-8)。ただし、届出は任意である。

資料5-4-②-1

平成17年度学生委員会委員メンバー

委員会名	委員名
学生委員会	高遠（主事）,岩崎（主事補）,丸山（主事補）,青木（主事補）,金子（基）, 鈴木（M）,石川（C）,室井（人）,石井（E）,大橋（D）,米村（J）

（出典 平成17年度学内役職員一覧）

資料5-4-②-2

平成17年度学生相談室委員会委員メンバー

委員会名	委員名
学生相談室 委員会	中村（室長）,学生課長 ,高橋（基）,小田（M）,青木（C）,室井（人）, 大澤（E）,鈴木（D）,大枝（J）,柳沢（学）

（出典 平成17年度学内役職員一覧）

平成17年度の学生相談件数

3. 今後の学生生活支援への対応
- (1) 学生の抱えている問題の中には、成績や日常生活での友人との関係や将来への不安など、複雑に絡み合っている。一部学生の幼稚な行動などの対応も含めて、学生委員会や教務委員会などと連携を強めていく必要がある。
 - (2) 多くの大学、短大や高等の一部で、「相談室」の範囲を生活支援の分野に拡大していく傾向にある。学業成績、日常生活の些細なことにも対応できるようにしていく必要がある。
 - (3) 相談件数が前期6.6に対して後期は1.5と倍増している。進路相談が増大しているが、自分の「適性・適職」に対して不安を抱えている学生が増えているという現状に対応できるシステム（適性検査などの提案も含めて）が必要となる。

(スクールカウンセラー分—)

月別相談件数(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生		8	6	2	2	6	4	4	4	5	6
2年生							2	3	4	1	
3年生				1	1				1	3	
4年生											
5年生		2			1	1			2	1	
専攻生		3			1	1					
保護者						10	1	5	2		
職員		7	23	16	3	8	20	25	14	11	14
月計	12	41	25	8	12	36	33	23	23	26	

合計 239件

学年別生徒相談件数(延べ人数)

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻	合計
学業	13		6	7		3	29
進路				1	2	1	4
交友・集団	16	2		3			21
家族	5				2	2	9
性格・行動	23		2			2	27
精神衛生	75	29	7	2	12	9	134
部活動							
家庭生活	8	4		1			13
その他	2						2
学年別計	142	35	15	14	16	17	239

学生相談室だより

(平成17年度No.2)

学生相談室より平成17年度後期の相談件数及び相談内容の傾向等をお知らせします。

1 後期の相談件数について

(校内相談員分)

平成17年度後期分

(校内相談員分)

相談内容	学年	学科	計
勉学・不登校	I/2/3/4	全科	41
進路	1	D	1
	3	EDJC	18
	4	DCJ	14
	5	EDJ	15
部活動	I/2	M/E	2
交友	1	C	1
寮生活	1	J	1
異性関係	I/3	M/J	6
家庭問題	5	M/J	4
健康問題	I/4/5/	M/E/ 専攻科	16
宗教・思想			
学費・経済			
その他	I/4/5	MDJC	6

計 155

279

(カウンセラー分については裏面)

2 相談内容及び傾向

毎週火曜日のカウンセラーの相談に関しては、前期の相談と同様「気力が無い」理由で、相談に来るものが多く、背景に家庭問題が存在していることである。相談員への相談では、看護士に対する健康問題が依然多いが、その他の相談員では進路問題が増えている。

また、TOEICを含む英語に関する進路問題での相談が増えていることも特徴的である。

車両通学生組織 (STG) に関する要領

6 - 18 車両通学生組織に関する要領

(組織と指導者)

1. この組織は、木更津工業高等専門学校学生車両等通学規程 (以下「規程」という。) 第 3 条により車両 (自転車を除く) 通学を許可された学生の組織である。
2. 車両通学を許可された学生は、規程第 5 条により、車両通学生組織 (略称 STG) に参加し、指導者による安全運転教育を受けなければならない。
3. STG を指導する教員は、学生主事の推薦に基づいて校長が任命する。
4. STG 指導教員は、学生主事及び学生主事補とともに STG に対する指導方針を決定し執行する。
5. 学生委員会は、STG に対する指導に関して適時検討する。

(組織運営と活動)

6. STG では、各学年 1 名ずつのリーダーを選出し、その中から互選により STG の責任者 1 名を決める。
7. STG に所属する学生は安全運転教育を受けるばかりではなく、校内での車両に関する環境全般にわたる秩序維持を自治的にはかる責任を持つ。
8. STG 運営記録簿を備え、STG 責任者は、適時、STG 指導教員の点検を受ける。
9. STG 所属学生に事故等が発生した場合、STG は可能な限り臨機に対処し、事後においてその事例を詳細に検討しなければならない。
10. 学校所有の自動二輪車は、STG 指導者が 2 項の指導を行う際に使用する。使用者は、その都度所定の自動二輪車使用記録簿に必要事項を記入するものとする。

附 則

この要領は、昭和 60 年 4 月 23 日から施行し、昭和 60 年 4 月 1 日から適用する。

(出典 平成 17 年度学生便覧 112 頁)

資料5-4-②-5

安全運転講習会の実施に関する資料

平成17年10月13日

学級担任 各位

学生主事

車両通学生組織（STG）の安全運転講習会の実施について

下記により安全運転実技講習会を開催しますので、二輪車通学生は全員出席するようにご指導をお願いいたします。

出席できない場合は、STG指導教員（大木教員）又は学生主事補（岩崎教員）に申し出て承認を得るようにさせてください。（学生掲示板にも掲示します。）

なお、二輪車免許所持者で二輪通学をしていない学生も参加できますので、希望する学生は学生係まで申し出るよう連絡願います。

記

1. 期 日 平成17年11月6日(日)
 午前の部(ギア無し) 9時30分現地集合
 午後の部(ギア付き)12時30分現地集合
2. 場 所 木更津自動車学校
3. その他 各自の車両を持ち込み使用します。
 雨天の場合、午前の部は8時以降に、午後の部は11時以降に
 学校へ電話確認すること。

木更津高専 Tel 0438-30-4000

(出典 学生課資料)

学友会活動の概要

7-1 学友会の活動

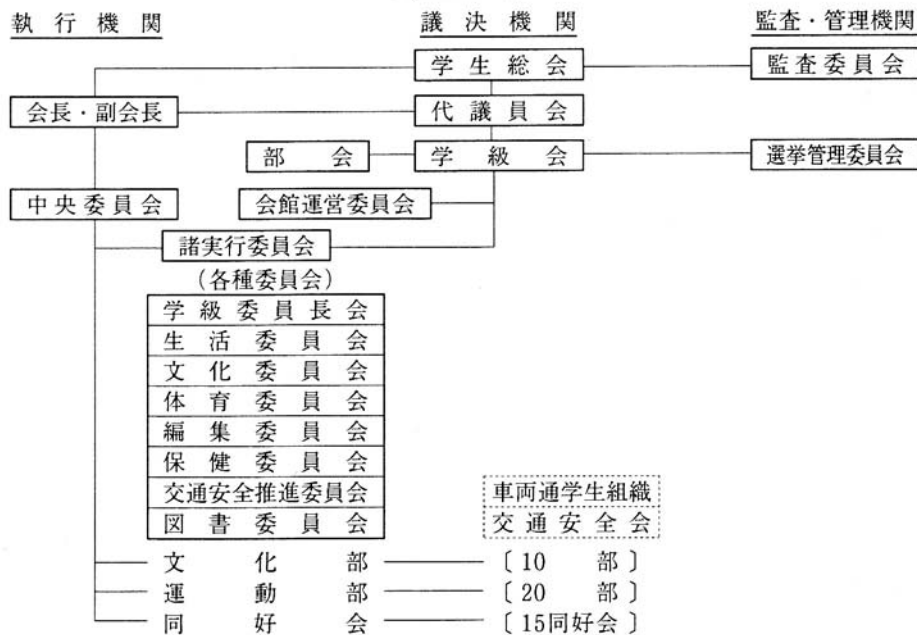
本校では、勉学はもとより学生生活を通じて、自立・自考の精神を養うために、課外活動にも力を入れています。そのための学生組織として、**学友会**があります。現在、文化部（10部）、運動部（20部）そして同好会（15同好会）が結成され、活発に活動しています。（資料：学友会クラブ等一覧）

学友会活動の拠点として、**学友会館**があり、学生によって自治運営されています。学友会館には、憩室・奏室・戯室・ミーティングルーム・会議室などがあり、学生や教職員がそれぞれの目的により自由に使用できるようになっています。

この他に40名収容できる**合宿研修施設**（略して研修施設）があり、運動部等の強化合宿、文化部の合宿その他研修などに利用され、学友会活動におおいに役立っています。

また、本校には、**車両通学生組織**（略称STG）があり、学生が車両で通学する場合の安全運転教育を行い、通学時の交通事故防止と運転の正しいマナーの指導を行っています。

学友会機構図



(出典 平成17年度学生便覧 125頁)

学生会に所属するクラブと同好会の一覧

学生会クラブ等一覧

文化系クラブ

クラブ名	指導教員
電気部	石川 雅之
写真部	小田 功 田村 和士
自動車部	大木 正喜
吹奏楽部	齋藤 康之 大澤 寛
華道部	関口 昌由 柏木 康秀
茶道部	関口 昌由 柏木 康秀 大塚 浩史
映像研究部	武長 玄次郎
合唱部	金子 真隆 佐藤 恒明
演劇部	高遠 節夫 加藤 達彦 浅野 洋介 武長 玄次郎
囲碁部	大藤 晃義 丸山 真佐夫

運動系クラブ

クラブ名	指導教員
野球部	高橋 秀雄 鈴木 聡 板垣 貴喜 林田 和宏
バスケットボール部	加藤 達彦 岩崎 洋一 飯田 聡子 大枝 真一
バレーボール部	篠村 朋樹 石井 孝一
卓球部	栗本 育三郎 大藤 晃義 丸山 真佐夫
ソフトテニス部	高橋 邦夫 山下 哲 岡本 保
サッカー部	平安 隆雄 岡本 峰基 米村 恵一
柔道部	清野 哲也 鈴木 道治
陸上競技部	坂田 洋満 大塚 浩史 坂元 周作
山岳部	白井 邦人
空手部	小平 眞次 浅野 洋介
水泳部	大橋 太郎 荒木 英彦 黒田 孝春
バドミントン部	東 雄二 上原 正啓
ホッケー部	石田 博樹 山下 哲 青木 優介
ラグビー部	大木 正喜 青木 優介
テニス部	高上 輝雄 石出 忠輝 橘川 五郎 坂元 周作
ゴルフ部	大木 正喜
剣道部	内田 洋彰 田村 和士

STG指導教員	大木正喜(環境都市工学科)・鈴木 聡(電子制御工学科)
---------	-----------------------------

(平成17年4月1日現在)

運動系クラブ

クラブ名	指導教員
女子バレーボール部	篠村 朋樹 石井 孝一 米村 恵一
女子ホッケー部	石田 博樹 山下 哲 青木 優介
女子バスケットボール部	加藤 達彦 岩崎 洋一 飯田 聡子 大枝 真一

同好会

同好会名	指導教員
化学研究同好会	相川 正美 吉崎 静男 吉井 文子
文芸同好会	高遠 節夫 加藤 達彦 武長 玄次郎
ロボット研究同好会	黒田 隆春 鶴田 正俊 浅野 洋介
RPG研究同好会	高遠 節夫 吉井 文子
土木技術研究同好会	黒川 章二 青木 優介
環境研究同好会	上村 繁樹 福地 健一 高橋 克夫 高石 斌夫
体操競技同好会	五十嵐 譲介
英語研究同好会	中村 俊昭 小澤 健志 岩崎 洋一 荒木 英彦 室井 美穂子
地盤研究同好会	鬼塚 信弘
見呂工房同好会	五十嵐 譲介
美術同好会	天摩 勝洋 関口 昌由
女子テニス同好会	高上 輝雄 橘川 五郎 坂元 周作
合気道同好会	和田 州平
ドイツ語研究同好会	柴田 育子 荒木 英彦
プログラミング研究同好会	丸山 真佐夫

クラブ活動の予定表

3月分施設使用予定及び活動予定

演劇部 高遠	吹奏楽部 大澤	囲碁部 大藤	部外者	女子バレーボール部 米村	男子バレーボール部 篠村	バスケット部 加藤	女子バスケット部 飯田	バドミントン部 栗	空手部 浅野	剣道部 内田	卓球部 丸山	部外者	柔道部 清野
2J	J4	M2		E3	D5	E2	C3	M5	M4				C4
第二講義室	図書館ホール		第一体育館	第二体育館	第一・二体育館	第二体育館	第二体育館	第一体育館	第一体育館	第一体育館	第一体育館	武道場	武道場
1	17:00~20:00		19:45~21:45										
2	16:00~20:00		19:30~21:30										
3	17:00~20:00												
4	リハーサル(市民会館)			12:00~18:00	慶応大学	9:00~12:30		9:00~18:00	9:00~17:00				7:30~20:00
5	9:00~19:00			慶応大学	慶応大学	13:00~17:30		9:00~16:00	8:00~17:00	関東高専新人選抜大会			関東高専新人選抜大会
6	17:00~20:00					9:00~12:30				関東高専新人選抜大会			関東高専新人選抜大会
7	9:00~19:00					13:00~17:30							
8	9:00~19:00		19:45~21:45			9:00~12:30							
9	9:00~19:00		19:30~21:30										
10	9:00~19:00				7:00~17:00						13:00~15:00		
11	定期演奏会(市民会館)			8:00~13:00	7:00~17:00			9:00~16:00	合宿所		13:00~15:00		
12	9:00~19:00			8:00~13:00	7:00~17:00			9:00~16:00	合宿所				7:30~20:00
13	9:00~19:00			8:00~13:00	7:00~19:00			9:00~16:00	合宿所				7:30~20:00
14	9:00~19:00												
15	9:00~19:00		19:45~21:45		7:00~17:00	合宿所							
16	9:00~17:00		19:30~21:30		7:00~17:00	合宿所							
17	9:00~17:00					合宿所							
18	9:00~17:00				練習試合(木高)								7:30~20:00
19	9:00~17:00				練習試合(紅陵高校)								7:30~20:00
20	9:00~17:00												
21	9:00~17:00				7:00~17:00	13:00~17:30		9:00~16:00	合宿所				7:30~20:00
22	9:00~17:00		19:45~21:45		山口県スポーツ	9:00~12:30		9:00~17:00			10:00~14:00		
23	9:00~17:00		19:30~21:30		山口県スポーツ	13:00~17:30		9:00~17:00			10:00~14:00		
24	9:00~17:00			郵筒高専(合宿)	山口県スポーツ	9:00~12:30		9:00~17:00			10:00~14:00		
25	9:00~17:00				山口県スポーツ	13:00~17:30		9:00~16:00	8:00~17:00				別荘高校親善大会
26	9:00~19:00							9:00~16:00	8:00~17:00				別荘高校親善大会
27	9:00~17:00				合同大会(東洋風神館高)	航空高専		9:00~17:00	8:00~17:00				別荘高校親善大会
28	9:00~17:00				合同大会(東洋風神館高)			9:00~17:00	8:00~17:00		10:00~15:00		別荘高校親善大会
29	9:00~17:00		19:45~21:45		合同大会(木高)			9:00~17:00	8:00~17:00		10:00~15:00		別荘高校親善大会
30	9:00~17:00		19:30~21:30		合同大会(木高)			9:00~17:00	8:00~17:00		10:00~15:00		別荘高校親善大会
31	9:00~17:00				合同大会(木高)	13:00~17:30		9:00~17:00	8:00~17:00		10:00~15:00		別荘高校親善大会

資料5-4-②-8 (2/2)

野球部	ラグビー部	陸上競技部	サッカー部	女子サッカー部	ソフトテニス部	テニス部	水泳部	ゴルフ部	ロボット研 同好会	文芸同好会
板垣	大木	坂田	石田	石田	高橋邦	高上	荒木	大木	高遠	稲田
M3	M4	D3	C3		C4	D4		C3	J4	E2
野球場 前第一 体育館	グラウンド	グラウンド、第一体 育館(2F)	サッカー場	サッカー場	テニスコート	テニスコート	プール		視聴覚室	ものづくり室B 第3講義室
17:00~19:00									15:00~19:30	
15:00~19:00										
17:00~19:00										
8:00~13:00	13:00~19:00合 宿所	8:00~18:00	練習試合(白子)			8:00~19:00				
8:00~13:00			練習試合(白子)			8:00~19:00				
13:00~17:00						8:00~19:00				
9:00~17:00		高津競技場				8:00~19:00			8:50~19:30	
9:00~17:00						8:00~19:00			8:50~19:30	
9:00~17:00		高津競技場				8:00~19:00			8:50~19:30	
9:00~17:00						8:00~19:00			8:50~19:30	
9:00~17:00		8:00~18:00				練習国際高 合宿所				
9:00~17:00		合宿所				合宿所				
9:00~17:00		高津競技場、合宿所				関東高専新人 大会(射空) 合宿所			8:50~19:30	
9:00~17:00		高津競技場、合宿所	合宿所	合宿所		関東高専新人 大会 合宿所			8:50~19:30	
9:00~17:00		合宿所	合宿所	合宿所		関東高専 大会 合宿所			8:50~19:30	
合宿所		高津競技場、合宿所	合宿所	合宿所	合宿所	関東高専 大会 合宿所			8:50~19:30	
合宿所		合宿所	合宿所	合宿所	合宿所	関東高専 大会 合宿所			8:50~19:30	
9:00~13:00		8:00~18:00	合宿所	合宿所	合宿所	練習試合(君高)				
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
		合宿佐倉競技場	合宿所	合宿所	合宿所	練習試合(君高)				
		合宿佐倉競技場	合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
		合宿佐倉競技場、合宿所	合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
		合宿佐倉競技場、合宿所	合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~13:00		合宿佐倉競技場、合宿所	合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00		8:00~18:00	合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	
9:00~17:00			合宿所	合宿所	合宿所				8:50~19:30	

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

生活指導面では学級担任を中心とした学生支援体制が整っており、学生の指導上の要点をマニュアル化した「学級担任の手引き」を活用してきめ細かい生活指導を行っている。悩みや不安を抱える学生に対しては、学生相談室委員が組織されると共にカウンセラーが週1回来校し、学生の相談に乗ることで不安や悩みの解消に努めている。この他にも、通学で車両を使用する学生に対して実技講習を義務づけて交通安全に関する知識と技術を身につけてもらい安全に通学できるよう配慮している。また、学生組織である校友会が存在し、規約に従って活発な課外活動がなされている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係わる状況)

本校の専攻科は学位授与機構の認定を受けている。そのため準学士課程卒業後に専攻科課程に進学し、積み上げ単位の修得及び学習評価レポートの作成を行った後、修得単位の審査及び学習成果・試験の審査を受け合格すると大学の学部卒業時に得られる学位と同じ学士が授与される仕組みとなっている。また、基準1に示した本校の専攻科課程の学習・教育目標は、準学士課程の4～5学年と専攻科1～2学年で構成される「生産システム工学」プログラムと同じである(資料5-5-①-1)。これらのことから、専攻科課程1～2学年の教育課程は準学士課程4～5学年の教育課程との連携を考慮したものとなっている。準学士課程5学科の教育課程(4～5学年)と専攻科課程の教育課程の連携が学習・教育目標の細項目ごとになされていることを示すために、準学士課程4～5学年と専攻科課程1～2学年の授業科目の流れを機械工学科(資料5-5-①-2)、電気電子工学科(資料5-5-①-3)、電子制御工学科(資料5-5-①-4)、情報工学科(資料5-5-①-5)、環境都市工学科(資料5-5-①-6)に示す。

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

・数学及び自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題を解けること

・実験を通して現象を理解できること

(B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。

・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工学的な現象を理解できること

(B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。

・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身につけること

(B-4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的技術を身につけること

(C) コミュニケーション能力

国際化及び高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者

(C-1) 日本語の記述能力を身につける。

・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、TPOに即した言葉で表現できること

(C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。

・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内容を発表・討論できること

(C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

・社会で国際的に通用する英語力を身につけること

・科学技術に関する記事を通して、英文読解と英作文ができること

(D) 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者

卒業研究や専攻科特別研究などを通して修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

・修得した専門知識を用いること

・問題を解決するために、創意工夫して問題を解決できること

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(履修の手引から抜粋)

「生産システム工学」教育プログラムでは、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として

自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力及実践力を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力

2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力

3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

をめぐり、以下の4点を持った技術者の育成を学習・教育目標としている。

(A) 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を履行しうる技術者

(A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。

・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯スポーツの礎を構築できること

・科学技術が人々の生活や思想に与えた影響を単なる是非の論議に陥ることなく、ラディカルに再検討できること

(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

・第2次世界大戦及び戦後世界史を通して技術者が持つべき社会観を構築できること、また最近起きた技術に関わる事件、事故の検討などを通して技術者の社会に対する責任について自覚し、モラルや倫理について理解できること

・社会経済の発展や人口問題などと地球環境問題との関わりについて理解できること

・環境汚染、地球温暖化、オゾンホール等の現代の地球環境問題についての幅広い基礎知識の修得及びそれらを化学的かつ地球科学的に捉えること

(B) 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術について、その基礎となる理論及び原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者

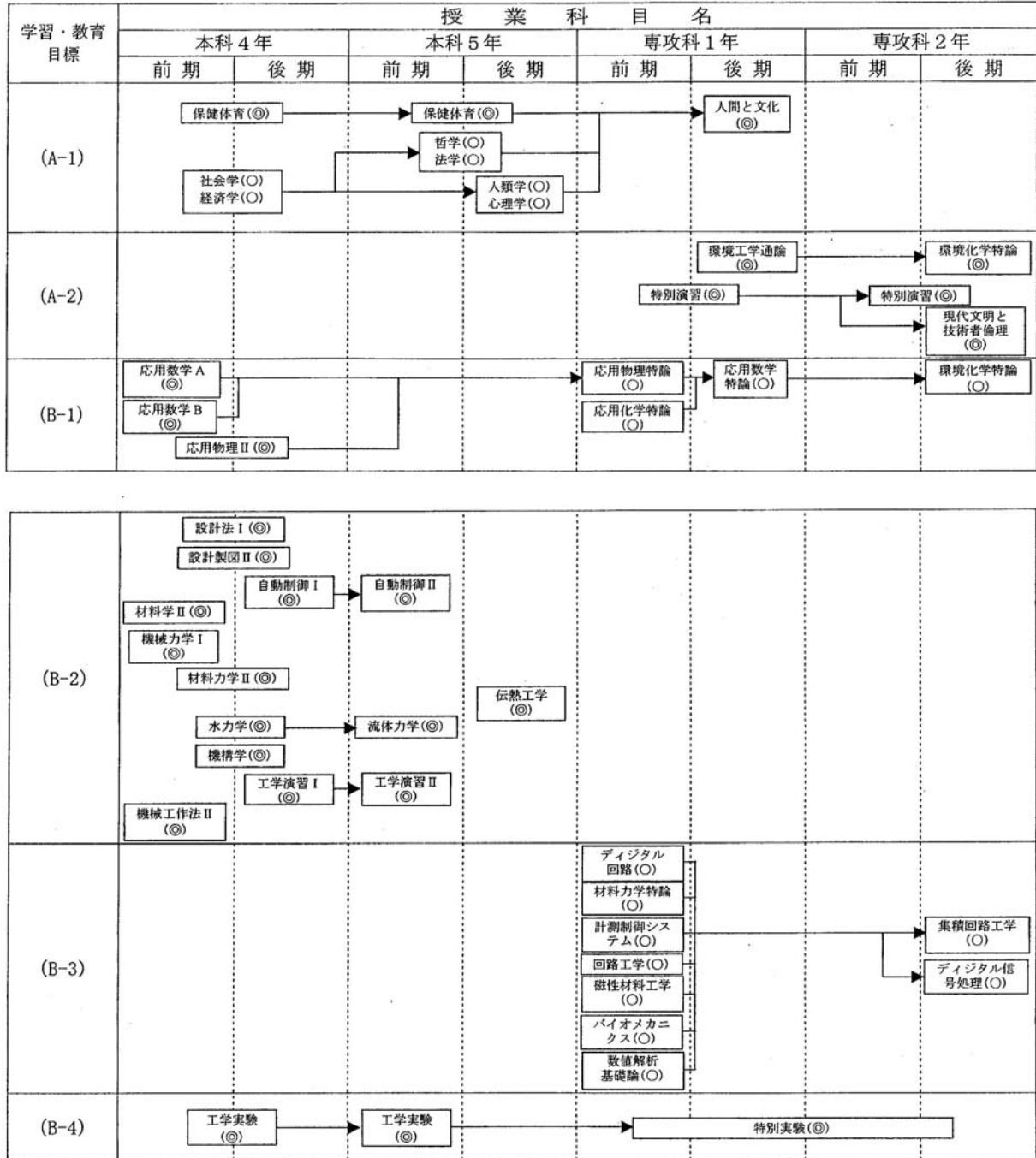
(B-1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

(出典 平成17年度学生便覧)

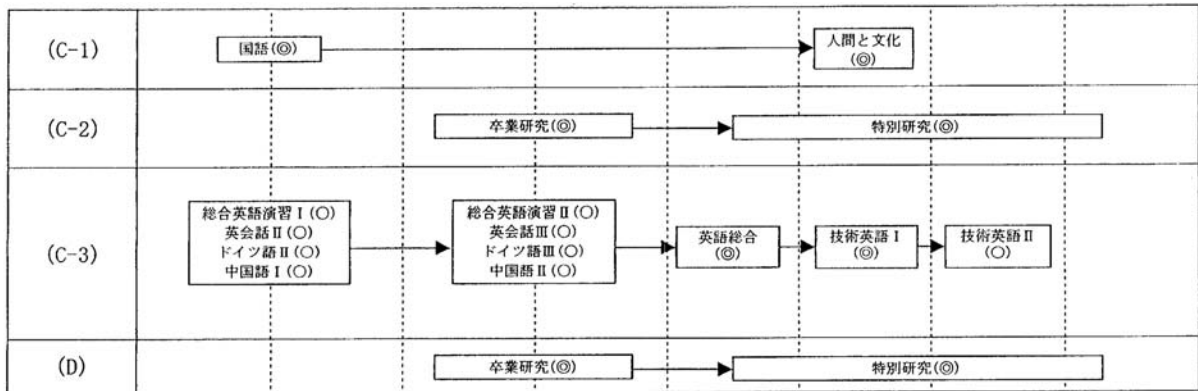
資料 5-5-①-2 (1/2)

資料番号 3.2-1

表 6-1 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科)



資料 5-5-①-2 (2/2)



◎ : 必修科目 ○ : 必修選択科目及び選択科目

(出典 「生産システム工学」プログラム 自己点検書 (引用・裏付資料))

資料番号 3.2-2

表 6 - 2 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電気電子工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	保健体育(◎) 社会学(O) 経済学(O)		保健体育(◎) 哲学(O) 法学(O)	人類学(O) 心理学(O)		人間と文化(◎)		
(A-2)					環境工学通論(◎) 特別演習(◎)		環境化学特論(◎) 特別演習(◎) 現代文明と技術者倫理(◎)	
(B-1)	応用数学 A(◎)	応用数学 C(◎)			応用物理特論(O) 応用化学特論(O)	応用数学特論(O)	環境化学特論(O)	
(B-2)	電気機器(◎) 電気回路Ⅲ(◎) 電子回路Ⅰ(◎) 電子デバイス(◎) 自動制御Ⅰ(◎)		電気電子材料(◎)	自動制御Ⅰ(◎)				
(B-3)					デジタル回路(O) 材料力学特論(O) 計測制御システム(O) 回路工学(O) 磁性材料工学(O) バイオメカニクス(O) 数値解析基礎論(O)		集積回路工学(O) デジタル信号処理(O)	
(B-4)	電気電子工学実験(◎)		電気電子工学実験(◎)			特別実験(◎)		
(C-1)	国語(◎)					人間と文化(◎)		
(C-2)			卒業研究(◎)			特別研究(◎)		
(C-3)	総合英語演習Ⅰ(O) 英会話Ⅱ(O) ドイツ語Ⅱ(O) 中国語Ⅰ(O)		総合英語演習Ⅱ(O) 英会話Ⅲ(O) ドイツ語Ⅲ(O) 中国語Ⅱ(O)		英語総合(◎)	技術英語Ⅰ(◎)	技術英語Ⅱ(O)	
(D)			卒業研究(◎)			特別研究(◎)		

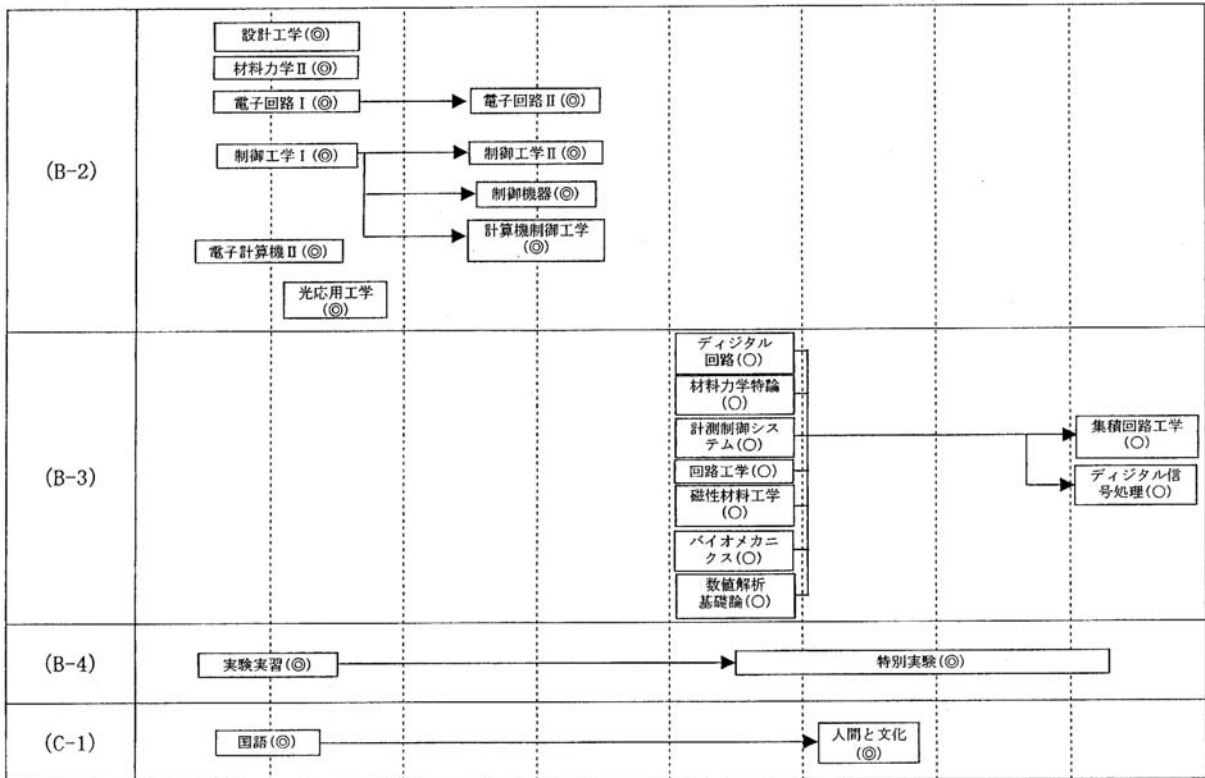
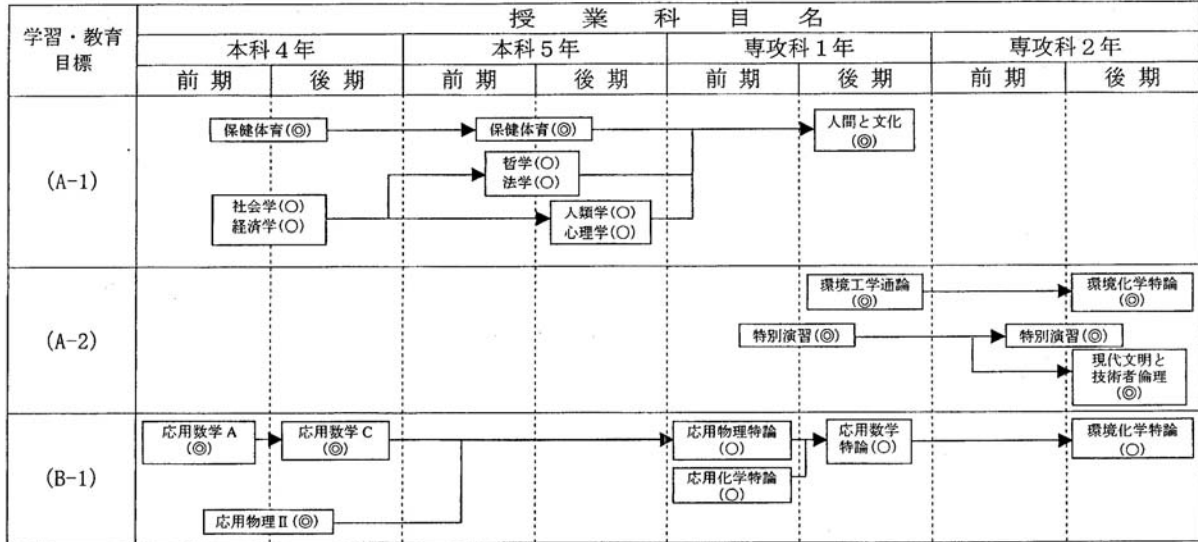
◎ : 必修科目 ○ : 必修選択科目及び選択科目

(出典 「生産システム工学」プログラム 自己点検書 (引用・裏付資料))

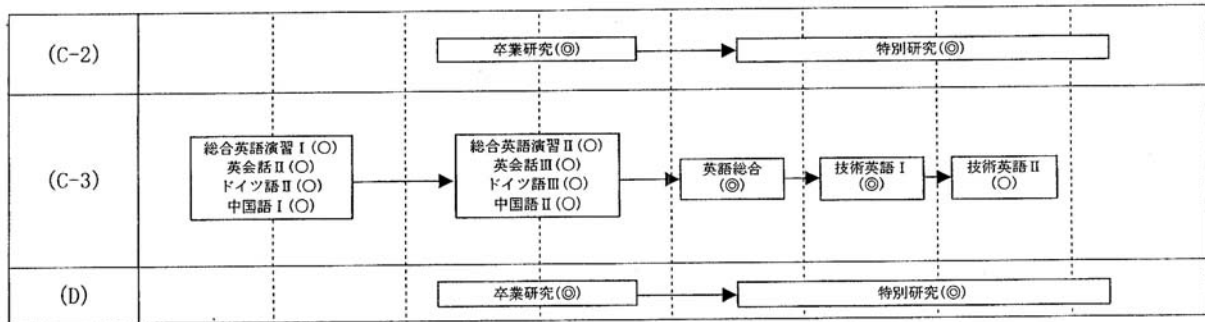
資料 5-5-①-4 (1/2)

資料番号 3.2-3

表 6-3 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学科)



資料 5-5-①-4 (2/2)



◎ : 必修科目 ○ : 必修選択科目及び選択科目

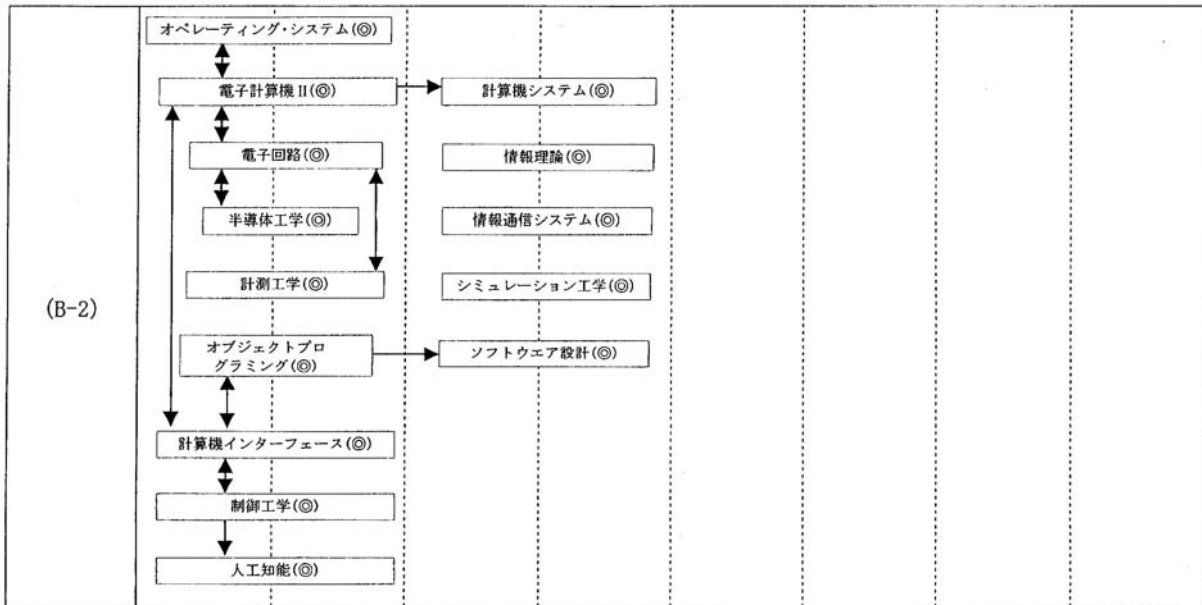
(出典 「生産システム工学」プログラム 自己点検書 (引用・裏付資料))

資料 5-5-①-5 (1/2)

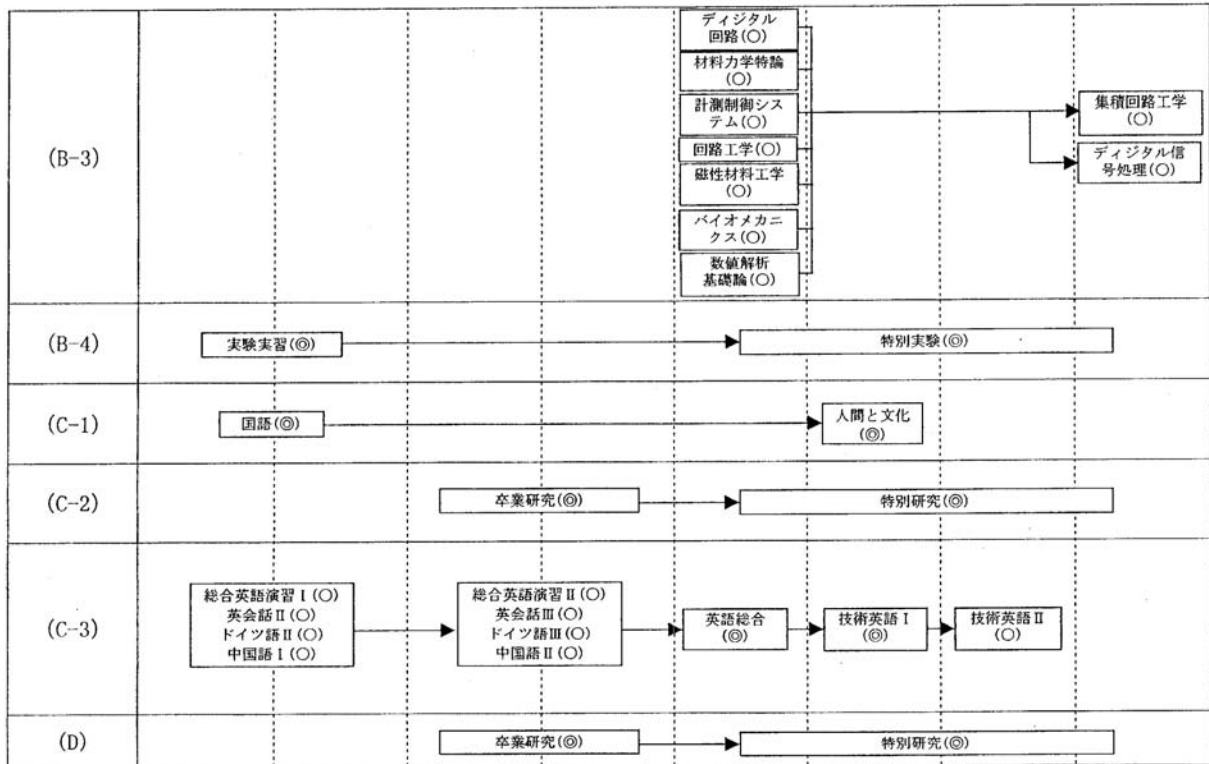
資料番号 3.2-4

表 6-4 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (情報工学科)

学習・教育目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	保健体育(◎) 社会学(O) 経済学(O)		保健体育(◎) 哲学(O) 法学(O)	人類学(O) 心理学(O)		人間と文化(◎)		
(A-2)					環境工学通論(◎) 特別演習(◎)		環境化学特論(◎) 特別演習(◎) 現代文明と技術者倫理(◎)	
(B-1)	応用数学 A(◎) 応用物理 II(◎)	応用数学 C(◎)			応用物理特論(O) 応用化学特論(O)	応用数学特論(O)	環境化学特論(O)	



資料 5-5-①-5 (2/2)



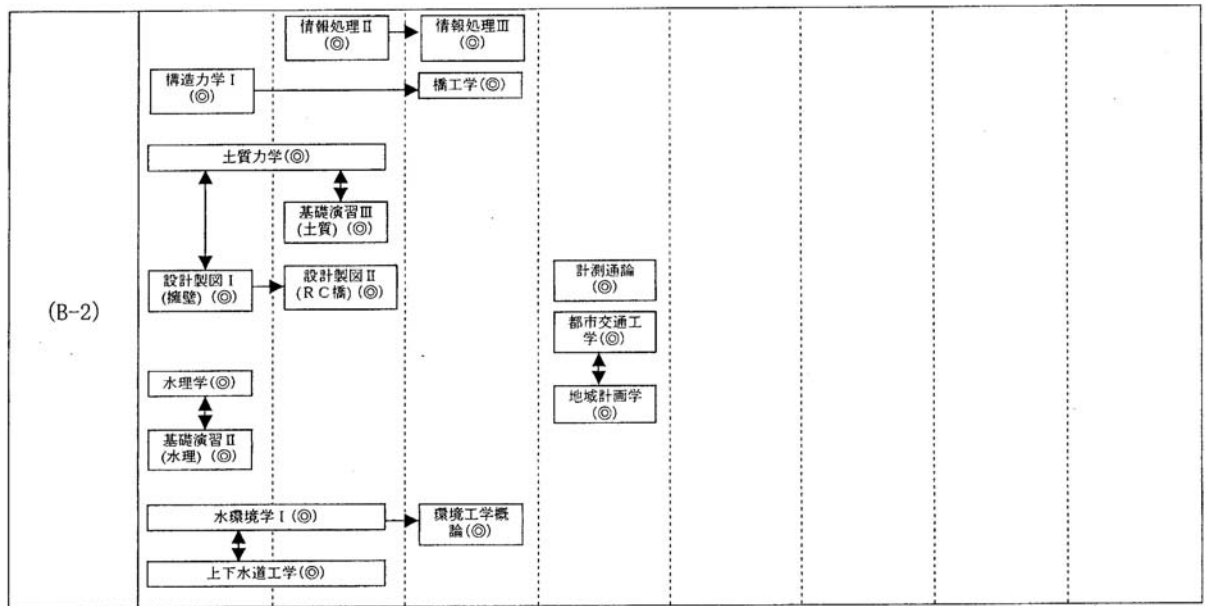
◎ : 必修科目 ○ : 必修選択科目及び選択科目

(出典 「生産システム工学」プログラム 自己点検書 (引用・裏付資料))

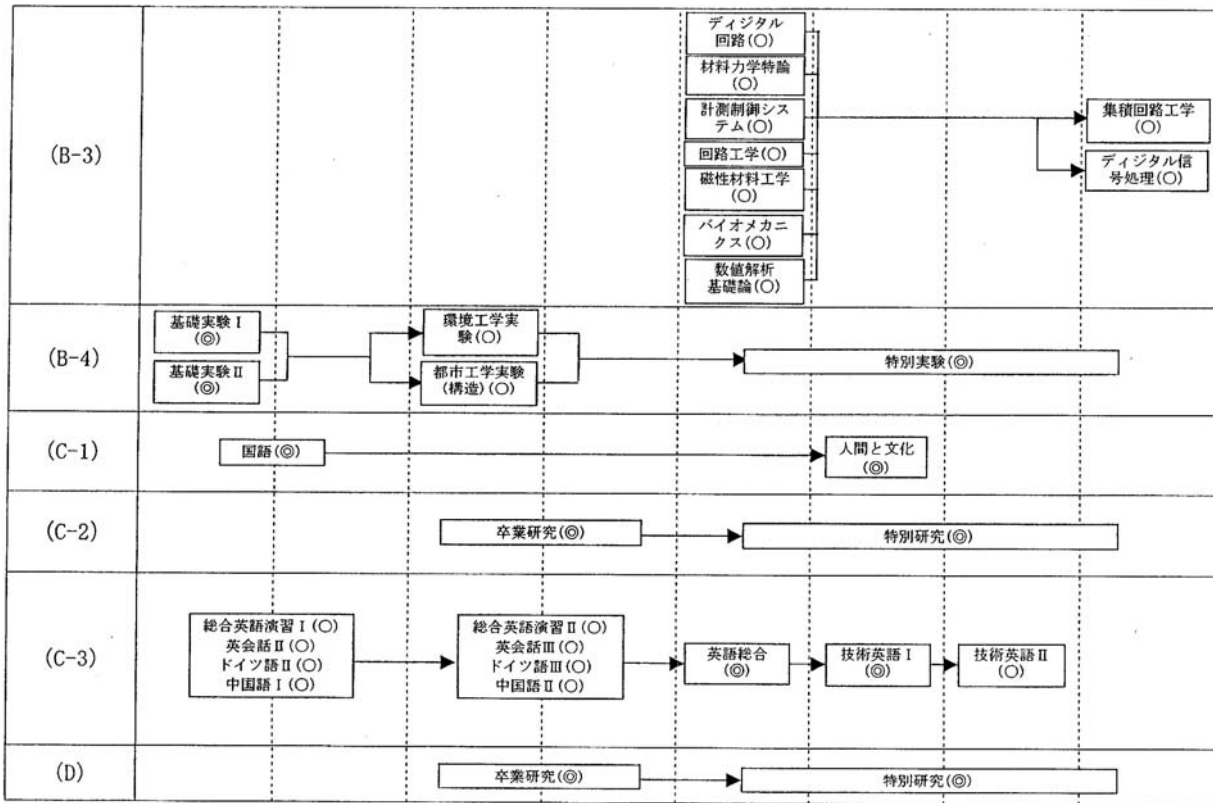
資料番号 3.2-5

表 6-5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (環境都市工学科)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	保健体育(◎) 社会学(○) 経済学(○)		保健体育(◎) 哲学(○) 法学(○)	人間学(○) 心理学(○)	人間と文化(◎)			
(A-2)					環境工学通論(◎) 特別演習(◎)		環境化学特論(◎) 特別演習(◎) 現代文明と 技術者倫理(◎)	
(B-1)	応用数学 A(◎) 応用数学 B(◎) 応用物理 II(◎)				応用物理特論(○) 応用化学特論(○)	応用数学特論(○)	環境化学特論(○)	



資料 5-5-①-6 (2/2)



◎ : 必修科目 ○ : 必修選択科目及び選択科目

(出典 「生産システム工学」プログラム 自己点検書 (引用・裏付資料))

(分析結果とその根拠理由)

専攻科修了時に学位授与申請ができることから、準学士課程と専攻科課程の授業課程の連携が考慮されているといえる。また、専攻科の教育課程は、準学士課程の4～5学年と専攻科1～2学年で構成される「生産システム工学」プログラムの学習・教育目標を達成することを考慮した構成となっている。この点からも専攻科課程と準学士課程の教育課程が連携を考慮したものであるといえる。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる）され、教育課程の体系的性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係わる状況)

本校の専攻科には、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻あり、準学士課程で修得した知識を基にしてより高度な教育・研究指導を行っている。特に専攻科課程では各学科で学んだ専門分野だけでなく、異分野にも積極的にふれ、幅広い分野に対応できる人材を育成することをめざしたカリキュラム設計を行っている。専攻科課程には、一般科目、専門共通科目、専門専攻科目があり、一般科目では人文・社会学系科目、専門共通科目で異分野の専門科目、専門専攻科目では準学士課程で学んだ分野についてより高度な内容の専門科目を学ぶ。

専攻科課程の学習・教育目標を達成するために必要な各専攻の授業科目の流れについて分析したものを示す(資料5-5-②-1)。各専攻の授業科目が適切に配置され体系的性が保たれていることを示すため、学習・教育目標の各項目に分類した授業科目の流れを機械・電子システム工学専攻(資料5-5-②-2)、制御・情報システム工学専攻(資料5-5-②-3)、環境建設工学専攻(資料5-5-②-4)に示す。

専攻科課程の授業科目の流れの説明

1. 人間形成

1. (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。

豊かな人間性の基本となる幅広い教養を身につけるために、専攻科では3専攻とも必修科目として「人間と文化」及び「現代文明と技術者倫理」の授業を開講している。

1. (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

「環境工学通論」、「環境化学特論」により環境問題を科学的に理解させ、科学技術が地域環境に及ぼす影響を自覚させる。また、「特別演習」での技術者倫理事例研究及び「現代文明と技術者倫理」により技術者の社会的責任を自覚できるようにする。

2. 科学技術の修得と応用

2. (1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

専門共通科目として「応用物理特論」、「応用化学特論」及び「応用数学特論」が開講されており、各自の興味に応じて選択できるようになっている。

2. (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。

準学士課程で身につけた専門分野の基礎知識を基に、より高度な専門性を身につけられるような授業が各専攻で専門専攻科目の選択科目として開講されており、各自の興味に応じて選択できるようになっている。

2. (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。

「デジタル回路」、「材料力学特論」、「計測制御システム」、「回路工学」、「磁性材料工学」、「バイオメカニクス」、「数値解析基礎論」、「集積回路工学」、「デジタル信号処理」といった、異なる技術分野の授業を専門共通科目の選択科目として開講し、各自の興味に応じて選択できるようにしている。また、担当教員は、他の専攻の学生でも無理なく受講できるような授業内容としている。

2. (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

機械・電子システム専攻は1, 2学年で、他の2専攻は1学年で「特別実験」を必修科目として開講している。ただし、3専攻とも総単位数は4単位となっている。

3. コミュニケーション能力

3. (1) 日本語の記述能力を身につける。

1年次に開講される「人間と文化」において、短作文や連句を通じて日本語の記述能力を伸ばしている。

3. (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。

1, 2学年の「特別研究」の中で、研究発表会では情報機器を用いて行うことになっている。

3. (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

1学年では「英語総合」、「技術英語Ⅰ」必修科目として履修することとなっている。また、2学年でも「技術英語Ⅱ」が専門共通の選択科目として履修することができる。

4. 創造力

4. (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

1, 2学年の「特別研究」を通して、各指導教員の下で研究を行う課程において創造力と問題解決能力を身につける。

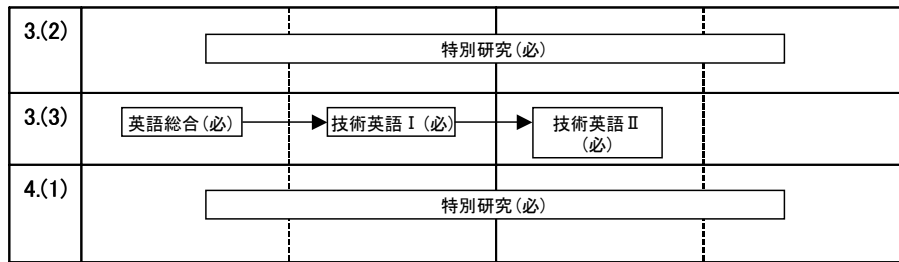
(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5-5-②-2 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(機械・電子システム工学専攻)

学習・教育目標	授 業 科 目 名			
	専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期
1.(1)		人間と文化(必)		現代文明と技術者倫理(必)
1.(2)		環境工学通論(必)	環境化学特論(必選)	現代文明と技術者倫理(必)
		特別演習(必)		
2.(1)	応用物理特論(必選) 応用化学特論(必選)	応用数学特論(必選)		
2.(2)	電磁波工学(選) 生産工学(選) 設計工学特論(選)	エネルギー工学(選) 電子回路特論(選) トライボロジー(選) 破壊力学(選)	特別演習(必) 半導体物性(選) パワーエレクトロニクス特論(選) システム制御工学(選) 流体力学特論(選)	ミリ波・サブミリ波工学(選) オプトメカトロニクス工学(選)
2.(3)	回路工学(選) 磁性材料工学(選) 材料力学特論(選) バイオメカニクス(選) デジタル回路(選) 数値解析基礎論(選) 計測制御システム(選)			デジタル信号処理(選) 集積回路工学(選)
2.(4)		特別実験(必)		
3.(1)		人間と文化(必)		

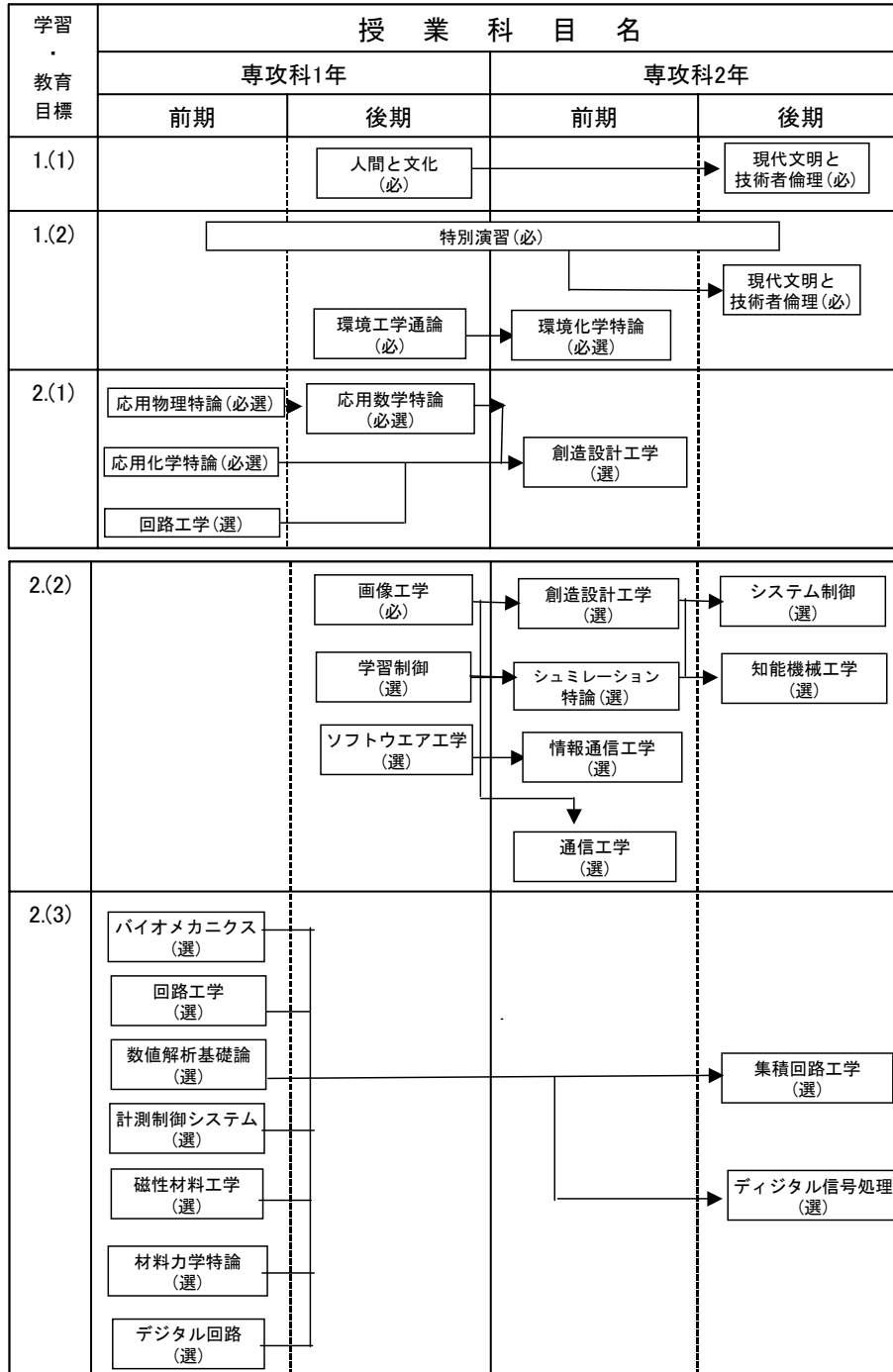
資料 5 - 5 - ② - 2 (2 / 2)



(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 5 - ② - 3 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(制御・情報システム専攻)



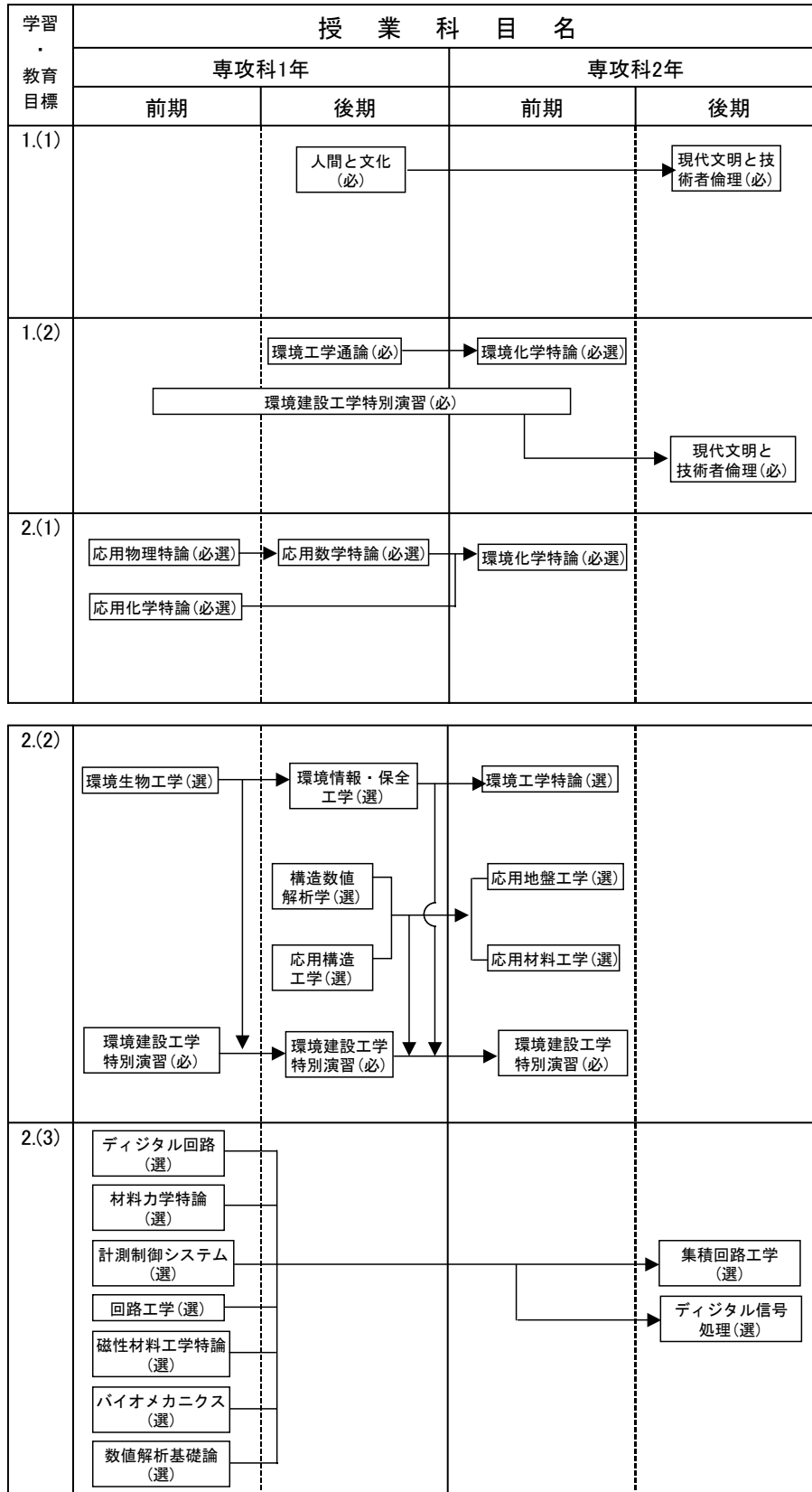
資料 5-5-②-3 (2/2)

2.(4)	特別実験 (必)		
3.(1)	人間と文化 (必)		
3.(2)	特別研究 (必)	→	特別研究 (必)
3.(3)	英語総合 (必)	→	技術英語 I (必)
		→	技術英語 II (選)
4.(1)	特別研究 (必)	→	特別研究 (必)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 5 - 5 - ② - 4 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(環境建設工学専攻)



資料 5-5-②-4 (2/2)

2.(4)	環境建設工学特別実験(必)			
3.(1)		人間と文化 (必)		
3.(2)	環境建設工学特別研究(必)			
3.(3)	英語総合(必)	→ 技術英語 I (必)	→ 技術英語 II (必選)	
4.(1)	環境建設工学特別研究(必)			

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻ごとに専攻科の学習・教育目標を達成することを目的とした授業科目の流れ(体系的)が構築されている。

観点 5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる）に配慮しているか。

(観点到に係わる状況)

学生の他分野の専門を学習したいといったニーズに応えるため，専攻科では他専攻で開設されている専門専攻の選択科目を8単位を超えない範囲で履修することを認めている。他にも，他の高等教育機関で開設されている授業科目についても最大で4単位まで専攻科課程における単位として認定することができる。これらのことは学生便覧記載の「専攻科授業科目の履修等に関する規程」の第9条及び第10条に明記されている(資料5-5-③-1)。

専攻科課程におけるインターンシップを平成18年度から専門共通の選択科目として開設し，学生が会社での実務経験を積む貴重な機会を提供している(資料5-5-③-2)。

資料5-5-③-1

専攻科授業科目の履修等に関する規程

第9条 本校の他専攻で開設されている選択科目(専門専攻科目)の履修を希望する者は，あらかじめ専攻主任の許可を得たうえで，受講届けを提出しなければならない。これにより修得した単位は，8単位を超えない範囲で，専攻科における授業科目の履修とみなし，その単位の修得として認定することができる。

(他の教育施設で履修した単位認定)

第10条 他の高等専門学校の専攻科及び大学等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目を履修してその単位の認定を希望する者は，あらかじめ「大学等における学修許可願」を校長に提出しなければならない。また，大学等における学修を終了し単位の認定を受けようとするときは，「大学等における学修単位認定申請書」を校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は，シラバスを比較検討し，学則第43条に規定する別表第4の授業科目と置き換えて，最大4単位まで専攻科における単位として認定することができる。

3 前項より認定する単位は，単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

(出典 平成17年度学生便覧 83～84頁)

インターンシップのシラバス

授 業 科 目		インターンシップ	
開設学科学系	専攻科	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・選択・2単位
受講年科・学期	全専攻1年・前期	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	インターンシップ		
関 連 科 目	本科：学外実習，卒業研究，専攻科：特別研究，特別実験，特別演習，技術倫理		
担 当 教 官	石川雅朗，鈴木久夫，東 雄二		
連絡先(オフィス)	各教員の教官室（できたら、事前に電話やメールで予約をお願いしたい。）		
教 科 書			
補助教科書等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(D)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
就業体験をとおして、自分の専門分野に関する知識の程度を確認し、その能力を広げるかつ高める。仕事の進め方、人との接し方を学び、社会のルールを身につけ、人間としての成長をはかると共に各自が目指す技術者像をより明確にする。		・ 報告書と日誌の評価(60%)，受け入れ企業の評価(20%)，発表内容(20%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生を受け入れることは、受け入れ企業等には大きな負担であることに留意し、テーマに誠実に取り組み最大限の成果をあげるように努力する。 ・ 決められ時間を守り、規則を遵守し、挨拶等の社会人としての行動規範に基づき実習する。 ・ 実習中は、安全と健康管理に留意する。 ・ 期間3週間程度の実習を基準とする。 		
授 業 計 画			
項 目	内 容		時間数
・ ガイダンス(4月) ・ 実習申し込み(5月) ・ 実習先、テーマ決定(6月) ・ 実習(7・8月) ・ 報告会(9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ概要説明，受け入れ企業での心構え他 ・ 受け入れの企業や官庁等の中から企業等を選択し，実習先希望票で担当教員に申し込む。 ・ 調整の上，実習先やテーマを決定する。 ・ 実習先に通って，事前に打合せたテーマに従って実習を行い，毎日「実習日誌」を作成する。実習内容は、「インターンシップ報告書」にまとめて，実習先と担当教員に提出する。実習終了時に，実習先より「インターンシップ評価書」をもらう。 ・ 実習内容とその成果を「インターンシップ報告会」で発表する。 		2 90以上 2
合計授業時間数			94以上
評価方法	・ インターンシップ報告書と日誌の評価(60%)，受け入れ企業の評価(20%)，発表内容(20%)で評価する。		

(出典 平成18年度シラバス(専攻科) 14頁)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程の学習・教育目標の「異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける」を達成する助けとなるように、他専攻の専門専攻の選択科目と他高等教育機関の授業単位を認定する仕組みが整っている。また、学生の多様なニーズに応えるため、平成18年度よりインターンシップを専門共通の選択科目として開設している。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる)。

(観点到に係わる状況)

専攻科課程で開講されている授業の形態は講義、演習、実験・実習に分類される。専攻科課程では、深い専門性と職業に必要な能力を有する実践的技術者を育成するためには、専門分野の工学的現象や問題の解析及び解決能力を育成する必要があるといった考えから、実験実習科目である「特別実験」と「特別研究」が重要視されている。そのため、3専攻とも必修科目として、「特別実験」4単位、「特別研究」16単位と多くの単位数が設定されている(資料5-6-①-1)、(資料5-6-①-2)、(資料5-6-①-3)。

この他、「技術英語Ⅰ」では英字新聞や日本工業新聞を教材として用いて、英語の読解力と英作文の能力を向上させる工夫をしている(資料5-6-①-4)。「応用化学特論」の授業形態は講義だが、講義の最終段階で、それまでに学習した科学的観点から自分の専攻分野に関する課題発表を行うといった工夫をしている(資料5-6-①-5)。

専攻科の教育課程表（機械・電子システム工学専攻）

専攻科

機械・電子システム工学専攻（平成16年度以降の入学者）

区 分	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当		備 考	
			1 年	2 年		
一般科目	必修	英語総合	2	2		
		人間と文化	2	2		
		現代文明と技術者倫理	2		2	
	一般科目開設単位数	6	4	2	一般科目 修得単位 6	
専門科目	必修	技術英語 I	2	2		
		環境工学通論	2	2		
		応用数学特論	2	2		
		応用物理特論	2	2		
	必修選択	応用化学特論	2	2		
		環境化学特論	2		2	
	共通科目	選択	技術英語 II	2		2
			回路工学	2	2	
			磁性材料工学	2	2	
			材料力学特論	2	2	
			バイオメカニクス	2	2	
			デジタル回路	2	2	
			デジタル信号処理	2		2
			数値解析基礎論	2	2	
計測制御システム	2	2				
集積回路工学	2		2			
専門共通科目開設単位数	32	24	8	専門共通科目 修得単位20以上		
科目	必修	機械・電子システム工学特別研究	16	7	9	
		機械・電子システム工学特別実験	4	2	2	
		機械・電子システム工学特別演習	4	2	2	
	専門選択	専攻科目	エネルギー工学	2	2	
			ミリ波・サブミリ波工学	2		2
			電磁波工学	2	2	
			生産工学	2	2	
			オプトメカトロニクス工学	2		2
			電子回路特論	2	2	
			パワーエレクトロニクス特論	2		2
			トライボロジー	2	2	
			破壊力学	2	2	
			システム制御工学	2		2
	設計工学特論	2	2			
半導体物性	2		2			
流体力学特論	2		2			
専門専攻科目開設単位数	50	25	25	専門専攻科目 修得単位36以上		
専門専攻科目開設単位数	82	49	33	専門科目 修得単位56以上		
一般・専門科目開設単位数合計	88	53	35	一般・専門科目 修得単位62以上		

（出典 平成 17 年度学生便覧 28 頁）

専攻科の教育課程表 (制御・情報システム工学専攻)

専攻科

制御・情報システム工学専攻 (平成16年度以降の入学)

区分	授業科目	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
一般科目	必修 英語総合 人間と文化 現代文明と技術者倫理	2 2 2	2 2			
	一般科目開設単位数	6	4	2	一般科目 修得単位6	
専門科目	必修 技術英語I 環境工学通論	2 2	2 2			
	必修選択	応用数学特論	2	2		4科目中、2科目以上選択
		応用物理特論	2	2		
		応用化学特論	2	2		
	環境化学特論	2		2		
	共通科目	技術英語II	2		2	
		回路工学	2	2		
		磁性材料工学論	2	2		
		力学特論	2	2		
		バイオメカニクス	2	2		
		デジタル回路	2	2		
		デジタル信号処理	2		2	
		数値解析基礎論	2	2		
計測制御システム	2	2				
集積回路工学	2		2			
専門共通科目開設単位数	32	24	8	専門共通科目 修得単位20以上		
専門科目 専攻科目	必修 制御・情報システム工学特別研究 制御・情報システム工学特別実験 制御・情報システム工学特別演習	16 4 4	7 4 2	9 2		
	選択	ソフトウェア工学	2	2		
		情報通信工学	2		2	
		シミュレーション特論	2		2	
		画像工学	2	2		
		知能機械工学	2		2	
		システム制御	2		2	
		創造設計工学	2		2	
	学習制御	2	2			
	通信工学	2		2		
専門専攻科目開設単位数	42	19	23	専門専攻科目 修得単位36以上		
専門専攻科目開設単位数	74	43	31	専門科目 修得単位56以上		
一般・専門科目開設単位数合計	80	47	33	一般・専門科目 修得単位62以上		

(出典 平成17年度学生便覧 30頁)

専攻科の教育課程表（環境建設工学専攻）

専攻科

環境建設工学専攻（平成16年度以降の入学者）

区分	授業科目	単位数	学年別配当		備考		
			1年	2年			
一般科目	必修 英語総合 人間と文化 現代文明と技術者倫理	2 2 2	2 2				
	一般科目開設単位数	6	4	2	一般科目 修得単位6		
専門科目	必修 技術英語I 環境工学通論	2 2	2 2				
	必修選択 応用数学特論 応用物理特論 応用化学特論 環境化学特論	2 2 2 2	2 2 2		4科目中、2科目以上選択		
	共通科目 選択	技術英語II 回路工学	2 2		2		
		磁性材料工学 材料力学特論	2 2	2 2			
		バイオメカニクス デジタル回路	2 2	2 2			
		デジタル信号処理 数値解析基礎論	2 2		2		
		計測制御システム 集積回路工学	2 2	2 2			
		専門共通科目開設単位数	32	24	8	専門共通科目 修得単位20以上	
		専門科目 専攻科目 必修	環境建設工学特別研究 環境建設工学特別実験 環境建設工学特別演習	16 4 4	7 4 2	9 2	
			選択	応用構造工学 応用材料工学 応用地盤工学 構造数値解析学 環境情報・保全工学 環境工学特論 環境生物工学	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2
	専門専攻科目開設単位数			38	21	17	専門専攻科目 修得単位36以上
	専門専攻科目開設単位数			70	45	25	専門科目 修得単位56以上
	一般・専門科目開設単位数合計			76	49	27	一般・専門科目 修得単位62以上

（出典 平成17年度学生便覧 32頁）

技術英語 I のシラバス

授 業 科 目		技術英語 I	
開設学科学系	人文学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	専攻科1年全専攻・後期	授 業 形 態	講義・演習
キ ー ワ ー ド			
関 連 科 目	技術英語II		
担 当 教 員	中村俊昭		
連絡先(オフィス・アワー)	[REDACTED] (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	英字新聞・日本工業新聞の各記事		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(C-3)		
プログラム合格点	60点		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ Japan Times の与えられた記事の内容が理解できる。		定期試験と毎回の課題 (100点分の30点)	
・ 日本工業新聞の与えられた記事の内容を英語で伝える。		定期試験と毎回の課題 (100点分の20点)	
・ TOEICで400点をとれる語彙の獲得		定期試験と毎回の課題 (100点分の20点)	
・ Japan Times の与えられた記事の内容を英語で表現できる。		定期試験と毎回の課題 (100点分の30点)	
履 修 上 の 注 意	英語の能力には4つ(リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング)があるが、それらの力を維持するには、毎日30分でも英語に触れることが大切であるとされている。特に、リスニングやリーディングは学校の授業だけでは不足であるので、英字新聞・英語雑誌・TV・ラジオ・録音教材を用いて毎日欠かさずに家庭で学習するように心がけて欲しい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 授業の説明及び英語の学び方説明 練習問題 ・ 英字新聞記事の要約文作成	・ 授業がどのように進められるか、及び、これからどのように英語を学んでいくべきかを説明し、例として英字新聞の記事を読んで設問に答える形で要約文を作る。		13
後期中間試験	後期中間試験までの学習内容		2
・ 日本語記事の英語による要約文作成	・ 授業始めの30分を使ってTOEIC対応の問題をとき、解答をした後に解説をする。その後用意された日本語記事をくじによって割り当て、それについての英文要約をする。		15
後期定期試験			-
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
評価方法 および 評価基準	毎回提出する課題: 50% 中間及び定期試験: 50%		

(出典 平成17年度シラバス(専攻科)4頁)

資料 5 - 6 - ① - 5

応用化学特論のシラバス

授 業 科 目		応用化学特論	
開設学科学系	基礎学系	区分・単位数	専門共通科目・必修選択・2単位
受講年科・学期	全専攻科1年・前期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	ファインケミカルズ、金属材料、セラミクス・炭素材料、高分子材料、有機合成、機器分析、分子設計		
関 連 科 目	有機化学、無機化学、計算化学		
担 当 教 員	吉井 文子		
連絡先(オフィス・アワー)	[REDACTED] (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	必要に応じて資料の配布		
補 助 教 科 書 等	井上祥平 著、『化学 物質と材料の基礎』 化学同人 1998年 2000円 (+税)、および、野村正勝ほか著、『一目でわかる先端化学の基礎』 大阪大学出版会 2002年 2200円 (+税)		
参 考 図 書	E. Moore, "Molecular Modelling and Bonding (Molecular World)", 2002, Royal Society of Chemistry, および、『化学便覧 応用化学編 I、II』(教室にあり: 閲覧等希望者は申し出ること)		
プログラム目標	(B-1)		
プログラム合格点	60点		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 応用化学のねらいを理解する。また、日本における化学産業の動向を知る。		前期中間試験 (10%) で評価する。	
・ 主な化学物質と材料の原料、特性、用途、製法などを理解する。		前期中間試験 (30%) で評価する。	
・ 学習した物質の合成、計測、分子設計は、原子や分子のどのような特徴に着目したものかを理解する。		前期定期試験 (30%) で評価する。	
・ 学習した内容を理解し発展させ、自分の専攻分野との関連性を見出すことができる。		課題発表 (30%) で評価する。	
履 修 上 の 注 意	学習内容と、自分の日常生活や専攻分野との関連性を見出す努力をすること。課題発表では、講義で取り上げていないが専攻分野に関連が深いものを選択し、一般の人でも理解できるように工夫して発表すること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時間数	
・ 応用化学の概要	・ その目的、化学技術の変遷、日本における化学産業の規模	2	
・ 物質化学の基礎	・ 原子と分子、化学結合、化学反応に関する復習	2	
・ ファインケミカルズ	・ 医薬品、色素化合物、化粧品	2	
・ 金属材料	・ 鉄鋼、非鉄金属	2	
・ セラミクス、炭素材料	・ セラミクス、ファインセラミクス、ダイヤモンド、フラーレン	3	
・ 高分子材料	・ プラスチック、繊維、機能性高分子	3	
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容	2	
・ 物質の合成	・ 有機化学における物質をつくる簡単な反応例を解説	3	
・ 物質の計測	・ 物質を調べるX線解析、NMR、MSなどの機器分析の原理	3	
・ 分子設計	・ 分子模型の活用、コンピュータを用いた分子表示、分子設計にかかわる計算化学の概略	4	
・ 課題発表	・ 自分の専攻分野と関連が深い物質、材料、計測法などを選択し、化学的観点を含めて発表	4	
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容	—	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		30	
評価方法 および 評価基準	前期中間試験および前期定期試験を実施し、試験の成績を(70%)、課題発表状況を(30%)として評価する。		

(出典 平成17年度シラバス(専攻科) 8頁)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、深い専門性を有する実践的技術者の育成をめざしていることから、実験実習科目と「特別研究」が重要視された教育課程となっている。その他の講義においても、「技術英語Ⅰ」や「応用化学特論」など授業内容に合わせた担当教員の工夫がみられる。

観点 5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係わる状況)

本校では、学生の創造性を育む教育方法として、各専攻とも1，2学年の必修科目である「特別研究」を重要視している。「特別研究」において各指導教員の下で研究を行うことで学生の創造性を育てている（資料5-6-②-1），（資料5-6-②-2），（資料5-6-②-3）。その他の取り組みとして、平成18年度より、「問題解決技法」と「インターンシップ」を専門共通の選択科目として開設している（資料5-6-②-4），（資料5-5-③-2）。

特別研究のシラバス (機械・電子システム工学専攻)

授業科目			
学系	区 分	単 位 数	専 門 専 攻
機械工学科	電気電子工学科	9	専攻・必修・9単位
ME専攻2年・通年			特別研究
キーワード	研究、総まとめ		
関連科目	今まで学んだすべての科目		
担当教員	機械・電子システム工学専攻の全教員		
連絡先(TEL/FAX)	事前にメール等により調整を行った上で質問に答ずる。		
教科書	各指導教官が紹介する。例えば、関連の学会論文や専門書など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	特別研究発表会(30%)で評価する。		
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	特別研究発表会(15%)および特別研究論文(25%)で評価する。		
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	特別研究発表会(15%)および特別研究論文(15%)で評価する。		
履修上の注意	図書館などを利用して、文献を調べ、自主的に研究を進める姿勢が大切である。研究は正解のはっきり出していない解析や実験を行うことが多く、未解決の問題をいつも頭の片隅において、その解決策を練る努力が必要である。		
授業計画	研究テーマの例を次に示す。2月に特別研究発表会を行う。		
人体のバイオメカニクスに関する研究			
腕による物体移動の動作解析			
交差型二円筒試験機の開発と強度評価			
射出成形プラスチック歯車の強度に関する研究			
6足歩行ロボットの歩行制御および歩容に関する研究			
樹脂面の質感評価に関する研究			
玉軸受を使用した電動機の異常振動とそれに付随して発生する音の関係			
テラヘルツ受信機のフロントエンドの設計と製作			
ヒューマンインテーフエースに関する研究			
フィルタと共振回路を中心としたアナログ電子回路			
DC/DCコンバータ、及びインバータの設計とその応用			
電磁波および静電波の解析について			
超伝導体薄膜に関する研究			
タンデム型太陽電池用 In ₂ Se ₃ 多結晶薄膜に関する研究			
PDP 模擬電極を用いたバリア放電特性			
磁性薄膜を用いたセンサに関する研究			
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		405	
評価方法	特別研究発表会(60%)および特別研究論文(40%)で評価する。		
および			
評価基準			

授業科目			
学系	区 分	単 位 数	専 門 専 攻
機械工学科	電気電子工学科	7	専攻・必修・7単位
ME専攻1年・通年			特別研究
キーワード	研究、総まとめ		
関連科目	今まで学んだすべての科目		
担当教員	機械・電子システム工学専攻の全教員		
連絡先(TEL/FAX)	事前にメール等により調整を行った上で質問に答ずる。		
教科書	各指導教官が紹介する。例えば、関連の学会論文や専門書など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	中間発表会(30%)で評価する。		
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	中間発表会(15%)および年間報告書(25%)で評価する。		
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	中間発表会(15%)および年間報告書(15%)で評価する。		
履修上の注意	図書館などを利用して、文献を調べ、自主的に研究を進める姿勢が大切である。研究は正解のはっきり出していない解析や実験を行うことが多く、未解決の問題をいつも頭の片隅において、その解決策を練る努力が必要である。		
授業計画	研究テーマの例を次に示す。後期初めに中間発表会を行う。		
アルミニウム合金の機械的特性			
人体のバイオメカニクスに関する研究			
YAGレーザーによるSi マイクロ加工のシミュレーション解析			
実習用教材としての機構モデルの開発			
歯車周りの流体の流れに関する研究			
平歯車の本体温度に関する研究			
エンジン部に切り落しを有する角柱に働く非定常空力経減に関する研究			
大迎角を持つ軸対称物体背後に生じる剥離渦構造の解明			
フレキシブルアームの力制御に関する研究			
樹脂面の質感評価に関する研究			
玉軸受を使用した電動機の異常振動とそれに付随して発生する音の関係			
テラヘルツ受信機のフロントエンドの設計と製作			
ヒューマンインテーフエースに関する研究			
フィルタと共振回路を中心としたアナログ電子回路			
DC/DCコンバータ、及びインバータの設計とその応用			
電磁波および静電波の解析について			
超伝導体薄膜に関する研究			
放射線検出用 CuZnTe 多結晶膜に関する研究			
PDP 模擬電極を用いたバリア放電特性			
磁性薄膜を用いたセンサに関する研究			
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		315	
評価方法	中間発表会(60%)および年間報告書(40%)で評価する。		
および			
評価基準			

特別研究のシラバス (制御・情報システム工学専攻)

授業科目		制御・情報システム工学特別研究	
開設学系	電子制御工学系	区分・単位数	専門専攻・必修・9単位
開設学年・学期	D1 専攻1年・通年	授業形態	研究
キーワード	研究、プレゼンテーション		
関連科目	電子制御工学系・情報システム工学専攻の全教員		
担当教官	制御・情報システム工学専攻の全教員		
連絡先(アドレス)	事前にメール等により調整を行ったうえで質問に答える。		
教科書	各指導教員が紹介する文献や専門書など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み) ・ 研究発表について、発表・討論する能力を身につける。 ・ 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 ・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力をつける。		
履修上の注意	研究発表は研究に費やした時間によって決まることが多く、未解決の問題をいつも頭の片隅において、その解決策を続ける必要がある。		
項目	授業計画	内容	時間数
【前期】 ・ 研究の推進		<ul style="list-style-type: none"> 研究を推進する。 研究テーマは1年次より継続される。 平成16年度2年次の特別研究中間発表テーマ名は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. RSA 暗号の安全性に関する素因数分解法の学習 2. 人とコンピュータにおける顔認識処理 3. 顔認識における情報処理特性 4. マイコン制御実習教材の開発 5. 顔画像内の顔認識抽出 6. Singscape モデルによる人工社会シミュレーション 7. セルオートマトンによる鳥の群れのシミュレーション 8. デジタル回路の低電圧動作の検討 9. 昇圧回路の特性解析 10. エビタスネットワーク社会の情報システムの研究 11. 神経難病患者のための意思伝達支援装置の開発 12. 神経難病患者のためのコミュニケーション 	140
【後期】 ・ 研究の推進とまとめ ・ 特別研究発表 ・ 論文提出		<ul style="list-style-type: none"> 研究を推進し、発表資料や論文を作成する。 特別研究発表会で報告する。 特別研究論文を完成させ、提出する。 	265
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			405
評価方法	特別研究発表会(60%)および後期の定期試験(40%)として評価する。		
評価基準	特別研究発表会(60%)および後期の定期試験(40%)として評価する。		

授業科目		制御・情報システム工学特別研究	
開設学系	電子制御工学系	区分・単位数	専門専攻・必修・7単位
開設学年・学期	D1 専攻1年・通年	授業形態	特別研究
キーワード	研究、総まとめ		
関連科目	今まで学んだすべての科目		
担当教官	制御・情報システム工学専攻の全教員		
連絡先(アドレス)	事前にメール等により調整を行ったうえで質問に答える。		
教科書	各指導教員が紹介する、例えば、関連の学会論文や専門書など。		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み) ・ 研究発表について、発表・討論する能力を身につける。 ・ 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 ・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力をつける。		
履修上の注意	図書館などを利用し、文献を調べ自主的に研究を進める姿勢が大切である。研究は正解のほっきり出ない癖や実験を行うことが多く、未解決の問題をいつも頭の片隅において、その解決策を続ける必要がある。		
項目	授業計画	内容	時間数
研究テーマの例を次に示す。後期初めに中間発表会を行う。		<ul style="list-style-type: none"> 2-D DCTとニューラルネットワークによる顔画像の表情認識 ブラスチック回線の騒音測定に関する研究 デジタル回路用高速インターフェースの検討 簡易型アンテナ指向性測定システムの構築 風力エネルギーの利用 ネットワーク対応マイコンによる遠隔操作システムの開発 無線LAN環境におけるPDA用学習支援コンテンツの開発 セルオートマトン法による疫病伝播モデルのシミュレーション 多自由度入力装置の設計と製作 ネットワークを利用した在宅状況把握システムの構築 (ハードウェア) ネットワークを利用した在宅状況把握システムの構築 (ソフトウェア) マニピュレータの学習制御 知能ロボットの学習制御 一強化学習の検討 初心者用プログラミング言語「ビギン」の開発 	315
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			315
評価方法	中間発表会(60%)および年間報告書(40%)で評価する。		
評価基準	中間発表会(60%)および年間報告書(40%)で評価する。		

特別研究のシラバス（環境建設工学専攻）

環境建設工学特別研究			
授業科目	学系	区分・単位	専攻・必修・9単位
開設学系	環境都市工学科	専攻	特別研究
受講年次・学期	環境建設工学専攻2年・通年	授業形態	特別研究
キーワード	研究、デザイン能力、コミュニケーション能力		
関連科目	これまでに学んだ全ての科目		
担当教官	環境都市工学科の全教員（専攻主任 高橋 克夫）		
連絡先(TEL/FAX)	事前にメール等により調整を行った上で質問に答える。		
教科書	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2), (D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	特別研究発表会(30%)で評価する。		
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	特別研究発表会(15%)および特別研究論文(25%)で評価する。		
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	特別研究発表会(15%)および特別研究論文(15%)で評価する。		
履修上の注意	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異なるものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。		
授業計画	特別研究発表会：年度末に実施する。 特別研究論文：年度末に提出する。 予定される研究テーマを以下に示す。 ・木質系腐葉物の有効利用に関する研究（高橋） ・河川腐曲部における水阻構造物の挿入効果の解析（大木） ・腐葉土の有効利用に関する基礎的研究（鬼塚） ・屋上緑化土に関する基礎的研究（鬼塚） ・細骨材のアルカリ骨材反応性推定のための簡易試験方法の開発（青木）		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)	405		
評価方法	評価＝特別研究発表会60%+特別研究論文40%		
および			
評価基準			

環境建設工学特別研究			
授業科目	学系	区分・単位	専攻・必修・7単位
開設学系	環境都市工学科	専攻	特別研究
受講年次・学期	環境建設工学専攻1年・通年	授業形態	特別研究
キーワード	研究、デザイン能力、コミュニケーション能力		
関連科目	これまでに学んだ全ての科目		
担当教官	環境都市工学科の全教員（専攻主任 高橋 克夫）		
連絡先(TEL/FAX)	事前にメール等により調整を行った上で質問に答える。		
教科書	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
補助教科書等	なし		
参考図書	なし		
プログラム目標	(C-2), (D)		
プログラム合格点	60点		
達成目標	各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)		
・研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	中間発表会(30%)で評価する。		
・与えられたテーマについての専門知識を身につける。	中間発表会(15%)および年間報告書(25%)で評価する。		
・これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	中間発表会(15%)および年間報告書(15%)で評価する。		
履修上の注意	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異なるものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。		
授業計画	特別研究中間発表会：年度末に実施する。 特別研究年間報告書：年度末に提出するものとする。 予定される研究テーマを以下に示す。 ・RCラメン構造の時間依存挙動について（石田） ・RC部材の耐震性能評価に関する研究（石田） ・木質系腐葉物の有効利用に関する研究（高橋） ・耐震性鋼材を使用した橋梁の調査と分析について（佐藤） ・河川腐曲部における曲率を考慮した水阻構造物の挿入効果の解析（大木） ・魚群行動モデルによる魚類生息環境評価（石川） ・微小電極の作成と応用に関する研究（上村） ・スポンジアクターの処理性能の向上に関する研究（上村） ・地盤工学に関する研究（鬼塚） ・建設材料の材料特性に関する研究（青木）		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)	315		
評価方法	評価＝特別研究中間発表会60%+特別研究中間レポート40%		
および			
評価基準			

問題解決技法のシラバス

授 業 科 目		問題解決技法	
開設学科学系	専攻科	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・選択・1単位
受講年科・学期	全専攻1年・前期	授 業 形 態	実験
キ ー ワ ー ド	発想法, 問題解決, 創造力		
関 連 科 目	特別研究、特別実験、特別演習		
担 当 教 官	天摩 勝洋, 小田 功, 石川雅之, 錫田正俊, 栗本育三郎, 上村繁樹, 高橋邦夫, 篠村朋樹		
連絡先(オフィスワーカー)	各教員の教官室(できたら、事前に電話やメールで予約をお願いしたい。)		
教 科 書	特になし。		
補助教科書等	特になし。		
参 考 図 書	川喜多二郎著、『発想法』(中公新書), 中央公論社, 1967年 川喜多二郎著、『続・発想法』(中公新書), 中央公論社, 1970年		
プログラム目標	(D)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。		レポートA(30%)で評価する。	
・ポスター等を使った効果的なプレゼンテーションができる。		発表A(10%)で評価する。	
・テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。		レポートB(50%)発表B(10%)で評価する。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター法、KJ法等のシステム思考法を学び、チームとしての問題解決演習を実施するため、特に異分野間を意識したチーム構成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力が必要となる。また、具体的な問題によりテーマ設定を行うことで、問題空間の複雑さへの理解、経費管理などの観点が重要となる。 ・演習は、様々な場面で出てくる諸問題を積極的に解決するように心がけ、その時の対処法を整理することが重要である。 		
授 業 計 画			
項 目	内 容		時間数
・ガイダンス、プレゼンテーション演習	・概要説明、グループ作り、卒業研究等題材よりポスターを製作する。		3
・構成的グループエンカウンター法	・グループでのそれぞれの個性を生かし、チームとしてのまとまりを生み出す方法(グループエンカウンター)を学ぶ。		3
・KJ法	・問題解決技法の一つであるKJ法、ブレインストーミングを学ぶ。		3
・KJ法演習	・KJ法で問題分析・解決策演習を行う。		3
・問題解決事例紹介	・技術交流分科会の問題解決事例紹介、課題の紹介		3
・プレゼンテーション演習	・作成したポスターを用いて、プレゼンテーションを準備し、実施する。		3
・テーマ選定	・テーマ選定		3
前期中間試験			3
・テーマ別演習	・グループで協力して、テーマに関する問題解決演習を実施する。		15
・発表準備・レポート作成	・発表準備・レポート作成を行う。		3
・発表会	・発表会を行う。		3
前期定期試験			—
合計授業時間数(前期の定期試験は除く)			45
評価方法	レポート(80%)、発表(20%)として評価する。		

(出典 平成18年度シラバス(専攻科)13頁)

(分析結果とその根拠理由)

主に「特別研究」が創造力を育む授業として位置づけられ、各教員が指導を行っている。更に、平成 18 年度以降は、「問題解決技法」と「インターンシップ」を授業として開設し、学生の創造力を育む取り組みを充実させている。

観点 5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点到に係わる状況)

教育課程表は教育方針に基づいて組織的に授業科目を配置したものであり、シラバスは教育課程表の中の各授業について担当教員が授業内容に関する詳細な情報を示したものであるということが準学士課程のシラバスと同様にシラバスの最初のページ「シラバスの利用法」(資料 5-2-②-1)に記載され、学生に周知されている。

授業担当者は、教務委員会、FD 推進委員会及び JABEE 認定推進委員会がとりまとめた「授業担当者の手引きー平成 17 年度版ー」(資料 5-2-②-2)に基づいて、シラバスの作成、授業評価アンケートの実施、事後シラバスの作成を行っており、非常勤講師を含めた全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。シラバスには、履修上の注意、授業計画、参考図書や担当教員のメールアドレスが記載され、学生が授業をスムーズに受講できるような工夫がなされている。また、評価方法と評価基準に加え達成目標と評価基準の関係が明記され、学生にも分かり易い透明性の高い評価が行われている。

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの最初のページにシラバスの利用方法が記載されており、学生がシラバスを活用することを促す形態となっている。また、シラバスの作成方法及び活用方法の詳細が「授業担当者の手引きー平成 17 年度版ー」に示されており、全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。また、シラバスには履修上の注意や評価方法など授業を円滑に履修する上で必要な内容が十分に記載されている。

観点 5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる）が行われているか。

(観点到に係わる状況)

専攻科における研究テーマの決定は、基本的に 3 専攻とも指導教員が自分の専門性を考慮したテーマを提示した後、学生が配属を希望する研究室の教員を訪ねて説明を受け、研究テーマを含め配属する研究室を決める手順をとっている。実際に平成 17 年度修了生の研究テーマと指導教員は資料 5-7-①-1 のようになっている。

専攻科では、各学生に「専攻科 特別研究状況報告書」(資料 5-7-①-2)の作成を義務づけて

おり、専攻科1学年6月と専攻科2学年4月及び専攻科修了時に今後の学習目標を記入する。これに対して指導教員が助言を記入することになっている。この他にも、研究日時、簡単な研究内容、指導を受けた内容と教員のチェック欄からなるシートが「専攻科 特別研究状況報告書」には綴じられており、指導教員が学生に対して研究指導を行うときに活用される。

専攻科では、特別研究の活性化と学会等での研究成果発表の促進を目的として論文発表のための交通費実費の補助を行っている（資料5-7-①-3）。その結果、多くの学生が、学外で研究成果を発表する機会を得ている（資料5-7-①-4）。

平成17年度専攻科特別研究論文集の目次

目次		
機械・電子システム工学専攻		
火炎自発光の分光計測に関する研究	1	75
指導教員：高橋秀雄・林田和宏		指導教員：臼井 邦人
筋肉を疲労した際の重心動揺	5	79
指導教員：大藤 晃義		指導教員：角田幸紀・泉 源
最適サーボ系を用いたアクチュエータにむだ時間を有する6足歩行ロボットの姿勢制御	9	83
指導教員：内田 洋彰		指導教員：鞘田 正俊
電流センサーで構成する太陽電池用昇圧コンバータ	13	89
指導教員：大澤 寛		指導教員：大橋 太郎
バイオカーボンスラリー燃料のディーゼル機関への適用	17	93
指導教員：高橋秀雄・林田和宏		指導教員：鞘田 正俊
In ₂ Se ₃ 多結晶薄膜太陽電池に関する研究	21	99
指導教員：岡本 保		指導教員：増田重史・丸山真佐夫
射出成形プラスチック歯車の騒音と強度に関する研究	27	105
指導教員：高橋 秀雄		指導教員：橋川 五郎
無限長導体円柱による電磁波の散乱の過渡解析	31	109
指導教員：上原 正啓		指導教員：天摩 勝洋
固体高分子型燃料電池の効率向上に関する研究	35	115
指導教員：石井 孝一		指導教員：臼井 邦人
交差二円筒の強度に関する研究	39	119
指導教員：高橋 秀雄		指導教員：大橋 太郎
モアレ・ポタフライ法による三次元形状計測装置の開発	43	
指導教員：大藤 晃義		指導教員：鬼塚 信弘
「ものづくり」を旨とした実習用教材の開発	47	127
指導教員：黒田 孝春		指導教員：黒川 章二
LQG制御による仮想受動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御	53	133
指導教員：内田 洋彰		指導教員：鬼塚 信弘
超伝導導線の抵抗率の計測法について	57	137
指導教員：石井 孝一		指導教員：大木 正喜
LC共振を利用した昇圧コンバータ	61	141
指導教員：大澤 寛		指導教員：大木 正喜
制御・情報システム工学専攻		
光トポグラフィ駆動能計測のためのボジションニングシステムの開発	65	145
指導教員：栗本育三郎		指導教員：青木 優介
認知科学的手法を用いた人間の表情認知特性の検討	69	149
指導教員：栗本育三郎・米村恵一		
環境建設工学専攻		
天然ガス採取に伴う深層土の物理的・化学的性質	123	
指導教員：鬼塚 信弘		指導教員：鬼塚 信弘
EMセンサーを用いたコンクリート取締に伴う拘束応力の計測	127	
指導教員：黒川 章二		指導教員：黒川 章二
微細粒子土（ケーキ）を用いた屋上緑化土の検討	133	
指導教員：鬼塚 信弘		指導教員：鬼塚 信弘
小河川における自然復元方法の一提案	137	
指導教員：大木 正喜		指導教員：大木 正喜
河川湾曲部における水制構造物の影響について-小河川に導入した効果について-	141	
指導教員：大木 正喜		指導教員：大木 正喜
細骨材のアルカリシリカ反応性簡易推定試験方法の開発	145	
指導教員：青木 優介		指導教員：青木 優介
専攻科修士生の研究業績一覧	149	

(出典 平成17年度専攻科特別研究論文集)

特別研究状況報告書の表紙

専攻科 特別研究状況報告書

「生産システム工学」教育プログラム

養成する技術者像

自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力と実践力を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型技術者の育成

- (1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- (2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- (3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

学習・教育目標

- (A) 人間形成
- (B) 科学技術の修得と応用
- (C) コミュニケーション能力
- (C) 創造力

学生 氏名	
所属専攻名	D J 専攻
指導教官名	

(出典 専攻科特別研究状況報告書, 現地閲覧資料 13)

専攻科・研究発表旅費の補助に関する資料

平成 16 年 5 月 21 日

専攻科生 各位、 教員 各位

先般、5月14日(金)の本校後援会総会におきまして、後援会及び事務部のご協力を得て、下記のような研究発表旅費の補助が決定いたしました。専攻科の特別研究活性化のために、指導教員の指導の元での研究成果を発表していく機会が増えることを期待しております。

また、学位授与申請ガイダンス（5月25日）等の連絡を下記にいたします。

専攻科長

1. 専攻科・研究発表旅費の後援会補助について （添付：請求書）

目的：専攻科生の特別研究の活性化と学会等での研究成果発表を促進するために、論文発表のための交通費実費の補助を行う。

申請方法：添付の「専攻科研究発表補助費請求書」に、(1)学生氏名、(2)研究発表学会名称、(3)開催場所、(4)発表日時、(5)その他補足説明事項、及び(6)学会等の要項（写し、発表者等の氏名が明記されている書類）を添付して、学生課後援会の係へ、申請する。申請は、各専攻主任が行い、補助費支給は、学生課より学生に直接通知し、受領は学生の受領印を必要とする。

補助上限：論文発表1回につき、交通費実費1万円を上限とし、1名につき年2回以内とする。発表場所については、国内・国外の区別をしない。

期 間：各年度単位とし、今年度は4月から遡って申請を受理する。

2. 専攻科の学位授与申請ガイダンスの開催

日 時： 平成 16 年 5 月 25 日(火) 15 時 10 分～16 時

場 所： 第1講義室（総合教育棟1階）

内 容： 学位授与申請日程と申請書類作成の説明

配 布： 平成16年度 学位授与申請書類、新しい学士への途（案内）、先輩の資料

対 象： 特に、専攻科2年生（出来ましたら、1年生も参加して下さい）

3. 専攻科球技大会（5月20日）の概要報告

昨日5月20日に、第1回専攻科球技大会が清見台体育館（中央公園前）で開催され、各専攻・学年編成の5チーム（当初の計画では、7チーム）により、「フットサル」競技を行いました。参加者や成績は、以下のとおりです。次回の企画への意見をお寄せください。

参加者： 39名（参加率：59%）、

成 績： 優勝：ME1年、2位：DJ2年、3位：ME2年、
4位：DJ1年、5位：CC1・2年

(出典 専攻科委員会資料)

専攻科修了生の研究業績一覧

専攻科修了生の研究業績一覧

(下線表示の氏名は専攻科修了生を示す)

【機械・電子システム工学専攻】

- 1) 大藤晃義, 堀毛達朗, 金剛正司, “姿勢と計算との関係について”, 日本カイロプラクティック徒手医学会 第6回学術大会抄録集, 2004年9月
- 2) 大藤晃義, 堀毛達朗, 金剛正司, “姿勢と計算成績との関係について”, 日本カイロプラクティック徒手医学会誌 第6巻, p.77-81, 2005年7月
- 3) 遠藤圭祐, 内田洋彰, 野波健蔵, “最適サーボ系を用いた油圧アクチュエータのむだ時間を含む6足歩行ロボットの姿勢制御”, 日本機械学会関東支部第11期総会講演会講演論文集, pp.339-340, 2005年3月
- 4) 林田和宏, 喜田川奈祐, 佐藤伸明, 望月和博, “ハイオクターボシステム燃料のディーゼル機関への適用”, 第42回燃焼シンポジウム講演論文集, 2004年12月
- 5) 岡本保, 中駄良成, 青木達朗, 鷹羽佑太, 山田明, 小長井誠, “In₂Se₃多結晶薄膜の構造制御”, 応用物理学会多元素機能材料研究会平成17年度成果報告集, pp.111-114, 2006年2月
- 6) Tamoitsu Okamoto, Yoshinari Nakada, Tatsuro Aoki, Yuta Takaba, Akira Yamada and Makoto Konagai, “Structural Control of In₂Se₃ Polycrystalline Thin Films by Molecular Beam Epitaxy”, to be published in physica status solidi (c) (2006).
- 7) 鷹羽佑太, 青木達朗, 岡本保, “タンデム型太陽電池用 In₂Se₃多結晶薄膜の構造制御”, 第10回日本高専学会講演会, 2004年7月31日～8月2日, 千葉
- 8) 鷹羽佑太, 青木達朗, 岡本保, 山田明, 小長井誠, “フォトルミネッセンス法による In₂Se₃多結晶薄膜の評価”, 2005年春季第52回応用物理学関係連合講演会, 2005年3月29日～4月1日, 埼玉
- 9) 岡本保, 中駄良成, 青木達朗, 鷹羽佑太, 山田明, 小長井誠, “In₂Se₃多結晶薄膜の構造制御”, 応用物理学会多元素機能材料研究会2005年度講演会, 2005年11月25日～11月26日, 東京
- 10) 倉林彰, 鷹羽佑太, 岡本保, “フォトルミネッセンス法による In₂Se₃多結晶薄膜の評価”, 2005年(第1回)電気学会東京支部千葉支部研究発表会, 2005年12月3日, 千葉

1 1) Tamoitsu Okamoto, Yoshinari Nakada, Tatsuro Aoki, Yuta Takaba, Akira Yamada and Makoto Konagai, “Structural Control of In₂Se₃ Polycrystalline Thin Films by Molecular Beam Epitaxy”, 15th International Conference on Ternary and Multinary Compounds, March 6-10, 2006, Kyoto, Japan.

1 2) Mio TAKAHASHI, Hideo TAKAHASHI and Yusuke TAKAMATSU, “Strength and Noise Life of Injection Molded Plastic Gear - Case of Hybridized Material Addition Plastics”, Proceedings of The Fifth International Conference on Material Engineering for Resources (Akita), CD-ROM, ICAR 2005

1 3) 宮原直也, 高橋秀雄, 高橋美喜男, “交差二田箱の強度に関する研究”, 日本機械学会, 2005年 年度大会講演論文集 (4), pp.193-194, 2005年9月

1 4) 大藤晃義, 黒田孝博, 小田功, 金剛正司, 宮脇亮, “モアレトポグラフィ法による三次元形状計測装置の開発”, 日本福祉工学会 第8回学術講演会講演論文集, 2005年11月

1 5) 森良太, 内田洋彰, “最適サーボ系による仮想駆動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御”, 日本機械学会関東支部第11期総会講演会講演論文集, pp.337-338, 2005年3月

1 6) 森良太, 内田洋彰, 坂本大気, “LQG制御による仮想駆動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御”, 日本機械学会関東支部第12期総会講演会講演論文集, 2006年3月

1 7) 坂本大気, 内田洋彰, 森良太, “スライディングモード制御を用いた先端が柔軟な2リンクアームの位置と力のハイブリッド制御”, 日本機械学会関東支部第12期総会講演会講演論文集, 2006年3月

資料5-7-①-4 (2/2)

【制御・情報システム工学専攻】

- 1) 長船司, 安西徹, 正田健嗣, 栗本育三郎, “多自由度入力装置と力覚提示デバイスの設計と試作”, 本高専学会第10回総会講演研究論文集, No.3, 2004年8月
- 2) 長船司, 栗本育三郎, 中川匡弘, “光トポグラフィ駆機能計測のためのポジショニングシステムの開発”, 日本福祉工学会第8回学術講演論文集, 2005年11月
- 3) 奥丸貞二, 米村恵一, 杉浦彰彦, “視線走査制御による表情認識時間の計測と表情認知モデルの検討”, 電子情報通信学会論文誌, 印刷中
- 4) 高芝淳太, 奥丸貞二, 米村恵一, 杉浦彰彦, “表情画像の特性を考慮した表情認識時間の計測”, 電子情報通信学会2006年総会大会, 2006年3月
- 5) 高芝淳太, 奥丸貞二, 米村恵一, 杉浦彰彦, “アイマーカーレコーダを用いた遅延見本あわせによる表情認識時間の検討”, 電子情報通信学会技術報告, Vol.105, No.385, pp.9-14, HCS2005-40, 2005年11月
- 6) 奥丸貞二, 米村恵一, 杉浦彰彦, “視線走査制御による表情認識時間の計測”, 電子情報通信学会技術報告, Vol.105, No.39, pp.25-30, HIP2005-5, 2005年5月
- 7) 奥丸貞二, 岡田亮士, 米村恵一, 杉浦彰彦, “表情認識時間の計測と情報量の検討”, 電子情報通信学会2005年総会大会, 2005年3月
- 8) 奥丸貞二, 米村恵一, “認知心理学への招待”, 日本高専学会第10回総会・研究会発表会, 講演論文集, No.37, 2004年8月
- 9) 平野直行, 藤平祥吾, 二見瑞樹, 丸山真佐夫, 初心者用プログラミング言語「ピギン」の開発, 情報心理学第67回全国大会, 3P-3, 2005年3月

-151-

【環境建設工学専攻】

- 1) 筋木邦代, 鬼塚信弘, 高橋克夫, 増田健太, 金井太一, 高石潔夫, “おが粉の地盤材料としての評価と試作地盤系舗装の検討”, 土木学会第32回関東支部技術研究会発表会講演要集(CD-ROM), 2005年3月
- 2) 筋木邦代, 水井雄, 鬼塚信弘, 金井太一, 佐藤恒明, “天然ガス採取に伴う深層土の物理的・化学的性質”, 土木学会平成17年度全国大会第60回年次学術講演会講演要集(CD-ROM), 2005年9月
- 3) 長谷川睦, 田中邦熙, 宮前順, 谷優作, “房総山砂精製時に生じる微細粒子土(クレーキ)を用いた屋上緑化土の試作・配合実験”, 土木学会第32回関東支部技術研究会発表会講演要集(CD-ROM), 2005年3月
- 4) 長谷川睦, 田中邦熙, 深沢義明, 谷優作, 鈴木清, “房総山砂精製時に生じる微細粒子土を用いた軽量緑化土の試作”, 第6回環境地盤工学シンポジウム論文集, 地盤工学会, 2005.5月
- 5) 谷優作, 田中邦熙, 長谷川睦, 宮前順, “房総山砂精製時に生じる微細粒子土(クレーキ)を用いた無焼成高圧縮煉瓦の試作”, 土木学会第32回関東支部技術研究会発表会講演要集(CD-ROM), 2005年3月
- 6) 谷優作, 田中邦熙, 深沢義明, 長谷川睦, “房総山砂精製時に生じる微細粒子土を用いた無焼成高圧縮煉瓦のための配合実験”, 第6回環境地盤工学シンポジウム論文集, 地盤工学会, 2005.5月
- 7) 平野直行, “河川湾曲部における水制構造物の効果について”, 日本高専学会第10回研究会発表会, 2004年7月
- 8) 平野直行, 大木正喜, “河川湾曲部における水制構造物挿入後の下流域の流況変化について”, 土木学会第32回関東支部技術研究会発表会講演要集(CD-ROM), 2005年3月
- 9) 山田有香, “河川湾曲部における水制構造物の挿入効果について”, 日本高専学会第10回研究会発表会, 2004年7月
- 10) 山田有香, 大木正喜, “灌漑した河川湾曲部における水制構造物の挿入効果について”, 土木学会第32回関東支部技術研究会発表会講演要集(CD-ROM), 2005年3月
- 11) 進重重徳, 青木優介, 高石潔夫, “細骨材のアルカリシリカ反応性簡易推定試験方法の開発”, 第23回土木学会関東支部新報会研究調査発表会論文集, pp.270-271, 2005.11
- 12) 進重重徳, 青木優介, 高石潔夫, “細骨材のアルカリシリカ反応性日常管理試験方法に関する研究”, 第33回土木学会関東支部技術研究会発表会講演要集, CD-ROM, 2006.3

-152-

(出典 平成17年度専攻科特別研究論文集 149～152頁)

(分析結果とその根拠理由)

研究室の配属及び研究テーマの決定は指導教員と学生が事前に話し合いを持ち決定することで、学生の希望を尊重し、研究意欲に配慮したものとなっている。また、各学生には「専攻科 特別研究状況報告書」の作成を義務づけ、特別研究を計画的に進めるために活用するとともに指導教員が学生に対して特別研究の指導を行うときに活用している。この他、特別研究の活性化を目的として学会発表時の交通費実費の補助を行っている。その結果多くの研究成果が発表されている。このことから、特別研究の研究テーマが専攻科で修学するのにふさわしい内容であるといえる。

観点 5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係わる状況)

成績評価・単位認定、再履修及び修了について「専攻科授業科目の履修等に関する規程」が定められており、学生便覧に記載されている(資料 5-8-①-1)。この他にも同様の内容が学生便覧記載の「専攻科の履修要領」に記述されており、学生への周知がなされている。特に1単位の履修時間は、授業時間以外の学修をあわせた時間であることを周知するため、「専攻科の履修要領」には、講義科目、演習科目、実験・実習科目ごとに1単位当たりの授業時間とそれに課せられる予習復習の時間数が明記されている(資料 5-8-①-2)。また、各授業の評価方法は明確に定められシラバスに記載されており、学生への周知がなされている(資料 5-3-①-3)。専攻科課程の修了認定会議は準学士課程の卒業認定会議と同時に行われ、原則として全教員が参加して行い(資料 5-3-①-2)、修了認定は、「専攻科 成績審査(修了認定)会議資料」(現地閲覧資料 14)に基づいて「専攻科授業科目の履修等に関する規程」に従って行われている。

専攻科授業科目の履修等に関する規程

6-4 専攻科授業科目の履修等に関する規程

(趣 旨)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第43条第2項及び第46条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了については、この規程の定めるところによる。

(授 業)

- 第2条** 授業の1単位時間は、標準50分とする。
- 2** 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。
- 3** 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもちて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める履修届を提出しなければならぬ。

(試 験)

- 第4条** 試験は定期試験、追試験及び再試験とする。
- 2** 定期試験は、前期末及び後期末に実施する。
- 3** 追試験は、病气その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して実施する。
- 4** 再試験は、実験科目及び演習科目を除く授業科目の単位を認定されなかった者に対して、次の学期以降の定期試験期間中に実施することができる。ただし、第5条第3項に該当する場合は原則として実施しない。また、再試験の評価は最高60点とする。
- 5** 追試験又は再試験を希望する者は、あらかじめ「追試験受験願」又は「再試験受

験願」を校長に提出しなければならない。
(成績評価)

- 第5条** 成績は、授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。
- 2** 成績の評価は、100点法によって評価し、次の区分によって評定する。

評点	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

3 前項において、その授業時間数の3分の1以上欠席した者についての評点は、原則として60点未満とする。

(単位の認定)

第6条 前条第2項の規定に基づき、A、B及びCに評価された科目については、当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

(履修の特例)

- 第7条** 単位を認定されなかった授業科目は、次年度以降において履修することができ、履修方法は通常の履修と同様に第3条による。
(修了に必要な単位)
- 第8条** 専攻科の修了は、学則第44条に規定するもののほか、次の区分による単位を修得しなければならない。

専攻科	科目	一般科目	専攻科		合計
			専門共通科目	専門専攻科目	
機械・電子システム工学専攻	6単位	20単位以上	36単位以上	62単位以上	
制御・情報システム工学専攻	6単位	20単位以上	36単位以上	62単位以上	
環境建設工学専攻	6単位	20単位以上	36単位以上	62単位以上	

(他の専攻で履修した単位認定)

第9条 本校の他専攻で開設されている選択科目（専門専攻科目）の履修を希望する者は、あらかじめ専攻主任の許可を得たうえで、受講届けを提出しなければならない。これにより修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科

目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。
 (他の教育施設で履修した単位認定)

第10条 他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目を履修してその単位の認定を希望する者は、あらかじめ「大学等における学修許可願」を校長に提出しなければならない。また、大学等における学修を終了し単位の認定を受けようとするときは、「大学等における学修単位認定申請書」を校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は、シラバスを比較検討し、学則第43条に規定する別表第4の授業科目と置き換えて、最大4単位まで専攻科における単位として認定することができる。

3 前項より認定する単位は、単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

(雑 則)

第11条 この規定に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

(出典 平成17年度学生便覧 82～84頁)

専攻科の履修要領

1-18 専攻科の履修要領

専攻科授業科目の履修等に関する規程（6-4参照）を必ず通読してください。

- (1) 単位、開設科目、修了要件、履修申請、成績評価、再試験、次年度以降の履修
 - ① 1単位の授業時間（大学設置基準に準拠します）
本科と異なり、1単位の授業時間45時間の学修を要する教育内容をもって構成されます。実際に時間割に組み込まれる授業時間数は、次のようになります。
 - (a) 講義科目：1単位あたり15時間の授業で、30時間の予習復習が課せられます。
 - (b) 演習科目：1単位あたり30時間の授業で、15時間の予習復習が課せられます。
 - (c) 実験および実習科目：1単位あたり45時間の授業です。

特別研究は学生の主体的な取り組みを前提としています。

特別研究は、1年次は315時間以上（7単位）、2年次は405時間以上（9単位）の指導教員による直接指導を標準とします。（平成16年度以降の入学者）

特別研究は、1年次は180時間以上（4単位）、2年次は540時間以上（12単位）の指導教員による直接指導を標準とします。（平成15年度以前の入学者）

- ② 開設科目
一般科目、専門共通科目及び専門専攻科目があります。（教育課程表1-17参照）
- ③ 専攻科の修了要件

修了要件は、一般科目6単位、専門共通科目20単位以上、専門専攻科目36単位以上、合計62単位以上の修得です。この中には、必修34単位と必修選択4単位以上を含みます。（平成16年度以降の入学者）

修了要件は、一般科目4単位以上、専門共通科目22単位以上、専門専攻科目36単位以上、合計62単位以上の修得です。この中には、必修24単位を含みます。（平成15年度以前の入学者）

ただし、8単位を超えない範囲で他専攻の専門専攻科目を履修できます。また、申請により認められれば、4単位を超えない範囲で大学等において修得した単位を専攻科における授業科目の履修とみなすことができます。（6-4参照）

④ 選択科目の履修申請

選択科目の履修については、前期および後期の授業開始日から2週間以内に、選択科目履修申請書を各専攻主任経由で学生課教務係まで提出してください。

⑤ 成績の評価

各科目の学業成績は、シラバス記載の「評価方法および評価基準」に従って100点法により評価し、次の区分によって評定します。

評点	100~80	79~70	69~60	59以下
評定	A	B	C	D

授業時間数の3分の1以上を欠席した場合の評点は、59以下となります。評点が60以上の場合に、その科目の単位修得を認定します。

⑥ 再試験

単位を認定されなかった場合、次の学期以降に再試験を受けることができます。ただし、演習科目、実験科目、および3分の1以上を欠席した科目を除きます。再試験による評点の上限は60点です。再試験を希望する学生は、再試験受験願を科目担当教員へ提出してください。

⑦ 次年度以降の履修

単位を認定されなかった科目は、次年度以降に履修することができます。履修方法は通常の履修と同様です。

(2) 特別研究

① 特別研究について

特別研究は、専攻科の教育目的を達成するために最も重要な科目として位置づけられており、各専攻ともに必修科目として、1年前期から履修を義務づけています。1年生の後期に各専攻ごとに中間発表会を行い、2年生の年度末には3専攻合同の専攻科研究発表会を行います。この専攻科研究発表会は、広く学外にも一般公開されます。

自主的な研究への取り組みを促すため、年度当初に予定テーマを提示し、学生の工学的興味をできるだけ尊重してテーマを決定します。指導教員の下で個別課題について研究を計画立案させ、文献検索から始まり、実験的手法、理論的手法、評価方法等を体得させ、論文作成および発表までを指導します。

(出典 平成17年度学生便覧 34~35頁)

(分析結果とその根拠理由)

木更津工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規程（以下「専攻科履修規程」という。）により、成績評価・単位認定、再履修及び修了の認定についての規程が明確に定められており学生便覧に記載されている。同様の内容を学生にも分かりやすくしたものとして「専攻科の履修要領」が学生便覧に記載されており、学生への周知がなされている。特にこの「専攻科の履修要領」には各授業形態の1単位当たり課せられる予習復習の時間数が、学生にもわかり易い形で明記されている。

修了認定会議は原則として全教員が参加して行い、「専攻科 成績審査（修了認定）会議資料」を基に専攻科履修等規程に従って厳正に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程において、他の高等教育機関での学修の規程が定められており、他高等教育機関で学修した内容を本校の単位として認定するシステムが存在する。他にも4学年の選択科目として学外実習（インターンシップ）を開設しており、学生に積極的に参加するように呼びかけている。その結果、多くの学生が受講している。

非常勤講師を含む全教員は、教務委員会、FD推進委員会及びJABEE認定推進委員会がとりまとめた「授業担当者の手引き」に従って適切なシラバスの作成と活用を行っている。

人間の素養の涵養がなされるように1～3学年では週1時間の特別活動の時間を設けている。その他にも、新入生合宿研修、球技大会、体育祭、スキー合宿、文化デーなど多くの行事を実施し、人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

学生の生活に係わる様々な不安や、家庭問題や健康問題に関する不安を軽減するために、学生相談室委員会が組織されている。この他にも、毎週1日、カウンセラーが来校して学生の相談に乗ることで学生の不安を取り除いている。

専攻科課程において、学生の多様なニーズに応えるため、他専攻で開設されている授業や他の高等教育機関で開設されている授業を履修することができる。この他、平成18年度より、専攻科課程でもインターンシップを選択科目として開設している。

本専攻科では、創造性を育む教育方法として「特別研究」を重要視しているが、平成18年度より「問題解決技法」を専門共通の選択科目として開設し、創造性育成の助けとしている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 5 の自己評価書の概要

(準学士課程)

準学士課程では、5 学科とも学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす人文系科目と専門科目の学習の基礎となる数学、物理などの基礎系科目を低学年に多く配置し、専門科目は高学年になるに従い増えていく配置とし、科学技術の修得が無理なく行える授業科目の配置となっている。

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の教育施設における学習に関する規程が定められており、学生への周知も図っている。その他、準学士課程の 4 学年を対象とした学外実習（インターンシップ）は選択科目にも拘らず各学科多くの学生が履修している。

専門分野の修得とものづくりに必要な力を身につけるために、卒業研究を含む実験・実習を通じて専門分野の工学的現象及び問題を解析又は解く力の育成を重要視し、各学科とも必修科目として実験・実習科目を 1 学年から 4 学年までを通して配置し、5 学年には卒業研究を配置している。その他、演習の授業を高学年に多く配置することによって、講義で身につけた知識を確かなものとする配慮がなされている。

特別な学生に対する配慮の例として、3 年次に編入してくる留学生の日本語の読解力と作文能力の向上を目的とした、「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」を開講している。

教務委員会、FD 推進委員会及び JABEE 認定推進委員会がとりまとめた「授業担当者の手引」には、シラバスの作成、授業評価アンケートの実施、事後シラバスの作成についての詳細が記述されており、非常勤講師を含む全教員は「授業担当者の手引」に従って、適切なシラバス作成と活用を行っている。

準学士課程では学生の創造力を育む教育方法として、各学科とも 5 学年の必修科目である卒業研究を重要視している。この他にも、3 学年で必修科目として開講されている一般特別研究は、人文学系及び基礎学系の教員の指導の下、学生が自主的に調査や研究を行い結果を論文の形にまとめ、最終的には学内で口頭発表するという形式をとっており、学生の創造性を育成する教育方法となっている。

成績評価・単位認定、進級、再履修及び卒業の認定について学業成績審査規程が定められており、学生に周知されている。また、各授業の評価方法は明確に定められシラバスに記載されており、学生への周知がなされている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加し、学業成績審査規程に従って厳正に行われている。

1～3 学年までは週 1 時間の特別活動（HR）の時間を設けている。特別活動は学級担任が中心となって「学級担任の手引」を参考にし、生活指導、成績指導、諸連絡、環境整備（学内及び周辺の清掃）、スポーツ、ビデオ鑑賞等を企画し実施している。その他、新入生合宿研修、球技大会、体育祭、マラソン大会、スキー合宿、文化デー、見学旅行といった行事を実施し、人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

生活指導面では学級担任を中心とした学生支援体制を整え、学生指導に当たっている。また、学生組織である学友会が存在し、規約に従って活発な課外活動がなされている。

(専攻科課程)

専攻科課程では各学科で学んだ専門分野だけでなく、異分野にも積極的に触れ、幅広い分野に対応できる人材を育成することを目指したカリキュラム設計を行っている。

学生のニーズに応えるため、他専攻で開設されている専門専攻の選択科目や他の高等教育機関で開

設されている授業科目についても履修を認めている。他にも、インターンシップを平成 18 年度から専門共通の選択科目として開設し、学生が会社での実務経験を積む貴重な機会を提供している。

専攻科課程では、実践的技術者の育成をめざしていることから、実験実習科目と「特別研究」が重要視されている。その他の講義においても、授業内容に合わせた担当教員の工夫がみられる。

「特別研究」が創造力を育む主な授業と考えられている。更に、平成 18 年度以降は、「問題解決技法」を授業として開設し、学生の創造力を育む取り組みを充実させている。

研究テーマの決定は学生の希望を尊重し、研究意欲に配慮したものとなっている。また、学生に「専攻科 特別研究状況報告書」の作成を義務づけ、特別研究を計画的に進めるために活用するとともに指導教員が学生に対して特別研究の指導を行うときに活用している。この他、特別研究の活性化を目的として学会発表時の交通費実費の補助を行っている。

専攻科履修等規程により、成績評価・単位認定、再履修及び修了の認定についての規程が明確に定められており、学生への周知がなされている。修了認定会議は原則として全教員が参加して行い「専攻科履修等規程」に従って厳正に行われている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

[準学士課程]

本校では、上記達成状況を把握・評価するために、準学士課程においては、教務委員会がカリキュラムや成績評価基準の見直しを行い、最終的に、学年末に開催される第1学年から第4学年までの各学年についての修了認定会議及び第5学年の卒業認定会議において、単位修得状況、出欠席状況、特別活動の参加状況、学校行事の参加状況及び進級・卒業状況の確認と認定が、教員参加のもとに校長によって行われている。

特に平成17年度は、教務委員会とFD推進委員会（資料6-1-①-1）によって、平成18年度準学士課程入学者から適用される混合学級に伴うカリキュラムの見直しが冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」にまとめられた。その目次等を（資料6-1-①-2, 3）に示す。

また、これまで準学士課程の成績評価の合格基準が50点であったため、50点台の科目に対して、専攻科入学後に合格基準が60点の実力認定試験を実施してきた。各学科学系会議の審議を経た後、教務委員会によって平成18年度から準学士課程の成績評価の合格基準が50点から60点に変更された（資料6-1-①-4）。これにより、準学士課程の学生が卒業時に身につける学力や資質・能力の評価基準について、外部の高等教育機関との整合性が高められた。

[専攻科課程]

専攻科課程においては、専攻科委員会がカリキュラムの見直し等を行い、最終的に、学年末に開催される専攻科の修了認定会議において、単位修得状況、出欠席状況及び進級・修了状況の確認と認定が、教員参加のもとに校長によって行われている。また、実力認定試験の状況については、専攻科委員会において、確認と認定が行われている（資料6-1-①-5）。

特に平成17年度は、平成18年度からのPBL関連科目及びインターンシップの導入に伴い、専攻科委員会によりカリキュラムの見直しが行われ、前述の冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」にまとめられた。

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規則

○ 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則の一部を改正する規則

(平成15年 6 月12日)

[規 則 第 1 号]

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(昭和56年 4 月 1 日規則第 1 号)の一部を次のように改正する。

第19条の次に次の 2 条を加える。

(ファカルティ・ディベロップメント推進委員会)

第20条 本校の教育全般に対し、質の保証と向上を図る施策を審議し執行するため、本校にファカルティ・ディベロップメント推進委員会を置く。

2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める

○ 木更津工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規則

(平成15年 6 月12日)

[規 則 第 2 号]

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(昭和56年 4 月 1 日規則第 1 号)第20条第 2 項の規定に基づき、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- ・ 教育プログラムの点検評価と改善に関すること。
- ・ 教員の教育方法及びその他の教育活動の点検評価と改善に関すること。
- ・ 教育環境の点検評価と改善に関すること。
- ・ その他ファカルティ・ディベロップメントに関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- ・ 教務主事
- ・ 校長が必要と認めた若干名(教務主事補 1 名を含む。)
- ・ 学生課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 2 項に掲げる委員の任期は、2 年(教務主事補を除く。)とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年 4 月 1 日から施行する。

(出典 庶務課資料)

冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」表紙

木更津高専における教育改善

－カリキュラムの見直し－

平成18年3月

木更津工業高等専門学校

(出典 庶務課資料, 現地閲覧資料15)

冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」目次

目 次

「カリキュラムの見直し」の発行にあたり	巻頭
まえがき	1
1. 混合学級の導入	3
2. カリキュラムの見直し	3
3. 学則等の見直し	4
教育課程表 準学士課程および専攻科課程	教育課程表-1
一般科目および専門科目の説明	
準学士課程：一般科目	一般-1
準学士課程：機械工学科	M-1
準学士課程：電気電子工学科	E-1
準学士課程：電子制御工学科	D-1
準学士課程：情報工学科	J-1
準学士課程：環境都市工学科	C-1
専攻科課程：共通科目（一般および専門）	共通-1
専攻科課程：機械・電子システム工学専攻	ME-1
専攻科課程：制御・情報システム工学専攻	DJ-1
専攻科課程：環境建設工学専攻	CC-1
付表：授業科目の学年配置	付表-1

冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」5頁
成績の評価

については、木更津高専の状況のみによるのではなく、外部の状況により大局的に判断されるべきであるとの意見が多く出された。これは、高等教育機関における単位認定の合格点は世界的にも60点が標準となっているという現実を受けての判断であるが、将来を見越すならば、カリキュラム改訂と同時に合格点も自主的に改めた方が良いとの結論となった。よって、専攻科に加え、準学士課程の合格点も平成18年度より「60点」に改めることとし、「木更津工業高等専門学校学業成績審査規程」第3条が以下のような記述に改められることとなった。

(成績の評価)

第3条 担当教員は、前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験終了後、100点法によって学業成績を評価し、校長に報告するものとする。

2 前期末及び学年末の評価は、試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して行うものとする。

3 成績の評価は、100点法によって評価し、次の区分によって評定する。

評 点	100～80	79～70	69～60	59 以下
評 定	A	B	C	D

4 前項において、その授業時間数の3分の1以上欠席した者についての評点は、原則として60点未満とする。

5 授業が年度の途中で終了する授業科目で、評定がDであるものについては、願い出を審査の結果、担当教員が適切な学習指導を行い、学年末に再評価（以下「年度内再評価」という。）をすることができる。また、前項に該当する場合は、願い出を審査の結果、担当教員が適切な学習指導を行ったうえ、補講により授業出席時数の不足を補い、年度内再評価をすることができる。ただし、この年度内再評価は、いずれも最高60点とする。

6 校長は、毎学年末において、各授業科目の学業成績を、評点、評定及び修得単位数によって学生指導要録に記録する。評定Dの授業科目については、修得単位を認めないもの（以下「未修得科目」という。）とする。

以上のことは、カリキュラム改訂と直接的に繋がることではない。しかし、カリキュラムを構成する各授業科目とは密接に繋がるものである。よって、諸業務との並行による日程的な厳しさが予想されたものの、全て平成18年度に併せる形での導入を実現したものである。

実力認定試験の確認と認定

専攻科委員会（平成 17 年度第 14 回）議事要旨（抜粋）

日 時：平成 18 年 3 月 28 日（火）15：10～17：05

場 所：第 2 会議室

出席者：〇〇〇〇，〇〇〇〇，〇〇〇〇，・・・，〇〇〇〇

〇〇〇〇，〇〇〇〇，〇〇〇〇，〇〇課長補佐

資 料

1. 前回議事要旨
2. 実力認定試験結果
3. 平成 16 年度専攻科入学者英語力 JABEE 認定結果
4. 平成 17 年度業務実績状況調査と自己評価の検討資料
5. 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
6. 平成 18 年度専攻科入学者一覧
7. 平成 17 年度専攻科特別研究ポスター製作・掲示の状況報告
8. 平成 18 年度入学式等日程表
9. 専攻科におけるインターンシップの実施要項（試案）
10. 平成 17 年度電気学会東京支部千葉支所研究発表会資料
11. 平成 17 年度専攻科研究発表補助費支出済み一覧
12. 平成 17 年度第 2 回関東信越地区国立高等専門学校専攻科長連絡会資料
13. 平成 17 年度教育改善：カリキュラム見直しのコンセプトと科目内容（専攻科分）
14. 日本高専学会「論文奨励賞」の創設について
15. 専攻科連絡会（学年末）の配付資料
16. 専攻科修了にあたり原稿執筆のお願い

（出典 専攻科委員会資料）

(分析結果とその根拠理由)

達成状況を把握・評価するために適切な取組が行われている。準学士課程においては、教務委員会、学年末に開催される第1学年から第4学年までの各学年についての修了認定会議及び第5学年の卒業認定会議があり、単位修得状況、出欠席状況、特別活動の参加状況、学校行事の参加状況及び進級・卒業状況の確認、認定が行われている。専攻科課程においては、専攻科委員会と専攻科修了認定会議があり、単位修得状況、出欠席状況、進級・修了状況及び実力認定試験の状況の確認、認定が行われている。

平成17年度は、教務委員会、FD推進委員会及び専攻科委員会によって、カリキュラムの見直しが行われ、冊子「木更津高専における教育改善－カリキュラムの見直し－」としてまとめられた。また、平成18年度から準学士課程の成績評価の合格基準が50点から60点に変更され、準学士課程の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の評価基準について、外部の高等教育機関との整合性が高められた。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

[準学士課程]

準学士課程の過去10年間の休学、留年、仮進級及び退学者の各数と学生総数に対する退学者数の割合を（資料 6-1-②-1）に示す。また、平成17年度の各学年各クラスの進級状況を（資料 6-1-②-2）に示す。これらによれば、平成12年度に留年及び仮進級の数がこの集計期間中で最小となり、平成14年度に退学率が最小になること、その後これらが漸増する傾向があること、また、平成17年度の第5学年の休学、留年及び退学者は1名もいないこと等がわかる。退学（積極的進路変更者を含む）の率は特に大きいとはいえず、平成18年度入学生から適用される混合学級による効果も期待され、今後検証してゆく必要がある。

平成13年度より、本校の極めて特徴的な科目として、選択科目「特別学修」（資料 6-1-②-3）が導入された。これにより、多くの学生が外部資格試験（実用英語検定、工業英語検定、TOEIC、ドイツ語検定、漢字検定、危険物取扱者、情報処理技術者、ラジオ・音響検定等）のみにとどまらず、技術イベント活動（ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト）及びボランティア活動（社会福祉）等にも積極的に取り組むことができるようになった（資料 6-1-②-4）。

また、本校のもう一つの特徴的な科目である第3学年の通年必修科目「一般特別研究」においては、一般科目担当教員の約15名が示すテーマごとに、この学年の学生約200名を希望に従って配属させ、小人数の課題研究を実施している。最後に全員が一般特別研究論文（現地閲覧資料16）としてまとめ、3月に行われる一般特別研究発表会（資料 6-1-②-5）で、会場等の制約の許す限り多くの学生にパワーポイントを用いて発表させ、プレゼンテーション能力の向上に役立っている。なお、この一般特別研究については、本校より『探究心に火をつける－授業「特別研究」の挑戦－』（木更津高専一般教育研究会編、学術図書出版社）（現地閲覧資料7）としてまとめられ刊行されている。

卒業研究では、研究の結果を卒業研究論文（現地閲覧資料17）としてまとめ、卒業研究発表会（資料 6-1-②-6）で全員が発表している。

[専攻科課程]

専攻科課程の特別研究においては、研究の結果を特別研究論文（現地閲覧資料18）としてまとめ、3月に行われる特別研究発表会（資料 6-1-②-7, 8）で全員が発表している。修了時には、大学評価・学位授与機構による審査を受け、学士の学位を取得するが、これまでの4回の修了生のうち2名を除いて学士が認定されている。

なお、準学士課程及び専攻科課程の学生による研究のうちで、日本機械学会、計測自動制御学会、精密工学会、軽金属学会、日本福祉工学会、日本カイロプラクティック徒手医学会、日本高専学会等で発表されたものの一部を（資料 6-1-②-9）に示す。また、外部のコンテスト等で受賞や表彰を受けるものもあり、それらを（資料 6-1-②-10）に示す。なお、準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧を学校要覧2005（資料 6-1-②-11）の引用により示す。

資料 6-1-②-1

準学士課程の過去10年間の休学、留年、仮進級及び退学者の各数と退学率

異動事項	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
休学	9	4	8	6	6	5	6	7	5	6
留年	30	24	13	21	9	15	18	21	26	23
仮進	17	16	9	12	6	14	10	13	16	27
退学(a)	24	34	32	27	22	18	16	18	20	24
学生総数(b)	1022	1013	1003	1004	1006	1042	1063	1070	1071	1060
退学率(a/b)(%)	2.3%	3.4%	3.2%	2.7%	2.2%	1.7%	1.5%	1.7%	1.9%	2.3%

休学：休学により原級に留まった者の数

留年：成績不振により原級に留まった者の数

仮進：仮進級者の数

退学：退学、除籍、転学などにより学籍を失ったものの総数

(出典 学生課資料)

資料 6-1-②-2

平成17年度の各学年各クラスの進級状況

平成17年度進級状況

平成18年3月31日

		M	E	D	J	C	小計		計
1	休学:退学(内数)						0	0	0
	留年:退学(内数)				1		1	0	1
	仮進:留年(内数)	1	1	1			3	0	3
	退学:退学合計	0	0	0	0	0	0	0	0
2	休学:退学(内数)				2	2	2	2	0
	留年:退学(内数)		2	2	1	1	6	2	4
	仮進:留年(内数)	5	3	6	3	7	24	0	24
	退学:退学合計	0	2	0	2	0	0	4	4
3	休学:退学(内数)	1	1	4	3	1	7	6	1
	留年:退学(内数)	1	1	5	3	3	17	8	9
	退学:退学合計	2	4	6	1	5	4	18	18
	休学:退学(内数)			3	1	2	6	1	5
4	留年:退学(内数)	1		7	1		10	1	9
	退学:退学合計	0		2	0	0	0	2	2
	休学:退学(内数)						0	0	0
	留年:退学(内数)						0	0	0
計	退学:退学合計	0	0	0	0	0	0	0	0
	休学:退学(内数)	1	1	7	4	3	15	9	6
	留年:退学(内数)	2	1	14	6	4	34	11	23
	仮進:留年(内数)	6	0	4	0	7	27	0	27
退学:退学合計	2	4	0	10	1	4	24	24	

- ・「休学：退学（内数）」は「休学により原級に留まった者の数：その内の退学者数(a)」を表す。
- ・「留年：退学（内数）」は「成績不振により原級に留まった者の数：その内の退学者数(b)」を表す。
- ・「仮進：留年（内数）」は「仮進級者の数：その内の留年者数」を表す。
- ・「退学：退学合計」は、「上記(a)と(b)以外の退学者数(c)：(a)+(b)+(c)」を表す。

(出典 学生課資料)

科目「特別学修」の案内文

1-12 特別学修

本校では、平成 13 年度より特別学修という科目が開設されています。この科目は他の一般的な科目とは大きく異なる部分もあるため、これらの履修方法等について以下に示します。

(1) 特別学修の区分及び内容

特別学修とは、選択科目として、一般科目と専門科目の両方に開設された授業科目です。

履修数に上限はありませんが、一般及び専門の特別学修と、本校以外の教育施設における学修（1-13 参照）を合わせて最大 10 単位までが、選択科目としての扱いを受けます。

なお、これらの内容については、次の①～④に分類されますが、個々の詳細については、教育課程表（1-17 参照）中の特別学修一覧表及びシラバスを参照してください。

- ① 技能審査・資格検査等
- ② ロボコンなどの創造的活動
- ③ 教育支援活動
- ④ ボランティア活動

(2) 履修形態及び単位修得方法

授業時間：原則として、火・木曜日の 7・8 時限に実施する。ただし、ロボコン等、規定の時間外にも実施されるものが多いため、各科目のシラバスで確認すること。

履修登録：原則として、4 月末日までにシラバスに記載された指導教員のところに行き、指示を仰ぐこと。

（出典 平成 17 年度学生便覧 7～8 頁）

資料 6-1-②-4 (1/4)

平成17年度 特別学修による単位認定一覧 (第1学年～第4学年, 第5学年)
(第1学年～第4学年, 1/3)

数	科	年	学籍番号	氏名	表記(項目分野試験名等:合格級等)	合格等年月日	評価	評語	単位数	一般/専門	備考(認定省庁・代替等)	
1	M	1	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
2	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
3	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
4	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
5	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
6	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
7	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
8	E	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
9	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
10	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
11	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
12	E	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
13	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
14	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
15	D	1	**--**	○○ ○○	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
16	D	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
17	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
18	D	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
19	D	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
20	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
21	D	1	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
22	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
23	D	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
24	J	1	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ブロコン	18.1.13	90	A	1	一般	指導教員:丸山
25	J	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
26	J	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
27	C	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
28	C	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
29	C	1	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
30	M	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
31	M	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
32	M	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
33	M	2	**--**	○○ ○○	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
34	M	2	**--**	○○ ○○	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
35	E	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
36	E	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
37	E	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
38	E	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
39	D	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
40	D	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
41	D	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
42	D	2	**--**	○○ ○○	実用英検	2級	17.7.15	90	A	2	一般	文部科学省
43	D	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.7.15	90	A	1	一般	2級合格による同時認定
44	D	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
45	D	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般	文部科学省
46	D	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
47	D	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
48	D	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般	文部科学省
49	D	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
50	D	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ロボコン	18.2.27	85	A	1	一般	指導教員:鴛田
51	J	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ブロコン	18.1.13	90	A	1	一般	指導教員:丸山
52	J	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ブロコン	18.1.13	90	A	1	一般	指導教員:丸山
53	J	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
54	J	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ブロコン	18.1.13	90	A	1	一般	指導教員:丸山
55	J	2	**--**	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員:高橋
56	J	2	**--**	○○ ○○	技術イベント活動	ブロコン	18.1.13	90	A	1	一般	指導教員:丸山
57	J	2	**--**	○○ ○○	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
58	J	2	**--**	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	文部科学省
59	C	2	**--**	○○ ○○	実用英検	準2級	17.7.15	90	A	1	一般	文部科学省
60	M	3	**--**	○○ ○○	危険物取扱者	乙種第4類	17.8.1	90	A	1	専門	総務省

(出典 準学士課程1年～4年の修了認定会議資料)

資料 6 - 1 - ② - 4 (2 / 4)

平成17年度 特別学修による単位認定一覧 (第1学年～第4学年, 第5学年)
(第1学年～第4学年, 2 / 3)

61	M	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
62	M	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
63	M	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.7.28	90	A	1	専門	総務省
64	M	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	3級	18.2.6	90	A	2	一般	文部科学省
65	M	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	3級合格による同時認定
66	M	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	文部科学省
67	M	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.8.1	90	A	1	専門	総務省
68	M	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
69	M	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
70	M	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
71	E	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
72	E	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
73	E	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
74	E	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
75	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	準2級	17.2.25	90	A	1	一般	文部科学省
76	D	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	文部科学省
77	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	2級	17.7.15	90	A	2	一般	文部科学省
78	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	準2級	17.7.15	90	A	1	一般	2級合格による同時認定
79	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	2級	17.7.15	90	A	2	一般	文部科学省
80	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	準2級	17.7.15	90	A	1	一般	2級合格による同時認定
81	D	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
82	D	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
83	D	3	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	準2級	17.7.15	90	A	1	一般	文部科学省
84	J	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
85	J	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
86	J	3	***-***	〇〇 〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
87	J	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般	文部科学省
88	J	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
89	J	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	文部科学省
90	J	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
91	J	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般	文部科学省
92	J	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
93	J	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
94	C	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般	文部科学省
95	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
96	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門	総務省
97	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
98	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.7.1	90	A	1	専門	総務省
99	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
100	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
101	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門	総務省
102	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.7.1	90	A	1	専門	総務省
103	C	3	***-***	〇〇 〇〇	TOEIC	初級	17.10.23	80	A	1	一般	担当教員：小澤
104	C	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
105	C	3	***-***	〇〇 〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
106	C	3	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
107	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門	総務省
108	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
109	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
110	C	3	***-***	〇〇 〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.7.1	90	A	1	専門	総務省
111	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
112	C	3	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
113	M	4	***-***	〇〇 〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
114	M	4	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
115	M	4	***-***	〇〇 〇〇	TOEIC	中級	18.1.21	90	A	1	一般	担当教員：小澤
116	M	4	***-***	〇〇 〇〇	TOEIC	初級	18.1.21	100	A	1	一般	中級合格による同時認定
117	M	4	***-***	〇〇 〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	80	A	1	一般	担当教員：小澤
118	M	4	***-***	〇〇 〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	100	A	1	一般	担当教員：小澤
119	M	4	***-***	〇〇 〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
120	M	4	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	2級	17.11.18	90	A	2	一般	文部科学省 ※
121	M	4	***-***	〇〇 〇〇	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	2級合格による同時認定
122	M	4	***-***	〇〇 〇〇	教育支援活動	柔道	18.1.25	90	A	1	一般	担当教員：清野

(出典 準学士課程1年～4年の修了認定会議資料)

資料 6-1-②-4 (3/4)

平成17年度 特別学修による単位認定一覧 (第1学年～第4学年, 第5学年)
(第1学年～第4学年, 3/3)

123	M	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	上級	17.9.3	100	A	4	一般	担当教員：小澤
124	M	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	中級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
125	M	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
126	E	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
127	E	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
128	E	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	80	A	1	一般	担当教員：小澤
129	E	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
130	E	4	**--**	〇〇〇〇	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般	指導教員：高橋
131	E	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	80	A	1	一般	担当教員：小澤
132	E	4	**--**	〇〇〇〇	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省
133	E	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
134	E	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	上級	17.9.3	90	A	4	一般	担当教員：小澤
135	E	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	中級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
136	E	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
137	D	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
138	D	4	**--**	〇〇〇〇	情報処理技術者	基本技術	17.11.11	90	A	1	専門	経済産業省
139	D	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
140	D	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
141	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	18.1.21	80	A	1	一般	担当教員：小澤
142	D	4	**--**	〇〇〇〇	工業英検	3級	17.6.13	90	A	2	一般	文部科学省
143	D	4	**--**	〇〇〇〇	工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般	3級合格による同時認定
144	D	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
145	D	4	**--**	〇〇〇〇	ドイツ語検定	4級	18.2.15	90	A	1	一般	指導教員：荒木
146	D	4	**--**	〇〇〇〇	工業英検	3級	18.2.6	90	A	2	一般	文部科学省(4級既修得)
147	D	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
148	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	上級	17.9.3	100	A	4	一般	担当教員：小澤
149	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	中級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
150	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
151	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	上級	17.9.3	100	A	4	一般	担当教員：小澤
152	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	中級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
153	D	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.9.3	100	A	1	一般	上級合格による同時認定
154	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
155	J	4	**--**	〇〇〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
156	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
157	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
158	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
159	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
160	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
161	J	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	18.1.21	100	A	1	一般	担当教員：小澤
162	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
163	J	4	**--**	〇〇〇〇	実用英検	2級	17.2.25	90	A	2	一般	文部科学省(準2級既修得)
164	J	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	18.1.21	90	A	1	一般	担当教員：小澤
165	J	4	**--**	〇〇〇〇	ドイツ語検定	4級	17.8.5	90	A	1	一般	指導教員：荒木
166	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
167	J	4	**--**	〇〇〇〇	工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
168	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
169	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
170	J	4	**--**	〇〇〇〇	ドイツ語検定	4級	17.8.5	90	A	1	一般	指導教員：荒木
171	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
172	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
173	J	4	**--**	〇〇〇〇	ドイツ語検定	4級	17.8.5	90	A	1	一般	指導教員：荒木
174	J	4	**--**	〇〇〇〇	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般	指導教員：栗本
175	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
176	J	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
177	C	4	**--**	〇〇〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門	総務省
178	C	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.5.7	80	A	1	一般	担当教員：小澤
179	C	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
180	C	4	**--**	〇〇〇〇	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門	総務省
181	C	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.11.15	90	A	1	一般	文部科学省
182	C	4	**--**	〇〇〇〇	教育支援活動	柔道	18.1.25	90	A	1	一般	担当教員：清野
183	C	4	**--**	〇〇〇〇	TOEIC	初級	17.5.7	90	A	1	一般	担当教員：小澤
184	C	4	**--**	〇〇〇〇	漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般	文部科学省
185	C	4	**--**	〇〇〇〇	実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般	文部科学省

※ 機械工学科4年 〇〇〇〇 (**--**)は、「総合英語演習Ⅱ」に代替希望。

(出典 進学士課程1年～4年の修了認定会議資料)

資料 6-1-②-4 (4/4)

平成17年度 特別学修による単位認定一覧 (第1学年～第4学年, 第5学年)
(第5学年)

数	科	年	学籍番号	氏 名	表記(項目分野試験名等・合格級等)	合格等年月日	評価	評語	単位数	一般/専門	備考(認定省庁・代替等)
1	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
2	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
3	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	3級	17.6.13	90 A	2	一般	文部科学省
4	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	3級合格による同時認定
5	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
6	M	5	**-*	○○ ○○	ドイツ語検定	4級	18.2.15	90 A	1	一般	指導教員：荒木
7	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
8	M	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.9.3	80 A	1	一般	指導教員：小澤
9	M	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	90 A	1	一般	指導教員：小澤
10	M	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	17.5.7	80 A	1	一般	指導教員：小澤
11	M	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	100 A	1	一般	中級合格による同時認定
12	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
13	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
14	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
15	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
16	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
17	M	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	80 A	1	一般	指導教員：小澤
18	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
19	M	5	**-*	○○ ○○	危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90 A	1	専門	総務省
20	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
21	M	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
22	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
23	E	5	**-*	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90 A	1	一般	指導教員：高橋
24	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
25	E	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	80 A	1	一般	指導教員：小澤
26	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
27	E	5	**-*	○○ ○○	デジタル検定	3級	17.6.26	90 A	1	専門	文部科学省
28	E	5	**-*	○○ ○○	ラジオ・音響検定	3級	17.11.13	90 A	1	専門	文部科学省
29	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
30	E	5	**-*	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90 A	1	一般	指導教員：高橋
31	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
32	E	5	**-*	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90 A	1	一般	指導教員：高橋
33	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
34	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
35	E	5	**-*	○○ ○○	ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90 A	1	一般	指導教員：高橋
36	E	5	**-*	○○ ○○	情報処理技術者	初級ｼﾌﾄ*	17.5.16	90 A	1	専門	経済産業省
37	E	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.9.3	80 A	1	一般	指導教員：小澤
38	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
39	E	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	18.2.6	90 A	1	一般	文部科学省
40	D	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	17.3.27	80 A	1	一般	指導教員：小澤
41	D	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.3.27	100 A	1	一般	中級合格による同時認定
42	D	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	18.1.21	90 A	1	一般	指導教員：小澤
43	J	5	**-*	○○ ○○	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85 A	1	一般	指導教員：栗本
44	J	5	**-*	○○ ○○	漢字検定	2級	17.7.11	90 A	1	一般	文部科学省
45	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	18.1.21	90 A	1	一般	指導教員：小澤
46	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	18.1.21	100 A	1	一般	中級合格による同時認定
47	J	5	**-*	○○ ○○	情報処理技術者	基本技術	17.5.16	90 A	1	専門	経済産業省
48	J	5	**-*	○○ ○○	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85 A	1	一般	指導教員：栗本
49	J	5	**-*	○○ ○○	情報処理技術者	基本技術	17.11.11	90 A	1	専門	経済産業省
50	J	5	**-*	○○ ○○	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85 A	1	一般	指導教員：栗本
51	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	17.11.19	80 A	1	一般	指導教員：小澤
52	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.11.19	100 A	1	一般	中級合格による同時認定
53	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	18.1.21	100 A	1	一般	指導教員：小澤
54	J	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	18.1.21	100 A	1	一般	中級合格による同時認定
55	J	5	**-*	○○ ○○	工業英検	3級	17.6.13	90 A	2	一般	文部科学省
56	J	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	3級合格による同時認定
57	J	5	**-*	○○ ○○	技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85 A	1	一般	指導教員：栗本
58	J	5	**-*	○○ ○○	情報処理技術者	初級ｼﾌﾄ*	17.5.16	90 A	1	専門	経済産業省
59	C	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	80 A	1	一般	指導教員：小澤
60	C	5	**-*	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90 A	1	一般	文部科学省
61	C	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	90 A	1	一般	指導教員：小澤
62	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
63	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
64	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
65	C	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	90 A	1	一般	指導教員：小澤
66	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
67	C	5	**-*	○○ ○○	漢字検定	2級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
68	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
69	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省
70	C	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	中級	18.1.21	90 A	1	一般	指導教員：小澤
71	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
72	C	5	**-*	○○ ○○	実用英検	準2級	17.11.18	90 A	1	一般	文部科学省
73	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.6.13	90 A	1	一般	文部科学省
74	C	5	**-*	○○ ○○	TOEIC	初級	17.5.7	80 A	1	一般	指導教員：小澤
75	C	5	**-*	○○ ○○	工業英検	4級	17.12.2	90 A	1	一般	文部科学省

(出典 準学士課程5年の卒業認定会議資料)

一般特別研究発表会抄録集表紙

平成 1 7 年度
一般特別研究発表会
抄録集

平成 1 8 年 3 月 3 日 (金)

第 1 会場：第 1 講義室 第 2 会場：階段教室

一般特別研究発表会実行委員会

(出典 一般特別研究発表会実行委員会資料)

卒業研究発表会抄録集表紙

平成 1 7 年度

卒業研究抄録

木更津工業高等専門学校

(出典 学科資料)

特別研究発表会講演論文集表紙

平成 17 年度 特別研究発表会 講演論文集

平成 18 年 2 月 8 日(水)

木更津工業高等専門学校 専攻科

Kisarazu National College of Technology

Advanced Engineering Courses

(出典 専攻科委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 8

専攻科特別研究発表会プログラム

平成17年度 専攻科特別研究発表会プログラム (平成18年2月8日開催)

○印：プレゼン賞推薦, 賞：表彰

No.	研究 題 目	学生氏名	指導教員	推薦
1	光トポグラフ脳機能計測のためのポジショニングシステムの開発	○○○○	○○○○	
2	認知科学的手法を用いた人間の表情認知特性の検討	○○○○	○○○○	○賞
3	ネットワークマイコンを用いた遠隔操作システムの開発	○○○○	○○○○	○
4	簡易型アンテナ指向性測定システムの構築	○○○○	○○○○	
5	強化学習を用いた知能ロボットの学習制御	○○○○	○○○○	○賞
6	ネットワークを利用した在室状況把握システムの構築(ソフトウェア)	○○○○	○○○○	
7	ロボットマニピュレータの反復学習制御	○○○○	○○○○	○
8	初心者用プログラミング言語「ビギン」の開発	○○○○	○○○○	○賞
9	高速パルス伝送技術の検討	○○○○	○○○○	
10	セルオートマトン法による都市火災シミュレーション	○○○○	○○○○	○
11	無線LAN環境におけるPDA用学習支援コンテンツの開発	○○○○	○○○○	
12	ネットワークを利用した在室状況把握システムの構築(ハードウェア)	○○○○	○○○○	
13	天然ガス採取に伴う深層土の物理的・化学的性質	○○○○	○○○○	○賞
14	EMセンサーを用いたコンクリート収縮に伴う拘束応力の計測	○○○○	○○○○	
15	微細粒子土(ケーキ)を用いた屋上緑化土の検討	○○○○	○○○○	○
16	小河川における自然復元方法の一提案	○○○○	○○○○	
17	河川湾曲部における水制構造物の影響について－小河川に挿入した効果について－	○○○○	○○○○	
18	細骨材のアルカリシリカ反応性簡易推定試験方法の開発	○○○○	○○○○	○
19	火炎自発光の分光計測に関する研究	○○○○	○○○○	
20	バイオカーボンスラリー燃料のディーゼル機関への適用	○○○○	○○○○	
21	「ものづくり」を目指した実習用教材の開発	○○○○	○○○○	
22	無限長導体円柱による電磁波の散乱の過渡解析	○○○○	○○○○	
23	筋肉を疲労した際の重心動揺	○○○○	○○○○	
24	In ₂ Se ₃ 多結晶薄膜太陽電池に関する研究	○○○○	○○○○	○賞
25	射出成形プラスチック歯車の騒音と強度に関する研究	○○○○	○○○○	○
26	電流センサレスで構成する太陽電池用昇圧コンバータ	○○○○	○○○○	
27	固体高分子型燃料電池の効率向上についての研究	○○○○	○○○○	
28	交差二円筒の強度に関する研究	○○○○	○○○○	○賞
29	モアレトポグラフィ法による三次元形状計測装置の開発	○○○○	○○○○	
30	最適サーボ系を用いたアクチュエータにむだ時間を有する6足歩行ロボットの姿勢制御	○○○○	○○○○	○
31	LQG制御による仮想受動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御	○○○○	○○○○	
32	超伝導薄膜の抵抗率の計測法について	○○○○	○○○○	
33	LC共振を利用した昇圧コンバータ	○○○○	○○○○	○

(出典 専攻科委員会資料)

準学士課程及び専攻科課程の学生の学協会等での発表状況

(主に機械工学科及び機械・電子システム工学専攻科の機械工学科出身者によるもの)

準学士課程				
No.	氏名	タイトル	発表学会雑誌名等	発表年
1	〇〇 〇〇	釣り竿の感度に関する研究	日本機械学会関東支部関東学生会第45回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集	2006
2	〇〇 〇〇	高性能模倣スターリングエンジンの開発	日本機械学会関東支部関東学生会第45回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集	2005
3	〇〇 〇〇	角柱に作用する抗力軽減に関する研究	日本機械学会関東支部関東学生会第45回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集	2005
4	〇〇 〇〇	感温磁性体と形状記憶合金を用いた光駆動マシン	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
5	〇〇 〇〇	透明物体表面の欠陥検査装置の開発	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
6	〇〇 〇〇	回折パターンを用いた工具欠損の非接触測定	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
7	〇〇 〇〇	格子パターン投影法による人体の非接触形状計測システムの開発	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
8	〇〇 〇〇	実体格子型モアレトポグラフィ法による三次元形状計測システムの開発	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
9	〇〇 〇〇	射出成形プラスチックはすば歯車の負荷特性—第5報 雰囲気温度の影響—	2004年度精密工学会秋季大会学術講演会講演論文集	2004
10	〇〇 〇〇	中距離走後の疲労回復に対する大気負イオンの効果	日本福祉工学会第6回学術講演会講演論文集	2003
11	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	格子パターン投影法による人体の非接触形状計測システムの開発	日本福祉工学会第6回学術講演会講演論文集	2003
12	〇〇 〇〇	回折パターンを用いた工具欠損の非接触測定	2003年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集	2003
13	〇〇 〇〇	リズムの測定システムの開発	日本機械学会関東支部関東学生会第42回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集	2003
14	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	リズムの自動測定システムの開発	日本福祉工学会第6回学術講演会講演論文集	2003
15	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	身体の投てき機能を障害を補完する釣りシステムの開発	日本福祉工学会第6回学術講演会講演論文集	2003
16	〇〇 〇〇	数値流体力学における導入教育(第2報:角柱背後に生じるカルマン渦列の可視化)	日本機械学会2003年度年次大会(徳島)講演論文集	2003
17	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	回折を用いた工具欠損の非接触測定	光計測シンポジウム2002講演論文集	2002
18	〇〇 〇〇	数値流体力学における導入教育	日本機械学会関東支部第8期総会講演会論文集	2002
19	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	大迎角を持つ軸対称放物体背後に生じる剥離渦の可視化計測と熱線データ解析	日本機械学会関東支部関東学生会第41回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集	2002

専攻科課程				
No.	氏名	タイトル	発表学会雑誌名等	発表年
1	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	LQG制御による仮想受動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御	日本機械学会関東支部第12期総会講演会講演論文集	2006
2	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	スライディングモード制御を用いた先端が柔軟な2リンクアームの位置と力のハイブリッド制御	日本機械学会関東支部第12期総会講演会講演論文集	2006
3	〇〇 〇〇	射出成形プラスチック歯車の騒音と強度に関する研究	2006年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集	2006
4	〇〇 〇〇	姿勢と計算成績との関係について	日本カイロプラクティクス徒手医学会誌	2005
5	〇〇 〇〇	モアレトポグラフィ法による三次元形状計測装置の開発	日本福祉工学会第8回学術講演会講演論文集	2005
6	〇〇 〇〇	最適サーボ系による仮想受動関節でモデル化したフレキシブルアームの力と振動制御	日本機械学会関東支部第11期総会講演会講演論文集	2005
7	〇〇 〇〇	最適サーボ系を用いた油圧アクチュエータのむだ時間を含む6足歩行ロボットの姿勢制御	日本機械学会関東支部第11期総会講演会講演論文集	2005
8	〇〇 〇〇	公差二円筒の強度に関する研究(相対すべり速度と軸角の影響)	日本機械学会2005年度年次大会講演論文集Vol.V	2005
9	〇〇 〇〇	Strength and Noise Life of Injection Molded Plastic Gear — Case of Hybridized Material Addition Plastics —	ICMR2005AKITA	2005
10	〇〇 〇〇	バイオカーボンスラリー燃料のディーゼル機関への適用	第42回燃焼シンポジウム講演論文集	2004
11	〇〇 〇〇	7N017ルニウム合金のシャルピ衝撃破断特性に及ぼす鍛造の加工の影響	軽金属学会第107回秋期大会講演概要	2004
12	〇〇 〇〇	ヒトのハラス指標としての三角筋の筋力測定	日本高専学会第10回研究発表会	2004
13	〇〇 〇〇	姿勢と計算との関係について	日本カイロプラクティクス徒手医学会第6回学術大会抄録集	2004
14	〇〇 〇〇	格子を投影した際のコントラストを用いた樹脂面の質感評価	日本高専学会第10回総会・研究発表会講演論文集	2004
15	〇〇 〇〇	格子を投影した際のコントラストを用いた樹脂面の質感評価	光計測シンポジウム2004講演論文集	2004
16	〇〇 〇〇	コントラストを用いた樹脂の質感評価(第2報)	2004年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集	2004
17	〇〇 〇〇	斜面歩行における6足歩行ロボットの脚機構に関する研究	日本機械学会関東支部第10期総会講演会講演論文集	2004
18	〇〇 〇〇	H ∞ 制御を用いたフレキシブルアームの力制御	日本機械学会関東支部第10期総会講演会講演論文集	2004
19	〇〇 〇〇	パターンを投影した際のコントラストを用いた樹脂面の質感評価	光計測シンポジウム2003講演論文集	2003
20	〇〇 〇〇	パターンを投影した際のコントラストを用いた樹脂面の質感評価	2003年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集	2003
21	〇〇 〇〇	地雷探知6足歩行ロボットCOMET-IIIのスライディングモード姿勢制御	計測自動制御学会第4回システムインテグレーション部門講演会講演論文集	2003
22	〇〇 〇〇	スライディングモード制御を用いた6足歩行ロボットの姿勢制御	日本機械学会関東支部第9期総会講演会講演論文集	2003
23	〇〇 〇〇	状態フィードバック制御を用いた6足歩行ロボットの姿勢制御	日本機械学会Dynamics and Design Conference 2002講演会	2002

(出典 機械工学科資料)

各種コンテスト等の受賞状況

準学士課程			
No.	受賞者氏名	受賞内容	受賞年度
1	M5 ○○ ○○	2006年度精密工学会小さなロボットのコンテスト作業マイクロメカニズム部門(有線)技術賞	2006
2	M5 ○○ ○○	2006年度精密工学会小さなロボットのコンテスト作業マイクロメカニズム部門(無線)第3位	2006
3	M5 ○○ ○○	2006年度精密工学会小さなロボットのコンテスト自慢のマイクロメカニズム部門アイデア賞	2006
4	E5 ○○ ○○	平成17年度関東信越地区高等専門学校英語弁論大会スピーチ部門3位	2005
5	J5 ○○ ○○ 他3名	第16回全国高等専門学校 プログラミングコンテスト敢闘賞	2005
6	D4 ○○ ○○ 他吹奏楽部員	平成17年度吹奏楽コンクール銀賞	2005
7	J4 ○○ ○○	平成17年度英語弁論大会第1位	2005
8	D2 ○○ ○○	第19回東洋大学「現代学生百人一首」に入選	2005
9	J5 ○○ ○○ 他10名	第15回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト敢闘賞	2004
10	J5 ○○ ○○ 他4名	第15回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト敢闘賞	2004
11	J3 ○○ ○○	平成16年度英語弁論大会第3位	2004
12	M5 ○○ ○○	2003年度精密工学会小さなロボットのコンテスト障害物マイクロメカニズム部門ユーモア賞	2003
13	M5 ○○ ○○	2003年度精密工学会小さなロボットのコンテスト作業マイクロメカニズム部門奨励賞	2003
14	J5 ○○ ○○ 他7名	第14回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト審査員特別賞	2003
15	M5 ○○ ○○	2002年度精密工学会小さなロボットのコンテスト作業マイクロメカニズム部門(有線)第3位	2002
16	J5 ○○ ○○ 他4名	第13回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト敢闘賞	2002
17	J5 ○○ ○○ 他3名	第12回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト敢闘賞	2001

専攻科課程			
No.	受賞者氏名	受賞内容	受賞年度
1	ME1 ○○ ○○	平成17年度電気学会東京支部千葉支所研究発表会優秀論文発表賞	2005

(出典 学科資料)

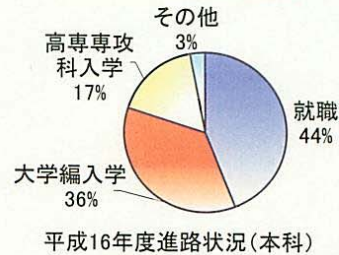
資料 6-1-②-11 (1/2)

準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧

卒業後の進路 EMPLOYMENT AND ENTRANCE INTO UNIVERSITIES

平成16年度卒業生の進路状況(本科) *Graduates of The College*

学科 Dept. of	卒業生数 Graduate	就職者数 Employed	進学者数 Going to Univ.	その他 Others
機械工学科 Mechanical Eng.	48	25	21	2
電気工学科 Electrical Eng.	34	16	17	1
電子制御工学科 Control Eng.	44	11	31	2
情報工学科 Information Eng.	37	20	17	0
環境都市工学科 Civil Eng.	43	18	24	1
合計 Total	206	90	110	6



平成16年度卒業生の就職先一覧(本科) *Employment*

学科	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科
企業名	シミズオクト	1 東邦化学工業	1 ニコン	1 NTT AT システムズ	1 トニフォー・ティー・エス
	東レ	1 東京電力	1 日産テクノ	1 H I P	1 ヤフー
	レンゴウ	1 カイト	1 凸版印刷	1 ケンウッド	1 東海旅客鉄道
	J F E ステール	1 ライフネット	1 日本ビクター	1 トミックス	1 フジテック
	日産ディーゼル技術研究所	1 ソフトバンク	1 キャノン	1 クラリオンシステムハウス	1 セクター
	V S N	1 日本 I B M	1 神鋼電気	1 日立ディスプレイズ	1 成豊建設
	トステム	1 三菱電機ビルテクノサービス	1 日鉄エレックス	1 パイオニア	1 ノザキ建工
	成田エアポートテクノ	1 関東天然瓦斯開発	1 日産ディーゼル技術研究所	1 セコム	1 刈込設計
	J A L 航空機整備成田	1 総合警備保障	1 松下電器産業パナソニックオート	1 日本 I B M	1 国土交通省関東地方整備局
	コスモ石油	1 日本放送協会	1 日本電気システム建設メディアサービス	1 オリパスシステムズ	1 君津住宅
	テレビアルファ	1 三菱プレシジョン	1 オムロンフィールドエンジニアリング	1 ヤフー	1 日東電工
	石川島汎用機サービス	1 ソニーEMCS木更津テック	1	1 横河システムエンジニアリング	1 東京水道サービス
	I H I エアロスペースエンジニアリング	1 日産テクノ	1	1 アイティシステムズ	1 日本電算機販売
	オムロンフィールドエンジニアリング	1 巴工業	1	1 日立ビジネスソリューション	1 幸徳設計事務所
	オリパス	1 ニコン	1	1 アジル・ラボ	1 第一テクノ
	クリタス	1 道路通信エンジニア	1	1 大崎コンピュータ	1 新日化環境
	セコム			1 レンゴウ	1 カンドー
	シチズン時計			1 ハイテックシステム	
	理研			1 明治乳業	
	日経総合印刷			1 日本放送協会	
	テクモ				
	いすゞエンジニアリング				
	富士家住宅機材				
	三菱重工業				
	計	25	16	11	20

卒業生の大学編入学状況(本科) *Entrance into Universities*

大学名	入学年度				合計	大学名	入学年度				合計
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
北海道大学	8			1	9	信州大学	23	3	3	1	30
室蘭工業大学	4			1	5	岐阜大学	4			1	5
北見工業大学	3				3	静岡大学	4	1			5
弘前大学	1		1		2	豊橋技術科学大学	108	8	6	9	131
岩手大学	32	1	1	1	35	三重大学	3				3
東北大学	3	1	1	2	7	京都大学	2		1		3
秋田大学	24	3	2	1	30	京都工芸繊維大学	6				6
山形大学	21	3			24	大阪大学	1				1
茨城大学	26		5	2	33	神戸商船大学	2				2
図書館情報大学	4	2			6	和歌山大学	2				2
筑波大学	3		1	2	6	鳥取大学	1				1
宇都宮大学	14	5	4		23	島根大学	4				4
群馬大学	20	3	1	1	25	岡山山大学	1				1
埼玉大学	4	1	2	1	8	広島大学	4				4
千葉大学	150	7	10	12	179	山口大学	8				8
東京大学	8			2	10	徳島大学	2				2
東京農工大学	54	5	7	4	70	香川大学	2				2
東京工業大学	7		1	1	9	愛媛大学	2				2
東京海洋大学	13	2	2	1	18	九州大学	3			1	4
御茶ノ水女子大学	1				1	九州芸術工科大学	1				1
電気通信大学	46	3	1	1	51	九州工業大学	21				21
横浜国立大学	7		1	1	9	佐賀大学	4				4
新潟大学	14	2	1	1	18	長崎大学	5				5
長岡技術科学大学	189	18	10	21	238	熊本大学	5				5
富山大学	2		1		3	宮崎大学	2				2
金沢大学	1		1		2	琉球大学	3				3
福井大学	6				6	その他の大学	39	4	7	5	55
山梨大学	28	2	2	2	34	合計	955	74	73	74	1,176

準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧

卒業生の高等専門学校専攻科入学状況

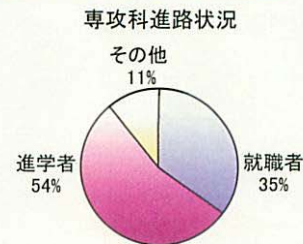
Entrance into Advanced Engineering Faculties of National College of Technology

高専名	入学年度	平成 14 年度以前	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	合 計
木更津工業高等専門学校		38	24	41	33	136
八戸工業高等専門学校		1	0	0	0	1
鶴岡工業高等専門学校		0	0	0	1	1
福島工業高等専門学校		0	0	1	0	1
東京工業高等専門学校		0	0	0	1	1
豊田工業高等専門学校		2	0	0	0	2
奈良工業高等専門学校		0	0	0	1	1
鈴鹿工業高等専門学校		1	0	0	0	1
舞鶴工業高等専門学校		0	0	1	0	1
松江工業高等専門学校		1	0	0	0	1
久留米工業高等専門学校		1	0	0	0	1
合 計		44	24	43	36	147

平成16年度専攻科修了生の進路状況

Advanced Engineering Courses Graduates

専 攻 Course	修了者数 Graduate	就職者数 Employed	進学者数 Going to Univ.	その他 Others
機械・電子システム工学専攻 Mechanical and Electrical Course	12	2	10	0
制御・情報システム工学専攻 Control and Information Course	12	5	4	3
環境建設工学専攻 Control and Information Course	2	2	0	0
合 計 Total	26	9	14	3



平成16年度専攻科修了生の進路先一覧

Employers and Graduate School of Advanced Engineering Courses

専攻	機械電子システム工学専攻	制御情報システム工学専攻	環境建設工学専攻			
就 職 先	エスエス製菓	1	西沢電機計器	1	フクシコンサルタント	1
	双葉電子工業	1	エヌアイディ・アイエス	1	カントウ機材	1
			首都圏新都市鉄道	1		
			山下ゴム	1		
			自営	1		
	計	2		5		2
進 学 先	豊橋技術科学大学大学院	1	北陸先端科学技術大学院大学	1		
	神戸大学大学院	1	豊橋技術科学大学大学院	1		
	東京農工大学大学院	1	長岡技術科学大学大学院	1		
	山梨大学大学院	2	京都工芸繊維大学大学院	1		
	千葉大学大学院	2				
	静岡大学大学院	1				
	信州大学大学院	1				
北陸先端科学技術大学院大学	1					
計	10		4		0	
合 計	12	合 計	9	合 計	2	

(分析結果とその根拠理由)

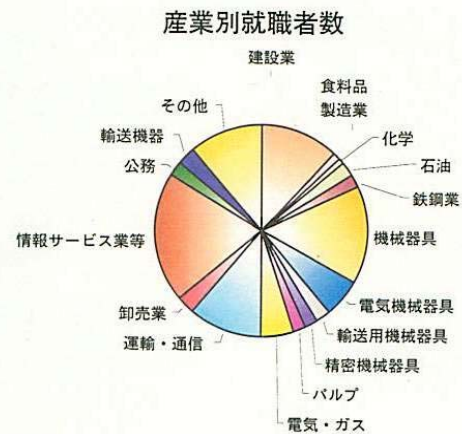
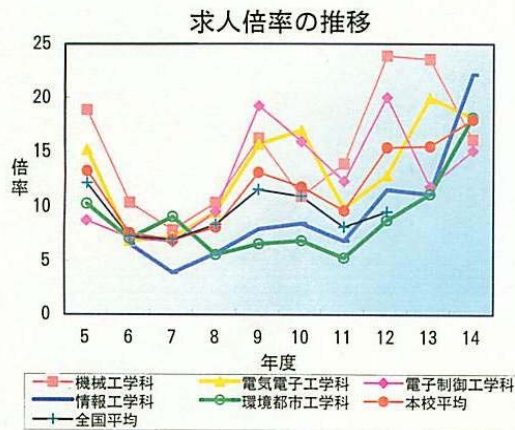
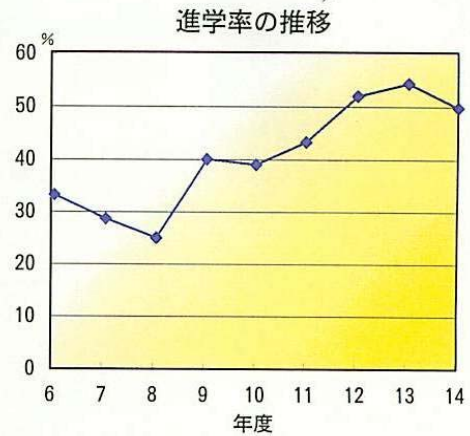
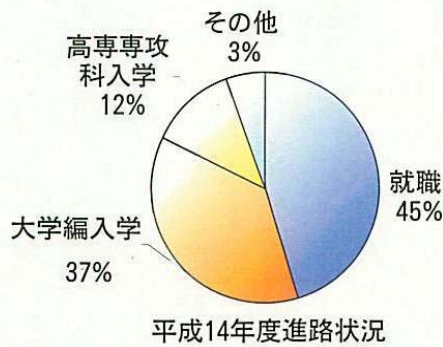
進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得状況、特別学修の状況、一般特別研究、卒業研究、専攻科特別研究等の内容・水準、各種コンテスト等の結果等から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成14年度の準学士課程卒業生の進路状況，この年度までのおよそ10年間の進学率の推移，求人倍率の推移及び産業別就職者数を（資料 6-1-③-1）に示す。また，2006年度までの3年間の就職実績を（資料 6-1-③-2）に示す。また，最近の準学士課程卒業生の進路状況，就職先一覧，大学編入学状況，高等専門学校専攻科入学状況，専攻科修了生の進路状況及び進路先一覧を（資料 6-1-②-11）に示す。準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。

資料 6-1-③-1



（出典 木更津工業高等専門学校 学校要覧 2003）

過 去 3 年 間 の 就 職 実 績

機 械 工 学 科	電 気 電 子 工 学 科 平成 12 年 電 気 工 学 科 を 改 組	電 子 制 御 工 学 科	情 報 工 学 科	環 境 都 市 工 学 科 平成 6 年 土 木 工 学 科 を 改 組
Hエアロスペースエンジニアリング	カイト	旭信シンクロテック	アイティーシステムズ	アルインコ
いすゞエンジニアリング	関東天然瓦斯開発	アルファテックソリューションズ	アジル・ラボ	刈込設計
石川島汎用機サービス	キクチ	NSデザイン	アルメックス	環境エンジニアリング
出光興産	キャノン販売	NTTドコモ	アルファテックソリューションズ	カンドー
NSデザイン	共和通信	オムロンフィールドエンジニアリング	出光興産	君津住宅
オムロンフィールドエンジニアリング	親和パッケージ	キクチキャノン	インフォーコム	クリタス
オリンパス	ジュピターコーポレーション	キャノンNTC	HIP	京急建設
花王	CRCシステムズ	財務省印刷局	NECインフロンティア	玄工務店
キクチ	JAL航空機整備成田	JR東日本	NTTATシステムズ	興産産業
黒田精工	JAL航空機整備東京	神鋼電機	NTTドコモ	幸徳設計事務所
クリタス	JFEスチール	セコムテクノサービス	エムティフィールドサービス	国土交通省
コスモ石油	総合警備保障	TID	大崎コンピュータ	新日化環境
産機エンジニアリング	ソニーEMCS	TDC	大崎コンピュータエンジニアリング	JR東海
サントリー	ソフトバンク	テルミック	オリンパスシステムズ	JR西日本
シチズン時計	第一テクノ	凸版印刷	花王	JR東日本
シミズオクト	千葉県警	ニコン	かっぱ	住金橋梁センター
新日鉄化学	TSG	日産ディーゼル技術研究所	キャノンファインテック	セクター
JAL航空機整備東京	東京電力	日産テクノ	クラリオン	セコム
JAL航空機整備成田	東邦化学工業	日鉄エレックス	クラリオンシステムハウス	第一テクノ
JFEスチール	巴産業	日本計算機販売	ケンウッド	千葉ガス
JR東海	道路通信エンジニア	日本電気システム建設メディアサービス	セコム	月島テクノメンテサービス
セコム	成田エアポートテクノ	日本放送協会	セコムテクノサービス	東京水道サービス
テコモ	ニコン	日本ビクター	ソニーEMC木更津テック	道路建設コンサルタント
テレビアルファ	日経総合印刷	パイオニア	翼システム	トニフォー・ティール・エス
東邦化学工業	日産テクノ	パナソニックオートモティブ	TID	巴商会
東レ	日本IBM	パナソニックシステムソリューション	トミックス	成豊建設
東京ガス	日本IBMテクニカルソリューション	バンテクノ	ナルボ	日東電工
東芝エレベーター	日本オーチスエレベーター	日野自動車	日本IBM	日本自動ドア
トステム	日本空港テクノ	ビクターサービスエンジニアリング	日本放送協会	日本電算機販売
成田エアポートテクノ	日本放送協会	富士ソフトABC	パイオニア	ノザキ建工
日経総合印刷	ネオテクノ	富士通デバイス	パイオニアサービス	フジテック
日航エンジンテクノロジ	パイオニア	フジオネテクノソリューションズ	ハイテックシステム	ベクトルジャパン
日産ディーゼル技術研究所	日立化成工業	松下通信工業	パナソニックSS	ヤフー
日本空港テクノ	日立コンシューマ・マーケティング	松下電器産業パナソニックオート	FSA	ワン・エイティ
日本デキシー	日立産機システム	山武ビルシステム	日立アドバンステクノロジ	
VSN	放射線医学総合研究所		日立INS	
日立ビルシステム	防衛庁		日立ディスプレイズ	
日野自動車	三菱電機ビルテクノサービス		日立ビジネスソリューション	
富士家住宅機材	三菱プレシジョン		フジオネテクノソリューションズ	
ベクトルジャパン	ライフネット		放送衛星システム	
三菱重工業	ラック		明治乳業	
理研ビタミン	理研ビタミン		リコーテクノシステムズ	
レンゴー	レンゴー		レンゴー	
			ヤフー	
			横河システムエンジニアリング	

(出典 「21世紀へはばたく君たちへ 進学志望の手引き 2006」 24頁)

(分析結果とその根拠理由)

就職や進学後の進路の状況から判断して、これら進路先は本校の教育の目的に相応しいものである。また、準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。教育の成果や効果が十分上がっている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[準学士課程]

平成17年度に、本校準学士課程卒業時における学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケート(資料6-1-④-1)を実施した。その集計結果(資料6-1-④-2)によれば、全ての項目で3(「目標をほぼ(6割程度)達成できた」)以上となっている。また、各学年の各授業科目に対して授業評価アンケートを実施し、平成17年度には、その結果に対して教員のコメントを記載した授業評価アンケート集「木更津高専における教育改善-授業科目の見直し-」を作成した。その目次等を(資料6-1-④-3, 4, 5)に示す。

[専攻科課程]

本校のJABEE受審の際に、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検(資料6-1-④-6, 7)を実施し、それらは(現地閲覧資料19)にまとめられている。専攻科課程においても、各学年の各授業科目に対して授業評価アンケートを実施し、それらは上記授業評価アンケート集にまとめられている。また、専攻科入学後、学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シート(資料6-1-④-8)を作成している。

木更津工業高等専門学校準学士課程卒業時における 学生自身による学習・教育目標達成度評価アンケート用紙

木更津工業高等専門学校準学士課程卒業時における 学生自身による学習・教育目標達成度評価

【目的】

この調査は、学習・教育目標に関する達成度について学生が自己評価を行うもので、集計結果は準学士課程の教育改善に役立てるために必要な基礎資料となります。

【記入上の注意】

- 1) 下表の各評価項目について、評価結果の欄に以下の数字を記入して下さい。
 - 5 目標を十二分に達成できた。
 - 4 目標を達成できた。
 - 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
 - 2 目標を一部達成した。
 - 1 目標を全く達成できなかった。

作成日		
2006年	月	日
学 科		
M	E	D J C

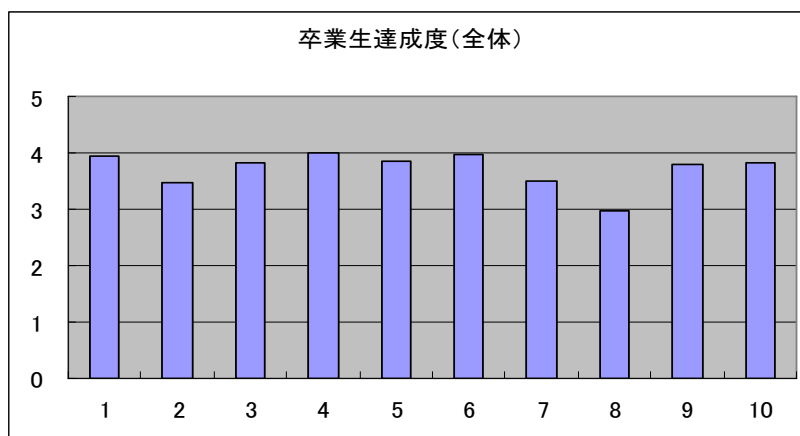
- 2) 自己評価の範囲は入学から卒業までの全ての期間をふりかえり、授業だけでなく部活動等を含めた学校活動全般を対象として評価して下さい。

学習・教育目標	評価基準	評価項目	評価結果
1. 人間形成 健康な身体と精神を 培い、社会に貢献する すぐれた人間として、 幅広い教養をもとに、 技術者としての責任を 自覚し、その使命を実 行しうる技術者。	(1)豊かな人間性と健康な心 身を培う。	・ 文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深められること。 ・ 芸術に触れ、美的価値の感受性を育むこと。 ・ 健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促すこと。	
	(2)深く社会について理解 し、広い視野が持てるよう、 豊かな教養を身につける。	・ 日本および世界の歴史的・形成過程についての理解を深めること。 ・ 世界各国の地域性を認識し、国際社会に対する理解を深めること。	
	(3)技術が自然や社会に及ぼ す影響・効果を理解し、技術 者としての責任を自覚する。	・ 技術者としての社会的な責任について理解できること。	
2. 科学技術の修得 自らの専門とする科 学技術についてその基 礎となる理論及び原理 を十分に理解し、積極 的に活用しようとする 技術者。	(1)数学および自然科学の基 礎知識とそれらを用いた論理 的思考能力を身につける。	・ 数学および自然科学の基礎知識を身につけること。 ・ 実験を通して現象を理解できること。	
	(2)専攻する学科の専門分野 の知識と能力を身につける。	・ 各専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できること。	
	(3)実験・実習を通して、も のづくりに必要な力を身につ ける。	・ 実験・実習を通して、ものづくりに必要な実践的技術を身につけること。	
3. コミュニケーショ ン能力 高度情報化社会に対 応し、自らの考えを状 況に応じて的確に表現 しうる技術者。	(1)日本語の記述能力を身に つける。	・ 国語表現の技法を身につけるとともに語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉で表現できること。	
	(2)英語によるコミュニケー ション基礎能力を身につけ る。	・ 基礎的な英語力を身につけること。	
	(3)情報技術を使いこなす、 発表・討論ができる能力を身 につける。	・ コンピュータを用いた情報検索や情報処理などができること。 ・ コンピュータを用いて、一般特別研究や卒業研究などの内容を発表・討論できること。	
4. 創造力 自ら工夫して新しい ものを造り出す問題発 見・解決型の技術者。	一般特別研究や卒業研究な どを通して、修得した知識や 技術をもとに創造性を発揮 し、問題を発見し、解決する 能力を身につける。	・ 修得した専門知識が活用できること。 ・ 問題意識をもち、創意工夫でその解決にあたる姿勢がもてること。	

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

木更津工業高等専門学校準学士課程卒業時における
 学生自身による学習・教育目標達成度評価アンケートの結果

番号	設問	1	2	3	4	5	平均
1	(1)豊かな人間性と健康な心身を培う。	1	15	41	71	63	3.9
2	(2)深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。	6	32	56	61	36	3.5
3	(3)技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	4	10	49	82	46	3.8
4	(1)数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	1	10	43	71	66	4.0
5	(2)専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。	3	9	50	79	50	3.8
6	(3)実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。	1	11	43	74	62	4.0
7	(1)日本語の記述能力を身につける。	5	20	71	63	32	3.5
8	(2)英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。	17	43	79	35	17	3.0
9	(3)情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。	7	7	54	71	52	3.8
10	一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。	4	10	47	82	48	3.8



- 5 目標を十二分に達成できた。
- 4 目標を達成できた。
- 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
- 2 目標を一部達成した。
- 1 目標を全く達成できなかった。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

冊子「木更津高専における教育改善－授業科目の見直し－」表紙

木更津高専における教育改善

－授業科目の見直し－

平成17年10月

木更津工業高等専門学校

(出典 庶務課資料, 現地閲覧資料 20)

冊子「木更津高専における教育改善－授業科目の見直し－」目次

目 次

「授業科目の見直し」の発行にあたり	巻頭
まえがき	1
1. 木更津高専のFD活動の流れ	3
2. 項目別の現在の状況	4
3. 木更津高専における授業改善のポイント	6
4. 「授業評価アンケート」について	7
資料 1-1 : 記述式アンケート(既設10設問)	10
資料 1-2 : 記述式アンケート((既設 3 設問+自由設定 7 設問)	11
資料 2 : マークシート利用のアンケートについて	12
資料 3 : マークシートによる全回答の集計結果	14
平成16年度開講 授業科目一覧 : 一般科目～専攻科	15
授業担当教員によるコメント等	
一般科目	一般-1
機械工学科	M-1
電気電子工学科	E-1
電子制御工学科	D-1
情報工学科	J-1
環境都市工学科	C-1
専攻科	Ad-1

(出典 庶務課資料, 現地閲覧資料 20)

資料 6-1-④-5

冊子「木更津高専における教育改善－授業科目の見直し－」10頁より

記述式：既設10設問アンケート用紙

平成17年度 学生による授業評価アンケート (記述式：既設10設問)

※ 当アンケートは、授業方法および授業内容(科目／カリキュラム)の改善を目的として木更津高専が組織的に実施するものであり、回答した学生の成績評価等には一切関係しません。

科目名： クラス： 年 科／専攻 | 回答日： 年 月 日

教員名： 回答学生(記入は担当教員の指示による)：

設問1：あなた自身の授業に対する取り組みに満足していますか？

設問2：授業の進度や分かりやすさ等について満足していますか？

設問3：使用している教科書について満足していますか？

設問4：補助教材や配布資料等について満足していますか？

設問5：課題やレポート等について不満はないですか？

設問6：試験のレベル(難易度)に不満はないですか？

設問7：成績評価方法について不満はないですか？

設問8：この授業で(最も)満足を感じる点は何ですか？

設問9：この授業で(最も)不満を感じる点は何ですか？

設問10：その他、意見等あれば書いてください。

(出典 庶務課資料，現地閲覧資料 20)

資料 6-1-④-6

「生産システム工学」教育プログラム，学習・教育目標達成度に関する
学生自身による自己評価点検の表紙

「生産システム工学」 教育プログラム

学習・教育目標達成度に関する
学生自身による自己評価点検表

2005年度版

_____ 専攻

学籍番号 _____

氏 名 _____

※ 当点検表は「特別研究状況報告書」にファイルすること。

木更津工業高等専門学校

(出典 専攻科委員会資料)

「生産システム工学」教育プログラム、学習・教育目標達成度に関する
 学生自身による自己評価点検の内容

「生産システム工学」教育プログラム
 学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表

【目的】

この自己評価点検表は、学習・教育目標に関する達成度について学生が自己点検等を行い、その後の学習に役立てるためのものです。各段階で自己点検等を重ね、プログラム修了時には全ての項目に「3以上」がつかうことが望まれます。

【記入上の注意】

1) 『「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引』を参照しながら、下表の右欄に以下の数字を記入して下さい。

- 5 目標を十二分に達成できた。
- 4 目標を達成できた。
- 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
- 2 目標を一部達成した。
- 1 目標を達成すべく努力中である。
- － 履修前または履修中である。

2) 「今後の学習目標」の欄には、その後の学習計画等について、具体的に記入して下さい。

3) 「指導教員の助言」の欄は、特別研究指導教員に記入を依頼してください。

学習・教育目標	評価基準	点検項目	専1年 6月	専2年 4月	プログラム 修了時
(A) 人間形成：健康な 身体と精神を培 い、社会に貢献 するすぐれた人間 として、幅広い教養 をもとに、技術者 としての責任を自 覚し、その使命を 実行しうる技術者	(A-1) 豊かな人間性と健康な心身 を培う。	・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツ の実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯 スポーツの礎を構築できること ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理 解し、自分の考えを深められること			
	(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす 影響・効果を理解し、技術 者としての責任を自覚す る。	・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できる こと ・技術に関係する事故等の検討を通して、技術者としての 社会的な責任と使命について理解できること ・環境問題と社会の関係についての概略を理解できること ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること			
(B) 科学技術の修得と 応用：自らの専門 とする科学技術に ついて、その基礎 となる理論および 原理を十分に理解 し、境界領域にも すすんで活躍しう る技術者	(B-1) 数学および自然科学の基礎 知識とそれらを用いた論理 的思考能力を身につける。	・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用 いて応用問題を解けること ・実験を通して現象を理解できること			
	(B-2) 最も得意とする専門分野の 知識と能力を身につける。	・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工 学的な現象を理解できること			
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、 得意とする専門分野の知識 と複合する能力を身につけ る。	・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と 複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身に つけること			
	(B-4) 実験や実習を通して実践的 技術を身につける。	・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的 技術を身につけること			
(C) コミュニケーション 能力：国際化お よび高度情報化社 会に柔軟に対応 し、自らの考えを 状況に応じた的確 に表現しうる技術 者	(C-1) 日本語の記述能力を身につ ける。	・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、 場面や状況に応じた言葉で表現できること			
	(C-2) 情報技術を使いこなし、日 本語による発表・討論がで きる能力を身につける。	・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内 容を発表・討論できること			
	(C-3) 国際的に通用するコミュニ ケーション基礎能力を身に つける。	・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を 身につけること			
(D) 創造力：自ら工夫 して新しいものを 造り出す研究開発 型の技術者	卒業研究や専攻科特別研究 などを通して、修得した知 識をもとに創造性を発揮 し、自発的に問題を解決す る能力を身につける。	・修得した専門知識を用いること ・問題を解決するために、創意工夫して問題を解決でき ること			

(出典 専攻科委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 8

専攻科学習助言シート

今後の学習目標／指導教員の助言

学 生 名 _____

指導教員名 _____

点検 時期	今後の学習目標：学生が記入	
	指導教員の助言：教員が記入	
専攻科 1 年 6 月	学 生	
	指 導 教 員	
専攻科 2 年 4 月	学 生	
	指 導 教 員	
専攻科 修了時	学 生	
	指 導 教 員	

(出典 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の卒業時に、学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し、全ての項目で「目標をほぼ(6割程度)達成できた」という良い結果を得た。準学士及び専攻科の両課程で授業評価アンケートを実施し、教員のコメントを記載したアンケート集を作成した。また、専攻科入学後に学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シートを作成し、修了時に、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検も実施している。

以上のように、各種アンケートや助言シートにより教育の成果や効果を確認しており、それらの結果より教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成17年度に、準学士課程卒業生と専攻科課程修了生に対して、上記意見を聴取するアンケート（資料6-1-⑤-1）を実施した。その集計結果（資料6-1-⑤-2）によれば、多くの項目で良い回答を得ている。また、進学先として、長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学に、就職先として企業に、それぞれアンケートを実施した。その結果の一部を（資料6-1-⑤-3）に示す。

また、本校のJABEE受審の際に、いくつかのアンケートと座談会を実施し、関係者から意見を収集した。それらについての資料（専攻科修了生、就職先、保護者への各アンケート及びその調査結果、専攻科修了生座談会及びその議事要旨）を（現地閲覧資料21）に示す。

更に、平成16年度には、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価についての学外の有識者による外部評価を行い、報告書としてまとめた。その一部を（資料6-1-⑤-4）に示す。特に専攻科の現状、地域共同テクノセンターの現状、JABEE認定申請に向けての現状、中期計画の策定等について、貴重な評価・提言を頂いた。

上記達成度評価アンケートの結果や、卒業生、修了生、大学、企業等及び外部評価委員からの意見・提言によれば、例えば英語等で改善を求める声があることが分かる。これらに関しては、観点6-1-①で述べたカリキュラムの見直し等により、現在改善を試みているところであるが、まだ始まったばかりであり、十分な結果を得るに至っていない。

卒業生と修了生に対するアンケート用紙

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」

H18.1.24

本アンケートは木更津高専の教育改善に用いるために行っております。Q1～9の回答は該当項目の番号を右の回答欄にご記入ください。
Q10・11は記述式回答となっております。項目が多くお手数をおかけいたしますが、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

<p>Q1 ご卒業または修了後、何年経っていますか。 ①-9年以下、②-10～19年、③-20～29年、④-30年以上</p>	<p style="text-align: right; margin-bottom: 0;">回答欄</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A1</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A1																									
A1																											
<p>Q2 準学士課程卒業の方へお聞きします。木更津高専の卒業学科を教えてください。 ①-機械工学科 ②-電気電子工学科(電気工学科) ③-電子制御工学科 ④-情報工学科 ⑤-環境都市工学科(土木工学科)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A2</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A2																									
A2																											
<p>Q3 専攻科修了の方へお聞きします。卒業専攻を教えてください。 ①-機械・電子システム専攻、②-制御・情報システム専攻、③-環境建設工学専攻</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A3</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A3																									
A3																											
<p>Q4 現在の職種等を教えてください。 ①-会社員・公務員 ②-大学生・高専専攻科生 ③-大学院生 ④-自営業 ⑤-その他</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A4</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A4																									
A4																											
<p>Q5 現在の業種と職種を教えてください。 【業種】 (1)鉱業 (2)建設業 (3)食料品 (4)繊維製品 (5)パルプ・紙 (6)化学 (7)医薬品 (8)石油・石炭製品 (9)ゴム製品 (10)ガラス・土石製品 (11)鉄鋼業 (12)非鉄金属製品 (13)金属製品 (14)機械 (15)電気機器 (16)輸送用機器 (17)精密機器 (18)電気・ガス・水道業 (19)運輸業 (20)情報・通信業 (21)小売業 (22)サービス業 (23)公務員 (24)その他 【職種】 (1)研究開発 (2)製造・生産技術 (3)設計 (4)生産・品質管理 (5)システムエンジニア (6)サービスエンジニア (7)営業 (8)経営・管理 (9)その他</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A5</td> <td style="width: 80%; height: 40px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10px;"></td> <td style="width: 70%; text-align: center;">業種</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">職種</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	A5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10px;"></td> <td style="width: 70%; text-align: center;">業種</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">職種</td> <td></td> </tr> </table>		業種			職種																			
A5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10px;"></td> <td style="width: 70%; text-align: center;">業種</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">職種</td> <td></td> </tr> </table>		業種			職種																					
	業種																										
	職種																										
<p>Q6 木更津高専を選択し、卒業・修了しての感想を聞かせてください。 ①-自分にふさわしい理想的な選択ができた、②-まあまあ自分にふさわしい理想的な選択ができた ③-第1希望ではなかったが、満足している、④-他の学校に入ればよかったと後悔している、⑤-よく分からない</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A6</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A6																									
A6																											
<p>Q7 木更津高専における勉強の内容は、現在役立っていますか？ ①-とても役立っている、②-わりと役立っている、③-普通、④-余り役立っていない、⑤-全く役立っていない</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A7</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A7																									
A7																											
<p>Q8 木更津高専で受けた授業カリキュラムの中で、以下の関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。 5段階で評価してください。 ①-十分、②-まあまあ、③-普通、④-やや不十分、⑤-不十分</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">A8</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">(1)</td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(6)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(7)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(8)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(9)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(11)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(12)</td> <td></td> </tr> </table>	A8		(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)		(8)		(9)		(10)		(11)		(12)	
A8																											
(1)																											
(2)																											
(3)																											
(4)																											
(5)																											
(6)																											
(7)																											
(8)																											
(9)																											
(10)																											
(11)																											
(12)																											
<p>(1) 国語 (2) 英語 (3) 数学 (4) 物理・化学 (5) 一般特別研究 (6) その他一般科目 (7) 情報技術・コンピュータ基礎 (8) 専門科目の講義 (9) 専門科目の演習・実験実習 (10) 卒業研究・特別研究 (11) インターンシップ (12) 他学科の専門科目(専攻科修了生のみ回答)</p>																											
<p>Q9 木更津高専の学生生活の中で、卒業後に役だったと思われることは何ですか。 ①-友人関係、②-寮生活、③-部活動、④-自由な時間、⑤-その他()</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A9</td> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> </tr> </table>	A9																									
A9																											
<p>Q10 木更津高専で受けた教育について、良かったと思う点と良くなかったと思う点をお聞かせください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; min-height: 40px;"> <p>良かった点:</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 40px;"> <p>良くなかった点:</p> </div>																											
<p>Q11 木更津高専への提言があれば、ご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 40px;"> </div>																											

回答は以上です。ご協力ありがとうございました。
JABEE認定・認証評価推進委員会

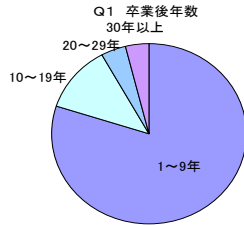
(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 6-1-⑤-2 (1/2)

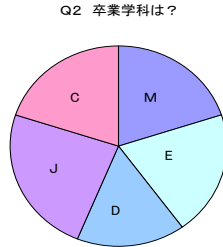
卒業生と修了生に対するアンケート結果

設問内容&グラフ

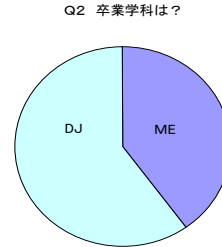
Q1 ご卒業または修了後、何年経っていますか。



Q2 木更津高専の卒業学科を教えてください。

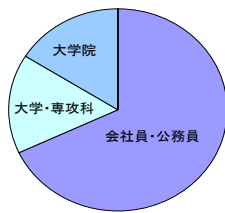


Q3 専攻科修了の方へお聞きします。卒業専攻を教えてください。



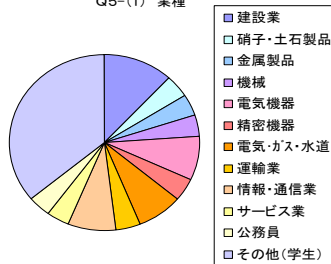
Q4 現在の職種等を教えてください。

Q4 現在の職業は？

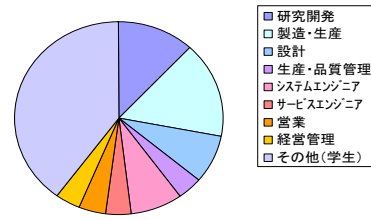


Q5 現在の業種と職種を教えてください。

Q5-(1) 業種

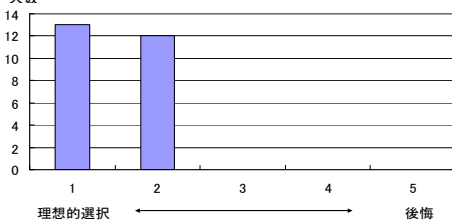


Q5-2 職種



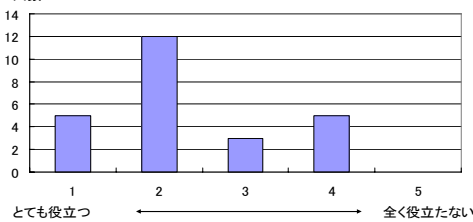
Q6 木更津高専を選択し、卒業・修了しての感想を聞かせてください。

Q6 木更津高専を選択して良かったか？



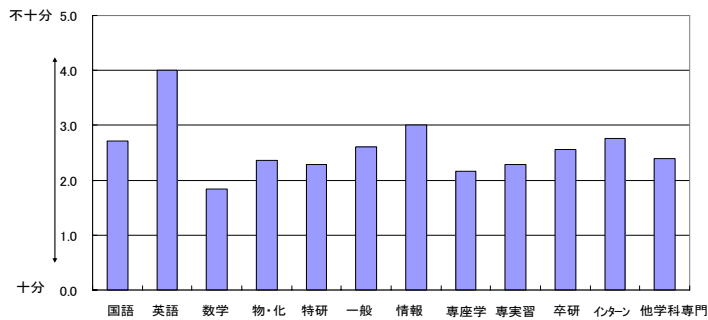
Q7 木更津高専における勉強の内容は、現在役立っていますか？

Q7 高専の勉強は役立っているか？



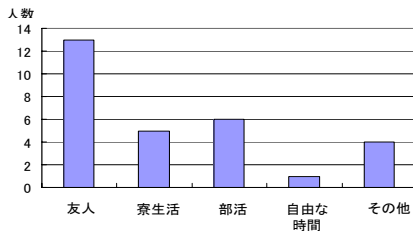
Q8 木更津高専で受けた授業カリキュラムの中で、以下の関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。

Q8 カリキュラム評価



Q9 木更津高専の学生生活の中で、卒業後に役だったと思われることは何ですか。

Q9 学生生活で役立ったこと



(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

Q10 木更津高専で受けた教育について、良かったと思う点と良くなかったと思う点をお聞かせください。

良かった点

- ・ 実験・実習
- ・ 専門科目・演習・実験
- ・ 専門教育を学べた
- ・ 専門教育を学べた
- ・ 実習が多い点、また設計と実習の連携が取れていた
- ・ 基本的なことを多く学べたと思います。広く浅くと言う感じで良かったです。
- ・ 専門科目が幅広く勉強できた
- ・ 実習、経験することでものづくりがイメージできるようになった
- ・ 他の教育機関と比べて、数学や専門分野を早い時期から学び始めることができるので卒業時のレベルが結果的に高くなる
- ・ 専門分野や実験を早くからできる
- ・ 実践的かつ実用的な教育を受けることができること
- ・ 早い時期に専門知識を身につけ、実践する機会があること。学会に発表する機会が多い
- ・ 落ち着いた教育環境
- ・ 実験レポート・自分で考えて報告書を書くこと
- ・ 集中して学べる点、自由な風土
- ・ 科学的な考え方
- ・ 受験のための授業ではなかったため純粋な競争が出来たこと
- ・ 自由な校風で自立性が築けた
- ・ プログラムの勉強
- ・ 早い段階から専門教育を受けることでその知識がわりと当たり前のもので受け止めることが出来た。基本があるので会社生活で必要な技術を余り苦無く吸収することが出来ている
- ・ 1年次より専門を取り入れた教育、研究のための時間が十分にあったこと
- ・ 専門科目を学ぶ時間が多くあったこと、その分ゆとりを持って学べたこと(理解することに対して時間を要するので有り難かったです)
- ・ 大学に比べて先生と学生の距離が近いこと

良くなかった点

- ・ 英語に力を入れるべき
- ・ 英語・英会話不足
- ・ 英語が伸びなかった
- ・ 外国語が不十分に感じた
- ・ プログラミングの時間が少ない点、C言語を教えるべきだと思います
- ・ 英語は5年生までやるべき
- ・ 数学等、基礎学力が劣る
- ・ 国語や英語などの語学力が、他の教育機関を卒業・修了した人と比べると自己努力が必要となってしまうところ
- ・ クラスのメンバーに流動性がなかった点。基礎教養課程ではもっとクラスメンバーに流動性を持たせることが出来たのでは？
- ・ 他の学校のレベルを知らない
- ・ 英数系の力量不足
- ・ 全体的に時間がなかった
- ・ 英語等基礎学力
- ・ 特になし
- ・ 国社英の一般教養が圧倒的に少なくまた選択数が少ない
- ・ 英語については、大学卒の人たちと比べ相当に劣る
- ・ パソコンについて余りやらなかった、英語が苦手
- ・ 情報工学科が出来て間もない頃であったためカリキュラムや設備が十分でなかったと感じる。(UNIX全盛期であったのに基礎はMS-DOSだったり)自由に使用できるPCも少なかったと思う(今はそんなこと無いと思いますが)
- ・ 基礎科目の不足、特に英語。選択科目の少なさ。もっと幅広い分野の勉強を増やすべき
- ・ 一般科目(特に英語)の時間数が少なかったため大学に入ってから一般生(1年からの人たち)に比べて知識が少なかった

Q11 木更津高専への提言があれば、ご記入ください。

- ・ 教育機関としてもまた学術機関としても一目置かれる存在となりますよう今後のご活躍を期待しております
- ・ 資格取得の勉強
- ・ 一般科目はクラス替え(他学科と合同)
- ・ 自分で物事を作り出す能力を育む研究に力を入れた方がよいのではないのでしょうか？
- ・ 専攻科での少人数授業は良かった
- ・ 他学科の講義を受けられたら良かったかなと思います。今更プラスチック関連の講義受けたいです。
- ・ 特になし
- ・ 高専から大学に編入し現在SEをしている者として専門の技術力は卒と比較しても劣るところはないと思いますが英語については問題外のレベル差がある
- ・ 特になし
- ・ 校舎もきれいになりとても良いと思います。未だ高専の存在を知らない方も多いので今後とも地域貢献など力を入れていただければと思います。
- ・ 情報科に関してになりますがOSがUNIXだけじゃなくてWindowsも学ぶ時間があつたらいいなあ~と思います。

資料 6-1-⑤-3 (1/4)

大学へのアンケート結果

大学教員の皆様へアンケートのお願い

木更津工業高等専門学校
JABEE 認定・認証評価推進委員会

ご協力いただける大学教員の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、大学教員の皆様にアンケートをお願いしております。大学教員の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚のない御意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 所属学科をご記入ください。

建設工学
(環境・建設系)

2. 募集の対象となる学科に○をお付けください。複数回答可。

- () 機械工学科 () 電気電子工学科 () 電子制御工学科
- () 情報工学科 () 環境都市工学科
- () 機械・電子システム工学専攻 () 制御・情報システム工学専攻
- () 環境建設工学専攻

3. 高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

真面目であること
専門分野の基礎的な事柄を十分に理解していること

4. 上記3を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である

5. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。

成績が優秀である。
課題に取り組む真面目さが、他高専に比べて優れている。

6. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。

覇気のない学生も見受けられる(優秀ではあるが)

7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

本学も含めて、~~教育の~~より、社会性を伸ばす教育が必要だと思います

ご協力ありがとうございました。

資料 6-1-⑤-3 (2/4)

大学へのアンケート結果

大学教員の皆様へアンケートのお願い

木更津工業高等専門学校
JABEE 認定・認証評価推進委員会

ご協力いただける大学教員の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、大学教員の皆様にアンケートをお願いしております。大学教員の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚のない御意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 所属学科をご記入ください。

エコロジー学科

2. 募集の対象となる学科に○をお付けください。複数回答可。

- 機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科
 情報工学科 環境都市工学科
 機械・電子システム工学専攻 制御・情報システム工学専攻
 環境建設工学専攻

3. 高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

基礎学力のある向上心を持っていてる学生

4. 上記3を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である

5. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。

素直で努力型である。

6. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。

基礎学力(特に英語の能力)をしっかりと身に付けさせて欲しい。

7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料, 現地閲覧資料 22)

資料 6 - 1 - ⑤ - 3 (3 / 4)

企業へのアンケート結果

企業の皆様へのアンケート

木更津工業高等専門学校
JABEE・認証評価推進委員会

ご協力いただける企業の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、企業の皆様にアンケートをお願いしております。企業の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚なく、以下のアンケートにお答えいただけますよう、お願い申し上げます。

- 御社の業種をご記入ください。例：(I T) 関係 など
(鉄鋼) 関係
- 求人の対象となる学科に〇をお付けください。複数の学科の学生を求人される場合は、対象とされる学科全てにご記入ください。
 機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科
 情報工学科 環境都市工学科
- 御社には、これまで本校の卒業生が就職していますでしょうか？ YES または NO に〇を付けて下さい。
 YES NO
 *YES と答えられた方は 4 番より、NO の方は 4 番と 8 番のみお答え下さい。
- 御社が高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？
 専門知識を有した人材、自主性を有した人材
- 上記 4 を踏まえ、御社で働く本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を〇で囲んで下さい。
 ① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である
- 御社に入社した、これまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。
 自主性、バースの専門知識
- 御社に入社したこれまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。
 1 層の専修教育
- その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料, 現地閲覧資料 22)

企業へのアンケート結果

企業の皆様へのアンケート

木更津工業高等専門学校
JABEE・認証評価推進委員会

ご協力いただける企業の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、企業の皆様にアンケートをお願いしております。企業の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚なく、以下のアンケートにお答えいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 御社の業種をご記入ください。例：(I T) 関係 など
(セキリティ、医療、情報、保険) 関係
2. 求人対象となる学科に○をお付けください。複数の学科の学生を求人される場合は、対象とされる学科全てにご記入ください。

(○) 機械工学科 (○) 電気電子工学科 (○) 電子制御工学科
(○) 情報工学科 (○) 環境都市工学科

3. 御社には、これまで本校の卒業生が就職していますでしょうか？ YES または NO に○を付けて下さい。

YES

NO

* YES と答えられた方は 4 番より、NO の方は 4 番と 8 番のみお答え下さい。

4. 御社が高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

・ 理系の専門的な知識
・ 専誠実と持続力、発想力

5. 上記 4 を踏まえ、御社で働く本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である

6. 御社に入社した、これまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。

・ 電気、情報系の基礎的な知識から応用力がある。
・ 集中力と持続力

7. 御社に入社したこれまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。

・ コミュニケーション能力、特に表現力。

8. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

資料 6-1-⑤-4 (1/2)

外部評価報告書表紙

外 部 評 価 報 告 書



平成 1 6 年 1 1 月

木更津工業高等専門学校

(出典 庶務課資料, 現地閲覧資料 23)

外部評価報告書目次

目 次

1.	木更津工業高等専門学校外部評価実施要領・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿・・・・・・・・	2
3.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目・・・	3
4.	木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程・・・・・・・・・・・・	4
5.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表・・・・・・・・	5
6.	外部評価委員会委員に配布した資料一覧・・・・・・・・・・・・・・	6
7.	外部評価に際して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
8.	外部評価委員の評価内容	
	一専攻科の現状一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
	一地域共同テクノセンターの現状一・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	一J A B E E 認定申請に向けての現状一・・・・・・・・・・・・・・	17
	一中期計画の策定一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	一その他一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
9.	木更津工業高等専門学校外部評価書様式・・・・・・・・・・・・・・	24

(出典 庶務課資料, 現地閲覧資料 23)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生、修了生、大学、企業及び保護者などの関係者や外部評価委員から、卒業生や修了生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関して、意見を収集し、評価及び提言を頂いている。これらの各方面からのさまざまな意見等の結果によれば、おおむね高い評価を得ており、教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

必要に応じてカリキュラムの見直しを行い、また、準学士課程の成績評価の合格基準を50点から60点へ変更することにより、学生が卒業時に身につける学力や資質・能力の評価基準について、外部の高等教育機関との整合性を高めた。選択科目「特別学修」を導入することにより、多くの学生が外部資格試験のみにとどまらず、技術イベント活動(ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト)及びボランティア活動(社会福祉)等にも積極的に取り組むことができるようにした。更に、第3学年の通年必修科目「一般特別研究」では小人数の課題研究を実施し、最後に全員が一般特別研究論文としてまとめ、3月の発表会で会場等の制約の許す限り多くの学生に発表させ、プレゼンテーション能力の向上に役立てている。卒業研究や専攻科特別研究では日本機械学会、計測自動制御学会、精密工学会、軽金属学会、日本福祉工学会、日本カイロプラクティック徒手医学会、日本高専学会等で発表されるものもあり、各種コンテスト等で受賞する者もいる。準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。準学士課程の卒業時に、学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し、全ての項目で「目標をほぼ(6割程度)達成できた」という良い結果を得た。専攻科課程の修了時に、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検のためのアンケートも実施した。卒業生、修了生、大学、企業及び保護者等の関係者や外部評価委員から、卒業生や修了生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関して、意見を収集し、評価及び提言を頂く機会を設けている。これらの結果によれば教育の成果や効果が上がっている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

準学士課程においては、教務委員会、修了認定会議及び卒業認定会議があり、専攻科課程においては、専攻科委員会と専攻科修了認定会議があり、学生が卒業（修了）時に身につける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。高等専門学校における比較的長期にわたる学園生活の節目となるものとして、準学士課程に特別学修、一般特別研究、卒業研究があり、専攻科課程に専攻科特別研究がある。専攻科課程では、学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シートを作成している。就職や進学後の進路先は本校の教育の目的に相応しいものであり、準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。また、これらの両課程において授業評価アンケートを実施し、教員のコメントを記載したアンケート集を作成している。準学士課程の卒業時に、学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し、全ての項目で「目標をほぼ(6割程度)達成できた」という良い結果を得ている。専攻科課程の修了時にも、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検を実施している。卒業生、修了生、大学、企業及び保護者等の関係者や外部評価委員から意見を収集し、評価及び提言を頂いている。それらの結果によれば、教育の成果や効果が上がっている。

基準7 学生支援

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①: 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

学生便覧、シラバス等の資料が年度当初に全学生に配付され、HRで担任により説明されている(資料7-1-①-1)。新入生には毎年4月に新入生合宿研修を行い、学生間のコミュニケーションの拡大を図るとともに学生生活を中心としたガイダンスを行っている(資料7-1-①-2)。第3学年の年度末に、生産システム工学教育プログラム履修の手引が配付され、学科ごとにガイダンスが行われている(資料7-1-①-3)。4学年の1～2月に各学科でOB懇談会を開いている(資料7-1-①-4)。年度末には学年全体(資料7-1-①-5)及び各学科で進路懇談会(資料7-1-①-6)を開き、進路関係のガイダンスが行われている。専攻科生においても専攻科連絡会・ガイダンスが定期的に行われている(資料7-1-①-7)。

全教員がオフィスアワーを開設し、学生の自主的学習を支援している(資料7-1-①-8)。

専攻科生は自己点検表により学習達成度を自己評価し、また学習目標を設定して学習を自主的に進めるための方策としている(資料7-1-①-9)。

学級担任の手引

学級担任の業務詳細事項

— 共通業務 —

A. 学年当初のホームルーム（特別活動の時間、以下「H・R」と略称）で行う事項

1: 学級役員の選出（4月上旬）

学級の学級委員その他の役員を決め、学生係経由で校長に報告する。この場合、なるべく学生の合議で決めさせ、担任は指導する。

2: 学年始行事の説明

学生課より配布される学年始めのスケジュール等の資料を予め整理し、確実に伝える。

3: 諸規程の説明

特に、学生に関係する学則、成績審査規程等の改訂のあった場合は、詳しく解説する。また、諸手続きに手落ちのないように指導する。

（特に再履修、再試験等については学生便覧を参照して下さい。）

4: 留年者の指導

留年者には、必修科目（必修選択科目含む）のB以上と選択科目のC以上は既修得となるので再履修する必要はないことを周知するとともに、願い出れば再履修も出来る事を指導する。（科目の開講後、2週間以内）

5: 再履修（再試験）の指導（科目の開講後、2週間以内）

未修得科目を持ちながら進級した者でD評価の科目のある者には再試験（履修免除）の道があることを周知する。ただし、実技科目は特別補講（学生便覧の「学習案内」参照）となる。

6: 再評価の指導（後期開始後2週間以内）

前期終了科目で評価Dである場合は、再評価が或ることを周知する。

（学生便覧の「学習案内」参照）

7: その学年の行事及び重要事項の説明

B. 学期当初の業務

8: 前年度担任との引き継ぎ（1年を除く：前期のみ）

H・Rの実施メモ、指導を要する学生情報等について引き継ぎを行う。

（出典 学級担任の手引 20 頁）

新入生合宿研修の手引

新入生合宿研修について

1. 目標

- (1) 仲間作り (2) 高専生活への適応 (3) 心身の鍛錬

この研修を良いものにするためには、学生諸君一人一人の努力が必要である。諸君が主体的に取り組むことで、この研修が有意義な、そして楽しいものになることを期待する。

2. 参加者：1年生全員211名+教職員18名=合計229名

新 入 生：M科43名，E科43名，D科42名，J科41名，C科42名

校 長：河上恭雄

総 責 任 者：高遠節夫（学生主事）

実 行 委 員 長：岩崎洋一（学生主事補）

副 実 行 委 員 長：丸山真佐夫（学生主事補）

第1学年学級担任（5名）：金子真隆(M)，清野哲也(E)，室井美稚子(D)，
鈴木道治(J)，高橋邦夫(C)

専門学科教員（5名）：内田洋彰(M)，岡本保(E)，泉源(D)，大枝真一(J)，鬼塚信弘(C)

事務職員（4名）：原稔継，矢野幸一，高橋光子，安田勤

3. 研修日程概要（詳細は後述）

1日目（4月21日（木））

晴天の場合：鴨川市内でハイキング（約20kmか約13kmのいずれかを班毎に選択）後、鴨川青年の
家に入所。

夕食および入浴後，創作劇発表会。

豪雨の場合：学校でのものづくり体験（クラスアート）後，鴨川青年の家に入所。

夕食および入浴後，創作劇発表会。

2日目（4月22日（金））

晴天の場合：飯盒炊爨。

雨天の場合：ものづくり体験（ペーパークラフト）。

4. 研修場所の住所，連絡先等

木更津高専：

清和県民の森：

みんなみの里：

鴨川青年の家：

実行委員長携帯：

（出典 2005年度新入生合宿研修の手引1頁）

生産システム工学教育プログラム履修の手引

1. はじめに

今日、人およびものが国境を越えて交流し、ものづくりに対する社会のニーズは多様化しています。わが国におけるものづくりでは、なにを、どこで、どのようにしてつくるかといった、いわゆる生産システムを考えなければなりません。そのために、諸問題を発見し、複合領域の知識により解決でき、国際化に対応できる能力を備えた技術者が求められています。これに応えるために、本校では、本科4年次から専攻科2年次まで4年間一貫の「生産システム工学」教育プログラムを設定し、国際化に対応できる技術者教育を行っています。

本教育プログラムは、最も得意とする専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、両分野の知識を複合させる能力を身につけることを目的としています。具体的には、本科で開設されている機械工学、電気電子工学、電子制御工学、情報工学、環境都市工学のうち、いずれか1つの専門分野を学修して、さらに他専門分野の科目を学修します。

この教育プログラムは、2005年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定審査を受審する予定です。JABEEについては「8. 日本技術者教育認定機構(JABEE)について」において説明しています。

学生の皆さんは、この履修手引書をよく読んで、修了要件を理解し、勉学に励んで下さい。

2. 履修対象者

本校の「生産システム工学」教育プログラムは、教育年限の設定を上記に述べたように本科4年次から専攻科2年次までの4年間としていることから、3年次にこのプログラムの紹介と履修の手引きの配布を行い、本科を卒業して専攻科に入学した者を「生産システム工学」教育プログラムを履修することができる者としてします。履修者の決定は入学時に行います。入学者全員が履修者となることを希望していません。本校の専攻科に入学できる者は、本校の学則第40条に専攻科入学資格として規定されていて、次の者が含まれています。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(出典 生産システム工学教育プログラム履修の手引 2005年度版 3頁)

OB 懇談会開催の例

OBを招いてインターンシップ講演会行われる



平成18年1月31日(火)15時10分から17時30分まで第1講義室において環境都市工学科インターンシップ(進路懇談会)が行われ、4年生と教職員が参加した。

講師は、高専から就職、大学編入学、技科大から大学院など様々な進路をとった以下の5名のOBに依頼した。

忙しい中を後輩のために来校し、貴重な体験を交えた講演を行った(写真下)。また、4年生にとって興味ある進路について個別の懇談(写真上)を行い、進路選択の助言を行った。

- ◎ 氏 (H2年卒 29期)
国土交通省関東地方整備局千葉国道工事事務所
- ◎ 氏 (H11年卒 29期)
(株)カンドー 千葉大大学院終了
- ◎ 氏 (H12年卒 30期)
JR東海 新幹線鉄道事業本部施設部工事課



- ◎ 氏
(H13年卒 31期)
長岡技科大大学院2年
- ◎ 氏
(H13年卒 31期)
(株)道路建設
コンサルタント

(出典 例：環境都市工学科 Civil Engineering News (CEN) 2006年2月27日号6頁)

進路懇談会資料

平成17年度進路懇談会

日 時 平成17年3月19日(土) 13:00～

場 所 本校総合教育棟1階・第1講義室

次 第 (司会・進行:学生課長)

1. 校長あいさつ 第1講義室
 2. 教職員紹介 "
 3. 全体説明 (電子制御工学科主任) "
 4. 専攻科長あいさつ "
- [各会場へ移動]

各学科別説明および個別懇談(各学科の指定教室及び教員室)

1. 各学科別説明 各学科指定教室
2. 個別懇談 各教員室

[個別懇談終了後解散]

- 配布資料
- (1) 平成16年度卒業生の進路状況表 [資料1]
 - (2) 就職・求人等年度別状況一覧 [資料2]
 - (3) 求人倍率の推移 [資料3]
 - (4) 全国大学・短大・高専等卒業予定者の
就職内定状況 [資料4]
 - (5) 大学等進学(編入学)状況一覧 [資料5]
 - (6) 各学科別卒業生・専攻科修了生の進路状況一覧 [資料6]

(出典 2005年度進路懇談会資料)

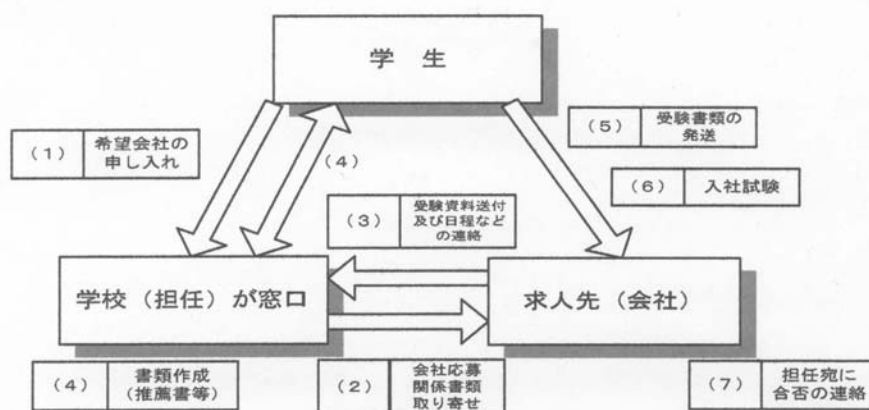
環境都市工学科進路懇談会用資料

就職及び進学への道筋

1. 就職活動の流れ

(1) 学校推薦

高専の進路指導は、学校（担任）が窓口となります。従来、就職活動は、4月中旬頃より開始し、夏期休業明けにはほとんど内定しましたが、年々全体的に早まる傾向にあります。



- 1) 希望する求人先が決まれば、学生が担任に申し入れします。
- 2) 担任が求人先と連絡を取り、必要関係書類の取り寄せを行います。
- 3) 求人先から担任宛に入社試験関係書類送付、その後の日程等の連絡があります。
- 4) 担任が学生に指導しながら、入社試験用書類を作成します。
- 5) 学生から求人先に入社試験関係書類を送付します。
- 6) 学生が入社試験を受けます。
- 7) 後日、求人先より担任に可否の連絡があります。

注意：学校推薦の会社応募は、1社ごとの直列の応募スタイル

就職希望者で、本校の就職斡旋を希望する学生は、保護者と連署の上、「推薦願書（就職）」を担任に提出します。この願書では次の誓約をしてもらいます。

(1) 学校が正式に推薦した場合、求人先の選考に応じること

(2) 就職の学校推薦による応募は、原則として1社を受験して結果が出るまで、他社は受験しない

なお、「縁故」あるいは「自由応募」で就職活動し、学校推薦を必要とする場合でも上記の「推薦願書」の誓約を厳守していただきます。

(2) 自由応募

学生が学校を介さずに、インターネット等を通して自由に求人に応募する形を自由応募といい、最近では高専でも増えてきました。学校推薦と自由応募で同時に就

(出典 2005年度環境都市工学科進路懇談会用資料 2頁)

専攻科連絡会の案内

専攻科連絡会（平成17年度末） 資料 2006.3.6

専攻科生 各位

教 員 各位

専攻科連絡会(学年末)の開催について

専攻科長

1. 期 日 平成18年3月6日(月) 9時～9時50分
2. 場 所 階段教室
3. 内 容
 - ・ 学年度末と年度始めの行事と伝達事項
特に、2年生：保管用特別研究論文(修正)提出、修了式関連伝達
 - ・ 春季休業中の諸注意
 - ・ 専攻科進路懇談会(1年生保護者)について
 - ・ J A B E E 修了生認定について
 - ・ その他

平成17年度学年末及び平成18年度始めの専攻科の行事

- 3月6日(月) 9:00 専攻科連絡会(年度末), 場所: 階段教室
10:00 専攻科プレゼンテーション賞表彰(校長室)
- 3月7日(火) 特別研究論文(修正)の提出(指導指導教員→各専攻主任→図書係, A4サイズ封筒にタイトル・氏名表書き)
- 3月7日～13日 特別研究(2年生)のポスター原稿作成(サイズ:A4、A3)→ポスター作製(サイズ:A1, 場所: ネットワーク情報センター室)→額入
- 3月10日(金) 専攻科修了認定会議・本科卒業認定会議
学位授与機構への学生課から単位取得証明書一括送付(2年生)
- 3月14日(火) 14:00 第4回テクノフォーラム(専攻科生有志ポスター展示)
- 3月15日(水) 専攻科英語実力試験実施(第3回最終日, 特別教室)(2年生)
- 3月17日(金) 専攻科実力認定試験結果報告の年度内締切(担当教員→学生課)
- 3月18日(土) 専攻科進路懇談会(対象: 専攻科1年生の保護者)
- 3月20日(月) 10:00 専攻科修了式・本科卒業式
(1年生, 各専攻10名程度参加)
- 3月18日～4月7日 学年末休業(この間, 専攻科の進路相談と面接練習実施, 担当: 専攻科長, 各専攻主任, 希望者は事前連絡のこと)
- 4月10日(月) 10:00 入学式
- 4月11日(火) 8:50 始業式, 専攻科1年・2年のガイダンス
- 4月12日(水) 専攻科・本科ともに平常授業

(出典 環境都市工学科進路懇談会用資料(2005年度末)資料)

オフィスアワー実施記録

オフィスアワー実績記録

所属 環境都市工学科

氏名 上村 繁樹

日 時	学生氏名	内 容
平成17年4月11日 17:00 ~ 18:00		JR関係就職相談、 打ち合せ
平成17年4月12日 17:00 ~ 18:00		長岡技大・環境系に因り情報提供
平成17年4月13日 17:00 ~ 18:00		進路相談(就職)
平成17年4月14日 15:00 ~ 16:00		進路相談(長岡技大関係)
平成17年4月15日 17:00 ~ 17:30		進路相談(就職)
平成17年4月18日 17:00 ~ 18:00		” (推薦書作成)
平成17年4月19日 15:00 ~ 19:00		卒業研究指導、進路相談
平成17年4月20日 17:00 ~ 18:00		進路相談(専攻科関係)
平成17年4月21日 17:00 ~ 18:00		同上
平成17年4月22日 17:00 ~ 18:00		進路相談(学校推薦関係)
平成17年4月25日 17:00 ~ 18:00		同上 (豊橋技大編入関係)
平成17年4月26日 15:00 ~ 19:00		卒業指導、進路相談
平成17年4月27日 17:00 ~ 18:00		進路相談(主に推薦書など)
平成17年4月28日 17:00 ~ 17:30		進路相談
平成17年5月6日 17:00 ~ 20:00		卒業指導
平成17年5月10日 15:00 ~ 19:00		同上
平成17年5月11日 17:00 ~ 18:30		環境工學実験の時間外指導
平成17年5月13日 17:00 ~ 18:00		進路相談(受験大学とのこと)
平成17年5月19日 17:00 ~ 19:00		同上(面接関係指導)
平成17年5月25日 17:00 ~ 18:00		大学についての情報交換
平成17年6月2日 18:00 ~ 18:30		大学についての情報交換
平成17年6月6日 10:00 ~ 11:00		試験についての相談など
平成17年6月13日 17:00 ~ 18:00		大学受験に関り相談

(出典 2005年度年度オフィスアワー実施状況一例)

専攻科生自己点検表

「生産システム工学」教育プログラム
学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表

【目的】

この自己評価点検表は、学習・教育目標に関する達成度について学生が自己点検等を行い、その後の学習に役立てるためのもので、各段階で自己点検等を重ね、プログラム修了時には全ての項目に「3以上」がつくことが望まれます。

【記入上の注意】

1) 『「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引』を参照しながら、下表の右欄に以下の数字を記入して下さい。

- 5 目標を十二分に達成できた。
- 4 目標を達成できた。
- 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
- 2 目標を一部達成した。
- 1 目標を達成すべく努力中である。
- ー 履修前または履修中である。

2) 「今後の学習目標」の欄には、その後の学習計画等について、具体的に記入して下さい。

3) 「指導教員の助言」の欄は、特別研究指導教員に記入を依頼してください。

学習・教育目標	評価基準	点検項目	専1年 6月	専2年 4月	プログラム 修了時
(A) 人間形成：健康な 身体と精神を培 い、社会に貢献す るすぐれた人間 として、幅広い教養 をもとに、技術者 としての責任を自 覚し、その使命を 実行しうる技術者	(A-1) 豊かな人間性と健康な心身 を培う。	・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツ の実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯 スポーツの礎を構築できること ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理 解し、自分の考えを深められること	4		
	(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす 影響・効果を理解し、技術 者としての責任を自覚す る。	・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できる こと ・技術に関係する事故等の検討を通して、技術者としての 社会的な責任と使命について理解できること ・環境問題と社会の関係についての概略を理解できること ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること	2		
(B) 科学技術の修得と 応用：自らの専門 とする科学技術に ついて、その基礎 となる理論および 原理を十分に理解 し、境界領域にも すすんで活躍しう る技術者	(B-1) 数学および自然科学の基礎 知識とそれらを用いた論理 的思考能力を身につける。	・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用 いて応用問題を解けること ・実験を通して現象を理解できること	3		
	(B-2) 最も得意とする専門分野の 知識と能力を身につける。	・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工 学的な現象を理解できること	2		
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、 得意とする専門分野の知識 と複合する能力を身につける。	・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と 複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身に つけること	1		
	(B-4) 実験や実習を通して実践的 技術を身につける。	・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的 技術を身につけること	2		
(C) コミュニケーション 能力：国際化お よび高度情報化社 会に柔軟に対応 し、自らの考えを 状況に応じて的確 に表現しうる技術 者	(C-1) 日本語の記述能力を身につ ける。	・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、 場面や状況に応じた言葉で表現できること	2		
	(C-2) 情報技術を使いこなし、日 本語による発表・討論がで きる能力を身につける。	・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内 容を発表・討論できること	3		
	(C-3) 国際的に通用するコミュニ ケーション基礎能力を身に つける。	・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を 身につけること	1		
(D) 創造力：自ら工夫 して新しいものを 造り出す研究開発 型の技術者	卒業研究や専攻科特別研究 などを通して、修得した知 識をもとに創造性を発揮 し、自発的に問題を解決す る能力を身につける。	・修得した専門知識を用いること ・問題を解決するために、創意工夫して問題を解決できる こと	1		

資料7-1-①-9 (2/2)

今後の学習目標／指導教員の助言

学 生 名 _____

指導教員名 _____

点検 時期	今後の学習目標：学生が記入	
	指導教員の助言：教員が記入	
専攻科1年 6月	学 生	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼排水に関する資料を集め、現在の処理方法、各々の問題点を把握する。FEDHSによる処理性能や適応性を実験により検討する。 北海道大学の微小電極に関する論文を読み、アモニウムイオンを改質する対称電極の構成・反応機構について学び自作する。
	指 導 教 員	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼排水処理に関しては、多くの研究が存在している。既存の研究とこれから行うべき研究の差を明らかにして認めておくこと。 センサーに関しては、電気化学的な反応がある程度含まれているので、よく勉強しておくこと。
専攻科2年 4月	学 生	
	指 導 教 員	
専攻科 修了時	学 生	
	指 導 教 員	

(出典 2005年度専攻科学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では担任を通じてシラバスや学生便覧などが説明される。1 学年で新入生合宿研修，3 学年で JABEE プログラムの説明，4 学年で就職・進学ガイダンスや OB 懇談会，専攻科で単位履修，学士論文，進路に向けたガイダンス等が用意されている。オフィスアワーにより，学生に対して自主的学習を進める上での細かな指導が行われている。以上，ガイダンスや学生相談・助言の体制が整備され機能している。

観点 7-1-②： 自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

自主的学習環境として教室の他にコミュニティルーム（資料 7-1-②-1），図書館，各研究室がある。図書館の利用方法は図書館利用のしおりにまとめられ，図書館カウンターで入手できる（資料 7-1-②-2）。図書館は十分な蔵書があり学生の自主学習に活用されている。図書館 2 階にはパソコンコーナーがあり全て学内の LAN に接続されている。図書館 3 階のビデオ室にはテレビビデオ 5 台と LD プレーヤー，オーディオが設置されている。ビデオ，CD などの視聴覚資料も多い（資料 7-1-②-3～4）。アンケートからも多くの学生に利用されていることが分かる（資料 7-1-②-5）。

ネットワーク情報センターには，10 台のワークステーション，49 台の端末機があり（資料 7-1-②-6），授業以外でも学生に良く利用されている（資料 7-1-②-7）。

福利厚生施設としては，食堂（200 席）及び売店が整備されている（資料 7-1-②-8）。コミュニケーションスペースとしては，総合教育棟前広場，食堂前広場，食堂前テラス，中庭，総合教育棟ウッドテラス，学友会館等が整備されている（資料 7-1-②-9）。


資料7-1-②-1


コミュニティルーム



図書館利用のしおり

図書館利用のしおり





開館時間
 平日 9:00~20:00
 土曜日 12:00~17:00

休館日
 (日曜日・国民の祝日及び振替休日・年末年始・蔵書整理点検日等)
 ※臨時に開閉館及び閉館時間の変更を行う事があります

〒292-0041
 千葉県木更津市清見台東2-11-1
木更津工業高等専門学校
 ☎0438-30-4009
<http://www.kisarazu.ac.jp/>

【図書の検索】

1. 図書の分類
 図書館では、日本十進分類法(NDC)を用いて図書を分類し、分類番号順に配架してあります。この分類法をよく知っていると必要な図書を書架からより早く探し出せます。

図 書 分 類 法

網目表(2次区分表)

<p>000 総 記(007 コンピュータ)</p> <p>010 図 書 館</p> <p>020 図 書 振 興 学</p> <p>030 百 科 事 典</p> <p>040 一般論文、講演集</p> <p>050 逐次刊行物、年鑑</p> <p>060 学会、団体、研究調査機関</p> <p>070 ジャーナリズム、新聞</p> <p>080 叢 書、全集</p> <p>090</p> <p>100 哲 学</p> <p>110 哲学各論</p> <p>120 東洋思想</p> <p>130 西洋哲学</p> <p>140 心理学</p> <p>150 倫理学</p> <p>160 宗 教</p> <p>170 神 学</p> <p>180 仏 教</p> <p>190 キリスト教</p> <p>200 歴 史</p> <p>210 日本史</p> <p>220 アジア史、東洋史</p> <p>230 ヨーロッパ史、西洋史</p> <p>240 アフリカ史</p> <p>250 北アメリカ史</p> <p>260 南アメリカ史</p> <p>270 オセアニア史</p> <p>280 伝 記</p> <p>290 地理、地誌、紀行</p> <p>300 社 会 科 学</p> <p>310 政治学</p> <p>320 法律学</p> <p>330 経済学</p> <p>340 財政学</p> <p>350 統計学</p> <p>360 社会学</p> <p>370 教育学</p> <p>380 風俗習慣、民俗学</p> <p>390 国防、軍事</p> <p>400 自 然 科 学</p> <p>410 数 学</p> <p>420 物 理 学</p>	<p>430 化学</p> <p>440 天文学、宇宙科学</p> <p>450 地球科学、地学、地質学</p> <p>460 生物科学、一般生物学</p> <p>470 植物学</p> <p>480 動物学</p> <p>490 医学、薬学</p> <p>500 技術、工学、工業</p> <p>510 建設工学、土木工学</p> <p>520 建築学</p> <p>530 機械工学、原子力工学</p> <p>540 電気工学、電子工学</p> <p>550 海洋工学、船舶工学、兵器</p> <p>560 金属工学、鉱山工学</p> <p>570 化学工業</p> <p>580 製造工業</p> <p>590 家政学、生活科学</p> <p>600 農 業</p> <p>610 園芸、造園業</p> <p>620 造園業</p> <p>630 獣医学、獣医学</p> <p>640 畜産業、養蚕業</p> <p>650 林 業</p> <p>660 水産業</p> <p>670 商業、交通</p> <p>680 運輸、交通</p> <p>690 通信事業</p> <p>700 芸術</p> <p>710 美術</p> <p>720 絵画、書道</p> <p>730 彫 刻</p> <p>740 写真、印刷</p> <p>750 工芸業、舞踊</p> <p>760 演劇、映画</p> <p>770 音楽</p> <p>780 スポーツ、体育</p> <p>790 娯楽</p> <p>800 言語</p> <p>810 日本語</p> <p>820 中国語、東洋の諸言語</p> <p>830 英語</p> <p>840 ドイツ語</p> <p>850 フランス語</p> <p>860 スペイン語</p> <p>870 イタリア語</p> <p>880 ロシア語</p> <p>890 その他の諸言語</p> <p>900 文 学</p> <p>910 日本文学</p> <p>920 中国文学、東洋文学</p> <p>930 英文文学</p> <p>940 ドイツ文学</p> <p>950 フランス文学</p> <p>960 スペイン文学</p> <p>970 イタリア文学</p> <p>980 ロシア文学</p> <p>990 その他の諸文学</p>
---	--

◎ビデオ以外の利用(テレビ・CD)
 カウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を受け取り、利用してください。
 終わったらノートに記入し、返却してください。

◎パソコンコーナー
 2階パソコンコーナーには5台のパソコンを配置してあります。すべて学内LANに接続されており、インターネットにアクセスすることもできます。(一般の方の利用はできません。)

「利用方法」
 利用希望者はカウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を利用に応じて受け取ったうえ、自由に利用してください。終わったらノートに記入し、ヘッドホン等をカウンターに返却してください。
 ・パソコンソフトの貸出はしていません。(各自持参してください)

◎図書購入希望
 図書館で購入してほしい図書、ビデオソフト等がありましたら、カウンターにある「図書購入希望届」に記入し、カウンターに提出してください。

(出典 図書館利用のしおり)

図書館詳細

図書館 LIBRARY

学習と情報のセンター的役割を果たしているのが図書館である。この図書館は、昭和 52 年に開館し、全面開架式を採用し、利用者が希望する図書や雑誌を自由に書架から選び出して利用できる方式になっている。
平成 13 年度から学外者にも開放している。

The library collects and Keeps books, periodicals, and other items to serve professors, staff, students and citizens in their educational and research activities.

The library Keeps over 70,000 volumes of books and subscribes to about 300 periodicals.

The library employs an entirely open stack system so that the users have free access to the collections.



▲閲覧室

蔵書数 The Library's Collection (vols.)

(平成17年 4 月 1 日現在) As of April 2005

分類	区分	和書 Japanese	洋書 Foreign	計 Total
総記 General		5,866 冊	564 冊	6,430 冊
哲学 Philosophy		3,246	411	3,657
歴史 History		4,438	568	5,006
社会科学 Social Science		4,464	567	5,031
自然科学 Natural Science		10,149	1,796	11,945
工学 Engineering		16,638	1,018	17,656
産業 Industry		478	60	538
芸術 Arts		2,799	313	3,112
語学 Language		3,709	1,167	4,876
文学 Literature		11,545	995	12,540
計 Total		63,332	7,459	70,791

受入雑誌数 Periodicals (titles)

(平成17年 4 月 1 日現在) As of April 2005

和雑誌 Japanese	洋雑誌 Foreign	計 Total
268 種	9 種	277 種

視聴覚資料 Audio-Visual Materials

(平成17年 4 月 1 日現在) As of April 2005

種	類	合計
ビデオテープ		307 巻
C	D	228 枚
レーザーディスク		23 枚
カセットテープ		291 巻
レコード (LP)		81 枚
C D - R O M		7 枚



図書館蔵書の貸出数

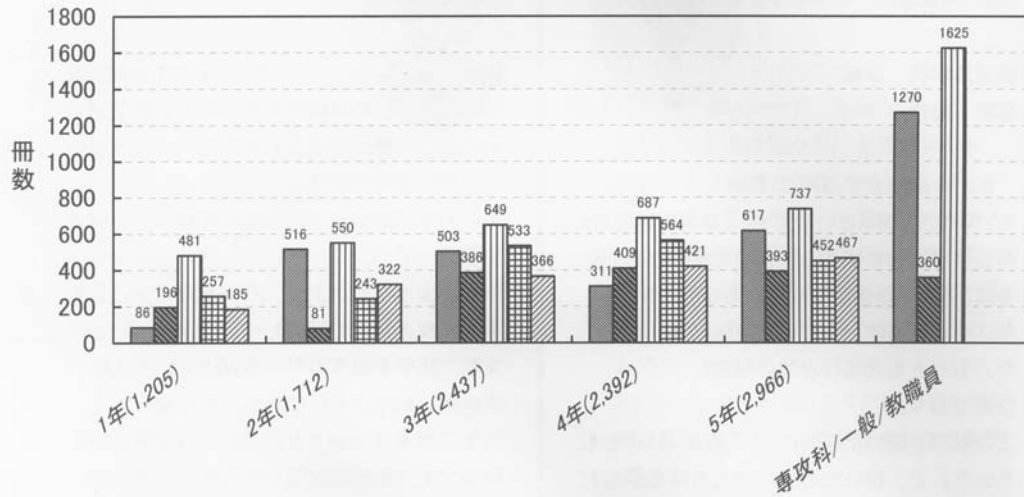
平成17年12月

図書館だより

第27号

平成16年度 クラス別貸出冊数

総計13,667冊



■ M(2,033冊)	■ E(1,465冊)	□ D(3,104冊)	■ J(2,049冊)	▨ C(1,761冊)
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

平成16年度 貸出冊数番付 (学年は平成17年度)

横綱	大関	関脇	関脇	小結	小結	前頭	前頭	前頭	前頭
4D	5D	3C	2D	3D	3C	3M	5D	4M	2J
122冊	121冊	105冊	105冊	99冊	98冊	96冊	94冊	94冊	90冊

平成17年度 図書館運営部会および学生図書委員会

図書館運営部会

図書館長 田村 和士(基礎)

図書館運営部会委員

武長 玄次郎 (人文)

鈴木 道治 (基礎)

林田 和宏 (機械)

吉崎 静男 (電気電子)

坂元 周作 (電子制御)

米村 恵一 (情報)

高石 斌夫 (環境都市)

学生図書委員会

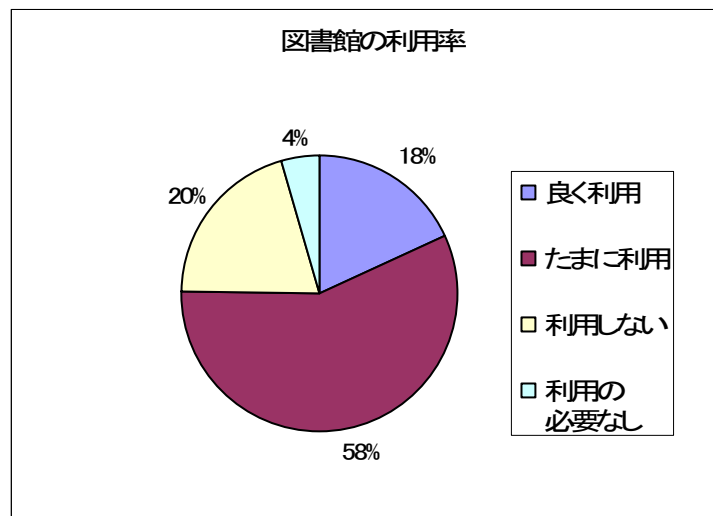
図書委員長 (4J)

クラス委員	機 械	電気電子	電子制御	情 報	環境都市
1年					
2年					
3年					
4年					
5年					

(出典 図書館だより第27号15頁)

資料 7-1-②-5

図書館利用アンケート結果

(出典 本校認証評価の HP <http://www.inc.kisarazu.ac.jp/~nfukuchi/ninshou/index.htm>)

資料 7-1-②-6

ネットワーク情報センター

ネットワーク情報センター INFORMATION NETWORK CENTER

本校にはおよそ 1,000 台のコンピュータがあり、その大半がキャンパス内に張り巡らされた光ケーブルからなるキャンパスネットワークに接続されている。

平成 14 年度よりキャンパスネットワークが更新され、ギガビットイーサネットによる高速な情報の伝送が可能となった。ネットワーク情報センターはこの中枢であり、キャンパスネットワークを管理するために 10 台のワークステーションを稼働し、電子メール、ホームページサイト、インターネットなどの機能を分担している。センター内の演習室には 49 台の端末機もあり、管理用に 20 台のワークステーションが稼働し、プログラミング演習、研究用計算に利用されている。また、デジタル専用回線により、他大学や研究機関を含めた広域ネットワークにも接続されている。

これにより全ての学生や教職員は、学内の多数の端末機（パソコンなど）から、いつでも高性能のコンピュータが利用でき、また、電子メールによる情報交換ができる。さらにインターネットにより国内外との電子メールの送受信や WWW ホームページにアクセスし、世界の最新情報を得ることができる。



▲ネットワーク情報センター演習室

There are approximately 1000 computers in this college, and the most is networked by the campus network which consists of an optical cable spread around within the campus.

The Campus Network is updated in april 2002 and high-speed transmission of information by Gigabit Ethernet is attained. The Network Information Center manages the central backbone of the Campus Network hosting 10 workstation which work such as E-mail, and www page site. 49 personal computers are provided as terminals in the laboratory at Information Network Center, and 20 workstations work to management.

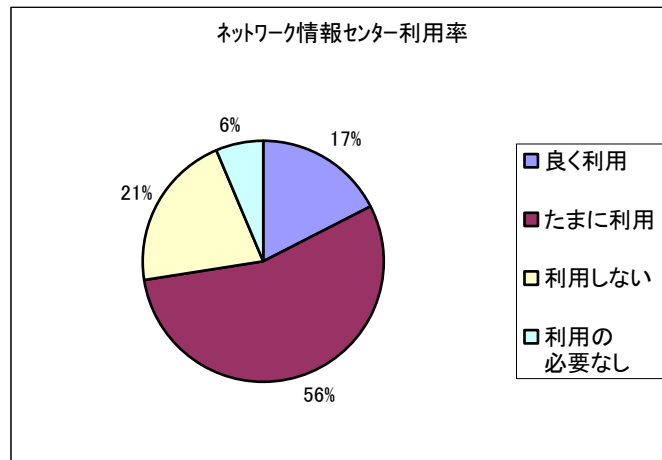
These computers are used for the programming exercise and the research computing. Moreover, the campus network is connected by a dedicated digital line to a wide area network which provides access to other academic and research institutes.

In such environment, all faculty members and students have access to high-spec host computers and Internet from any terminals or computers in the campus network, making most of the vast variety of information on Internet such as E-mail, www, etc.

(出典 学校要覧 2005 22 頁)

資料7-1-②-7

ネットワーク情報センター利用



(出典 本校認証評価のHP <http://www.inc.kisarazu.ac.jp/~nfukuchi/ninshou/index.htm>)

資料7-1-②-8

福利厚生施設



資料7-1-②-9

コミュニティスペース



(分析結果とその根拠理由)

キャンパスの生活環境や福利厚生施設がよく整備され活用されている。図書館やネットワークセンターも整備され、多くの学生に利用されている。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

授業評価アンケートを随時行い，それに対するコメントを作成して学習支援のニーズ開拓をしている（資料7-1-③-1～2）。資格試験に対するニーズ等を開拓するアンケートも行っている（資料7-1-③-3）。「学生の声」箱を設置し，学生の生の声が直接校長等に届くシステムを整備している（資料7-1-③-4）。担任が抱える問題やクラスの学生から得られたニーズを共有できる担任会が全体及び各学年である（資料7-1-③-5）。学寮では年に2回寮役員学生を交えた学寮リーダー研修会を開き寮生の要望をくみ上げている（資料7-1-③-6）。学友会と学生委員会との打ち合わせ等も多く行われている（資料7-1-③-7）。

資料7-1-③-1

学生による授業評価アンケート一例

どちらの面に回答するのかわについては、担当教員の指示に従うこと

平成17年度 学生による授業評価アンケート (記述式: 既設10設問)		
※ 当アンケートは、授業方法および授業内容(科目/カリキュラム)の改善を目的として木更津高専が組織的に実施するものであり、回答した学生の成績評価等には一切関係しません。		
科目名: 工学	クラス: 4年 C科/専攻	回答日: 18年2月27日
教員名:	回答学生(記入は担当教員の指示による):	
設問1: あなた自身の授業に対する取り組みに満足していますか?		
積極的に出来た。		
設問2: 授業の進度や分かりやすさ等について満足していますか?		
わからないところはきちんと教えてくれたので、とても満足しています。		
設問3: 講義の内容について満足していますか?		
先にも述べたように、わかりやすく教えてくれたので、満足しています。		
設問4: 補助教材や配布資料等について満足していますか?		
これはなかったらまた理解できないところもあったので、満足しています。		
設問5: 課題やレポート等について不満はないですか?		
自分にとって適当でした。		
設問6: 試験のレベル(難易度)に不満はないですか?		
とてもいいレベルでした。		
設問7: 成績評価方法について不満はないですか?		
満ちたと思います。		
設問8: この授業で(最も)満足を感じる点は何ですか?		
きちんと理解ができて、教えてくれたので、とてもわかりやすかったです。 また、進路の話をしてくれたので、とても参考になった。		
設問9: この授業で(最も)不満を感じる点は何ですか?		
先にも述べたように、非常に満足を感じているので、不満な点はありません。		
設問10: その他、意見等あれば書いてください。		
これから5年でもお世話になると思いますが、このままの授業をずっとお願いです。		

(出典 学生による授業評価アンケート一例)

資料7-1-③-2

学生による授業評価アンケートに対するコメント一例

授 業 科 目	■■■■■■■■	区 分 ・ 単 位 数	必須・2単位
開 設 学 科 学 系	環境都市工学科	授 業 形 態	講義
受 講 年 科 ・ 学 期	環境都市工学科4年・後期	担 当 教 員	■■■■
教 科 書	プリントを配付		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
学生による授業評価アンケートに対するコメント			
アンケート実施日：2月27日(水)5時限 アンケート形式：記述方式			
<ul style="list-style-type: none"> ・テストの平均点がだんだんと低下する傾向に会った。アンケートによると授業についていけなくなった学生もいるようである。次回からはペース配分等考慮したい。 ・配付プリントにほとんど必要なことを記載しているため、そのプリントにメモを書いて見直すように指導している。今回プリントに書き込みの余白が少ないとの指摘があったので、次回配付プリントは注意したい。 ・板書が見にくいと言う意見があった。注意したい。 ・水処理現場の見学を希望する声があったが、5年の実験で見学を入れているのでその時に。 			
次回開講時に向けての改善点等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスには健康関連微生物に関しての講義を行うべく記載したが、時間の都合上削除した。次回からは、さらに適切な範囲を考慮したい。 2. 座学だけであると、本質的なことがわからないので、見学などの機会があれば取り入れたい。 3. 高校生レベルの生物の基礎知識がどうしても必要なことがあるので、その部分の知識の欠如を補うために、資料の充実を図りたい。 			

(出典 学生による授業評価アンケートに対するコメント一例)

学生アンケート調査用紙

問	設問 (選択肢)	回答欄
1	本校の教育方針を知っていますか。 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
2	準学士課程(本科1~5年)の学習・教育目標を知っていますか。 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
3	自分が所属する学科の専門科目の達成項目を知っていますか。 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
4	一般科目(人文学系)の達成項目を知っていますか。 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
5	一般科目(基礎学系)の達成項目を知っていますか。 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 全く知らない	
6	図書館をよく利用しますか。 1 よく利用する 2 たまに利用する 3 利用しない 4 利用する必要がない	
7	合宿研修施設(いわゆる合宿所)をよく利用しますか。 1 よく利用する 2 たまに利用する 3 利用したことがない 4 利用する必要がない 5 合宿所があったことを知らなかった	
8	コミュニティールームをよく利用しますか。 1 よく利用する 2 たまに利用する 3 利用しない 4 利用する必要がない	
9	ネットワーク情報センターを授業以外でよく利用しますか。 1 よく利用する 2 たまに利用する 3 利用しない 4 利用する必要がない	
10	シラバスを使って授業内容を確認していますか。 1 よく確認する 2 たまに確認する 3 あまり確認しない 4 確認したことがない	
11	授業の評価方法をシラバスで確認したことがありますか。 1 よく確認する 2 たまに確認する 3 あまり確認しない 4 確認したことがない	
12	特別学修で、特定の資格を取ると単位として認定されることを知っていますか。 1 既に資格を取得し単位認定された 2 現在、資格取得の為に勉強中である 3 取りたい資格がない 4 この制度を知らなかった	
13	特別学修において単位認定してほしい資格があれば書いてください(複数可)	

(出典 学生アンケート調査用紙)

学生の声

「学生の声」について

- 「学生の声」は、アンケート等では吸い上げ切れない学生の種々の意見や要望を聞くために設置されたものです。
- 意見等を提出する場合は、以下のいずれかの方法に従ってください。
 - 「意見等の提出用紙」に必要事項を記入し、学生課前に設置されている「学生の声」のポストに入れる。
 なお、「意見等の提出用紙」はポストと一緒に置かれています。「提出用紙」はPDFファイルで取り出すこともできます。[ここをクリックしてください](#)。PDFファイルはAdobe Readerで読むことができ、キーボードから記入もできます。記入の後印刷してからポストに入れてください。印刷してから筆記用具で記入してもかまいません。
 - gakuseinokoe@kisarazu.ac.jp宛にメールを出す。
 なお、メールを出す場合は、以下の「意見等の提出フォーム」に従ってください。
 「学生の声」のポストへの投書は、学生課長が取り出し、副校長に渡しますが、同上のアドレスに出されたメールは直接副校長のところに行きます。
- 提出された意見等は、副校長の判断により、要望および内容等に応じ関係者に送られます。対処結果等については、副校長より意見等の提出者に報告されます。
- 匿名等を希望する場合は、秘密を厳守します。なお、内容により、掲示等により対処結果について公表することもあります。

意見等の提出フォーム(不要な部分は削除し、必要な事項を記入してください)

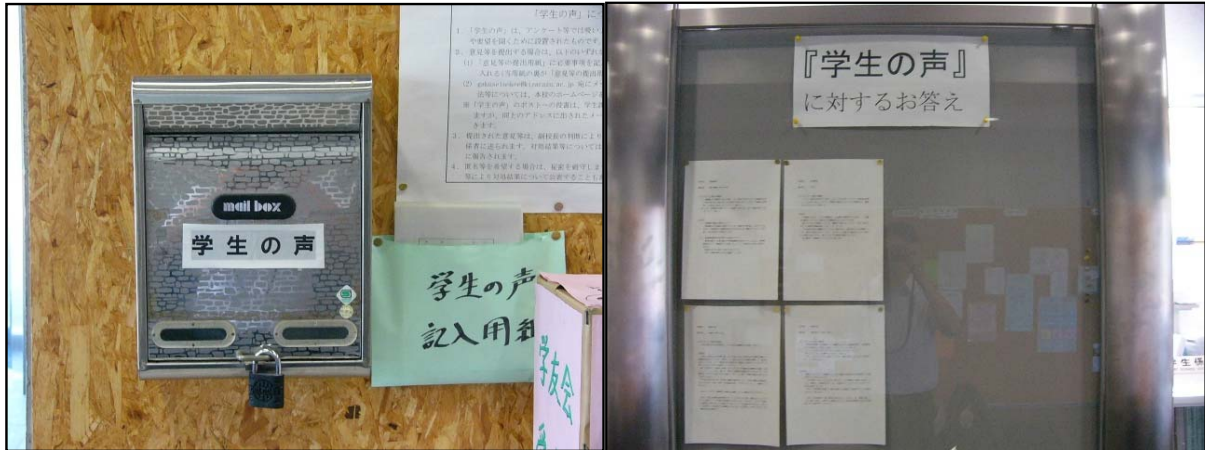
※1 意見等の行先は以下のようになります。
 意見 → 副校長 → 関係者 → 対処 → 副校長 → 意見提出者等

※2 意見等を伝えて欲しい具体的な関係者等がある場合には、次に示してください。
 具体的な関係者等：

1. 提出者
 内容にもよりますが、当欄への記載がなく、事実の確認の出来ないものは、虚偽の意見または信憑性の低い意見として処理されます。

年 工学科 学籍番号 氏名

(出典 木更津高専ホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/campus/koe.htm>)



担任会実施記録

平成17年度担任会実施記録

第 1 学 年

回数	月 日	概要
1	2月10日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
2	2月17日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
3	2月28日	新入生合宿研修の内容についての打ち合わせ
4	4月6日	始業式、オリエンテーションなどの日程についての打ち合わせ
5	4月25日	各クラスでの現在の様子についての報告会など
6	5月2日	1年の問題行動について
7	5月9日	6月のエイズ講習会についての打ち合わせなど
8	5月16日	6月のエイズ講習会についての打ち合わせ/合宿研修の感想文などについて
9	5月30日	1年学園祭企画についての打ち合わせなど
10	6月20日	前期中間試験の結果についての扱い/保護者面談についての情報交換
11	7月4日	1年の問題行動について
12	10月4日	最近の各クラスの状況についての意見交換
13	10月24日	1年のいじめ問題について
14	11月14日	最近の各クラスの状況についての意見交換
15	12月6日	3月の校外見学について/交通講話についての打ち合わせ
16	1月16日	交通講話についての打ち合わせなど
17	2月 6日	来年度1年担任会との意見交換
18	3月 9日	学年末に起きた一連の事件について
19	3月 15日	来年度2年担任会との引継ぎ
20		

(出典 2005年度第1学年担任会実施記録)

2005年度春季学寮リーダー研修会資料

春季学寮リーダー研修会

寮務主事

1. 目的

- ① リーダーの自治能力の助長
- ② 望ましい集団生活の探求
- ③ 学寮のモラルの向上
- ④ 寮務委員教員との親睦と融和

2. 期 日 平成18年2月25日(土) 9:00~16:10

3. 場 所 第1会議室・第2会議室

4. 参加者 寮 生：男子(会長、寮長、副寮長、群長、副群長、寮役員)
(平成18年度)
女子(寮長、副寮長、群長、寮役員)(平成18年度)
教職員：寮務主事、寮務主事補、寮務委員、(平成17・18
年度)、学生課長、学生課課長補佐、寮務係長、寮務係員

5. 研修内容

(1) 学寮運営方針の説明

- ・来年度の指導目標について
- ・基本3方針(寮生の安全、健全な修学、円滑な集団生活)と低学年指導の充実

(2) 討議題

- ・学寮行事予定について
- ・各群の生活規範について
- ・各種委員会の活動予定について
- ・その他

(出典 2005年度春季学寮リーダー研修会資料1頁)

資料7-1-③-7

学友会と学生委員会の懇談・打ち合わせの例

平成17年11月24日

11月24日(木)の選挙管理委員会ですべきこと

学友会担当：■■■■

- ① 出席の確認
3分の2以上の出席が必要である。
- ② 本日の開催についての説明
年内に来年度中央委員を選出するには、今日がタイムリミットである。学友会規約第41条(中央委員会による議決)により召集している。
- ③ 委員長、副委員長を選出する
委員長は4年生、副委員長は3年生が望ましい。以下の進行を任せる。
- ④ 今後の日程について、中央委員会・学友会担当教員案を提案

日 時	内 容
11/25 (金) 17:00	選挙開催の公示(投票日2週間以上前)
12/2 (金) 12:30	立候補締めきり(投票日10日前)
12/13 (火) 12:30	投票(各クラス同時投票が望ましい) 但し、5年生については都合の良い時間に投票する。
12/13 (火) 15:20	開票および集計(各クラスの選挙管理委員が開票し、集計結果を委員長に報告)
12/15 (木) 15:20	第一体育館にて投票結果発表、選出者(会長、副会長のみ)挨拶。

※ なお、この日程で行うとすると、選挙管理委員会を以下の日程で行う。

12/12 (月) 17:00～ 選挙準備(投票要項, 投票用紙, 投票袋受け取り)

12/13 (火) 15:20～ 開票作業, 集計作業

12/15 (木) 集会終了後 選挙結果の掲示

以上について、選挙管理委員会で議決を取る(出席者の賛成多数で良い)。

- ⑤ 各クラス委員へ以下の件を伝達

立候補の意思があるものは、公示日に各クラスに掲示される掲示や、学生便覧の「学友会選挙細則」をよく読んで、所定の手続きを取るよう指示。

- ⑥ 委員長、副委員長を教官室に呼ぶ(以後の作業を伝達)

以上

(出典 2005年度学生主事補と学友会打ち合わせ資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケートや学生に対する包括的アンケートの実施、「学生の声」箱の設置等、学習支援のニーズ開拓をしている。学級担任による情報交換の場として全体及び各学年で担任会を行っている。学寮リーダー研修会や学友会との懇談会により、教員が学生から直接要望をくみ上げている。よって学生のニーズが適切に把握されている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

資格・検定の取得を特別学修として単位認定する制度が整備され、単位認定者が増加している(資料7-1-④-1～2)。外国留学を支援するための規則が学生便覧に記載され整備されている(資料7-1-④-3)。

資料7-1-④-1

特別学修の案内

1-12 特別学修

本校では、平成13年度より**特別学修**という科目が開設されています。この科目は他の一般的な科目とは大きく異なる部分もあるため、これらの履修方法等について以下に示します。

(1) 特別学修の区分及び内容

特別学修とは、選択科目として、一般科目と専門科目の両方に開設された授業科目です。履修数に上限はありませんが、**一般及び専門の特別学修と、本校以外の教育施設における学修**(1-13参照)を合わせて最大10単位までが、選択科目としての扱いを受けます。

なお、これらの内容については、次の①～④に分類されますが、個々の詳細については、**教育課程表**(1-17参照)中の**特別学修一覧表**及び**シラバス**を参照してください。

①技能審査・資格検定等 ②ロボコンなどの創造的活動 ③教育支援活動 ④ボランティア活動

(2) 履修形態及び単位取得方法

授業時間：原則として、火・木曜日の7・8時限に実施する。ただし、ロボコン等、規定の時間外にも実施されるものが多いため、各科目の**シラバス**で確認すること。

履修登録：原則として、4月末日までに**シラバス**に記載された指導教員のところに行き、指示を仰ぐこと。

(出典 平成18年度学生便覧7～8頁)

特別学修による単位認定申請一覧

平成17年度 特別学修による単位認定申請一覧

数	科	年	学籍番号	氏名	表記(項目分野試験名等:合格級等)	合格等年月日	評価	評語	単位数	備考(認定省庁・代替等)	
1	M	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
2	M	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
3	M	5			工業英検	3級	17.6.13	90	A	2	一般 文部科学省
4	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 3級合格による同時認定
5	M	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
6	M	5			ドイツ語検定	4級	18.2.15	90	A	1	一般 指導教員:荒木
7	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
8	M	5			TOEIC	初級	17.9.3	80	A	1	一般 指導教員:小澤
9	M	5			TOEIC	初級	17.5.7	90	A	1	一般 指導教員:小澤
10	M	5			TOEIC	中級	17.5.7	80	A	1	一般 指導教員:小澤
11	M	5			TOEIC	初級	17.5.7	100	A	1	一般 中級合格による同時認定
12	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
13	M	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
14	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
15	M	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
16	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
17	M	5			TOEIC	初級	17.5.7	80	A	1	一般 指導教員:小澤
18	M	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
19	M	5			危険物取扱者	乙種第4類	17.12.13	90	A	1	専門 総務省
20	M	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
21	M	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
22	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
23	E	5			ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般 指導教員:高橋
24	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
25	E	5			TOEIC	初級	17.5.7	80	A	1	一般 指導教員:小澤
26	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
27	E	5			デジタル検定	3級	17.6.26	90	A	1	専門 文部科学省
28	E	5			ラジオ・音響検定	3級	17.11.13	90	A	1	専門 文部科学省
29	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
30	E	5			ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般 指導教員:高橋
31	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
32	E	5			ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般 指導教員:高橋
33	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
34	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
35	E	5			ボランティア活動	社会福祉	18.2.7	90	A	1	一般 指導教員:高橋
36	E	5			情報処理技術者	初級ｼｽﾄ	17.5.16	90	A	1	専門 経済産業省
37	E	5			TOEIC	初級	17.9.3	80	A	1	一般 指導教員:小澤
38	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
39	E	5			工業英検	4級	18.2.6	90	A	1	一般 文部科学省
40	D	5			TOEIC	中級	17.3.27	80	A	1	一般 指導教員:小澤
41	D	5			TOEIC	初級	17.3.27	100	A	1	一般 中級合格による同時認定
42	D	5			TOEIC	初級	18.1.21	90	A	1	一般 指導教員:小澤
43	J	5			技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般 指導教員:大枝
44	J	5			漢字検定	2級	17.7.11	90	A	1	一般 文部科学省
45	J	5			TOEIC	中級	18.1.21	90	A	1	一般 指導教員:小澤
46	J	5			TOEIC	初級	18.1.21	100	A	1	一般 中級合格による同時認定
47	J	5			情報処理技術者	基本技術	17.5.16	90	A	1	専門 経済産業省
48	J	5			技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般 指導教員:大枝
49	J	5			情報処理技術者	基本技術	17.11.11	90	A	1	専門 経済産業省
50	J	5			技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般 指導教員:大枝
51	J	5			TOEIC	中級	17.11.19	80	A	1	一般 指導教員:小澤
52	J	5			TOEIC	初級	17.11.19	100	A	1	一般 中級合格による同時認定
53	J	5			TOEIC	中級	18.1.21	100	A	1	一般 指導教員:小澤
54	J	5			TOEIC	初級	18.1.21	100	A	1	一般 中級合格による同時認定
55	J	5			工業英検	3級	17.6.13	90	A	2	一般 文部科学省
56	J	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 3級合格による同時認定
57	J	5			技術イベント活動	プロコン	18.1.24	85	A	1	一般 指導教員:大枝
58	J	5			情報処理技術者	初級ｼｽﾄ	17.5.16	90	A	1	専門 経済産業省
59	C	5			TOEIC	初級	17.5.7	80	A	1	一般 指導教員:小澤
60	C	5			実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般 文部科学省
61	C	5			TOEIC	初級	17.5.7	90	A	1	一般 指導教員:小澤
62	C	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
63	C	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
64	C	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
65	C	5			TOEIC	初級	17.5.7	90	A	1	一般 指導教員:小澤
66	C	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
67	C	5			漢字検定	2級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
68	C	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
69	C	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省
70	C	5			TOEIC	中級	18.1.21	90	A	1	一般 指導教員:小澤
71	C	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
72	C	5			実用英検	準2級	17.11.18	90	A	1	一般 文部科学省
73	C	5			工業英検	4級	17.6.13	90	A	1	一般 文部科学省
74	C	5			TOEIC	初級	17.5.7	80	A	1	一般 指導教員:小澤
75	C	5			工業英検	4級	17.12.2	90	A	1	一般 文部科学省

(出典 2005年度特別学修による単位認定申請一覧一部抜粋)

留学に関する規定

6 - 1 0 留 学 規 程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校学則第 26 条の 2 第 4 項の規定に基づき、本校学生の外国の高等学校又は大学への留学（以下「留学」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(許可基準)

第 2 条 留学は、次の各号に該当する場合に許可するものとする。

- (1) 留学先の高等学校又は大学が、正規の教育機関であり体系的な教育課程を有していること。
- (2) 前号の高等学校又は大学に在籍することを許可されていること。
- (3) 留学の目的、理由等が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

(申請及び許可)

第 3 条 留学しようとする者は、原則として、出国 3 か月前までに留学願（別紙様式 1）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出しなければならない。

- (1) 留学希望先の学校規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
- (2) その他校長が必要と認める書類

2 前項の願い出があったときは、校長は、教務委員会の議に付し前条各号の基準を満たしているものについて、これを許可するものとする。

3 前項の許可をした場合において、出国前に留学の許可基準に該当しなくなったときは、その許可を取り消すことがある。

(期 間)

第 4 条 留学の期間は、10 か月以上 1 年以内とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、留学期間の短縮及び 1 年以内の延長を認めることがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願（別紙様式 2）を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(終了及び復学)

第 5 条 留学期間が終了したときは、すみやかに復学願（別紙様式 3）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

- (1) 留学先の高等学校又は大学の発行する教科科目の履修、出欠の状況及び成績等の証明書
- (2) 本人の留学に関する報告書

第 6 条 復学の際の学年については、教務委員会の審査の結果に基づき、校長が決定するものとする。

(単位の認定)

第 7 条 留学中の履修に係る単位の認定は、個々の科目について行わず、当該留学生在が高等学校又は大学において良好に履修したと認められる場合は、一括して 30 単位を認め、評価は行わない。

2 留学期間の短縮を許可した場合において、当該留学期間が第 4 条第 1 項本文に定める期間に満たなくなったときは、前項の単位認定は行わない。

(卒業時の修得単位の特例)

第 8 条 留学中の履修に係る単位の認定を受けた者について、卒業時に 167 単位以上の単位を修得しているときは、卒業を認めることができるものとする。

(雑 則)

第 9 条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成元年 9 月 14 日から施行する。

6 - 1 1 留 学 取 扱 要 領

1. 本校における留学に関する取扱いについては、木更津工業高等専門学校留学規定（以下「規定」という。）第 9 条の規定に基づき、この要領の定めるところによるものとする。

2. 留学の許可は、当分の間、第 1 学年から第 3 学年までに在籍するものを対象とする。

3. 復学後の学生は、原則として留学時の学年の 1 年上の学年とする。

4. 規定第 7 条に定める単位の認定は、留学当初に在籍する学年について、認定するものとする。

5. 許可された留学の期間は、出席扱いとする。

6. 学籍簿には留学先、期間及び認定単位のみ記載する。

附 則

この取扱要領は、平成元年 9 月 14 日から適用する。

(出典 平成 17 年度学生便覧 92~94 頁)

(分析結果とその根拠理由)

資格・検定の取得を単位化する制度が整備され、多くの学生が申請している(2005年度実績 260件)。学生の外国留学についての規程も整備されており、十分な支援体制が組まれている。

観点 7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

留学生にはチューター制度を設け、学習・生活支援を行っている。チューターにはチューターマニュアルを配付し(資料 7-1-⑤-1)、定期的に留学生指導報告書を提出させている(資料 7-1-⑤-2)。留学生に対する専門科目に関する学習指導を一貫して行うために、各留学生に対応して留学生指導教員を置いている(資料 7-1-⑤-3)。国際交流委員会を設置し、定期的に見学会や卒業留学生との懇談会、近隣住民との交流会などを開催している(資料 7-1-⑤-4)。留学生には、日本語・日本事情の2科目が教育課程に組み込まれ(資料 7-1-⑤-3)、必要に応じて補習が行われている(資料 7-1-⑤-5)。

普通高校・工業高校からの4学年編入生には、合格決定から編入学までの期間に、必要な科目の学習のための資料を配付し、編入学後も必要があれば補習を行っている(ここ3年間例がないので資料の提示なし)。必要に応じて学習不振の学生の補習を行っている(資料 7-1-⑤-6)。

チューターマニュアル

1. はじめに

皆さん、このたびは留学生のチューター（学生相談員）をお引き受けいただき、ありがとうございます。皆さんは、チューター活動に大きな抱負を抱き、積極的に取り組もうとしておられるでしょう。しかし、おそらく皆さんの多くが、チューターは初めての経験ではないかと思われます。チューターとして何をしたらよいのか、あれこれとを思いめぐらせ、一抹の不安を抱いておられるかも知れません。

チューター制度は文部省の制度によって定められております。本校では、外国人留学生特別規程第6条に学生相談員として定められています。（学生便覧を参照してください）

チューターとなった皆さんが、このチューター制度の目的を理解され、その役目を不安や迷い、大きな負担を感じることなく果たせるよう、少しでも参考になり、指針となればと思っています。このマニュアルを活用し、この制度を実りあるものにするよう、願っています。

ここに記された事項は、あくまでも参考にすぎませんので、これらにとらわれる必要はありません。若い皆さんの情熱、知性、感性と創意工夫を活かした活動を期待するとともに、チューター活動を通じて得た皆さんの貴重なご意見等を遠慮なく、お聞きかせください。

2. チューター制度とその目的

外国人留学生（以下、「留学生」といいます。）が、来日後（又は、自国において）、短期間に日本語を習熟し、日本の習慣に慣れ、学習、研究の効果を上げるためには、学習はいうに及ばず、日常生活にもきめ細かい長時間にわたる対話、助言、指導等交流が必要です。このような助言、又は個別指導を行うのは教官だけでは、困難な面もあり、これを補助するために、このチューター制度が設けられています。

したがって、本校では留学生が、授業に関する理解や学生生活、あるいは地域の社会生活に一日も早く慣れるように積極的に、助力し、または悩みごと等の相談に乗ってあげたりするのが、チューター活動の目的と考えています。

以上述べた制度の目的から明らかなように、チューター活動の対象となる留学生は、編入学後の2年間となっています。

以下具体的に述べてみましょう。

案内者として

本校での学習生活が円滑に進められるように手助けをする。カリキュラムに従って単位が修得できるように、また、種々の校内手続きの書類作成などについて、自らの経験を踏まえて助言する。

さらに、図書館をはじめとする校内施設の利用方法を教える。また、外部機関（図書館、運動施設、博物館等）の利用方法等を必要に応じて案内する。

先生として

身近にいて、同じ専門分野で、同じクラスで教科を勉強している者として、家庭教師的に、あるいは一緒に学習する者として、友人として、留学生が十分に理解できない箇所を説明し、

（出典 2005年度チューターマニュアル1頁）

留学生指導報告書

留 学 生 指 導 報 告 書

平成 17 年 10 月 1 日

学生相談員 環 工 学 科 第 3 学 年

氏 名 環

留学生氏名 _____

指導教員
自 署
環

平成 17 年 10 月分の指導を下記のとおり実施したので、報告します。

記			
日 曜	指 導 時 間	時 数	指 導 内 容
1 土	13:00 ~ 15:00	2	旅行の準備
2 日	14:00 ~ 16:00	2	「 備い物」
7 金	17:00 ~ 24:00	7	
8 土	0:00 ~ 24:00	24	長野県へ送る旅行のための...
9 日	0:00 ~ 24:00	24	在。(二人で) 兼アルバイト
10 月	0:00 ~ 20:00	20	
19 水	20:00 ~ 23:00	3	解析宿題の指導
22 土	20:00 ~ 22:00	2	土留宿題の指導
23 日	21:00 ~ 24:00	3	土留宿題の指導
	~		
	~		
	~		
	~		
	~		
	~		
	~		
	~		

【注意】 (1) 指導時間は、実際に指導した時間 (20時間以上) を記入する。
(2) 指導内容は、実際に指導した内容を具体的に記入する。
(3) 指導報告書は、必ず当月分を翌月の5日までに指導教員へ提出する。
また、指導教員は速やかに学生係へ提出してください。

留学生指導報告書付表

1. 学習面での助言・指導において感じたこと。

学習面においては、もう何も口を出さなくても、自主的にレポートや宿題をこなせるようになった。

2. 日常生活での助言・指導において感じたこと。

今回は、お財布を見ないと気が済まず(マレーシアは財布をいらい)長野県の高原へ旅行に行き、その際の日本での宿泊施設の予約や、切符の手配の件をすべて指導した。今日は宿泊代や旅行費が到着するのを待たずに、行先の高原ペンションで2日間アルバイトして宿泊代や食事代をカバーし、初めてのアルバイトらしく、お客さんとのコミュニケーション等も、はじめはとまどっていたが、本日は慣れ、旅行にきているお客さんとも話をしていて、今回の旅行(アルバイト)は、これこそがいい経験になったと思う。

【指導教員記入】

1. 留学生及び学生相談員の指導等について感じたこと。

日本の生活にも慣れ、キータンと楽しんでいっている様である。

(出典 2005 年度留学生指導報告書)

留学生に関する規則

6-9 外国人留学生特例規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、学則第 50 条の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の入学、教育課程その他に関する特例を定めたものである。

(入学)

第 2 条 留学生は、定員外として、第 3 学年に入学を許可するものとする。

(教育課程)

第 3 条 留学生のために、別表に定める授業科目を必要に応じて開設するものとする。個々で修得した単位は、学則別表第 1 のうち、第 3 学年、第 4 学年及び第 5 学年における自然の分野及び英語、保健・体育に関する授業科目を除く各授業科目と振替えることができる。

2 留学生の第 3 学年における教育課程は、特別活動のほか、第 3 学年までに修得すべき専門科目の履修に特に必要な基礎学力を養うため、別表並びに学則別表第 1 及び別表第 2 に定める授業科目により特別に編成するものとする。

3 留学生の第 4 学年及び第 5 学年における教育課程は、別表並びに学則別表第 1 及び別表第 2 に定める授業科目により編成するものとする。

(授業料等)

第 4 条 国費外国人留学生については、授業料、入学金及び検定料は徴収しない。

(留学生指導教員)

第 5 条 留学生に対する専門科目に関する学習指導を一貫して行うため、各留学生に対して、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

2 前項の指導教員は、当該学科の教員の中から、学科主任の推薦に基づき、校長が指名する。

(学生相談員)

第 6 条 学校生活及び個人生活について留学生に助言を与えるため、入学後最初の二年間について各留学生に対して、学生相談員を置く。

2 前項の学生相談員は、当該留学生と同一学科の第 3 学年以上の学生の中から、学科主任及び指導教員の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 学生相談員は、その職務に関し、必要に応じて学生主事、寮務主事または指導教員に連絡し、その指導を受けるものとする。

(住居)

第 7 条 留学生は、原則として学寮に居住するものとする。この場合には、前条の学生相談員は寮生である者とする。

(世話係)

第 8 条 留学生の補導と生活上の世話をを行うため、学生課の職員の中から、校長が指名する。

2 前項の世話係は、学生課の職員の中から、校長が指名する。

別表 (各学科共通)

授 業 科 目	単 位 数	備 考
日 本 語 I	2	
日 本 語 II	2	
日 本 語 III	2	
日 本 事 情 I	2	
日 本 事 情 II	2	
日 本 事 情 III	2	

(出典 平成 17 年度学生便覧 90～91 頁)

留学生見学会懇談会等の記録

木更津工業高等専門学校

留学生文集

UHO・友報

No.18

Mar.

2006

とわかる。

文化が理解できるようになると、相手の考え方なども自然にわかるようになる。もし、相手の立場などを理解したら、けんかする必要もなくなるのではないのでしょうか。その上、外国語の勉強を通して、異なる文化の人の長所も自分に取り入れることができる。

以上のように、外国語を勉強しようという気持ちは世界の平和への第一歩だと私は強く思っている。

留学生年間行事

留学生実地見学旅行

平成17年3月7日(月)～8日(火)の一泊二日の日程で留学生6名と教職員2名で、静岡県伊豆方面への留学生実地見学旅行を行いました。

3月7日は昼食後に、広く荘厳な雰囲気のある三島大社の境内を見学した後、柿田川湧水等を見学して近くの宿に泊まりました。

翌8日は午前中に葦山反射炉、江川邸を見学した後、天城ループ橋を通り、河津七滝を散策し、河津駅前の河津桜を見学した後、帰途につきました。

今回の見学は晴天に恵まれ美しい風景を通して日本の歴史・風土に十分親しむことが出来たと思います。



柿田川にて

新入留学生を迎える会

本校3年に受け入れる新入留学生の歓迎と、先輩留学生や学生相談員、教職員との相互交流を企図して、4月26日(火)に新入留学生を迎える会を開催しました。

当日は5名の新入留学生をはじめとして、在校留学生8名、学生相談員10名、関係教職員18名の計41名が出席し、河上校長のあいさつに始まり、新入留学生より順次出席者全員の自己紹介を行った後、5年留学生キーさんの進行により軽食をとりながら懇談会に移行しました。先輩留学生の貴重な体験談や指導教員のアドバイスなどが話され、終始和やかな雰囲気のなかで1時間半ほどで閉会としました。新入留学生にとっては本校にとけ込む良い機会になりました。



留学生交流潮干狩り

6月19日(日)に木更津海岸において交流潮干狩りを実施しました。

当日は梅雨の中休みの晴天に恵まれ、留学生10名、指導学生7名、教職員4名の21名が参加しました。

9時頃に海岸に入り、いくつかのグループに分かれて語りながら、アサリ掘りを行い

ましたが、1時間半程で潮が上がってきたため切り上げました。例年と比べて収穫は少なかったですが、潮風の中で、留学生と指導学生、教職員が楽しく交流できた良い機会でした。



留学生交流ボウリング大会

6月28日(火)に恒例の留学生交流ボウリング大会を市内のクラカタアクアボウルにて開催しました。この大会は、留学生、指導学生及び関係する教職員が相互の交流を深めるために毎年実施しているもので、今年度は11名の留学生と指導学生10名、教職員12名の33名が参加して2ゲームにより行いました。経験によりスコアには差が出ましたが、楽しくかつ有意義なひとときを過ごすことができました。

1位から3位、プービーの留学生と指導学生の1・2位にはそれぞれ賞品が贈られました。



卒業した留学生との懇談会

留学生間の交流促進や進路指導等を目的として、毎年秋の学園祭時に卒業した留学生を招き、在校留学生や留学生関係教職員との懇談会を実施しています。

本年は10月29日(土)に4名の卒業生(社会人2名、大学生1名、大学院生1名)に来ていただき、軽食をとりながら、高専在学中の勉学から寮生活に関する事、大学編入学後の勉学や、更に社会人としての心構えに至るまで、先輩としての貴重なアドバイスをいただくとともに熱心な意見交換が行われました。

在校留学生諸君にとってはとても将来に向かって有意義な機会となりました。



留学生日帰りバス見学

毎年秋には留学生に日本の歴史や文化に親しみ、また留学生同士、指導学生及び教職員との親睦交流を図る目的で留学生日帰りバス見学を実施しています。

本年は11月27日(日)に留学生、指導学生、関係教職員計32名が参加し、群馬県の奥利根周辺への見学を実施しました。

当日は晴天に恵まれる中、東京湾アクアラインから首都高速を通り、大泉インターより関越自動車道に入り、水上インターで下車してすぐの道の駅水紀行館に到着。場内にある水産学習館を見学し、昼食をとった後、更に利根川をさかのぼり、首都圏に電力供給をしている須田貝地下発電所を見学しました。地下40mにあるタービンの迫力に圧倒され、また、地上では冬の訪れを告げる小雪の舞う中帰路につき、18時頃学校へ戻りました。



在校生名簿(2005年4月1日現在)

学年	学科	国 籍	氏 名	呼 名	学年	学科	国 籍	氏 名	呼 名
5	電気電子	マレーシア			4	情報	イラン		
5	電子制御	マレーシア			3	機械	マレーシア		
5	情報	インドネシア			3	電気電子	ウガンダ		
4	機械	マレーシア			3	情報	マレーシア		
4	電気電子	マレーシア			3	環境都市	ラオス		
4	電子制御	バングラデシュ			3	環境都市	マレーシア		
4	電子制御	マレーシア							

Kisarazu National College of Technology

2-11-1 KIYOMIDAI-HIGASHI, KISARAZU, CHIBA, 292-0041 JAPAN (TEL 0438-30-4000)

国立木更津工業高等専門学校 国際交流委員会 発行 2005年度 留学生文集 UHO・友報

(出典 UHO・友報 木更津高専留学生文集 No.18 2006 18~19頁)

地域との交流

留学生ホームステイ

7月9日(土)~10日(日)に木更津市国際交流協会(KIFA)の主催する留学生ホームステイに3年生5名が参加しました。

近隣小学校児童との交流

昨年度に引き続き、7月19日(火)と平成18年1月24日(火)の臨時休業日を利用して市内の岩根小学校主催のワールド集会に8名の留学生が参加し、小学校児童と交流の機会をもちました。

昨年と同様にそれぞれの国ごとに分かれて自己紹介や出身国の紹介などを行い、多くの質問に答えたり、ゲームを楽しんだりした後、教室で一緒に昼食をとるなど、楽しい時間を過ごすことができました。

後日、児童たちからお礼の手紙や写真が届きました。

資料 7-1-⑤-5

留学生補習の記録

平成 17 年度環境都市工学科留学生補習記録

留学生氏名: _____

学科主任印

科 目: 構造力学担当教官: 佐藤 恒明

月日	出欠	補習内容	備考
4/19	✓	単純はり (せん断力国(S)国)	教科書 宮本裕著
4/26	✓	"	" 「構造工学」 投稿堂
5/10	✓	"	" 4章, 5章
5/17	✓	" (曲げモーメント(M)国)	"
5/24	✓	"	"
5/31	✓	"	"
6/14	✓	片荷はり・張索はり (せん断力国(S)国)	"
6/21	✓	"	"
6/28	✓	"	"
7/5	✓	" (曲げモーメント(M)国)	"
7/12	✓	"	"
9/6	✓	ゲルバーはり (S国, M国)	6章
9/13	✓	"	"
9/20	✓	"	"
10/4	✓	はりの曲げ能力とせん断能力	7章
10/11	✓	"	"
10/18	✓	"	"
10/25	✓	"	"
11/1	✓	はりのたわみ	"
11/8	✓	"	8章
11/15	✓	"	"
11/22	✓	(板状部材の原理など)	"
11/29	✓	"	"
12/13	✓	不斉座屈と適用限界	10章
12/20	✓	"	"
1/10	✓	トラスの影響線	11章
1/17	✓	"	"
2/7	✓	"	"
2/14	✓	"	"

(出典 2005 年度環境都市工学科留学生補習の記録)

学習不振学生補習の記録の例

オフィスアワー実績記録

所属 基礎序系
氏名 高橋 邦天

日時	学生氏名	内容
平成17年12月19日 17:00~19:00	1学年 42名	物理序補習 等速運動・等加速度運動
平成18年1月11日 17:00~19:00	同上	相対速度・放物運動
平成18年1月18日 17:10~19:00	同上	運動の三法則
平成18年2月1日 17:00~19:00	同上	力と運動方程式

56 ● IV 力とエネルギー

2. 力と運動

① 力

力の要素
力は速度と同じようにベクトルである。

力の合成・分解
力の合成はただ1通りしか求まらないが、分解は、いろいろな方向にでき、多数考えられる。

力のつりあい
力がつりあっている場合、合力が0であるので、2力がつりあうときは、同一作用線上で大きさが等しく、向きが反対の力が働く。

力の表し方
力は()と()をもつ量で、矢印で表せる。矢の長さで()を示す。力の働いているところを()といい、矢の基点である。

力の合成
2つの力と同じ働きをする1つの力をそれらの()という。2つの力 \vec{F}_1 と \vec{F}_2 を合成するとき、合力 \vec{F} は、 $\vec{F} = () + ()$ で示される。

力の分解
物体に働く1つの力を分解し、その力と同じ働きをする2つの力に分けたとき、それらを()という。合成、分解ともに、()の方法により求まる。

問題1 次の図において、指示にしたがって作図せよ。
(1) \vec{F}_1 と \vec{F}_2 の合力 \vec{F} を求めよ。
(2) \vec{F} を x 方向、y 方向に分解して分力を求めよ。

問題2 (1)~(3)でつりあうものを選べ。
問題3 2力 \vec{F}_1 , \vec{F}_2 が働いている。他の力を加えてつりあわせたい。作図せよ。

(出典 2005年度物理教員のオフィスアワーの記録と配付プリント)

(分析結果とその根拠理由)

留学生にはチューターを配置し学習・生活の支援をし、国際交流委員会主催で交流会や見学会等を積極的に行っている。留学生には日本語及び日本事情の2科目が設置され、必要に応じて担当教員により補習が行われている。4学年編入生や学習不振学生にも補習が行われている。以上、特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され機能している。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

全教員がクラブ活動の顧問として指導に当たっていると同時に(資料7-1-⑥-1)、学外にコーチを依頼できることができる(資料7-1-⑥-2)。学友会活動は学生委員会によって指導され、種々の行事が学生と教員一体で行われている(資料7-1-⑥-3)。ロボコン、プロコンともに特別学修の一環としてシラバスにも記載され、教員の支援組織が確立されている(資料7-1-⑥-4～5)。合宿所、学友会館、部室、プール等も整備され、長期休暇中も利用可能である(資料7-1-⑥-6)。学校後援会の支援により高専大会の参加費用の補助を行っている(資料7-1-⑥-7)。

クラブ顧問一覧

文化系クラブ

クラブ名	指導教員	
電気部	石川雅之	
写真部	小田功	
自動車部	大木正喜	
吹奏楽部	齋藤康之	大澤寛
華道部	関口昌由	
茶道部	関口昌由	柏木康秀
映像研究部	小田功	
演劇部	高遠節夫	加藤達彦
	浅野洋介	武長玄次郎
囲碁部	大藤晃義	丸山真佐夫
	黄野銀介	

同好会

クラブ名	指導教員	
化学研究同好会	相川正美	吉井文子
	吉崎静男	
文芸同好会	高遠節夫	加藤達彦
	武長玄次郎	
ロボット研究同好会	黒田孝春	鴫田正俊
	浅野洋介	坂元周作
RPG研究同好会	高遠節夫	吉井文子
土木技術研究同好会	青木優介	
環境研究同好会	上村繁樹	高橋克夫
	高石斌夫	
体操競技同好会	五十嵐讓介	
英語研究同好会	中村俊昭	室井美稚子
	荒木英彦	小澤健志
	岩崎洋一	
地盤研究同好会	鬼塚信弘	
見呂工房同好会	五十嵐讓介	
美術同好会	天摩勝洋	関口昌由
ドイツ語研究同好会	柴田育子	荒木英彦
	丸山真佐夫	和田州平
プログラミング研究同好会	大枝真一	米村恵一
	大木正喜	
模型同好会	大木正喜	
合唱同好会	金子真隆	佐藤恒明

運動系クラブ

クラブ名	指導教員	
野球部	高橋秀雄	鈴木聡
	板垣貴喜	林田和宏
バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
	飯田聡子	大枝真一
バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
	米村恵一	
卓球部	栗本育三郎	大藤晃義
	丸山真佐夫	黄野銀介
ソフトテニス部	高橋邦夫	山下哲
	岡本保	
サッカー部	米村恵一	岡本峰基
柔道部	清野哲也	鈴木道治
陸上競技部	坂田洋満	坂元周作
山岳部	臼井邦人	
空手部	小平真次	浅野洋介
	大橋太郎	荒木英彦
水泳部	黒田孝春	
	東雄二	上原正啓
ホッケー部	石田博樹	
ラグビー部	大木正喜	青木優介
テニス部	高上輝雄	橋川五郎
	石出忠輝	坂元周作
ゴルフ部	大木正喜	
剣道部	内田洋彰	田村和士
女子バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
	米村恵一	
女子ホッケー部	石田博樹	
女子バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
	飯田聡子	大枝真一
女子テニス部	高上輝雄	坂元周作

STG指導教員	大木正喜(環境都市工学科) ・ 鈴木聡(電子制御工学科)
---------	------------------------------

(出典 平成 18 年度学生便覧 188 頁)

資料7-1-⑥-2

クラブコーチ依頼者名一覧

平成17年度クラブコーチ依頼者名一覧

コーチ 氏名	クラブ名	住所	電話番号
	陸上競技部		
	ホッケー部		
	女子ホッケー部		
	ラグビー部		
	バレー部		
	女子バスケットボール部		;
	空手部		}
※嶋野慶次	テニス部		
※嶋野慶次	女子テニス同好会		7
※清水牧夫	テニス部		
※清水牧夫	女子テニス同好会		
※金井太一	地盤研究同好会		
	華道部		
	茶道部		
	囲碁同好会		

※ は本校職員で謝金はなし。

(出典 学生課学生係資料)

資料7-1-⑥-3

平成17年度 学園祭実行委員役割分担表

10月27日(木) 備品貸出 15:15 本部(学生課前集合)

担当場所	担当教員	役割
本部(学生課前)	高遠・青木	学生認印・部屋チェック報告受け
第2講義室	石井・加藤	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
第3講義室	山下	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
第4講義室	高石	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
第5講義室	吉崎	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
コミュニティーA	金子	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
コミュニティーB	室井	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
コミュニティーC	C石川	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
コミュニティーD	5C委員	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
コミュニティーF	大橋	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
視聴覚室	大枝	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
SCS教室	米村	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
図書館ホール・アート	岩崎	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
静室	板垣	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
学生会館1F	板垣	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
戯室	丸山	開錠・備品貸出チェック・施錠・報告
M1教室後点検	青木	備品移動チェック・施錠
第4講義室後点検	青木	備品移動チェック・施錠
E3教室後点検	青木	備品移動チェック・施錠
全部屋施錠	青木	コミュニティーを除く

15:15 本部前集合, 部屋のカギ貸出, 備品部屋に移動

15:30 備品貸出開始, 貸出チェック終了, 施錠, 本部に報告

16:00 貸出時間終了(来ない企画があっても施錠して帰ってきていただく)

16:05 来ない企画を放送で呼び出し。手の空いている先生がチェック。

18:00 コミュニティーを除く全部屋施錠

10月28日(金) 学園祭準備日

担当場所	担当教員	役割
学生会館前駐輪場	青木・岩崎	テント・発電機貸出
校内見回り	丸山・米村	見回り
全部屋施錠	青木	コミュニティーを除く

9:00~9:30 テント・発電機貸出

16:00 ごろ 校内見回り

18:00 全部屋施錠

(出典 2005年度学生委員会資料)

資料7-1-⑥-4

ロボコン・シラバス

授 業 科 目	特別学修(技術イベント活動：ロボコン)		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1～5年・通年	授 業 形 態	講義、実習
キ ー ワ ー ド	ロボットコンテスト、機械要素、電気回路、マイコン、制御		
関 連 科 目			
担 当 教 員	黒田孝春、鶴田正俊、泉源		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア フ タ ー)			
教 科 書	三田純義・朝比奈奎一・黒田孝春・他著『機械設計法』コロナ社, 3,400円+税		
補 助 教 科 書 等	山田耕治著『メカトロニクス入門』実教出版, 2,300円+税		
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標			
プ ロ グ ラ ム 合 格 点			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 機械、機構の概要を理解し、基本的設計ができる。		レポートで評価 (25%)	
・ 機械要素、材料強度計算の原理を理解できる。		レポートで評価 (25%)	
・ 電気、電子回路の基礎を理解でき、簡単なセンサ回路を作ることができる。		製作した回路で評価 (25%)	
・ マイクロコンピュータの基礎を理解し、モータを制御するプログラムをつくることができる。		製作したプログラムで評価 (25%)	
履 修 上 の 注 意	「ものづくり」の基本となるあらゆる知識に対し、普段より興味を抱き、自己学習に励む姿勢が大切であり、様々な困難を克服していく根気や粘り強さも非常に重要である。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時間数	
4月～7月初旬			
・ 機械と設計の基礎	・ 機械、機構の概要と設計の基本について学ぶ。	2	
・ 機械加工法	・ ボール盤、旋盤の原理と使用方法について学ぶ。	2	
・ 機械加工法II	・ フライス盤の原理と使用方法について学ぶ。	2	
・ 各種材料の性質	・ 材料の機械的性質について学ぶ。	2	
・ 材料強度計算	・ 材料および構造物の強度計算の原理を学ぶ。	2	
・ 機械要素	・ 歯車、軸受などの機械要素の原理と使用方法について学ぶ。	2	
7月中旬～9月			
・ 製作体験学習	・ 指導教官の下で設計と製作体験学習を行う。	150	
11月～2月			
・ 電気回路の基礎	・ オームの法則など電気回路の基礎について学ぶ。	2	
・ 半導体素子とその回路設計	・ トランジスタ、ダイオードの原理および使用方法について学ぶ。	2	
・ センサ	・ 各種センサの原理とその使用方法について学ぶ。	2	
・ アクチュエータと制御	・ モータの原理とその使用方法、制御回路について学ぶ。	2	
・ インタフェース	・ A/D、D/A 変換器、PIO、SIO の使用について学ぶ。	2	
・ マイクロコンピュータによる制御	・ マイコンを使用した制御方法を学ぶ。	2	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		174	
評価方法 および 評価基準	学習態度、製作過程での問題解決能力や参加状況を考慮して総合的に評価する。なお、大会参加が実現した場合には、その成果等も考慮する。		

(出典 2005年度シラバス一般科目(各学科共通))

プロコン・シラバス

授業科目	特別学修 (技術イベント活動：プロコン)		
開設学科学系	情報工学科	区分・単位数	選択・1単位
受講年科・学期	全学年全学科・通年	授業形態	実習
キーワード	プログラミング、独創的アイデア、プレゼンテーション (発表力)		
関連科目	プログラミングの講義・演習全般、ドキュメント書法などの発表方法の講義		
担当教員	齋藤 康之、米村恵一、大枝真一		
連絡先(ファクス)	(メール等による調整の上で質問に応ずる)		
教科書			
補助教科書等			
参考図書			
プログラム目標			
プログラム合格点			
達成目標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
<ul style="list-style-type: none"> 独創的発想力、実装力、表現力を高める。具体的には、アイデアをまとめて予選(書類審査)を通過した上で、実際にシステムを完成させ、審査員や観客に内容や性能を十分にアピールすることができる。 		システム作成への貢献度(100%)で評価する。具体的には、アイデア提起、プログラム作成、加工作業、発表などである。	
履修上の注意	プログラミングの基礎知識は必須であり、アイデアを練る力や実装計画を立てて実行する力も重要である。また、課題および自由部門では、審査員や観客の前で内容発表を行うので、発表技術も学んでおくことが望ましい。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
		時間数	
「プロコン」の正式名称は「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」である。このコンテストは、高専生の情報処理技術における優れたアイデアとその実現力を競うものであり、課題、自由、競技の3部門に分かれている。そして、各部門とも予選と本選から構成されており、予選ではアイデアと実現性が重視され、本選では作品を実際に作成して内容説明や実演したり(課題および自由部門)、他高専を相手に競い合う(競技部門)。本選出場までをこの特別学修とする。			
・ ガイダンス		・ 趣旨、昨年度の様子、課題や競技内容を説明する。	1
・ 学内予選		・ テーマに沿ってアイデアをまとめる。 ・ 全部門とも、学内予選会で内容を発表する。	2
【課題部門および自由部門】 ・ プログラム作成 ・ システム概要発表資料の作成 ・ 操作マニュアル作成 ・ 本選での作品内容発表・実演 【競技部門】 ・ プログラム作成 ・ 本選での競技		<ul style="list-style-type: none"> アイデアに基づいてプログラムを作成する。その間、新しいアイデア、効率のよいアルゴリズムなども検討する。課題および自由部門の場合は、システムを使用するユーザの立場を十分に考慮し、システムとしての完成度を高める。また、競技部門の場合は、競技条件に対して柔軟に対応できるシステムに仕上げ、難問も克服して勝ち進む頑健性が要求される。 課題および自由部門の場合、並行して発表資料も作成する。この2部門は、本選当日にシステムの概要を提示資料により発表する。この発表も審査対象であるので、システム概要を容易に理解でき、かつ、その有用性をアピールできるような資料を作る。また、操作マニュアルも作成する。この操作マニュアルもまた審査対象であるので、判りやすく、かつ、マニュアル通りにシステムを起動できることが要求される。記述内容を十分に吟味するとともに、図や写真、表などを効果的に用いて表現を工夫する。 本選での作品発表と実演、他の高専と競技を行う。 	27
合計授業時間数(前期および後期の定期試験日除く)		30	
評価方法 および 評価基準	システム作成への貢献度(100%)で評価する。作成に30時間以上参加し、かつ、予選を通過して本選出場を果たすことが、単位認定に値すると評価するための最低条件となる。ただし、本選での成績については問わない。		

(出典 2005年度シラバス一般科目(各学科共通))

合宿研修施設の利用案内

5-2 合宿研修施設

合宿研修施設は、本校の学生が規律ある共同生活をとおして人間形成の向上を図ることを目的として設置されました。

利用は、指導教員の監督・指導のもと**クラブ**（同好会含む）・**クラス**・**学生有志**で利用でき、原則として利用期間は、**4泊5日以内**、人数は**40名以内**です。

○**利用日（期間）**については、下記期間は原則として利用できません。

- ① 試験期間中及び試験開始1週間前
- ② 年末・年始（12月28日～1月3日）
- ③ 入学試験当日及び前日

なお、長期休業期間中（夏季・冬季）は、合宿研修施設の利用調整を行いますので、掲示に留意してください。

○**利用手続き**については、次の手順に従ってください。

- ① 学生課学生係窓口で、合宿研修施設の利用状況を確認してください。
- ② **利用5日前**までに、**合宿願・参加者名簿・日課表**を指導教員等自署の上、学生課学生係に提出してください。

※指導教員の宿泊が伴わない場合は許可されません。

- ③ 寝具はレンタルです。

寝具の申込みは、所定の用紙に記入して、合宿願と一緒に提出してください。料金は次のとおりです。

使用料金

	1日	2日	3日	4日	備考
敷布団 1枚	600円	800円	900円	1,000円	料金は消費税込み、手数料無し。毛布1枚追加の場合1日目は100円。以後1日延長される毎に50円増。
掛布団 1枚	(1組当たり	(1組当たり	(1組当たり	(1組当たり	
シーツ 1枚	の料金)	の料金)	の料金)	の料金)	
枕 1ヶ					

- ④ 合宿研修施設の鍵は、合宿当日、学生課学生係において指導教員に合宿日誌とともに渡します。なお、**食器等の貸与**を受けたいクラブ等は3日前までに申し出てください。

※合宿期間中、クラブ等の指導教員は、必ず宿泊し監督・指導を行ってください。

- ⑤ 合宿終了後、整理清掃の上、学生課学生係に報告し**点検**を受けた後、鍵・食器等の返却を行ってください。

○**合宿研修施設を利用する場合**、次に掲げる事項を遵守してください。

- ① 火気の取扱い、保健衛生には、充分注意してください。
- ② 施設・設備の取扱いは、充分注意し、利用期間中は整理・整頓・清掃を行い施設の保全につとめてください。
- ③ 他より暖房器具及び電気器具を持ちこまないでください。
- ④ 盗難には十分注意し、合宿研修施設を離れる場合は、必ず施錠してください。

※合宿終了後、指導教員は、**合宿日誌**及び**部活動指導業務実施報告書**を学生課学生係に提出し点検を受けてください。

（出典 平成18年度学生便覧76～77頁）

資料7-1-⑥-7

後援会クラブ活動助成費関係等の支出基準

平成17年4月28日

教員各位

後援会

平成17年度後援会クラブ活動助成費関係等の支出基準について（通知）

このことについて、学生保護者より後援会会費（入会金 15,000 円 年会費 18,000 円）を原資として従来より下記のとおり各方面にわたり補助等をしてしておりますが、平成17年度の取り扱いについてお知らせいたします。

記

	項 目	備	考
ク ラ ブ 活 動 助 成 費	クラブ指導費	1部・1同好会の指導に対して部同好会当たり 5,000円	後援会職員（学生課）に請求
	クラブ物品援助費	体育系 20,000円 文化系 15,000円 同好会 10,000円	希望物品一覧を学生課学生係へ提出 （1月17日まで提出分）
	課外活動指導費	休日に4時間以上の部活動の指導を行った場合 1回につき 1,200円	部活動指導業務実施報告書を学生課 学生係へ速やかに提出
	合宿指導費	1泊の勤務につき 2,000円	
	地区大会遠征費等顧問	交通費 実費 宿泊料 定額 日 当 定額	旅行内申書は学生課学生係へ提出 活動計画に合致しているものに限る ただし、予算の範囲で調整あり 旅行内申書は学生課学生係へ提出
		交通費 実費 宿泊料 定額 日 当 定額	
	学生	負担割合 交通費・宿泊料及び弁当代の総額を後援会、学友会、学生で各 1/3 乗車券は参加人数により団券・学割適用	
	全国体育大会遠征費	同 上	旅行内申書は学生課学生係へ提出
	英語弁論大会旅費	同 上	同 上
	文化発表会旅費	同 上	同 上
その他の旅費等	交通費 実費 宿泊料 定額 その他 実費 日 当 定額 (山岳部夏・冬山行、ホッケー部東日本大会、棋 道部全国将棋大会、自動車部エコラン大会等)	同 上	
厚 生 補 導 関 係 等	学生指導費	主事(3名) 主事補(9名) 専攻科長 金額 10,000円 副専攻科長 金額 10,000円	後援会職員（学生課）へ各自で請求
	担任経費	学級担任経費 1クラス 10,000円	学年主任が代表して学年分を一括 して学生課の後援会職員へ請求
		学年共通経費 各学年 20,000円	経費は学年主任が後援会職員 (学生課)に請求
	新入生歓迎会	各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	卒業生追出会	各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	弔慰金	学生の父母（生計を同一にしている者）が亡 くなった場合 金額 10,000円	担任教員は、学生課学生係へ連絡
	表彰関係	表彰規程に定める表彰該当者に表彰状及び記 念品	各種大会等で上位入賞の場合は学 生課学生係へ連絡（推薦書提出）
就 職 対 策	卒業生との就職懇談会	各学科 20,000円	領収書を学生課学生係へ提出
	就職依頼旅費	就職開拓旅費 各学科 30,000円	旅行内申書を学生課学生係へ提出
	卒業研究資料代	卒業研究資料代 指導教員各 10,000円	領収書を後援会職員（学生課）へ
	専攻科等研究補助	論文発表1回につき 10,000円上限（交通費実費） 1人年2回限度	後援会職員へ請求（専攻科主任から）

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

部活動やロボコン，プロコン，学友会活動に対する指導などを学校全体で支援し，必要な財政的支援を行う体制も整備されていることから十分機能しているといえる。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

学生委員会を中心に学生生活を組織的に指導，相談，助言する体制を整備している。学生相談室を設け，カウンセラー，担任等の連携による学生の支援を行っている（資料7-2-①-1～2）。セクシャルハラスメント相談委員やカウンセラーを配置して個人的な悩みや相談事に対しての助言を行っている（資料7-2-①-3～4）。外部専門家による教員対象の研修会を定期的に行っている（資料7-2-①-5）。入学料・授業料の減免，奨学金の貸与等，経済面の支援をしている（資料7-2-①-6）。

学生相談室の利用について

4-2 学生相談室の利用

人は皆それぞれに、さまざまな問題を抱えて生きています。まして、多感な青春時代はなおさらです。勉学や友人関係、クラブ活動、兄弟や親子関係、健康や性の悩み等々、私達の悩みや不安、心配の種はいつも尽きることはありません。人は青春時代に、さまざまな難関に遭遇し、もがき苦しむ、それを乗り越えて、内面的な成長を遂げてゆきます。

しかし、どんなに努力してみても、自分一人の力では容易に解決しないばかりか、ますます混乱が深まり、ついには立ち上がれないほどに疲れ切ってしまうこともあります。

学生相談室は、青春時代のさまざまな疑問や問題を学生と共に考え、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう、手助けをさせてもらうところです。自分一人ではどうすることも出来ないと思うような時、ほんの少し、勇気を出して学生相談室に足を向けてみませんか。プライバシーは一切、堅く守ります。どうか、学生相談室の存在を心のどこかに留めておいてください。

担当者	相談場所	相談日
愛甲修子 (カウンセラー)	学生相談室 (一般研究棟1階)	毎週火曜日 (13:00~17:00)
中村俊昭 (学生相談室長)	中村教員室	随 時
吉井文子	吉井教員室	
大枝真一	大枝教員室	
青木優介	青木教員室	
小田 功	小田教員室	
大澤 寛	大澤教員室	
鈴木 聡	鈴木教員室	
柳澤静代	保健室	

(出典 平成18年度学生便覧72頁)

学生相談室の案内

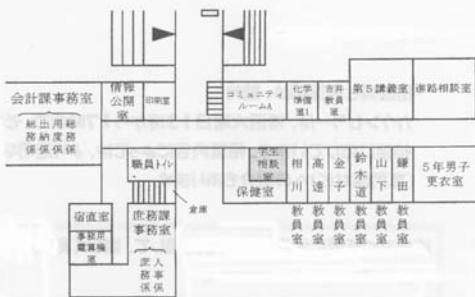
学生相談室のご案内

相談室長・カウンセラー・相談員

相談室長	中村俊昭
カウンセラー	愛甲修子
基礎学系	吉井文子
機械工学科	小田功
電気電子工学科	大澤寛
電子制御工学科	鈴木聡
情報工学科	大枝真一
環境都市工学科	青木優介
看護師	柳澤静代

学生相談室は

一般研究棟1階保健室横にあります。



木更津工業高等専門学校
学生相談室

(出典 学生相談室学生配賦資料)

資料7-2-①-4

学生相談室・カウンセラー相談件数

平成17年度後期相談件数
(校内相談員分)

相談内容	学年	学科	合計
勉学/不登校	1/2/3/4	全科	41
進路	1	D	1
	2	EDJC	18
	3	DCJ	14
	4	EDJC	15
部活動	1/2	ME	2
交友	1	C	1
寮生活	1	J	1
異性交遊	1/3	MJ	6
家庭問題	5	MJ	4
健康問題	1/4/5	ME専	16
その他	1/4/5	MDJC	6

計 155

スクールカウンセラー分

学年別相談件数

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
学業	13	0	6	7	0	3	29
進路	0	0	0	1	2	1	4
交友・集団	16	2	0	3	0	0	21
家族	5	0	0	0	2	2	9
性格・行動	23	0	2	0	0	2	27
精神衛生	75	29	7	2	12	9	134
部活動	0	0	0	0	0	0	0
寮生活	8	4	0	1	0	0	13
その他	2	0	0	0	0	0	2
学年別計	142	35	15	14	16	17	239

(出典 2005年度学生相談室だより (平成17年度No.2))

学生に対する経済面の援助

3-1 授業料の免除等

経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる場合は、願い出（**授業料免除願**）に基づき選考のうえ、その期に納付すべき授業料の全額あるいは、半額が免除されます。

授業料免除を希望する学生は、2月及び9月に申請方法を掲示しますので期日までに「**授業料免除願**」を学生課学生係に提出してください。

また、授業料納付期限までに授業料の納付が困難な場合は、「**授業料徴収猶予願**」、特別な事情がある場合には、「**授業料月割分納願**」がありますので、学生課学生係へ申し出てください。

3-2 奨学金制度

日本学生支援機構（旧日本育英会）

学業・人物ともに優秀で、かつ健康であり、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる者に対し、学資を貸与します。

① 奨学生の種類と貸与の月額

第一種奨学金（無利子）

（平成18年4月現在）

種 類	貸 与 月 額			
	1～3年	4～5年	専攻科1年	専攻科2年
自 宅 通 学	21,000 円	44,000 円	45,000 円	44,000 円
自 宅 外 通 学	22,500 円	50,000 円	51,000 円	50,000 円

その他に**第二種奨学金（きぼう 21 プラン）（有利子）**があります。

② 出願の手続

奨学生の募集は、**4月**に行います。出願時期・要領等については、掲示等により通知します。また、家計が急変し、修学が困難になった場合は、定期外で**緊急採用**の制度もありますので、学生課学生係に相談してください。

③ 採否の決定

提出された願書により審査選考し、日本学生支援機構に推薦します。採用の可否は日本学生支援機構が決定し、校長を経て本人に通知します。

④ 奨学金の交付

奨学金は、毎月1回指定した本人名義の銀行口座へ振込まれるので、奨学生は、

毎月11日以降に一般の普通預金払出手続と同じように手続きをすれば受け取ることができます。休学・退学・転居等により異動が生じた場合は、速やかに学生課学生係に連絡してください。

⑤ 奨学金継続願の提出

奨学金継続願の用紙を配付（1月）しますので、必要事項を記入し学生課学生係へ提出してください。（掲示により通知）

継続願を提出しない奨学生に対しては、振込を保留するので掲示に留意してください。

⑥ 奨学金の返還

奨学金は、貸与です。卒業後6ヶ月後から20年以内に月賦等の方法により必ず返還しなければなりません。この返還された奨学金が、後輩の奨学金として貸与されるので規則を守り、確実に返還する義務があります。

その他の奨学金制度

地方公共団体・民間団体の育英事業等の奨学金制度がありますが、いずれもその団体所在地の出身学生に限る場合が多く、出願採用時期もまちまちで本人が直接手続をすることが多い。なお、学校推薦を必要とする場合や、採用になった時は、学生課学生係へ申し出てください。

3-3 日本スポーツ振興センター

日本スポーツ振興センターとは、学校安全の普及充実に図るとともに、学校の管理下における学生の負傷、疾病、廃疾又は死亡に関して必要な給付を行い、学校教育の円滑な実施に資することを目的とする制度です。

掛金は、1人年額1,520円で、後援会で負担しています。（全員加入）

対象となる災害の範囲

災害の種類	災 害 の 範 囲	給 付 金
負 傷	学校の管理下の事故によるもので、療養に要した費用の額が5,000円以上のもの	医 療 費
疾 病	学校の管理下の行為によるもののうち次のもの (1)学校給食等による中毒 (2)ガス等による中毒 (3)日射病 (4)溺水 (5)異物の嚥下 (6)ウルシ等による皮膚炎 (7)外部衝撃による疾病 (8)負傷による疾病	
障 害	学校管理下の負傷及び上欄の疾病がなおった後に残った障害で、その程度により1級から14級に区分される	障 害 見 舞 金
死 亡	学校管理下の事故による死亡及び上欄の疾病に直接起因することが明らかな死亡	死 亡 見 舞 金

災害にあった場合は、すみやかに学生課学生係（保健室）へ申し出て、必要な措置と所定の手続を行ってください。

（出典 平成18年度学生便覧 67～69頁）

(分析結果とその根拠理由)

学生委員会を中心に学生相談支援の体制を整え、担任を中心に個々の学生に対する支援・指導を行っている。学生相談室、カウンセラー、セクシャルハラスメントの相談委員を配置している。経済的な支援についても充実している。よって学生の生活・経済面に係る指導・相談・助言に関する体制も機能している。

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援は適切に行われているか。

(観点に係る状況)

寮には外国人留学生用に補食室やシャワー室を設置し、食生活、生活習慣の違いを考慮している(資料7-2-②-1)。障害を持つ学生が入学した場合を想定して校内の建物はバリアフリー化しており(資料7-2-②-2)、全校で6箇所の障害者用トイレ、3基のエレベータが設置されている(資料7-2-②-3~4)。学寮1階には車椅子での生活が可能で居室を完備している(資料7-2-②-5)。

資料7-2-②-1

学生寮留学生用シャワー室・補食室



校内バリアフリーの様子



資料7-2-②-3

障害者用トイレ



資料7-2-②-4

総合教育棟エレベータ



資料7-2-②-5

学寮障害者用居室



(分析結果とその根拠理由)

外国人留学生の施設が整備・活用され、障害者用に対するバリアフリー化も進み機能している。

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点到に係る状況)

学生寮には群制度を導入し、各群に群長、副群長が任命され寮生の指導に当たっている(資料 7-2-③-1)。寮友会が組織され、寮友会長、男子寮長、女子寮長、美化委員、車両委員等が制定され、寮の自治・運営・行事を行っている(資料 7-2-③-2)。寮の運営・生活指導のために、寮務委員会、学生課寮務係が組織されている(資料 7-2-③-3)。毎月群長会が開かれ、寮務主事、主事補、寮務委員を交え、指導や寮生の生活全般の確認や連絡事項の通達、指導等が行われている。年に2回学寮リーダー研修会も行われている(資料 7-1-③-6)。

自習時間を 20:00 から 21:30 まで設定している。朝と夜に舎監による点呼が取られている。ポイント制が導入され、点呼時に不在の者や諸規則の違反者にはマイナスポイントが課せられ、一時退寮等の指導がなされる(資料 7-2-③-4)。

新入寮生保護者懇談会が行われ、保護者を交えて寮生活の諸規則等が説明されている(資料 7-2-③-5)。

談話室、サービスエリア(補食コーナー、洗濯コーナー)、浴室、パソコン室、学習室等の生活設備が整っている(資料 7-2-③-6)。

資料 7-2-③-1

学生寮群制度について

1) 学寮の目的

学寮は本校の課外教育施設であり、その目的は次の3つからなります。

- (1)安全で健康な生活環境を提供すること。
- (2)修学を支援すること。
- (3)規律ある共同生活と地域社会への貢献を通じて人間形成をはかること。

2) 「群制度」の内容

学寮が課外教育施設としての目的を十分に果たすため、独自の群制度を導入しています。群とは、居室・談話室及びサービスエリアをもって構成される単位であり、各群は1年生から5年生までの寮生30～40名程度で構成されます。男子寮は1階から4階までの各フロアを東西に分けて8群、女子寮は全体でひとつの群となります。各群は、群長をリーダーとして自分達で定めた「生活規範」に従い、より自由な雰囲気の中で各自が責任を持って、その最善と考える共同生活の実現に努力します。

(出典 平成 18 年度寮生便覧 2 頁)

資料 7 - 2 - ③ - 2

寮友会組織図

平成17年度 寮役員一覧表

寮友会長

寮友会長	D5: ■■■■
------	----------

寮長

男子寮長	C5: ■■■■	男子副寮長	E4: ■■■■
女子寮長	J5: ■■■■	女子副寮長	C4: ■■■■

群長・副群長

	1 群	2 群	3 群	4 群	5 群	6 群	7 群	8 群	女子
群 長	M5: ■■■■	M5: ■■■■	D5: ■■■■	D5: ■■■■	E5: ■■■■	E5: ■■■■	E5: ■■■■	M5: ■■■■	J5: ■■■■
副 群 長	C4: ■■■■	C4: ■■■■	M4: ■■■■	M4: ■■■■	C4: ■■■■	C4: ■■■■	C4: ■■■■	D4: ■■■■	E4: ■■■■

寮委員

寮委員	美化委員	防 災	編 集	レクリエーション	食事検討	車 両	ネットワーク管理	監 査
委 員 長	C4: ■■■■	M5: ■■■■	M5: ■■■■	C4: ■■■■	M5: ■■■■	E5: ■■■■	M5: ■■■■	E4: ■■■■
副委員長	C4: ■■■■	C4: ■■■■	D4: ■■■■	C4: ■■■■	C4: ■■■■	M5: ■■■■		

寮務主事・主事補

寮務主事: 高橋秀雄	寮務主事補: 荒木英彦
	寮務主事補: 関口昌由
	寮務主事補: 板垣貴喜

指導教官

	1 群	2 群	3 群	4 群	5 群	6 群	7 群	8 群	女子
指導教官	清野哲也	山下 哲	坂元周作	関口昌由	大枝真一	上村繁樹	荒木英彦	小田 功	飯田聡子

(出典 学生課寮務係資料)

資料 7 - 2 - ③ - 3

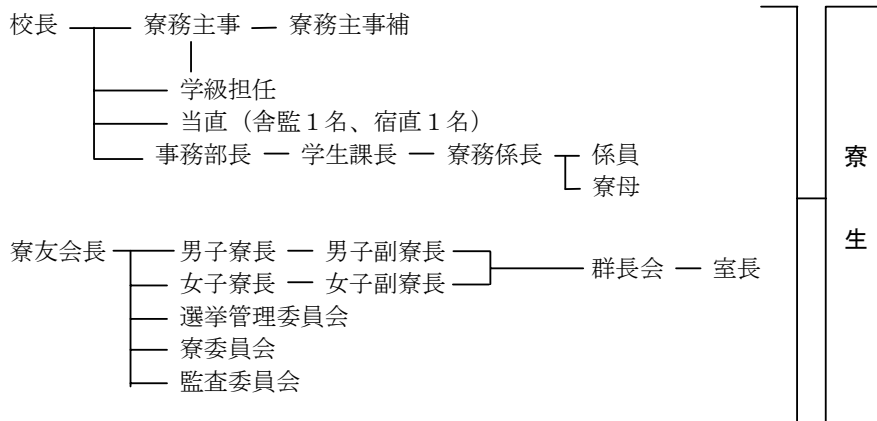
学生寮運営組織図

3) 組 織

学寮は下図の組織によって運営されています。寮生の指導については全教官が、また施設設備の維持管理、寮費及び給食費等については学生課寮務係が担当します。寮友会は、学寮規程第 15 条に基づき、学寮における日常生活上の具体的な問題を運営組織内で率先して処理し、これを自主的に規律します。

[運 営 組 織 図]

寮務委員会 (寮務主事 1 名、寮務主事補 3 名、校長の任命した教員)



(出典 平成 18 年度寮生便覧 2 頁)

学生寮ポイント制度

5) ポイント制について

1. ポイント制

ポイント制は各違反・指導に対して「一回につき何点」とポイントをつけ、その合計点で指導内容を決める方法です。

24 時間学校で生活する寮生を、このポイント制ですべて指導できるわけではありませんので、基本的なことを例示します。したがってこのポイント制に明記されていない事柄についての指導は、その都度寮務主事、寮務主事補、寮長、群長等が話し合い決定することになります。

また、寮生は本校の学生でもありますから、ポイント制による指導が困難とされる問題、あるいは学校としての指導のほうに望ましいと思われる事項については、寮務委員会の議を経て、賞罰審査会議に諮ることになります。

なお、ポイント制もしくは賞罰審査会議等で何らかの指導もしくは処分を受けた際にはポイントは 0 となります。

1. 1 ポイント制のルール

ポイント加算時期は次のとおりです。

- 1) 寮規則違反・指導などが発生したとき。
- 2) 無断外泊数、欠課時数、全寮集会欠席回数を集計したとき（年 2 回）。
（学年末については次年度の入寮許可の際に考慮する。）
（公欠や病欠で、所定の記入手続きを行った数を除く。）

違反項目とポイントの関係を表 1 に示します。

表 1. 違反項目とポイント

違反項目	ポイント
寮周辺不法駐車	0.5
指導無視	0.5
喫煙・煙草所持・飲酒・麻雀	1
通生及び部外者無断立入幫助（門限前の立入）	0.5
通生及び部外者宿泊幫助（門限後の立入）	7
通生及び部外者無断立入、宿泊幫助（異性）	7
閉寮中の無断入寮	7
欠課時数	欠課時数の%を 10 で除した数
無断外泊	回数を 8 で除した数
指導後間もない（1 年）違反	違反ポイント× 2
処分無視	7
酒、煙草の使役（時間に関係なく）	7
上記以外の使役（点呼後）	4
上記以外の使役（点呼前）	2
使役を受けた寮生	0.5
点呼後の外出	2
全寮集会の無断欠席	一回につき 0.5

〈注〉同時に複数件あった場合は各ポイントを合算します。

1. 2 総ポイントと指導内容

ポイントは入寮時から累積されたポイントを総ポイント数とします。

指導は、更新された総ポイント数が整数部に達した時に行われます。総ポイント数と指導内容の対応を表 2 に示します。期間は指導日から起算して実施されます。

表 2. 総ポイント数と指導内容

総ポイント	指導内容	総ポイント	指導内容
1	1 週間退寮	5	6 ヶ月退寮
2	2 週間退寮	6	1 年間退寮
3	1 ヶ月退寮	7 以上	無期限退寮
4	2 ヶ月退寮		

1. 3 減点規則（救済規則）

指導に際して行われる面談で情状酌量の余地があると判断した場合には、表 1 の点数から減点することができます。減点範囲は、主事 5 / 10、主事補・寮長・当該群長各 1 / 10 以下とします。

1. 4 寮務委員会と寮友会の協調

学校の基本方針と寮の健全な運営に反しない限り、表 1、表 2 については寮務委員会と寮友会とがリーダー研修会において協議し、決定します。

1. 5 指導の公示

指導日より一週間の公示を行う。但し、プライバシーの配慮が必要な場合は適宜配慮する。

（出典 平成 18 年度寮生便覧 19～20 頁）

寮生保護者懇談会の案内

新入寮生保護者懇談会の実施について

1、 新入寮生保護者昼食会

日 時：平成17年4月7日（木）13時～13時40分

場 所：学寮食堂

出席者：新入寮生保護者、寮務主事、寮務主事補、学生課長、寮務係

2、 新入寮生保護者懇談会

日 時：平成17年4月7日（木）13時45分～15時（予定）

場 所：図書館1階 図書館ホール

出席者：新入寮生保護者（78名）

寮務主事、寮務主事補、学生課長、学生課長補佐、寮務係

新入寮生保護者 懇談会次第（進行：荒木寮務主事補）

- (1) 開会のことば（荒木寮務主事補）
- (2) 教職員紹介・寮役員紹介
- (3) 寮務主事あいさつ
- (4) 質疑応答
- (5) 閉会のことば（荒木寮務主事補）

配布資料

- ・学寮行事予定表
- ・寮生数一覧表
- ・寮役員一覧表
- ・部屋割り表
- ・給食献立表

（出典 2005年度学寮保護者懇談会資料）

学生寮生活設備

学寮には、居室の他に次に掲げる各種の共用施設・設備が整備されています。利用する場合は、共用であることを認識し、使用規則を遵守して大切に利用ください。なお、居室及び各種の施設・設備に工作を加えたり、目的以外に使用してはいけません。

(1)雄峰寮 (男子寮)

①談話室

各群ごとに、寮生が自由に語り合ったり、テレビを見たり、また居室消灯後の勉強にも使用できます。

備品として、テレビ・ビデオ・座机が設置されています。また、群で購読する新聞を見ることができます。

②サービスエリア

各群ごとに、補食コーナー及び洗濯コーナーとしての「サービスエリア」があります。

「補食コーナー」には、流し台とガス台(3台)が設置されています。

「洗濯コーナー」には、全自動洗濯機(5台)と乾燥機(5台)が設置されています。

これらの施設設備は、共同利用ですから、各自ルールやマナーを守って清潔・整頓を励行するとともに、ガス栓の確認や節水に心がけて使用してください。

③浴室

浴室は食堂棟地階にあり、一度に40人位が入浴できます。

④パソコン室

一階にインターネットもできるパソコン室があります。

⑤学習室

二階に学習をする為の学習室があり、24時まで利用できます。

(2)なのはな寮 (女子寮)

①談話室

備品として、テレビ・ビデオ・テーブル・ソファが設置されています。

空調設備もあり、ソファに座ってテレビを見たり雑談をしたりできます。

なお、点呼や女子寮生会も談話室で行います。

②補食室

1から3階に補食室があります。それぞれ流し台とガス台、電子レンジが設置されています。

③洗面所・洗濯機コーナー

地階から3階には、それぞれ3~4カ所の洗面台と、全自動洗濯機(2台)、

ガス衣類乾燥機(2台)が設置されています。共同利用するものですから、清潔・整頓に留意してください。

④浴室

浴室は地階にあり、一度に5人くらいが入浴できます。

(出典 平成18年度寮生便覧6~7頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮は教育寮として位置づけられ、寮務委員会や寮務係による生活全般の指導・支援が行われ、勉強の場としても人間形成の場としても有効に機能している。

観点 7-2-④：就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

各学科主任、専攻主任、学級担任が学生課と協力・連携して学生の就職・進学活動を支援している。準学士課程の保護者懇談会(資料7-1-①-5)、専攻科の年8回もの連絡会やガイダンス(資料7-1-①-7)、OBや大学教員による進路支援の講演会(資料7-1-①-4)等、密接に学生と接触する機会を多く設けている。

準学士課程の就職資料は各学科の最寄のコミュニティルームに保管され、学生が気軽に閲覧できる(資料7-2-④-1)。進学資料は学生課で閲覧できる(資料7-2-④-2)。専攻科の進路資料はコミュニティルームHに保管されている(資料7-2-④-3)。ホームページ、学校要覧や学生便覧(資料7-2-④-4)に進路実績の情報が記載されている。

資料 7-2-④-1

準学士課程就職資料（写真は機械工学科の例）



資料 7-2-④-2

準学士課程進学資料（写真は学生課に入ってすぐの資料棚）



資料7-2-④-3

専攻科就職・進学資料（コミュニティールームHに保管）



資料7-2-④-4 (1/3)

就職・進学の情報

8-1 本科の就職

本科の卒業生の数は、約4,800人に達し、それぞれに大企業や特色ある中小の企業などの産業界、あるいは官公庁など、社会の様々な分野で、目覚ましい活躍をしています。

本校創立以来、毎年就職は100%で、17年度の求人社数は全体で約2,000社に及んでいます。次表に、過去5年間の卒業生の主な就職先を示します。

機 械 工 学 科	電 気 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科	電 子 制 御 工 学 科	情 報 工 学 科	環 境 都 市 工 学 科
N T T 東 日 本	N T T 東 日 本	鐘 紡	N T T ド コ モ	N T T 東 日 本
セガ・ロジスティックサービス	NTTファシリティーズ	ク ラ リ オ ン	N T T 東 日 本	関 東 天 然 瓦 斯
東 京 電 力	N T T ド コ モ	日 本 放 送 協 会	NTTファシリティーズ	千 葉 ガ ス
キ ャ ノ ン	サ ン ト リ ー	半 導 体 エ ネ ル ギ ー	ソニーEMCS木更津テック	京 葉 ガ ス
日揮プロジェクトサービス	ニ コ ン	日 産 テ ク ノ	データ通信システム	東 京 電 力
東 京 ガ ス	東 京 電 力	N T T ド コ モ	日 本 I B M	住 金 橋 梁 セ ン タ ー
ニ コ ン	キ ャ ノ ン 販 売	N T T 東 日 本	京 葉 ガ ス	関 東 地 方 建 設 局
黒 田 精 工	京 葉 ガ ス	ソ ニ ー	千 葉 ガ ス	東 日 本 旅 客 鉄 道
東 海 旅 客 鉄 道	東 レ	日 本 計 算 機 販 売	東 京 電 力	西 日 本 旅 客 鉄 道
丸 善 石 油 化 学	成 田 エ ア ポ ー ト テ ク ノ	ニ コ ン	中 部 電 力	ク リ ス タ ル
サ ン ト リ ー	日 立 製 作 所	三 菱 ビ ル テ ク ノ サ ー ビ ス	出 光 興 産	東 海 旅 客 鉄 道
東 邦 化 学 工 業	ソ ニ ー	出 光 興 産	C R C シ ス テ ム ズ	国 土 地 理 院
新 日 鐵 化 学	東 芝	東 邦 化 学 工 業	日 本 コ ン ピ ュ ー タ シ ス テ ム	首 都 高 速 道 路 公 団
出 光 興 産	日 産 自 動 車	日 産 化 学	松 下 通 信 工 業	帝 都 高 速 度 交 通 営 団
新 日 本 製 鐵	古 河 電 気 工 業	キ ャ ノ ン N T C	ク ラ リ オ ン	東 京 港 埠 頭 公 社
J F E ス チ ー ル	財 務 省 印 刷 局	フ ジ テ ッ ク	オ リ ン パ ス	営 団 地 下 鉄
フ ジ テ ッ ク	日 本 放 送 協 会	キ ク チ	ニ コ ン	道 路 建 設 コ ン サ ル タ ン ト
日 野 自 動 車	パ イ オ ニ ア	松 下 通 信 工 業	パ イ オ ニ ア	セ ク タ ー
三 菱 重 工 業	鳥 居 薬 品	村 田 機 械	鐘 紡	太 陽 道 路
日 産 車 体	日 本 空 港 給 油	双 葉 電 子 工 業	ヤ フ ー	横 河 工 事
ジャル航空機整備東京	丸 善 石 油	財 務 省 印 刷 局	放 送 衛 星 シ ス テ ム	国 土 交 通 省
パ イ オ ニ ア	関 電 工	日 鉄 エ レ ッ ク ス	日 本 宇 宙 開 発 エ ン ジ ニ ア リ ン グ	ヤ フ ー
松 下 通 信 工 業	ト ス テ ム	T I D	日 本 電 気 エ ン ジ ニ ア リ ン グ	第 一 テ ク ノ
T D K	松 下 通 信 工 業	東 芝	日 本 放 送 協 会	新 日 本 製 鐵
コ ス モ 石 油	ソ フ ト バ ン ク	東 日 本 旅 客 鉄 道	富 士 ソ フ ト A B C	フ ジ テ ッ ク
東 レ	ジャル航空整備東京	日 本 ビ ク タ ー	パ イ オ ニ ア	協 和 テ ク ノ ス
オ リ ン パ ス	日 本 I B M	N S デ ザ イ ン	日 立 デ ィ ス プ レ イ ズ	君 津 住 宅
花 王	日 立 化 成 工 業	ソニーEMCS木更津テック	花 王	巴 商 会
日航エンジンテクノロジー	日 本 空 港 テ ク ノ	神 鋼 電 機	D I D	京 急 建 設
セ コ ム	道 路 通 信 エ ン ジ ニ ア	日 野 自 動 車	日 立 I N S	セ コ ム

資料7-2-④-4 (2/3)

8-2 本科の進学

本校は、創造性豊かな工業技術者を社会に送り出すことを目的に設立されましたが、近年では、高専を卒業して更に大学へ進学し勉学を続けたいという学生も多くなりました。そのため大学編入という道が開かれており、150以上の大学が高専からの編入学を受け入れています。

近年高専に専攻科が設けられ、本校にも平成13年度に設置されました。これにより、さらに進学の道が広がっています。卒業後の約半数が高専専攻科及び大学に進学しています。詳しくは学生課の「掲示板」及び「進学関係資料コーナー」で閲覧してください。

高専専攻科入学先

木更津工業高等専門学校	鈴鹿工業高等専門学校	久留米工業高等専門学校
豊田工業高等専門学校	松江工業高等専門学校	舞鶴工業高等専門学校
八戸工業高等専門学校	福島工業高等専門学校	奈良工業高等専門学校
鶴岡工業高等専門学校		

大学編入学先

北海道大学	金沢大学	佐賀大学
室蘭工業大学	福井大学	長崎大学
北見工業大学	山梨大学	熊本大学
弘前大学	信州大学	宮崎大学
岩手大学	岐阜大学	琉球大学
東北大学	静岡大学	前橋工科大学
秋田大学	豊橋技術科学大学	東京都立大学
山形大学	三重大学	都立科学技術大学
茨城大学	京都大学	愛知県立大学
筑波大学	京都工芸繊維大学	大阪府立大学
宇都宮大学	大阪大学	埼玉工業大学
群馬大学	神戸大学	千葉工業大学
埼玉大学	和歌山大学	大正大学
千葉大学	鳥取大学	東京造形大学
東京大学	島根大学	東京電機大学
東京農工大学	岡山大学	東京理科大学
東京工業大学	広島大学	日本大学
東京海洋大学	山口大学	明治大学
お茶の水女子大学	徳島大学	神奈川大学
電気通信大学	愛媛大学	長岡造形大学
横浜国立大学	香川大学	京都造形芸術大学
新潟大学	九州大学	長崎総合科学大学
長岡技術科学大学	九州芸術工科大学	
富山大学	九州工業大学	

資料7-2-④-4 (3/3)

8-3 専攻科の就職と進学

本校の専攻科は、平成13年4月に設置されました。本科5年間の一貫教育という特徴を活かしながらその上級コースとして、地域・産業界との密接な協力・連携のもとで、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力や創造能力を備えた新しい型の実践的専門技術者の育成を目指しています。

現在、1期生から4期生までを合わせて、107名が専攻科を修了しています。次に修了年度ごとに、専攻科生の進路先(就職先と進学先)一覧を示します。専攻科4期生の大学院進学率は、26%です。

修	1期生 (平成15年3月)	2期生 (平成16年3月)	3期生 (平成17年3月)	4期生 (平成18年3月)
修	19	27	26	33
就職先	関電工	日立化成	エスエス製薬	日産ディーゼル技術研究所
	新日鐵化学	大崎コンピュータエンジニアリング	双葉電子	トヨタテクノサービス
	山田電機	ソニーEMCS	自営	ハタシ
	山崎建設	丸和建材社	西沢電機計器	双葉電子工業
	ソニーEMCS	東京都	エヌアイディ・アイエス	自営
	大藤システム	日本マラantz	ジェイモードエンタープライズ	日立ビジネスソリューション
	シーヴィホーム	クラリオン	首都圏新都市鉄道	アルファシステムズ
	山武都市広域行政	第一テクノ	山下ゴム	アンドール
	第一テクノ	松尾設計	フクシコンサルタント	千葉市役所
	トヨタ自動車	長野県警	カントウ機材	テツゲン
	日本環境開発	関電工		千葉ガス
	自営	JR東日本		日本インシュレーション
		クリタス		日野自動車
		横河工事		セコム・テクノサービス 他
小	12	14	10	24
進学先	千葉大学(2名)	千葉大学(2名)	豊橋技術科学大学(2名)	千葉大学大学院
	長岡技術科学大学	山梨大学	千葉大学(2名)	北陸先端科学技術大学院大学(3名)
	日本大学	北陸先端科学技術大学院大学	東京農工大学	東京農工大学大学院
		早稲田大学	神戸大学	豊橋技術科学大学大学院(3名)
		長岡技術科学大学(2名)	山梨大学(2名)	筑波大学大学院
		東京工業大学	北陸先端科学技術大学院大学(2名)	
		電気通信大学	静岡大学	
		横浜国立大学	信州大学	
		東北大学	長岡技術科学大学	
	都立科学技術大学	京都工芸繊維大学		
小	4	12	14	9
その	留学	留学・他	大学進学・他	
	専門学校			
小	3	3	2	0

(出典 平成18年度学生便覧 165~167頁)

(分析結果とその根拠理由)

各学科長・専攻科主任，学級担任が学生課と協力・連携して進路指導を行っている。保護者懇談会，進路懇談会，進路支援の講演会等も多く行われている。就職・進学のための資料も適切に保管され，学生が自由に閲覧できるように配慮されている。就職困難な現状にも係らず就職率は100%を維持していることから十分に機能しているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

図書館，ネットワーク情報センター，コミュニティルーム等自主的学習環境が整備され，福利厚生施設も充実し，障害者用の設備も完備している。

資格・検定試験への支援体制，留学支援体制，部活動，外国人留学生や編入生への支援体制等が完備し，学生相談室，カウンセラーも配備され，セクシャルハラスメント等にも対応可能な体制が整っている。就職・進学の支援体制も万全である。

学寮においては，教育寮としての体制が整えられ，学習支援，生活指導等の細部にわたる配慮がなされている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準 7 の自己評価の概要

準学士課程で新入生合宿研修，JABEE プログラムの説明，就職進学に関するガイダンスやOB 懇談会，専攻科で進路に向けたガイダンス等が行われ，区切りとなる学年ごとに適切なガイダンスが行われている。オフィスアワーの実施により，学生の自主的学習を進める上でのきめ細かな指導が行われている。キャンパスの生活環境や福利厚生施設，図書館やネットワーク情報センターも整備され多くの学生が利用している。

授業評価，学生アンケートの実施，「学生の声」箱の設置により，学生の生の声を汲み取れる工夫がなされている。学寮リーダー研修会や学友会との懇談会等，学生から直接ニーズを把握するシステムも確立されている。

資格・検定試験を単位化する制度が整備され，多くの学生が資格を取得する原動力になっている。更に外国留学についての規程も整備されている。

留学生にはチューターを配置し，また国際交流委員会主催の交流会や見学会等を積極的に行い，留学生が日本の生活に速やかに順応できるよう配慮している。また日本語及び日本事情の2科目を配置するとともに必要に応じて補習を行い，日本人学生と同様に学習できる環境が整備されている。

部活動や学友会活動に対しては学校全体で支援している。特にロボコン，プロコンは単位認定制度に組み込まれ，教員支援体制が確立している。

学生相談室，カウンセラー，セクシャルハラスメントの相談委員を配置し，学生の精神的なケアにも対応できるシステムを確立している。経済的な支援についても充実している。

主要通用口のスロープや講義等のエレベータだけではなく，学寮1階には車椅子生活が可能な居室

も完備され、障害者でも支障なく日常生活がおくれるよう配慮している。

学生寮は教育寮として位置づけられ、寮務委員会や寮務係による生活全般の指導・支援が行われている。群制度やポイント制を導入し、勉学の間としても人間形成の間としても有効に機能している。

各学科主任・専攻科主任、学級担任が学生課教務係と協力・連携して進路指導を行っている。就職進学資料も学生が自由に閲覧できるように適切に保管されている。卒業時には全員の進路が決定し就職困難な現状にも係らず就職率は100%を維持している。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

基準 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる）が整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校は 2003 年度に総合教育棟の親営、研究棟の改修が完成した。施設の概要を資料 8-1-①-1 に示す。

資料 8-1-①-2 に学習教育目標と教育研究設備との関係を示す。本校では全ての学習教育目標が達成できるように施設を整備している。

講義室は、あらゆる教育目標を達成するための施設として、一定以上の広さを有し、かつ空調や機器等の設備が充実しているべきである。講義室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-3 に示す。第 1、第 2 講義室、階段教室等の大型教室を除くいずれの講義室においても、学生一人当たり 2.0m²程度の面積が確保されている。空調・換気設備、映写用スクリーン、LAN情報コンセントが完備されている。

基礎科目系及び各学科に属する実験室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-4～9 に示す。いずれの実験室も目的の実験を行うに十分な面積が確保され各種設備も充実している。

演習室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-10 に示す。いずれの演習室も、学生一人当たり 3.0m²程度の面積が確保されている。空調・換気設備、各種専用機器、LAN情報コンセントが完備されている。

ゼミ室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-11 に示す。いずれのゼミ室も学生一人当たり 2.0m²以上の面積が確保されている。空調・換気設備、LAN情報コンセント、流し台、机等も揃っている。

図書館の概要を資料 8-1-①-12 に示す。空調・換気設備、蔵書検索用パソコンが完備されている。利用状況も良好である（資料 8-1-①-13～14）。図書館の管理・運営は、図書館運営部会の主導により行われている。

本校の基幹情報施設であるネットワーク情報センターの概要を資料 8-1-①-15 に示す。学生一人当たり 2.3m²程度の面積が確保され、広く学生に利用されている（資料 8-1-①-16）。空調・換気設備が備えられ、各種アプリケーションを導入したパソコンも完備されている。システムの管理・運営はネットワーク情報センター運営部会の主導により行われている。

体育施設の広さ、利用形態、設備を資料 8-1-①-17 に示す。いずれの体育施設も十分な広さを有している。各体育施設には器具庫、トイレ等が設置されている。

オープンラボの広さ、場所、設備等を資料 8-1-①-18 に示す。いずれも十分な面積が確保され実験台や LAN コンセントなども完備されている。

上記各種施設には管理者が決められ日常的な管理が行われている。安全管理のために安全衛生委員会が設置され（資料 8-1-①-19～20）、安全衛生に係る調査や改善の検討がなされている（資料 8-1-①-21）。木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則（資料 8-1-①-22）を定め

全学生・職員に通達するとともに、実験実習安全必携（資料 8-1-①-23）を配付し、事故時の救急措置法、危険物等の取扱方法などを周知している。

本校施設の概要

施設の概要 **FACILITIES**

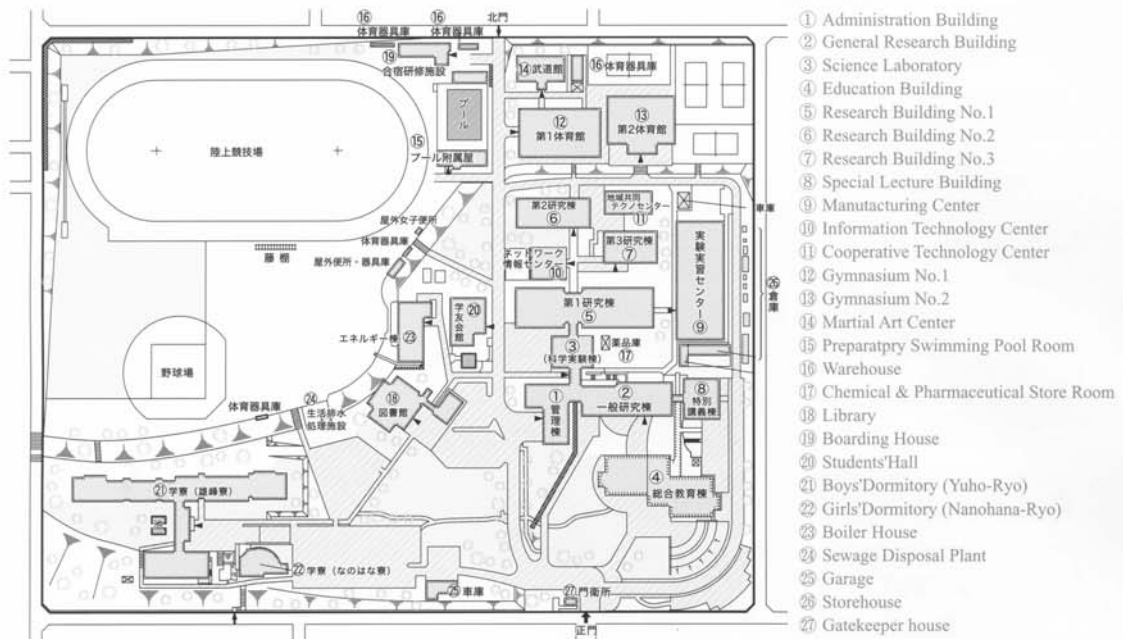
敷地 **Land**

校地 College Area	職員宿舎 Staff Housing		総面積 Land Area
清見台キャンパス	祇園	高砂	
100,054 m ²	1,736 m ²	2,759 m ²	104,549 m ²

建物 **Buildings**

区	分	構造	面積	設置年度	区	分	構造	面積	設置年度
①	管 理 棟	R・2	4,090 m ²	S42	⑮	プール・プール附属屋	R・1	258 m ²	H6
②	一 般 研 究 棟	R・2			⑯	体 育 器 具 庫 他	R・1	258 m ²	S45~S46
③	科 学 実 験 棟	R・2			⑰	化 学 薬 品 庫	R・1	30 m ²	S51
④	総 合 教 育 棟	R・4	3,522 m ²	H15	⑱	図 書 館	R・3	1,771 m ²	S51
⑤	第 一 研 究 棟	R・4	4,091 m ²	S43	⑲	合 宿 研 修 施 設	S・1	205 m ²	S53・54
⑥	第 二 研 究 棟	R・4	2,200 m ²	S59	⑳	学 友 会 館	R・2	702 m ²	S56
⑦	第 三 研 究 棟	R・5	2,183 m ²	H4	㉑	学 寮 (雄 峰 寮)	R・4	6,233 m ²	S42・H12
⑧	特 別 講 義 棟	R・2	717 m ²	S63	㉒	学 寮 (な の は な 寮)	R・4	734 m ²	H12
⑨	実 験 実 習 セ ン タ ー	S・1	1,555 m ²	S43	㉓	エ ネ ル ギ ー 棟	R・1	398 m ²	S42
⑩	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 セ ン タ ー	R・1	302 m ²	S50	㉔	生 活 排 水 処 理 施 設	R・1	30 m ²	S54
⑪	地 域 共 同 テ ク ノ セ ン タ ー	R・2	414 m ²	H12	㉕	車 庫	S・1	112 m ²	S44
⑫	第 1 体 育 館	S・1	1,153 m ²	S43	㉖	倉 庫 他	S・1	351 m ²	S45~S60
⑬	第 2 体 育 館	S・R・1	880 m ²	S58	㉗	門 衛 所	S・1	24 m ²	H15
⑭	武 道 場	S・1	311 m ²	S44	計			32,524 m ²	

建物配置図 **MAP OF THE CAMPUS**



資料 8 - 1 - ① - 2

学習教育目標と対応する施設

学習・教育目標		対応する施設
(A) 人間形成 健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。	(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。	講義室, 図書館, 体育施設, 学生会館, 合宿研修施設, コミュニティールーム
	(2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう豊かな教養を身につける	講義室, 図書館, ネットワーク情報センター
	(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, オープンラボ, 実験実習センター
(B) 科学技術の修得と応用 自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。	(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室
	(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室, 実験実習センター
	(3) 実験実習を通してものづくりに必要な力を身につける。	実験室, 演習室, 地域共同テクノセンター, ネットワーク情報センター, ものづくり室, オープンラボ, 実験実習センター
(C) コミュニケーション能力 高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。	(1) 日本語の記述能力を身につける。	講義室, 図書館
	(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。	講義室, 演習室, ネットワーク情報センター, ゼミ室
	(3) 情報技術を使いこなし、発表討論ができる能力を身につける。	講義室, 演習室, ネットワーク情報センター, ゼミ室
(D) 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。	(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し問題を発見し解決する能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ゼミ室, オープンラボ, 地域共同テクノセンター, ネットワーク情報センター, ものづくり室, 実験実習センター

資料 8 - 1 - ① - 3

講義室の概要

名称	面積(m ²)	収容人数	一人当面積(m ²)	場所	設備等
講義室(生産システム工学1年用)	84	40	2.1	総合教育棟 2~4F	スクリーン, LANコンセント, 空調・換気設備
第1講義室	201	200	1.0	総合教育棟 1F	スクリーン, LANコンセント, スピーカー, プロジェクター, ビデオ, 空調・換気設備
第2講義室	129	100	1.3	特別講義棟 2F	スクリーン, プロジェクター, ビデオ, 空調・換気設備
第3講義室	80	50	1.6	特別講義棟 1F	大型テレビ, スクリーン, 映写機, ビデオ, LANコンセント, 空調・換気設備
第4講義室	84	40	2.1	総合教育棟 3F	スクリーン, LANコンセント, 空調・換気設備
第5講義室	64	40	1.6	一般研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備
マルチメディア講義室A	84	40	2.1	総合教育棟 2F	電源コンセントつき机, スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
マルチメディア講義室B	84	40	2.1	総合教育棟 2F	電源コンセントつき机, スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
特別教室 ^{※1}	129	48	2.7	特別講義棟 1F	空調・換気設備, LAN接続パソコン, 音声・映像設備
階段教室	140	140	1.0	科学実験棟 1F	スクリーン, スピーカー, プロジェクター, ビデオ, LANコンセント, 空調・換気設備
視聴覚室 ^{※2}	80	40	2.0	特別講義棟 1F	空調・換気設備, LANコンセント, 大型ディスプレイ, パソコン, 教材提示装置
SCS講義室 ^{※3}	98	50	2.0	特別講義棟 2F	空調・換気設備, LANコンセント, SCS(衛星回線設備, 大画面プロジェクタ等)
専攻科講義室 A	74	40	1.9	第3研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
専攻科講義室 B	75	40	1.9	第3研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント

※1 マルチメディアを用いた授業を想定。主に語学教育に使用

※2 視聴覚教材を用いる授業を想定

※3 通信衛星回線を通じて、大学や高専との間で遠隔授業や講演会が行える

資料 8 - 1 - ① - 4

基礎科目系実験室の概要

名称	面積(m ²)	実験時人数	一人当面積(m ²)	場所	設備等
化学実験室	104	40	2.6	科学実験棟 1F	純水製造装置, 恒温真空乾燥炉, 電子天秤, 電気炉, ドラフトチャンバー
物理第1実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2F	施光計, 線膨張率測定装置, 光度計, 剛性率測定装置, ヤング率測定装置
物理第2実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2F	紫外分光光度計, GM計数管, ガンマ線スペクトル測定装置, 霧箱, 電気炉
基礎実験室	36	5	7.2	科学実験棟 2F	マルチ分光測光システム, UVレーザー装置, 蛍光画像解析装置, 高速ゲートCCD

資料 8-1-①-5

機械工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
流体実験室	134	14	9.6	第1研究棟 1F	二次元風洞装置, PIV解析システム, 熱線計測システム, 水路型水槽
機械材料 実験室	85	14	6.1	第1研究棟 1F	インストロン式万能試験機, 疲労試験機, 硬さ試験機, シャルピー衝撃試験
精密測定 実験室	64	14	4.6	第1研究棟 3F	レーザー干渉計, オートコリメータ, 表面粗さ計, 万能測長器, パソコン
MEシステム工学 専攻実験室	43	5	8.6	第1研究棟 3F	運動機構解析システム, 4足歩行ロボット装置, フレキシブルアーム実験装置, パソコン
自動制御 実験室	64	14	4.6	第1研究棟 3F	倒立振り子実験装置, 多関節ロボット実験装置, パソコン
自動化第1 実験室	64	9	7.1	第1研究棟 3F	FA実験装置, XYテーブル実験装置, エアハンド実験装置, パソコン
自動化第2 実験室	21	5	4.2	第1研究棟 3F	卓上旋盤, パソコン
機械要素 実験室	51	10	5.1	実験実習 センター1F	FZG歯車試験機, IAE歯車試験機, プラスチック歯車試験機, 歯形試験機
内燃機関 実験室	95	14	6.8	実験実習 センター1F	内燃機関性能試験装置, 熱研式断熱熱量計, 引火点試験器, レッドウッド粘度計
機械工作 実験室	72	14	5.1	実験実習 センター1F	振動実験装置3台, FFT分析器2台, 動釣り合い試験機, ひずみ計測装置

資料 8-1-①-6

電気電子工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
高電圧実験室	45	6	7.5	第1研究棟 1F	雷インパルス電圧発生装置, 雷インパルス用 基準クラス分圧器, カレントトランスセット
電力実験室	30	10	3.0	第1研究棟 1F	3相交流実験装置, ATP-EMTP電力輸送システムシミュレータ
コンピューター 工学実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	多機能汎用画像解析システム, デジタルアナライザ, ビデオプリンタ
電子工学 実験室	112	20	5.6	第1研究棟 4F	FFTアナライザ, インピーダンスアナライザ, ネットワークアナライザ, 回路シミュレータ
電子材料 実験室	128	20	6.4	第1研究棟 4F	近接昇華装置, 蒸着装置, 光CVD装置, ドラフトチャンバー, マルチチャンネル分光器
電子計測 実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	原子間力顕微鏡, 4K冷却超伝導実験装置, ダイシングソー, 超音波ワイヤーボンダー
ミリ波実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	マルチターゲット高周波スパッタ装置, シングルターゲット高周波スパッタ装置
サブミリ波 実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	電子ビーム露光装置, 金属顕微鏡, クリーンベンチ, ドラフトチャンバー
電子情報通信 実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	マイクロ波実験装置, 高感度パワーメータ, ネットワーク実習システム
電子応用 実験室	64	24	2.7	第1研究棟 4F	自動制御モデルプラント, パソコン, オシロスコープ, デジタルアナライザ, 発振器
MEシステム工学 専攻実験室	74	8	9.3	第3研究棟 2F	B-Hループトレーサー, ガウスメータ, 電気炉, ホットスターラー, デシケータ
電気機器 第1実験室	137	19	7.2	実験実習 センター1F	インバータ実験, コンバータ実験システム 誘導電動機特性測定装置, サーボアナライザ
電気機器 第2実験室	35	4	8.8	実験実習 センター1F	100kHz電力測定装置, 電子負荷装置 高精度デジタルオシロスコープ

資料 8 - 1 - ① - 7

電子制御工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
自動化実験室	90	10	9.0	第2研究棟1F	振動実験装置, 定盤, 実験台
計測実験室	68	10	6.8	第2研究棟1F	4脚移動ロボット, マニピュレータ
計算機実習室 (1)(2)	120	20	6.0	第2研究棟2F	計測機器, パソコン, 実験台
DJシステム工学 専攻実験室	68	8	8.5	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
電子工学 第1実験室	60	10	6.0	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
電子工学 第2実験室	68	10	6.8	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
クリーンルーム	30	4	7.5	第2研究棟3F	真空蒸着器, クライドスタッド, 分光器
電子制御 第1実験室	135	40	3.4	第2研究棟4F	計測機器, 電気実験装置, 実験台
電子制御 第2実験室	68	20	3.4	第2研究棟4F	計測機器, パソコン, 実験台
制御工学 実験室	60	10	6.0	第2研究棟4F	計測機器, パソコン, モーションキャプチャ装置
情報工学 実験室	75	15	5.0	第2研究棟4F	基板加工機, ネットワークアナライザ
DJシステム 工学実験室	57	5	11.4	第3研究棟2F	パソコン, プリンタ, ノートパソコン, スキャナ, 指紋センサ

資料 8 - 1 - ① - 8

情報工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
DJシステム工学 専攻実験室	68	16	4.3	第2研究棟 3F	パソコン, プリンタ, 机
計測システム 実験室	48	5	9.6	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, 信号メモリ装置, シンクロスコープ
DJシステム 工学実験室	57	5	11.4	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, ノートパソコン, スキャナ, 指紋センサ
回路システム 実験室	39	10	3.9	第3研究棟 3F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, FPGA開発環境
情報科学 実験室	54	10	5.4	第3研究棟 3F	パソコン, ノートパソコン, プリンタ
情報回路 実験室	97	50	1.9	第3研究棟 4F	パソコン, デジタルストレージオシロ, アナログオシロ, デジタルマルチメータ,
回路工作室	27	6	4.5	第3研究棟 4F	バンドソー, フライス盤, ボール盤, ハイトゲージ, 定盤
情報数理 実験室	39	11	3.5	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ
情報工学応用 実験室	36	10	3.6	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ, 熱電対実験環境
情報通信 実験室	51	11	4.6	第3研究棟 5F	パソコン, 組み立て分解用パソコン, ハブ, プリンタ, スキャナ
情報システム 実験室	46	11	4.2	第3研究棟 5F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, スキャナ, MIDI楽器
総合情報 実験室	51	12	4.3	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, 力覚提示ユニット, ステレオ カメラ付実体顕微鏡, 力計測センサアンプ
システム・ソフトウエア 実験室	39	10	3.9	第3研究棟 5F	パソコン, サーバ, スキャナ, プリンタ
情報基礎 実験室	54	11	4.9	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, プリンタ&スキャナ

資料 8-1-①-9

環境都市工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	主な設備等
水理実験室	149	40	3.7	第1研究棟 1F	実験開水路, 実験管水路, 電磁流速計, トータルステーション, 供試魚飼育用水槽
測量リモセン 実験室	45	20	2.3	第1研究棟 1F	トータルステーション, プラニメーター, 測距儀, 製図用具
環境工学 実験室(A)	45	20	2.3	第1研究棟 2F	環境試験装置, 光学顕微鏡2台, 炭化炉
環境工学 実験室(B)	15	5	3.0	第1研究棟 2F	研究用パソコン
光弾性実験室	21	5	4.2	第1研究棟 2F	光弾性実験装置, パソコン
衛生工学 分析室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ドラフトチャンバー, 高圧蒸気滅菌器, UV 計 インキュベーター, TOC計
精密実験室	21	5	4.2	第1研究棟 2F	クリーンベンチ, 極低温保冷庫
衛生工学装置 実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ガスクロマトグラフ計, マッフル炉, 乾熱滅菌 器
環境構造 実験室	45	10	4.5	第2研究棟 1F	200kN疲労試験機, 動ひずみ測定装置, データロガーシステム
CC工学専攻 実験室	56	10	5.6	第3研究棟 2F	数値解析用パソコン, ワークステーション レーザープリンター
土質実験室	91	40	2.3	実験実習 センター1F	正・逆断層変位試験装置, 土質試験装置, 画像計測装置, 地盤簡易支持力測定装置
構造実験室	93	10	9.3	実験実習 センター1F	500kN耐圧試験機, 各種加工工具, 油圧サーボ型疲労試験機,
材料実験室	170	40	4.3	実験実習 センター1F	2000kN耐圧試験機, 50Lパン型ミキサー, 100L二軸強制ミキサー, 中性化促進装置
恒温恒湿室	23	5	4.6	実験実習 センター1F	供試体棚, 乾燥炉, 恒温恒湿装置, 空圧型引張クリープ試験機,

資料 8-1-①-10

演習室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
CAD室	132	40	3.3	第1研究棟 2F	CADソフト登載パソコン, スクリーン, プリンタ, LANコンセント, 空調・換気設備
M科製図室	175	45	3.9	第1研究棟 3F	ドラフター, LANコンセント, 空調・換気設備
計算機演習室	122	45	2.7	第3研究棟 3F	パソコン, プリンタ, 映像配信装置, 書画カメラ, LANコンセント, 空調・換気設備

資料 8 - 1 - ① - 11

ゼミ室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
共通ゼミ室A	45	15	3.0	一般研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LAN
共通ゼミ室B	30	15	2.0	第2研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LAN
専攻科ゼミ室A	30	8	3.8	第1研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LAN
専攻科ゼミ室B	34	12	2.8	第2研究棟 3F	パソコン, プリンター, 書棚, 流し台
専攻科ゼミ室C	28	12	2.3	第3研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LAN

資料 8 - 1 - ① - 12

図書室の概要

広 さ	延べ床面積 1771m ² (図書館の国立学校建物基準面積は 1,600m ²)
快適さ	空調・換気設備完備。パソコンコーナー, ビデオ室を設置。
使いやすさ	開館時間は, 平日 9:00~20:00 土曜日 12:00~17:00。 (長期休業期間中は 平日 9:00~17:00。) オンライン蔵書検索システムが稼動している。 2001年度より一般開放している。
備 考	高専一長岡技術科学大学電子ジャーナルコンソーシアムが利用できる。

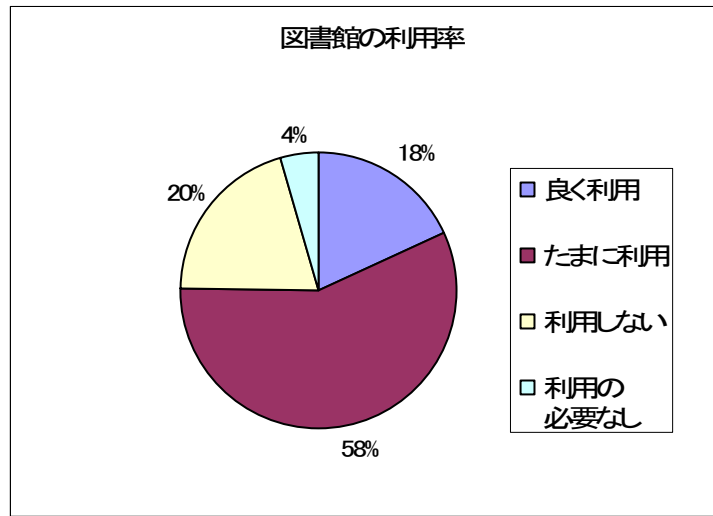
資料 8 - 1 - ① - 13

ネットワーク情報センターの概要

広 さ	延べ床面積 302m ² (演習室の広さは135m ² 。学生一人当たり2.3m ² 程度確保。)
快適さ	空調・換気設備完備。
使いやすさ	開館時間は, 平日 9:00~17:00。 授業や行事等を除けば, 学生は自由に使用することができる。 パソコン系の雑誌等完備。
設 備	学生用パソコン49台, 教員用パソコン2台。 パソコンには情報系の授業に対応できる各種アプリケーションが導入されている。
備 考	2005年4月センター内の演習室用パソコンを全て一新した。

資料 8 - 1 - ① - 14

図書館利用アンケート結果



(出典 本校認証評価の HP)

資料 8-1-①-15

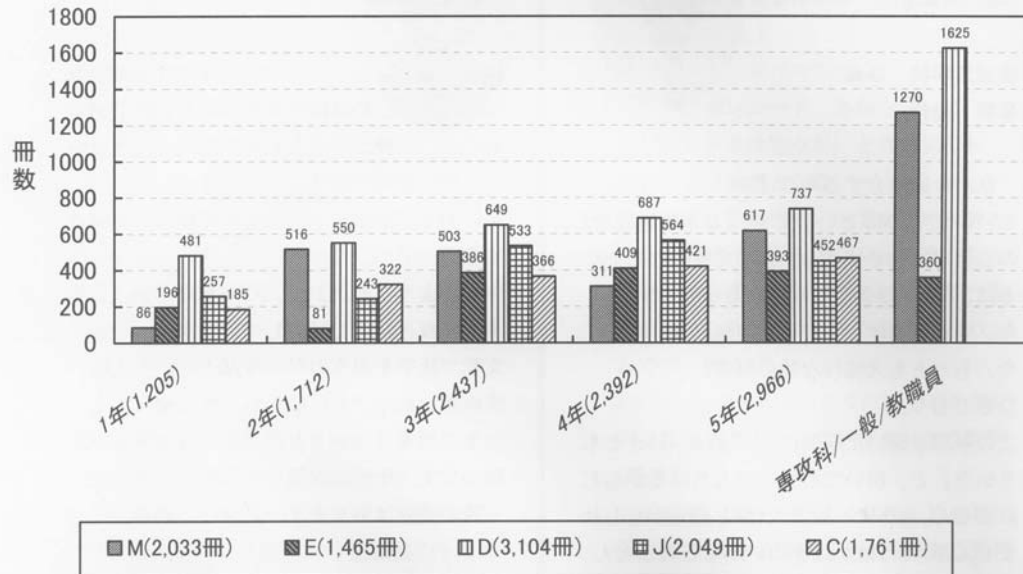
図書館蔵書の貸出数

平成17年12月

図書館だより

第27号

平成16年度 クラス別貸出冊数 総計13,667冊



平成16年度 貸出冊数番付 (学年は平成17年度)

横綱	大関	関脇	関脇	小結	小結	前頭	前頭	前頭	前頭
4D	5D	3C	2D	3D	3C	3M	5D	4M	2J
122冊	121冊	105冊	105冊	99冊	98冊	96冊	94冊	94冊	90冊

平成17年度 図書館運営部会および学生図書委員会

図書館運営部会

図書館長 田村 和士(基礎)

図書館運営部会委員

- 武長 玄次郎 (人文)
- 鈴木 道治 (基礎)
- 林田 和宏 (機械)
- 吉崎 静男 (電気電子)
- 坂元 周作 (電子制御)
- 米村 恵一 (情報)
- 高石 斌夫 (環境都市)

学生図書委員会

図書委員長 (4J)

クラス委員	機 械	電気電子	電子制御	情 報	環境都市
1年					
2年					
3年					
4年					
5年					

(出典 図書館だより第27号15頁)

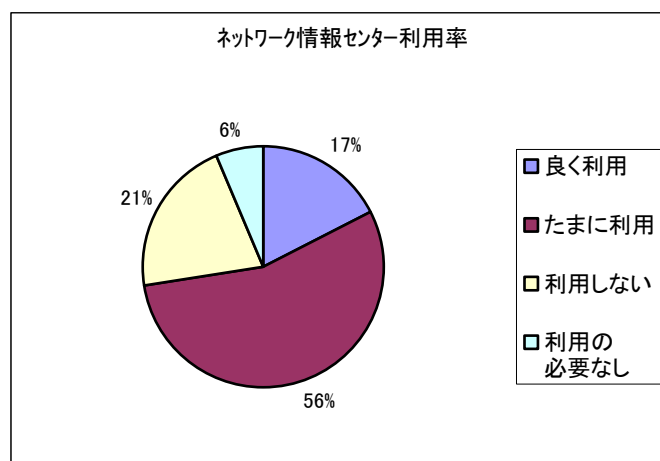
資料 8 - 1 - ① - 16

体育施設の概要

名 称	面積 (m ²)	利用条件	設 備 等
グラウンド	30,000	授業, 学校行事, 課外活動, 学友会 活動の優先順で 使用することがで きる。これ以外に ついては, 学生課 学生係に使用願 を出して使用でき る。	400mトラック(トラック内はサッカー・ラグビー場), 野球場, ホッケー場, 屋外便所, 体育器具庫
第1体育館	1,152		舞台設備, トレーニング設備, バスケットコート, 卓球台, シャワー
第2体育館	879		バレーボールコート, バスケットボールコート
武道場	311		柔道, 剣道, 空手場
テニスコート (4面)	2,300		テニスコート
プール	258		25m屋外プール, シャワー, 更衣室等

資料 8 - 1 - ① - 17

ネットワーク情報センター利用



(出典 本校認証評価の HP

<http://www.inc.kisarazu.ac.jp/~nfukuchi/ninshou/index.htm>)

資料 8 - 1 - ① - 18

オープンラボの概要

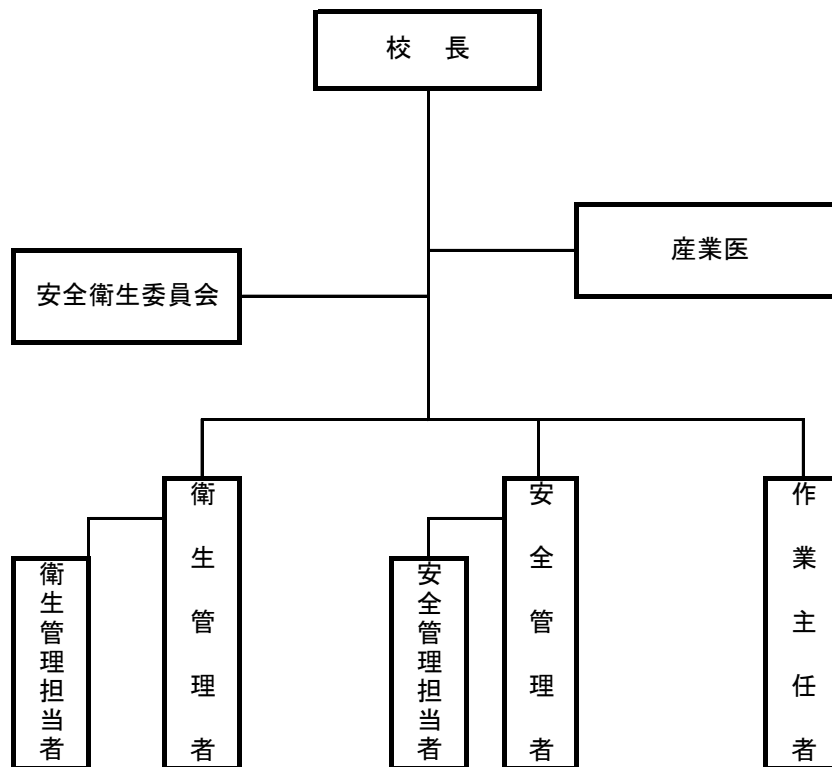
名称	面積	使用 人数	一人当	場 所	設 備 等
	(m ²)		面積(m ²)		
オープンラボA	64	10	6.4	一般研究棟 2F	パソコン, 実験台, LAN, 吊り下げ式コンセント
オープンラボB	64	15	4.3	第1研究棟 2F	パソコン, ドラフトチャンバー, 流し付実験台, デジタル実験装置, LAN
オープンラボC	45	6	7.5	第1研究棟 3F	パソコン, 分光器, 半導体レーザー, デシケータ, LAN
オープンラボD	68	11	6.2	第2研究棟 2F	パソコン, 磁気位置計測センサ, LAN ロボットアーム, 直流安定化電源
オープンラボE	68	20	3.4	第2研究棟 2F	パソコン, サーバ, 作業机, LAN

資料 8 - 1 - ① - 19

本校安全衛生管理体制

別表第 1

木更津工業高等専門学校安全衛生管理体制組織



(出典 2005 年度安全衛生委員会資料)

資料 8 - 1 - ① - 20

本校安全衛生委員

平成 17 年度木更津工業高等専門学校安全衛生委員会委員

①校長（代理） 事)	河上 恭雄	校長（高遠 節夫 学生主
②産業医	大日方惟忠	大日方医院長
③衛生管理者	篠村 朋樹	人文学系助教授
④安全管理者	三上 隆美	会計課長
⑤校長が指名した者		
機械工学科	石出 忠輝	教授
電気電子工学科	熊谷 勝彦	教授
電子制御工学科	橘川 五郎	教授
情報工学科	丸山真佐夫	助教授
環境都市工学科	高石 斌夫	助手
基礎学系	鎌田 勝	教授
庶務課	原 稔継	庶務課長
会計課	遠藤 賛	施設係員
技術教育支援センター	水野 文雄	技術専門職員

- ※ 委員会構成人数 13名
 校長（総括安全衛生管理者）
 使用者側で指名する者 6名
 過半数代表者の推薦を受けて指名する者 6名（太字ゴシックの者）

（出典 2005 年度安全衛生委員会資料）

安全衛生に係る調査や改善の検討

平成 17 年 12 月 22 日

安全衛生委員会

家具・機器類の転倒危険調査結果について

安全衛生委員会は、平成 17 年 6 月から 9 月にかけて、校内の家具・実験機器等の地震による転倒の危険性を調査した。本報告では、その調査結果と今後必要と考える対策について述べる。

(1) 転倒危険調査の結果

表 1 に校内全体の家具・実験機器等の転倒危険度についての調査結果を示す。なお本表における A～Z の分類は、調査記入者の判断に基づく。また表 2 に、寸法に基づく簡易的な転倒危険度判定式（東京消防庁家具類の転倒・落下防止対策推進委員会の「転倒防止器具の取付け方法や安全な家具の置き方に関する指導指針」による）による判定結果を示す。

今回の調査から、校内にある約 1400 の家具・機器類のうち、転倒防止の対策済み（または不要）であるもの（表 1 の A, Y）は 100 程度しかないことが明らかになった。

表 1：転倒危険調査結果

分類	状況	数
A	固定済み	50
B	固定済みだが物が落ちる危険あり	81
C	簡易な方法で固定可能	589
D	固定に技術が必要	574
Y	固定の必要がない	42
Z	その他	20
	(計)	1356

表 2：判定式による転倒危険度

転倒危険性の判定結果	数
転倒しやすい	918
転倒しにくい	252
不明（寸法の記入がないもの）	384

(2) 今後の対策

首都圏における震度 6 以上の規模の地震は、いずれ必ず発生する災害であるといわれる。そして現状では、地震発生時には本校の家具類の多くが転倒すると予想される。したがって、教職員・学生の安全確保のためには、転倒防止の対策は必須である。安全衛生委員会は、次の措置が必要であると考える。

- (a) 期限を決めて転倒防止の対策を進めること
- (b) 必要に応じてより本格的な転倒危険性に関する調査を行うこと
- (c) そのための予算措置が必要となること
- (d) 家具・機器類を新規に購入又は設置する際には、転倒防止に十分配慮すること

(出典 2005 年度安全衛生委員会資料)

資料 8 - 1 - ① - 22

木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則

平成 16 年 4 月 1 日
規 則 第 14 号

(目的)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員の安全衛生に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 この規則に定めのある場合のほか、本校における教職員の安全衛生については、労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号。以下「安衛法」という。）及びその他関係法令の定めるところによる。

(校長の責務)

第 2 条 校長は、法令及びこの規則の定めるところに従い、教職員の健康の保持増進及び安全の確保に必要な措置を講じなければならない。

(教職員の責務)

第 3 条 教職員は、校長その他の関係者が講ずる健康の保持増進及び安全の確保のための措置に従わなければならない。

(安全衛生管理体制)

第 4 条 校長は、本校における安全衛生管理の業務を統括管理する。

2 本校における安全衛生管理体制は、別表第 1 のとおりとする。

(衛生管理者)

第 5 条 校長は、安衛法第 12 条及び機構安全管理規則第 5 条の定めるところにより、衛生管理者を置く。

2 衛生管理者は、法令に定める必要な資格を有する教職員のうちから校長が選任する。

3 衛生管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

(1) 労働者の健康障害を防止するための措置に関すること。

(2) 労働者の衛生のための教育に関すること。

(3) 健康診断の実施その他健康の保持増進のための措置に関すること。

(4) 労働災害の原因の調査及び再発防止対策に関すること。

(5) 労働災害を防止するため必要な業務で労働安全衛生規則（昭和 47 年労働省令第 32 号。以下「安衛則」という。）で定めるもの。

.....以下省略

(出典 木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則)

実験実習安全必携

安全必携目次

第Ⅰ部 共通

第1章 安全一般心得	1
第2章 学生実験の心得	2
第3章 救護と衛生	3
第1節 救急処置一般	3
第2節 創傷	7
第3節 熱傷	7
第4節 ガス中毒	9
第5節 感電	10
第6節 その他参考事項	10
6-1 熱中症	10
6-2 鼻血	12
6-3 目の外傷	12
6-4 過換気（呼吸）症候群	13
6-5 凍傷	14
第4章 火災時の対応	15
第5章 地震時の対応	16
第6章 爆発時の対応	16
第7章 薬品漏洩時の対応	17

第Ⅱ部 作業別安全心得

第1章 電気取扱い	18
第2章 運搬作業	19
第3章 高所作業	19
第4章 回転体取扱い作業	20
第5章 高熱作業	21
第6章 一般化学実験	22
第7章 危険物取扱い作業	22
第8章 有害物質の取扱い	23
第9章 バイオハザードの防止	24
第10章 廃棄物・廃水処理心得	24
第11章 高圧ガス取扱い作業	25
第12章 高圧電気取扱い作業	26
第13章 X線取扱い作業	27
第14章 レーザー取扱い作業	27
第15章 グライNDER作業	27
第16章 溶接・ガス切断作業	28
第17章 容器・ピット内作業	29

(出典 実験実習安全必携目次)

(分析結果とその根拠理由)

総合教育棟をはじめ多数の実験室、演習室等が学習のために整備され、活用されているとともに、安全衛生に関しても十分な配慮がなされている。

基準 8-1-②：教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

教育内容・方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握や情報セキュリティの構築などに関しては、ネットワーク情報センター運営部会により現状の把握と今後の改善がなされている(資料 8-1-②-1~2)。ネットワーク情報センターには専門職員が配置され(資料 8-1-②-3)、セキュリティポリシーにのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している(資料 8-1-②-4)。

本校のシステムは Gigabit・Ethernet による情報の高速伝送が可能であり、キャンパスネットワークを管理するために 10 台のワークステーションを設置し、電子メール、ホームページサイト、インターネット等の機能を分担している。教員の研究及び学生実験実習、事務業務のための利用の他、Gigabit・Ethernet・Switch 及びバックボーンを利用したデータ伝送の利用研究、学内情報の共有化の研究、インターネットの利用による国内外情報の収集・交換の研究等にも利用可能である。また本システムは高速でマルチメディアに対応し、システムの信頼性・拡張性に優れた校内 LAN システムである(資料 8-1-②-5)。システムの詳細はネットワーク情報センターホームページに掲載されている(資料 8-1-②-6)。

学生には年度初めにネットワーク情報センター利用の手引(資料 8-1-②-7)及びセキュリティポリシーに基づいて作成したネチケット(情報倫理)(資料 8-1-②-8)を配付し、センターの利用方法やネットワークのモラルについての講習を行っている。学生にも多く利用されている(資料 8-1-①-17)。

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会規程

平成 13 年 4 月 1 日
規 則 第 14 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校総合情報メディア委員会規則（平成13年4月1日規則第8号）第6条第1項第2号の規定に基づき、ネットワーク情報センター運営部会（以下「運営部会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 運営部会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) ネットワーク情報センター等の管理及び運営に関すること。
- (2) その他ネットワーク情報センターに関すること。

(組織)

第 3 条 運営部会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 学科・学系から選出された教員若干名
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 運営部会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第3号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(部会長)

第 4 条 運営部会に部会長を置き、センター長をもって充てる。

2 部会長は、運営部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 運営部会が必要と認めた場合は、委員以外の者を運営部会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 運営部会に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるものの外、運営部会に関し必要な事項は、運営部会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年7月1日から施行する。

(出典 木更津高専規定集 2201 頁)

資料 8-1-②-2

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録の例

ネットワーク情報センター運営部会議事要旨

- 日 時 平成18年2月14日(火) 15:15~15:50
場 所 ネットワークセンター演習室
出席者 小林センター長、岩崎副センター長、臼井副センター長、石出、斉藤、五島の各委員、
欠席者 福地、浅野、石川
- 議 事
- (1) 本年度の活動
小林センター長から平成17年度に行った演習室の機器更新、第25回高等専門学校情報処理教育研究発表会参加及び定期保守等の活動について報告があった。
 - (2) その他の報告
空調機更新及びブレーカーの断等について報告があった。
 - (3) 来年度予算について
特別教室の机、椅子を入学式前までに更新したい希望の説明があり審議の結果了承された。
 - (4) その他
spam 対策について一部の教官から逆引きの要望があったことが報告された。また、事務局よりメールサーバが古くなり更新することの報告があり、その際各学科への周知徹底をお願いしたいとの要望あった。

(出典 2005年度木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録抜粋)

資料 8-1-②-3

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター機器室利用基準

平成5年4月1日

細 則 第 3 号

(趣旨)

- 1 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程第5条に基づき、木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター(以下「センター」という。)の機器室の利用に関し必要な事項を定める。

(利用者の資格)

- 2 機器室を利用することができる者は、次の各号に該当するものとする。
 - (1) センター委員及びセンター職員
 - (2) その他、センター長が認めた者

附 則

この基準は、平成5年4月1日から施行する。

(出典 木更津高専規定集 2206 頁)

資料 8-1-②-4

木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

部外秘

木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

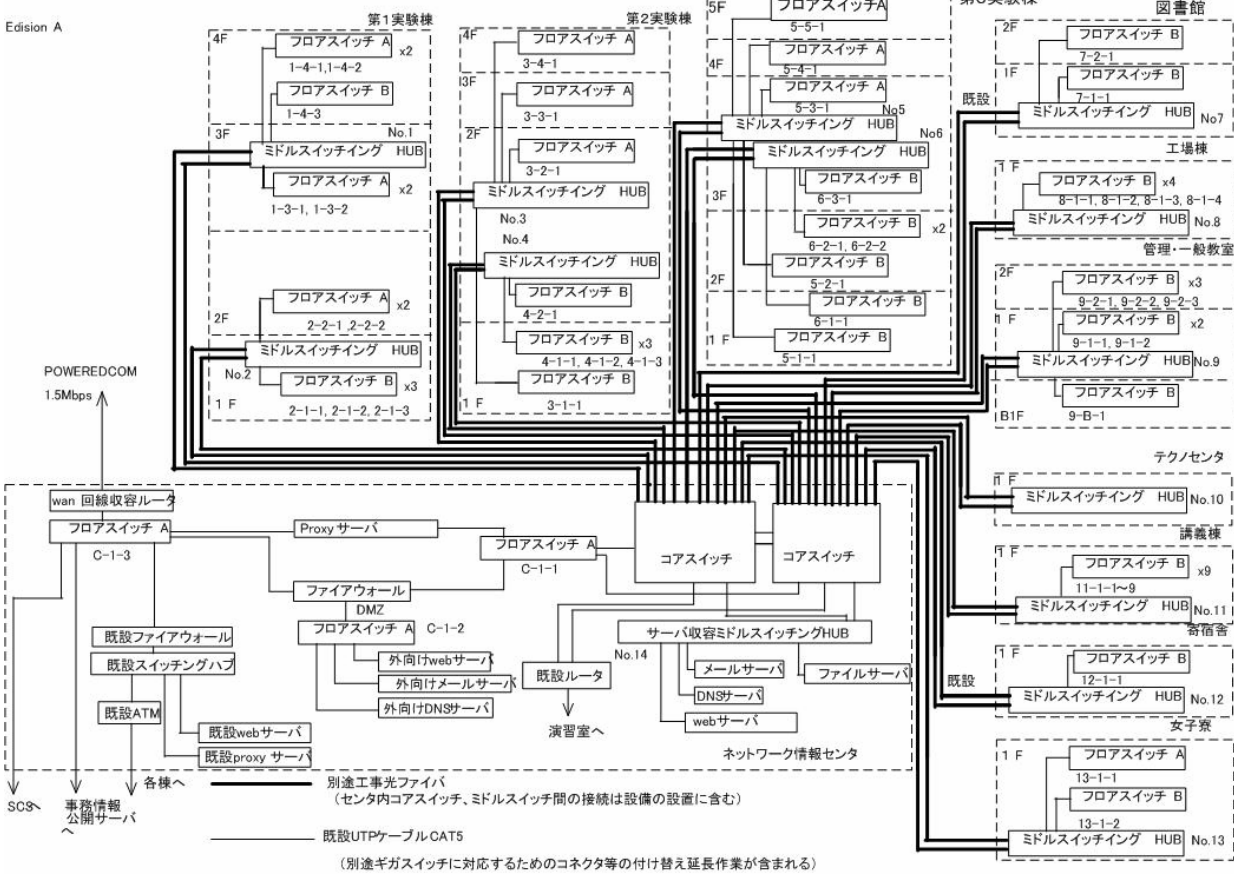
平成 15 年 4 月 1 日

総合情報メディア委員会

(出典 木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー 部外秘のため表紙のみ掲載)

本校高速キャンパス情報ネットワークシステムの物理構成

木更津工業高等専門学校高速キャンパス情報ネットワークシステム(物理構成)



(出典 ネットワーク情報センターホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/~inc/>)

ネットワーク情報センターホームページ

Information Network Center

はじめに

本校では、平成 2 年に校内 LAN(10BASE-5)が完成し、教育用電算機(MV10000)を中心に教育・研究に利用してきた。さらに、外部の JUNET, TRAIN にも参加し、電子メール等のサービスもおこなってきた。平成 7 年からは当時の最新システムである ATM ネットワークを構築し、運用を行ってきた。平成 13 年からは TT-NET (現 Powered Com) を利用し、1.5Mbit/s でインターネットとの接続を開始した。しかし、ここ数年の間に外部ネットワークの情勢も大きく変化し、また、学内の設備も旧式になりつつあった。ルータ、サーバなどを細々とリニューアルしてきたが、ATM 機器の故障も目立ち始めシステム全体の改修が必要となった。「校内 LAN 整備」をお願いしていたところ、予算を得ることが出来た。早速調査と仕様作りを始め、マルチメディアに耐えられる高速性、セキュリティの強固でありながら、利便性に富んだシステムであることに重点を置いた仕様になった。かくして平成 14 年 4 月から Cisco 社製 Gigabit Ethernet の技術を導入した基幹ネットワークが完成した。

ネットワークの設計ポリシー（仕様書から抜粋）

近年、画像配信、ネットワーク電話など、大容量かつ高速なデータ伝送を必要とするサービスが一般化しつつある。本校でもマルチメディアに対応したシステムの必要性が叫ばれているが、これを現実のものとするには、各実験棟、一般・管理棟、実習工場、図書館、寮間を 1Gbps 以上の伝送速度を持つ基幹と各研究室、教官室、教室、事務室等を 100Mbps で結ぶ支線とが必要である。このためのネットワーク設備として、現在 1Gbps で伝送する高速大容量のギガビットイーサが各方面で提案され注目を集めているが、本校においてもこの導入が基本であり、本システム概要の全てである。セキュリティの面では、現在のプロキシーに全面的に頼ったファイアウォールではなく、ファイアウォール専門のシステムを導入し、外部からの進入に強く、外部への接続がしやすいシステムにする必要がある。そこで、各棟の既存の LAN システムを有効に活用しつつ、各棟間のネットワークを高速かつ大容量とし、最新の高度なセキュリティと、インターネットと LAN 間のスムーズな接続を可能とするシステムを構築し、学内外の情報を最大限に活用することを目的とした将来を見据えた拡張性に富んだネットワークを構築する。

木更津工業高等専門学校高速キャンパス情報ネットワークシステム

システムの概要

最近の LAN システムの発展には目を見張るものがあり、Ethernet・FDDI・ATM と高速かつ大容量である LAN システムが日に日に進歩してきた。現在は、Gigabit Ethernet が主流となりつつある。また、LAN を流れる情報についても、データ・音声・画像と多種多様になってきている。平成 13 年度まで、基幹ネットワークが 155Mbit/s の ATM、末端は 10Mbit/s の 10Base-T であった。現在、本校では動画システムを用いた研究も行われており、ATM を基本とした技術では、所望の特性を満たすことは難しくなってきた。そこで、各棟の既存の LAN システムを有効に活用しつつ、各棟間のネットワークを高速かつ大容量とし、インターネットとの LAN 間接続を行い、学内外の情報を最大限に活用することを目的とし、将来を見据えた拡張性に富んだシステムを構築した。

システムの利用目的およびその形態

システムの利用は卒業研究を含む教官研究および 学生実験実習などの各学科・学系内利用、事務業務の利用のほか、下記の研究テーマで学内外での共同研究にも活用可能である。

1. Gigabit Ethernet Switch およびバックボーンを利用したデータ伝送の利用研究
2. 学内情報の共有化の研究
3. インターネットの利用による国内外情報の収集・交換の研究
4. 教官・学生間のコミュニケーション活性化の研究

システムの主な機能および特質

高速でマルチメディアに対応し、システムの信頼性・拡張性に優れた校内 LAN システムである。このシステムの構成を [図 1](#) 示す。幹線系として、ネットワーク情報センタに Gigabit Ethernet コアスイッチを設置し、スター型ネットワークにより、集中管理を行う。コアスイッチから各棟のスイッチングハブ間は、光ファイバーケーブルを敷設し、1 Gbps の高速通信を行う。また、システムの二重化を行い、スイッチの停止、ケーブルの切断などに対処しつつ、負荷分散を行っている。支線系として、スイッチングハブの各ポートは VLAN の設定を行い、各棟に散在しているグループを LAN 上は 1 つにまとめることができ、そのグループは現在 20 グループほどになっている。学外との接続については Powered Com を経由してインターネットに接続する。本システムは次の機器で構成され、次のような機能を有する。

資料 8-1-②-6 (2/2)

1. ネットワーク機器

本システムの中核をなす ATM 交換機および光ファイバーケーブル、マルチプロトコル・ルーティング・スイッチングハブ等から構成され学内外の大容量かつ高速な情報交換を実現する。

コアスイッチ	Cisco Catalyst 6500series	2 台
ミドルスイッチングハブ	Cisco Catalyst 3500XL Series	14 台
フロアスイッチ	Cisco Catalyst 2900XL Series	54 台
ルータ	Cisco 3620	1 台

2. ネットワーク周辺機器

LAN に分散配置され、インターネット関連のサーバおよび情報端末から構成される。

各サービス用サーバ	Compaq Proliant ML350	9 台
ファイルサーバ	Compaq Tasksmart N2400	1 台

教育用電算機

平成 17 年 4 月より、演習室電算機 50 台に加え、特別教室（旧 LL 教室）49 台も新システムに更新された。ネットワーク情報センターは、完全にセンター内演習室及び特別教室の 2 演習室体制となった。新たに Microsoft アクティブディレクトリ環境を用いたシステムが導入され、UNIX 環境のため、LDAP 及び Kerberos 認証を導入し、センター関係のシステムの認証方法の統一化を図っている。今回導入されたシステムは、Dell 社製コンピュータを導入し、クライアント機器は高速な CPU と大容量のメモリを備え、Microsoft WindowsXP を基本的な OS として動作している。サーバ類は、2way RAID システムを基本として、高速化・安定化を図っている。

サーバ及び管理用クライアント機器

Dell 社	PowerEdge 1750	4 台
	PowerEdge 775N	1 台
	PowerVault 775N	1 台
	PowerVault 220S	1 台
	OptiPlex GX 270	6 台

センター内演習室

センター内演習室は、各学科の専門教育用システムとして利用しており、コンピュータ言語教育に重点を置いて設定されている。

クライアント機器		
Dell 社	OptiPlex GX 270	50 台

特別教室

特別教室は、英語科の授業を中心に、主に一般教育で利用されている。

クライアント機器		
Dell 社	OptiPlex GX 270	49 台

(出典 ネットワーク情報センターホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/~inc/>)

ネットワーク情報センター利用の手引

木更津工業高等専門学校

ネットワーク情報センター

利用の手引き

平成17年4月

ネットワーク情報センター

1. システムの特徴

- 1) 演習室のクライアント PC 上で Windows 環境の利用が可能である。
- 2) Windows サーバーには Windows 2003 Server を採用し、Windows 環境でファイルの共有ができる。(Windows ファイルサーバー file にある各ホームディレクトリを Windows 上で「マイ ドキュメント」フォルダ (H ドライブ) としてマウントしてある。
- 3) クライアント PC の OS には Windows XP Pro を採用し、ユーザーがログオンする毎に常に同じ環境が利用できると同時に、メーカーの設定ファイルや Web ブラウザのブックマーク等は file の各ユーザーのホームディレクトリに保存できる。
- 4) Windows サーバーでパスワード管理を行うことで、同一パスワードで各クライアント PC にログオンや各サービス (メール等)、特別教室のパソコンを利用できる。
- 5) クライアント PC の電源管理をリモート操作で自動的に行うようにした。原則として平日 8:30 に電源が入り 17:00 に電源が切れる。また午後授業予鈴時(13:05)にリブートされる。また、システム保護のため、手動での電源操作は厳禁とする。
- 6) プロジェクタを用いて①教師用 PC 画面(DATA1)、②書画カメラ(VIDEO1)、③VTR (VIDEO2)の画像データをスクリーン上に投影できる。
- 7) ネットワークプリンタで Windows 環境から印字が可能。プリント用紙は各自で用意する。
- 8) 既存のネットワークとはルータを介して接続し学内 LAN の通信負荷を軽減するとともに、演習室内は 100Mbps のデータ通信が可能である。

2. クライアント PC の利用方法

1) ログオン

通常ログオン手続き

Ctrl+Alt+Del を押してログオン画面を出し、ユーザー名とパスワードを入力。

ログオン先は INC。

(初めてログオンしたときにはパスワードの変更を要求される)

(出典 ネットワーク情報センター利用の手引)

ネチケツト（情報倫理）

ネチケツト（情報倫理）

ネットワーク情報センター
小林 暁

ネットワークモラルって？

- ネットワークを使う上での常識、ルール
- 人と話をするときも話し方がある
- 電話をするときもかけ方がある
- 手紙を書くときも書き方がある

インターネットの一般ルール

- リスク、社会的責任、法的責任がある
- 最悪の場合、逮捕もあり得る
- 相手の立場に配慮しよう
- 相手は自分でない。小さな誤解がけんかのもと

情報システムポリシー（ルール）

- 校内情報システムは、学校のきわめて重要な保有財産
- 学生は学校の定める規則を遵守
- コンピュータ資源の保護

情報を発信・公開する際の注意

- 内容が公序良俗に反しないこと
- 他者の権利を侵害しない
- 学校の信用・品位を傷つけない

実際はどういうこと？

- 性的な画像や文章
- 差別的なもの
- 虚偽のもの
- 他者の名誉・信用を傷つけるおそれのあるもの
- 他者のプライバシーを侵害するおそれのあるもの
- 学校の信用・品位を傷つけるおそれのあるもの

（出典 ネットケツト（情報倫理））

(分析結果とその根拠理由)

ネットワーク情報センターが適切に整備され、全学生及び職員が学内の多数の端末機からいつでも利用できる。ネットワーク情報センター運営部会により、現状の把握と今後の改善が随時なされている。センターには専門の職員が配置され、セキュリティポリシーにのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している。以上、情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

基準 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚室資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館では、蔵書が各々分野別に整理され利用しやすい配置となっている。シラバス関連の資料のコーナー、閲覧コーナー、新聞コーナー、書庫、ビデオ室、ゼミ室、語学自習室、パソコンコーナーなどがある(資料 8-2-①-1)。ビデオ室にはテレビデオ 5 台、DVD プレーヤー、LD プレーヤー、オーディオを設置している。学生、教職員はもとより 2001 年度より学外者にも開放している。

蔵書及び視聴覚資料も十分に取揃えている(資料 8-2-①-2)。図書館の端末のみならず学内の端末から蔵書の検索ができる。

図書購入の希望は、図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査して決定している他、リクエスト箱を用意して学生の要望も汲み上げている(資料 8-2-①-3)。新着図書のご案内は図書館に張り出されるだけでなくホームページでも閲覧可能である(資料 8-2-①-4)。

利用できる電子ジャーナルとしては ACS, AIP, APS, Science Direct, MathsSciNet, JDream 等があり、学内の端末から利用できる他、文献複写依頼・蔵書コピー等のサービスも充実している。

図書館の利用促進のため、平日は 20:00 まで夜間も開館し、土曜日 12:00~17:00 まで開館している(長期休業期間中の平日は 09:00~17:00)。

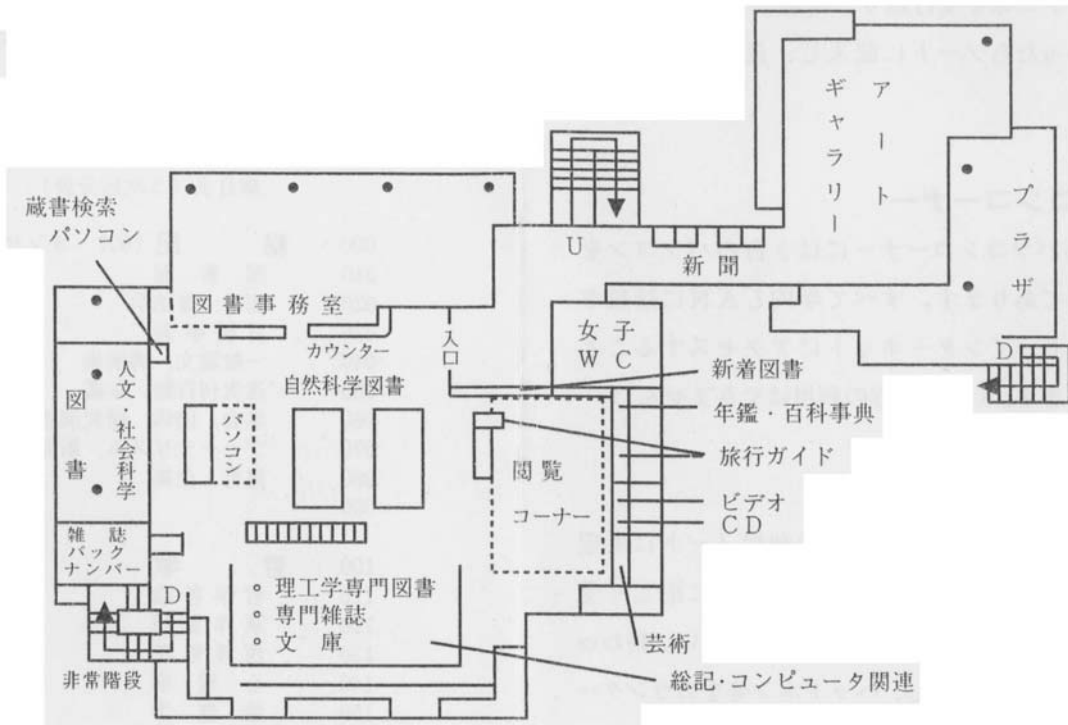
年に 1 回校内読書感想文・作文コンクールを行い、学生の読書の動機付けと啓発を行っている(資料 8-2-①-5)。

図書館の利用方法、注意事項等は図書館利用のしおりに詳しく記載されており、図書館カウンターで常時配付されている(資料 8-2-①-6)。

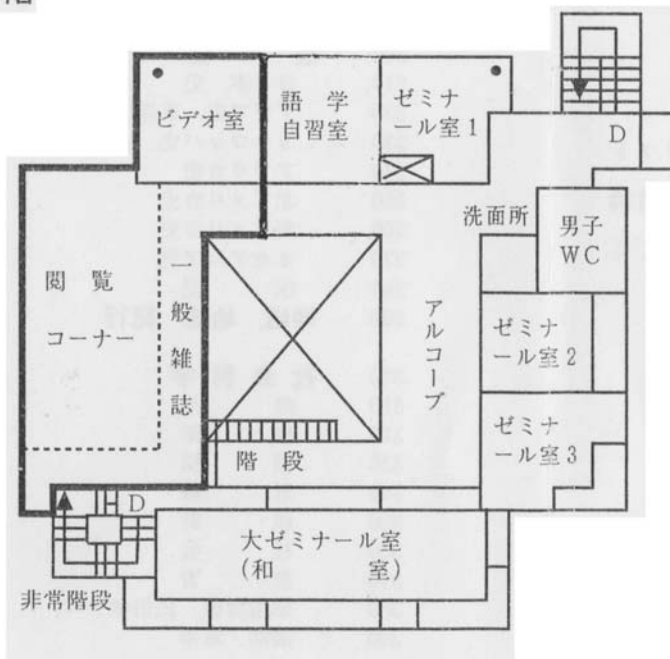
資料 8-2-①-1

図書館見取図

2階



3階



(出典 図書館利用のしおり)

資料 8 - 2 - ① - 2

図書館資料数の概要

蔵書数

分類・区分	和書	洋書	合計
総記	5,962	571	6,533
哲学	3,268	411	3,679
歴史	4,450	568	5,018
社会科学	4,540	567	5,107
自然科学	10,306	1,813	12,119
工学	17,033	1,046	18,079
産業	488	60	548
芸術	2,877	313	3,190
語学	3,728	1,167	4,895
文学	11,704	995	12,699
合計	64,356	7,511	71,867

受入れ雑誌数

和雑誌	洋雑誌	合計
268	9	277

視聴覚資料

ビデオテープ	308
CD	235
レーザーディスク	23
カセットテープ	291
レコード(LP)	81
CD-ROM	68
DVD	2

(出典 図書館ホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

資料 8 - 2 - ① - 3

図書館リクエスト箱



新着図書のご案内

http://www.kisarazu.ac.jp/lib/new20051020063.html - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り

アドレス(A) http://www.kisarazu.ac.jp/lib/new20051020063.html

Google Search 343 blocked Check AutoLink Options

Y! カスタマイズ 検索 ログイン アカカへ行こう! オークション My Yahoo! ファイナス Yahoo!メール ニュース 翻訳 スポーツ

新 着 図 書 2005. 10 ~ 2006. 3

	書 名 等	著 者 名
007.6	1週間で分かる基本情報技術者集中ゼミ 午前、午後編	福嶋 宏訓
913.6	センセイの聴	川上 弘美
913.6	魂萌え	桐野 夏生
913.6	震度0t ^o b	横山 秀夫
913.6	川の深さは	福井 晴敏
913.6	涼宮ハルヒの陰謀	谷川 流
913.6	暗いところで待ち合わせ	乙一
915.6	涙そうそう	TBS涙そうそうア ^o ラジエト
913.6	その時は彼によろしく	市川 拓司
913.6	トゥインクル☆スターシップ ^o	庄司 卓
494.5	明るいがん治療	植松 稔
"	がんの放射線治療	西尾 正道
019	「本を読む子」は必ず伸びる!	樋口 裕一
913.6	県庁の星	桂 望実
317	大学ランキング 2006年版	朝日新聞社
429.6	マンガでわかる「超ひも理論」	白石 拓
915.6	あなたの 涙そうそう	TBS「あなたの涙…」ア ^o ラジエト
410	直観でわかる数学	畑村 洋太郎
"	続 直観でわかる数学	"
412.2	フェルマーの大定理の短証明	山田 正治

ページが表示されました

スタート http://www.kisarazu... 認証評価基準8 認証評価基準8 - Micro... インターネット 1652

(出典 図書館ホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

読書感想文・作文コンクール

図書館だより

第 28 号

平成 18 年 2 月 8 日
木更津工業高等専門学校
図書館 (図書館運営部会)




第19回 読書感想文・作文コンクール入賞作品 特集号


目		次
● 読書感想文・作文・小説 部門		
優良作：電気電子工学科	2年	「心に夢のタマゴを持とう」 …… 1
電子制御工学科	1年	「ガン回廊の朝」を読んで …… 2
環境都市工学科	1年	いちずに一本道いちずに一ツ事 …… 3
入選作：情報工学科	1年	「分数ができない大学生」 を読んで… 4
情報工学科	1年	私の「生きる意味」 …… 5
● 短詩 部門		
優良作：電気電子工学科	3年	けいたいでんわ …… 6
環境都市工学科	3年	アイロン …… 6
入選作：機械工学科	1年	実のなる木 …… 7
● 俳句・川柳・短歌 部門		
入選作：環境都市工学科	3年	…… 7
● 編集後記		…… 7

(出典 図書館だより第 28 号)

図書館利用のしおり

図書館利用のしおり





開館時間
 平日 9:00~20:00
 土曜日 12:00~17:00
休館日
 (日曜日・国民の祝日及び振替休日・年末年始・蔵書整理点検日等)
 ※臨時に閉館及び閉館時間の変更を行う事があります

〒292-0041
 千葉県木更津市清見台東 2-11-1
木更津工業高等専門学校
 ☎0438-30-4009
<http://www.kisarazu.ac.jp/>

【図書の検索】

1. 図書の分類
 図書館では、日本十進分類法 (NDC) を用いて図書进行分类し、分類番号順に配架してあります。この分類法をよく知っていると必要な図書を書架からより早く探し出せます。

図書分類法

網目表 (2 次区分表)

<p>総記 (007 コンピュータ)</p> <p>000 図書</p> <p>010 百科事典</p> <p>030 一般論文、講演集</p> <p>040 逐次刊行物、年報</p> <p>050 学会、団体、研究調査機関</p> <p>060 ジーナリズム、新聞</p> <p>080 叢書、全集</p> <p>090</p>	<p>430 化学</p> <p>440 天文学、宇宙科学</p> <p>450 地球科学、地学、地質学</p> <p>460 生物科学、一般生物学</p> <p>470 植物学</p> <p>480 動物学</p> <p>490 医学、薬学</p> <p>500 技術、工学、工業</p> <p>510 建設工学、土木工学</p> <p>520 建築学</p> <p>530 機械工学、原子力工学</p> <p>540 電気工学、電子工学</p> <p>550 海洋工学、船舶工学</p> <p>560 金属工学、鉱山工学</p> <p>570 化学工業</p> <p>580 製造工業</p> <p>590 家政学、生活科学</p> <p>600 産業</p> <p>610 農業</p> <p>620 園芸、造園業</p> <p>630 鉱業、造園業</p> <p>640 畜産業、獣医学</p> <p>650 林業</p> <p>660 水産業</p> <p>670 商業</p> <p>680 運輸、交通</p> <p>690 通信事業</p> <p>700 芸術</p> <p>710 彫刻</p> <p>720 絵画、書道</p> <p>730 版</p> <p>740 写真、印刷</p> <p>750 工芸</p> <p>760 音楽、舞踊</p> <p>770 演劇、映画</p> <p>780 スポーツ、体育</p> <p>790 建築、装束</p> <p>800 言語</p> <p>810 日本語</p> <p>820 中国語、東洋の諸言語</p> <p>830 英語</p> <p>840 トイツ語</p> <p>850 フランス語</p> <p>860 スペイン語</p> <p>870 イタリア語</p> <p>880 ロシア語</p> <p>890 その他の諸言語</p> <p>900 文学</p> <p>910 日本文学</p> <p>920 中国文学、東洋文学</p> <p>930 英米文学</p> <p>940 ドイツ文学</p> <p>950 フランス文学</p> <p>960 スペイン文学</p> <p>970 イタリア文学</p> <p>980 ロシア文学</p> <p>990 その他の諸文学</p>
--	---

哲学

100 哲学各論

110 思想

120 東洋思想

130 西洋思想

140 心理学

150 倫理

160 宗教

170 神学

180 仏教

190 キリスト教

歴史

200 日本史

210 アジア史、東洋史

220 ヨーロッパ史、西洋史

230 アフリカ史

240 北アメリカ史

250 南アメリカ史

260 オセアニア史

270 伝記

280 地理、地誌、紀行

290

社会科学

300 政治

310 法律

320 経済

330 財政

340 統計

350 社会

360 教育

370 風俗習慣、民俗学

380 国防、軍事

390

自然科学

400 数学

410 物理学

420

○ビデオ以外の利用 (テレビ・CD)

カウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を受け取り、利用してください。終わったらノートに記入し、返却してください。

◎パソコンコーナー

2階パソコンコーナーには5台のパソコンを配置してあります。すべて学内LANに接続されており、インターネットにアクセスすることもできます。(一般の方の利用はできません。)

「利用方法」

利用希望者はカウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を用意に応じて受け取ったうえ、自由に利用してください。終わったらノートに記入し、ヘッドホン等をカウンターに返却してください。

・パソコンソフトの貸出はしていません。(各自持参してください)

◎図書購入希望

図書館で購入してほしい図書、ビデオソフト等がありましたら、カウンターにある「図書購入希望届」に記入し、カウンターに提出してください。

(出典 図書館利用のしおり)

(分析結果とその根拠理由)

図書、学術雑誌、視聴覚資料、パソコン、視聴覚機器が十分整備されている（受入雑誌 277 種、蔵書数 70000 冊以上）。年間 1 万冊以上の図書が貸し出され、多くの学生に利用されている。リクエスト箱の配置により、図書購入時に学生の要望も反映され、新着図書の周知も十分である。読書感想文・作文コンクールを毎年開催し、表彰制度を設けるなど、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。以上、図書、学術雑誌、視聴覚資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

総合教育棟をはじめ多数の実験室、演習室等が学習のために整備、活用されているとともに、安全衛生に関しても十分な配慮がなされている。ネットワーク情報センターが適切に整備されている。図書、学術雑誌、視聴覚資料、パソコン、視聴覚機器が十分整備され、多くの学生に利用されている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の学習教育目標を実現するために、総合教育棟をはじめ各研究棟等が適切に整備されている。各専門学科では実験室が多数整備され、実習教育のための実習工場が設置されるなど、充実した設備が全学校的な安全管理の下で有効に活用されている。

本校のネットワークの管理運営及び情報教育の中核としてネットワーク情報センターが設置されている。ネットワーク情報センターには専門職員が配置され、ネットワークの管理、コンピュータウィルス情報の周知、ファイアウォールの管理、メールサーバーの保守等とともに、情報処理の学習やプログラミング教育に有効に活用されている。ネットワーク情報センター運営部会により、情報教育の内容、教育方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握、情報セキュリティの構築に関しての現状の把握と今後の改善等がなされている。学生に対するネットワーク・モラルの教育についても十分な配慮がなされている。

図書館は十分な面積を誇り、更に図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育上必要な資料等が十分整備され、学生や教職員に有効に活用されている。蔵書の検索は図書館の端末のみならず学内の端末からもできるようになっている。また読書感想文・作文コンクールを毎年開催し、学生の表彰制度を設けており、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。図書購入の希望は図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査して決定している他、リクエスト箱を用意し学生の要望も汲み上げている。新着図書の案内は図書館に張り出されるだけでなくホームページでも閲覧可能である。利用できる電子ジャーナルも豊富で、文献の複写依頼、蔵書コピー等のサービスも充実し、学生のみならず教職員の知識向上にも大いに役立っている。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

現在までの学籍・単位認定・成績考査に関する資料等については、学生課で管理・保存されている(資料9-1-①-1)。

本校では、教育の質の向上及び改善を授業方法の改善と教員の質の向上として捉え、それに必要な資料としてFD推進委員会(資料9-1-①-2)の依頼により各教員が授業実施記録の保存を資料室において行い、自己評価形式で授業改善に取り組んでいる(資料9-1-①-3)。また、授業実施記録による自己点検評価・授業改善のまとめとして「木更津高専における教育改善-授業科目の見直し-」(資料9-1-①-4)がある。

これらの資料保存と自己点検・評価は、教務委員会(資料9-1-①-5)、専攻科委員会(資料9-1-①-6)、JABEE認定・認証評価推進委員会(資料9-1-①-7)の各委員会が連携しつつ行われる。なお、学校全体の教育システムの自己点検・評価は自己点検等委員会(資料9-1-①-8)、中期計画の点検・評価は中期計画推進委員会(資料9-1-①-9)が行う。

資料9-1-①-1

学業成績等の文書保存期間基準(抜粋)

保存期間	行政文書の類型
30年	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍に関するもの ・単位認定に関するもの ・学生の表彰及び懲戒に関するもの ・その他30年保存を必要と認めるもの
10年	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜及び成績考査に関するもの ・その他10年保存を必要と認めるもの
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の生活調査及び統計に関するもの ・その他5年保存を必要と認めるもの
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰に関するもののうち軽易なもの ・その他3年保存を必要と認めるもの
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・その他前四条に定めるもの以外のもの

(出典 木更津工業高等専門学校文書管理規程)

資料9-1-①-2

木更津工業高等専門学校ファカルティ・デベロップメント推進委員会規則

平成15年4月1日

規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第19条第2項の規定に基づき、ファカルティ・デベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 教育プログラムの点検評価と改善に関すること。
- (2) 教員の教育方法及びその他の教育活動の点検評価と改善に関すること。
- (3) 教育環境の点検評価と改善に関すること。
- (4) その他ファカルティ・デベロップメントに関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 校長が必要と認めた若干名（教務主事補1名を含む。）
- (3) 学生課長

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第2号に掲げる委員の任期は、2年（教務主事補を除く。）とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第5条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校ファカルティ・デベロップメント推進委員会規則)

資料9-1-①-3 (1/4)

授業実施記録の保存答案等一覧(2005年度用)

課程	学年	区分	40点台	50点台	60点台	最高点	試験問題 (レポート課題)	模範解答
準学士課程	1~3年	中間試験	1例	1例	×	1例	○	○
		期末試験	全て	全て	×	1例	○	○
		主レポート	1~3例 (テーマ毎)	1~3例 (テーマ毎)	×	1例 (テーマ毎)	○	△
		小レポート, 小テスト	×	×	×	×	○	△
	4,5年	中間試験	1例	1例	代表的なもの	1例	○	○
		期末試験	全て	全て	全て	1例	○	○
		主要レポート	1~3例 (テーマ毎)	1~3例 (テーマ毎)	全て	1例 (テーマ毎)	○	△
		小レポート, 小テスト	×	×	代表的なもの	1例	○	△(小レ) ○(小テ)
専攻科課程	1,2年	中間試験	×	1例	代表的なもの	1例	○	○
		期末試験	×	全て	全て	1例	○	○
		主レポート	×	1~3例 (テーマ毎)	全て	1例 (テーマ毎)	○	△
		小レポート, 小テスト	×	×	代表的なもの	1例	○	△(小レ) ○(小テ)

- :必ず保存する
 △ :あれば保存する
 × :保存不要

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料9-1-①-3 (2/4)

授業実施記録として保存する資料の一覧表 (準学士課程1~3年)		
略号	チェック	内容
一覧表		当一覧表(表紙ページになる)
シ1		シラバス
教科書		教科書および参考書等(ファイルには綴じず別置とする)
前中1		前期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前中2		前期中間試験の40点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
前中3		前期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
前中4		前期中間試験の最高得点の答案のコピー (1例)
前末1		前期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前末2		前期期末試験の40点台の 全ての 答案のコピー
前末3		前期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
前末4		前期期末試験の最高得点の答案のコピー (1例)
後中1		後期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後中2		後期中間試験の40点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
後中3		後期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
後中4		後期中間試験の最高得点の答案のコピー (1例)
後末1		後期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後末2		後期期末試験の40点台の 全ての 答案のコピー
後末3		後期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
後末4		後期期末試験の最高得点の答案のコピー (1例)
主レ1		主レポート*1の課題(あれば模範例等も含む)
主レ2		主レポートの40点台の 代表的なもの のコピー (1~3例/テーマ毎)
主レ3		主レポートの50点台の 代表的なもの のコピー (1~3例/テーマ毎)
主レ4		主レポートの最高点のコピー (1例/テーマ毎)
小テ		小テスト*2の試験問題 (あれば模範解答も含む)
小レ		小レポート*2の課題(あれば模範例等も含む)
データ		成績算出のためのデータ一覧表 (出欠データを含む)
シ2		事後シラバス(授業評価アンケートの結果を含む)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 9-1-①-3 (3/4)

授業実施記録として保存する資料の一覧表 (準学士課程4~5年)

略号	チェック	内容
一覧表		当一覧表(表紙ページになる)
シ1		シラバス
教科書		教科書および参考書等(ファイルには綴じず別置とする)
前中1		前期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前中2		前期中間試験の40点台の 代表的な 答案のコピー(1例)
前中3		前期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー(1例)
前中4		前期中間試験のボーダーライン上(60点台)の 代表的な 答案のコピー
前中5		前期中間試験の最高得点の答案のコピー(1例)
前末1		前期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前末2		前期期末試験の40点台の 全ての 答案のコピー
前末3		前期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
前末4		前期定期試験のボーダーライン上(60点台)の 全ての 答案のコピー
前末5		前期期末試験の最高得点の答案のコピー(1例)
後中1		後期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後中2		後期中間試験の40点台の 代表的な 答案のコピー(1例)
後中3		後期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー(1例)
後中4		後期中間試験のボーダーライン上(60点台)の 代表的な 答案のコピー
後中5		後期中間試験の最高得点の答案のコピー(1例)
後末1		後期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後末2		後期期末試験の40点台の 全ての 答案のコピー
後末3		後期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
後末4		後期定期試験のボーダーライン上(60点台)の 全ての 答案のコピー
後末5		後期期末試験の最高得点の答案のコピー(1例)
主レ1		主レポート ^{*1} の課題(あれば模範例等も含む)
主レ2		主レポートの40点台の 代表的なもの のコピー(1~3例/テーマ毎)
主レ3		主レポートの50点台の 代表的なもの のコピー(1~3例/テーマ毎)
主レ4		主レポートのボーダーライン上の 全ての コピー
主レ5		主レポートの最高点のコピー(1例/テーマ毎)
小テ1		成績算出に関わる小テスト ^{*2} 等の試験問題および模範解答(配点を含む)
小テ2		成績算出に関わる小テスト等のボーダーライン上の 代表的な 答案のコピー
小テ3		成績算出に関わる小テスト等の最高得点の答案のコピー
小レ1		成績算出に関わる小レポート ^{*2} 等の課題(可能な場合は各評価の模範例等も含む)
小レ2		成績算出に関わる小レポート等のボーダーライン上の 代表的なもの のコピー(各評価を代表する小レポート等のコピーがあることが望ましい)
小レ3		成績算出に関わる小レポート等の最高得点の小レポート等のコピー
データ		成績算出のためのデータ一覧表(出欠データを含む)
シ2		事後シラバス(授業評価アンケートの結果を含む)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 9 - 1 - ① - 3 (4/4)

授業実施記録として保存する資料の一覧表 (専攻科課程)		
略号	チェック	内容
一覧表	/	当一覧表(表紙ページになる)
シ1		シラバス
教科書		教科書および参考書等(ファイルには綴じず別置とする)
前中1		前期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前中2		前期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
前中3		前期中間試験のボーダーライン上(60点台)の 代表的な 答案のコピー
前中4		前期中間試験の最高得点の答案のコピー (1例)
前末1		前期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前末2		前期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
前末3		前期定期試験のボーダーライン上(60点台)の 全ての 答案のコピー
前末4		前期期末試験の最高得点の答案のコピー (1例)
後中1		後期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後中2		後期中間試験の50点台の 代表的な 答案のコピー (1例)
後中3		後期中間試験のボーダーライン上(60点台)の 代表的な 答案のコピー
後中4		後期中間試験の最高得点の答案のコピー (1例)
後末1		後期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後末2		後期期末試験の50点台の 全ての 答案のコピー
後末3		後期定期試験のボーダーライン上(60点台)の 全ての 答案のコピー
後末4		後期期末試験の最高得点の答案のコピー (1例)
主レ1		主レポート ^{*1} の課題(あれば模範例等も含む)
主レ2		主レポートの50点台の 代表的なもの のコピー (1~3例/テーマ毎)
主レ3		主レポートのボーダーライン上の 全ての コピー
主レ4		主レポートの最高点のコピー (1例/テーマ毎)
小テ1		成績算出に関わる小テスト ^{*2} 等の試験問題および模範解答(配点を含む)
小テ2		成績算出に関わる小テスト等のボーダーライン上の 代表的な 答案のコピー
小テ3		成績算出に関わる小テスト等の最高得点の答案のコピー
小レ1		成績算出に関わる小レポート ^{*2} 等の課題(可能な場合は各評価の模範例等
小レ2		成績算出に関わる小レポート等のボーダーライン上の 代表的なもの のコピー(各評価を代表する小レポート等のコピーがあることが望ましい)
小レ3		成績算出に関わる小レポート等の最高得点の小レポート等のコピー
データ		成績算出のためのデータ一覧表(出欠データを含む)
シ2		事後シラバス(授業評価アンケートの結果を含む)

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

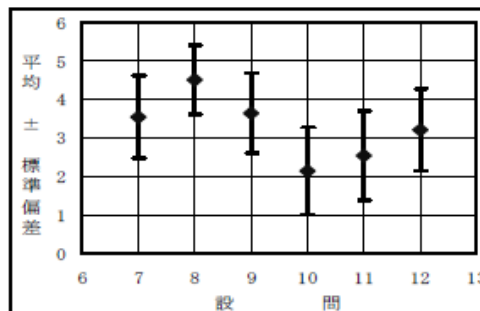
資料9-1-①-4 (1/2)

2004年度授業評価アンケートのまとめ

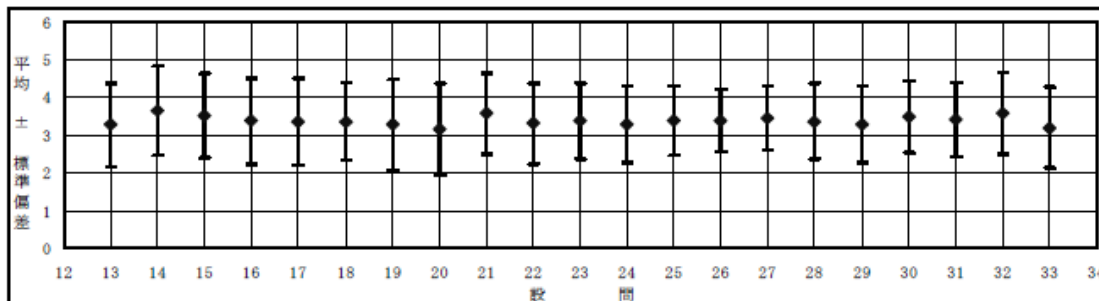
全回答数：6,629件(専任および非常勤の合計)

1. 当アンケートの設問については、前項を参照のこと。
2. 当集計結果は、平成16年度前期および後期において実施された「マークシート利用のアンケート」のマーク部分の回答を集計したものである。
3. 無回答などがあっても、集計段階では「 $\text{平均値} = \text{得点合計} / (\text{正規の})\text{回答数}$ 」という設定になっているため、平均値の算出には影響していない。

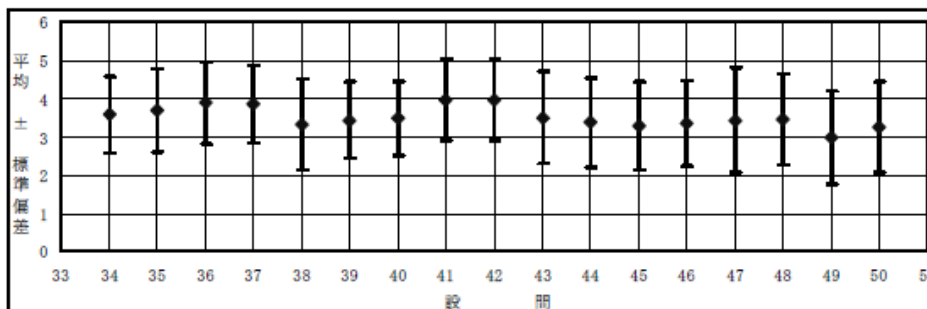
設 問	7	8	9	10	11	12
平均 値	3.5	4.5	3.6	2.1	2.5	3.2
標準偏差	1.1	0.9	1.0	1.1	1.2	1.1



設 問	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
平均 値	3.3	3.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	3.5	3.3	3.3	3.5	3.4	3.6	3.2
標準偏差	1.1	1.2	1.1	1.1	1.1	1.0	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1



設 問	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
平均 値	3.6	3.7	3.9	3.9	3.3	3.4	3.5	4.0	4.0	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.5	3.0	3.3
標準偏差	1.0	1.1	1.1	1.0	1.2	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.2	1.2	1.1	1.4	1.2	1.2	1.2



(出典 木更津高専における教育改善－授業科目の見直し－)

2004年度授業評価アンケート項目について

1. A4判のマークシートを利用したアンケートは、以下に示すような網羅的な項目から成り、回答にも時間がかかります。このようなアンケートが重なった場合、「回答負担」により、回答への信頼性が低下とされるため、全授業での実施は現段階では避けております。
 - ・規定の40の設問：5段階評価により回答(数値が高いほど良いとする)
 - ・オプションとして担当教員が設定する設問(最大4設問可能)：1～5で回答
 - ・記述による回答を求める以下の3設問：マークシートの裏に記述
(ア)この授業の良い点 (イ)この授業の改善点 (ウ)その他望む点等
2. 規定の40の設問(設問1～6の教員コード等に関するものは省略)
 - 問7 学生(回答者)自身の 授業に臨む姿勢は積極的でしたか?
 - 問8 授業への出席状況は良好でしたか?
 - 問9 授業態度は良好でしたか?
 - 問10 予習は充分に行いましたか?
 - 問11 復習は充分に行いましたか?
 - 問12 授業内容の理解度は高かったですか?
 - 問13 教員の/授業で 各授業時間ごとの目標は明確に示されましたか?
 - 問14 (共通設問) 声は明瞭で良く聞き取れましたか?
 - 問15 話す速度は適切でしたか?
 - 問16 説明は分かりやすかったですか?
 - 問17 学生とのコミュニケーションを図りながら授業は進められましたか?
 - 問18 講義/座学で 教科書や参考書は適切でしたか?
 - 問19 黒板の使用は適切で、字や図表も見やすかったですか?
 - 問20 ノートは作成しやすかったですか?
 - 問21 配付資料等は授業内容の理解に役立ちましたか?
 - 問22 視聴覚機器等の使用は適切でしたか?
 - 問23 質問に対する助言等は問題の解決に役立ちましたか?
 - 問24 課題や宿題等は実力的に取り組みやすい内容でしたか?
 - 問25 年間/半期計画(各時間の進度)は適切でしたか?
 - 問26 シラバスは分かりやすい書き方になっていましたか?
 - 問27 授業内容等はシラバスと合致していましたか?
 - 問28 授業内容のレベル(難易度)は適切でしたか?
 - 問29 考査のレベル(難易度)は適切でしたか?
 - 問30 成績評価方法は適切だと思いますか?
 - 問31 過去の授業との関連は適切でしたか?
 - 問32 授業内容は今後の学習に役立つと思いますか?
 - 問33 授業内容から発展的に学ぶことができましたか?
 - 問34 実験実習等で 指導教員等の数は適切でしたか?
 - 問35 班の人数は適切でしたか?
 - 問36 配付資料等は実験実習の理解に役立ちましたか?
 - 問37 器具機械類の使用方法等の説明は適切でしたか?
 - 問38 レポート作成の負担は適切でしたか?
 - 問39 提出したレポートに対する添削等の指導は適切でしたか?
 - 問40 内容は関連する講義等に役立ちましたか?
 - 問41 施設や設備は十分に整っていましたか?
 - 問42 内容は安全が十分に確保されていましたか?
 - 問43 体育実技で 各種目の内容やルールについての説明等は適切でしたか?
 - 問44 各種目の実技的な面での指導は適切でしたか?
 - 問45 各種目の難易度は適切でしたか?
 - 問46 安全や事故に対する配慮は適切でしたか?
 - 問47～50 担当教員による設問

(出典 木更津高専における教育改善—授業科目の見直し—)

資料 9 - 1 - ① - 5

木更津工業高等専門学校教務委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日

規 則 第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割並びに年間行事計画に関すること。
- (2) 試験及び評価その他履修に関すること。
- (3) 学校行事（学生委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) その他教務に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 学科・学系から選出された教員各 1 名

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 3 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校教務委員会規則)

資料 9 - 1 - ① - 6

木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日

規 則 第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、専攻科に関する特有な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 副専攻科長
- (3) 各専攻主任
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 4 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則)

資料 9 - 1 - ① - 7

木更津工業高等専門学校 JABEE 認定・認証評価推進委員会規則

平成 17 年 10 月 6 日

規 則 第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 20 条第 2 項の規定に基づき、JABEE 認定・認証評価推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) JABEE 認定及び認証評価を得るために必要となる施策に関すること。
- (2) JABEE 認定審査及び認証評価申請のための手続きに関すること。
- (3) JABEE 認定及び認証評価を継続するための施策に関すること。
- (4) その他 JABEE 認定及び認証評価に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
 - (2) 庶務課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 1 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課の協力のもとに庶務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

1. この規則は、平成 17 年 10 月 6 日から施行する。
2. この規則の制定に伴い、第 3 条第 1 項第 1 号の規定により選出された委員の任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、平成 19 年 3 月 31 日までとする。
3. 木更津工業高等専門学校 JABEE 認定推進委員会規則（平成 15 年 4 月 1 日規則第 3 号）は廃止する。

(出典 木更津工業高等専門学校 JABEE 認定・認証評価推進委員会規則)

資料 9 - 1 - ① - 8

木更津工業高等専門学校自己点検等委員会規則

平成 7 年 10 月 16 日

規 則 第 1 号

(目的)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における自己点検・評価に関する体制を整備し、本校の教育活動の一層の充実向上に資することを目的とする。

(委員会)

第 2 条 本校に、自己点検・評価の基本方針並びに実施基準等に関する事項を検討し、自己点検等を適切に実施するため、自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (2) 各学科・学系主任及び専攻科長
- (3) 事務部長
- (4) 庶務課長、会計課長及び学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

3 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を行う。

6 委員長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 3 条 委員会に、特定の専門事項について調査及び検討させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し、必要な事項は、委員会が別に定める。

(点検・評価項目)

第 4 条 点検及び評価項目は、委員会の議を経て、校長が別に定める。

(学科等における点検及び評価)

第 5 条 学科等（各学科・学系、専攻科、各種委員会及び事務部をいう。以下同じ。）の主任、専攻科長又は委員長等は、委員会の諮問に応じ、当該学科等の所掌に属する項目に関し、点検及び評価を行い、その結果を校長に報告するものとする。

(点検及び評価結果への対応)

第 6 条 校長は、委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められる事項については、その具体的化に努めるものとする。

2 校長は、必要がある場合は、委員会又は学科等に改善策の検討を付託することができる。

(事務)

第 7 条 点検及び評価に関する事務は、庶務課が処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるものの外、点検及び評価に関し、必要な事項は委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 7 年 10 月 16 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則)

資料 9 - 1 - ① - 9

木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則

平成 16 年 4 月 1 日

規 則 第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 21 条第 2 項の規定に基づき、中期計画推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 評価に基づく次期中期計画案の策定に関すること。
- (2) 中期計画に沿った年次計画案の策定に関すること。
- (3) 中期計画の実施状況の調査と評価に関すること。
- (4) その他中期計画に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
 - (2) 庶務課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 1 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示す資料として、学業成績等を学生課に保存し、授業改善に必要な資料として授業実施記録を資料室に保存している。

点検・評価の実施は、自己点検等委員会、中期計画推進委員会、FD推進委員会の他に教務委員会等が連携しつつ行っている。

以上のように、適切に資料等を蓄積して評価が実施できる体制が整備されている。

観点9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

2001年度の授業方法改善アンケート試行以来、満足度評価等を目的とする授業評価アンケートを実施している(資料9-1-②-1)。アンケートは教員自身で分析し自己点検・評価と授業改善としてのコメントを作成(資料9-1-②-2)、授業実施記録の一部として資料室に保存している。また、これらのコメントは「木更津高専における教育改善-授業科目の見直し-」にまとめられた(資料9-1-①-4参照)。

更に広く意見を聴取する目的で、「学生の声」箱・メールが整備されている(資料9-1-②-3)。寄せられた意見により、副校長が各委員会等に点検・検討を依頼し、回答を掲示等により行う(資料9-1-②-4)。また、生の声を聴取するために2004年度に専攻科課程の学生座談会(資料9-1-②-5)やアンケート(資料9-1-②-6)を実施した。その他、本校では担任制による学級指導を行っており、各学級担任と学生が直接対話を持って意見の聴取や問題の解決に当たっている。

資料9-1-②-1

学生による授業評価アンケート実施例

平成17年度 学生による授業評価アンケート (記述式:既設10設問)

※ 当アンケートは、授業方法および授業内容(科目/カリキュラム)の改善を目的として木更津高専が組織的に実施するものであり、回答した学生の成績評価等には一切関係しません。

科目名：電気回路	クラス：3年 情報工学科	回答日：H17年7月13日
----------	--------------	---------------

教員名：和崎浩幸	回答学生(記入は担当教員の指示による)：
----------	----------------------

設問1：あなた自身の授業に対する取り組みに満足していますか？

(不満足) ← 1 2 3 4 5 6 → (満足)

設問2：授業の進度や分かりやすさ等について満足していますか？

(不満足) ← 1 2 3 4 5 6 → (満足)

設問3：使用している教科書について満足していますか？

(不満足) ← 1 2 3 4 5 6 → (満足)

設問4：補助教材や配布資料等について満足していますか？

(不満足) ← 1 2 3 4 5 6 → (満足)

設問5：課題やレポート等について不満はないですか？

(不満) ← 1 2 3 4 5 6 → (不満なし)

設問6：試験のレベル(難易度)に不満はないですか？

(不満) ← 1 2 3 4 5 6 → (不満なし)

設問7：成績評価方法について不満はないですか？

(不満) ← 1 2 3 4 5 6 → (不満なし)

設問8：この授業で(最も)満足を感じる点は何ですか？

設問9：この授業で(最も)不満を感じる点は何ですか？

設問10：その他、意見等あれば書いてください。

(出典 2005年度授業実施記録 J3 電気回路)

資料9-1-②-2

授業評価アンケートに対するコメント作成例

授 業 科 目	電気回路	区 分 ・ 単 位 数	必修・2単位
開 設 学 科 学 系	情報工学科	授 業 形 態	講義
受 講 年 科 ・ 学 期	3年J科・通年	担 当 教 員	和崎浩幸
教 科 書 等	西巻正郎他著『電気回路の基礎第2版』森北出版、2004年		
授業評価アンケート結果に対するコメント等			
アンケート実施日：7月13日(水)2時限 アンケート形式：記述式			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生自身の取り組みを見ると、平均で3.7でありほぼ中央値付近である。内容的には、しっかり出来た学生とできなかった学生のコントラストが強い傾向にある。 2. 授業内容の進度・わかりやすさについては、平均4.3であってとりあえずの合格点であると思われる。教科書・配布資料等についても4以上の評価であり、特に大きな問題点はないように思われる。 3. 課題に関しては、4.7と高い評価であったが、これは特に成績評価に結びつくような課題は行っていないため、負担が少ないという意味での評価であると思われる。 4. 試験の難易度については、平均で4.4とこちらもほぼ合格点であると思われる。出題もほとんどが基本的なものを問う問題であり、極端な意見としては易しすぎて章末の問題をやる意味がないというものもあった。 5. 成績評価は、この科目の性質を考えて後の試験の成績ほど重みを大きくしたことが4.9という高い評価につながったものと思われる。 6. 自由記述では、進度が速いと指摘もあり、また演習時間が十分にとれていないという指摘もあった。 			
次回開講時に向けての改善点等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 限られた授業時間内では演習に時間を割くことが難しいため、特に復習を行うように今後も働きかけていきたい。また、試験問題に5問中1問程度は少し歯ごたえのある問題を加えて、より勉学の意識が高まるようにすることも考えたい。 2. 授業の進度については、現在の教科内容を再編して時間的なゆとりができるように配慮していきたい。また、それによってできた時間を演習時間に充てることによって、一層の理解の助けとなるように努力したい。 3. 電気回路の苦手な学生にも理解の助けになるように、回路解析についてはより時間の許す限り説明を省略せずに行うとともに、予習・復習を促していきたい。 			

(出典 2005年度授業実施記録 J3 電気回路)

木更津高専ウェブページ「学生の声」

「学生の声」について

1. 「学生の声」は、アンケート等では吸い上げ切れない学生の種々の意見や要望を聞くために設置されたものです。
 2. 意見等を提出する場合は、以下のいずれかの方法に従ってください。
 - (1) 「意見等の提出用紙」に必要な事項を記入し、学生課前に設置されている「学生の声」のポストに入れる。
なお、「意見等の提出用紙」はポストと一緒に置かれています。「提出用紙」はPDFファイルで取り出すこともできます。[ここ](#)をクリックしてください。PDFファイルはAdobe Reader で読むことができ、キーボードから記入もできます。記入の後印刷してからポストに入れてください。印刷してから筆記用具で記入してもかまいません。
 - (2) gakuseinokoe@kisarazu.ac.jp 宛にメールを出す。
なお、メールを出す場合は、以下の「意見等の提出フォーム」に従ってください。
- ※「学生の声」のポストへの投書は、学生課長が取り出し、副校長に渡しますが、同上のアドレスに出されたメールは直接副校長のところに行きます。
3. 提出された意見等は、副校長の判断により、要望および内容等に応じ関係者に送られます。対処結果等については、副校長より意見等の提出者に報告されます。
 4. 匿名等を希望する場合は、秘密を厳守します。なお、内容により、掲示等により対処結果について公表することもあります。

意見等の提出フォーム(不要な部分は削除し、必要な事項を記入してください)

※1 意見等の行先は以下のようになります。

意見 → 副校長 → 関係者 → 対処 → 副校長 → 意見提出者等

※2 意見等を伝えて欲しい具体的な関係者等がある場合には、次に示してください。

具体的な関係者等：

1. 提出者

内容にもよりますが、当欄への記載がなく、事実の確認の出来ないものは、虚偽の意見または信憑性の低い意見として処理されます。

年 工学科 学籍番号 氏名

2. 回答方法

対処結果等の回答通知方法について、以下に示してください。

掲示で メールで(アドレス) 回答は不要

その他：

3. 公開の可否

当件への対処結果等について掲示等により公開することの可否について示してください。

掲示等による公開可 公開は一切不可 その他：

4. 意見等

可能な限り具体的に、また事実の確認が行えるように記述してください。

副校長記入(対処日、対処結果等) 整理番号：

(出典 木更津高専 HP <http://www.kisarazu.ac.jp/campus/koe.htm>)

「学生の声」の回答例

回答者： 教務主事

提出者： 電子制御工学科4年生

【いただいたご意見の概要】

試験の後に配布される成績について、その評点は何を表したのか明確でない。すなわち、「それまでの試験成績の平均点」、「単にその試験の点数」、「授業状況も含めた総合評価」などのどれであるか分からない。説明してくれる先生もいるが統一されていないと感じる。

そこで、それまでの平均点とその時の試験成績を分けて表示するか、あるいは何を表しているのか明示して欲しい。

【回答】

まず、前期末試験と学年末試験は、(実験など一部の科目を除いて)全ての科目について実施することとなっています。これに対し、中間試験は「原則として行う」となっており、担当教員の判断により実施しない科目もあります。このため、成績報告についても前者と後者とでは多少異なっています。

また、最終的な評点(成績)は、各科目のシラバス内の「評価方法および評価基準」によって算出することになっております。

そこで、前期末と学年末については「単にその試験成績」でなく、原則として「シラバス内の評価方法および評価基準にそった総合評価」とすることになっています。一方、中間試験については試験を実施した場合には成績を報告することを定めていますが、報告する成績については授業担当教員の判断によることになっています。

以上が成績報告のルール(規程)ですが、これが徹底しているとは限らない面もあると思われます。

最終成績だけでなく各試験後の成績は、学生諸君にとって勉学の励みや勉学の目標を定める大切な指標と考えます。今後、頂いた意見を基に改善を検討し、また学生への説明方法も検討致します。

(出典 学生課資料)

学生座談会 議事要旨

日 時 平成16年10月5日(火) 15:30～17:30
 場 所 第2会議室
 出席者 専攻科1年生11名
 教員5名

会議

- (1) 専攻科長挨拶
- (2) 「生産システム工学」教育プログラムの説明
- (3) 意見聴取と座談

学生 M: 合格点を60点にしたのは、JABEE が決めたんですか。

教員 K: JABEE が決めたのではないが、60点が世界の相場です。50点では授業内容の半分しか理解していないことになります。半分よりちょっと上が必要です。

学生 M: JABEE について認識していない会社があると聞いているので、学校から会社へきちんと説明して欲しい。また、専攻科生に対しても、JABEE の認識を深めるために、先程、委員長が説明したことを文書にして配った方が良いでしょう。

教員 K: そうですね。皆さんもインターネットで、JABEE を取った学校を検索してみてください。JABEE を取って、学校の雰囲気が悪くなったと書いてあります。

学生 M: 専門共通科目では自分の専門以外の事を学びますが、他の分野の授業は難しく、戸惑っています。

教員 K: どういった点が難しいですか。

学生 S: 今までやったことの無い内容で、考え方自体が違うので、難しさを感じます。やる意味の大切さは判りますが。

教員 K: 難しいからこそ、社会が求めているわけです。一つの専門分野だけしかできないのでは、これからの社会では通用しません。

学生 S: 頑張っても、取れないものは取れないし、JABEE を諦める学生も出てきます。

教員 O: そういう事は、皆さんの意見を聞いて改善しなければなりません。そのために、この座談会をやっているわけですから。難しい点はどこですか。

学生 S: 先生によっては、判らないと言っても、そのまま進めて行ってしまいます。判りやすく教えてくれる先生もいますが、置いて行ってしまふ先生もいます。

学生 M: 専門共通科目で、他分野を広く浅く学んでも、自分はずぐに忘れてしまいます。

教員 O: でも、仕事で必要に迫られたら思い出すでしょう。それで良いんです。

学生 N: 専門共通科目で、自分の専門分野では、本科と重複する内容が多すぎます。幅広く学ぶのであれば、学科を分けて授業をした方が良いでしょう。

教員 O: そういうカリキュラムのシステム作りも必要ですね。

学生 S: 逆に、いろいろな分野の学生と一緒に受けた方が、学生間で教え合えるので良いでしょう。他分野の学生から学ぶことも必要だと思います。

学生 O: 他分野を学ぶために、本科の授業も見直して欲しい。自分は電気出身なので、機械系の授業に苦労しています。本科で機械の科目がもう少しあったら良かったと思います。

教員 K: 専攻科は設置されて間が無いので、いろいろな矛盾点があるはずですが。それを改善して行くことが必要でしょう。

学生 M: 実力認定試験は、年1回だとチャンスが少ないので、後期にも実施して欲しいです。

教員 T: 後期にもできるように、今考えているところです。

教員 K: 実力認定試験は、君達も努力して、最後まで頑張ってもらいたい。全員に JABEE を取って欲しいと思っています。

教員 T: この座談会の出席者だけではなく、全員の意識が JABEE に向くように、何か方策を立てたいと思っています。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

専攻科生へのアンケート結果

平成 17 年 3 月 17 日

平成 16 年度学年末 専攻科生のアンケート集計結果

専攻科長

アンケート実施日：平成 17 年 3 月 4 日（金）、専攻科(学年末)連絡会にて、参加者：29 名

アンケート形式：自由記述（専攻科の教育課程に関する意見、専攻科全般に関する要望）

1. 専攻科の教育課程に関する意見

ME 専攻科生：

- ・ 自分の専門（M）以外の教科が難しい、共通専門で他専攻の授業を受けてもレベルが高すぎる授業がある。
- ・ 他学科の授業にあまりついていけない。単位は取れているが、身につけていると思えない。その辺の配慮をお願いしたい。
- ・ 研究の時間を毎日とるより、まとめて、1 日の時間数を増やして欲しい、日課表の改善をお願いしたい。
- ・ 専攻科 1 年前期で、授業日数が非常に多く忙しかったので、減らして欲しい。
- ・ 意味のない科目をだらだらやるよりも、実験装置の扱い方、たとえばラジオならラジオの組み立てやテレビならテレビの組み立てなどの実際に役立つ知識や技術の方が学生に役立つ。

DJ 専攻科生：

- ・ 体育の授業を希望する。運動不足の解消に。(2 名)
- ・ 英語の授業をもっと多い方がよかった。(2 名)
- ・ 英語の授業について、もっと基礎からやりたい(単語を覚える課題とか)また、本科の復習、たとえば構文などの復習を希望する。
- ・ 英会話の授業を希望する。(2 名)
- ・ DJ1 年の特別実験の内容をもっと実践的な内容に変更を希望する。
- ・ 特別演習では、大学院過去問題の実践的な形式での実施を希望する。一人で解くとなかなか出来ない。
- ・ デスカッションや体育の授業を定期的に(出来れば、週 1 回)やると、専攻内だけでなく広い人間関係が築けると思う。強制的に他専攻の人と話せる機会が欲しい。
- ・ 数学の講義が足りないと思う。

CC 専攻科生：

- ・ 専攻科のカリキュラムは、他大学に比べて非常に忙しく詰まっている印象がある。その割に、専攻科修了後に大学工学部より低く評価されるのが、気になる。専攻科(長)として、その辺を頑張って(改善)をお願いしたい。
- ・ 体育があると専攻科生活が楽しい。からだを動かすことば大切です。(2 名)
- ・ 専門共通科目では、みんな同じレベルからやって欲しい。その専門学科のレベルでやると、ついていけない。
- ・ 回路工学やデジタル回路といった他専攻の専門科目は、1 学科(専攻)だけで受講したい。

2. 専攻科全般に関する要望

ME 専攻科生：

- ・ 専攻科教室の蛍光灯の雑音がうるさい。また、冬場は寒い。
- ・ 就職活について、誰に相談したらよいか、明確にして欲しい。また、本校の履歴書(本校の学校名が入ったもの)希望。市販ものは、よくない)を作成してもらいたい。
- ・ 群馬高専との交流会でのことで、話し合いの場はほどほどに段取りを決めていただきたい。しかし、あまり拘束されると自由な話し合いが出来なくなるが。
- ・ 休日に校内に入れないので、不便である。

DJ 専攻科生：

- ・ 球技大会を 2 ヶ月に 1 度の割で、1・2 年生まとめてできると面白い。
- ・ JABEE の説明が、先生によって細かい箇所が違うので、その確認のために振り回された。

CC 専攻科生：

- ・ 就職についてのセミナーを、一般大学並に、何回もやって欲しい。

(出典 2004 年度専攻科議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

授業に関する意見は授業評価アンケートにより聴取し、担当教員が自ら点検・評価を行ってコメントを作成、「木更津高専における教育改善－授業科目の見直し－」としてまとめている。

更に広く意見を聴取するため、「学生の声」箱・メールを設置し、意見を各委員会・部署等で点検・検討をして掲示等により回答する。その他、座談会や学級担任制により意見の聴取や問題の解決に当たっている。

以上のように学生の意見聴取を行い、教育の状況に関する自己点検の実施と評価に反映している。

観点9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

学外関係者の意見は、2004年度に企業関係有識者・教育関係有識者・その他の有識者からなる学外者による第三者評価を実施（資料9-1-③-1）し、外部評価報告書（資料9-1-③-2）が作成された。この外部評価報告結果への対応は、校報に掲載された（資料9-1-③-3）。

また専攻科修了生に対し、2004年度に座談会を開催し意見を聴取している（資料9-1-③-4）。この座談会の席上で、修得すべき英語力についての意見があり、英語教育の重要性と共にそのような意見も取り入れる形で、2006年度の教育課程改定においては準学士課程4・5年の語学必修選択に関して英語教育の時間が確保された（資料9-1-③-5）。

更に2005年度からは

- ①準学士課程卒業生・専攻科課程修了生アンケート（資料9-1-③-6）
- ②編入学先の各大学アンケート（資料9-1-③-7）
- ③就職先の各企業アンケート（資料9-1-③-8）

の3つのアンケートで意見を聴取している。

木更津工業高等専門学校外部評価実施要領

(趣旨)

第 1 高等専門学校は、学校教育法並びに独立行政法人通則法に基づき、それぞれの評価機関による評価を受けることと定められている。同時に JABEE の認定には学外有識者による評価が求められていることから、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について、学外の有識者による外部評価を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に資するものとする。

(外部評価委員会)

第 2 本校に、第 1 の外部評価を実施するため、学外の有識者による外部評価委員会を置く。

(外部評価委員会委員)

第 3 外部評価委員会の委員は、次の構成とし、校長が別紙のとおり委嘱する。

- ①企業関係の有識者 2名
- ②教育関係の有識者 2名
- ③その他有識者 2名

(外部評価の実施方法及び項目)

第 4 外部評価委員会による外部評価の実施方法及び項目は、別に定める。

(外部評価報告書の取りまとめ)

第 5 校長は、外部評価委員会による外部評価の結果を、外部評価報告書として取りまとめる。

(事務)

第 6 外部評価に関する事務は、庶務課において処理する。

附則

この要領は、平成 16 年 7 月 8 日から実施する。

(出典 外部評価報告書)

木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目

1. 外部評価の実施方法

(1) 資料調査

- ①平成14年5月作成の現状と課題－自己点検・評価報告書－について
- ②平成14年5月以降の本高専の現状並びに取り組みについて

(2) 実地調査及び視察

校長、副校長(教務主事)、校長補佐(学生主事、寮務主事)、専攻科長、学科・学系主任、地域共同テクノセンター長、JABEE 認定推進委員長、中期計画策定ワーキンググループ長等からのヒヤリング及び学内地設の視察

(3) 外部評価書の作成

- (1)及び(2)の調査、視察に基づく各委員の外部評価書の作成

(4) 外部評価報告書

- (3)の外部評価書に基づく外部評価報告書の作成

2. 外部評価の項目

- ①教育の高度化－専攻科の現状－
- ②地域社会との連携強化－地域共同テクノセンターの現状－
- ③教育の国際標準化－JABEE 認定申請に向けての現状－
- ④独立行政法人として目指す教育－中期計画の策定－

(出典 外部評価報告書)

外部評価結果とその対応策の一例（表形式から文書形式に変換）

1. 教育課程の科目編成と目指す技術者像との整合性について

○評価できる点

- ・ 「ものづくりを基本とする技術者」を目指していること。この点については企業側としても高く評価します。
- ・ 少人数ですので学生が十分に授業、実験、研究に専念できること。
- ・ 「技術者倫理」を必須科目にしたことは、最後は人間性にあるということから方針としては大変よいと思います。
- ・ 実践的専門技術者の育成を目的として、研究・実験・演習を中心とした科目配分になっており評価できる。
- ・ 2度にわたる改定等により、当初の教育目標に近づける努力をしている点は評価できる。

○問題点

- ・ 専門専攻科目の選択において、学科により選択の巾がある。ほとんど選択の余地がない学科もある。学生数が少ないので科目をあまり増やせないと思うが、できるだけ選択肢を増やし、色々な科目を選択できるのが望ましい。

➤ 対応策

「専門専攻科目」の見直し：各専攻において、選択肢のある開講科目とその内容の検討を行う予定である。

- ・ JABEEへの対応を含め外国語、特に英語の強化が必要と思う。
- ・ 今後の日本の技術者に求められる重要な視点は、不易である「人間形成」にあると思う。そのための方策をカリキュラムに色濃く出せたらと思う。

➤ 対応策

「人間形成」の重視：その対策の1つとして、「技術者倫理」の講義開設を検討している。

- ・ 専門共通科目の開講は目標とする人材養成にとって重要である。ただし、選択科目は専門性が高過ぎるのではないかという心配がある。講義への工夫が必要であろう。

➤ 対応策

「専門共通科目」の見直し：専攻科設置4年目にあり、教育内容の充実とJABEE 受審への対応の観点から、バランスのとれた基礎学力育成のための開講科目とその内容を検討している。

○その他の提言

- ・ 本科同様英語力を維持できるような科目がないのは止むを得ないかもしれないが、検討は必要かと思います。例えば、本科にて5年間（これは、高校3年・学部2年分）を少なくとも1回／週、授業で実施し、専攻科においても技術英語を1年次で修得または自己啓発（通信教育等）を促されては如何でしょうか。

➤ 対応策

「英語力」の強化：本科から専攻科修了までの継続的な英語力の強化が求められている。本科での受信型の英語力から、専攻科の発信型の英語力の強化に向けて、担当者との検討を予定したい。

- ・ 国際標準語としての英語に更に注力すべきと思います（技術英語前の英語力ボトムアップ）。

（出典 校報「外部評価結果とその対応策」）

専攻科修了生座談会 議事要旨

日 時 平成16年10月9日(土) 13:30~15:30

場 所 第2会議室

出席者 専攻科修了生5名

会議

- (1) 専攻科長挨拶(天摩)
- (2) 「生産システム工学」教育プログラムの説明
- (3) 意見聴取と座談

K教員: まず初めに、本校はJABEEを取るべきだと思いますか?

Kさん: JABEEを取るの、良いことだと思います。

Mさん: 専攻科の社会的認知度が低いので、JABEEを取って認知度が高まれば、就職する学生にとって良い武器になります。

T教員: 専攻科を認知する会社も少しずつ増えていますが、JABEEで認知度が高まれば良いですね。

Nさん: **問題点ですが、JABEEは国際的に通用する技術者を狙っているのに、この教育プログラムでは英語を使う授業が少ないので、結局、日本でしか通用しないのでは?**

O教員: 本プログラムの学習教育目標の「コミュニケーション能力」で英語を掲げていますし、TOEICで400点以上を取得することがJABEEの修了要件になっています。

W教員: 英語では今後カリキュラムを改定する予定です。TOEICの400点は低いと思われるかも知れませんが、本プログラムでコミュニケーションの基礎能力を身につけ、その後、更に自分で能力を伸ばす土台とするための400点です。

Tさん: **400点は、社会的に見れば低いと思いますが、今の本科5年生と話したところ、クラスで勉強ができる学生でも400点を取れないと聞きました。本科の4・5年で中国語やドイツ語を選択した学生は、2年間英語に触れずに過ごすので、400点を取るのに苦労すると思います。本科4年になる前に、専攻科の内容やJABEEの修了要件について教える必要があります。**

T教員: TOEICの受験を奨励するために、今年度の専攻科入試から、英語の試験をTOEICの点数で代替できるようにしました。

Hさん: TOEICの他にも、例えば情報処理試験などの外部資格の取得をプログラムに取り入れるという要求はなかったのですか。

O教員: 資格や学会発表を修了要件に取り入れている高専もありますが、本プログラムでは基礎能力を重視するために、入れませんでした。

Mさん: 自分はM科出身ですが、専攻科では機械だけの科目が少なくて、或る1ヶ所の部分を深く学んだだけでした。専攻科の専門共通科目で回路工学を学びましたが、電気出身者には良く判るけれど、自分達には全然判らなくて、デメリットが多かったと思います。専門共通科目の材料力学特論は、M科の4年で習った内容なので、E・J・C科出身者にとってはすごく難しく、M科出身者には全然意味のない勉強だと感じました。

K教員: 専攻科で深く学ぶことも一つの方法ですが、本プログラムでは、広く学ぶことを目指しています。

O教員: 専攻科生から聞いた話では、同期で大学に編入学した人達は専門を深く学んでいるが、自分たちは深くやっていないので、不安を感じているとのことでした。

Nさん: 自分は、D科で機械と電気と情報を学んだので、専門共通科目はほとんど勉強しなくても判りました。幅広く学ぶ利点はありますが、或る所までは判るが、その先が判らなくなります。違う大学から大学院に入って来た人達の話を聞くと、同じ学科でも大学によって教える内容が偏っていて、やっていない部分は全然判らないようでした。その分、専攻科は幅広くて良いのですが、もう少し深く教えて欲しかったです。半期よりも少ないくらいの程度で。

K教員: それは専門科目ですか。それとも、数学や物理ですか。

Nさん: 微積分などでは、計算方法の違いを感じました。本校では公式に当てはめて答えることを優先しましたが、大学では答を出すまでのプロセスを重視しています。

K教員: 科目を新設するという改善よりも、教える内容を改善するということですね。

Nさん: もう少し答を導くまでの思考過程を重視する授業内容にすれば良いと思います。

K教員: 次の項目ですが、この教育目標を達成すれば、就職したときに新入社員として十分満足であると思われませんか?

Kさん: 自分が就職活動で感じたことは、或るテーマについて自分の考えやメリット・デメリットをA4一枚にまとめて書く能力が、自分には無かったと痛感しました。学習教育目標のC1, C2の日本語能力についての改善です。

K教員: 実験レポートでも、学生は分厚いレポートを出すのが、内容にまとまりが無い。どう改善したら良いと思いますか?

Kさん: 枚数を限定することは、有意義だと思います。

K教員: 実験結果のプレゼンテーションは必要ですか?

Kさん: 全部の実験だと大変ですが、一部分はあって良いと思います。役に立ちます。

Hさん: 日本語で何を言っているか判らないレポートを書くと、就職して恥をかくので、その辺の能力を学生の内に身に付けられれば良いと思います。

K教員: 教育プログラム全体を見て、ご意見はありませんか。

Nさん: 自分の大学は産学交流が盛んで、外部の人達を招いて、研究発表をしています。プレゼン能力や、概要をまとめる能力が身に付きます。開催するだけで、学生の能力が伸びます。参加して賞をもらったら、単位をあげることも良いと思います。

T教員: 専攻科では今年から、学会発表を奨励するために、交通費を補助することにしました。発表件数も年々増えています。ただ、学会発表を義務化するとがんじがらめになるので、義務化ではなくて、奨励しています。

(この後、自由座談会となり、専攻科長より専攻科の近況報告などがあった)

(出典 専攻科委員会資料)

資料9-1-③-5 (1/2)

新旧教育課程表

2005年度教育課程表(必修選択科目のみ抜粋)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修	数学演習A	1			1			同時開講 うち1単位選択
	数学演習B	1			1			
	生物学	1			1			
	地学	1			1			
選択科目	総合英語演習Ⅰ	2				2		同時開講 うち2単位選択
	英会話Ⅱ	2				2		
	ドイツ語Ⅱ	2				2		
	中国語Ⅰ	2				2		
	総合英語演習Ⅱ	2					2	同時開講 うち2単位選択
	英会話Ⅲ	2				2		
	ドイツ語Ⅲ	2					2	
	中国語Ⅱ	2					2	
開設単位計	20	0	0	4	8	8		
選択科目	社会学	2				2		同時開講
	経済学	2				2		
	哲学	2					2	同時開講
	哲学	2					2	
	国文学特論	1					1	同時開講
	英語特論	1					1	
	数学特論	1					1	
人類学	1					1	同時開講	
心理学	1					1		
開設単位計	13	0	0	0	4	9		
特別学修	特別学修						注2	
	本校以外の教育施設における学修	一般および専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効					注3	
開設単位合計	105	28 【26】	25	20 【22】	14	18	特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない	

(出典 平成17年度学生便覧)

資料 9-1-③-5 (2/2)

新旧教育課程表 (続き)

2006 年度教育課程表 (必修選択科目のみ抜粋)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修 選択 科目	数学演習 A	1			1			同時開講 うち 1 単位選択
	数学演習 B	1			1			
	生物学	1			1			
	地学	1			1			
	英語演習 I	2				2		同時開講 うち 2 単位選択
	英会話 I	2				2		
	英語演習 II	1					1	同時開講 うち 1 単位選択
	英会話 II	1					1	
	哲学	2					2	同時開講 うち 2 単位選択 B 注 1
	社会学	2					2	
心理学	2					2		
開設単位計	16	0	0	4	4	8	学修単位数 6	
選択 科目	ドイツ語 II	2				2		同時開講
	経済学	2				2		
	法学	2				2		
	人類学	2				2		
	国文学特論	1					1	同時開講
	ドイツ語特論	1					1	
	数学特論	1					1	
開設単位計	11	0	0	0	8	3		
特別学修							注 2	
本校以外の教育施設における学修		一般および専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大 10 単位まで有効					注 3	
開設単位合計	99	28	25	20	14	12	特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない	

(出典 平成 18 年度学生便覧)

卒業生・修了生アンケートフォーマット

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」

H18.1.24

本アンケートは木更津高専の教育改善に用いるために行っております。Q1～9の回答は該当項目の番号を右の回答欄にご記入ください。Q10・11は記述式回答となっております。項目が多くお手数をおかけいたしますが、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

		回答欄																								
Q1	ご卒業または修了後、何年経っていますか。 ①-9年以下、②-10～19年、③-20～29年、④-30年以上	A1 <input type="text"/>																								
Q2	準学士課程卒業の方へお聞きします。木更津高専の卒業学科を教えてください。 ①-機械工学科 ②-電気電子工学科(電気工学科) ③-電子制御工学科 ④-情報工学科 ⑤-環境都市工学科(土木工学科)	A2 <input type="text"/>																								
Q3	専攻科修了の方へお聞きします。卒業専攻を教えてください。 ①-機械・電子システム専攻、②-制御・情報システム専攻、③-環境建設工学専攻	A3 <input type="text"/>																								
Q4	現在の職種等を教えてください。 ①-会社員・公務員 ②-大学生・高専専攻科生 ③-大学院生 ④-自営業 ⑤-その他	A4 <input type="text"/>																								
Q5	現在の業種と職種を教えてください。 【業種】 (1)鉱業 (2)建設業 (3)食料品 (4)繊維製品 (5)パルプ・紙 (6)化学 (7)医薬品 (8)石油・石炭製品 (9)ゴム製品 (10)ガラス・土石製品 (11)鉄鋼業 (12)非鉄金属製品 (13)金属製品 (14)機械 (15)電気機器 (16)輸送用機器 (17)精密機器 (18)電気・ガス・水道業 (19)運輸業 (20)情報・通信業 (21)小売業 (22)サービス業 (23)公務員 (24)その他 【職種】 (1)研究開発 (2)製造・生産技術 (3)設計 (4)生産・品質管理 (5)システムエンジニア (6)サービスエンジニア (7)営業 (8)経営・管理 (9)その他	A5 <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%;">業種</td><td style="width: 50%;"></td></tr><tr><td>職種</td><td></td></tr></table>	業種		職種																					
業種																										
職種																										
Q6	木更津高専を選択し、卒業・修了しての感想を聞かせてください。 ①-自分にふさわしい理想的な選択ができた、②-まあまあ自分にふさわしい理想的な選択ができた ③-第1希望ではなかったが、満足している、④-他の学校に入ればよかったと後悔している、⑤-よく分からない	A6 <input type="text"/>																								
Q7	木更津高専における勉強の内容は、現在役立っていますか？ ①-とても役立っている、②-わりと役立っている、③-普通、④-余り役立っていない、⑤-全く役立っていない	A7 <input type="text"/>																								
Q8	木更津高専で受けた授業カリキュラムの中で、以下の関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。 5段階で評価してください。 ①-十分、②-まあまあ、③-普通、④-やや不十分、⑤-不十分	A8 <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td>(1)</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td></td></tr><tr><td>(3)</td><td></td></tr><tr><td>(4)</td><td></td></tr><tr><td>(5)</td><td></td></tr><tr><td>(6)</td><td></td></tr><tr><td>(7)</td><td></td></tr><tr><td>(8)</td><td></td></tr><tr><td>(9)</td><td></td></tr><tr><td>(10)</td><td></td></tr><tr><td>(11)</td><td></td></tr><tr><td>(12)</td><td></td></tr></table>	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)		(8)		(9)		(10)		(11)		(12)	
(1)																										
(2)																										
(3)																										
(4)																										
(5)																										
(6)																										
(7)																										
(8)																										
(9)																										
(10)																										
(11)																										
(12)																										
Q9	木更津高専の学生生活の中で、卒業後に役だったと思われることは何ですか。 ①-友人関係、②-寮生活、③-部活動、④-自由な時間、⑤-その他()	A9 <input type="text"/>																								
Q10	木更津高専で受けた教育について、良かったと思う点と良くなかったと思う点をお聞かせください。 良かった点： <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/> 良くなかった点： <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>																									
Q11	木更津高専への提言があれば、ご記入ください。 <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>																									

回答は以上です。ご協力ありがとうございました。
JABEE認定・認証評価推進委員会

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 7

編入学先の各大学アンケートフォーマット

大学教職員の皆様へアンケートのお願い

木更津工業高等専門学校
JABEE 認定・認証評価推進委員会

ご協力いただける大学教職員の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、大学教職員の皆様にアンケートをお願いしております。大学教職員の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚のない御意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 所属学科をご記入ください。

(_____)

2. 募集の対象となる学科に○をお付けください。複数回答可。

- 機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科
 情報工学科 環境都市工学科
 機械・電子システム工学専攻 制御・情報システム工学専攻
 環境建設工学専攻

3. 高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

4. 上記 3 を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である

5. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。

6. 貴大学に入学した、これまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。

7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 8

就職先の各企業アンケートフォーマット

企業への皆様のアンケート

木更津工業高等専門学校

JABEE 認定・認証評価推進委員会

ご協力いただける企業の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、企業の皆様にアンケートをお願いしております。企業の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、以下のアンケートにお答えいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 御社の業種をご記入ください。例：(I T)関係 など

() 関係

2. 求人の対象となる学科に○をお付けください。複数の学科の学生を求人される場合は、対象とされる学科全てにご記入ください。

() 機会工学科 () 電気電子工学科 () 電子制御工学科

() 情報工学科 () 環境都市工学科

3. 御社が高専生に求める人材とはどのようなものでしょうか？また本校のこれまでの卒業生はそれをどの程度満たしているとお考えでしょうか？100 点満点でお答えください。

求める人材（能力、人柄など）

点数 100 点満点中 () 点

4. 御社に入社したこれまでの本校の卒業生を見て、優れていると感じている点があればご記入ください。

5. 御社に入社したこれまでの本校の卒業生を見て、本校の教育で重点的に改善を要すると思われる点があればご記入ください。

6. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学外関係者の意見は、学外有識者による第三者評価としての多様な意見が外部評価報告書としてまとめられ、対応が検討されている。更に、専攻科修了生座談会や専攻科修了生、編入先の大学、就職先の企業のアンケートでも聴取している。

以上のように、学外関係者の意見を教育の状況に関する自己点検・評価に反映している。

観点9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

学校全体の教育システム改善の仕組みを以下に示す(資料9-1-④-1)。各委員会は基本的に自己完結・自己責任型で活動を行い、その業務は立案－実施－評価・改善サイクルに基づき実行される。各委員会の業務は実施前の事前確認と以降の立案に反映させるための確認・改善という2つの過程で、運営協議会・教官会議等の複数階層において検討され、全教員によるチェックを受ける。教育課程の見直しや混合学級の導入などの大きな教育方法の改定については、このシステムの中で教務委員会、専攻科委員会が中心的な役割を果たす(資料9-1-④-2)。

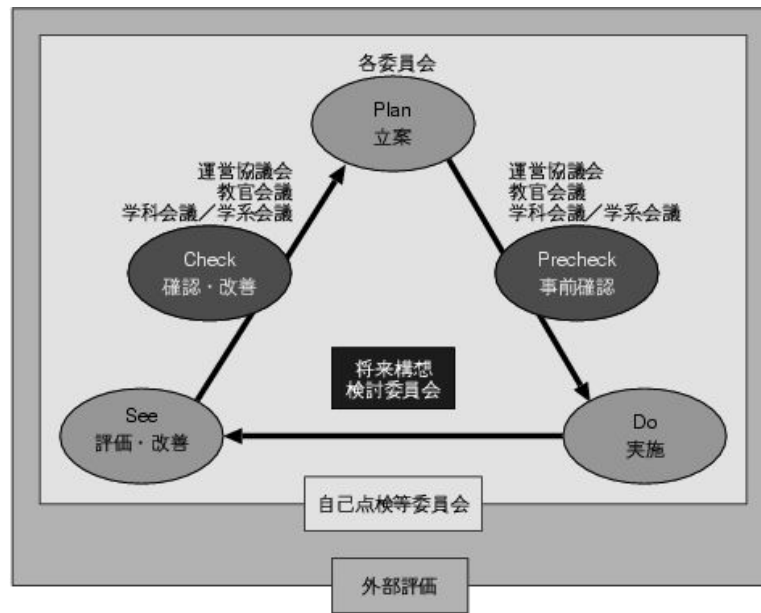
なお、将来構想検討委員会(資料9-1-④-3)は組織・管理運営方法の改善や施設・設備の充実、将来構想等に関する審議を行い、中期計画推進委員会(資料9-1-①-9参照)は、中期計画とその年次計画の策定及び実施状況の評価(資料9-1-④-4)を行う。

この教育改善サイクルを点検するために自己点検等委員会(資料9-1-①-8参照)が設置され、更に本校全体の活動について外部評価を適宜受ける(資料9-1-③-1参照)仕組みとなっている。

このような学校全体のシステムにより、全教員が全体的な流れを理解しつつ、各委員会が独自の判断により機動的に業務を遂行し、教育活動を継続的に改善することが可能となっている。

一方、授業改善を推進するのはFD推進委員会(資料9-1-①-2参照)であり、教育改善に関する中・短期的な計画立案・実施と諸活動の実施援助を行う。すなわち、授業計画となるシラバス作成、授業公開・授業参観、授業評価アンケートの実施、授業評価アンケートに対するコメントの作成を教員に促し、具体的な授業改善を推し進める。これら一連のFD活動を教員が次回の授業計画に活かすことでPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを機能させ、教育改善を具体的かつ継続的に行うことを可能としている(資料9-1-④-5)。

継続的教育改善システム図



(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料9-1-④-2 (1/5)

教務委員会議事要旨の例

平成17年度 第2回教務委員会 議事要旨

日時：平成17年5月10日（火）15：15～16：00

場所：学生課会議室

出席者：角田教務主事、岡本主事補、鴫田主事補、鬼塚主事補、小澤委員、鈴木道委員、内田委員、栗本委員、佐藤委員、椎名課長（以上10名）

議事：

1. 本科4、5年の単位計算法改定について

- ・岡本主事補より、第1回教務委員会の「カリキュラム改定について」、大学単位基準を導入した場合の電気電子工学科カリキュラム改定案、カリキュラム改定後の電気電子工学科時間割案を基に、以下のような修正提案が示された。

講義の必修科目は、重要度に応じて必修科目（A）、必修科目（B）に区分し、それぞれ1.5大学単位、1.0大学単位とする。実験・製図（必修）科目は、必修科目（C）に区分し、0.5大学単位とする。

講義の選択科目、卒業研究、演習は高専単位基準のままとし、これらのうちの必修科目を必修科目（D）とする。

- ・一般科目のカリキュラム改定にあたっては、大学単位基準導入のための要望に加え、高専設置基準などにも留意しつつ認証評価等の第三者評価を念頭に置き、バランスの取れた体系的なカリキュラムとするよう、教務委員会として要望することとした。

各学科・学系の会議等で審議し、各学科・学系（案）を教務委員が取り纏め、5月31日までにカリキュラム改定WGに報告する。なお、**新カリキュラム確定までには、教務委員会を始め、JABEE認定推進委員会等の種々の方面からのチェックが行われることが確認された。**

2. その他

- ・鈴木道治委員より、高等学校卒業程度認定試験の試験科目の免除対応科目について説明があった。この試験は大検に代わる試験ではあるが、免除対応科目を大検時の科目に準ずるということで確認された。

申請希望者が出た場合には、教務係で対応することになった。

（出典 教務委員会議事要旨）

専攻科委員会議事要旨の例

専攻科委員会（平成17年度第6回）議事要旨

日 時：平成17年6月28日（火）15：25～18：20

場 所：第2会議室

出席者：天摩(科長)、篠村(人)、鎌田(基)、小田(M)、上原(E)、高上(D)、増田(J)、高橋(C)、石川(副科長)、矢野課長補佐

資 料

1. 前回議事要旨
2. カリキュラム改正案
3. カリキュラム改正審議経過、JABEE 認定推進委員会からの要望、カリキュラム改定WGからの提案
4. カリキュラム改正に関する第5回委員会以降の意見

議事要旨確認

資料通り確認した。

議 事：

1. 専攻科カリキュラム改正の最終審議

審議に先立ち、資料3に基づき、科長から改正の審議経過の説明があった。資料4の意見(人文、カリキュラムWG、ME専攻)などに基づき審議した結果、資料2の改正案に対して、以下のように決定した。

- 1) 「技術者倫理」については、担当者の意見(要望)を尊重して、科目名を「技術倫理」とする。人文：専門担当比率は、10：5(各科1)程度とする。
- 2) PBL科目は、試行型PBL創成実験科目と位置付け、科目名を「問題解決技法」、選択科目実験系1単位(3h)とする。
- 3) 特別実験を1単位減らして(3単位)、1年の3+6hの時間配当とする。
ME専攻についても、他専攻に合わせて1年で実施する。
- 4) 特別研究の学年配当見直し、5+9単位を6+8単位に変更する。
時間配当としては6+9+9+18hを9+9+9+15hにする。
- 5) 特別研究や特別演習の学年をまたぐ科目は、特別研究1、特別研究2の様に表現する。
- 6) 技術論(仮、集中講義)の「仮」を取る。
- 7) 開講学年と前期後期開講の変更
 - ・ 共通科目で、環境化学特論を2年前期、環境工学通論を1年後期にする。
 - ・ DJで、システム制御を2年前期、数理モデリングを2年後期にする。

資料9-1-④-2 (3/5)

- 8) 次の変更について検討・確認し、早急に委員長宛連絡する。
- ・応用数学特論（前期）／応用物理特論（後期）／応用化学特論（前期）の前後期配分について。
 - ・CCの特別演習2年で、前後期を4+0から2+2にすると全専攻揃う。
 - ・CC専攻科目2年前期から2年後期に1科目移動できないか。
- 9) 修得単位数は、一般8単位以上、専門共通22単位以上、専門専攻32単位以上、専門54単位以上、合計62単位以上とする。（修了要件に、インターンシップが本科と併せて2単位必要である旨記載する）
- 10) JABEE対応と現在の専攻科対応を中心として、専攻科長が改正理由を作成する。
- 11) 各科目担当者を、専攻科長宛に連絡する。
- 12) 以上の審議を元に、各専攻教育課程表(別表)を作成し、臨時教官会議（6月30日）と運営協議会（7月7日）に提出することになった。

2. その他連絡報告

- 1) 実力認定試験のアナウンスがあったが、学生が尋ねてこない旨の報告があった。
学生から相談に行くよう、指導することとした。
- 2) 科長から、今後の主な日程報告があった。
- ・7月15日5H～ 専攻科連絡会。JABEEや学位授与申請について解説
 - ・10月1&2日 群馬高専との交流会
- 3) 科長から、カリキュラム改定WGに、上原先生の他に専攻科長も出席する旨の報告があった。

次回は7月下旬の予定

委員会終了直後、1.の8)に関して、以下の報告があった。

資料 9-1-④-2 (4/5)

教官会議議事要旨の例

平成 17 年度 臨時教官会議議事要旨

日 時 平成 17 年 6 月 30 日 (木) 15:20~16:25

場所 第 1 会議室

出席者 校長 他 69 名, 事務部長, 3 課長

欠席者 柴田(在研), 金子, 林田, 石川 E, 泉(内研), 大木, 高石

【協議題】

1. 木更津工業高等専門学校学則別表(本科教育課程表)の一部改正(案)について・・・資料 1
教務主事より資料説明後, 岡本(保)主事補から単位計算法についての補足説明があり, 原案
どおり **次回の運営協議会にて最終決定することとなった。**
また, この改正については平成 18 年度入学者より学年進行で施行する旨教務主事より補足
があった。
2. 木更津工業高等専門学校学則別表(専攻科教育課程表)の一部改正(案)について・・・資料 2
専攻科長より資料説明後, 原案どおり **次回の運営協議会にて最終決定することとなった。**
3. 木更津工業高等専門学校学業成績審査規程等の一部改正(案)について・・・資料 3
教務主事より, 下記のとおり資料の一部修正後, 改正の要点について説明があった。

【修正内容】

学業成績審査内規について,

「第 9 条 規定第 4 条の規定により, ……」を

「第 9 条 規定第 4 条第 1 項の規定により, ……」に修正する。

また, 年度内「再評価」について, 規程上の位置づけや制度の必要性についての質問があ
ったが, この件については, **今後教務委員会等で議論・検討することとなり**, 本案件につい
ては了承された。

【その他】

1. 学生の送迎について・・・学生主事
学生を送迎する際の自動車に関する近隣からの苦情があったので, 送迎の際は学校敷地内
に乗り入れて送迎するよう指導依頼があった。
2. 高専間教員交流制度について・・・校長
6 月 20 日に, 機構本部よりプロジェクト一覧が送付された。この一覧を学系・学科主任
宛配布するので, 7 月 31 日までに希望者をとりまとめてほしい旨依頼があった。(機構本部
への推薦期限: 8 月 31 日)

資料 1

木更津工業高等専門学校学則別表(本科教育課程表)の一部改正(案)について

1. 改正内容 別紙改正・現行教育課程表のとおり
2. 改正理由 混合学級制導入のため, 技術者教育認定機構審査基準に対応するため,
および単位計算法の見直しに対応するため, 本科の教育課程を整備する
3. 施行年月日 平成 18 年 4 月 1 日

(出典 教官会議議事要旨)

運営協議会議事要旨の例

1. 日 時 平成17年7月7日(木) 10:45～12:20
2. 場 所 第2会議室
3. 議 事

◎協議題

1. 木更津工業高等専門学校学則別表(本科教育課程表)の一部改正(案)について
教務主事から、①混合学級制導入、②JABEE基準への対応及び③単位計算方法の見直しへの対応ため本科教育課程を改正する旨、資料に基づき説明があり、了承された。
なお、校長から、改正方針について外圧的な理由で改正を行うように受けとられるため、本校教育の充実発展のため等、改正方針を一部変更するよう指示があった。
また、教務主事から、単位計算方法の見直しについては設置基準の改正案が示されていないため、流動的である旨、説明があった。
2. 木更津工業高等専門学校学則別表(専攻科教育課程表)の一部改正(案)について
専攻科長から、JABEE基準に対応するため専攻科教育課程を改正する旨、資料に基づき、説明があり、了承された。
3. 木更津工業高等専門学校学業成績審査規程等の一部改正(案)について
教務主事から、前回の運営協議会及び臨時教官会議で審議したことを踏まえ、資料のとおり改正する旨、説明があり、了承された。
4. 平成17年度後期非常勤講師採用予定者について
教務主事から、資格等の問題もないため資料のとおり任用する予定である旨、説明があり、了承された。
5. 平成17年度予算配分(案)について
事務部長から、学内当初予算配分について、資料に基づき説明があり、了承された。また、経費の節約について依頼があった。

◎連絡・報告事項

1. 夏季休業前後の行事について
教務主事から、資料に基づき報告があった。
2. 第16回プログラミングコンテスト予選結果について
学生主事から、6月26日に都立高専で審査が行われ、本校から推薦した全ての部門とも選考された旨、報告があった。

◎その他

- ・校長から、40周年記念行事等については、記念式典は行わず、記念誌の発行のみとし、準備委員会を来年7月頃発足する旨、報告があった。
 - ・教務主事から、JABEE受審の審査学協会は電子情報通信学会が担当する旨の、メールがJABEE認定推進委員長に届いた旨、報告があった。
 - ・人文学系主任から、9月中旬にテクノフォーラムを開催する予定であり、その際発行するテクノニュースの記事として専攻科特別研究のテーマとその内容を掲載する予定であるため、8月26日までにメールで鈴木聡教員に提出するよう依頼があった。
 - ・庶務課長から、9月の会議予定について報告があった。
- 運営協議会 9月1日8日(木)、9月15日(木)
教官会議 9月8日(木)

(出典 運営協議会議事要旨)

木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日
規 則 第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、将来構想検討委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の設置及び改組等に関すること。
- (2) 組織及び管理運営の改善方策に関すること。
- (3) 施設・設備の整備及び充実に関すること。
- (4) その他将来構想等に関すること。

(組織等)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 学生主事
- (3) 寮務主事
- (4) 各学科主任，学系主任及び専攻科長
- (5) 事務部長
- (6) 庶務課長，会計課長及び学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 7 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 6 条 委員会に専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。ただし、前条に規定する専門委員会の事務は、当該所掌課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

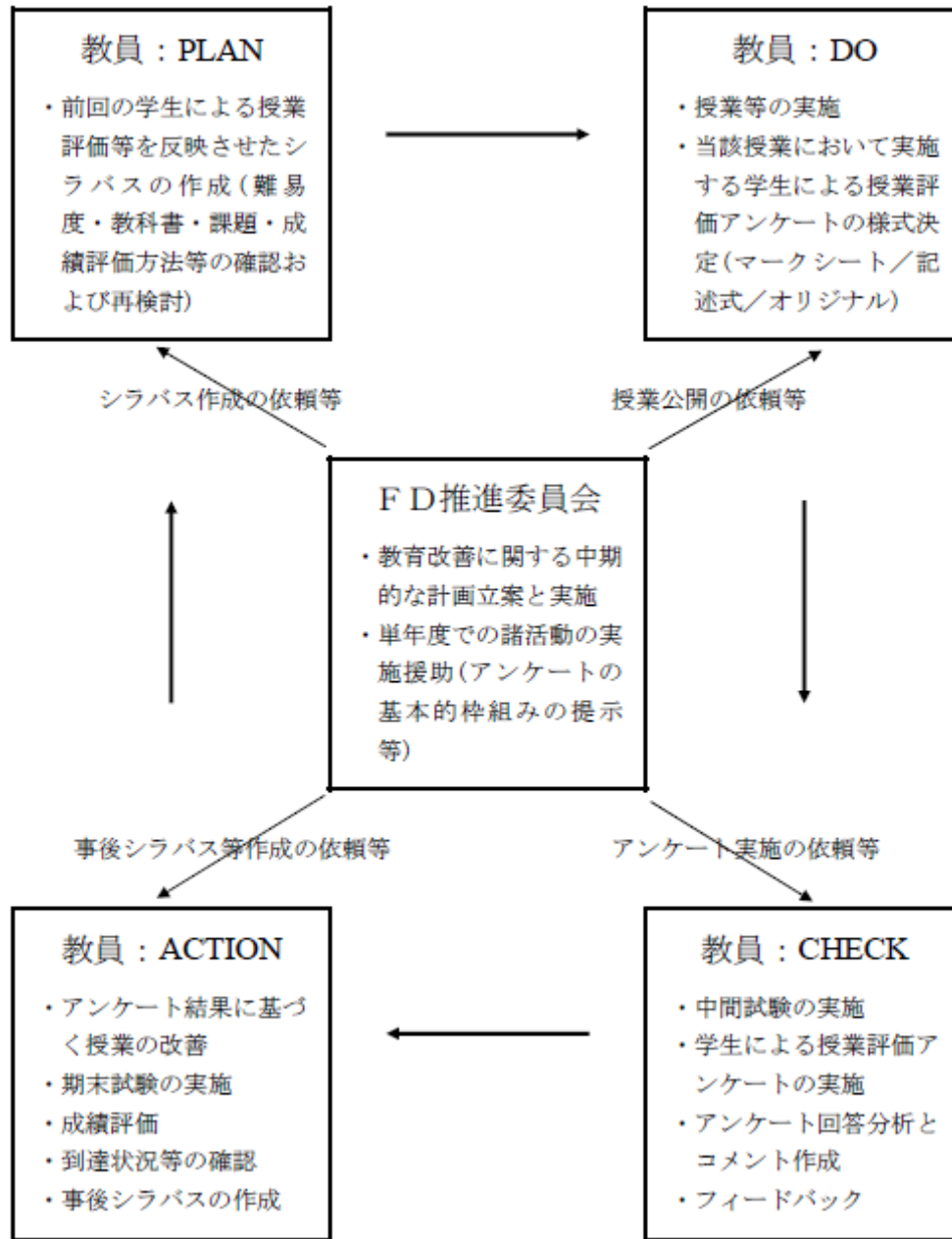
(出典 木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則)

中期計画に関する評価の実施例（教育改善に関する項目の例示）

中期計画 (年度計画)	木更津高専による自己評価			
	評価項目・評価指標等	評価項目・評価指標等に対する実績	左記実績についての自己評価	自己 評定
卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の方法の開発について検討し、その導入を図る。 (年度計画) 「教育・FD委員会」において、卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を行うための評価項目等の検討を始める。	学生による授業評価・学校評価の評価項目の検討状況・教育課程編成やシラバス作成に卒業生を含めた学生の意見・提案を反映させる方法を検討する。	・前期中間試験終了後、各教員が担当する全授業に対して「学生による授業評価アンケート」を実施し、それに対するコメントを作成することにより、授業の改善を図った。 ・平成 16 年 10 月 5 日に、専攻科 1 年生 11 名と専攻科科長を含めて教員 5 名との「専攻科学生座談会」を開催し、専攻科の授業や本校の教育プログラムに関する意見を収集した。 ・平成 16 年 10 月 9 日に、専攻科 1 期生・2 期生 5 名と教員 5 名との「専攻科修了生座談会」を開催し、カリキュラムや授業内容への意見を収集した。 ・平成 17 年 3 月 4 日の専攻科連絡会では、「専攻科の教育課程への要望」として、自由記述形式のアンケートを実施し、そのアンケートの意見や提案について専攻科委員会で審議を行った。	検討だけでなく、学生の意見・提案を具体的に反映させる実行段階にある。	A
中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。 (年度計画) 教員の能力向上を目的とした研修会を企画し、開催するとともに、文部科学省及び都道府県教育委員会主催の研修会に、教員を積極的に参加させる。	教員の能力向上を目的とした研修会の開催状況 (1) 教員の能力向上を図るため、授業公開、授業方法改善、アンケート及び授業方法改善研究会を継続し、学生との意見交換会及び講習会の開催について検討する。(16~20 年度計画) (2) 現行の夏期厚生補導研究会を継続発展させる。 (3) 新任教員研修制度を推進する。	(1) ファカルティ・ディベロップメント関連行事として以下のことを行った。 1) 全授業常時公開、全授業担当者、全授業期間 2) 授業公開特別期間、新任教員等、平成 16 年 6 月 14 日~6 月 25 日および平成 16 年 12 月 10 日~12 月 22 日 3) 授業方法改善研究会、関係教員、前期及び後期の授業公開特別期間前後 4) 学生による授業評価アンケート、全授業担当者、平成 16 年 6 月および平成 17 年 3 月 (2) 夏期厚生補導研究会を以下に行った 期日：平成 16 年 8 月 23 日~24 日 参加教員数：62 名 内容：JABEE 認定申請に向けての研修 (3) 次の新任教員研修会に 4 名の新任教員が参加した 高等専門学校新任教員研修会、機構本部主催、当番校茨城高専、期日平成 16 年 8 月 18 日~20 日	(1) 非常勤教員を含め、全教員の全授業を公開しており、特別公開期間を設け積極的に他教員の授業参観を行うことを奨励し、その結果をもとに、授業方法改善研究会を行っていることは高く評価できる。さらに、全授業科目に対して、学生による評価アンケートを実施し、その結果の報告を義務付け、授業の改善に役立っている。 (2) 長年実施してきた夏期厚生補導研究会において、本年度は 80%の教員が参加して、JABEE に関する研修を行い、報告書を作成した。この研究会では、毎年、寮生指導、クラブ活動、授業方法改善といった教育に直結したテーマで、外部講師を招き積極的な議論が行われており、教員の資質向上に大きく貢献しており評価できる。 (3) 新任教員への研修は学内の研修に加え、新任の 4 名を新任教員研修会に参加させたことは評価できる。	A
各種研修会への教員の参加状況		(1) JABEE 及び日本工業教育協会主催の研修会に毎回参加した。 (2) メンタルヘルスに関する次の学外研修会に参加した。 ・北関東甲信越地区メンタルヘルス研究協議会 (9 月 15, 16 日 虎ノ門パストラルで開催、室長参加、9 月 21 日委員会で報告) ・高等専門学校メンタルヘルス研究集会、機構本部、H16. 3. 22 ~23、1 名 (3) 第 6 回教職員メンタルヘルス研修会を以下のとおり行った。 期日：平成 17 年 3 月 10 日 主催：本校学生相談室 内容：青春期の発達課題と学生相談 参加者教職員約 40 名 (4) 他に以下の研修会に参加した。 1) 高等専門学校教員研究集会、機構本部、鉦路高専、H16. 7. 29~30、1 名 2) 関東信越地区国立高等専門学校教員研究集会、機構本部、東京高専、H16. 8. 30~31、2 名 3) 高等専門学校教育教員研究集会、機構本部、長野高専、H16. 8. 26~27、2 名 4) 高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会、豊橋技大、豊橋技大、H16. 11. 15~19、1 名 5) 関東信越地区教員研究集会、機構本部、長岡高専、H17. 1. 31~2. 1、2 名	・各種研修会へは積極的に適任者を参加させている。また、研修の成果を全教員に報告する制度が確立されている点も評価できる。	A

(出典 校報「業務実績と自己評価」)

授業評価等に関する年間サイクル



(出典 FD 推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校全体の自己点検・評価は、自己点検等委員会が自己点検・評価の実施と外部評価のまとめを行う。また、中期計画推進委員会は中期計画と年次計画の策定を行って評価結果を次期の中期計画に継続的に反映させる。それらに基づきFD推進委員会、教務委員会、専攻科委員会等の実務を担う委員会等で具体的な教育改善の方法について審議し、各学科・学系の会議、教官会議、運営協議会の審議を経て実施に移される。教育課程の見直し等は、この大きな改善サイクルの中で行われる。

また、授業評価・改善は、FD推進委員会の依頼で各教員が授業評価アンケートを作成・実施し、教員が自ら点検・評価を行い、授業実施記録の作成・保存を行う過程で具体的な授業改善に取り組み、検討結果は学生に対しては口頭若しくは掲示等で回答される。このような1年間の自己点検・評価を次年度の授業計画に反映させて授業改善のPDCAサイクルを機能させ、継続的な授業改善を実施可能としている。

以上のように、各種の評価結果を教育の質の向上・改善に結び付ける2つのシステムが整備されている。

観点9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

2004年度から全科目担当教員が授業評価アンケートを実施し、自己点検・評価と授業実施記録の作成・保存を行い、授業改善のPDCAサイクルによる継続的な授業改善を行っている(観点9-1-④参照)。

また授業実施記録の作成・保存が確実になされるように、JABEE認定・認証評価推進委員会で授業実施記録の確認を行っている。更に2005年度には、授業評価アンケートによる改善例の様子の把握を容易にするため、各教員から具体的な改善例の報告をアンケート形式で収集・保存している(資料9-1-⑤-1)。

資料9-1-⑤-1

授業評価アンケートによる改善例

- ・ 授業をシラバス通りに進めるよう、完全に計画的に授業を行うようにした。
- ・ 実験指導書を貸し出す形にしていたが、アンケートの結果、予習復習のために印刷して配布して欲しいという意見が多かった。2004年から、指導書を全て印刷し、自由に持ち帰ることができるようにした。また、指導書が分かり難いという指摘があったテーマについては指導書の改定を行った。
- ・ 実験の解説をして欲しいというアンケート結果が多かったので、実験テーマ数を減らして、実験の次の週に解説をするようにした。
- ・ アンケートで板書をノートに写しているときに説明があるため、理解しにくいとの指摘を受けた。それ以後、黒板に書き終えた後に学生の様子を見ながら少し待つようにしている。
- ・ 試験の回答欄が狭く書ききれないとの指摘があり、それまでA4で2枚であったものをA4で3枚にし、回答欄を広くした。
- ・ 回路の一部が見づらい場合があるとの指摘を受け、込み入ったものについてはプリントで配布することにした。
- ・ 前年度授業評価アンケートにおいて、レポートの評価基準が曖昧であるとの指摘を受けた。これを受け、当該年度の実験指導書にあらかじめレポートの評価基準を明記した。学生達からは、評価基準がわかり易く、レポート作成の助けになるとの評価を得た。

他、計 53 件

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業改善の手法として授業評価アンケートの実施と授業実施記録の作成・保存を行い、具体的・継続的な授業改善を行っている。また、授業実施記録が確実にされるように、JABEE認定・認証評価推進委員会で授業実施記録の内容を確認し、更に授業改善の事例をアンケート形式で調査を行って確認を行い、学校として実情の把握に努めている。

以上のように、教員は授業評価アンケートに基づいて授業内容等の向上を継続的に行い、その状況を学校として把握に努めている。

観点9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員の研究活動は、一般特別研究や課題実験(研究)、卒業研究、特別研究等に数多く活かされている(資料9-1-⑥-1)。これは教員の研究テーマを教育に取り入れるためには、ある程度の学力や知識が前提として必要であり、十分な指導時間のとれる卒業研究等の授業科目に取り入れやすいためである。

また、講義科目の中に専門的な研究内容を取り込むことは高専の準学士・専攻科課程では大学院等の講義と比較すると、教育水準の違いから直接の導入は困難であるが、授業に応じて可能な範囲で行われている(資料9-1-⑥-2)。

資料 9 - 1 - ⑥ - 1

教員の研究を学生の教育に活かしている例

例 1	教員の研究テーマ	科目等
	短距離走の動作分析	
	学生の研究テーマ	一般特別研究
	高専スプリンターの加速区間における動作の特徴	
例 2	教員の研究テーマ	科目等
	紫外線の植物影響、レーザー誘起蛍光法を用いた計測	
	学生の研究テーマ	一般特別研究
	暮らしの中の紫外線 レーザー誘起蛍光法による水質評価に関する研究	
例 3	教員の研究テーマ	科目等
	大迎角剥離流れに関する研究、剥離流れに関する研究	
	学生の研究テーマ	
	大迎角を持つ軸対称放物体背後における剥離渦構造の解明 角柱に作用する抗力軽減に関する研究	特別研究
例 4	教員の研究テーマ	科目等
	電磁波に関する研究	
	学生の研究テーマ	卒業研究
	電磁波の放射の視覚化	特別研究
	金属格子平面における電磁波の回折 無限長導体円柱による電磁波の散乱の過渡解析	
例 5	教員の研究テーマ	科目等
	床制振用アクティブマスダンパに関する研究	
	学生の研究テーマ	特別研究
例 6	教員の研究テーマ	科目等
	眼鏡顔画像からの眼鏡なし顔画像の推定	
	学生の研究テーマ	特別研究
例 7	教員の研究テーマ	科目等
	スポンジキューブを用いた新規下排水処理プロセスの開発	
	学生の研究テーマ	卒業研究 特別研究
	DHS リアクターによる鉄鋼排水処理に関する研究 DHS リアクターにおける人便性大腸菌群の除去に関する研究	

他、計 40 件

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料 9 - 1 - ⑥ - 2

教員の研究を授業に活かしている例

- 運動の負荷に対する血圧応答性の研究活動から得られた知見、基礎知識を保健授業、特に生活習慣病として知られる高血圧及び動脈硬化に関する授業内容に反映させ、改善を図った。
- 太陽の活性活動による電磁波の伝播を波の特性の説明に活かした。
- 流体関連の実験テーマの中で、流れの可視化のテーマは、卒業研究において開発した実験教材・実験手法を低学年向けにアレンジしたものである。特に、フェノールフタレイン法は、鮮明な限界流線が得られるため、流れの挙動をイメージするために役立っている。
- 電圧の計測標準における超伝導の実際を研究データから具体的に学生に紹介することを行っている。スペクトルの観測など研究で得られた具体例の話をする。その他、研究に関係する測定について、関連する具体例をあげて話が出来た。
- 専門分野であるアンテナ列の応用について、教科書の記述を超えた内容を紹介し、学生の興味が深められた。
- 教員の研究テーマ「雲内放電に伴う両極性パルスの特性評価」を卒業研究テーマに取り上げることができ、学生は実験データに対する認識と重要性を感じるようになった。また、解析手法を見に付くようになった。
- 開発途上国における貧困と環境破壊の実例を実際の経験と現場で撮った写真等を使って説明している。

他、計 25 件

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の最近の研究成果を授業等に取り入れることによって新しい技術やその流れを教育に取り込んでおり、研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

授業改善については、全教員を対象として中間試験実施後に授業評価アンケートを実施し、各教員自らが結果を分析して授業改善に結びつけている(観点9-1-④, ⑤参照)。

授業公開については全教員・全授業常時公開であるが、前期・後期の各中間試験実施後、年2回の授業公開特別期間を設けて授業参観を奨励している。

また、授業方法改善研究会では、近年では人文・基礎学系と専門学科との間で年2回の懇談を行い、科目内容の摺り合わせや学生の状況等についての情報交換が行われている(資料9-2-①-1)。

厚生補導研究会は、全教員を対象に毎年8月末頃に学外で2日にわたって教育の諸問題を討論・研究する研修活動で、テーマは教員から募集され、2002年度はFD活動、2005年度は混合学級をテーマとして開催された(資料9-2-②-2)。

更に高専教員間の情報交換や教育研究目的の各種研修会・研究会が実施されており、毎年積極的に参加している。また、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラムに参加し、学術の進展に沿うように教員の質の向上を図っている(資料9-2-①-3)。

授業方法改善研究会の例

平成17年度後期 授業改善研究会（数学科と環境都市工学科との懇談会）

日 時：平成17年12月22日（木） 17:30～18:40

場 所：第1研究棟2階 コミュニティールームC

出席者：(FD推進委員会) 鬼塚

(数学科) 高遠, 鎌田, 関口, 山下, 金子, 大塚

(環境都市工学科) 黒川, 高橋克, 上村, 鬼塚, 青木, 高石

議 事：

(1) 専門科目と数学の科目間対応について

環境都市工学科で作成した「数学と環境都市工学専門科目とのカリキュラム対応表」をもとに全員で協議した。準学士課程2・3年生の環境都市工学専門科目において未習得の数学を使用する機会があるものの、時期的な乖離は大きくなく、また教員個別に対応できていることから、大きな問題はないと判断した。続いて、K教員より現行数学における不足点や強化点のリクエストが寄せられた。環境都市工学科の回答は、数学の基本的なところを確実に教えていただければ良いというものであった。

(2) 新入生の学力試験の結果報告について

S員より、全学科の新入生に行っている数学の学力測定試験の結果について報告があった。環境都市工学科の平均点は2001, 2002年度においては最低だったものの、2004, 2005年度では中位に位置していると報告された。また、環境都市工学科の成績は他の学科と比較して平均点・標準偏差ともに安定する傾向にあることが報告された。一方、全学科において特定の問題の正答率が年々下がっていることが報告された。これについては、高専での数学で対応しているとのことであった。

(3) 公開授業について

(数学科→環境都市工学科)

O教員：3年生の構造力学Ⅰ, 2年生の測量学を見学した。構造力学を見て、環境都市工学科では微分・積分に触れる機会が豊富だと感じた。測量学では三角関数を多用していたが、角度の単位が「何度何分」までいくことに驚いた。決まった角度の関数値以外にも重要だと感じた。

K教員：4年生の上下水道工学を見学した。数学的テクニックを使う場面は無かったが、現象を丁寧に説明していたことが印象的だった。

Y教員：2年生の構造力学Ⅰを見学した。試験問題の返却・解説の時間だった。解説では簡単な微分を使用していたが、現時点ではそれほど複雑な数学は使用しないと感じた。授業方法としては、多くの学生に発問していることが印象的だった。そのせいもあり学生は授業に集中していた。気になったのは黒板の字。英語のつづき字は少々読みづらい印象を受けた。

T教員：4年生の数値解析を見学した。パソコンを用いて学生が自主的に進めていく授業だったので、具体的なところは不明であった。

K教員：3年生の土質力学を見学した。授業は丁寧だった。年末最後の授業ということで、学生は若干集中できていなかったようだ。

(環境都市工学科→数学科)

O教員：2年生の代数幾何を見学した。非常にわかり易く授業されていた。授業方法も大いに参考になった。

A教員：1年生の基礎数学Ⅱを見学した。非常に丁寧でわかり易い授業だった。ときどき出題する例題が、学生に小さな達成感とリズムを与えており、授業の流れをスムーズにしていたという印象を受けた。また、S先生が「これは教科書に載っていないんだが・・・」という学生は特に注意深く聞いていた。今後の自分の授業にも活かしていきたい。

(4) その他

数学科の複数の教員より特定のクラスについてやや学力不振が目立つとの報告があった。環境都市工学科としても注意を払っていくとの回答があった。

以上

(出典 授業方法改善研究会議事録)

厚生補導研究会の実施記録

年度	実施期間	場所	参加者	企画内容	講義内容
1 2	平成 12 年 8 月 28 日(月) ～29 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 鹿野山センター	59 名	高専教育における 課外活動の在り方 に関する研修会	『高等教育機関における課外 活動の意義とその指導方策に ついて』
1 3	平成 13 年 8 月 27 日(月) ～28 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 鹿野山センター	51 名	学寮に関する教員 研修会	『茨城高専学寮の歩みとこれ からの高専寮の役割』
1 4	平成 14 年 8 月 26 日(月) ～27 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 清和	65 名	FD (ファカルティ ・ディベロップメ ント) と授業方法 の改善に関する教 員研修会	『東京工業大学における授業 の改善について』 『千葉大学工学部における 「授業方法改善アンケート」 について』
1 5	平成 15 年 8 月 25 日(月) ～26 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 清和	64 名	独立行政法人下 における学校行事・ 課外活動のあり方	『久留米高専における新しい 学生指導の実践…教養教育の 実現に向けて』
1 6	平成 16 年 8 月 23 日(月) ～24 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 清和	67 名	JABEE 認定申請へ 向けての研修	『JABEE 審査と高専の課題』
1 7	平成 17 年 8 月 29 日(月) ～30 日(火) 1 泊 2 日	国民宿舎 清和	67 名	コミュニケーション を促す学級運営 と学生指導のあり 方	なし

(出典 庶務課資料)

各種研究会への参加状況

平成17年度

- ・ 機構主催高等専門学校新任教員研修会
平成17年8月22日～8月24日
国立オリンピック青少年センター
【室井教授、吉井助教授、武長講師出席】
- ・ 機構主催高等専門学校教員研究集会
平成17年8月18日～8月19日
ホテルサンルート徳山
【東助教授出席】
- ・ 関東信越地区国立高等専門学校教員研究集会
平成17年8月25日～8月26日
群馬工業高等専門学校
【天摩教授、鶴田教授出席】
- ・ 機構主催全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会
平成18年1月30日～1月31日
学術総合センター
【高橋邦教授出席】
- ・ 機構主催教育教員研究集会
平成17年8月25日～8月26日
伊勢市観光文化会館
【東助教授出席】
- ・ 機構主催高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会
平成17年7月19日～7月29日
豊橋技術科学大学
【大枝助手出席】
- ・ 全国学生相談学会主催全国学生相談研修会
平成17年12月4日～12月6日
東京国際フォーラム
【鈴木聡助教授出席】
- ・ 機構内地研究員
平成17年5月1日～平成18年2月28日
横浜国立大学
【泉助教授】
- ・ 文部科学省大学教育の国際化推進プログラム
(海外先進研究実践支援)
平成17年3月25日～平成18年3月24日
ドイツ ベルリン自由大学
【柴田助教授】

平成16年度

- ・ 機構主催高等専門学校新任教員研修会
平成16年8月18日～8月22日
国立オリンピック青少年センター
【米村助手、浅野助手、坂元助手、大枝助手出席】
- ・ 機構主催高等専門学校教員研究集会
平成16年7月29日～7月30日
釧路東急イン
【石川雅之教授出席】
- ・ 関東信越地区国立高等専門学校教員研究集会
平成16年8月30日～8月31日
東京工業高等専門学校
【中村教授、橘川教授出席】
- ・ 機構主催全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会
平成17年3月22日～3月23日
学術総合センター
【中村教授出席】
- ・ 機構主催教育教員研究集会
平成16年8月26日～8月27日
ホテルメトロポリタン長野
【大澤教授出席】
- ・ 機構主催高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会
平成16年11月15日～11月19日
豊橋技術科学大学
【青木助手出席】
- ・ 全国学生相談学会主催全国学生相談研修会
平成16年11月22日～11月23日
東京国際フォーラム
【中村教授出席】
- ・ 文部科学省大学教育の国際化推進プログラム
(海外先進研究実践支援)
平成17年3月25日～平成18年3月24日
ドイツ ベルリン自由大学
【柴田助教授】
- ・ 長岡技術科学大学主催高等専門学校・長岡技術科学大学教員交流研究集会（環境・建設系）
平成16年8月5日～8月6日
長岡技術科学大学
【青木助手出席】
- ・ 機構主催関東信越地区教員研究集会
平成17年1月31日～2月1日
アトリウム長岡
【福地助教授、泉講師出席】

(出典 庶務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業改善の観点からは、全教員を対象とした授業評価アンケートの実施と授業実施記録の作成、授業公開・授業方法改善研究会、厚生補導研究会の実施が行われている。また、教員の質を高める観点からは、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラムによる大学等への派遣、高専間の各種研修会への参加が行われている。

以上のような組織としてのFDが実施されている。

観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点到に係る状況)

継続的な授業改善については、全教科対象の授業評価アンケートにより行われている(観点9-1-④, ⑤参照)。また、授業公開や授業方法改善研究会等が実施されており、教育改善に結びついている。これらは、授業実施記録内の授業改善としてのコメントと教員に対するアンケート収集によって確認できる(資料9-2-②-1)。

また、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラム制度により教員の質の向上を図り、その成果が学生の授業等(主に卒業研究や特別研究等)に活かされている(観点9-1-⑥参照)。

更に、厚生補導研究会の開催や他高専教員間の各種研修会・研究会等にも参加し、様々な教育に関する議論の基礎資料として活用されている。例えば、「低学年教育における教育内容及び指導方法の在り方」(資料9-2-②-2)は2006年度入学生からの混合学級の導入に関する議論の基礎資料となった。

授業公開・授業方法改善研究会による改善例

(1) 公開授業による改善例

- ・ 公開授業において、板書の仕方が整理されていないとの指摘を受けた。この点について特に注意して改善を図った結果、こうした指摘を受ける頻度が大きく減少した。
- ・ 出来るだけわかりやすく話しているつもりであるが、電磁気や力学の基本的なことが理解出来ない学生にとっては難解な点が多いようである。低学年の公開授業や物理科との懇談会などを参考に教授法の改善に努めた。

(2) 厚生補導研究会による改善例

- ・ 教材作成と配布の目的を明確にし、学生への教育効果を高めるように意識し、配布するようになった。

(3) 授業方法改善研究会による改善例

- ・ 授業評価アンケートや公開授業において、板書の仕方が整理されていないとの指摘を受けた。この点について特に注意して改善を図った結果、こうした指摘を受ける頻度が大きく減少した。
- ・ 機械工学科と物理科の懇談会で、応用物理Ⅲにおいて力学演習が中心であるが、熱や音に関する項目を取り入れて欲しいという要望があり、次年度から対応することとし、シラバスの改定を行った。
- ・ 出来るだけわかりやすく話しているつもりであるが、電磁気や力学の基本的なことが理解出来ない学生にとっては難解な点が多いようである。低学年の公開授業や物理科との懇談会などを参考に教授法の改善に努めた。
- ・ 化学との懇談会で、生化学に関してはほとんど行っていないということだったので、本講義において高校から大学初等レベルの簡単な生化学についての概論を取り入れた。

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

「低学年教育における教育内容及び指導方法の在り方」目次

目次

はじめに

第1章 プロジェクトの概要

1. 高等専門学校教育課程の牽遷
2. プロジェクトの目的
3. アンケートの実施
4. 教育実践事例調査
5. 中間報告書に対する意見調査
6. 平成10年度教員研究集会

第2章 教育内容及び指導力法に関する調査と分析

1. 一般教育と専門教育の在り方
 - 1.1 アンケート調査の項目と調査目的
 - 1.2 調査のまとめと分析
 - 1.3 問題点の抽出
 - 1.4 調査結果に対する意見
 - 1.5 まとめ
2. いわゆる座学と実験・実習の現状と在り方についての結果と分析
 - 2.1 調査の実施内容
 - 2.2 調査の集計結果と分析
 - 2.3 調査のまとめ及び検討事項
 - 2.4 調査結果に対する意見
 - 2.5 まとめ
3. コンピュータ教育の現状と在り方
 - 3.1 調査の実施内容
 - 3.2 調査結果とその分析
 - 3.3 調査のまとめ及び検討事項
 - 3.4 中間報告書に対する意見
 - 3.5 まとめ

4. 低学年で実施する専門科目の種類と内容の在り方

- 4.1 調査の実施内容
- 4.2 実施中の低学年専門科目の現状(授業内容比率)
- 4.3 各専門科目の特色・工夫点
- 4.4 今後、低学年での教育が望ましい専門科目
- 4.5 低学年で実施する専門科目の在り方
- 4.6 調査のまとめ
- 4.7 調査結果に対する意見
- 4.8 まとめ

5. 習熟度別学級編成・混合学級など指導方法の工夫

- 5.1 習熟度別学級編成
- 5.2 混合学級についての調査と分析および意見提言
- 5.3 その他の工夫

第3章 教育実践事例

1. 目的意識及び学習意欲の向上を目的とした教育実践事例
 - 1.1 取組課題
 - 1.2 実践事例の概要
2. 創造教育の実践事例
 - 2.1 取組課題
 - 2.2 実践事例の概要

第4章 中間報告書を読んだの総合的意見

第5章 まとめ及び提言

調査研究組織

あとがき

(出典 「低学年教育における教育内容及び指導方法の在り方」)

(分析結果とその根拠理由)

FD活動とその内容は、授業改善アンケートの実施と分析→授業改善、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラムへの参加→教員の質の向上と教育の質の向上、各種研修会・研究会の参加や厚生補導研究会→多様な教育に関する議論と知見の獲得・基礎資料化、等にそれぞれが結びついている。

以上のように、FDが教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育改善サイクルは、教育課程の見直し等の中・長期的な視点が必要なものに対する大きな教育改善サイクルと、授業改善等の比較的短期に実施する必要のあるものに対するPDCA教育改善サイクルの2つがあり、改善すべき問題の性質に合わせて対応できる体制ができており、効果的な教育改善が可能となっている。

また、本校の授業改善の基本方針である「真に授業改善が行えるのは授業担当教員である」との考え方から、授業評価アンケートは教員自身による授業改善をはかる目的で実施されており、例えば授業評価アンケートを教員評価と関連付けるような他力的な授業改善方法とは一線を画している。このように授業改善を推し進める主体を教員としたことが、本校のFDに対する特色ある姿勢となっている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準9の自己評価の概要

本校では、教育活動の実態を示すデータや資料として学籍・単位認定・成績考査に関するものを保存している。また、教育の質の向上・改善に必要な資料として授業実施記録を作成・保存している。

学生の意見聴取は、授業評価アンケート、「学生の声」箱・メール、在校生対象の座談会、学級担任によって広く聴取している。学外関係者の意見は、外部評価として学外有識者による第三者評価としての意見を聴取している。またアンケート方式により、修了生、大学、企業から聴取している。

学校全体の自己点検・評価は、自己点検等委員会がその実施と外部評価のまとめを行っている。また、中期計画推進委員会が年度計画に対する評価を実施し、その結果を次期年度計画に継続的に反映させている。それらに基づき、実務を担う各委員会で具体的な教育改善の方法について立案・審議し、各学科・学系の会議、教官会議、運営協議会の審議を経て実施に移される。教育課程の見直し等については中・長期的な視点に立って行われる必要があり、この大きな改善のサイクルの中で行われる。

授業改善については、授業評価アンケートの実施と授業実施記録の作成による自己点検・評価によって、教員自ら具体的な授業改善に取り組んでおり、その自己点検・評価を次年度の授業計画に反映させることによって教員自身による継続的な授業改善を実現している。改善状況は、授業実施記録の作成状況の確認と授業改善事例のアンケート調査により、実情の把握に努めている。

授業改善の観点では授業評価アンケートの他に、授業公開・授業方法改善研究会等の実施がある。また、教員の質を高める観点からは、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラムによる大学等への派遣、厚生補導研究会や高専間の各種研修会への参加がある。更に、教員の最近の研究成果を主に卒業研究・特別研究等に取り入れることによって新しい技術やその流れを教育に取り込んでおり、教育の質の改善に寄与している。これらの活動は、授業評価アンケートの実施→授業改善、機構内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラムへの参加→教員の質の向上による教育の質の向上、各種研修会・研究会の参加と厚生補導研究会→多様な教育に関する議論・知見の獲得とその基礎資料化にそれぞれが結びついている。

本校では以上のように、教育の質の向上と改善のためのシステムが整備されている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校は目的に沿った教育活動を将来的に適切かつ安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有している(資料10-1-①-1～2, 詳細は基準8)。また本校には債務はない。

本校の施設の概要

施設の概要 **FACILITIES**

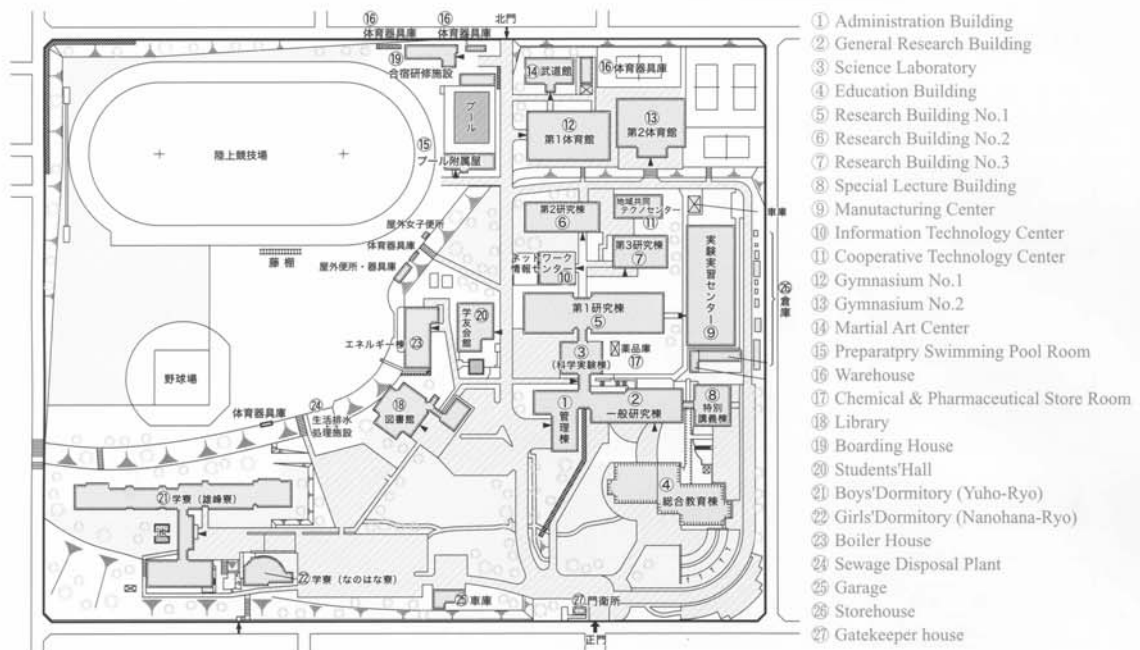
敷地 *Land*

校地 College Area	職員宿舍 Staff Housing		総面積 Land Area
清見台キャンパス	祇園	高砂	
100,054 m ²	1,736 m ²	2,759 m ²	104,549 m ²

建物 *Buildings*

区分	構造	面積	設置年度	区分	構造	面積	設置年度
① 管理棟	R・2	4,090 m ²	S42	⑮ プール・プール附属屋	R・1	258 m ²	H6
② 一般研究棟	R・2			⑯ 体育器具庫他	R・1	258 m ²	S45~S46
③ 科学実験棟	R・2			⑰ 化学薬品庫	R・1	30 m ²	S51
④ 総合教育棟	R・4			⑱ 図書館	R・3	1,771 m ²	S51
⑤ 第一研究棟	R・4	4,091 m ²	S43	⑲ 合宿研修施設	S・1	205 m ²	S53・54
⑥ 第二研究棟	R・4	2,200 m ²	S59	⑳ 学友会館	R・2	702 m ²	S56
⑦ 第三研究棟	R・5	2,183 m ²	H4	㉑ 学寮(雄峰寮)	R・4	6,233 m ²	S42・H12
⑧ 特別講義棟	R・2	717 m ²	S63	㉒ 学寮(なのはな寮)	R・4	734 m ²	H12
⑨ 実験実習センター	S・1	1,555 m ²	S43	㉓ エネルギー棟	R・1	398 m ²	S42
⑩ ネットワーク情報センター	R・1	302 m ²	S50	㉔ 生活排水処理施設	R・1	30 m ²	S54
⑪ 地域共同テクノセンター	R・2	414 m ²	H12	㉕ 車庫	S・1	112 m ²	S44
⑫ 第1体育館	S・1	1,153 m ²	S43	㉖ 倉庫他	S・1	351 m ²	S45~S60
⑬ 第2体育館	S・R・1	880 m ²	S58	㉗ 門衛所	S・1	24 m ²	H15
⑭ 武道場	S・1	311 m ²	S44	計		32,524 m ²	

建物配置図 **MAP OF THE CAMPUS**



本校資産保有状況一覧(例)

出力日 平成18年 4月25日

資産一覽表

事業年度：16年度
 支部：15_木更津工業高等専門学校
 会計区分：国立高専機構

資産管理番号	資産名称	管理資産区分 中期計画区分 特定資産区分	取得財源区分 取得形態区分 勘定科目	設置場所 管理部門 管理責任者	資産種類 規格	用途区分 備考	取得日 供用日 除却日	耐用年数(月数) 償却率 残存価格	最終計上日 計上事由 経過年数	取得額 減価償却累計額 帳簿価額
SSI6H00A01000001	建物(管理棟・一般研究棟・科学実験棟)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	事務所用又は美術館用 延面積 1669.19 積 4090.26	教育・研究用 103002001/昭和43年6月29日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	44(年) 0.023	平成17年 3月31日 償却(登録済)	208,681,205 4,799,668
SSI6H00A01000002	建物(学寮(種峰寮))	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	住宅用、寄宿舎用、宿 延面積 1831.24 積 6222.91	教育・研究用 103001001/昭和43年6月29日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	35(年) 0.029	平成17年 3月31日 償却(登録済)	317,350,333 9,203,160
SSI6H00A01000003	建物(工ネルギー棟)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	事務所用又は美術館用 延面積 415.1 積 415.1	一般管理用 103003001/昭和43年6月29日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	8(年) 0.125	平成17年 3月31日 償却(登録済)	9,480,535 1,185,067
SSI6H00A01000004	建物(工ネルギーセンター)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	住宅用、寄宿舎用、宿 延面積 1449.85 積 1555.33	教育・研究用 103004001/昭和44年3月11日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	6(年) 0.166	平成17年 3月31日 償却(登録済)	20,702,100 3,456,548
SSI6H00A01000005	建物(第1体育館)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	住宅用、寄宿舎用、宿 延面積 987.6 積 1152.27	教育・研究用 103005001/昭和44年3月11日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	8(年) 0.125	平成17年 3月31日 償却(登録済)	26,249,667 3,281,208
SSI6H00A01000006	建物(第1研究棟)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	事務所用又は美術館用 延面積 1374.39 積 4092.27	教育・研究用 103006001/昭和44年3月11日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	15(年) 0.066	平成17年 3月31日 償却(登録済)	90,504,031 5,973,266
SSI6H00A01000007	建物(武道場)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	住宅用、寄宿舎用、宿 延面積 311.04 積 311.04	教育・研究用 103007001/昭和45年3月20日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	8(年) 0.125	平成17年 3月31日 償却(登録済)	4,895,282 611,910
SSI6H00A01000008	建物(車庫)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	事務所用又は美術館用 延面積 112.22 積 112.22	一般管理用 103008001/昭和45年3月20日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	6(年) 0.166	平成17年 3月31日 償却(登録済)	4,283,372 1,616,402
SSI6H00A01000009	建物(実験室・倉庫)	償却資産	政府出資 自己所有 建物	木更津高専校舎 共通分 不動産管理役	その他のもの(鉄骨鉄筋 延面積 101.64 積 101.64)	一般管理用 103021001/昭和48年1月31日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	6(年) 0.166	平成17年 3月31日 償却(登録済)	1,188,541 197,298

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育・研究活動を安定的に遂行するための資産を保有している。本校の資産は、2004年4月1日の独立行政法人化に伴い、政府から独立行政法人国立高等専門学校機構に出資され、本校が管理している。また起債は高専機構が一括して行うため本校独自の債務はない。

観点 10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

2005年度における本校の教育・研究を支える運営費・事業費等の収入予算及び支出予算の推移、決算関係諸表を資料 10-1-②-1～3に示す。本校は2004年度から独立行政法人に移行したため、従来の国立学校特別会計による予算配賦から、収支差補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となっている。科学研究費補助金、受託研究費、奨学寄附金等外部資金の受入にも努力している(資料 10-1-②-4)。

資料 10-1-②-1

2005 年度収入額

(単位：円)

項目 科目	配分予 算額 (A)	第1・四半期 収入実績額	第2・四半期 収入実績額	第3・四半期 収入実績額	第4・四半期 収入実績額	合 計(B)	差 引 過 △不足額 (A-B)
授業料収入	245,427,865	125,118,000	117,300	124,924,500	0	250,159,800	△4,731,935
入学料収入	20,811,000	0	0	0	21,081,200	21,081,200	△270,200
検定料収入	6,915,000	627,000	66,000	115,500	5,684,000	6,492,500	422,500
雑収入	11,710,000	3,934,870	2,961,464	2,886,225	2,755,224	12,537,783	△827,783
講習料収入	0	10,800	113,100	10,800	0	134,700	△134,700
職員宿舍料収入	8,248,000	2,027,403	2,022,928	2,020,416	1,954,874	8,025,621	222,379
寄宿料収入	2,430,000	732,000	744,200	742,000	747,800	2,966,000	△536,000
その他の貸付料収入	1,032,000	1,164,667	81,181	93,628	47,928	1,387,404	△355,404
その他収入	0	0	55	19,381	4,622	24,058	△24,058
学校財産処分収入	0	0	0	0	0	0	0
合 計	277,354,000	100,908,033	5,473,600	124,064,500	30,969,179	290,271,283	△5,407,418

(出典 会計課資料)

資料10-1-②-2

貸借対照表

資産の部	金額 (円)	負債・資本の部	金額 (円)
流動資産	132,165,815	負債の部	
現金及び貯金	131,080,620	流動負債	157,655,363
棚卸資産	1,038,696	預り寄付金	15,565,113
前払費用	46,499	前受受託事業費等	2,200,001
固定資産	5,328,690,793	未払金	133,952,604
建物	3,658,615,020	未払費用	3,458,145
建物減価償却累計額	-495,086,256	預り金	2,479,500
構築物	274,447,247	固定負債	122,597,146
構築物減価償却累計額	-100,556,009	資産見返負債	122,597,146
車両運搬具	9,632,714	負債の部合計	280,252,509
車両運搬具減価償却累計額	-2,881,337	資本の部	
工具器具備品	217,837,757	資本金	5,776,534,859
工具器具備品減価償却累計額	-109,080,343	政府出資金	5,776,534,859
土地	1,871,500,000	資本剰余金	14,821,730
その他	4,262,000	資本剰余金施設費	10,229,730
無形固定資産	614,928	資本剰余金譲与	4,592,000
電話加入権	330,000	損益外減価償却累計額	-610,315,487
特許権仮勘定	284,928	利益剰余金	80,705
投資その他の資産	34,248	当期末処理利益	80,705
資産の部合計	5,461,505,784	資本の部合計	5,181,121,807
[本支店]機構本部	-131,468	負債・資本の部合計	5,461,374,316
合 計	5,461,374,316		

(出典 会計課資料)

資料10-1-②-3

損益計算書

費用の部勘定科目表示名称	明細金額	収益の部勘定科目表示名称	明細金額
業務費	1,363,683,436	[経常収益] 運営費交付金収益	1,054,203,704
教育・研究経費	231,160,328	[経常収益] 授業料収益	262,493,700
消耗品・備品費	91,422,959	[授業料収益] 授業料収益	262,359,000
印刷製本費	6,929,976	[授業料収益] 講習料収益	134,700
水道光熱費	26,871,538	[経常収益] 入学金収益	21,081,200
旅費交通費	21,829,839	[経常収益] 検定料収益	6,492,500
通信運搬費	3,325,743	[経常収益] 受託研究等収益	14,627,507
賃借料	4,153,427	受託研究収益	1,617,500
車両燃料費	1,756,100	共同研究収益	13,010,007
福利厚生費	943,950	[経常収益] 受託事業等収益	125,400
保守・修繕費	17,314,431	[経常収益] 補助金等収益	3,742,000
広告宣伝費	527,940	[経常収益] 寄附金収益	15,237,836
諸会費	1,353,343	[経常収益] 施設費収益	10,502,625
会議費	21,735	[経常収益] 資産見返負債戻入	39,514,874
支払報酬	2,390,845	資産見返運営費交付金等戻入	3,248,197
奨学費	12,199,200	資産見返補助金等戻入	0
減価償却費	26,323,809	資産見返寄附金等戻入	113,750
雑費	13,795,493	資産見返物品受贈額戻入	36,152,927
教育研究支援費	56,318,869	特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0
消耗品・備品費	7,399,892	[経常収益] 財務収益	55
印刷製本費	738,276	受取利息	55
水道光熱費	3,531,488	その他の財務収益	0
旅費交通費	3,098,400	[経常収益] 雑益	12,403,028
通信運搬費	6,801,327	財産貸付料収入	12,379,025
賃借料	7,092,216	文献複写料	0
車両燃料費	437,207	物品受贈益	0
保守・修繕費	15,251,958	債権受贈益	0
広告宣伝費	119,280	承継剰余金債務戻入	0
減価償却費	11,194,516	その他の雑益	24,003
雑費	654,309	収益の部合計	1,440,424,429
受託研究費	14,627,504		
教員人件費	695,561,573		
職員人件費	365,889,762		
一般管理費	76,711,412		
消耗品・備品費	10,079,547		
印刷製本費	723,057		
水道光熱費	14,384,676		
旅費交通費	2,479,907		
通信運搬費	1,073,721		
賃借料	4,772,417		
車両燃料費	330,961		
福利厚生費	472,823		
保守・修繕費	25,339,163		
損害保険料	25,382		
広告宣伝費	923,496		
諸会費	96,000		
支払手数料	561,655		
租税公課	2,803,250		
減価償却費	1,996,549		
雑費	10,648,808		
臨時損失	10,500		
その他の臨時損失	10,500		
費用の部 合計	1,440,405,348		
当期末処分利益	19,081		
費用及び当期末処分利益の部合計	1,440,424,429		

(出典 会計課資料)

資料10-1-②-4

外部資金獲得状況 科学研究費補助金採択状況

(単位:千円)

研究題目 年度	基盤研究B		基盤研究C		奨励研究A		奨励研究		若手研究B		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成13年度	1	2,300	1	1,800	5	3,900					7	8,000
平成14年度			4	5,100					2	1,900	6	7,000
平成15年度			3	2,500					4	5,400	7	7,900
平成16年度			3	2,000					5	3,900	8	5,900
平成17年度			2	1,300			2	1,440	3	3,400	7	6,140

民間等との共同研究受入状況

(単位:千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	3,000	1	2,000	3	5,600	7	10,230	9	13,610

受託研究受入状況

(単位:千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	0	0	2	1,250	1	105	3	1,618

奨学寄附金受入状況

(単位:千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
15	11,700	16	11,563	16	9,180	20	12,930	18	10,900

(出典 会計課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は継続的に経常的収入を確保している。また運営費交付金については国から高専機構を通じて継続的に交付されており安定的に確保されている。さらに科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金についても収入の確保に努めている。

観点 10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る企画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

各年度の予算に係る計画については、会計課で学内予算配分基準(案)を校内予算配分方針として検討し、運営協議会で承認後(資料10-2-①-1)、教職員に明示し、その方針により適正に配分している。また財務状況に関しては毎年学校要覧に記載して明示している(資料10-2-①-2)。

校内予算配分方針

平成17年度 学内予算配分基準

平成17年7月7日

1. 物件費

・共通事項

物件費については、物件費総額の8%を予備費として計上する。

固定的維持費とは、消耗品費・光熱水料・通信運搬費・保守委託費等をいう。

I ①〔教育研究経費〕

〔教育経費＋学生支援経費〕

各学系・学科等への配分額は、授業科目により配分指数を一般:1、実験:3.5、専門:4として、当該年度年単位数を学系・学科等別(一般・実験・専門)に集計し、それぞれの配分指数を乗じて得た指数の計に、1指数当たりの単価を乗じた額を、計数整理のうえ配分する。

〔研究経費〕

各学系・学科等への配分額は、授業科目により配分指数を校長:4、一般:1、実験:3.5、専門:4、助手:1、として、教官定員に、それぞれの配分指数を乗じて得た指数の計に、1指数当たりの単価を乗じた額を、計数整理のうえ配分する。

②〔教育研究設備維持運営費〕

光熱水料調整額30%を差し引いた額を各教育研究設備(特別設備維持費)設置の学科等へ配分する。

③〔特別事業経費〕

事項別内訳のとおり配分する。

II 〔教育研究支援経費〕

学内措置経費(1,580千円)として、実習工場(500千円)・地域共同テクノセンター(580千円)・技術支援センター(500千円)に配分する。

III 〔一般管理費〕

固定的維持費を配分する。

なお、この経費については、全体として前年度実績から3%(4,600千円)の節約を図る。

2. 予備費の配分方法について

①執行予定分として、事業計画経費(事業計画経費・JABEE経費)及び非常勤講師経費と非常勤講師等旅費(在外研究員・内地研究員派遣のための増分)を配分する。

②未執行分として、不測の事態に対応するための経費として保留額とする。

(出典 会計課資料)

財務状況の明示

歳入・歳出額等 *Incomes and Expenditures*

(平成16年度：2004)

歳入額 *Incomes*

(単位 千円)

科 目 Items	決 算 額 Amount
運営費交付金(資金送金総額) Administration Fees	1,159,059
授業料等収入 Tuition Fees	271,171
その他収入(講習料・職員宿舍料・寄宿料・その他) Others	15,779
施設設備費補助金 Supporting for Facilities	9,660
合 計 Total	1,455,669

歳出額 *Expenditures*

(単位 千円)

科 目 Items	決 算 額 Amount
人件費 Personnel Expenses	1,072,822
物件費等(物件費・施設維持費・旅費等) Nonpersonnel Expense	373,187
施設設備費 Facility Expenses	9,660
合 計 Total	1,455,669

科学研究費補助金採択状況 *Grant-in-Aid for Scientific Research*

(単位 千円)

年度	基盤B		基盤C		奨励A		奨励B		若手B		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成13年度	1	2,300	1	1,800	5	3,900					7	8,000
平成14年度			4	5,100					2	1,900	6	7,000
平成15年度			3	2,500					4	5,400	7	7,900
平成16年度			3	2,000					5	3,900	8	5,900

民間等との共同研究受入状況 *Research Cooperation with Industry*

(単位 千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	3,000	1	2,000	3	5,600	7	10,230

受託研究受入状況 *Commissioned Research*

(単位 千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	0	0	2	1,250	1	105

奨学寄附金受入状況 *Grants and Endowment*

(単位 千円)

平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
15	11,700	16	11,563	16	9,180	20	12,930

(分析結果とその根拠理由)

各年度の予算に係る計画については、会計課で定めた方針を、運営協議会等を通じて教職員に明示している。また財務状況についても明示している。

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

高専機構理事長は、毎事業年度開始前に独立行政法人通則法第 31 条第 1 項に定める年度計画に基づいて予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。また作成した予算実施計画に基づく予算額を各高専契約担当役及び出納命令役に通知するものとされている(資料 10-2-②-1)。本校は、高専機構からの収支予算額以上の支出は出来ない構造となっている。

資料 10-2-②-1

高専機構会計規則第 17 条 18 条抜粋

(予算実施計画の作成)

第 17 条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第 31 条第 1 項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

(予算実施計画の通知)

第 18 条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当及び出納命令役に通知するものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 34 号)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第 18 条により通知された予算額を以って執行計画を策定し、収支はバランスの取れたものとなっており、過大な支出超過とはなっていない。

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

資料 10-2-①-1 に記載の通り校内予算配分方針を定めている。教育研究上特に必要とされる設備経費については、高専教育充実設備費を設け、各学科、教員等からの申請により将来構想検討委員会において審議し予算を重点的に配分している（資料 10-2-③-1）。

また施設の整備については、施設整備専門委員会において全学的に検討した後、将来構想検討委員会で諮られ、資源の効率的な配分を行っている（資料 10-2-③-2）。

資料 10-2-③-1

高専教育充実設備費

平成17年度高専教育充実設備費配分一覧(優先順位順)

「平成17年度予算配分金額 12,500千円」

No.	設 備 名	要 求 学 科	配分予定額 (要求額)	中 期 計 画	H17事業 計 画 案	備 考
1	専攻科生研究用ノートパソコン整備	専攻科	1,200	専攻科生の研究発表を 推進する ⁽²⁾ 研究に関すること	有 (未採択)	
	概要【既存の20台を10台増設する】		(1,964)			
2	精密加工用旋盤の更新	実習工場	3,500	教育環境の充実・整備 (1-(6))	無	三式要 求のうち 一式を 措置
	概要【4尺旋盤の更新】		(10,449)			
3	視覚教育システムの整備	機械工学科	3,900	教育環境の充実・整備 (1-(6))	無	予算額 の範囲 内
	概要【3次元CADソフトを使用した設計 製図のシステムを構築】		(12,410)			
3	CAD室コンピューターシステムの更新 (第I期)	環境都市 工学科	3,900	教育環境の充実・整備 (1-(6))	無	予算額 の範囲 内
	概要【実践的な製図授業の実現を目的 としたCAD室の設備更新】		(6,640)			
合 計 金 額			12,500 (31,463)			

(出典 会計課資料)

施設整備専門委員会議事録例

平成17年度 第1回 施設整備専門委員会 議事録

1. 開催日 平成17年5月11日(水) 16:00～
2. 場所 第2会議室
3. 出席者 角田幸紀(委員長), 平安隆雄(人), 高橋邦夫(基礎), 石出忠輝(M), 石川雅之(E), 鈴木聡(D), 和崎浩幸(J), 石田博樹(C), 原庶務課長, 三上会計課長, 椎名学生課長 永井総務係長, 橋本施設係長
4. 議題 (1) 前回議事録の確認
(2) 平成17年度事業計画について
(3) 平成18年度概算要求について
(4) その他
(4-1)環境・鬼塚教官からの屋上緑化の研究における第3研究棟屋上などの利用の申し出について
(4-2)労働組合及び会計課の掲示板の設置について
(4-3)学生課等行先表示の設置について
5. 資料 ① P.2 平成16年度第7回施設整備専門委員会議事録
② P.3～5 平成17年度事業計画について(案)
③ P.6～11 平成18年度概算要求(案)
④ P.12～16 微細粒子土を屋上緑化土として使用するための植生比較実験研究計画書
⑤ P.17,18 労働組合及び会計課の掲示板の設置について
⑥ P.19 学生課等行先表示図面
6. 議事 (1) 前回議事録の確認
資料①にて説明。
- (2) 平成17年度事業計画について
・資料②の全てについて本委員会から将来構想委員会に挙げる事とする。
・電気容量等調査の2件については,緊急性等を鑑み優先度上位とする。
・雄峰寮及び祇園宿舍の耐震診断については耐震改修促進法上の努力義務の観点からも重要であるが,学内経費で賄うには事業費が甚大であり優先度を中位とする。
・学友会館の耐震診断については新耐震基準以降の建築であり,耐震改修促進法の適用を受けないこともあり優先度は下位とする。
・学生食堂業務従業員用駐車場については既存の臨時駐車場を貸与し様子を見る事とし,事業計画としては採らない事とする。
- (3) 平成18年度概算要求について
・施設整備については資料③の通りとして了承された。
・当繕事業についてはボイラー改修が経センター施設費の交付の内定を受けたことから今回要求書からは取り下げる事とし,身障者対策・空調改修を順次繰上げ,更に,第1研究棟屋上防水改修を加えた3件で要求することとした。
- (4) その他
(4-1)・屋上緑化の研究について了承された。鍵の管理については庶務課の指示による事。
・埋戻し土の研究について基本的には第1研究棟南側中庭で良いとの合意を得たが,実際に研究を行う際には,改めて計画書を提出してもらう事。
・庶務課長より,環境の高橋克教官から学友会館の池で水棲植物を利用して魚などにとって良好な環境を構築する為の研究をしたい旨の申入れがあり,了承したとの報告があった。
(4-2) 設置自体については了承された。会計課掲示板の位置については情報公開室側の壁とした。
(4-3) 設置自体については了承された。文面の校正については庶務課長に一任する。
(4-4) 管理棟玄関の錠前の調子が良くないので手入れをするよう申入れがあった。

以上

(出典 施設設備専門委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

予算配分の方針の明示がされ、議論がなされた上で決定されている。高専教育充実設備費などの学内採択経費を設けることにより柔軟な予算執行を行っている。また施設の整備については、施設整備専門委員会において全学的な見地から検討し、経費の効率的な配分を行っている。

観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構として統一された財務会計システムにより財務会計処理を行っている。年度末決算後、このシステムにより財務諸表等が作成され広く公開されている。また高専機構理事長は、上記の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表することとなっている(資料 10-3-①-1~2)。

資料 10-3-①-1

高専機構会計規則 第 44 条抜粋

(年度末決算)

第 44 条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度 5 月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典 独立行政法人国立高専機構規則第 34 号)

資料 10-3-①-2

高専機構財務諸表 高専機構ホームページでの公表の例

財務諸表

第1期事業年度
(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

独立行政法人 国立高等専門学校機構

(出典 独立行政法人国立高専機構ホームページ
<http://www.kosen-k.go.jp/information.html>)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第 44 条により、当該年度における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するため各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定している。また高専機構理事長は、翌事業年度 5 月末日までに財務諸表を作成し、公表している。

観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人通則法第 39 条より、監事による監査及び会計監査人による監査が明確に規定されているとともに(資料 10-3-②-1)、高専機構会計規則第 45 条により、会計機関の義務及び責任並びに内部監査を明確に規定している(資料 10-3-②-2)。外部監査として、会計検査院による会計実地検査及び監査法人による監査が予定されている。

資料 10-3-②-1

「独立行政法人通則法」 会計監査に関する条文抜粋

(会計監査人の監査)

第三十九条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定められる基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

(会計監査人の選任)

第四十条 会計監査人は主務大臣が選任する。

(会計監査人の資格)

第四十一条 株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律（昭和四十九年法律第二十二号）第四条（第二項第二号を除く。）の規定は、第三十九条の会計監査人について準用する。この場合において、同法第四条第二項第一号中「第二条」とあるのは、「独立行政法人通則第三十九条」と読み替えるものとする。

(会計監査人の任期)

第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。

(会計監査人の解任)

第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
- 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(出典 独立行政法人通則法 平成 11 年法律第 103 号)

資料 10-3-②-2

高専機構会計規則 第 45 条第 46 条抜粋

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(会計機関の義務及び責任)

第 46 条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 34 号)

(分析結果とその根拠理由)

財務に対する会計監査は、独立行政法人通則法及び高専機構会計規則に明確に定められている。高専機構における監事及び特に命令された教職員による内部監査、監査法人及び会計検査院による外部監査を受けることになっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育活動等を安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有するとともに、授業料、入学検定料、入学料、高専機構からの運営費交付金の配分予算等から経常的な収入が確保されている。科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費、奨学寄附金等外部資金の受入れにも努力している。

予算配分方針を作成し、適切に予算の配分を行っている。教育研究活動の活性化のために、高専教育充実設備費を設け、予算を重点的に配分している。

本校では当該年度における資産・負債の残高並びに損益に関し、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行い、所定の手続きに従って機構本部に報告している。高専機構理事長は、それに基づき翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している。

財務に対する会計監査は独立行政法人通則法及び高専機構会計規則に明確に定められている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

本校では、全ての教職員が、学則第1条に規定する本校の目的の達成を目指し、明確な方針の下に、それぞれの創意を發揮しながら互いに協力して職務を遂行できるようにすることを目標とした管理運営が行われるよう、「木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則」(以下「組織運営規則」という。)(資料11-1-①-1)が制定されている。

組織運営規則は、内部組織を定め、併せて本校の管理運営に関する主要な校務の処理手続を明らかにすることを目的としたものであるが、各条項において、校長、主事、各委員会及び会議等の役割が明確に定められており、特に第5条第3項において各主事の役割について明記されている。また、第3条において、各組織は、その職務上の権限に基づいて有効適切に校務を処理することについて校長に対して責任を負う「執行機関」と、その構成員の創意と判断を生かし、それぞれの役割に応じて執行機関の職務の遂行が公正妥当なものとなるよう援助する「審議機関」とに分類されており、前者については「第2章 内部部局及び執行機関」、後者については「第3章 審議機関」において詳細に規定されている。

なお、第22条において「教官会議」について定義されているが、これは本校の運営に関する重要事項等について審議し、必要な情報について連絡し、本校における校務の執行について総括的に評価するための機関である。また、本校の校務の執行に関する重要事項について合議決定するため、校長及び各主事等を構成員とする「運営協議会」が設置されているが、この詳細については第23条で規定されている。

また、諸規則等において示されているとおり、本校の諸組織の全ての活動に関しては、全体を把握した校長のリーダーシップのもとで諸活動が行われるよう管理運営体制が組まれており(資料11-1-①-2)、各種委員会等においてまとめられた提案事項等は、最終的には運営協議会に諮られ、校長が最終決断を行う体制となっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校の目的を達成するための諸規則が良く整備されており、種々の問題に対する迅速な対応が可能となっている。また、校長及び各主事等の役割も明確に定められており、中期計画の策定等も校長のリーダーシップのもとで滞りなく行われた。よって、本校では効果的な意思決定が行われていると判断される。

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

第1章 総則

(この規則の目的)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営のため独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（以下「機構規則」という。）第5条の規定による本校の内部組織を定め、併せて本校の管理運営に関する主要な校務の処理手続を明らかにすることを目的とする。

(管理運営の目標)

第2条 この規則による本校の管理運営は、すべての教職員が、学則第1条に規定する本校の目的の達成をめざし、明確な方針の下に、それぞれの創意を發揮しながら互いに協力して職務を遂行できるようにすることを目標とする。

(執行機関と審議機関)

第3条 この規則第2章に規定する執行機関は、その職務上の権限に基づいて有効適切に校務を処理することについて校長に対して責任を負い、第3章に規定する審議機関は、その構成員の創意と判断を生かし、それぞれの役割に応じて執行機関の職務の遂行が公正妥当なものとなるよう援助するものとする。

(校務の処理手続)

第4条 この規則に定める2以上の機関に関連のある重要な校務の処理手続については、この規則に定めるものの外、それぞれの事項ごとに、内規又は要項として別に定める。

第2章 内部部局及び執行機関

(主事)

第5条 機構規則第5条第1項の規定により本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置き、教務主事は教授をもって充て、副校長の名称を附加する。学生主事及び寮務主事は教授又は助教授をもって充て、校長補佐の名称を附加する。

2 教務主事、学生主事及び寮務主事の任期は2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 教務主事、学生主事及び寮務主事は、校長の命を受け、それぞれ、教育計画の立案その他教務に関すること、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）又は学寮における学生の厚生補導に関することを処理する。

(主事補)

第6条 前条に規定する各主事の職務を助けるため、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補を置き、教授、助教授又は専任講師をもって充てる。

2 各主事補は、校長が任命し、その任期は2年とする。

3 各主事補は、主事に事故があるときは、その職務を代理する。

資料11-1-①-1 (2/8)

(専攻科長及び副専攻科長並びに専攻主任)

第7条 学校教育法(昭和22年3月31日法律第26号)の規定により特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする組織として、本校に機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻を置き、専攻科長及び副専攻科長並びにそれぞれの専攻に専攻主任を置く。

- 2 専攻科長は、教授をもって充て、校長の命を受け、専攻科を総括する。副専攻科長は、教授・助教授又は専任講師をもって充て、専攻科長を補佐する。
- 3 専攻主任は、各専攻ごとに第9条に規定する学科主任のうちから校長が任命し、当該専攻に関する諸事項を処理する。
- 4 専攻科長及び副専攻科長並びに専攻主任の任期は2年とする。

(事務部)

第8条 機構規則第5条第1項の規定により本校に事務部を置き、事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。各課の組織及び所掌事務については、別に定める。

- 3 事務部に、事務部長及び課長を置き、職員をもって充てる。

(学科主任)

第9条 工業に関する専攻分野を教育するための組織として、本校に機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科及び環境都市工学科を置き、それぞれの学科に学科主任を置き、その学科の教授又は助教授をもって充てる。

- 2 学科主任は、当該学科に属する教員の総意に基づき校長が任命し、その任期は2年以内とする。
- 3 学科主任は、当該学科に関し、教育課程の編成、授業科目の分担その他学科内の教育研究活動の調整、学生の教育指導、就職あっせん及び進路指導並びに学科に供用される施設及び設備の管理に関する校務を掌る。

(学系及びその主任)

第10条 一般科目に関する授業科目のうち国語、社会、保健・体育、芸術及び外国語に関するものを担当する教員組織を人文学系、一般科目に関する授業科目のうち数学及び理科に関するもの並びに専門科目に関する授業科目のうち応用数学、応用物理及び各学科に共通する情報処理に関するものを担当する教員組織を基礎学系とし、それぞれの学系に学系主任を置き、その学系の教授又は助教授をもって充てる。

- 2 前条第2項及び第3項の規定は、学系主任に、これを準用する。

(学年主任及び学級担任)

第11条 本校の各学年に対応して、学年主任、各学級に対応して、学級担任を置き、専任教員(助手を除く。)をもって充てる。

- 2 学年主任及び学級担任は、教務主事及び学生主事の推薦に基づき校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、学年主任については、学級担任の中から任命するものとする。
- 3 学年主任は、当該学年の学級担任及び各主事との連絡調整に当たるものとする。
- 4 学級担任は、各学級の運営及び特別活動等に関する指導並びに学生各個人の厚生補導に関する校務を分担実施する。

資料11-1-①-1 (3/8)

(指導教員)

第12条 本校校友会の各部及び各同好会に対応して、指導教員を置き、専任教員をもって充てる。

- 2 指導教員は、学生主事の推薦に基づき校長が任命し、その任期は1年とする。
- 3 指導教員は、学生主事の総括のもとに部及び同好会の活動について指導と助言を与える。

(舎監)

第13条 学則第60条に基づき、本校の学寮に舎監を置く。

- 2 舎監の当直勤務は、寮務主事の定める割り振りに基づき、専任教員について校長が命ずる。
- 3 舎監は、寮務主事の総括のもとに寮生の共同生活の指導に当る。

(図書館及びその長)

第14条 本校に図書館を置く。図書館の運営その他必要な事項は、別に定める。

- 2 図書館に館長を置き、教授又は助教授をもって充てる。
- 3 館長は、校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 館長は、図書館の管理運営に関することを総括する。

(ネットワーク情報センター及びその長)

第15条 本校にネットワーク情報センターを置く。ネットワーク情報センターの運営その他必要な事項は、別に定める。

- 2 ネットワーク情報センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は、教授又は助教授をもって充て、副センター長は、教授、助教授又は専任講師をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長は、校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 センター長は、ネットワーク情報センターの管理運営に関することを総括し、副センター長は、センター長を補佐する。

(地域共同テクノセンター及びその長)

第16条 本校に地域共同テクノセンターを置く。地域共同テクノセンターの運営その他必要な事項は、別に定める。

- 2 地域共同テクノセンターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は、教授又は助教授をもって充て、副センター長は、教授、助教授又は専任講師をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長は、校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 センター長は、地域共同テクノセンターの管理運営に関することを総括し、副センター長は、センター長を補佐する。

(実習工場及びその長)

第17条 本校に実習工場を置く。実習工場の運営その他必要な事項は、別に定める。

- 2 実習工場に工場長を置き、機械工学科に属する教授又は助教授をもって充てる。
- 3 工場長は、機械工学科主任の推薦に基づき校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 工場長は、機械工学科主任の指導の下に、実習工場の管理運営に関することを総括する。

(広報委員会)

第18条 本校の広報誌その他の広報資料の作成について企画及び編集を行うため、本校に広報委員会を置く。

資料11-1-①-1 (4/8)

2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(ファカルティ・デベロップメント推進委員会)

第19条 本校の教育全般に対し、質の保証と向上を図る施策を審議し執行するため、本校にファカルティ・デベロップメント推進委員会を置く。

2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(JABEE認定・認証評価推進委員会)

第20条 本校が、JABEE認定を受け、またこの認定を継続するため並びに認証評価機関による認証評価を受けるために取り組むべき施策を審議し執行するため、本校にJABEE認定・認証評価推進委員会を置く。

2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(中期計画推進委員会)

第21条 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画に基づく本校の中期計画を策定し執行するため、本校に中期計画推進委員会を置く。

2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

第3章 審議機関

(教官会議)

第22条 本校の運営に関する重要事項であって学生の教育にかかわるものについて審議し、教員の教育研究活動に必要な情報について連絡し、及び本校における校務の執行について総括的に評価するため、本校に教官会議を置く。

2 校長は、次の各号に掲げる事項を決定しようとする場合には、あらかじめ教官会議に諮問するものとする。

(1) 入学者の選考基準

(2) 学業成績の評価基準

(3) 学生の賞罰基準

(4) 学生に対する教育指導方針

(5) 学校の運営に関する基本的な規則等の制定又は改廃

3 この会議は、校長及び専任教員をもって構成し、議長は、校長及び主事以外の教員の互選によって定める。

4 この規則で定めるものの外、教官会議の招集、運営その他必要な事項は、教官会議が定める。

5 この会議の事務は、庶務課において処理する。

(運営協議会)

第23条 本校の校務の執行に関する重要事項について合議決定するため、本校に運営協議会を置く。

2 前項の重要事項のうち、学生の教育にかかわるものであって、あらかじめ教官会議の議を経ることが適当であると運営協議会が認めたものについては、案を付してこれを校長が教官会議に諮問するものとする。

3 運営協議会は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、各学科主任及び各学系主任をもって構成し、校長が主宰する。

資料11-1-①-1 (5/8)

4 運営協議会の運営に関する必要な事項は、別に定める。

5 運営協議会の事務は、庶務課において処理する。

(入学者選考会議)

第24条 第22条第2項第1号に基づき、入学者の選考について合議決定するため、本校に入学者選考会議を置く。

2 この会議は、次に掲げる教職員をもって構成し、校長が主宰する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事及び教務主事補
- (3) 専攻科長（専攻科生の場合に限る。）
- (4) 各学科・学系主任及び各専攻主任（専攻科生の場合に限る。）
- (5) 入試委員会委員
- (6) 面接担当教員
- (7) 作文担当教員（推薦入学者の選抜の場合に限る。）

3 前項の構成員以外の専任教員も会議に出席し、発言を求めることができる。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(成績審査会議)

第25条 第22条第2項第2号に基づき、学生の各学年の課程修了及び卒業の認定について合議決定するため、本校に成績審査会議を置く。

2 この会議は、校長及び専任教員（助手を除く。）をもって構成し、校長が主宰する。

3 前項の構成員以外の者を会議に出席させ、発言を求めることができる。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(賞罰審査会議)

第26条 第22条第2項第3号に基づき、学生の表彰又は懲戒について合議決定するため、本校に賞罰審査会議を置く。

2 この会議は、次に掲げる教職員をもって構成し、校長が主宰する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事（寮生の場合に限る。）及び学生主事補
- (3) 専攻科長（専攻科生の場合に限る。）
- (4) 当該学科主任及び当該専攻主任
- (5) 当該学級担任

3 この会議の表彰の審査については、校長は必要に応じて表彰候補者の推薦者を会議に出席させることができる。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(人事諮問会議)

第27条 校長の諮問に応じて、教員の人事に関する事項（個別的な案件を除く。）について校長に助言するため、本校に人事諮問会議を置く。

2 この会議は、専任教員の互選により選出された3名の委員と校長をもって構成し、校長が主宰する。

資料11-1-①-1 (6/8)

3 委員の任期は、1年とする。

4 委員は、この会議の審議事項について、秘密を守る義務を負うものとする。

(委員会)

第28条 本校に運営協議会の諮問に応じて答申し、これに建議するため、本校に次に掲げる委員会を置く。

(1) 入試委員会

(2) 教務委員会

(3) 学生委員会

(4) 寮務委員会

(5) 専攻科委員会

(6) 将来構想検討委員会

(7) 総合情報メディア委員会

(8) 国際交流委員会

2 前項に定める委員会の外、必要に応じ、委員会を置くことができる。

3 各委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(主任会議)

第29条 各学科主任及び学系主任が、担当事項について連絡協議するため、本校に主任会議を置く。

2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。

3 この会議の運営その他必要事項については、主任会議が定める。

4 この会議の事務は、庶務課において処理する。

(学級担任会議)

第30条 各学級担任が、担当事項について連絡協議するため、本校に学級担任会議を置く。

2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。

3 この会議の運営その他必要事項については、学級担任会議が定める。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(学科会議及び学系会議)

第31条 学科主任及び学系主任の所掌する校務に関して連絡協議するため、各学科及び学系に、それぞれ学科会議又は学系会議を置く。

2 これらの会議は、当該学科又は学系に属する専任教員又は関係職員をもって構成し、当該学科主任又は学系主任が主宰する。

(調査研究会)

第32条 運営協議会の諮問に応じて、特定課題について調査研究を行い、これに報告書を提出するため、調査研究会を置く。

2 調査研究会の委員は、教職員の申出に基づき校長が任命する。

3 各課題ごとの調査研究会の存続期間と委員の任期は、その都度定める。

4 調査研究会の代表者は、委員の互選によって定める。

5 調査研究会の事務は、その都度指定する事務部の部局で処理する。

資料11-1-①-1 (7/8)

(雑則)

第33条 この規則に定めるものの外、この規則の実施に必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和56年4月1日から施行する。
- 2 木更津工業高等専門学校の学科主任等の設置に関する暫定規則（昭和55年規則第2号）は廃止する。
- 3 この規則第22条に規定する入学者の選考基準、学業成績の評価基準及び学生の賞罰基準が決定されるまでの間、入学者の選考並びに学生の成績審査及び賞罰審査は、第24条から第26条までの規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和63年6月16日から施行する。

附 則

この規則は、昭和63年10月13日から施行する。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年4月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成12年12月1日から施行する。
- 2 この規則の第14条の2第2項の職員の任期は、同上第3項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

資料11-1-①-1 (8/8)

附 則

この規則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

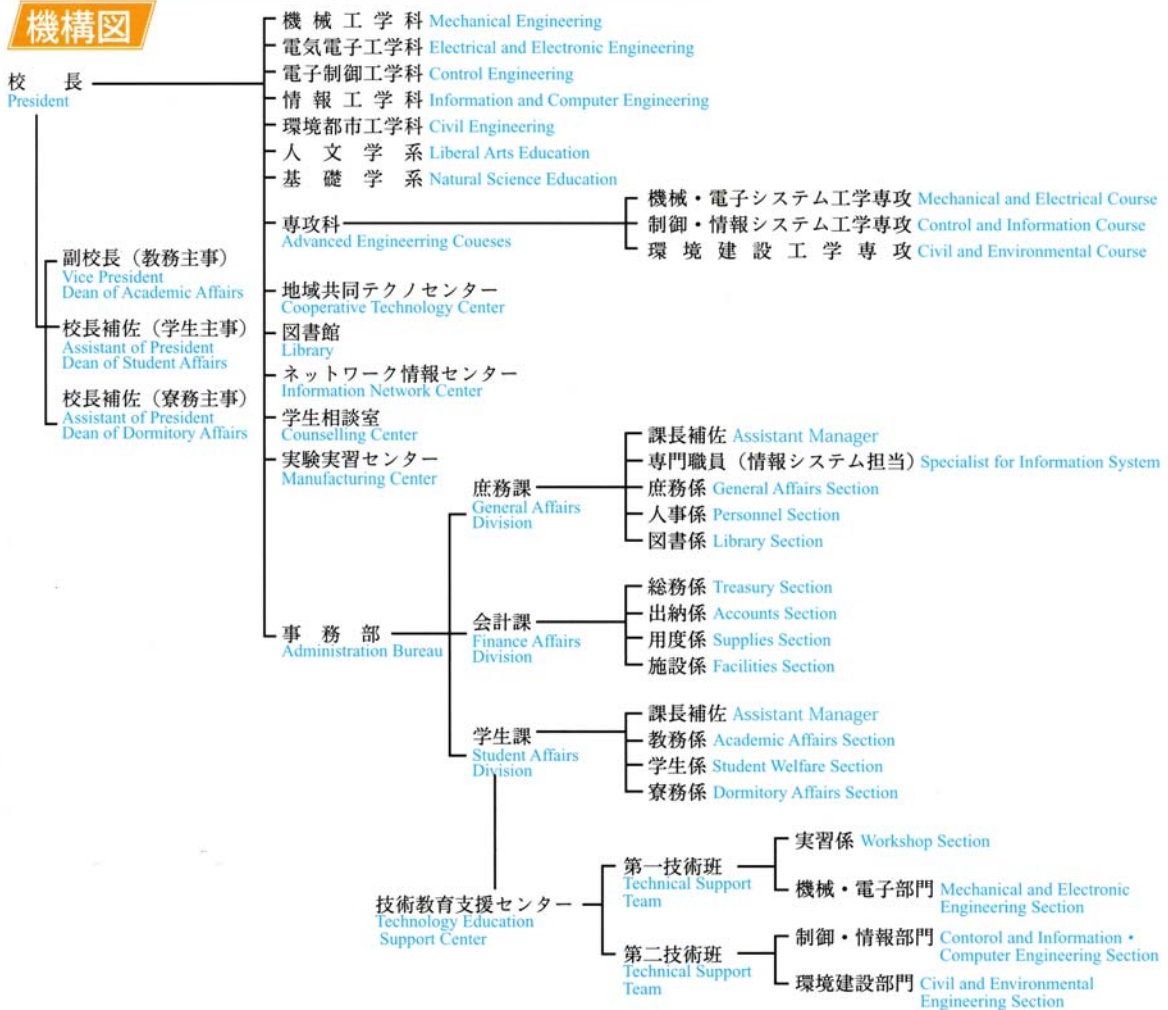
この規則は、平成17年10月6日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規程集』)

木更津工業高等専門学校 組織図

組 織 ORGANIZATION

機構図



(出典 『木更津工業高等専門学校 学校要覧 2005』 3頁)

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

本校の管理運営に関しては、学則及び諸規則等により詳細に定められているが、各組織の所掌する事項の運営に当たっては、最適な委員を充てるための校長による任命も含め、年度ごとに全教職員において職務の分担を行い、効率的な運営を行っている(資料11-1-②-1)。

特に、運営協議会については毎月第1, 第3木曜日を定例として開催することが決められており(資料11-1-②-2), 教官会議については毎月第2木曜日を定例として開催することが決められている(資料11-1-②-3)。また、教務委員会等については毎月1回の開催が通常であり、その他の委員会等に関しても、同様の頻度で開催されている。

なお、新たに生じる問題に適切に対処することを目的とし、組織運営規則第32条において「調査研究会」の設置が定められているが、各調査研究会は、運営協議会の諮問に応じて、特定課題について調査研究を行い、これに報告書を提出することとされている。例えば、平成17年9月には「混合学級導入の具体的な在り方」調査研究会が組織されたが(資料11-1-②-4), 当調査研究会は短期間の内に集中して活発な活動を行い、平成17年10月の「中間まとめ」に続き、平成18年4月には「混合学級導入の具体的な在り方について(平成17年度最終まとめ)」を提出している(資料11-1-②-5)。

事務組織については、平成18年6月1日現在において、庶務課、会計課、学生課の3課体制で業務に当たっているが、各課の所掌事務については「木更津工業高等専門学校事務組織規程」(以下「事務組織規程」という。)(資料11-1-②-6)により定められており、また、実際の業務に当たっては、個々の規則及び要領等において詳細に定められている。

なお、運営協議会での連絡事項等については、運営協議会の開催後に開催される各学科・学系、各課での会議において細大漏らさず確実に伝えられている(資料11-1-②-7)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、各種規則等に基づき各種委員会及び事務組織が組織されており、毎年度、校長による委員の任命も含め、適切に役割を分担し、支障なく校務を処理している。また、必要に応じ「調査研究会」等を立ち上げ、効果的な活動を行っていると判断される。

平成17年度 学内役職員一覧

平成17年度学内役職員一覧

平成17年4月1日現在

役職名	任期等		役		職		者					
			任期(平成16年4月～平成18年3月)		任期(平成17年4月～平成19年3月)							
主 事	事		高橋秀雄(業務)		角田幸紀(教務)	高遠節夫(学生)						
主 事 補			岡本保(教務)		嶋田正俊(教務)	鬼塚信弘(教務)						
			岩崎洋一(学生)		丸山真佐夫(学生)	青木優介(学生)						
			関口昌由(業務)		荒木英彦(業務)	坂垣貴喜(業務)						
専 攻 科 長					天摩勝洋 専攻科長(J)	石川雅之 副専攻科長(E)						
学 科 ・ 学 系 主 任			五十嵐謙介(人)	大藤晃義(M)	高橋克夫(C)		相川正美(基)	上原正啓(E)	高上輝雄(D)	増田重史(J)		
専 攻 主 任			増田重史(DJ)	高橋克夫(CC)			上原正啓(ME)					
図 書 館 長			田村和土(基)									
ネットワーク情報センター長			小林曉 センター長(J)	岩崎洋一 副センター長(人)	臼井邦人 副センター長(D)							
実 習 工 場 長			黒田孝春(M)									
学 生 相 談 室 長			中村俊昭(人)									
地域共同テックセンター長			小平真次 センター長(E)		大澤寛 副センター長(E)	鈴木聡 副センター長(D)	佐藤恒明 副センター長(C)					
学 年 主 任			1年 高橋邦夫	2年 石井孝一	3年 平安隆雄	4年 臼井邦人	5年 鈴木聡		(任期:H17.4～H18.3)			
学 級 担 任			M1 金子真隆	M2 鎌田勝	M3 小田功	M4 鈴木久夫	M5 石出忠輝		(任期:H17.4～H18.3)			
			E1 清野哲也	E2 石井孝一	E3 福地健一	E4 柏木康秀	E5 飯田聡子					
			D1 室井美穂子	D2 岡本峰基	D3 平安隆雄	D4 臼井邦人	D5 鈴木聡					
			J1 鈴木道治	J2 小澤健志	J3 和崎浩幸	J4 齋藤康之	J5 和田州平					
			C1 高橋邦夫	C2 篠村朋樹	C3 石川雅朗	C4 石田博樹	C5 上村繁樹					
留 学 生 指 導 教 員			小田(M)	鈴木(M)	熊谷(E)	柏木(E)	臼井(D)	和崎(J)	齋藤(J)	和田(J)	大木(C)	(任期:H17.4～H18.3)
セ ク ラ ラ 相 談 員			高遠(学)	中村(相長)	原(庶務課長)	三宅(カウンセラー)	柳澤(看護師)	室井(人)	高橋光(産)		(任期:H16.4～H18.3)	

委員会名	任期等	委 員			名																	
		役職指定			任期(平成16年4月～平成18年3月)			任期(平成17年4月～平成19年3月)														
入 試 委 員 会		◎角田(教)	岡本保(補)	嶋田(補)	鬼塚(補)	坂田(人)	橋川(D)	東(J)	大塚(基)	黒田(M)	熊谷(E)	佐藤(C)										
教 務 委 員 会		◎角田(教)	岡本保(補)	嶋田(補)	鬼塚(補)	小澤(人)	鈴木(基)	内田(M)	栗本(J)			佐藤(C)										
学 生 委 員 会		◎高遠(学)	岩崎(補)	丸山(補)	青木(補)	金子(基)	鈴木(M)	石川(C)		室井(人)	石井(E)	大橋(D)	米村(J)									
寮 務 委 員 会		◎高橋秀(寮)	関口(補)	荒木(補)	坂垣(補)	清野(人)	山下(基)	飯田(E)		小田(M)	坂元(D)	大枝(J)	上村(C)									
専 攻 科 委 員 会		◎天摩(科長)	石川(副科長)	上原(ME)	増田(DJ)	藤村(人)	鎌田(基)			小田(M)	高上(D)											
将 来 構 想 検 討 委 員 会		◎角田(教)	高遠(学)	高橋秀(寮)	五十嵐(人)	相川(基)	大藤(M)	上原(E)	高上(D)	増田(J)	高橋(C)	天摩(科長)	事務部長	庶務課長	会計課長	学生課長						
総 合 情 報 メ デ ィ ア 委 員 会		◎角田(教)	田村(図長)	小林(本長)	事務部長	石出(M)	浅野(E)			岩崎(人)	福地(基)	臼井(D)	石川(C)									
国 際 交 流 委 員 会		◎大木(C)	小田(M)	鈴木(M)	熊谷(E)	柏木(E)	臼井(D)	和崎(J)	齋藤(J)	和田(J)			(任期:H17.4～H18.3)									
自 己 点 検 等 委 員 会		◎角田(教)	高遠(学)	高橋秀(寮)	五十嵐(人)	相川(基)	大藤(M)	上原(E)	高上(D)	増田(J)	高橋(C)	天摩(科長)	事務部長	庶務課長	会計課長	学生課長						
施 設 整 備 専 門 委 員 会		◎角田(教)	会計課長	学生課長						平安(人)	高橋(基)	石出(M)	石川(E)	鈴木(D)	和崎(J)	石田(C)						
広 報 委 員 会						武長(人)	吉崎(人)	丸山(J)		◎平安(人)	吉井(基)	林田(M)	岡本(D)	上村(C)								
フ ィ ル ティ ー ン 推 進 委 員 会		◎角田(教)	学生課長							小澤(人)	相川(基)	小平(E)	鈴木(D)	鬼塚(教補)								
JABEE 認 定 推 進 委 員 会		庶務課長				青木(C)				◎黒川(C)	加藤(人)	山下(基)	内田(M)	岡本(E)	嶋田(D)	齋藤(J)						
中 期 計 画 推 進 委 員 会		庶務課長				◎黒田(M)	荒木(人)	小澤(人)	福地(基)	柏木(E)	大橋(D)	栗本(J)	鬼塚(C)									
情 報 公 開 委 員 会		◎校長	角田(教)	高遠(学)	高橋秀(寮)	五十嵐(人)	相川(基)	大藤(M)	上原(E)	高上(D)	増田(J)	高橋(C)	天摩(科長)	事務部長	庶務課長	会計課長	学生課長					
重 点 研 究 等 推 進 委 員 会		◎校長	角田(教)	高遠(学)	高橋秀(寮)	事務部長	庶務課長	会計課長	学生課長	五十嵐(人)				相川(基)	大藤(M)	上原(E)	嶋田(D)	増田(J)	高橋(C)			
安 全 衛 生 委 員 会		◎校長(代理)	高遠(学)	篠村(衛管)	会計課長(安管)	大日方(産医)				鎌田(基)	石出(M)	熊谷(E)	橋川(D)	丸山(J)	高石(C)	庶務課長	産医(会)	水野(学)				
学 生 相 談 室 委 員 会		◎中村(相長)	学生課長			高橋(基)	大枝(J)	青木(C)	柳澤(学)					小田(M)	大澤(E)	鈴木(D)						
地 域 共 同 テ ッ ク セ ン タ ー 運 営 委 員 会		◎小平(学長)	大澤(学副長)	鈴木聡(学副長)	佐藤(学副長)	事務部長				飯垣(M)	田村(基)			五十嵐(人)	高橋(基)	東(J)	高橋(C)					
実 習 工 場 運 営 委 員 会		◎黒田(工長)	事務部長			坂垣(M)				石川(E)	大橋(D)											
技 術 教 育 支 援 セ ン タ ー 運 営 委 員 会		◎学生課長(技長)	金井(技副長)	黒田(工長)	小澤(本長)	秋葉(班長)	臼井(班長)			栗本(J)				中村(人)	相川(基)	内田(M)	熊谷(E)	橋川(D)	大木(C)	鬼塚(教補)	立石(学)	須賀(学)
SCS 事 業 運 営 委 員 会 (SCS 事 業 運 営 部 会)		◎角田(教)	事務部長	学生課長		岩崎(人)	林田(M)	浅野(E)						福地(基)	臼井(D)	小林(J)	石川(C)					
図 書 館 運 営 部 会		◎田村(図長)	事務部長			鈴木(基)	林田(M)	吉崎(E)	高石(C)					武長(人)	坂元(D)	米村(J)						
ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 セ ン タ ー 運 営 部 会		◎小林(本長)	岩崎(本副長)	臼井(本副長)	事務部長					福地(基)	石出(M)	浅野(E)	石川(C)					齋藤(J)				

◎は委員長、斜字は校長が必要と認め、(教)は教務主事、(学)は学生主事、(寮)は寮務主事、(補)は主事補、(科長)は専攻科長、(副科長)は副専攻科長、(図長)は図書館長、(本長)はネットワーク情報センター長、(相長)は学生相談室長、(学長)は地域共同テックセンター長、(技長)は技術教育支援センター長、(副長)は副センター長、(工長)は実習工場長、(衛管)は衛生管理者、(安管)は安全管理者、(産医)は産業医の略

(出典 平成17年度学内役職者一覧)

木更津工業高等専門学校運営協議会の運営に関する内規

木更津工業高等専門学校運営協議会の運営に関する内規

昭和56年4月16日

細則第3号

- 1 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第23条第4項に基づき、運営協議会の運営に関する必要な事項について定める。
- 2 運営協議会は、毎月第1、第3木曜日を定例とする。ただし、必要のある場合は、臨時に開催することができる。
- 3 校長に事故あるときは、教務主事が校長の代理となって主宰する。
(2) 主事又は主任に事故あるときは、それぞれの主事補、又は、それぞれの学科・学系の専任教員（助手を除く。）のうちから代理に出席させることができる。
- 4 議案の提出は、校長が行う。
(2) 主事又は主任がそれぞれの所掌事項で議案の提出を必要とする場合は、あらかじめ校長に申し出るものとする。
(3) 図書館長、ネットワーク情報センター長、実習工場長、学生相談室長及び地域共同テクノセンター長がそれぞれの所掌事項で議案の提出を必要とする場合は、あらかじめ校長に申し出るものとする。
- 5 校長は、必要ある場合は、構成員以外の者を会議に出席させることができる。

附 則

この内規は、昭和56年4月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規程集』)

木更津工業高等専門学校教官会議の運営に関する内規

木更津工業高等専門学校教官会議の運営に関する内規

昭和56年4月9日
細則第3号

- 1 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（以下「規則」という。）第22条第4項に基づき、教官会議の運営に関する必要な事項について定める。
- 2 教官会議は、毎月第2木曜日を定例とし、校長が招集する。ただし、必要のある場合は、臨時に開催することができる。
- 3 議長は、議案の整理及び会議の進行と運営を行う。
 - (2) 教官会議に副議長を置く。副議長は、議長の職務を助け、議長に事故あるときは、副議長がその職務を行う。副議長は、校長、主事及び議長以外の構成員の互選によって定める。
 - (3) 議長及び副議長の任期は1年とし再任を妨げない。
- 4 教官会議の審議事項に関する議案は、規則に定めるもののほか、3名以上の専任教員が連帯して提案する議案とする。
 - (2) 前項の専任教員の提案する議案は、教官会議開催日の3日前までに案を附して庶務課に提出するものとする。
- 5 事務部の事務部長及び課長は、教官会議に常時出席し、議長の許可を得て意見を述べることができる。
 - (2) 教官会議は、議長が特に指定した場合以外は、本校の全ての教職員に公開されるものとする。

附 則

この内規は、昭和56年4月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規程集』)

「混合学級導入の具体的な在り方」調査研究会の経緯

「混合学級導入の具体的な在り方」調査研究会の経緯（平成17年度までの記録）

※ 平成17年9月1日(木)に運営協議会の諮問を受け調査研究会が発足した。

諮問課題：混合学級導入の具体的な在り方

任 期：平成17年9月1日から平成18年3月31日まで

※ 調査研究会の設置は平成19年3月31日まで延長された。

メンバー：高遠節夫（主査・学生主事・基礎学系）

小澤健志（人文学系）

鈴木道治（基礎学系）

大橋太郎（電子制御工学科）

鬼塚信弘（環境都市工学科）

青木優介（環境都市工学科）

椎名則之（学生課長）

会 議 等：第1回会議 9月8日(木) 16:05～ 第一会議室にて

第2回会議 9月16日(金) 16:40～ 学生課会議室にて

視察調査 9月27日(火) 13:00～ 有明高専にて

第3回会議 9月29日(木) 16:40～ 学生課会議室にて

第4回会議 10月7日(金) 17:00～ 学生課会議室にて

中間まとめ 10月13日(木) 15:20～ 教官会議に提出

第5回会議 10月14日(金) 17:00～ 学生課会議室にて

第6回会議 11月11日(金) 17:00～ 学生課会議室にて

第7回会議 11月25日(金) 17:00～ 学生課会議室にて

第8回会議 2月10日(金) 17:00～ 学生課会議室にて

平成18年度第1学年担任会と合同会議

2月16日(木) 14:00～ コミュニティルームBにて

第9回会議 3月15日(水) 16:30～ 学生課会議室にて

（出典 「混合学級導入の具体的な在り方について(平成17年度最終まとめ)」14頁）

「混合学級導入の具体的な在り方について(平成17年度最終まとめ)」

平成18年4月27日

校長 河上恭雄 殿

「混合学級導入の具体的な在り方」調査研究会
主査 高遠節夫

混合学級導入の具体的な在り方について(平成17年度最終まとめ)

I 「中間まとめ」以降の経緯

木更津高専における混合学級については、本調査研究会より提出された「混合学級導入の具体的な在り方について(中間まとめ)」が平成17年10月20日開催の運営協議会において承認され、その結果、「平成18年度以降の入学者に対し、第2学年においてのみ混合学級を導入する」ことが決定された。

そして、導入にあたっては、次の3点を主な目的とすることとされた。

- (1) 学生間のコミュニケーションの拡大
- (2) 低学年教育における問題解決
- (3) 複合的な視点を持つ専門技術者の育成

次に、これら目的達成のための具体的な施策に関する検討に入ったが、混合学級導入決定の段階において、検討課題として、以下の事項が残されていた。

- ・各学年での指導方針の再構築(体系化)
- ・学科横断科目の導入
- ・各学年における行事(見直しを含む)
- ・特に第2学年における複合的な授業科目の導入(第1学年も含む)
- ・特に第1・2学年におけるカリキュラム編成(授業時間割を含む)
- ・第2学年における授業科目および評価方法の在り方
- ・第1および2学年における担任の在り方
- ・学生指導に関する一般系と専門系の連携
- ・クラス編成の方法
- ・事務的な処理方法等
- ・その他の混合学級導入に伴う諸問題

検討に先立ち、上記の事項の見直しを行ったが、内容によっては、個別に論じられるのではなく、その有機的な関連から、同一の委員会等において併せて審議されるべきと判断される事項も複数あった。

よって、調査研究会は、上記審議項目についての整理を行い、その結果、教務委員会および学生委員会に対し、次のような分担による検討を依頼した。

教務委員会

- ・第1学年における専門科目の充実について
- ・第2学年における「創造基礎(仮称)」について
- ・担任の在り方について
- ・第1学年におけるHRの活用について

学生委員会

- ・学校行事全体の見直しについて

木更津工業高等専門学校事務組織規程

木更津工業高等専門学校事務組織規程

平成12年4月1日
規則第4号

(趣旨)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校規則第1号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第9条並びに木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年規則第1号）第8条第1項の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及びその所掌事務について定める。

(事務組織)

第2条 本校の事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

(庶務課の所掌事務)

第3条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式その他諸行事及び会議に関すること。
- (4) 学則その他諸規則等の制定及び改廃に関すること。
- (5) 自己点検・評価に関すること。
- (6) 内地及び在外研究員に関すること。
- (7) 国際交流に関すること。
- (8) 民間等との共同研究の受入に関すること。
- (9) 科学研究費等研究助成金の申請に関すること。
- (10) 公文書類の接受、発送及び整理・保管に関すること。
- (11) 公印の管守に関すること。
- (12) 事務の情報化推進に関すること。
- (13) 情報公開に関すること。
- (14) 広報、渉外に関すること。
- (15) 構内警備に関すること。
- (16) 教職員の任免、分限、懲戒及び服務に関すること。
- (17) 教職員の給与に関すること。
- (18) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
- (19) 教職員の健康管理、福祉及び災害補償に関すること。
- (20) 共済組合の長期給付及び退職手当に関すること。

資料11-1-②-6 (2/3)

- (21) 教職員の栄典，表彰に関すること。
- (22) 人事記録に関すること。
- (23) 労働組合に関すること。
- (24) 図書を選定に関すること。
- (25) 図書館資料の受入れ，整理及び保管等に関すること。
- (26) 図書館資料の閲覧，貸出し等利用に関すること。
- (27) 図書館における参考奉仕（検索指導，読書相談等）に関すること。
- (28) 調査統計，その他諸報告に関すること。
- (29) その他他の課の所掌に属さない事務を処理すること。

（会計課の所掌事務）

第4条 会計課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関すること。
- (2) 物品の管理に関すること。
- (3) 会計の監査に関すること。
- (4) 支出決議及び契約に関すること。
- (5) 収入，支出及び計算証明に関すること。
- (6) 給与の支給に関すること。
- (7) 所得税等の徴収に関すること。
- (8) 不動産の管理及び処分に関すること。
- (9) 土地，建物の借入に関すること。
- (10) 宿舎に関すること。
- (11) 受託研究及び民間等との共同研究に関すること。
- (12) 科学研究費等の経理及び寄附金に関すること。
- (13) 共済組合（長期給付を除く。）に関すること。
- (14) 会計機関の公印の管守に関すること。
- (15) 土地，建物及び工作物の維持保全に関すること。
- (16) 学校環境の整備保全に関すること。
- (17) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理すること。

（学生課の所掌事務）

第5条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関すること。
- (2) 学生の修学指導に関すること。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (4) 学生の学業成績の整理に関すること。
- (5) 学生の学籍に関すること。
- (6) 学生の進路指導に関すること。
- (7) 外国人留学生に関すること。
- (8) 学生の賞罰に関すること。

資料11-1-②-6 (3/3)

- (9) 学生の課外活動に関する事。
- (10) ネットワーク情報センターの事務に関する事。
- (11) 学生募集等の広報に関する事。
- (12) 学生課に属する公印の管守に関する事。
- (13) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (14) 学生の奨学金に関する事。
- (15) 学生の入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事。
- (16) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (17) 学生の健康管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (18) 学生のカウンセリングに関する事。
- (19) 学生の旅客運賃割引証その他証明に関する事。
- (20) 学生寮の管理運営に関する事。
- (21) 寮生の入退寮に関する事。
- (22) 寮生の生活相談等に関する事。
- (23) その他教務、厚生補導及び寮務に関する事務を処理する事。

(細則)

第6条 この規程に定めるもののほか、課の組織及び事務分掌については、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 木更津工業高等専門学校事務組織規程（昭和47年規則第5号）は廃止する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規程集』)

人文学系会議 議事要旨

平成17年度 第1回 人文会議 議事要旨

日 時：平成17年4月14日(木) 15:30～17:30

場 所：共通ゼミ室A

出席者：五十嵐、中村、平安、室井、荒木、篠村、小澤、清野、加藤、坂田、岩崎、武長

記 録：小澤

議 題：

平成17年度第1回運営協議会の報告(各資料参照)

協議題

1. 木更津工業高等専門学校学業成績審査内規の一部を改正する内規(案)について
 - ・試験時の途中退出に関する内規の改正を了承した(退出は一切なし)。
2. 平成18年度専攻科学生募集要項(案)について
 - ・案のとおりで了承された。なお、JABEEに関連する記述(「生産システム工学プログラム」は4年から始まるということ等)が追加される予定である。
3. 平成17年度公開講座実施計画(案)等について
 - ・公開講座等については、資料のとおり実施予定であるとのこと。なお、公開講座の受講料のその後の扱いについては現時点では定まっていないとのこと。
4. 平成17年度寄附金申請について
 - ・C高橋：80万円、C黒川：50万円、C上村100万円2件の、計4件330万円あり。

連絡・報告事項

1. 学生の身分異動について(17. 3. 31現在)
 - ・資料のとおりである。
2. 学生の身分異動について(17. 4. 1 現在)
 - ・資料のとおりである。なお、研究生の学籍番号の扱いについては検討中である。
3. 平成17年度外国人留学生について
 - ・資料のとおりである。
4. 平成17年度ロボットコンテスト並びにプログラミングコンテスト委員の選出について
 - ・人文からの選出は、「専門性」という観点から、両コンテストに関して行わないこととした。
5. 寮生数一覧表について(17. 4. 6 現在)
 - ・資料のとおりである。なお、現在は定員いっぱいを受け入れている状態である。
6. 木更津高専H16年度計画実施状況および自己評価・評定について
 - ・機構本部より3月25日(後日29日に変更)までに提出を求められたものであるが、運協への提出は今回が初めてである。
 - ・機構自体の評価を行うために提出を求められたものである。
 - ・今回のものは最終版ではない。最終版が出来た時には「教職員LocalHomepage」で公開される可能性もある。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校の管理運営に関しては、組織運営規則において、詳細に本校の内部組織について定められており、併せて本校の管理運営に関する主要な校務の処理手続について明らかにされている。更に、同規則に基づき、例えば木更津工業高等専門学校教務委員会規則（資料11-1-③-1）に見られるように、各委員会等の規則等についても詳細に定められており、これらに関しては、『規程集』（現地閲覧資料24『規程集』）にまとめられている。

なお、規則等の制定又は改廃が必要となった場合には、当該規則等に関する審議がまず運営協議会において行われ、次に教官会議において協議題として審議が行われ、再度運営協議会に戻り最終的な決定が行われている。

また、制定及び改廃が決定した規則等に関しては、「校報」に掲載することにより（資料11-1-③-2）全教職員への確実な周知が図られている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、組織運営規則をはじめとする管理運営に関する諸規則等が十分に存在している。また、必要に応じた規則等の制定及び改廃も活発に行われており、更に「木更津高専校報」による全教職員への最終的な周知徹底も図られている。よって、管理運営の諸規定の整備に関して、問題はないと判断される。

木更津工業高等専門学校教務委員会規則

木更津工業高等専門学校教務委員会規則

平成13年4月1日
規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第28条第3項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割並びに年間行事計画に関すること。
- (2) 試験及び評価その他履修に関すること。
- (3) 学校行事（学生委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) その他教務に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
 - (2) 教務主事補
 - (3) 学科・学系から選出された教員各1名
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第1項第3号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第5条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規程集』)

「木更津高専校報」第32号 表紙



木更津高専校報

第32号

平成16年5月～平成16年9月

目 次

◎ 校内規則等	
○木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則	1
○木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則の一部を改正する規則	1
○木更津工業高等専門学校実習工場運営規程の一部を改正する規則	2
○木更津工業高等専門学校広報委員会規則の一部を改正する規則	2
○木更津工業高等専門学校ファカルティ・デベロップメント推進委員会規則の一部を改正する規則	2
○木更津工業高等専門学校J A B E E 認定推進委員会規則の一部を改正する規則	3
○木更津工業高等専門学校基本構想検討専門委員会規則を廃止する規則	3
○木更津工業高等専門学校運営協議会の運営に関する内規の一部を改正する内規	3
◎ 諸 報	
○平成16年度前期課外活動報告	4
○平成16年度共同研究受入実績	8
○平成16年度公開講座実施状況	8
○平成16年度奨学寄附金受入状況	9
○平成16年度科学研究費補助金採択状況	10
◎ 人事関係	
○人 事 異 動	10
◎ 行 事 日 誌 (5月～9月)	11
◎ 行 事 予 定 (10月～12月)	13

平成16年11月11日発行 (木更津高専庶務課庶務係)

(出典 「木更津高専校報」第32号 表紙)

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では、学則第1条の2において自己評価等について規定しているが、その第2項において「点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うものとする。」としている。なお、外部評価の詳細については「木更津工業高等専門学校外部評価実施要領」において定められている(資料11-2-①-1)。

本校における初めての外部評価は平成12年度において実施されたが、2回目であり直近となる外部有識者(資料11-2-①-2)による評価は、『外部評価資料-平成14年5月以降の本高専の現状並びに取り組みについて-』(資料11-2-①-3)等の諸資料を事前配付した上で、平成16年9月9日に実施された(資料11-2-①-4)。

なお、今回の評価に当たって焦点は、社会的な情勢及び本校の活動状況に鑑み、以下の4点に絞られた。

- (1) 教育の高度化-専攻科の現状-
- (2) 地域社会の連携強化-地域共同テクノセンターの現状-
- (3) 教育の国際標準化-JABEE認定申請に向けての現状-
- (4) 独立行政法人としてめざす教育-中期計画の策定-

これらに関する外部有識者の意見は平成16年11月に『外部評価報告書』(資料11-2-①-5)にまとめられた後、関係委員会等において検討され、その対応策等については「外部評価に対する対応策」(資料11-2-①-6)の形で集約されるとともに、具体的な改善活動が行われた。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部有識者の意見は「外部評価委員会」において集約され、提出された意見等は『外部評価報告書』にまとめられている。そして同報告書に基づき、関係委員会等が諸問題に対する対応について検討し、速やかに改善活動を行っている。よって、本校では、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されていると判断される。

木更津工業高等専門学校外部評価実施要領

木更津工業高等専門学校外部評価実施要領

(趣旨)

第1 高等専門学校は、学校教育法並びに独立行政法人通則法に基づき、それぞれの評価機関による評価を受けることと定められている。同時にJABEEの認定には学外有識者による評価が求められていることから、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について、学外の有識者による外部評価を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に資するものとする。

(外部評価委員会)

第2 本校に、第1の外部評価を実施するため、学外の有識者による外部評価委員会を置く。

(外部評価委員会委員)

第3 外部評価委員会の委員は、次の構成とし、校長が別紙のとおり委嘱する。

- ① 企業関係の有識者 2名
- ② 教育関係の有識者 2名
- ③ その他有識者 2名

(外部評価の実施方法及び項目)

第4 外部評価委員会による外部評価の実施方法及び項目は、別に定める。

(外部評価報告書の取りまとめ)

第5 校長は、外部評価委員会による外部評価の結果を、外部評価報告書として取りまとめる。

(事務)

第6 外部評価に関する事務は、庶務課において処理する。

附 則

この要領は、平成16年7月8日から実施する。

(出典 木更津工業高等専門学校 外部評価実施要領)

木更津工業高等専門学校 外部評価委員会 委員名簿

各委員の所属および役職等
教育関係
君津地方中学校校長会・会長（袖ヶ浦市立平川中学校長）
千葉大学大学院自然科学研究科・研究科長
企業関係
ソニーイーエムシーエス（株）木更津テック・人事総務部長
双葉電子工業（株）・常務取締役
その他
木更津工業高等専門学校後援会・会長
木更津工業高等専門学校技術振興交流会・会長

(出典 木更津工業高等専門学校外部評価委員会資料)

『外部評価資料』表紙

外部評価資料

—平成14年5月以降の本高専の現状並びに取り組みについて—

平成 16 年 8 月

木更津工業高等専門学校

(出典 木更津工業高等専門学校外部評価委員会資料)

木更津工業高等専門学校 外部評価委員会日程表

平成16年度 木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表

1. 実施日時：平成16年9月9日（火）11時00分～16時00分

2. 場 所：木更津工業高等専門学校第1会議室

3. 次 第：

○ 本校概要説明等【司会：庶務課長】

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 外部評価委員及び本校関係者紹介

外部評価委員、校長、副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事・寮務主事）、
事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長

(4) 本校概要説明（副校長）

○ 校内施設視察

総合教育棟→第1研究棟1階MEシステム工学専攻実験室→第3研究棟2階CC工学専攻実験室→
地域共同テクノセンター→図書館→学生寮

○ ヒアリング【司会：庶務課長】

(1) 外部評価委員及び本校関係者紹介

外部評価委員、校長、副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事・寮務主事）、専攻
科長、学科・学系主任、地域共同テクノセンター長、JABEE認定推進委員長、中期計画
策定ワーキンググループ長、事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長

(2) 会 議

① 議長選出（長野委員を選出）

② 資料を基にした説明【議事進行：議長】

- ・ これまでの外部評価の経緯と今回の外部評価の方針（副校長）
- ・ 専攻科の現状（専攻科長）
- ・ 地域共同テクノセンターの現状（地域共同テクノセンター長）
- ・ J A B E E 認定申請に向けての現状（JABEE認定推進委員長）
- ・ 中期計画の策定（中期計画策定ワーキンググループ長）

(3) 質疑応答

(4) 今後のスケジュール

○ 閉 会

(1) 校長挨拶

(出典 木更津工業高等専門学校外部評価委員会資料)

『外部評価報告書』目次

目 次

1. 木更津工業高等専門学校外部評価実施要領	1
2. 平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿	2
3. 平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目	3
4. 木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程	4
5. 平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表	5
6. 外部評価委員会委員に配布した資料一覧	6
7. 外部評価に際して	7
8. 外部評価委員の評価内容	
—専攻科の現状—	10
—地域共同テクノセンターの現状—	14
—J A B E E認定申請に向けての現状—	17
—中期計画の策定—	19
—その他—	21
9. 木更津工業高等専門学校外部評価書様式	24

(出典木更津工業高等専門学校外部評価委員会資料)

外部評価結果に対する対応策

外部評価結果に対する対応策	
【専攻科の現状】	
外部評価委員の評価内容	今後の対応策
1. 教育課程の科目編成と目指す技術者像との整合性について	
○ 評価できる点	
<ul style="list-style-type: none"> 「ものづくりを基本とする技術者」を目指していること。この点については企業側としても高く評価します。 	
<ul style="list-style-type: none"> 少人数ですので学生が十分に授業、実験、研究に専念できること。 	
<ul style="list-style-type: none"> 「技術者倫理」を必須科目にしたことは、最後は人間性にあるということから方針としては大変よいと思います。 	
<ul style="list-style-type: none"> 実践的専門技術者の育成を目的として、研究・実験・演習を中心とした科目配分になっており評価できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 2度にわたる改訂等により、当初の教育目標に近づける努力をしている点は評価できる。 	
○ 問題点	
<ul style="list-style-type: none"> 専門専攻科目の選択において、学科により選択の幅がある。ほとんど選択の余地がない学科もある。学生数が少ないので科目をあまり増やせないと思うが、できるだけ選択肢を増やし、色々な科目を選択できるのが望ましい。 	「専門専攻科目」の見直し： 各専攻において、選択肢のある開講科目とその内容の検討を行う予定である。
<ul style="list-style-type: none"> J A B E Eへの対応を含め外国語、特に英語の強化が必要と思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 今後の日本の技術者に求められる重要な視点は、不易である「人間形成」にあると思う。そのための方策をカリキュラムに色濃く出せたらと思う。 	「人間形成」の重視： その対策の1つとして、「技術者倫理」の講義開設を検討している。
<ul style="list-style-type: none"> 専門共通科目の開講は目標とする人材養成にとって重要である。ただし、選択科目は専門性が高過ぎるのではないかと心配がある。講義への工夫が必要であろう。 	「専門共通科目」の見直し： 専攻科設置4年目にあり、教育内容の充実とJABEE受審への対応の観点から、バランスのとれた基礎学力育成のための開講科目とその内容を検討している。
○ その他の提言	
<ul style="list-style-type: none"> 本科同様英語力を維持できるような科目がないのは止むを得ないかもしれないが、検討は必要かと思えます。例えば、本科にて5年間（これは、高校3年・学部2年分）を少なくとも1回/週、授業で実施し、専攻科においても技術英語を1年次で修得または自己啓発（通信教育等）を促されては如何でしょうか。 	「英語力」の強化： 本科から専攻科修了までの継続的な英語力の強化が求められている。本科での受信型の英語力から、専攻科の発信型の英語力の強化に向けて、担当者との検討を予定したい。
<ul style="list-style-type: none"> 国際標準語としての英語に更に注力すべきだと思います（技術英語前の英語力ボトムアップ）。 	

(出典 「外部評価結果に対する対応策」 1頁 [書式は「縦」等に変更])

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では、自己点検・評価について規定する「木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則」（以下「自己点検等規則」という。）が制定されており（資料11-3-①-1）、本校の活動について、必要がある場合は専門委員会を設置し、総合的に評価することが定められている。

自己点検等規則に基づく最初の自己点検等は平成8年に行われ、その結果は平成9年3月に『自己点検・評価報告書』にまとめられた。また、平成10年度には、同報告書を受け、その後の改善状況等も視野に入れた自己点検等が再度行われ、その結果は平成11年3月に『木更津工業高等専門学校 現状と課題』にまとめられた。

直近のものとなる平成13年度に実施された自己点検等においては、過去の評価等に基づき、以下の項目に重点を置いた点検が行われ、その評価結果は平成14年5月に『現状と課題－自己点検・評価報告書－』にまとめられ（現地閲覧資料25『現状と課題－自己点検・評価報告書－』）、本校の全教職員に配付された。

学校運営

- (1) 組織・運営機構 (2) 施設整備 (3) 教官人事

教育活動

- (1) 学生受入れ組織・運営機構 (2) カリキュラム (3) 学校行事
(4) メンタルヘルスケア (5) 女子寮の運営

地域との交流

- (1) 地域との交流

また、直近の外部評価は、特に前述の『外部評価資料－平成14年5月以降の本高専の現状並びに取り組みについて－』等に基づき、平成16年9月に実施された。評価結果は『外部評価報告書』としてまとめられた。これに基づいて関係委員会等是对応策について審議したが、これらは「外部評価結果に対する対応策」として集約され、本校のウェブサイト（教職員LocalHomepage）に掲載され、閲覧可能となっている（資料11-3-①-2）。

なお、準学士課程第4学年から専攻科課程第2学年までの4年間を一貫した一つの課程として設定した「生産システム工学」教育プログラムは平成17年度において「日本技術者教育認定機構」による審査を受けたが、当プログラムは「工学（融合複合・新領域）関連分野」において、教育活動の品質が満足すべきレベルにあり、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功しているとして、JABEE認定基準に適合していることが認定された（資料11-3-①-3）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、自己点検・評価等が継続的に行われており、その結果も周知されている。また、点検項目等は総合的な状況に関するものとなっているが、その時々において懸案とすべき事項に焦点を当てたものとなっている。更に、「外部評価結果に対する対応策」はウェブサイトに掲載されており、常時閲覧可能となっている。このようなことから、本校の自己点検・評価及びその結果の公表状況について、問題は無いと判断される。

資料11-3-①-1 (1/2)

木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則

木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則

平成7年10月16日

規則第1号

(目的)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における自己点検・評価に関する体制を整備し、本校の教育活動の一層の充実向上に資することを目的とする。

(委員会)

第2条 本校に、自己点検・評価の基本方針並びに実施基準等に関する事項を検討し、自己点検等を適切に実施するため、自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (2) 各学科・学系主任及び専攻科長
- (3) 事務部長
- (4) 庶務課長、会計課長及び学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

3 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を行う。

6 委員長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第3条 委員会に、特定の専門事項について調査及び検討させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し、必要な事項は、委員会が別に定める。

(点検・評価項目)

第4条 点検及び評価項目は、委員会の議を経て、校長が別に定める。

(学科等における点検及び評価)

第5条 学科等（各学科・学系、専攻科、各種委員会及び事務部をいう。以下同じ。）の主任、専攻科長又は委員長等は、委員会の諮問に応じ、当該学科等の所掌に属する項目に関し、点検及び評価を行い、その結果を校長に報告するものとする。

(点検及び評価結果への対応)

第6条 校長は、委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められる事項については、その具体的化に努めるものとする。

2 校長は、必要がある場合は、委員会又は学科等に改善策の検討を付託することができる。

(事務)

第7条 点検及び評価に関する事務は、庶務課が処理する。

資料11-3-①-1 (2/2)

(雑則)

第8条 この規則に定めるものの外、点検及び評価に関し、必要な事項は委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

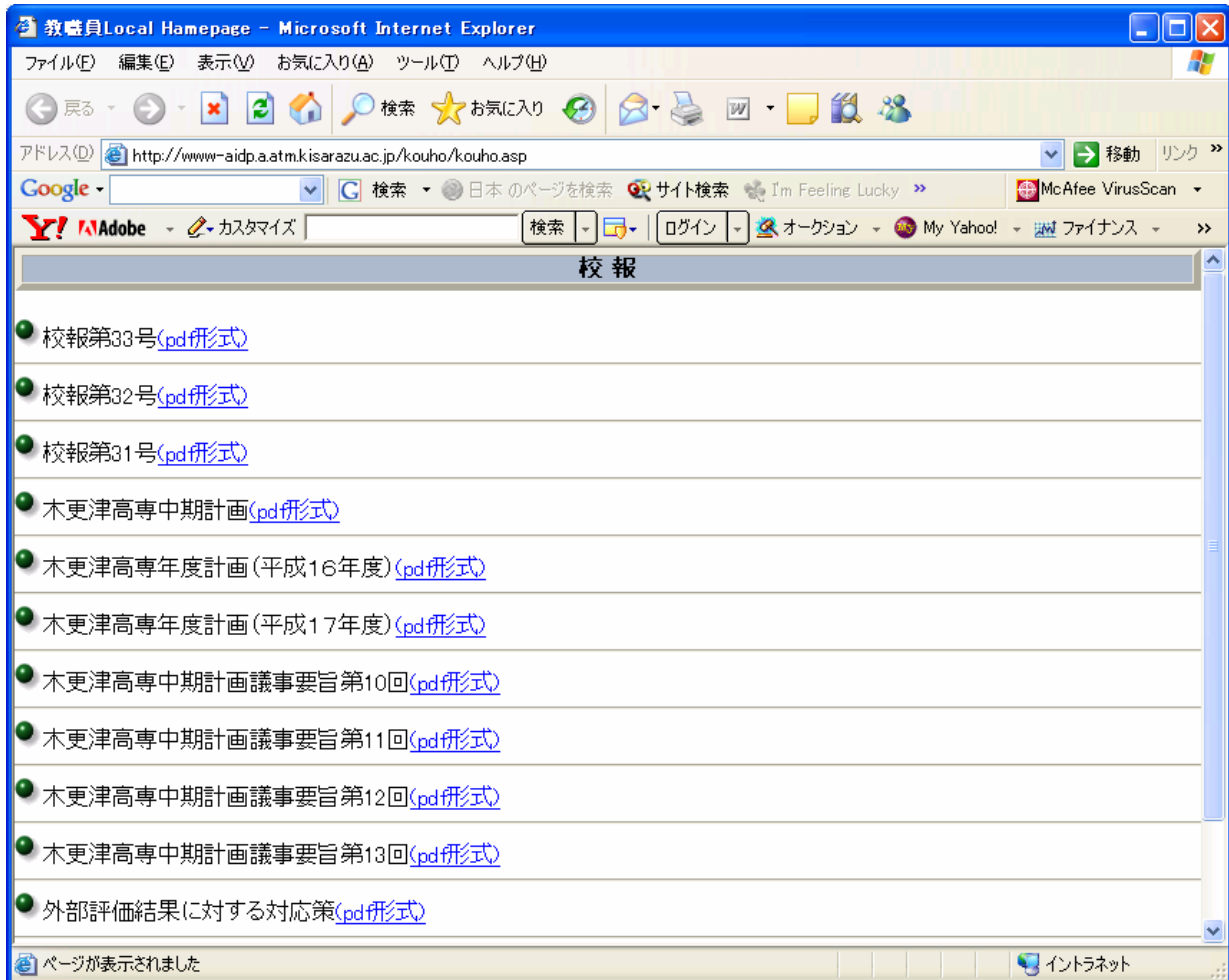
この規則は、平成7年10月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則)

外部評価結果に対する対応策の掲載状況



(出典 本校「教職員LocalHomepage」ウェブサイト)

JABEE認定基準 認定証



(出典 JABEE認定基準 認定証)

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校では、自己点検等規則第6条において「校長は、委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められる事項については、その具体的化に努めるものとする。」と定めている。また、同第2項において「校長は、必要がある場合は、委員会又は学科等に改善策の検討を付託することができる。」と定めている。

なお、本校の継続的教育改善システムにおいては「外部評価」が全体を総括する形となっており(資料11-3-②-1)、各評価結果は本校の目的の達成及び改善に結び付くように保証されているが、外部評価は「外部評価委員会」が行う評価に限定されるものではなく、各委員会の創意と判断により随時実施される「第三者評価」全てを指すものである。

例えば、「観点6-1-⑤」において詳述したように、「「生産システム工学」教育プログラム」の改善活動においては関係委員会等による各種アンケート及び「学生座談会」や「専攻科修了生座談会」等が実施されたが、これらの結果は関係する委員会等に通知され、種々の改善が試みられた。特に卒業生からの「英語力の向上」を求める声は切実であったため、英語科は検討を重ね(資料11-3-②-2)、大幅なカリキュラム改訂に繋がった。

(分析結果とその根拠理由)

本校における各種の評価結果は関係委員会等に確実にフィードバックされており、例えば英語力向上のためのカリキュラム改訂等が各種評価結果を受けて実現されており、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが存在し、有効に運営されていると判断される。

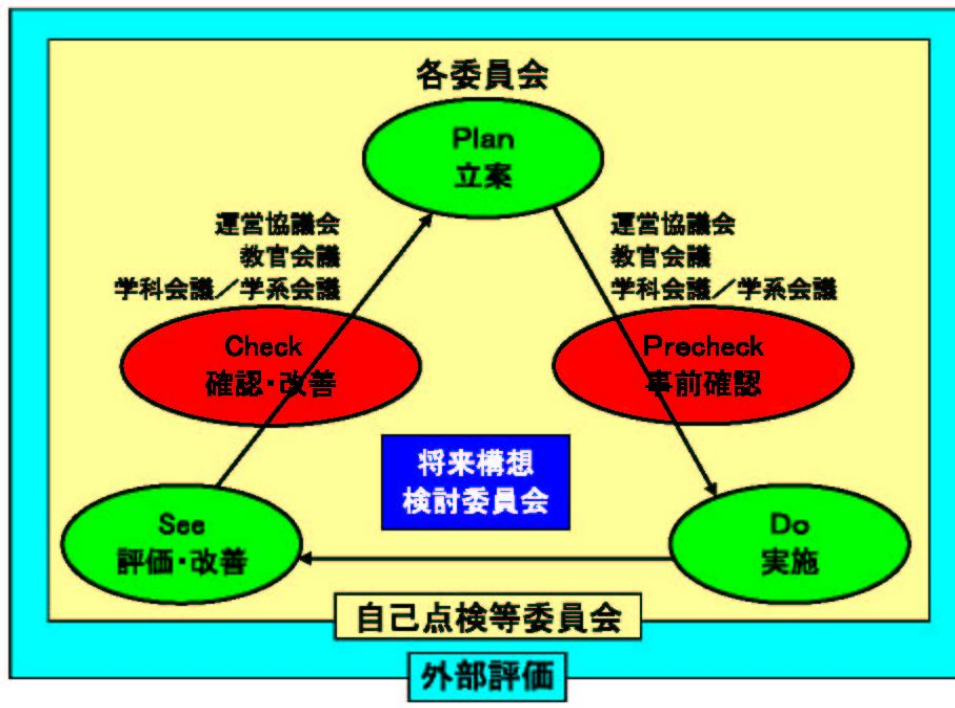
木更津高専の継続的教育改善システム－概念図－

木更津高専の継続的教育改善システム－概念図－

木更津高専は技術者を育成する教育機関であり、社会状況の変化等に応じ、継続的に教育内容を改善させています。このために下図のようなシステムが存在しますが、当システムの特徴として、以下のような点が上げられます。

- (1) 「将来構想検討委員会」が木更津高専の将来構想等について審議し、様々な課題についての調査・検討や執行を各委員会に依頼しています。
- (2) 各委員会は原則として「自己完結・自己責任」型で活動を行っており、それぞれの業務は「Plan-Do-See」と呼ばれる「立案-実施-評価・改善」というサイクルに基づき実行されています。
- (3) 各委員会の行う業務は、実施前の「事前確認(Precheck)」と次回の立案に反映させるための「確認・改善(Check)」という二つの過程において、全教員によるチェックを受けます。更に、この二つの過程においては、運営協議会等の複数階層においての検討がなされます。
- (4) これらのサイクルが適切に機能しているかどうかを判断するために、「自己点検等委員会」が設置されています。
- (5) 更に、木更津高専全体の活動が適切であるかどうかを判断するため、適宜「外部評価」を受けるようにしています。

このようなシステムを採用することにより、全教員が全体的な流れを理解しつつ、各委員会が独自の判断により機動的に業務を遂行し、教育内容を継続的に改善することが可能になっています。



(出典 <http://www.kisarazu.ac.jp/~jabee/improvement/>)

人文学系英語科 科会 議事要旨

平成16年度 第5回 英語科会議 議事要旨

1. 日 時：12月6日(月)13:30～14:30(後期中間試験期間中の開催)
2. 場 所：共通ゼミ室A
3. 出席者：英語科教員全員
4. 議 題：
 - (1) 平成17年度科目担当案
配付資料参照：担任等の決定を受け、年内には最終的に決定することとした。
 - (2) 平成17年度本科入学生の使用参考書等
各教員からの推薦を受け、最終的には当該学年を担当する教員が決定することとした。なお、決定は発注等の関係から、来年の1月末までに行うことになる。
 - (3) カリキュラム改訂WGから依頼のあった検討委員の選出
小澤教員に検討委員をお願いすることとした。
 - (4) カリキュラムに向けての方向性
10月に行われた「学生座談会」および「専攻科修了生座談会」の結果は先日配付された通りであるが、最も尊重されるべき学生の声は切実である。よって、平常の指導にこれまで以上の力を注ぐと共に、混合学級導入に伴うカリキュラム改訂に併せ、英語科のカリキュラムも抜本的に改善すべく、具体案についての策定を開始することとした。
 - (5) JABEE認定に関連するTOEICについて
未受験に対しては、来年1月のTOEICに向けて、授業および掲示等により、受験を更に強く勧めることが確認された。
 - (6) 平成17年度関東甲信地区英語弁論大会
今年度の東京都立工業高等専門学校への引率は室井教員が行い、結果は過日連絡した通りである。平成17年度はサレジオ高専で開催される予定であるが、引率等については来年度に入ってから決定することとした。
 - (7) 英語研究同好会の活動について
配付資料参照
 - (8) 平成16年度研究費について
配付資料参照、例年どおり、最終的な調整は2月頃に行うことが確認された。
 - (9) その他
平成17年度は実用英検の本会場としての実施を受諾する予定である。
5. 次回日程：1月の実施を予定する。

(出典 人文学系英語科 議事要旨)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

諸規定等が良く整備されており、効率的に組織が運営されている。また、各委員会等も本校の教育の目的の達成のために、自律的な改善活動を行っている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準11の自己評価の概要

本校においては、教育等の目的を達成するため、校長を頂点とした主事、運営協議会、教官会議及び各種委員会等に関する「木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則」をはじめとする諸規定等が良く整備されている。また、「木更津工業高等専門学校事務組織規程」等も良く整備されており、全構成員の責務と権限が明確に規定されている。その結果、組織全体として十分に効果的な運営が行われており、中期計画(年度計画)の策定及び評価等の諸業務も滞りなく行われている。また、教育等の活動の支援及び促進を行うため、各種委員会等が創意を發揮しながら互いに協力して適切に活動を行いつつ有機的に機能を果しており、混合学級の導入なども全教職員の合意を得ながら決定された。

また、外部評価等に関しては、評価結果等は集約後直ちに関係委員会等にフィードバックされ、対応策についての検討がなされ、本校の目的の達成のための改善に結び付く諸活動が実行に移されている。なお、外部評価は有識者によるものに限定せず、本校卒業生等を含む第三者による種々の評価を全て外部評価と捉え、各評価に対する速やかな対応を行っている。その結果カリキュラム改訂等が行われるなどし、継続的な改善が行われている。

なお、本校における自己点検・評価等に関しては、平成8年度以降、その時点における重点項目等を設定し、適切な間隔で継続的に実施されている。特に最近では「「生産システム工学」教育プログラム」の充実に伴う諸評価も行われたが、これらの評価結果等は、本校の目的の達成のための改善に直接的に資すると同時に、公表も行われており、教職員が常に改善事項について意識するようになっている。

以上のことから、本校の管理運営に関して、特に問題はないと判断される。

IV 選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的

高等専門学校は設置当初から実践的な技術者の育成を目標に掲げてきた。一方、2004年4月に独立行政法人化され、教育と研究が一体化された「教育研究」が本務の一つに挙げられた。高等専門学校の教育研究が実践的な技術者の育成に資するものとなるためには、独立行政法人国立高等専門学校機構法（以下「機構法」という。）に示されているように「外部との共同研究や地域産業界との連携」を進め、より有用で実践的な研究成果をあげることが必要である。

本校は歴史ある港町の木更津に位置しているが、産業は漁業と商業が中心の町であり、木更津に工業は根付いていない。袖ヶ浦以北の沿岸部には化学プラント工場、電力会社の発電所、千葉の製鉄所及び、木更津の南には君津の製鉄所等の大企業があるが、自動車産業のように中小企業を周辺に抱える産業形態ではない。数少ない大企業と零細企業という構造であり、地域の活力は低下の一途をたどっている。こうした状況下で本校の教育研究力を地域産業に還元し、本校の社会的な存在意義を高めていくためには以下の目標のもとに教育研究を実践して行くことが求められる。

(1) 地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するために、地域社会とのコミュニケーションを深める。

地域の活性化のためには中小・零細企業の活性化が不可欠である。大企業と零細企業という木更津の産業構図は、見方を変えれば新産業を起業する余地を残した地域であるとも言える。高専の役割は、人材の育成を含め、地域企業の基礎技術力向上と、新技術の紹介、また何より地域企業同士の情報交換の場を提供することで新規事業を地域に促すことにある。

(2) 外部機関との共同研究・受託研究等を推進する。

地域企業を含めた外部機関との共同研究・受託研究等を推進することで、本校の教育研究成果を実際に役立てることができ、地域協力を実りあるものとするようになる。

外部機関との共同研究は、準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究に組み込まれることで、教育活動に生かされることが多く、研究を教育に生かす上でも重要である。

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

2004年4月から施行された機構法には、「機構以外から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施すること、及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと」が規定されている。

「正規課程の学生以外に対する教育サービス」は、社会貢献の一環として、また理数教育の基礎レベル向上を促す事業として、今後重要になると考えられる。

本校ではこの機構法施行以前から公開講座や出前授業を実施していたが、機構法により本務の一つとして位置づけられた。そこで「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を以下に示す目的のもとに実施する。

(1) 一般社会人の生涯教育をサポートする目的で、公開講座・オープンセミナー・テレワークセミナーを実施する。

原則として一般社会人を対象とした講座であり、本校教員の専門知識を生かした内容の講義を実施する。

(2) 地域小中学生の学習意欲の向上を目的として、公開講座・オープンセミナー・テレワークセミナー・出前授業を実施する。

小中学生を対象とした講座で、本校の教員の持つ教育資産を活用して児童・生徒が小中学校の平常授業で体験できない内容の講座を中心に実施する。

選択的評価事項A 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育研究力を地域産業に還元し本校の社会的な存在意義を高めていくために、地域社会とのコミュニケーションを深め地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するとともに、外部機関との共同研究を推進している。

本校設立当初より、地域企業との共同研究や受託研究は活発に行われていたが、2001年3月に木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「テクノセンター」という。）を設立し、その運営に当たってテクノセンター運営委員会を組織することで、本校と地域社会・企業等との結びつきの一層の推進を図った（資料A-1-①-1）、（資料A-1-①-2）。

テクノセンターの主な事業は、共同研究や受託研究の受入れ、技術相談の実施、奨学寄附金の受入れ、生涯学習支援等を目的とした公開講座等の開講、受託試験の受入れである（資料A-1-①-3）。テクノセンター施設内には技術相談室、多目的会議室の他、3つのラボラトリが整備されている。2006年3月現在、第1ラボラトリには、構造物や試供体等の裁荷試験において発生するAE（アコースティックエミッション）を計測し解析することができるAE解析システムが設置されている。第2ラボラトリには、高周波回路（45MHzから110GHz）のスペクトラム解析や伝達特性等の測定を行うネットワーク解析システムが設置されている。第3ラボラトリには、物体表面から放出される赤外線エネルギーをとらえ、温度分布として画像表示し、有限要素法を用いたシミュレーション解析も可能な非接触温度計測システムが設置されている。（資料A-1-①-4）。また、2004年度よりは、既存の電子顕微鏡室（資料A-1-①-5）がテクノセンターによる運営体制となった。

テクノセンターでは、毎年ガイドブック（資料A-1-①-6）を発行（2005年度発行部数：1000部）し、テクノセンターの目的、業務内容、各教員の研究分野（資料A-1-①-7）等の広報活動を行っており、それらは同時にウェブサイト（資料A-1-①-8）、（資料A-1-①-9）でも公開している。また、半年毎にテクノセンターニュース（各300部発行）を発行し、センターの紹介、研究者の紹介、センターの活動紹介等を行っており（資料A-1-①-10）、こちらもウェブサイトで公開している。更に、テクノセンター長（1名）、副テクノセンター長（3名）を中心として、各種講演への講師派遣、審議委員会への委員の派遣、交流事業等の参加を積極的に行っており（資料A-1-①-11）、その他の教員も千葉県内の技術振興の場である東葛テクノプラザ技術相談会に交替で参加している（資料A-1-①-12）。

また、本校と地域産業界の積極的な情報交換の場を設けるために、テクノセンター設立と同時にテクノ交流会を開催し、地域企業等から講師を招きテクノセンター講演会を定期的で開催してきた（資料A-1-①-13）。2004年3月には、地域産業界等との連携をより発展させるため、会員制の木更津工業高等専門学校技術振興交流会（以下「技術振興交流会」という。）を発足した（資料A-1-①-14）。技術振興交流会は、本校の教育研究の充実に協力するとともに、本校並びに会員相互の連携・協力を深めて産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とし、技術及び実務に関する交流会・講演会の開催、産学連携による技術開発の推進、会員及び地域社会の発展に寄与する事業、木更津高専の教育・研究の充実にすること等を事業として行っている（資料A-1-①-15）。技術振興交流会は本校とは、別組織となっていて、会長、副会長、監事、理事等の役員のほと

んどを地域企業，商工会議所等から選出し，本校からはテクノセンター長，副テクノセンター長が理事の一員として，庶務課長が幹事の一員として参加している（資料A-1-①-16）。

技術振興交流会では，地域のニーズと本校のシーズを組合せた活動を行うために実践的なテーマを設定して，一般会員と本校教員から構成される分科会を設け，設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を行っている（資料A-1-①-17）。現在，環境管理技術，医療・福祉機器，教材開発，光応用技術，社会基盤のメンテナンス，ロボット・自動化，通信・アンテナ，画像情報，機械・制御系，電子・電気系，情報系，環境・土木系，自動車リサイクル技術，異業種融合（有機材料，複合材料，伝統文化・工芸，エネルギー技術，資源リサイクル技術，水産・農林系基盤技術，生活工学）の14分科会が設置されている。また，年2回のテクノフォーラムを開催し，広範囲のテーマによる講演会を軸として，本校教員の研究内容の紹介，企業の製品展示，会員の技術紹介，施設見学及び技術相談等を実施している（資料A-1-①-18）。

木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程

平成12年11月15日 規則第8号

(趣旨)

第1条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第16条第1項に基づき、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の運営その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的に行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること。
- (2) 技術セミナー及び技術研修会に関すること。
- (3) 学内共同研究に関すること。
- (4) ものづくり教育の推進に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 電子顕微鏡室の運営に関すること。
- (7) その他センターの推進に関する必要な事項。

(委員会)

第4条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長 (2) 副センター長 (3) 学科・学系から選出された教員若干名
- (4) 事務部長 (5) その他校長が必要と認めた者

3 委員会の委員は、校長が委嘱する。

4 第2項第3号及び第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(事務)

第5条 センターの事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、委員会の議を経てセンター長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成12年12月1日から施行する。

2 この規程の第4条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

3 木更津工業高等専門学校技術開発相談室規程（平成7年12月14日規則第2号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年7月1日から施行する。

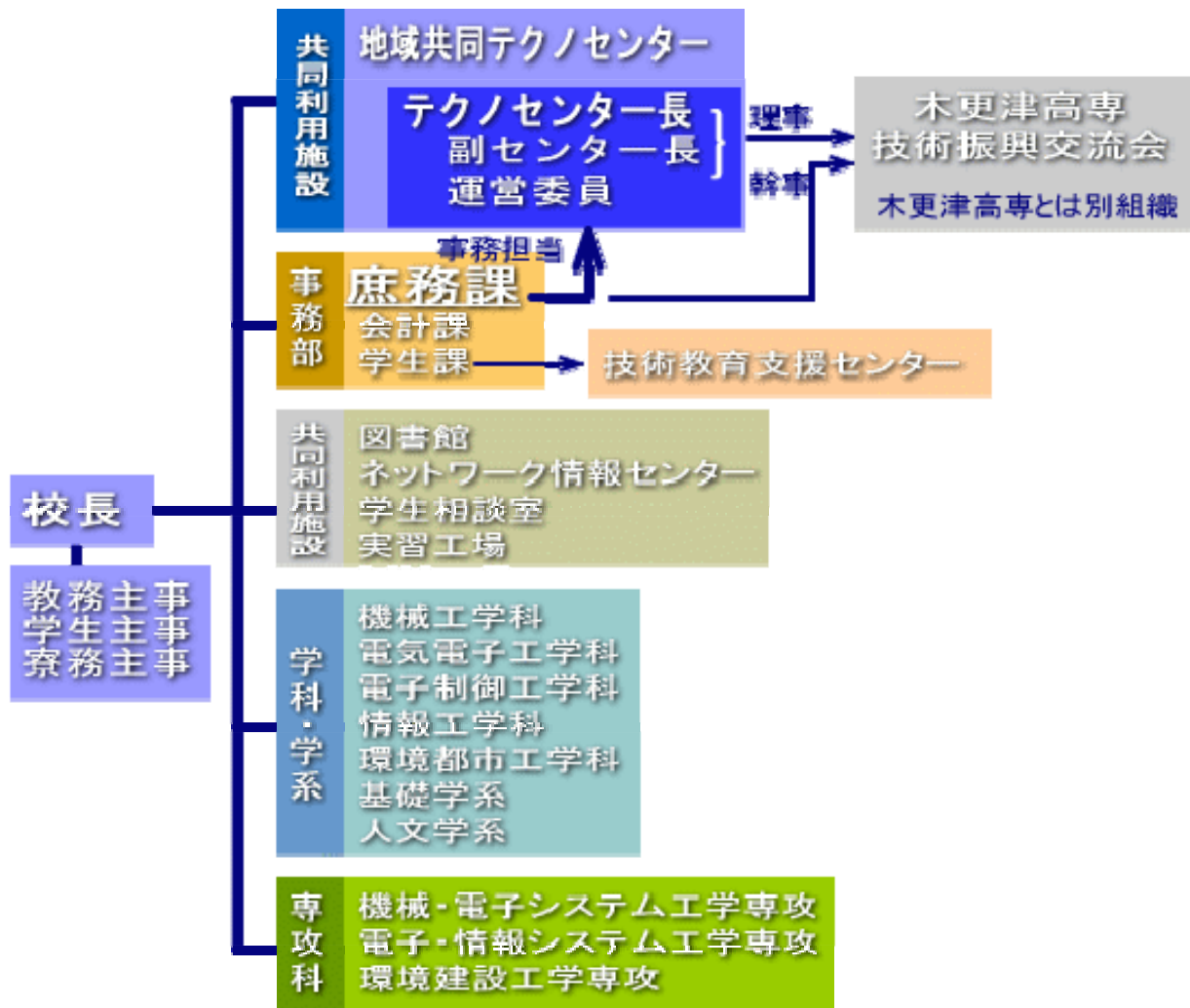
附 則

1. この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2. 木更津工業高等専門学校電子顕微鏡室運営規程（平成13年規則第12号）は廃止する。

(出典：木更津工業高等専門学校広報第19号)

地域共同テクノセンター組織図



(出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/sosiki.htm>,
木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブページより)

地域共同テクノセンターの事業内容



地域共同テクノセンターは
 地域の人々と共同研究・受託研究・技術相談・生涯学習・受託試験などを集約的に
 行い、地域の発展向上に努めるための拠点です。

当センターには
 共同研究や受託研究を行うための研究室があります。
 技術相談を行うための相談室があります。
 公開講座やリフレッシュ教育等の生涯学習を行う多目的会議室があります。

事業内容

共同研究



企業の方々と、本校研究者と共同で研究を行います。

受託研究



企業の方々からの依頼によって、本校が各種研究を行います。

技術相談

相談は無料です



本校では、多くの教員が多分野にわたり教育と研究に携わっていますので、それぞれの分野で相談に応じたり、情報の提供などを行います。

寄附金

寄附に関しては、税法上の優遇措置が受けられます



本校には、学術研究の奨励や教育の振興を目的に、広く寄附金を受け入れています。

生涯学習



技術セミナー及び技術研究会等各種リフレッシュ教育を行います。
 専門的知識を生かした各種公開講座等を行います。

受託試験



公的機関として、材料試験などを行うことができます。



木更津工業高等専門学校 庶務課庶務係 までお気軽にお問い合わせください
 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1
 tel.0438-30-4005 fax.0438-98-5717
 ● ホームページにも情報があります URL <http://www.kisarazu.ac.jp/> E-mail asyomu-1@aidp.kisarazu.ac.jp

(出典：2005 地域共同テクノセンターガイドブック)

地域共同テクノセンター施設紹介

地域共同テクノセンター **COOPERATIVE TECHNOLOGY CENTER**

産業界等との連携・協力を行うため、地域共同テクノセンターを置いている。

民間等との共同研究、受託研究、奨学寄付金、技術相談等に関する業務を行い、さらに技術振興交流会を通じて地域社会の活性化に役立っている。

The Center set up in the college in 2001 cooperates with such institutes as businesses, enterprises and companies in the district.

The purposes of the Center are to advance the researches requested by or with other institutes, to help students financially and to be consulted about technological skills.

The Center has been useful to lead social activities effectively through the promotive technical cooperation.



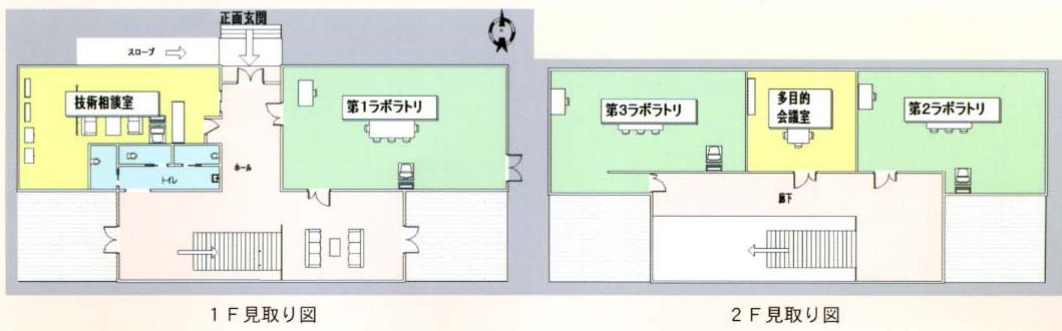
▲第2ラボラトリ (ネットワーク解析システム)
The 2nd Laboratory



▲第1ラボラトリ (AE解析システム)
The 1st Laboratory



▲第3ラボラトリ (非接触温度計測システム)
The 3rd Laboratory



1 F 見取り図

2 F 見取り図

(出典：2005 年学校要覧 21 頁)

電子顕微鏡室紹介

電子顕微鏡室

ELECTRON MICROSCOPE CENTER

工業材料に関する教育研究のための共同利用施設として、電子顕微鏡室が設置されており、利用に関する講習を受講すれば利用できる。

これまで、機械材料の破断面・磨耗面の研究、半導体の結晶・薄膜の分析、コンクリート材料の研究など教育研究に大いに活用されている。

主要設備

- 走査型電子顕微鏡（加速電圧30kV、分解能4nm、エネルギー分散形X線分光器、3次元測定装置付き、生物試料観察可能）分析可能元素はホウ素からウランまで。
- X線分光装置（波長分散形X線分光器、加速電圧30kV 分解能10nm）
- X線回折装置（50kV、1.5kW）
- デジタルマイクロスコープ（Hirox DH-2400DP）

The Electron Microscope Center is a common facility of the college for education and research, mainly in the fields of industrial materials, electronic materials and semiconductors.

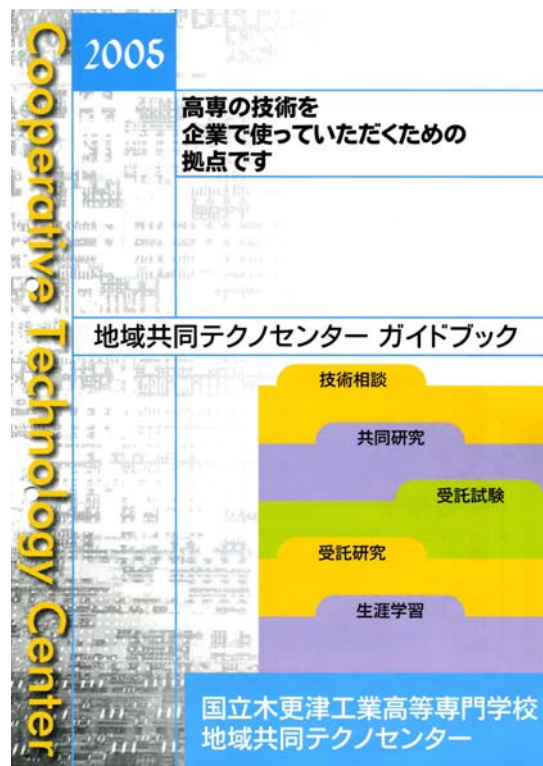
The center operates the following equipment to carry out observation of the surface and analysis of the structure of metals, alloys, crystals, thin films, etc.

- Scanning Electron Microscope with energy dispersive X-ray spectrometer and a three-dimensional measuring device, JSM-5310LV (JEOLLtd).
- The maximum acceleration voltage is 30kv, and the resolution is 4nm.
- X-ray microanalyzer ASM-SX, (Shimazu Corp.)
- X-ray Diffractometer, (Rigaku Denki Co. Ltd.)
- Digital Microscope, (Hirox Co. Ltd.)



(出典：2005 年学校要覧 23 頁)

2005 地域共同テクノセンターガイドブック



(出典：2005 地域共同テクノセンターガイドブック表紙，現地閲覧資料 26)

教員の研究分野（一部抜粋）

機械工学科 教員の研究分野

職名	教員氏名(学位)	専門分野	相談内容
教授	大藤 見義 Daitoh Teruyoshi D. Eng.	・バイオエンジニアリング ・バイオメカニクス ・カイロプラクティック	・重心動揺 ・筋力測定 ・腰痛, 脊柱側湾症
教授	黒田 孝春 Kuroda Takaharu M. Eng.	・機構学 ・ヒューマンインターフェース ・レーザー加工	・機構設計 ・GA など人工知能の適用 ・各種レーザー加工
教授	高橋 秀雄 Takahashi Hideo D. Eng.	・歯車工学 ・設計工学 ・トライボロジー	・機械要素（歯車等）の強度評価 ・動力伝達装置等の機械設計 ・潤滑油の性能評価
教授	石出 忠輝 Ishide Tadateru M. Eng.	・可視化画像計測 ・実験流体力学 ・数値流体力学	・PIV 解析方法 ・熱線流速計による流れ場の測定方法 ・二次元粘性流の数値解析方法
助教授	内田 洋彰 Uchida Hiroaki D. Eng.	・機械制御システムの制御 ・ロボットシステムの制御 ・機械運動システムの開発	・ロバスト制御手法を用いた機械制御システムの開発 ・力制御手法を用いたロボットシステムの開発 ・3D 運動機構解析ソフトを用いた機械構造物の設計および開発
助教授	鈴木 久夫 Suzuki Hisao B. Eng.	・機素潤滑設計 ・エンジンシステム ・新エネルギー技術	・トライボロジー ・スターリング機関 ・太陽エネルギー
助教授	小田 功 Oda Isao D. Eng.	・光応用計測 ・光センシング ・光エネルギー	・非接触形状計測システムの開発 ・非接触変位計測システムの開発 ・光学機器の開発
講師	板垣 貴喜 Itagaki Takayoshi M. Eng.	・機械要素（玉軸受の振動） ・トライボロジー ・振動工学	・玉軸受の振動解析 ・グリス潤滑された玉軸受の異常振動
助手	林田 和宏 Hayashida Kazuhiro D. Eng.	・燃焼工学 ・レーザー応用計測 ・微粒化学	・燃焼診断 ・熱流体のレーザー計測 ・液体の微粒化解析

主要設備 FFTアナライザ, 振動試験器, 加速度計, サーモグラフィ, 重心動揺計, 筋力測定器, カイロテーブル, 機械システム制御装置, ロボットシステム, 万能試験機, シャルピー衝撃試験機, 硬さ試験機, 疲労試験機, PIV 解析システム, 二次元風洞, 機械システム制御装置, ロボットシステム, 運動機構解析ソフトシステム, 摩擦摩耗試験機, 情報回路実験設備, 計算機演習設備, 歯車試験機 等々

(出典：2005 地域共同テクノセンターガイドブック, 現地閲覧資料 26)

地域共同テクノセンターウェブサイト（活動の目的）

MENU

- 新着情報
- 活動目的
- 事業内容
- ご相談の方法
- 施設紹介
- 教員紹介
- 活動報告
- 組織図
- テクノセンター 規程
- ラボの研究成果報告
- 木更津高専技術振興交流会
- 申請書類・報告書 書式

Technology Collaboration
高専の技術力をみなさんへ

- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- リフレッシュ教育
- 公開講座

地域共同テクノセンターは、共同研究・受託研究・受託試験・技術相談・生涯学習などを集約的にを行い、地域の方々と共に、地域の発展向上に努めるための拠点です

活動目的

▶▶ 地域共同テクノセンターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的にを行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。（テクノセンター運営規程第2条）

▶▶ 本校の教育研究力を地域に還元し社会的存在意義を高めるために以下の事業の実施を目標とする。（以下項目は、テクノセンター運営規程第3条から）

- 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること
 - ニーズと学内シーズを見極めた研究を推進するため、地域社会とのコミュニケーションを深める
- 学内共同研究に関すること
 - 地域産業界との共同研究の推進
- ものづくり教育の推進に関すること
 - 出前授業などの推進
- 公開講座に関すること。
 - 公開講座、オープンセミナーなどの推進
- 技術セミナー及び技術研修会に関すること
- 電子顕微鏡室の運営に関すること
- その他センターの推進に関する必要な事項

（出典：http://www.kisarazu.ac.jp/techno/index.html, 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブサイトより）

地域共同テクノセンターウェブサイト（教員の紹介）



基礎学系

- [福地 健一](#)
FUKUCHI Ken'ichi
- [関口 昌由](#)
EKIGUCHI Masayoshi
- [金子真隆](#)
KANEKO MASATAKA
- [高橋邦夫](#)
TAKAHASHI kunio
- [鎌田 勝](#)
KAMATA Masaru
- [山下 哲](#)
YAMASHITA Satoshi
- [田村 和士](#)
TAMURA Kazushi
- [吉井 文子](#)
YOSHII fumiko

氏名	高橋邦夫（TAKAHASHI kunio）
メールアドレス	ntakaha@inc.kisarazu.ac.jp
職名・学位	教授・博士（工学）
研究協力分野	レーザー誘起蛍光(LIF)法による光計測 光応用計測
研究テーマ	LIF法を用いたアクティブリモートセンシングによる植物診断 農水産業への光応用計測
試験装置	YAGレーザー、UVアルゴンレーザー、可視アルゴンレーザー、UVパルス窒素レーザー、 高感度分光計測システム、高感度画像計測カメラ、高感度顕微画像計測システム、 He-Cdレーザー、紫外半導体レーザー
共同研究事例 地域活動	共同研究: さんま魚船の集魚灯開発研究、LIF法を用いたのり診断に関する研究 地域活動: 青少年のためのおもしろサイエンスを実施 学会活動: 照明学会「光源システムにおける環境とエネルギー問題研究調査委員会委員」 植物工場学会関東支部評議委員
所属学会	応用物理学会、レーザー学会、日本リモートセンシング学会、照明学会、分光学会、 写真測量学会、植物工場学会、物理教育研究会、高専学会、計測制御学会
略歴	1. 昭和45年木更津工業高等専門学校に採用 2. 平成3年レーザーによる指紋検出装置の開発で県警本部長より表彰 3. 平成9年照明学会より論文賞 4. 平成14年写真測量学会から学会活動により表彰

(出典: http://www.kisarazu.ac.jp/%7Egijitu/faculty_link_frame.htm,
木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブサイトより)

テクノセンターニュース

テクノセンターニュース No.8

目次

1. 独立行政法人化後の2年間	
地域共同テクノセンター長 小平眞次	1
2. 木更津高専研究者紹介	
地域社会の技術振興に貢献したい 機械工学科 黄野 銀介	2
人間の生活と歩行ロボット 電気電子工学科 浅野 洋介	3
実験とシミュレーションを組み合わせた真実の追究	
電子制御工学科 橘川 五郎	4
再演と巻き戻しによる並列プログラムのデバッグ	
情報工学科 丸山 真佐夫	5
企業との共同研究事例 環境都市工学科 青木 優介	6
「匂い」をテーマに 基礎学系 吉井 文子	7
地域交流活動としての「連句会」 人文学系 五十嵐 譲介	8
3. 地域連携・産学連携の記録	
公開講座・オープンセミナー	9
テレワークセミナー	10
共同研究・受託研究ならびに奨学寄付金の受け入れ状況	10
科学研究費補助金採択状況	10
4. 取材シリーズ	
地域企業訪問 一ナプソン（株）を訪ねて	
地域共同テクノセンター委員 大澤 寛・五十嵐譲介	11
5. 本校活動の紹介記事	
ポータルサイト木更 CoN（毎日新聞 平成 17 年 12 月 14 日）	15

*表紙の説明：平成 17 年度末に地域共同テクノセンターに納入される予定の高分解能 X 線回折装置とほぼ同機種の写真（写真提供は千葉大学ベンチャービジネスラボラトリ）

（出典：テクノセンターニュース第 8 号の目次，現地閲覧資料 27）

資料A-1-①-11 (1/2)

2005年度テクノセンター活動概要報告

日	時間	内容	参加者
4/12(火)	15:00-16:30	新校長に地域共同テクノセンターの活動状況を説明	小平、鈴木聡
4/14(木)	19:00-21:00	木更津商工会議所異業種交流プラザ総会后懇親会	小平、佐藤、仲川
4/19(火)	15:20-17:50	第1回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
4/27(水)	15:30-17:30	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議(関東地区5高専) 上野国立科学博物館、幹事校木更津高専	小平、大澤
5/9(月)	15:30-17:00	技術振興交流会役員会第1会議室	役員
5/12(木)	18:30-20:30	異業種交流プラザ例会	佐藤、林田
5/18(水)	14:00-17:00	技術振興交流会総会第1講義室	会員
6/8(水)	15:00-18:00	東葛テクノ会第6回通常総会:東葛テクノプラザ	小平、鈴木聡
6/9(木)	15:20-17:00	第1回技術振興交流会分科会委員長会議	分科会委員長他
6/9(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	林田、吉井
6/14(火)	13:15-17:00	千葉県バイオ/ライフサイエンス/ネットワーク会議総会	小平
6/22(火)	15:00-17:10	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議、上野国立科学博	小平、大澤、原、斉藤、仲川
6/28(水)	14:00-18:30	第13回異業種融合化協議会通常総会:ホテルグリーンタワー	小平
6/30(火)	16:30-17:10	第2回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
7/15(金)	10:00-12:00	城西国際大とのジョイントによるデジタルアーカイブ化に関する打ち合わせ:木更津高専	小平、鈴木聡
7/15(金)	13:00-15:00	サイエンススクエア学生ボランティアへの説明会第1会議室	担当者
8/2(火)	17:30-19:00	会社訪問取材:アロマ工芸	五十嵐、鈴木聡
8/3(水)	14:00-17:40	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議	小平、大澤、斉藤、
8/14(日)	13:00-21:00	城西国際大とのやっさいもっさい踊りの撮影	学生、小平、栗本
8/15(月)	14:00-21:00	城西国際大との花火大会の撮影	学生、小平、栗本
8/16(火) - 8/28(日)	9:30-16:30	2005サイエンススクエア(国立科学博物館にて)	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋[邦]、栗本、斉藤、仲川他、 学生ボランティア約10名
8/22(月) - 8/24(水)		全国高専テクノフォーラム:豊田高専担当、名古屋市次年度担当、関東信 越地区[長岡高専]	小平、鈴木聡、原、斉藤、仲川
8/31(水)		関信地区テクノセンター長会議:茨城高専中会議室	小平
9/2(金)	13:30-17:00	知的財産に関する講習会	佐藤、斉藤
9/5(月)	15:00-17:00	木更津商工会議所工業部会の高専見学会	小平、鈴木聡、佐藤、庶務課
9/6(火)	16:00-17:00	第3回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
9/6(火)	17:00-16:30	2005サイエンススクエア反省会	関係者
9/9(金)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	吉井、米村
9/23(金)	12:00-18:30	千葉大学オープンリサーチ	小平
9/23(金)	15:00-18:30	産学官フォーラム	小平
9/27(火)	14:00-17:00	第3回テクノフォーラム(本校にて開催)	会員、本校教職員
9/28(水)	17:00-21:00	第3回ビジネス交流会、君津商工会議所工業部会	小平、鈴木聡、斉藤

地域共同テクノセンター長:小平眞次
副センター長:大澤寛, 鈴木聡, 佐藤恒明

(出典:平成17年度テクノセンター活動概要報告)

資料A-1-①-11 (2/2)

2005年度テクノセンター活動概要報告

日	時間	内容	参加者
10/3(月)	13:30-16:00	知的財産権制度説明会:千葉県自治会館	斎藤、仲川
10/11(火)	16:00-17:00	平成17年度駅前高専「テレワークセミナー」市役所と担当者打合せ	仲川
10/13(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	米村、岡本保
10/24(月)	13:30-16:30	第1回木更津市地域IT推進会議:市民総合福祉会館	鈴木聡
10/29(土)	11:00-16:30	第7回火星ローバーコンテストin千葉千葉ポートアリーナ	嶋田
11/4(金)	15:30-17:00	理数大好きモデル地域事業第1回実行委員会:市民総合福祉会館	鈴木聡
11/10(木)	16:00-18:00	第1回知っとこ隊打ち合わせ:テレワークセンター	学生、鈴木聡
11/10(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ	岡本保、熊谷
11/14(月)		内閣府等主催第5回産学官連携サミット:東京プリンスホテル	校長
11/14(月)	16:00-18:00	ポータルサイト立ち上げ実務打ち合わせ:市役所	鈴木聡
11/16(水)	15:00-18:30	第22回千葉大学産官学フォーラム	小平
11/21(月)	13:30-17:00	新連携推進県大会:ホテルグリーンタワー千葉	鈴木聡、大澤、仲川
11/22(火)	16:00-17:30	第4回地域共同テクノセンター運営委員会	委員
11/30(水)	17:00-18:00	第2回知っとこ隊打ち合わせ:木更津高専	学生、鈴木聡
12/5(月)	13:00-17:00	特許情報流通セミナー:千葉県支援技術研究所天台庁舎	小平、佐藤
12/8(木)	13:30-17:00	野田異業種との交流会:木更津高専	小平、大澤、鈴木聡、斉藤、仲
12/13(火)	15:30-17:00	新聞社による知っとこ隊取材:クロワッサン	学生、鈴木聡
12/15(木)	16:00-18:00	第2回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津グランパークホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
12/16(金)	13:00-15:00	千葉県支援技術研究所との業務協力打合せ	小平
12/21(水)	13:00-14:00	大学研究交流オフィス打合せ	小平、斉藤
12/21(水)	13:30-14:00	木更津市商工会議所青年部50周年記念事業打合せ	小平、大澤、佐藤、斉藤
12/22(木)	16:45-17:45	第2回技術振興交流会分科会委員長会議	分科会委員長他
12/27(火)	9:00-17:00	君津地区商工会議所、交流会理事等関係者への年末挨拶回り	小平、斉藤
1/6(金)	11:00-12:00	木更津商工会議所賀詞交換会	河上校長、小平
1/6(金)	14:00-16:00	木更津市の農産物PR動画作成:木更津市役所	鈴木聡
1/6(金)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:木更津商工会議所	大澤、鈴木聡
1/12(木)	18:30-20:00	木更津異業種交流プラザ新年会	小平、大澤、斉藤
1/16(月)	13:00-14:00	電源地域雇用促進対策調査事業打合せ	小平、大澤、鈴木聡、斉藤
1/16(月)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:木更津商工会議所	大澤、鈴木聡
1/17(火)	15:20-17:00	第5回地域共同テクノセンター運営委員会	委員
1/18(水)	15:00-18:30	千葉大学第23回産官学フォーラム	小平
1/19(木)	14:30-16:00	NHK千葉支局による知っとこ隊取材:花のタカウラ	学生
1/20(金)	14:00-17:15	第4回全国高専テクノフォーラム第1回実行委員会:長岡高専	大澤
1/24(火)	15:30-17:00	理数大好きモデル地域事業第2回実行委員会:市民総合福祉会館	高橋邦
1/24(火)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:市原マリンホテル	大澤、鈴木聡
1/27(金)	10:00-17:00	電顕室講習会SEM	小平、岡本、他
1/30(月)	14:00-16:00	電源地域雇用促進対策調査事業大手および中小企業経営者意見交換会:市原マリンホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
2/3(金)	10:00-11:00	君津商工会議所視察研修打合せ	小平、斉藤
2/3(金)	10:00-17:00	電顕室講習会EDX	小平、岡本、他
2/6(月)	16:00-16:30	しっとこ隊のキャッツアイ記者会見取材打ち合わせ:市役所	学生、鈴木聡
2/7(火)	13:30-14:00	東葛テクノプラザ交流オフィス5階移動依頼	小平、斉藤
2/7(火)	15:00-17:00	君津商工会議所視察研修	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、他 実験室担当者
2/9(木)	18:30-20:00	木更津異業種交流プラザ例会	熊谷、小田
2/10(金)	15:30-17:15	技術振興交流会役員会:木更津高専第二会議室	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、斉藤、原
2/13(月)	15:00-17:00	第3回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津グランパークホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
2/14(火)	15:00-17:00	産学官交流事業:市原商工会議所	小平、大澤
2/16(木)	13:30-16:30	第3回木更津市地域IT推進会議:市民総合福祉会館	鈴木聡
2/17(金)	20:10-22:00	木更津市商工会議所青年部モノづくり体験	小平、大澤、高橋邦、栗本、飯
2/20(月)	15:00-17:00	会社訪問取材:ナフソン	五十嵐、大澤、鈴木聡
2/23(木)	10:00-12:00	上総博物館協議会	小平
2/27(月)	17:00-18:30	第6回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
2/28(火)	15:00-17:00	第4回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津ロイヤルガーデン	大澤、鈴木聡、佐藤
3/6(月)	13:30-18:00	ビジネスマッチングフォーラム:ホテルグリーンタワー千葉	大澤、佐藤
3/7(火)	10:00-12:00	佐世保高専派遣者の来校:佐世保高専、長島、堀江	大澤、鈴木、斉藤
3/9(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	鬼塚(講演)
3/13(月)	14:00-15:15	講演会「地域企業と大学等の連携手法について」農工大TLO伊藤伸社長	教員
3/13(月) -17日		平成17年度経済産業省検索エキスパート研修を受講(独)工業所有権情報/研修館	浅野
3/14(火)	14:00-18:30	木更津高専技術振興交流会の第4回テクノフォーラム	会員、本校教職員
3/15(水)	17:00-18:00	木更津商工会議所青年部との打ち合わせ	大澤
3/16(木)	13:00-15:00	千葉県産業振興センターで打ち合わせ	大澤
3/22(水)	16:00-18:00	IT推進会議委員による知っとこ隊慰労会:テレワークセンター	鈴木聡
3/27(月)	13:30-15:00	大学研究交流オフィス担当者連絡会議:東葛テクノプラザ	鈴木聡
3/29(水)	14:00-16:00	第1回高専/中小企業連携プログラム策定検討会中小企業基盤整備機構	大澤

(出典:平成17年度テクノセンター活動概要報告)

資料A-1-①-12

2005年度東葛テクノプラザ技術相談会

【8月期】

相談日時	担当教員名	専門分野
8月8日(月) 11:00-15:00	電気電子工学科 熊谷 勝彦 教授	<ul style="list-style-type: none"> 画像処理 ヒューマンインタフェース 風力の効率的利用法
8月9日(火) 11:00-15:00	環境都市工学科 大木 正喜 教授	<ul style="list-style-type: none"> 測量学 リモートセンシング
8月19日(金) 11:00-15:00	機械工学科 林田 和弘 助手	<ul style="list-style-type: none"> 燃烧工学 レーザ応用計測 微粒化学
8月25日(水) 11:00-15:00	基礎学系 吉井 文子 助教授	<ul style="list-style-type: none"> 香料化学 計算化学
	電子制御工学科 坂元 周作 助手	<ul style="list-style-type: none"> 超伝導工学 計測工学

【3月期】

相談日時	担当教員名	専門分野
3月17日(金) 11:00-15:00	電子制御工学科 鴫田 正俊 教授	<ul style="list-style-type: none"> 自動制御 ロボット
3月22日(水) 11:00-15:00	基礎学系 山下 哲 助教授	<ul style="list-style-type: none"> 数学
	機械工学科 黄野 銀介 助手	<ul style="list-style-type: none"> 機械材料 精密加工
	環境都市工学科 鬼塚 信弘 助教授	<ul style="list-style-type: none"> 地盤工学 地震工学 地質工学

(於：東葛テクノプラザ3F技術支援室)

(出典：平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告)

資料A-1-①-13

2001年度テクノセンター講演会

第1回テクノセンター講演会 (2001年6月15日)

「企業の活性化へ向けて—21世紀型研究の勧め—」講師：コンポン研究所 H氏
 「産業交流の先進校における技術交流—企業の技術開発への支援—」講師：群馬高専 O氏

第2回テクノセンター講演会 (2002年1月22日)

「産学官に関する千葉県の支援と取り組みについて」講師：千葉県産業振興センター東葛テクノプラザ共同研究グループ S氏
 「特許・技術・研究成果（企業・大学・高専等）の活用支援について」講師：発明協会千葉県支部千葉検知的所有権センター 特許流通アドバイザー I氏

(出典：テクノセンターニュース第2号2頁)

資料A-1-①-14

木更津工業高等専門学校技術振興交流会の立ち上げ

〈 日刊工業新聞 〉
 Business & Technology 2004年(平成16年)2月26日 木曜日 ☆30

千葉・木更津工業高専

技術交流会立ち上げ

会議所・異業種と 活性化へ連携

【千葉】木更津工業高等専門学校(千葉県木更津市)は、産学連携を加速する。3月9日に木更津商工会議所、木更津異業種交流プラザと共同で技術振興交流会(高専交流会)を立ち上げる。地元産業界を中心に共同研究や人的交流を推進する。技術面の助言に加え、研究にかかわる補助金の申請や特許出願など総合的に企業活動を支援する。同高専を連携の拠点にして地元経済の活性化につなげるのが狙い。

本高専高専ながら計画していた同交流会は、9日の設立総会で発足する。事務局は高専内に置き、会員組織で年会費は企業1万円、個人は5000円とする。すでに企業50社、個人23人が参加の意向を表明している。事業内容は技術交流活動と分科会活動が2本柱。主体となる分科会活動では環境保全、医療、福祉、ロボット、情報、通信、伝統工芸などのテーマを設けながら、共同研究を進める。

高専教員が各分科会の委員長に就いて企業の相談に応じ、校内の各種設備を開放して企業が研究できるようにする。案件によっては、県内大学や公的機関などと連携しながら柔軟に対応する。

また高専教員の研究内容の紹介や産学、企業の製品展示などを行う交流会活動を年1回以上のペースで開き、産学に合いの場を提供する。

国立大学と同様に高専も4月の独立法人化を目前に控えている。同校はこれまで地域共同テクノセンターを設置し、産学連携に取り組んでいるが、地元企業と連携するケースは少なかった。交流会の設立を機に、校内のノウハウをより広く開放して産学創出を促し、地元経済の支えを図る。

【盛岡】シグマ製作所(増玉興川口市、大藤将)は全国に22カ所などという。大半はラネス関連の図書の蔵書数が1000~2000冊程度で、相模原市の蔵書数は全国的にも上位に入る。

【岩手】シグマ製作所(岩手県花巻市)は、岩手県花巻市に鋳物工場を建設する。建設機用部品やトラック部品の需要増に対応する。3月3日に同町と立地協定を結び、9月に操業を始める。同日に、シグマ製作所(岩手県花巻市)は、岩手県花巻市に鋳物工場を建設する。建設機用部品やトラック部品の需要増に対応する。3月3日に同町と立地協定を結び、9月に操業を始める。

(出典：2004年2月26日付日刊工業新聞)

資料A-1-①-15 (1/2)

木更津工業高等専門学校技術振興交流会会則

第 1 条 本会は、木更津工業高等専門学校技術振興交流会（略称は「高専交流会」、以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第 2 条 本会は、木更津工業高等専門学校（以下「木更津高専」という。）の教育研究の充実に協力するとともに、木更津高専並びに会員相互の連携・協力を深めて産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（事務局）

第 3 条 本会に事務局を置く。

2 事務局に事務局長を置き、理事のうち 1 名をもって充てる。

3 事務局の設置場所は、会長が指定する。

（事業）

第 4 条 本会は、第 2 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 技術及び実務に関する交流会・講演会の開催に関すること
- (2) 産学連携による技術開発の推進に関すること
- (3) 会員及び地域社会の発展に寄与する事業に関すること
- (4) 木更津高専の教育・研究の充実にに関すること
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業に関すること

（組織及び会員）

第 5 条 本会は、本会の目的に賛同する一般会員及び特別会員で組織する。

2 一般会員は、企業会員並びに個人会員とする。

3 特別会員は次の各号とする。

- (1) 大学、官公署、商工会議所等の公的機関
- (2) 木更津工業高等専門学校教職員及び入会を希望する退職した教職員

（役員）

第 6 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名 (2) 副会長 4 名 (3) 理 事 若干名 (4) 監 事 2 名 (5) 幹 事 若干名

（役員任期）

第 7 条 役員任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員選出）

第 8 条 会長は、総会において選出する。

2 副会長は、会長が委嘱する。

3 理事は、総会において選出する。

4 監事は、総会において選出する。

5 幹事は、役員会において決定する。

（役員任務）

第 9 条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、本会の業務の運営に当たる。

4 監事は、本会の業務状況及び会計を監査する。

5 幹事は、本会の庶務を行う。

（出典：庶務課資料）

資料A-1-①-15 (2/2)

木更津工業高等専門学校技術振興交流会会則

(顧問・参与)

- 第 10 条 本会に、事業を円滑に推進するため、顧問及び参与を置くことができる。
- 2 顧問及び参与は、会長の諮問に応ずるとともに、会議に出席して意見を述べることができる。
 - 3 顧問及び参与は、役員会において決定する。

(会議)

第 11 条 本会の会議は、総会及び役員会とし、会長が招集し、議長となる。

(総会)

第 12 条 総会は、定期総会及び臨時総会とし次の事項を審議する。

- (1) 運営の基本方針に関すること。
 - (2) 事業計画並びに予算決算に関すること。
 - (3) 役員を選出に関すること。
 - (4) その他本会の目的達成に必要なこと。
- 2 総会は、会員の過半数の出席（委任状を含む）をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。ただし、第 5 条第 3 項第 2 号に定める者（役員を除く）については、議決権を有しない。

(役員会)

第 13 条

役員会において審議する事項は、次のとおりとする。

- (1) 総会に提出する議案及び重要事項を審議する。
 - (2) その他会務遂行上必要と認められる事項
- 2 役員会は、役員の過半数以上が出席しなければ議事を開くことができない。
- 3 役員会の議事は、出席者の過半数をもって決する。

(分科会)

第 14 条 本会に、分科会を置くことができる。

2 分科会の組織及び運営については、別に定める。

(運営費)

第 15 条 本会の運営費は、会費及び寄付金等をもって充てる。

- 2 年会費は一般会員のうち企業会員については 1 万円、個人会員については 5 千円とする。
- 3 特別会員については、会費を免除する。

(会計年度)

第 16 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(その他)

第 17 条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、役員会で定める。

附 則

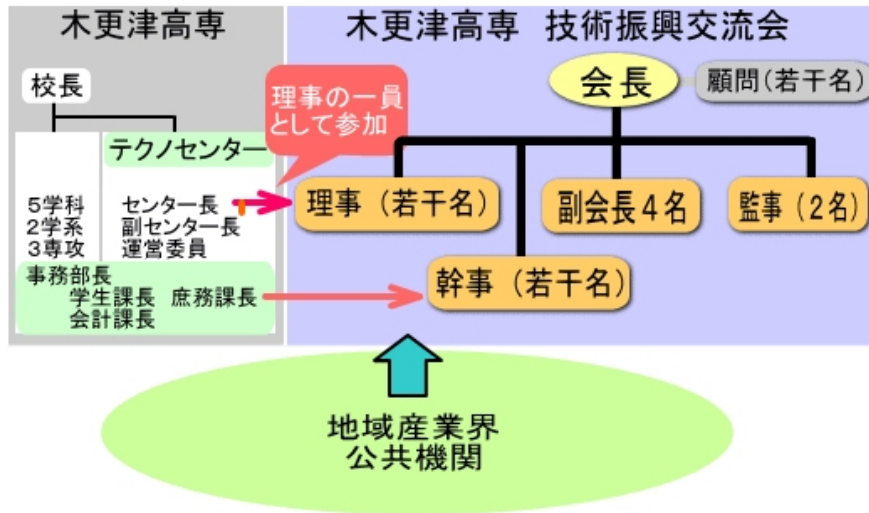
この会則は、平成 16 年 3 月 9 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 17 年 5 月 18 日から施行する。

(出典：庶務課資料)

木更津高専技術振興交流会組織図
木更津高専技術振興交流会 組織図



木更津高専技術振興交流会は木更津高専とは別組織になっていて、役員のほとんどを地域企業・商工会議所などの公共機関の方をお願いしています。

木更津高専からは学校の庶務課長が、技術振興交流会の幹事として参加しており、木更津高専テクノセンターのセンター長、副センター長が理事として参加しています。

(出典：http://knct-koryu.jp/organization_figure.htm, 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブページより)

資料A-1-①-17 (1/2)

技術振興交流会の分科会参加状況

平成18年3月31日現在

No.	分科会名 ・キーワード	委員長・副委員長	メンバー (上段：学内, 下段：学外)
1	環境管理技術 ・木炭・活性炭 ・廃棄物 ・バイオマス ・循環型社会 ・生態環境 ・環境経済評価	委員長 高橋克夫 副委員長 学外委員 (有) インテックサ ーチ)	学内：高橋克, 上村, 高石, 相川, 佐藤, 鈴木久, 高橋邦, 石川雅朗, 鬼塚, 青木 学外：22名
2	医療・福祉機器 ・医療・健康機器 ・福祉機器 ・カイロプラクティック分野 (重心動揺, 短下肢, 側彎, 骨盤の捻れ, 筋力バランス等)	委員長 大藤晃義 副委員長 学外委員 (医療法人社団鵬会 ケアセンターきさら づ)	学内：大藤, 黒田, 内田, 小田, 板垣, 栗本, 鬼塚 学外：10名
3	教材開発 ・教材開発	委員長 高橋邦夫 副委員長 学外委員 (木更津第一中学校)	学内：高橋邦夫, 岩崎, 小澤, 金子, 小 田, 大澤, 岡本保, 鈴木聡, 臼井, 栗本, 丸山, 大枝, 加藤, 飯田, 浅野, 青木, 鈴木道治 学外：12名
4	光応用技術 ・光計測 ・レーザ ・発光ダイオード	委員長 岡本保 副委員長 学外委員 (国際化工(株))	学内：岡本保, 福地, 小田, 林田, 大澤, 高橋邦, 鈴木聡, 秋葉 学外：2名
5	社会基盤のメンテナンス ・コンクリート構造物の劣化診断や補 修・補強	委員長 黒川章二 副委員長 学外委員 (太陽工業株式会社)	学内：黒川, 鬼塚, 青木, 嶋野 学外：11名
6	ロボット・自動化 ・ロボットの設計や制御技術 ・計測, 制御技術 ・FA, 工場自動化技術	委員長 鶴田正俊 副委員長 学外委員	学内：鶴田, 黒田, 内田, 鈴木聡, 浅野, 中根 学外：10名
7	通信・アンテナ ・移動体アンテナ ・ミリ波機器 ・ネットワークアナライザ	委員長 石井孝一 副委員長 学外委員 (鈴木電気管理事務 所)	学内：石井, 小平, 角田, 泉, 浅野, 立 石 学外：4名
8	画像情報 ・三次元情報計測 ・不可視情報の画像化 ・人工現実感, 遠隔制御 ・神経難病等のコミュニケーション支援 ・パターン認識, 視覚心理 ・医療画像診断	委員長 栗本育三郎 副委員長 学外委員 (株)写楽館) 齋藤康之	学内：栗本, 小林, 斉藤, 米村, 小田, 臼井 学外：4名

(出典：庶務課資料)

資料A-1-①-17 (2/2)

技術振興交流会の分科会参加状況

No.	分科会名 ・キーワード	委員長・副委員長	メンバー (上段：学内, 下段：学外)
9	機械・制御系 ・機械要素 ・材料試験 ・機構設計と制御 ・振動 ・流れ計測とシミュレーション ・エネルギー ・試作 ・レーザ計測とレーザ加工	委員長 黒田孝春 副委員長 学外委員 (有) 三ツ矢精密	学内：黒田, 大藤, 高橋秀, 石出, 内田, 小田, 鈴木久, 板垣, 黄野, 林田 ----- 学外：11名
10	電子・電気系 ・電子回路 ・磁気応用 ・センサー ・コンピュータ ・自然エネルギー利用	委員長 大澤寛 副委員長 学外委員 (富津オートサービス)	学内：大澤, 熊谷, 石川, 上原, 岡 本保, 飯田, 石井, 浅野, 橘川, 鈴 木聡, 石出, 坂元 ----- 学外：6名
11	情報系 ・コンピュータシミュレーション ・情報通信システム ・計測システムとインターフェース ・ニューラルネットワークと信号処理 ・情報数理の基礎 ・並列プログラミング	委員長 天摩勝洋 副委員長 学外委員 (株)エーアイエス 増田重史	学内：天摩, 栗本, 和田, 丸山, 増 田, 東, 小林, 和崎, 斎藤, 大枝, 倉持, 青柳 ----- 学外：5名
12	環境・土木系 ・ウォーキングと路面舗装 ・鋼・コンクリート・地盤などの構造系 ・環境空間デザイン ・環境材料	委員長 佐藤恒明 副委員長 学外委員 (関東建設株式会社)	学内：佐藤, 高橋克, 鬼塚, 青木, 金井, 白井 ----- 学外：18名
13	自動車リサイクル技術 ・フロントガラスの除去	委員長 高橋秀雄 副委員長 学外委員 (有) 君津マイカーセン ター)	学内：高橋秀, 石井, 高上 ----- 学外：5名
14	異業種融合 ・有機材料 ・複合材料 ・伝統文化 ・工芸 ・エネルギー技術 ・資源リサイクル技術 ・水産・農林系基盤技術 ・生活工学	委員長 小平眞次 副委員長 学外委員 (ITトロン社長) 石出忠輝	学内：小平, 鈴木聡, 石出, 高橋邦, 五十嵐, 石井, 浅野, 相川, 大澤, 佐藤, 吉井, 飯田, 岡本 ----- 学外：39名

(出典：庶務課資料)

テクノフォーラムの内容

第1回テクノフォーラム 2004年8月26日(木)

14:00 開会

14:10 分科会の活動指針についての報告

- ・分科会活動全般について
- ・自動車リサイクル技術分科会
- ・環境・土木系分科会
- ・ロボット自動化分科会
- ・教材開発分科会

講演

①「我が社の経営 ～研究開発と多角化戦略を中心に～」

春川鉄工(株) 代表取締役 H氏

②「アクアライン800円運動の現状と房総観光拠点整備への取り組み」

(株)総洋リサイクル代表取締役 I氏

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター, 総合教育棟
- ・会員企業のPR, 高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:00 懇親会

第2回テクノフォーラム 2005年3月7日(月)

14:00 開会

14:10 分科会の活動報告について

- ・分科会活動全般について
- ・分科会活動から共同研究に発展した事例報告

講演

①「サンマ魚用集魚灯の研究開発における公的資金導入事例について」

国際化工(株) 顧問 K氏

②「地域活性化の活動について」

NPO法人 孫の手くらぶ理事長 M氏

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター, 総合教育棟
- ・会員企業のPR, 高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:00 懇親会

(出典:テクノフォーラム配布資料)

テクノフォーラムの内容

第3回テクノフォーラム 2005年9月27日(火)

14:00 開会

14:10 講演

- ①「中小企業新事業活動促進法の概要について」

千葉県商工労働部経営支援課経営支援室 副主幹 U氏

- ②「充実したシニアライフを目指して ～還暦からの出発～」

(株) さわや 代表取締役 O氏

分科会の活動報告

- ・分科会活動全般について 分科会担当理事 佐藤恒明
- ・地域教育機関等との連携 教材開発分科会委員長 高橋邦夫

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター, 総合教育棟
- ・会員企業のPR, 高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:10 懇親会

第4回テクノフォーラム 2006年3月14日(火)

14:00 開会

14:10 講演

- ①「異業種連携で技術振興と地域振興を考える」

神奈川県異業種グループ連絡会議 理事 S氏

分科会活動報告

- ①分科会活動の全体報告 分科会担当理事 佐藤恒明

- ②「サンマ魚用集魚灯の研究開発」

国際化工(株) 顧問 K氏

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター, 総合教育棟
- ・会員企業のPR, 高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:00 懇親会

(出典: テクノフォーラム配布資料)

(分析結果とその根拠理由)

地域社会との連携窓口としてテクノセンターを設置し、センター長を中心に、各学科学系から選出された運営委員会により、運営規程に従って適切に運営されている。共同研究、受託研究、技術相談、奨学寄附金の受け入れ等、窓口をテクノセンターに一本化し、センター施設内に、技術相談室、多目的会議室、ラボラトリを整備する等、教員が地域と連携をとって研究を進めるための体制が整っている。

実際に地域社会と情報を交換し連携を深める場として、技術振興交流会を発足し、14の分科会を設置して学外委員との相互交流を積極的に行っている。また、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学外会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行っている。

テクノセンターガイドブック（年間1回、各1000部）及びテクノセンターニュース（年2回、各300部）の発行やウェブページを用いて、テクノセンターの業務内容、教員の研究テーマ及び技術紹介、技術振興交流会分科会の活動成果等のシーズの発信を行っている。

以上のことから、本校の目的に沿った研究体制及び支援体制は適切に整備され機能していると判断できる。

観点1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

直近の5年間（2001年3月～2006年3月）に、新たに博士号の学位を取得した現職教員の数は11名（資料A-1-②-1）であり、2006年3月31日現在、理科系教員の博士号取得率は64.0%となった。また、直近の5年間（2000年10月～2005年9月）に木更津工業高等専門学校紀要の研究業績目録に報告された論文発表件数は学内紀要発表を含めて255件（学内共著者による重複カウントを含まず）、学会発表件数は285件（学内共同発表者による重複カウントを含まず）、各種受賞は13件であった（資料A-1-②-2）。科学研究費補助金に関しては、2002年6月に文部科学省研究振興局研究助成課企画室長による科学研究費補助金制度講演会を開催し（資料A-1-②-3）、教職員に対して制度の詳しい説明を行っており、近年の採択状況は、継続分を含めると毎年6～8件で、助成金額は2006年度が11,300千円であった（資料A-1-②-4）。これらのことから、本校における研究活動が活発に行われており、その成果を地域社会に還元するための素地が十分出来上がっているものと評価できる。

過去5年間（2001年度～2005年度）の共同研究、受託研究、奨学寄附金、受託試験の件数（資料A-1-②-5）を見ると、それぞれ年々増加の傾向があり、特に共同研究は、2001年度は1件であったが、2005年度には9件に増加した。これには、技術振興交流会の分科会における成果が大きく寄与しているものと考えられる。参考として平成17年度の共同研究、受託研究の詳細（資料A-1-②-6）及び奨学寄附金の詳細（資料A-1-②-7）を示す。また、資料A-1-②-6（平成17年度共同研究・受託研究申込一覧）に示した共同研究等の取組み内容が、準学士課程の卒業研究テーマや専攻科課程の特別研究テーマとして扱われた事例は18件あり（資料A-1-②-8）、外部機関との共同研究が教育活動にも活かされていると評価できる。

地域連携に関連した企業との共同研究（2001年度～2005年度）における「技術・製品等の創出・改善」の実績は21件、「特許等の出願」は2件、「特許等の取得」は1件であった（資料A-1-②-9）。地域連携に関連した外部機関との共同研究（2001年度～2005年度）における「論文発表」は10

件、「研究成果報告書」は1件、「学会発表」は23件、「各種賞受賞」は2件であった（資料A-1-②-10）。

次に技術振興交流会に関して、本校教職員以外の会員数は、2006年4月1日現在、企業会員数80、特別会員数14、個人会員数20であり、様々な業種の企業、近隣の小中学校が会員となっている（資料A-1-②-11）。各分科会の活動もたいへん活発に行われており、2004年度は2回の委員長会議と14の分科会で延べ55回の会議（特別講演会を含む）が開催され、2005年度は2回の委員長会議と14の分科会で延べ43回の会議（講演会を含む）が開催された（資料A-1-②-12）。

テクノフォーラムは、資料A-1-①-18（第1回から4回テクノフォーラムの内容）に示した内容で2004年8月（105名）、2005年3月（95名）、2005年9月（108名）、2006年3月（108名）と既に4回開催され、多くの参加があった（参加者名簿は現地閲覧資料1として示す）。開催の様子は地元のケーブルTVで放映され、各種報道機関が取材に来る等、活気に満ちたものであった（資料A-1-②-13）。

資料A-1-②-1

現職教員の学位取得状況

番号	年月	教員名	学位	授与機関	タイトル
1	2001.3	高橋秀雄	博士(工学)	山形大学	歯付ベルト用燃りコードの強度に及ぼす力学的諸因子の影響に関する研究
2	2001.3	鬼塚信弘	博士(工学)	東洋大学	基盤の縦ずれ断層運動に伴う表層地盤の破壊伝播メカニズムに関する基礎的研究
3	2001.3	大塚浩史	博士(理学)	東京工業大学	2次元非圧縮性完全流体の渦度の変分法による解析
4	2002.3	齋藤康之	博士(工学)	北陸先端科学技術大学院大学	appearanceベースとmodelベースによる眼鏡顔画像からの眼鏡なし顔画像の推定
5	2002.1	加藤達彦	博士(文学)	東北大学	坂口安吾論
6	2004.3	鈴木聡	博士(工学)	千葉大学	緑色レーザーダイオード用六方晶Ⅱ-VI族化合物半導体薄膜に関する研究
7	2004.3	大枝真一	博士(工学)	東京都立科学技術大学	免疫型マルチエージェントニューラルネットワークの提案
8	2004.9	福地健一	博士(工学)	千葉大学	レーザー誘起蛍光法を用いた植物葉の環境ストレス評価に関する研究
9	2006.3	黒田孝春	博士(学術)	千葉大学	YAGレーザー第4高調波を用いたシリコンの流水中加工におけるNNとGAを併用したレーザー照射条件の推定
10	2006.3	丸山真佐夫	博士(工学)	豊橋技術科学大学	再演と巻き戻し実行に基づく並列プログラムのデバッグ手法の研究
11	2006.3	石川雅朗	博士(水産学)	東京水産大学	魚道の評価のための魚群行動モデルに関する研究

(出典：庶務課資料)

資料A-1-②-2

学内紀要に報告された論文発表等の件数

期間	研究論文	本校紀要	学会発表	著書・訳書等	学会賞等
2000年10月～2001年9月	33	20	57	9	5
2001年10月～2002年9月	31	16	52	8	2
2002年10月～2003年9月	35	22	50	6	3
2003年10月～2004年9月	25	26	74	7	1
2004年10月～2005年9月	31	16	52	8	2
計	155	100	285	38	13

(件数には、共著者・共同発表者の重複カウントを含んでいない)

(出典：木更津工業高等専門学校紀要 35号～第39号研究業績目録)

資料A-1-②-3

科学研究費補助金制度講演会資料

木更津工業高等専門学校
科学研究費補助金制度講演会日程表

1. 日 時 平成 14 年 6 月 27 日 (木) 15 : 30 - 16 : 50
2. 場 所 図書館ホール
3. 参加者 本校教職員 約 70 名
4. 講 師 文部科学省研究振興局研究助成課企画室長
5. 次 第 進行 庶務課長
15 : 30 ~ 開会
15 : 32 ~ 教務主事挨拶
15 : 37 ~ 「科学研究費補助金制度について」講演
文部科学省研究振興局研究助成課
企画室長
16 : 30 ~ 質疑応答
16 : 50 閉会
6. 配布資料 科研費 (21 世紀の知的基盤形成を担う独創的・先駆的な研究の推進)
[文部科学省・日本学術振興会 作成]

(出典：庶務課資料)

資料A-1-②-4

科学研究費補助金制度採択状況

(単位 千円)

年度	基盤 B		基盤 C		奨励 A		奨励 B	若手 B		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	件数	金額	件数	金額
2001 年度	(1)	2,300	1	1,800	1(4)	3,900				2(5)	8,000
2002 年度			3(1)	5,100				2	1,900	5(1)	7,000
2003 年度			1(2)	2,500				3(1)	5,400	4(3)	7,900
2004 年度			1(2)	2,000				1(4)	3,900	2(6)	5,900
2005 年度			(2)	1,300	2	1,440		1(2)	3,400	3(4)	6,140
2006 年度			5(1)	10,200				(1)	1,100	5(2)	11,300

※()は継続分

(出典：庶務課資料)

資料A-1-②-5

共同研究，受託研究，奨学寄附金，受託試験の件数

(単位 千円)

年度	2001 年度		2002 年度		2003 年度		2004 年度		2005 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	1	3,000	1	2,000	3	5,600	7	10,230	9	13,610
受託研究	0	0	0	0	2	1,250	1	105	3	1,618
奨学寄附金	15	11,700	16	11,563	16	9,180	20	12,930	18	10,900
受託試験	25	169	32	353	68	636	23	152	57	125

(出典：平成 16・17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告)

資料A-1-②-6

平成17年度共同研究・受託研究申込一覧

平成17年度共同研究申込一覧

平成18年2月28日 現在

(単位：円)

学 科 等	研究担当者	研究題目	共同研究者（企業等名）	申込（受入）年月日	申込金額
電気電子工学科	岡 本 保	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上（2）	(株)島津製作所	平成17年4月27日	3,000,000
電子制御工学科	※ 鈴 木 聡	高感度ポテンシオスタット性能改善の研究	(株)カケンジェネックス	平成17年4月27日	500,000
環境都市工学科	※ 黒川章二	塩害劣化環境に位置するRC建造物の維持管理手法の構築に関する研究	東電工業(株)	平成17年6月9日	6,500,000
機械工学科	林 田 和 宏	灯油燃料性状の火炎温度、火炎輝度への影響に関する検討	(財)石油産業活性化センター	平成17年6月20日	1,120,000
電子制御工学科	鈴 木 聡	SiC中間層を仲介としたSi上高品位III-V族窒化物半導体の成長とその光学評価	長岡技術科学大学	平成17年7月1日	430,000
環境都市工学科	佐 藤 恒 明	既設耐候性鋼橋の腐食調査に基づいた適用範囲の拡大に関する研究	長岡技術科学大学	平成17年7月1日	360,000
電子制御工学科	角 田 幸 紀	マルチバンドアンテナの研究	日本電気(株)	平成17年10月12日	500,000
機械工学科	黒 田 孝 春	レーザー光によるボールネジの焼き入れ法の開発	黒田精工(株)	平成17年11月18日	200,000
機械工学科	高 橋 秀 雄	撚りコードの力学的解析に関する研究	(株)ブリジストン	平成18年1月31日	1,000,000
9 件					13,610,000

平成17年度受託研究申込一覧

平成18年2月28日 現在

(単位：円)

学 科 等	研究担当者	研究題目	委託者（企業等名）	申込（受入）年月日	申込金額
環境都市工学科	上 村 繁 樹	微生物による硫酸酸化還元サイクル機能を活性化した次世代の水資源循環技術の開発に関する先導調査	寿工業(株)	平成17年6月15日	367,500
機械工学科	大 藤 晃 義	介護予防事業	木更津市	平成17年9月5日	1,050,000
電子制御工学科	鈴 木 聡	P I C CPU の部品化	ナブソン(株)	平成17年9月16日	200,000
3 件					1,617,500

(出典：会計課資料)

資料A-1-②-7

平成17年寄付金受入実績一覧

(単位：円)

学 科 等	寄 附 金 の 名 称	寄 附 目 的	寄 附 者	申 請 年 月 日	寄 附 金 額	受 入 年 月 日
環境都市工学科	高橋克夫奨学寄附金	研究助成のため	(株)建設企画コンサルタント	平成17年3月23日	800,000	平成17年5月18日
環境都市工学科	黒川章二奨学寄附金	研究助成のため	フジモリ産業(株)	平成17年3月23日	500,000	平成17年5月20日
環境都市工学科	上村繁樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)双葉電子記念財団	平成17年3月23日	1,000,000	平成17年5月17日
環境都市工学科	上村繁樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)国土技術研究センター	平成17年3月28日	1,000,000	平成17年4月26日
機械工学科	高橋秀雄奨学寄附金	研究助成のため	(社)精密工学会	平成17年4月18日	600,000	平成17年5月23日
環境都市工学科	黒川章二奨学寄附金	研究助成のため	日本板硝子(株)	平成17年4月28日	500,000	平成17年5月31日
機械工学科	林田和宏奨学寄附金	研究助成のため	(財)日本科学協会(納付者は研究担当者)	平成17年5月16日	540,000	平成17年6月7日
機械工学科	黒田孝春奨学寄附金	研究助成のため	(株)ケーアイテクノ	平成17年5月19日	300,000	平成17年6月9日
電子制御工学科	橘川五郎奨学寄附金	教育実践研究助成のため	(社)発明協会(納付者は研究担当者)	平成17年5月26日	330,000	平成17年6月17日
機械工学科	大藤見義奨学寄附金	研究助成のため	(社)軽金属学会(納付者は研究担当者)	平成17年6月16日	150,000	平成17年6月29日
木更津高専	木更津高専奨励奨学寄附金	教育奨励のため	木更津工業高等専門学校後援会	平成17年6月20日	3,690,000	平成17年6月30日
機械工学科	黒田孝春奨学寄附金	研究助成のため	(有)ブローペース	平成17年8月17日	100,000	平成17年9月30日
環境都市工学科	石田博樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)青葉工業振興会	平成17年8月19日	250,000	平成17年9月13日
電子制御工学科	鴫田正俊奨学寄附金	研究助成のため	林 護	平成17年8月30日	100,000	平成17年9月8日
環境都市工学科	佐藤恒明奨学寄附金	研究助成のため	(社)日本鉄鋼連盟	平成17年11月9日	170,000	平成17年12月9日
環境都市工学科	鬼塚信弘奨学寄附金	研究助成のため	(社)日本鉄鋼連盟	平成17年11月9日	170,000	平成17年12月9日
人文・基礎学系	一般教育研究会奨学寄附金	一般教育研究助成のため	(株)学術図書出版社	平成18年1月5日	400,000	平成18年1月19日
機械工学科	高橋秀雄奨学寄附金	研究助成のため	アムテック(有)	平成18年2月28日	300,000	平成18年3月13日
18 件					10,900,000	

(出典：会計課資料)

資料A-1-②-8

共同研究等が学生の研究テーマとなった例(2005年度)

指導教員	企業名	テーマ
岡本 保	島津製作所(株)	・近接昇華法による放射線検出用CdZnTe多結晶膜の作製と評価 ・フォトルミネッセンス法によるCdZnTe多結晶膜の評価 ・CdZnTe多結晶膜の基板温度依存性の検討 ・CdZnTe膜のPLスペクトルの励起光強度依存性 ・CdZnTeのX線吸収特性の解析 ・近接昇華法による放射線検出用CdZnTe多結晶膜の作製
角田幸紀	日本電気(株)	・マルチバンドアンテナの研究
黒川章二	東電工業(株)	・RC梁の鉄筋及び腐食鉄筋を持つRC梁の疲労
青木優介	東電工業(株)	・硝酸銀噴霧法におけるコンクリート変色境界の塩化物イオン濃度
青木優介	東電工業(株)	・一軸拘束試験による断面修復用モルタルの収縮ひび割れ特性評価
黒田孝春	黒田精工(株)	・鋼板の焼入れに関する研究
黒田孝春	(株)ケーアイテクノ	・全自動土嚢製造機に関する研究
大藤見義	木更津市	・介護予防の身体に及ぼす効果
鈴木聡	ナブソン株式会社	・PICマイコンを用いたシーケンス制御
佐藤恒明	長岡技術科学大学	・房総地域の耐候性鋼を使用した橋梁の現況調査
高橋秀雄	ブリジストン(株)	・擦りコードの強度に関する研究
上村繁樹	寿工業(株)	・下向流スポンジ懸垂型(DHS)リアクターによるふん菌性大腸菌群の除去能力に関する研究
林田和宏	石油産業活性化センター(財)	・GTL灯油の燃焼特性の解析

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料A-1-②-9

共同研究における「技術・製品等の創出・改善」、
「特許等の出願」、「特許等の取得」に関する実績

実施年度	教員名	企業名	項目	概要
2001	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	EMセンサによる各種鋼材の応力計測についての研究
2002	高橋邦夫 福地健一	新菱冷熱(株)	特許取得	植物の育成診断方法(特3346373号)
2002	高橋秀雄 石井孝一,他	君津マイカーセンター(有)	特許出願	自動車のウィンドウガラスと車体部との接合部の近くを分離する技術
2002	上村繁樹	石川島播磨工業(株)	特許出願	メタン発酵用微生物担体
2002	上村繁樹	大成建設(株)	技術改善	畜産廃棄物用メタン発酵槽における殺菌技術の評価と改善
2002	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	EMセンサによるプレストレス力の計測及びPC梁緊張材の応力モニタリングについての研究
2003	石出忠輝	インテックリサーチ(有)	技術 アドバイス	「磁気処理システムを応用した、貯水池、湖沼、ダム等における水質浄化システムの研究開発」：流れの可視化手法について、技術的なアドバイスをを行った。
2003	石出忠輝	さつき製作所	技術検証	「小型風車の開発」：企業より提出された風車設計図面における空力的な検証を担当した。
2003	石川雅之 鈴木聡 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	液中水晶発振回路の安定化
2003	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	光ファイバーを用いた断面修復済みRC梁底面の引張変位計測に関する研究
2003	黒川章二	東電工業(株)	技術開発	既コンクリート下地面の処理方法、および補修材の収縮特性に着目した断面修復工法の補修効果に関する
2004	石川雅之 鈴木聡 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	水晶振動子液中発振の安定化
2004	鈴木聡 石川雅之 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	マルチチャンネル高感度ポテンシostatの開発
2004	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	国際化工(株)	製品開発	サンマ用LED集魚灯の開発
2004	岡本保	(株)島津製作所	技術開発	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上
2004	黒川章二 青木優介	東電工業(株)	技術開発	腐食鉄筋を有する断面修復梁の耐久性および補修材料の若材齢クリープに関する研究
2005	大藤晃義	スマートセンサーテクノロジー(有)	技術開発	歩行動作解析装置の実用化、応用化へむけての研究
2005	鈴木聡 石川雅之 星野真紀	カケンジェネックス(株)	技術開発	高感度ポテンシostat性能改善の研究
2005	鈴木聡	ナブソン(株)	技術開発	PIC CPUの部品化
2005	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	国際化工(株)	製品開発	サンマ用LED集魚灯の開発
2005	小田功	JFEメカニカル(株)千葉事業所	技術開発	圧延材表面の微小な凹凸模様を光を用いて非接触で測定する技術の開発
2005	岡本保	(株)島津製作所	技術開発	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上
2005	高橋邦夫 岡本保	千葉県水産総合研究センター	技術開発	レーザー誘起蛍光法を用いた海苔の生育診断
2005	黒川章二 青木優介	東電工業(株)	技術開発	塩害劣化環境に位置するRC構造物の維持管理手法の構築に関する研究

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料A-1-②-10 (1/2)

共同研究における「論文発表」，「学会発表」，
「成果報告」，「各種受賞」に関する実績

実施年度	教職員名	項目	外部機関名	概要
2001	大藤晃義	学会賞受賞	マニュアルメ ディシン研究	日本カイロプラクティック徒手医学会優秀論文賞受賞
2001	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	磁歪センサによる各種鋼材の応力計測、プレスとレストコンクリート技術協会 第11回 シンポジウム論文集(2001.11)、pp.101~106.
2002	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサによるプレストレス力の計測、土木学会第57回年次学術講演会(2002.10) CS6-15,pp.284~285
2002	黒川章二	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサを用いたPC鋼材の引張力モニタリング実験、土木学会応用力学論文集 (2002.8)、Vol.5、pp.817~826.
2002	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	LONG TERM STRESS MONITARING USING ELASTO-MAGNETIC SENSOR、 fib 2002 Congresss W-97、2002.10
2002	上村繁樹	学術論文	石川島播磨	有機性固形廃棄物のアンモニア阻害の抑制に関する研究、工業用水、第526号、p8- 15
2003	大藤晃義	学会賞受賞	マニュアルメ ディシン研究	日本カイロプラクティック徒手医学会優秀論文賞受賞
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance by utilizing actual-stress sensory technology、1st Conference on Structural Health Monitoring Infrastructure, November, 13-15, 2003, Tokyo, Japan.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance by utilizing actual-stress sensory technology、9th East-Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction, December 16-18, 2003, Bali, Indonesia.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業	高性能吹き付けモルタルにより断面修復した鉄筋コンクリートの疲労試験、土木学会第 58回年次学術講演会概要集、2003.9.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業	高性能吹き付けモルタルにより断面修復した鉄筋コンクリート梁の載荷実験、土木学会 第58回年次学術講演会概要集、2003.9.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	光ファイバーを用いた断面修復済み鉄筋コンクリート梁底面の引張変位計測、土木学 会応用力学論文集6(2003)1017-1024.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業	高性能吹き付けモルタルを用いた断面修復RC梁の疲労性状、コンクリート工学年次論 文集、26[1](2004) 1785-1790.
2004	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	研究成果 報告書	国際化工(株)	さんま棒受網用集魚灯光源の技術開発、平成16年度水産業構造改革加速化技術開発 事業(水産業一般型)報告書、H17. 3、社団法人海洋水産システム協会、P1-40
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	CONCRETE SUTRUCTURE HELTH MONITORING SYSTEM BY UTILIZING ACTUAL-STRESS-MEASUREMENT-BASED、4th International Conference under Service Conditions of Enviroment and Loading, June 27-July 1, 2004.
2004	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	鉄筋の実応力測定におけるEMセンサーの適応性、コンクリート工学年次論文集、26 [1] (2004) 1983-1988.
2004	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサーを用いた鉄筋応力測定における応力算出式の適用性、土木学会第58回 年次学術講演会、2004年9月.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	PC梁における鉄筋の実応力計測によるプレストレスの推定について、プレスとレストコ ンクリート技術協会シンポジウム論文集、(13)(2004)291-296.

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料A-1-②-10 (2/2)

共同研究における「論文発表」, 「学会発表」,
「成果報告」, 「各種受賞」に関する実績

実施年度	教職員名	項目	外部機関名	概要
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Global Concrete Structure Monitoring by utilizing Fiber Optic Sensor, 2nd International Conference on Bridge Maintenance, Safety and Management, October 19-22, 2004, Kyoto, Japan.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	ウォータージェットで界面処理した断面修復RC梁の疲労試験、第31回土木学会関東支部技術研究発表会、2004.3.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	「光ファイバーセンサによるRC梁の変形モニタリング実験」;第31回土木学会関東支部技術研究発表会、2004.3.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業(株)	高性能吹き付けモルタルを用いた断面修復RC梁の疲労性状、コンクリート工学年次論文集、26[1](2004) 1785-1790.
2004	上村繁樹	学術論文	大成建設(株)	畜産廃棄物系バイオガスプラントにおける指標微生物の動向、用水と廃水、第46巻第5号、p43-49
2004	高橋邦夫 福地健一	学術論文	新菱冷熱(株)	弱光などのストレスを受ける屋内樹木のレーザー誘起蛍光誘導期現象の新たな解析法、農業気象、第60巻、第2号、123-131頁
2005	鈴木久夫, 相川正美, 林田和宏	学会発表	半兵衛炭の会	土窯で作った炭の性質に関する研究、日本福祉工学会第8回学術講演会、2005年11月
2005	岡本保他	学会発表	(株)島津製作所	近接昇華法によるCdZnTe多結晶膜の作製と評価、2006年春季 第53回応用物理学関係連合講演会、22p-ZH-14、2006年3月(東京)
2005	岡本保他	学会発表	(株)島津製作所	フォトルミネッセンス法によるCdZnTe多結晶膜の評価、2006年春季 第53回応用物理学関係連合講演会、22p-ZH-15、2006年3月(東京)
2005	岡本保 高橋邦夫他	学会発表	千葉県水産総合 研究センター	LIF法を用いた海苔のストレス診断、第6回レーザー学会東京支部研究会、P-30、2006年3月(東京)
2005	岡本保 高橋邦夫他	学会発表	千葉県水産総合 研究センター	レーザー誘起蛍光法による海苔の生育診断 平成18年度日本水産学会大会、669、2006年3月(高知)
2005	岡本保 高橋邦夫 福地健一 大澤寛他	学会発表	国際化工(株) 朝日エテック(株)	集魚灯評価用照度計に関する基礎研究、平成18年度日本水産学会大会、1301、2006年3月(高知)
2005	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance stress sensory technology, INSTITUTE OF PHYSICS PUBLISHING Smart Mater. Struct.14(2005)S68-S78
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	リング型拘束試験で測定した繊維補強モルタルの引張有効弾性係、第32回土木学会関東支部技術研究発表会、2005.3.
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業(株)	拘束形態の異なる断面補修用モルタルの収縮ひび割れ特性、コンクリート工学年次論文集、27 [1] (2005).
2005	鬼塚信弘 金井太一 佐藤恒明	学会発表	関東天然瓦斯開 発(株)	「天然ガス採取に伴う深層土の物理的・化学的性質」土木学会第60回年次学術講演会講演概要集、pp.669-670、2005年9月
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	硝酸銀噴霧法におけるコンクリート変色境界の塩化物イオン濃度、第33回土木学会関東支部技術研究発表講演概要集、CD-ROM、2006.3
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	モルタルの収縮ひび割れ特性におよぼす部材寸法の影響、第23回土木学会関東支部新潟会研究調査発表会論文集、pp.268-269、2005.11

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料A-1-②-11

木更津工業高等専門学校技術振興交流会会員リスト

技術振興交流会企業会員リスト

2006.4.1現在

番号	会 員 名	番号	会 員 名
1	IDE	41	(有)丸和建材社
2	JFEメカニカル(株)千葉事業所	42	(有)三ツ矢精密
3	アムテック(有)	43	(有)ミトマ工業
4	アロマエ芸(株)	44	(有)君津マイカーセンター
5	(株)アスク	45	梶原塗装(株)千葉支店
6	(株)エーアイエス	46	(株)市原建設
7	(株)ケーアイテクノ	47	(有)マイホームタカハシ
8	(株)さわや	48	共栄海運(株)
9	(株)ジーテック	49	君津信用組合
10	(株)写楽館	50	(株)千葉銀行法人部
11	(株)総洋リサイクル	51	(株)葵商事
12	(株)竜場工務店	52	(株)千葉興業銀行(営業統括部ナレッジセンター)
13	(株)チヨダサイエンス	53	平野コンクリート工業(株)
14	(株)長野建設	54	千葉県コンクリート製品協同組合
15	(株)不二越製作所	55	(有)キャドサポート・ホシノ
16	関東建設(株)	56	ロッキー工業(株)
17	JFEテクノリサーチ(株)	57	ワッケン建設(有)
18	木更津木材(株)	58	ワタナベ印刷(株)
19	共和電気工事(株)	59	医療法人社団鶴会ケアセンターきさらづ
20	クラリオンシステムハウス(株)	60	M&E技術
21	国際化工(株)	61	(株)ヤマイチ企業
22	寿住宅設備機器(株)	62	(株)ホテル八宝苑
23	駒井鉄工(株)	63	ナブソン(株)
24	社会福祉法人慈心会 木更津南清苑	64	シャープシステムプロダクト(株)
25	新葉産建(株)	65	(株)マンザキ
26	綜和塾学工業(株)	66	共栄電設(株)
27	太陽工業(株)	67	(株)鈴木商館君津営業所
28	千葉オイレッシュ(株)	68	(株)日鉄エレックス君津支店
29	千葉県教材(株)	69	六幸電気工業(株)
30	つかれず普及会南関東本部	70	日泉化学(株)千葉工場
31	愛情果(有)	71	(有)中塚クリーンセンター
32	日鉄ハード(株)	72	(株)イノセ
33	春川鉄工(株)	73	(株)椿コンサルタント
34	富洋観光開発(株)	74	千葉共栄建材(株)
35	(有)インテックリサーチ	75	(株)正木設計
36	(有)エヌケーホーム	76	関東自動車工業(株)
37	(有)クリーン21	77	TMGシステム(株)
38	(有)小林鉄工所	78	(有)サニー工芸
39	(有)田井組土建	79	(有)ワイエヌエスエラストック
40	(有)本田水設工業	80	昭和電業社(株)

技術振興交流会 特別会員リスト

2006.4.1現在

番号	会 員 名	番号	会 員 名
1	木更津市立南清小学校	8	富津市富津商工会
2	木更津市立木更津第一中学校	9	富津市大佐和商工会
3	木更津市立太田中学校	10	富津市天羽商工会
4	君津市立周西中学校	11	袖ヶ浦市商工会
5	君津市立君津中学校	12	木更津市富来田商工会
6	木更津商工会議所	13	松村志真秀(名誉教授)
7	君津商工会議所	14	千葉県水産総合研究センター

(出典：庶務課資料)

資料A-1-②-12 (1/2)

2004年度技術振興交流会分科会実施状況

No.	分科会名	実施年月日
1	環境管理技術	第1回2004年5月13日(木), 第2回2004年8月14日(水) 第3回2005年3月23日(水)
2	医療・福祉機器	第1回2004年5月18日(火), 第2回2004年9月28日(火) 特別講演会2005年1月18日(火)
3	教材開発	第1回2004年5月17日(月), 第2回2004年7月15日(水) 第3回2004年9月16日(木), 第4回2004年11月18日(木) 第5回2005年2月3日(木)
4	光応用技術	第1回2004年5月20日(木), 第2回2004年9月7日(火) 第3回2004年11月26日(金)
5	社会基盤の メンテナンス	第1回2004年5月25日(火), 第2回2005年1月28日(金)
6	ロボット・自動化	第1回2004年5月19日(水), 第2回2004年7月28日(水)
7	通信・アンテナ	第1回2004年5月26日(水), 第2回2004年9月15日(水) 第3回2004年12月22日(水), 第4回2005年1月19日(水)
8	画像情報	第1回2004年5月24日(月), 第2回2004年10月22日(金) 第3回2004年12月17日(金), 特別講演会2005年1月18日(火)
9	機械・制御系	第1回2004年5月11日(火), 第2回2004年11月24日(水)
10	電子・電気系	第1回2004年5月27日(水), 第2回2004年9月22日(水) 第3回2004年11月30日(水)
11	情報系	第1回2004年5月21日(金), 第2回2004年7月14日(金) 第3回2004年9月15日(水), 第4回2004年11月24日(水) 第5回2005年2月2日(水), 特別講演会2005年3月4日(火)
12	環境・土木系	第1回2004年5月14日(金), 第2回2004年7月9日(金) 第3回2004年11月5日(金)
13	自動車リサイクル技術	第1回2004年5月12日(水), 第2回2004年7月7日(水) 第3回2004年8月19日(木), 第4回2004年10月26日(火) 第5回2005年3月3日(木)
14	異業種融合	第1回2004年5月28日(金), 第2回2004年6月24日(木) 第3回2004年7月27日(火), 第4回2004年9月28日(火) 第5回2004年10月26日(火), 第6回2004年11月24日(水) 第7回2004年12月21日(火), 第8回2004年1月17日(火) 第9回2004年2月24日(木), 第10回2004年3月24日(木)

(出典：平成16年度地域共同テクノセンター事業活動報告)

資料A-1-②-12 (2/2)

2005年度技術振興交流会分科会実施状況

No.	分科会名	実施年月日
1	環境管理技術	第1回 2005年6月17日(金) 講演会 第2回 2005年8月19日(金), 第3回 2005年11月25日(金) 第4回 2006年3月13日(月) 講演会
2	医療・福祉機器	第1回 2005年9月26日(月), 第2回 2006年2月10日(金) 第3回 2006年2月22日(水)
3	教材開発	第1回 2005年5月13日(金), 第2回 2005年7月7日(水) 第3回 2005年10月21日(金), 第4回 2006年1月26日(木)
4	光応用技術	第1回 2005年6月10日(金), 第2回 2006年1月27日(金)
5	社会基盤の メンテナンス	第1回 2005年7月8日(金)
6	ロボット・自動化	第1回 2005年7月20日(水)
7	通信・アンテナ	第1回 2005年6月15日(水), 第2回 2005年9月14日(水) 第3回 2006年2月1日(水)
8	画像情報	第1回 2005年6月22日(水), 第2回 2005年12月9日(金) 第3回 2006年2月10日(金), 第4回 2006年3月31日(金)
9	機械・制御系	第1回 2005年5月18日(水)
10	電子・電気系	第1回 2005年10月18日(火) 第2回 2006年1月27日(金) 講演会
11	情報系	第1回 2005年7月6日(水), 第2回 2005年9月7日(水) 講演会 第3回 2005年11月9日(水), 第4回 2006年1月18日(水) 第5回 2006年3月8日(水) 講演会
12	環境・土木系	第1回 2005年5月27日(金) 第2回 2005年10月7日(金) 第3回 2006年3月13日(月) 講演会
13	自動車リサイクル技術	第1回 2005年11月29日(火)
14	異業種融合	第1回 2005年4月28日(木), 第2回 2005年5月26日(木) 第3回 2005年6月30日(木), 第4回 2005年7月28日(木) 第5回 2005年10月27日(木), 第6回 2005年11月24日(木) 第7回 2006年1月26日(木), 第8回 2006年2月23日(木) 第9回 2006年3月30日(木)

(出典：平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告)

第4回テクノフォーラム取材記事

(第3種郵便物認可) 毎日新聞 ちば ワイド

サンマ漁にLED集魚灯

05年度に農水省から2300万円の補助を受けて実施。光応用計測が専門の高橋邦夫教授(68)をリーダーに高専チームと国際化工顧問の小林智さん(71)のチームが協力してきた。

サンマ漁は発電用エンジンで発電し、白熱電球の集魚灯を照らして行う。明るい光に集まるサンマの習性を利用して、サンマを集めるのが特徴だ。

しかし、白熱電球集魚灯の場合、750～1000ワットの白熱電球を3000～6000個ほど使うため、消費電力は180～200キロワットにもなる。最近、燃料の高騰に加え、豊漁による市場価格の急落から、漁業関係者の悩みの種だった。

そこで、国際化工と高橋教授のグループが協力。消費電力の少ないLEDからサンマが反応する色のLED

木更津高専と国際化工 共同開発

同校は「高専の技術力を民間会社で生かしてもらおう」ための拠点として、01年3月に「官・学・民」協力を「地域共同テクノセンター」を開設。企業との共同研究を進めている。「集魚灯」の研究は04、05年度に農水省から2300万円の補助を受けて実施。光応用計測が専門の高橋邦夫教授(68)をリーダーに高専チームと国際化工顧問の小林智さん(71)のチームが協力してきた。

サンマ漁は発電用エンジンで発電し、白熱電球の集魚灯を照らして行う。明るい光に集まるサンマの習性を利用して、サンマを集めるのが特徴だ。

しかし、白熱電球集魚灯の場合、750～1000ワットの白熱電球を3000～6000個ほど使うため、消費電力は180～200キロワットにもなる。最近、燃料の高騰に加え、豊漁による市場価格の急落から、漁業関係者の悩みの種だった。

そこで、国際化工と高橋教授のグループが協力。消費電力の少ないLEDからサンマが反応する色のLED

電力20分の1で同じ漁獲量

青森県八戸沖で3回試験操業をしたところ、LEDの場合、約20分の1の8・4キロワットの消費電力で、白熱電球と同じ漁獲量が確保できることが実証された。

小林さんは「まだLEDは高いが、一般照明や自動車ライトに使われるようになれば単価も安くなり、3年後ぐらいにはLED集魚灯がサンマ漁の主流になるでしょう。全国のサンマ船がLEDを使用すると8億円以上の燃料費が削減できると試算している。

地上デジタル放送
来月1日から開始
千葉テレビ
千葉テレビ放送(本社・千葉市)は14日、4月1日から地上デジタル放送を開始すると発表した。当初は船橋市の本局からデータ送信を行うため、視聴が可能なのは東・南部を除く地域に限られ、世帯カバー率は84・5%。

今後、銚子、東金、勝浦、佐原市などに中継局の整備を進め、08年にカバー率94・4%、10年にカバー率97・9%を目指す

開発したLED集魚灯を使い八戸沖で試験操業する阿総丸—国際化工提供



(出典：2006年3月16日(木)毎日新聞)

(分析結果とその根拠理由)

直近5年間に新たに博士号を取得した現職教員が11名おり、理科系教員の博士号取得率が64.0%に達した。直近5年間の論文発表件数は255件、学会発表件数は285件、各種受賞は13件であったこと等から、着実に組織としての研究力が向上していることが分かる。

2004年3月に発足した技術振興交流会には、多くの地域企業、近隣学校が組織会員となって参加しており、14の分科会において発足2年間で述べ98回の会議及び特別講演会が開催された。また、一般に開かれたテクノフォーラムも発足2年間で4回開催され延べ423名の参加者を集める等の成果を上げている。それらの活動結果として、共同研究、受託研究等の件数も年々増加しており、研究成果が学術論文、学会発表、研究成果報告書等によって着実に公表されている。

以上のことから、研究活動を通して本校の社会的存在意義を十分にアピールすると同時に、教育研究力を確実に地域に還元することができており、目的に沿った活動の成果が十分に上げられていると評価できる。

観点1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

研究活動等の実施状況や問題点の把握は、テクノセンター運営委員会が行っている。資料A-1-①-2 (地域共同テクノセンター組織図) に示した通り、テクノセンター運営に関する事務は、本校庶務課が担当しており、共同研究、受託研究、技術相談、奨学寄附金受入れ等の窓口となっている。テクノセンター運営委員会はセンター長の他に全学科学系より委員が選出されており、全教員の意見を吸い上げる体制が整っている(資料A-1-③-1)。同委員会は2004年度に7回、2005年度に6回開催され、研究活動の計画及び点検・改善等が行われた(資料A-1-③-2)。

地域交流の拠点となる技術振興交流会は、資料A-1-①-16 (木更津高専技術振興交流会組織図) に示した通り、テクノセンター長及び3名の副センター長が理事として、庶務課長が幹事として本校より参加するが、会長、副会長、監事等の役員のほとんどは地域企業、商工会議所等の公共機関の人に依頼しており(資料A-1-③-3)、本校の研究活動に対して、外部の意見が強く反映される形になっている。技術振興交流会役員会は年2回行われており、事業内容の問題点抽出や分科会統廃合等の具体的改善案が審議されている(資料A-1-③-4)。

テクノセンターの主な事業内容は、事業報告書(2005年度発行部数:1000部)で毎年公表しており(資料A-1-③-5)、更に詳細な活動内容を事業活動報告(資料A-1-③-6)としてまとめ、その中で自己点検も行っている。事業報告書及び事業活動報告は、テクノセンターウェブページでも公開している。また、技術振興交流会の活動に関しても、年度ごとに活動報告を行っている(資料A-1-③-7)。その中で各分科会の活動内容の報告が義務付けられており、会員は、自分が所属していない分科会の具体的な研究活動も把握することができるシステムとなっている。各分科会の委員長は本校の教員が当り、副委員長は外部会員に依頼しており、分科会活動の問題点が客観的に抽出されやすい仕組みとなっている(資料A-1-③-8)。更に、問題が発生した場合は、分科会委員長会議で吸い上げるシステムとなっている(資料A-1-③-9)。

その他に、2004年9月に「地域共同テクノセンターの現状」に関する、外部評価(資料A-1-③-10)を受け、その評価結果をもとに、様々な改善を行っている(資料A-1-③-11)。例えば、

「更なるPRが必要である」という指摘に対して、資料A-1-③-9（技術振興交流会分科会委員長会議議事要旨）に示したように、教員による企業訪問や技術振興交流会ホームページ立上げ等の具体的な改善を行った。

資料A-1-③-1

地域共同テクノセンター運営委員会委員と事務部担当者

センター長	小平眞次（電気電子工学科）	
副センター長	大澤 寛（電気電子工学科）	鈴木 聡（電子制御工学科）
	佐藤恒明（環境都市工学科）	
センター委員	五十嵐譲介（人文学系）	高橋邦夫（基礎学系）
	板垣貴喜（機械工学科）	大澤 寛（電気電子工学科）
	鈴木 聡（電子制御工学科）	東 雄二（情報工学科）
	高橋克夫（環境都市工学科）	五島正己（事務部長）
生涯学習担当	田村和士（基礎学系）	
事務部	原 稔継 庶務課長	斉藤 正 庶務課専門職員
	大坪竹雄 庶務係長	仲川 強 庶務主任

（出典：平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告）

第6回 地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年2月27日(火) 17:00~18:30
2. 場 所 第2会議室
3. 出席者 小平(委員長)、大澤、鈴木聡、佐藤、板垣、東、高橋克、五十嵐
(欠席者:田村, 高橋邦)

4. 議 事

【議 題】

1. 平成18年度地域共同テクノセンター事業計画(案)について

テクノセンター長から事業計画14件についての説明があった。

本件は学内での審議に提出するものであるから、学内に与えられた予算を取り合うことになるので、もっと現実的な金額に修正してはどうか、との意見が出たが、本件のような計画段階での予算申請ではこのような額になっても仕方がないとの意見が多く、このまま了承された。

特別教育研究経費に関する、連携融合事業経費について、センター長から説明があった。

経費の申請主旨からして、環境の鬼塚先生の「環境・人にやさしい地盤系舗装の計測解析システム」を申請することに決まった。

【連絡報告】

1. 第4回テクノフォーラムについて

鈴木委員から講演時間の変更等について説明があった。

(詳細は技術振興交流会のウェブページに)

センターニュースの締め切り3/28。各委員は原稿の提出を再度依頼。

見学の計画は東委員。案内は、東・板垣委員で担当。前回回れなかった栗本先生の実験室を最初にとのこと。技術相談は佐藤委員が担当

2. 東葛テクノプラザにおける技術相談担当者について

資料にて確認した

3. 平成18年度公開講座実施計画について

項目、担当等の確認後、各講座の予算が決定し次第、再検討することになった。

【その他】

木更津商工会議所の青年会のイベントについて

(出典:庶務課資料)

資料A-1-③-3

木更津工業高等専門学校技術振興交流会 役員・顧問所属

平成18年4月1日

役職名	所 属	備 考
顧 問	木更津市長	
"	木更津商工会議所会頭	
"	君津商工会議所会頭	
"	君津地区商工会連絡協議会会長	
"	木更津工業高等専門学校長	
会 長	(株)長野建設代表取締役社長	
副 会 長	(株)アスク代表取締役会長	
"	春川鉄工(株)代表取締役	
"	富津オートサービス代表	
"	(有)三ツ矢精密	
理 事	(有)本田水設工業代表取締役	
"	伊藤土建代表取締役	
"	(有)丸和建材社代表取締役	
"	寿住宅設備機器(株)代表取締役	
"	富洋観光開発(株)代表取締役	
"	木更津商工会議所専務理事	
"	木更津高専地域共同テクノセンター長	事務局長兼務
"	" 副テクノセンター長	広報担当
"	" 副テクノセンター長	フォーラム担当
"	" 副テクノセンター長	分科会担当
監 事	(株)さわや代表取締役社長	
"	千葉オイレッシュ(株)代表取締役	
幹 事	木更津商工会議所経営指導員	
"	君津商工会議所中小企業相談所長	
"	富津市大佐和商工会主任経営指導員	
"	袖ヶ浦市商工会経営指導員	
"	木更津高専庶務課長	

(出典：庶務課資料)

木更津工業高等専門学校技術振興交流会役員会議事要旨

1. 日 時 平成18年2月10日(金) 15:30～16:50
2. 場 所 木更津工業高等専門学校第2会議室
3. 出席者 13名
4. 欠席者 9名
5. 議 事

原幹事の司会で、

- (1) 会長及び小平理事(事務局長)のあいさつ、
- (2) 配付資料の確認後、

長野会長が議長を務め、次のとおり審議が行われた。

(1) 新年度の交流会活動について

議長から、交流会も発足後2年となり、3年目となる18年度に向けて、

- ① 会員の拡大策
- ② 事業内容
- ③ 役員の変更

等、交流会活動活性化について意見・提言をお願いしたいとの発議後、各役員から次のような意見等があった。

① 会員の拡大策について

- ・ 南総地区(館山・鴨川等)の会員が少ない。商工会議所、商工会等を通じて活発な案内を行う必要がある。
- ・ 千葉大学では「千葉大学支援会」が発足し、4月から学内TLOを立ち上げる予定とのこと。木更津高専も将来のTLO設立に向け地道に会員増を図って行く。
- ・ 新会社(TLO)の設立を目指して行けばよいのではないか。小さくスタートして徐々に大きくすればよい。
- ・ 地域とのコーディネートをする者が必要である。(OB等学外者)

② 事業内容について

- ・ 分科会については、統廃合も視野に入れて検討を行っていく。
- ・ 高専の設備等を積極的に紹介し、会員に利用いただく。
- ・ 焦点ぼけの分科会が見受けられる。テーマごとのWG、研究会等の設置が必要。
- ・ 木更津市等近隣4市では、産業祭等を行っている。そのような校外活動に学生等を積極的に参加させていただきたい。

③ 役員の変更について

- ・ 役員については、交流会の基礎が固まっていないこともあり、可能な限り継続で願う。

(2) その他

① 経済産業省による雇用促進事業について

大澤理事から、千葉県産業振興センターが経済産業省の事業に応募し、2005年度に調査費が付き、木更津高専も協力している。内容は、2007年度に向けて団塊世代の退職により、技術の継承が難しくなっているため、若手技術者の再教育を高専が担当することになっている。そのためのアンケート調査を行ったが、交流会会員企業の者をお願いした。(事後承諾となった)

2006年度に申請して、通れば本校において技術教育を行うことになるので今後とも協力をお願いしたいとの依頼があった。

② 交流会ホームページについて

大澤理事から、交流会のホームページを立ち上げた。会員企業の積極的な登録をお願いしたい旨の依頼とホームページの内容の説明が行われた。

③ 第4回テクノフォーラムについて

鈴木理事から、フォーラムの内容の説明があった。

司会から、本日の案件に対する意見を今後の交流会活動に活かしていく旨の発言があった。

以上

(出典：庶務課資料)

地域共同テクノセンター事業報告書



2001年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2002年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2003年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2004年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



(出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/report2002.htm>,
地域共同テクノセンターウェブページより)

地域共同テクノセンター事業活動報告目次

平成18年3月31日

平成17年度

地域共同テクノセンター事業活動報告

報告項目

- I 平成17年度活動の結果と点検評価
 - 1. 新たな活動
 - 1) 2005サイエンススクエア
 - 2) 木更津市アーカイブ画像撮影
 - 3) 理数大好きモデル地域事業
 - 4) 電源地域における雇用推進対策調査事業
 - 5) 技術振興交流会ホームページの立ち上げ
 - 6) 電子顕微鏡室設備公開の準備
 - 2. 継承した事業活動
 - 1) 木更津高専技術振興交流会への協力事業
 - 2) 技術相談事業
 - 3) 研究・試験事業
 - 4) 研究・技術成果公開・出展に関する事業
 - 5) 生涯学習事業
 - 6) 講演講師派遣事業
 - 7) 広報事業
 - 8) 審議委員等の派遣事業
 - 9) 交流事業
 - 10) その他
 - 3. 実現したい活動等
 - 1) 事業を推進・持続できるシステムの構築
 - 2) 運営資金を確保できる事業の検討
- II 運営委員会の実績
- III 運営委員会委員と事務部担当

(出典：平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告，現地閲覧資料28)

木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告

木更津高専 技術振興交流会

2004年度報告



設立総会（2004年3月9日火曜日）

1. 巻頭の言葉	1
2. 技術振興交流会の設立趣旨とシステム	2
3. 木更津高専技術振興交流会設立総会	3
4. テクノフォーラムの報告	4
5. 分科会の概要	5
6. 分科会特別講演会の報告	8
7. 各分科会の報告	11
8. 2004年度会員リスト	33
9. 2004年度役員リスト	34

（出典：木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告，現地閲覧資料 29）

木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告 各分科会の報告

各分科会の報告

異業種融合分科会

委員長：小平 眞次

副委員長：学外委員

副委員長：石出 忠輝

異業種融合分科会第1回 報告

開催日時：2004年 5月28日（金）18:00～20:00

開催場所：木更津高専 第1会議室

参加人数：27名

概要：

- 分科会概要の説明と、副委員長の選出（副委員長の選出は委員長に一任）
- 第2会議室にて懇親会

参加者は学外会員 12名、学内会員 10名であり、活発な意見交換が行われた。

異業種融合分科会第2回 報告

開催日時：2004年 6月24日（木）18:00～20:00

開催場所：木更津高専 第1会議室

参加人数：19名

概要：

- 技術相談事例とその対応について
委員長より、「おが粉の再利用の助言」についての技術相談内容の説明があり、企業の開発と高専の技術相談・委託試験・共同研究・委託研究との関係についてのガイドラインが示された。
- 技術紹介：実現化の方法論について
委員長より、実現化の方法論についてパワーポイントを用いながら、研究開発のキーポイントについての講演がなされた。研究開発体制をどのように構築していくかについての斬新な発想が紹介された。
- 懇親会
第1会議室にて懇親会を行った。参加者は学外会員 12名、学内会員 7名であった。なお、長野会長よりアクアライン関係の報告もあり、有意義な意見交換が行われた。

（出典：木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告）

技術振興交流会分科会委員長会議議事要旨（第1回）

1. 日 時 平成17年6月9日（木）15:20～16:00
2. 場 所 第2会議室
3. 出席者 小平、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋克、高橋邦、石井、斉藤（栗本の代理）、天摩、高橋秀、（事務：斉藤）
4. 議 事

（1）平成17年度の交流会活動方針について

小平センター長から、5月18日に開催された技術振興交流会定期総会での決定事項について、次のとおり報告があった。

① 会則を一部改正し、本校教職員及び退職した教職員で希望する者を特別会員とすることを明記した。

②平成17年度予算が承認され、分科会については、1分科会当り40,000円（14分科会）、共通経費として50,000円、合計で610,000円が使用できることとなった。なお、使用に際しては、立替払いを原則とし、領収書を事務局（斉藤）に提出すれば1週間程度で支払可能である。

③平成17年度交流会事業計画書について、今年度は、例年実施している事業のほかに次の事業を新たに計画し実施する。

- ・技術講習会の開催 電子顕微鏡関係を整備し実施
- ・**木更津高専教員による会員企業訪問** 分科会単位及び企業取材等
- ・**技術振興交流会ホームページ立ち上げ** 現在内容について検討中
大澤先生が中心で作成する

（2）分科会の開催日程について

小平センター長から、平成17年度の分科会の開催日程を早めに計画し、事務局（斉藤）及び17年度の分科会担当理事の佐藤副センター長へ連絡すること。また、分科会開催後、速やかに議事要旨を作成し、佐藤及び事務局へ提出するよう依頼があった。（年度報告を作成する資料とするため）。なお、佐藤副センター長から、17年度開催計画については、6月15日（水）までに連絡するよう依頼があった。

以上

(出典：庶務課資料)

外部評価（地域共同テクノセンターの現状）

目 次

1.	木更津工業高等専門学校外部評価実施要領	1
2.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿	2
3.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目	3
4.	木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程	4
5.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表	5
6.	外部評価委員会委員に配布した資料一覧	6
7.	外部評価に際して	7
8.	外部評価委員の評価内容	
	一専攻科の現状	10
	一地域共同テクノセンターの現状	14
	一J A B E E認定申請に向けての現状	17
	一中期計画の策定	19
	一その他	21
9.	木更津工業高等専門学校外部評価書様式	24

【地域共同テクノセンターの現状】

1. センターの設置について

○評価できる点

- ・目的を達成すべく業務を積極的に少ないスタッフで実行されていることは評価できる。
- ・センターの設置は、進むべき方向だと同感であり評価できる。
- ・学外への窓口をセンターに一本化し、地域社会と連携し発展しようとの努力が認められる。
- ・木更津という商業的色彩の強い地域において、センターの設置は工業系事業者には心強い味方である。
- ・外部との窓口の一本化により、技術相談やセンター・学科等の設備利用が一元化され、地域との連携がこれまで以上に促進されることが期待できる。

○問題点

- ・PR活動を積極的にされたとのことであるが、まだまだ広く知られていないのは否めない。更なるPRが必要である。
- ・施設・設備は十分であるのか、今後の検討が必要である。
- ・今年3月に発足した、技術振興交流会との役割分担と協力の方法を更に検討すべきである。

○その他の提言

- ・古い設備もあり、老朽化による故障が頻繁に起きているため、更新のための予算要求を行っているとのこと。早く承認されることが望まれる。
- ・地域連携の発展は個々の先生方の努力だけでは支えきれない。高専全体としての取り組みが重要である。

2. センターの活動について

○評価できる点

- ・PR不足を補うため広報・交流活動の拡大事業を積極的にされたこと。中学校出前授業は良い試みであり評価できる。
- ・活発に活動していると見受けます。やがて、成果に結びつくと思われる。
- ・民間企業との共同研究において徐々に成果がでてきている。
- ・相談者に対するセンターの対応が非常に真剣である。
- ・地域の小・中学校の立場から特に出前授業の実施は評価できる。
- ・地域産業界との交流、公開講座、受託試験等活発に活動している。

（出典：外部評価報告書平成16年11月）

外部評価に対する対応を示す資料

平成16年度 第4回地域共同テクノセンター運営委員会

日 時 平成16年10月19日(火) 15:20~17:00

場 所 第1会議室

欠 席 田村, 石井, 原, 斉藤, 大坪

【議 題】

1. 地域共同テクノセンター事業役割分担について(案)・・・資料1

特に、技術振興会々報誌とテクノニュースのあり方・必要性について様々な議論があり、再度検討することとなった。また、各担当について一部決定(資料に記載)したが、残りについては責任者が人選し庶務係に連絡、次回の委員会で報告することとなった。

【連絡報告】

1. 駅前高専「テレワークセミナー」の実施について・・・資料 2

公開講座を含め、来年度に向けPRの方法等再検討することとなった。

2. 生涯学習実施報告の依頼・・・資料 3

特になし。

3. 第2回全国高専テクノフォーラム参加報告・・・資料なし

鈴木副センター長より、参加報告があった。

また、センター長より第3回については長岡高専が幹事校で7月21日に開催される予定である旨補足があった。

4. 地域共同テクノセンター前期活動報告・・・資料 4

出前授業について、事業を拡大するにはそれなりの予算の確保が必要であるため、テクノセンター運営経費全体を今後見直すこととなった。

5. 特許申請について・・・資料なし

センター長より、環境都市石田教授の発明届についての経過報告があった。

【その他】

1. 第1回テクノフォーラム新聞記事紹介・・・資料 5

特になし。

2. 技術相談調書の提出について(依頼)・・・資料なし

センター長より、些細なことでも出来るだけ提出するよう周知依頼があった。

3. 共同研究・受託研究の促進について・・・資料なし

センター長より、自己収入拡大のためにも積極的に受け入れを促進するよう依頼があった。

4. 外部評価について・・・資料なし

センター長より、提出された意見書に基づき、今後改善すべき点を再認識し改善していくよう依頼があった。

5. 異業種交流プラザ講演報告

高橋克夫委員より、追加配布の資料により10月14日の講演報告があった。

(出典：平成16年度 第4回地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

テクノセンターを運営規程に従って適切に運営し、研究活動等の実施状況や問題点を把握するために、テクノセンター運営委員会が組織されている。テクノセンター運営委員会は全学科学系より委員が選出されており、全教員の意見を吸い上げる体制が整っている。

テクノセンター運営委員会では、テクノセンター及び技術振興交流会における活動の実施状況について、定期的に活動報告を行っている。また、技術振興交流会役員や分科会副委員長を学外委員に依頼し、技術振興交流会役員会議や技術振興交流会分科会委員長会議を開催して、定期的に研究活動の点検を行っている。

以上の体制に加え、実際に外部評価による指摘に対しても迅速に対応し、改善を行った実績もあることから、研究活動の実施状況や問題点を把握し改善を図っていくための体制が適切に整備され機能していると評価できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

外部との窓口を地域共同テクノセンターに一本化し、テクノセンター運営委員会を中心として積極的に地域との連携を図っている点。

技術振興交流会を発足し、実践的なテーマを設定して、一般会員と本校教員から構成される14の分科会を設け、設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を積極的に行い、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学外会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行った結果、共同研究、受託研究等の件数が年々増加している点。

テクノセンターガイドブック、テクノセンターニュース、事業報告書の発行やウェブページにより、積極的にシーズの発信を行っている点。

(改善を要する点)

特に無い。

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校では、教育研究力を地域産業界に還元し本校の社会的な存在意義を高めていくために、地域社会とのコミュニケーションを深め地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するとともに、外部機関との共同研究を推進している。

本校設立当初より、地域企業との共同研究や受託研究は活発に行われていたが、2001年3月に木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターを設立し、共同研究・受託研究・受託試験・奨学寄附金の受入れ、技術相談の実施、公開講座等の開講を組織的に行う体制を整え、その運営に当たってテクノセンター運営委員会を組織することで、本校と地域社会・企業等との結びつきの一層の推進を図った。また、地域社会と情報を交換し連携を深める場として、2004年3月に技術振興交流会を発足し、実践的なテーマを設定して、一般会員と本校教員から構成される14の分科会を設け、設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を積極的に行っている。また、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学外会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行うと同時に、テクノセンターガイドブック及びテクノセンターニュースの発行やウェブページを用いて、積極的にシーズの発信も行っている。

直近5年間に新たに博士号を取得した現職教員が11名おり、理科系教員の博士号取得率が64.0%に達し、直近5年間の論文発表件数は255件、学会発表件数は285件、各種受賞は13件と組織としての研究力が向上している。技術振興交流会の分科会では、発足2年間で述べ98回の会議及び特別講演会を開催し、テクノフォーラムには発足2年間で延べ423名が参加しており、これらの活動を通して、本校の社会的存在意義を十分にアピールすると同時に、教育研究力を確実に地域に還元している。

テクノセンター運営委員会では、テクノセンター及び技術振興交流会における活動の実施状況について、定期的に活動報告を行っている。また、技術振興交流会役員や分科会副委員長を学外会員に依頼し、技術振興交流会役員会議や技術振興交流会分科会委員長会議を開催して、定期的に研究活動の点検を行っており、研究活動の実施状況や問題点を把握し改善を図っていくための体制が適切に整備され機能している。

以上のことから、本校の研究活動が目的に沿って適切に行われ、研究活動の成果が十分に上がっているものと評価できる。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況**(1) 観点ごとの分析**

観点1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、一般社会人の生涯教育のサポート及び地域小中学生の学習意欲の向上を目的とした公開講座等の教育サービスを地域共同テクノセンター事業の一環として実施している(資料B-1-①-1)、(資料B-1-①-2)。

公開講座等を実施するに当たっては、公開講座(オープンセミナー)実施要領(資料B-1-①-3)に従って、実施する前年度末に実施計画書(資料B-1-①-4)を庶務係に提出し、テクノセンター運営委員会にて承認を得ることが必要である(資料B-1-①-5)。

テクノセンター運営委員会で承認された公開講座等の内容(講座の名称及び概要、対象者、募集定員、受講料、開催日、受付期間、申込用紙)の一覧は、テクノセンターウェブページのイベント情報にて公開される(資料B-1-①-6)。また、木更津市の広報「きさらづ」及び地域機関誌「房総ファミリア」に掲載を依頼し、広報を行っている(資料B-1-①-7)、(資料B-1-①-8)。

2005年度に行われた公開講座等の講座名一覧(資料B-1-①-9)を示す(2001-2004年度実績は現地資料とする)。2004年度までの公開講座は有料と無料のものが混在していたが、2005年度からは、公開講座は原則として有料とし、無料のものをオープンセミナーと称することにした。また、木更津市との協働で木更津高専テレワークセミナーをJR木更津駅前アインズビル内のテレワークセンターにて実施している。

過去5年間で公開講座等の開設講座数は10講座から43講座まで約4倍に増加し、それに伴って受講者数は、218名から421名まで約2倍に増加している(資料B-1-①-10)。講座の内容は資料B-1-①-9(2005年度公開講座等の実績)に示した通り、本校の研究技術力を地域に還元すると同時に地域のニーズに対応して多岐に及んでいる。一般社会人を対象としたものとしては専門技術や資格取得に関する講座の他、パソコン入門講座、語学講座、スポーツ講座等広範囲を網羅しており、社会人の生涯学習をサポートするものとして適切な内容となっている。また、小中学生を対象としたものでは、パソコンの自作、橋作り、鋳造、レゴロボット等のものづくり体験講座のほか、パソコンリテラシー教室、科学実験教室、スポーツ教室、環境問題を扱う講座等多岐に及んでおり、小中学生の学習意欲の向上に寄与する内容となっている。また、講座終了時の受講者アンケートにおいて「今後開いて欲しい講座」の希望調査を行い、受講者のニーズを探っている(資料B-1-①-11)。

上述した公開講座等の他に、文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座及び近隣小中学校の要請に応じて積極的に出前授業に対して講師を派遣している(資料B-1-①-12)。また、1997年より基礎学系の理科教員を中心として科学教室「青少年のためのおもしろサイエンス」を定期的に開催しており、現在に至るまで延べ1937名の小中学生を対象として飛行機、万華鏡、炭電池自動車等のものづくり教室や放射線科学、地球環境問題等テーマとした講演会を行った(資料B-1-①-13)。また、2004年8月にかずさアカデミアホールで開催された「ものづくり夢フェスタ2004(日本高専学会主催、本校共催)」(資料B-1-①-14)及び2005年8月に国立科学博物館で開催された「2005夏休みサイエンススクエア」(資料B-1-①-15)においても、積極的に講師及びアシスタント学生を派遣し、ものづくり体験授業を実施し、地域小中学生に対して専門的な視点で科学技術に対する興味・関心を与え、理科の学習意欲向上に大

きく貢献している。

資料B-1-①-1

木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程(抜粋)

平成12年11月15日 規則第8号

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること。
- (2) 技術セミナー及び技術研修会に関すること。
- (3) 学内共同研究に関すること。
- (4) ものづくり教育の推進に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 電子顕微鏡室の運営に関すること。
- (7) その他センターの推進に関する必要な事項。

(出典：木更津工業高等専門学校広報第19号)

地域共同テクノセンターウェブページ（活動の目的）

MENU

- 新着情報
- 活動目的
- 事業内容
- ご相談の方法
- 施設紹介
- 教員紹介
- 活動報告
- 組織図
- テクノセンター 規程
- ラボの研究成果報告
- 木更津高専技術振興交流会
- 申請書類・報告書 書式

Technology Collaboration
高専の技術力をみなさんへ

- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- リフレッシュ教育
- 公開講座

地域共同テクノセンターは、共同研究・受託研究・受託試験・技術相談・生涯学習などを集約的にを行い、地域の方々と共に、地域の発展向上に努めるための拠点です

活動目的

▶▶ 地域共同テクノセンターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的にを行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。（テクノセンター運営規程第2条）

▶▶ 本校の教育研究力を地域に還元し社会的存在意義を高めるために以下の事業の実施を目標にする。（以下項目は、テクノセンター運営規程第3条から）

- 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること
 - ニーズと学内シーズを見極めた研究を推進するため、地域社会とのコミュニケーションを深める
- 学内共同研究に関すること
 - 地域産業界との共同研究の推進
- ものづくり教育の推進に関すること
 - 出前授業などの推進
- 公開講座に関すること。
 - 公開講座、オープンセミナーなどの推進
- 技術セミナー及び技術研修会に関すること
- 電子顕微鏡室の運営に関すること
- その他センターの推進に関する必要な事項

（出典：http://www.kisarazu.ac.jp/techno/index.html, 地域共同テクノセンターウェブページの活動目的）

平成17年度公開講座（オープンセミナー）実施要領

1. 使用施設について

- ・以前に作成された実施計画書を再度ご確認のうえ、各講座（セミナー）の責任者（以下「責任者」という。）において使用施設の予約・調整等を行ってください。

2. 受講申し込み受付について

- ・庶務課庶務係において行います。（申込時に徴収すべき料金等の代行納付を含む。）
- ・受付時には、受講希望者に対し講座（セミナー）の要項及び受付完了の確認通知文書を交付します。（この他、別途配布してほしい連絡文書等がありましたら受付開始日の1週間前までに仲川まで原稿をご提出願います。）
- ・受付終了後、名簿の写しを責任者に配布しますので当日の出欠等にご利用ください。
- ・受講希望者がいなかった場合又は受講希望者が定員を超えそうな場合には責任者にご相談させていただきます。

3. 必要物品について

- ・以前、責任者より提出された内訳書により庶務課庶務係より会計課用度係へ発注依頼をいたします。（再度お手元の控えを確認され、納期に相当日数がかかりそうな物品についてはあらかじめ庶務課庶務係へご連絡ください。）
- ・物品の仕様等詳細については会計課用度係より責任者に問い合わせます。
- ・物品の受け渡しは、会計課用度係より責任者にご連絡いたします。

4. 補助学生の弁当について

- ・講座（セミナー）計画書により予定された人数分の弁当を当日の11時30分に門衛所に配達されるように庶務課庶務係にて手配しますので、原則責任者において守衛より受領願います。
- ・弁当のカラ箱は、印刷室前のゴミ箱に捨てるよう補助学生への指導方お願いします。（屋外のゴミ箱へは絶対に捨てないようにしてください。）
- ・講座（セミナー）終了後、別途責任者宛に配布します「補助学生出席確認表」に補助学生本人の記名捺印をさせ同書類を庶務課庶務係にご提出ください。

5. 休日等勤務を要しない日に講座（セミナー）を実施する場合

- ・責任者が取りまとめのうえ、「週休日の振替及び半日勤務時間の割振り変更簿」を事前に提出してください。

6. 講座（セミナー）当日について

- ・当日は、各講座（セミナー）の教職員スタッフと補助学生により講座（セミナー）を開催してください。
- ・正門掲示用の立て看板は庶務課庶務係で作成し用意しておきますので、当日の準備の際に掲示願います。その他の掲示物は各講座（セミナー）のスタッフにてご用意ください。

※案内板が必要な方は事前に庶務課庶務係に申し出てください。

サイズ：高さ101cm・幅33cm

掲示面：縦48cm×横28cm（最大A3縦の用紙が収まるサイズです。）

用意できる枚数：7枚程度

7. 講座（セミナー）の記録等のお願い

- ①受講人数の記録：受付終了後にお渡しした名簿にチェックする等し、参加者名簿として庶務課庶務係へ提出願います。
- ②受講者アンケート：今年度より中期計画に基づき受講者からの満足度調査を中心にアンケートを実施することになりました。事前に責任者に受講者相当分の用紙をお渡ししますので、講座（セミナー）終了後回収のうえ庶務課庶務係に提出願います。
- ③記録写真：可能な限り、当日の様態をデジカメ等に記録されデータとしてご提供くだされば幸いです。デジカメを庶務課で2台保有しておりますのでどうぞご利用ください。

8. その他

上記の他必要な事項については、庶務課庶務係と責任者においてご連絡・相談させていただきます。よろしくご協力お願いいたします。

（出典：平成17年度公開講座（オープンセミナー）実施要領）

資料B-1-①-4

平成17年度公開講座等実施計画書の作成例

平成 年 月 日作成

区 分	公開講座	●オープンセミナー	駅前高専(テレワークセミナー)
講座の名称	パソコンで「ネームプレート」を作ろう！		
講座の概要	<p>絵や文字を機械を使って彫るには、複雑なプログラムを作らねばならないので、以前はとても難しいものでした。</p> <p>でも最近はコンピュータ等の進歩により、ワープロを打つのと同じくらい手軽に出来るようになりました。</p> <p>この講座では、パソコンで動く彫刻機を使って、プラスチックの板に文字や図形を彫って江オリジナルのプレートを作ります。</p> <p>ぜひ、カッコいい、素敵な物を作って、キーホルダーや自分の部屋のドアに貼ったりしてみましよう！</p>		
開催日時	7月10日(土)～ 月 日() (9時30分～16時00分) (6時間)		
場所	SCS講義室		
対象者及び募集人員	小学生高学年 10名		
受講費用	無料 ・●実費 500円(材料費) ・機構で定める講習料(公開講座)		
特記事項	筆記用具, 昼食		
講座担当教職員	所 属	氏 名	
	〇〇工学科	◎ 木更津 太郎	
	〇〇工学科	祇園 花子	
学内における所要経費	備品・消耗品費	16,750円(【内訳書】添付のと)	
	補助学生経費	3,000円(5名 1日)	
	外部講師謝金	0円(名 時間)	
	計	19,750円	

(出典：庶務課資料)

資料B-1-①-5

公開講座等実施計画書の作成依頼文

平成18年3月6日

公開講座

オープンセミナー 担当者 各位

テレワークセミナー

地域共同テクノセンター長

小平 眞次

平成18年度公開講座等実施計画書の作成について（依頼）

このことについて、予算資料及びPR資料作成のため下記書類を作成のうえ庶務課庶務係まで提出して下さるようよろしくお願いいたします。

なお、作成して頂いた調書を取りまとめのうえ地域共同テクノセンター運営委員会に議題提出いたしますので、期限厳守のうえ作成・提出くださるよう重ねてお願いいたします。

記

〔作成・提出していただく書類〕

1. （別紙1-1）平成18年度公開講座等実施計画書【個別表】
2. （別紙2）平成18年度公開講座等「備品・消耗品費」【内訳書】

〔提出先及び提出期限〕

庶務課庶務係 3月17日（金）まで

☆不明な点やご質問等ございましたら、庶務係（大坪）までお訪ねください。

（出典：庶務課資料）

平成17年度木更津工業高等専門学校公開講座開催一覧

No.	講座の名称 (クリックすると内容が表示されます。)	対象者	募集定員	受講料	開催日	受付期間	申込用紙	内容等の最終更新日
1	webカメラを用いた静止画配信技法 (高校生以上対象)【第1回】	高校生以上	10名	5,400円	5月21日(土)	5月9～13日	word形式 PDF形式	講座終了
2	住宅建築のための地盤の基礎知識 － 講義と簡易現場試験 －	一般社会人	10名	5,400円	5月22日(日)	5月9～13日	word形式 PDF形式	講座終了
3	中学3年生のためのタッチタイピング 4時間で完全マスター【第1回】	中学3年生	5名	2,700円	7月23日(土)	7月4～8日	word形式 PDF形式	講座終了
4	中学3年生のためのタッチタイピング 4時間で完全マスター【第2回】	中学3年生	5名	2,700円	7月24日(日)	7月4～8日	word形式 PDF形式	講座終了
5	PCの自作講座 ～ 入門編 ～	中学3年生以上	6名	6,400円	7/26(火)・27(水)	7月4～8日	word形式 PDF形式	講座終了
6	移動ロボット製作教室	中学生	25名	3,700円	7/26(火)～ 28(木)	7月4～8日	word形式 PDF形式	講座終了
7	webカメラを用いた静止画配信技法 (中学生対象)	中学生	10名	2,700円	8月3日(水)	7月11～15日	word形式 PDF形式	講座終了
8	Pov-RayによるCG作成入門	小学高学年以上	20名	6,400円	8月6日(土)	7月11～15日	word形式 PDF形式	講座終了
9	電気主任技術者第3種のための直前講座 (回路, 電磁, 応用, 機器)	一般社会人	10名	7,400円	8/6(土)・7(日)	7月11～15日	word形式 PDF形式	講座終了
10	土木技術者のためのExcel入門	一般社会人	20名	6,400円	8/6(土)・7(日)	7月26日まで	word形式 PDF形式	講座終了
11	Texの初歩の初歩	中高教諭	20名	6,400円	8/27(土)・28(日)	7月25～29日	word形式 PDF形式	講座終了
12	webカメラを用いた静止画配信技法 (高校生以上対象)【第2回】	高校生以上	10名	5,400円	10月22日(土)	10月3～14日	word形式 PDF形式	講座終了
13	シェイクスピアを楽しもう	高校生以上	30名	5,400円	11月6日(日)	10月3～14日	word形式 PDF形式	講座終了

(出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/kokai/kokaikoza/pkokai.htm>,
地域共同テクノセンターウェブページ, イベント情報「公開講座」)

公開講座等に関する広報活動の例

平成16年度公開講座広報「きさらづ」掲載予定 H16.5.11 現在

対象	講座名	開催期間 (予定)	掲載予定日 (原稿期限)	受付期間	募集 人員
小学生	木更津高専ウェルネス講座 I 「柔道ってどんなもの」	7月11日 10:00～11:30	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	20名
小学生高学 年以上	パソコンで「ネームプレートを作ろう」	7月17日 9:30～16:00	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	10名
中学生以上	背骨と健康	7月19日 13:00～16:00	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	35名
中学3年生 以上	パソコン製作用入門編	7月26日～27日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	6名
中学生以上	IT講習会	7月27日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	30名
中学生	移動ロボット製作教室	7月27日～29日 10:00～15:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	35名
一般社会人	「振動関係公害防止管理者」試験準 備講座 -振動の性質と測定技術-	7月28日～29日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	6名
中学生	木更津高専ウェルネス講座 II 「短距離走の技術・トレーニング教室」	7月31日 10:00～12:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	20名
中学生以上	英語スピーチの方法	8月4日 13:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	30名
高校生以上	Linux入門	8月7日 10:00～17:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	20名
一般社会人	「電気主任技術者第3種」のための直 前講座	8月7～8日 10:00～17:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	10名
一般社会人	「持続可能な社会」について考える	8月28日 9:30～12:00	8月1日(日) (7月1日)	8/2～6	20名
小学高学年 ～中1	木更津高専ウェルネス講座 III 「ジュニアバレーボール教室」	9/11・18・25,10/2 13:00～16:00	8月1日(日) (7月1日)	8/23～27	30名
65歳未満の 社会人	木更津高専ウェルネス講座 IV 「スポーツテストで体力診断」	10月10日 10:00～15:00	9月1日(水) (7月30日)	9/6～10	40名
小学生高学 年以上	鑄造で「メダルを作ろう」	11月6日 9:30～16:00	10月1日(金) (9月1日)	10/4～8	10名
計 15講座					292名

平成16年度公開講座「房総ファミリア」掲載予定 H16.5.11 現在

対象	講座名	開催期間 (予定)	掲載予定日 (原稿期限)	受付期間	募集 人員
小学生	木更津高専ウェルネス講座 I 「柔道ってどんなもの」	7月11日 10:00～11:30	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	20名
小学生高学 年以上	パソコンで「ネームプレートを作ろう」	7月17日 9:30～16:00	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	10名
中学生以上	背骨と健康	7月19日 13:00～16:00	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	35名
中学3年生 以上	パソコン製作用入門編	7月26日～27日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	6名
中学生以上	IT講習会	7月27日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	30名
中学生	移動ロボット製作教室	7月27日～29日 10:00～15:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	35名
一般社会人	「振動関係公害防止管理者」試験準 備講座 -振動の性質と測定技術-	7月28日～29日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	6名
中学生	木更津高専ウェルネス講座 II 「短距離走の技術・トレーニング教室」	7月31日 10:00～12:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	20名
中学生以上	英語スピーチの方法	8月4日 13:00～16:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	30名
高校生以上	Linux入門	8月7日 10:00～17:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	20名
一般社会人	「電気主任技術者第3種」のための直 前講座	8月7～8日 10:00～17:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	10名
一般社会人	「持続可能な社会」について考える	8月28日 9:30～12:00	7/31or8/1 (7月17日)	8/2～6	20名
小学高学年 ～中1	木更津高専ウェルネス講座 III 「ジュニアバレーボール教室」	9/11・18・25,10/2 13:00～16:00	8月21or22日 (8月7日)	8/23～27	30名
65歳未満の 社会人	木更津高専ウェルネス講座 IV 「スポーツテストで体力診断」	10月10日 10:00～15:00	9月4or5日 (8月21日)	9/6～10	40名
小学生高学 年以上	鑄造で「メダルを作ろう」	11月6日 9:30～16:00	10月2or3日 (9月18日)	10/4～8	10名
計 15講座					292名

(出典：庶務課資料)

公開講座実施内容の房総ファミリア新聞掲載例

10月8日(日) 房総ファミリア新聞 (第1部) 週3回発行 85,000部(無料配布) (4)

栄養! 温まる! ダイエット!
(4人分355円)

きのこ野菜の春さめスープ



材料
(4人分)

春さめ	100g
もやし	150g
にら	50g
白菜	2枚

作り方

- ①にらは5cm程に切り、パプリカはくし切りに、キャベツ・白菜は食べやすい大きさにザク切りにする
- ②まいたけは食べやすい大きさに裂き、エリンギは縦に2〜3mm程の厚さに切る
- ③フライパンにごま油を敷き、①のにら・パプリカ・キャベツ・白菜と②のまいたけ・エリンギを入れ、炒める
- ④鍋にがらスープを入れ、沸騰したら春さめを入れて湯がく

⑤③に④の春さめとスープをそのまま入れて煮、たかのつめを入れる
⑥味噌と砂糖、薄口しょう油で味を調えて出来上がり!

※キムチを加えると、またひと味違った味が楽しめます
※野菜も工夫次第でいろいろ加えてみてください
※豚肉を入れると、さらにバランスがよくなります

キャベツ	1枚	たかのつめ	2本	ごま油	小さじ1
パプリカ (赤・黄)	各1/4個	がらスープ	800cc	薄口しょう油	小さじ2
エリンギ	2本	味噌	小さじ3		
まいたけ	50g	砂糖	小さじ1強		

POINT



春さめはスープで煮て、そのまま野菜を炒めたフライパンに入れる。

第二九二回

臥薪嘗胆 幾星霜

日本の戦後のあゆみ 重城良造

【第九〇話 首相の靖国神社参拝は是か否か③】
(首相の靖国参拝に対する警告②)

「[Koyu]... 中国の唐蒙使外相が靖国神社参拝について「やましい」とゲンメイしました」と語ったように、日本人の心の問題が外国の圧力に屈して曲げられることは、大きな損傷を残す。日中間におい

講習会・教室②

木更津工業高等専門学校 公開講座 オープンセミナー

木更津工業高等専門学校は「公開講座」および「オープンセミナー」を開催します。

公開講座

▽webカメラを用いた静止画配信技法(第2回)

日時 10月22日(日) 10時〜15時

会場 木更津工業高等専門学校 SCS教室

内容 市販されているUSB接続のwebカメラとフリーソフトウェアを使い、静止画像を配信する技法を学ぶ

対象 高校生以上

定員 10名(先着順)

受講料 5400円

▽シエイクスピアを楽しもう

日時 11月6日(日) 12時30分

申込み 申込み 公開講座:受講

分 15時45分

会場 同校 SCS教室

内容 シエイクスピアの伝記、登場人物の人間像など、その文学作品を知的に体験し、作家の全体像を理解する

対象 高校生以上

定員 30名(先着順)

受講料 5400円

▽オープンセミナー

▽パソコンで年賀状をつくらう、初心者のためのWebで年賀状作り

日時 10月23日(日) 13時〜16時

会場 同校 環境都市工学科CAD室

内容 パソコンを使って写真や干支の図柄が入った年賀状を作り、宛名も印刷する

対象 中学生以上のパソコン初心者

定員 20名(先着順)

受講料 無料

▽申込先

0438(30)4000

0438(98)571

292-0041

木更津市清見台東2-11-1

木更津工業高等専門学校 庶務課庶務係

※ 郵送・現金書留の場合は事前に申込先まで電話で問い合わせてください

▽申込期間 10月14日(金)まで

9時〜12時、13時〜17時(郵送・現金書留の場合は必着)

0438(30)4164

同校 技術教育支援センター

除く 金井さん

▽webカメラを用いた静止画配信技法(第2回)

0438(30)4122

木更津工業高等専門学校 電子制御工学科

大橋さん

▽シエイクスピアを楽しもう

0438(30)4052

同校 人文学系

小澤さん

▽パソコンで年賀状をつくらう、初心者のためのWebで年賀状作り

0438(30)4164

同校 技術教育支援センター

(出典: 2005年10月8日房総ファミリア新聞)

2005年度公開講座等の実績

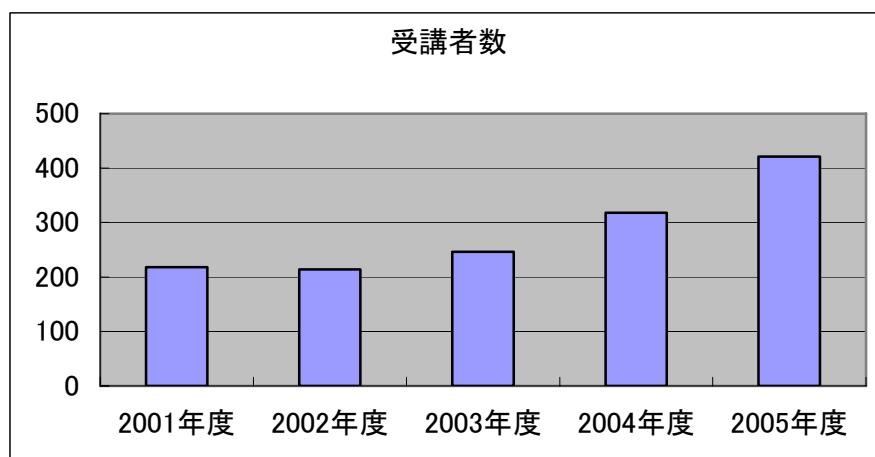
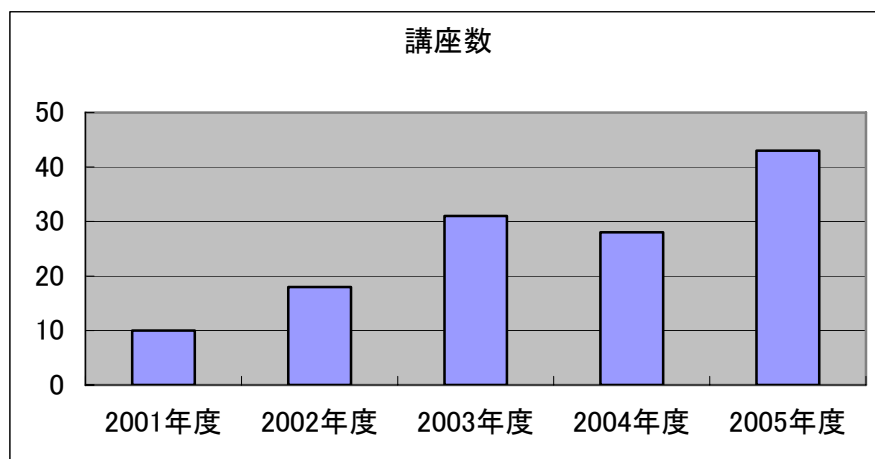
2005年度公開講座等の実績							
番号	種別	講座名	担当学科	対象	開催日	定員	受講者数
1	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(1)	電子制御	一般	5月21日	10	2
2	公開講座	住宅建築のための地盤の基礎知識	環境都市	一般	5月22日	10	0
3	公開講座	中学3年生の為のタッチタイピング(1)	環境都市	中学	7月23日	5	0
4	公開講座	中学3年生の為のタッチタイピング(2)	環境都市	中学	7月24日	5	3
5	公開講座	PCの自作講座 ～入門編～	電子制御	中学・一般	7月26日	6	4
6	公開講座	移動ロボット製作教室	電子制御	中学	7月26日	25	17
7	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(中学生対象)	電子制御	中学	8月3日	10	0
8	公開講座	Pov-RayによるCG作成入門	情報	小中	8月6日	20	1
9	公開講座	電気主任技術者第3種のための直前講座(回路, 電磁, 応用, 機器)	電気電子	一般	8月6日	10	0
10	公開講座	土木技術者のためのExcel入門	環境都市	一般	8月6日	20	1
11	公開講座	Texの初歩の初歩	基礎	一般	8月27日	20	0
12	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(2)	電子制御	一般	10月22日	10	2
13	公開講座	シェイクスピアを楽しもう	人文	一般	11月6日	30	0
1	オープンセミナー	パソコンで遊ぼう～初心者のためのパソコン教室～	技術教育支援	中・一般	5月29日	20	30
2	オープンセミナー	ウェルネスセミナー①誰よりも早く走ろう(1)	人文	中	6月11日	20	14
3	オープンセミナー	ウェルネスセミナー②柔道ってどんなもの	人文	小	7月3日	20	13
4	オープンセミナー	パソコンによるプレート彫刻	機械・支援セン	中・一般	7月16日	10	6
5	オープンセミナー	牛乳パックで橋づくり(1)	環境都市	小	7月21日	5	4
6	オープンセミナー	牛乳パックで橋づくり(2)	環境都市	小	7月22日	5	4
7	オープンセミナー	IT講習会	ネットワーク情	小中一般	7月26日	30	14
8	オープンセミナー	英語リスニング講座	人文	中・一般	8月8日	25	10
9	オープンセミナー	背骨と健康(カイロプラクティックの立場から)	機械	中・一般	8月21日	30	25
10	オープンセミナー	実験で理解する鉄筋コンクリー	環境都市	中	8月23日	10	0
11	オープンセミナー	青少年のためのおもしろサイエンス(1)	基礎学系	小中	8月24日	40	46
12	オープンセミナー	サンドブラスタート	機械・実習工場	中・一般	8月24日	10	11
13	オープンセミナー	地震が起こったとき、あなたならどうする？	環境都市	中・一般	8月28日	100	9
14	オープンセミナー	エレキギターを作ろう！！	電気電子	小中	10月1日	10	7
15	オープンセミナー	ウェルネスセミナー③ジュニアバレーボール教室	人文	小	9月10日	30	50
16	オープンセミナー	ウェルネスセミナー④スポーツテストで体力診断	人文	一般	10月15日	40	16
17	オープンセミナー	パソコンで年賀状を作ろう～初心者のためのWordで年賀状作	技術教育支援	中・一般	10月23日	20	13
18	オープンセミナー	青少年のためのおもしろサイエンス(2)	基礎学系	小中	10月30日	40	42
19	オープンセミナー	鑄造でメダルを作ろう	機械・支援セン	中・一般	11月12日	10	6
20	オープンセミナー	ウェルネスセミナー①誰よりも早く走ろう(2)	人文	中	3月25日	20	7
1	テレワークセミナ	アジアの環境破壊を考える	環境都市	中・一般	10月16日	18	4
2	テレワークセミナ	カイロプラクティックについて	機械	中・一般	10月16日	18	4
3	テレワークセミナ	ため池や小川の生き物 ～貝に卵を産む魚～	環境都市	一般	11月5日	15	4
4	テレワークセミナ	レゴロボット(1)	電子制御	小中	11月6日	10	10
5	テレワークセミナ	パワーポイントでカレンダーを作ろう	情報	一般	11月13日	18	4
6	テレワークセミナ	レゴロボット(2)	電子制御	小中	11月19日	10	10
7	テレワークセミナ	身近なものから学ぶ ～電気～	電子制御	一般	11月20日	10	3
8	テレワークセミナ	かんたん年賀状づくり	情報	小中一般	11月26日	18	10
9	テレワークセミナ	かんたん！コンクリートづくり	環境都市	小	11月27日	10	9
10	テレワークセミナ	エクセルで簡単家計簿です！	情報	小中一般	11月27日	18	6

(出典：庶務課資料)

資料B-1-①-10

公開講座等の開設数・受講者数の推移

種別	数	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
公開講座	講座数	2	4	4	4	13
	募集定員	45	105	85	71	181
	受講者数	45	77	31	36	30
オープンセミナー	講座数	3	6	11	10	20
	募集定員	56	160	210	245	495
	受講者数	100	81	146	171	327
テレワーク セミナー	講座数	5	8	16	14	10
	募集定員	84	136	266	193	145
	受講者数	73	56	69	111	64
計	講座数	10	18	31	28	43
	募集定員	194	401	561	509	821
	受講者数	218	214	246	318	421



(出典：庶務課資料)

資料B-1-①-11

公開講座（オープンセミナー）受講者アンケート

平成17年度 公開講座（オープンセミナー）受講者アンケート

アンケート作成：木更津工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

講座（セミナー）名：「
」
アンケート回答者：小学生 中学生 高校生 大学生 社会人

1. この講座（セミナー）は何を見てお申し込みになりましたか？
房総ファミリアで見た
木更津工業高等専門学校のホームページで見た
知人から聞いた
その他（
）
2. 楽しく受講できましたか？
楽しくできた
どちらともいえない
つまらなかった
3. 説明はわかりやすかったですか？
分かり易かった
どちらでもない
分からない所もあった
4. レベルはどうでしたか？
適当だった
どちらともいえない
難しかった
5. この講座（セミナー）の内容は今後何らかの役に立ちそうですか？
役に立ちそう
どちらともいえない
役に立ちそうにない
6. この講座（セミナー）についての満足度は？
充分満足できた（かなり満足）
概ね満足できた（だいたい満足）
普通
あまり満足できなかった
全く満足できなかった（不満）
7. お住まいは市内ですか？
市内
市外（
市）
8. 今後開いて欲しい講座（セミナー）があれば下欄にご記入ください。

以上、ご協力ありがとうございました。

（出典：テクノセンター運営委員会資料）

2005 年度に報告された出前授業の概要

5) 生涯学習事業

(4) 支援講座

出前授業として、以下に示すように8件(16年度10件, 15年度6件)の報があった。対象となった中学校は昨年度と同数であった。

①「万華鏡の製作」光の性質の講義及び実験(高橋邦, 小藤田, 鈴木)

7月8日 木更津第一中学校において, 1年生111名に対して「万華鏡の製作」を実施し, 光の性質の講義及び演じ実験を行った。

(木更津第一中学校によるSPP研究者招聘講座) - 高橋邦夫

②「ホバークラフトの製作」(小田・板垣)

「一弦エレキギターの製作」(飯田・大澤・浅野・石川)

「コンクリートはなぜ固まるか」(青木), 3テーマ同時の物作り講座

7月16日 木更津第一中学校において, 1年生111名に物作り講座を行った。

(木更津第一中学校によるSPP研究者招聘講座)

③「君にもできる光通信体験講座」(栗本・米村)

「紙コップ簡易光通信」を9月22日と「光送受信機の製作と通信実験」を9月29日の2日に亘って木更津第一中学校の3年生3クラス100名に対して, 光通信を簡単に体験できるキットを用いて, 物作り講座を実施した。光通信のキットは木更津高専の開発したものである。

(木更津第一中学校によるSPP研究者招聘講座)

④「ゲルマラジオの製作」(飯田・大澤・石川・石井・浅野・石川・立石・今村)

10月29日 木更津太田中学校1年生110名に対して, ゲルマラジオの製作を行った。

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

⑤「君にも作れる光通信」(栗本・大枝・鈴木聡)

10月31日 太田中学校3年 4クラス

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

⑥「君にも作れる光通信」(栗本・大枝・鈴木聡)

11月7日 木更津第二中学校3年 選択授業1クラス

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

⑦「身近な先端科学技術に関する講演」(栗本・高橋克)

12月19日 木更津太田中学校の全校生徒に対して, 身近な先端技術について, 最近の脳研究の紹介等を行った

⑧木更津第三中学校の「地域ふれあい活動デー」における物作り講座(吉井・大澤・田村)

11月13日 木更津第三中学校のイベントで物作り講座を開き, 以下の内容を実施した。

「自分の香りを作ろう」いくつかの香りを合成して自分のコロンを作る

「万華鏡の製作」

(出典:平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告P8-9)

青少年のためのおもしろサイエンス資料

青少年のためのおもしろサイエンス実施実績

開催場所：木更津工業高等専門学校

年月日	テーマ	参加人数 (申込数)	運営費
1997年11月2日	・紙飛行機の製作と滞空競技	50(58)	校費
1998年8月25日	・エンジンなしで船を動かそう (桶から樟脳を抽出し、その樟脳で船を動かす)	31(36)	財団法人 総合工学振興会
1998年11月1日	・マイナス200℃の世界を体感しよう ・紙飛行機の製作と滞空競技	59(67)	財団法人 総合工学振興会
1999年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 (果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	30(35)	化学工学会
1999年10月31日	・紙飛行機の製作と滞空競技	43(50)	化学工学会
2000年8月25日	・レモンや炭でおもしろ電池 (果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	40(48)	大学開放推進 経費(大学等開 放特別事業)
2000年10月29日	・おもちゃを作って科学しよう (紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 科学マジック)	65(70)	大学開放推進 経費(大学等開 放特別事業)
2001年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 (果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	31(37)	大学と地域特別 事業経費
2001年10月28日	・おもちゃを作って科学しよう (紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 科学マジック)	51(41)	大学と地域特別 事業経費
2002年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 (果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	13(15)	大学と地域特別 事業経費
2002年10月27日	・おもちゃを作って科学しよう (紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 銀細工、科学マジック)	87(81)	大学と地域特別 事業経費
2003年	校舎改修工事のため中止		
2004年3月20日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・炭電池を作っておもちゃを動かそう！ ・水蒸気ので船を動かそう！ ・銀細工でペンダントを作ろう！ ・低温の世界を体験しよう！	45(48)	校費
2004年10月31日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・銀細工でペンダントを作ろう！ ・低温の世界を体験しよう！	41(5)	校費
2005年8月24日	・使用済み天ぷら油から石鹼を作ろう！ ・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・水蒸気ので船を動かそう！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・低温の世界を体験しよう！ ・オーブオイルから石鹼を作ろう！	45(48)	校費
2005年10月30日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・低温の世界を体験しよう！	29(11)	校費

青少年のためのおもしろサイエンス(出前授業編)実施実績

年月日	開催場所	テーマ	参加人数 (申込数)
2000年2月29日	君津市立周西中学校	・放射線の科学 ・水の話 ・果物電池 ・科学マジック	全校生徒 (500名)
2001年12月1日	木更津市立第三中学校	・放射線の科学 ・地球環境問題 ・硫酸の合成 ・科学マジック	3年生 (100名)
2002年5月11日	木更津市立中央公民館 (子どもセンター)	・紙飛行機の製作、滞空競技 ・プリクラ写真 ・温度感知器 ・科学マジック	小学校3～6年生 (30名)
2003年7月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (100名)
2003年10月3日	袖ヶ浦市立昭和小学校	・レモンや炭でいろいろ電池 ・低温の世界の体験	小学校5、6年生 (230名)
2003年11月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・蒸気船の製作、走行	中学校1～3年生 (51名)
2004年7月2日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (78名)
2004年11月13日	木更津市立第三中学校	・万華鏡の製作 ・石鹼作り	中学校1～3年生 (25名)
2004年12月12日	君津市立大和田小学校	・石鹼、線香花火作り ・ケミカルデモンストレーション (時計反応、火虫実験)	小学校 (18名)
2005年7月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (115名)
2005年11月12日	木更津市立第三中学校	・入浴剤、コロソ作り ・万華鏡の製作	中学校1～3年生 (30名)

(出典：基礎学系理科教室おもしろサイエンス資料集，現地閲覧資料30)

ものづくり夢フェスタ 2004 資料
ものづくり夢フェスタ2004

— 高専からはじまる、ものづくり新世紀 —

日時 2004年8月1日(日) 10時～19時40分
 場所 **かずさアカデミアホール** 会場案内図はこちら

- 主催 日本高専学会 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jact/>
- 共催 国立木更津工業高等専門学校 URL <http://www.kisarazu.ac.jp/top.html>
- 特別協賛 マブチモーター株式会社
- 協賛 双葉電子工業株式会社、東京電力、翼システム、サイバネットシステム、ソニーEMCS木更津テック、誠文堂新光社、千葉県教材社、アムテック
- 後援 木更津市、木更津・君津・袖ヶ浦・富津市教育委員会、木更津商工会議所、木更津工業高等専門学校技術振興交流会、木更津市異業種交流プラザ、電気学会千葉支所、日本機械学会千葉ブロック、朝日新聞千葉総局、読売新聞千葉支局、毎日新聞千葉支局、産経新聞千葉総局、東京新聞千葉支局、日刊工業新聞千葉支局、日本経済新聞千葉支局、千葉日報

1. 各種ものづくり体験・おもしろサイエンス
 参加無料・事前登録抽選制 第1回:10時30分～12時 第2回:15時30分～17時

ブーメラン紙飛行機、ゲルマニウムラジオ、光情報通信、ウインドカー、クリップモーター、万華鏡、超伝導

参加登録は、希望テーマ名、氏名、学校名、学年、住所、電話番号、(あればファックス、E-mail)を記入の上、6月30日までに、下記FAXに送付ください。抽選の結果は当選者に個別連絡。

参加申し込み連絡先 FAX 0438-30-4050 またはFAX 0438-30-4062



ゲルマニウムラジオ



ものづくり夢フェスタ2004—高専からはじまる、ものづくり新世紀— 2004.8.1 かずさアカデミアホール

(出典：高等専門学校の教育と研究第9巻第4号，現地閲覧資料31)

2005 サイエンススクエア資料

2005 夏休み サイエンススクエア
 トライ・はっけん・感動

国立科学博物館 東京・上野

※企画によっては材料費が500円程度かかるものがあります。
 ※制作中実験の様子をテレビ番組などで放送する場合があります。詳しくは各実験のパンフレットをご覧ください。
 ※各実験は、イベント終了時間までに終了する場合がございます。
 ※月曜日は展示替えのため、閉館となります。

目録

8/2-8/28	かほくたんけん教室 (8/2-8/7) 監修の授業 (8/9-8/21) プラスチックであそぼう (8/23-8/28) 光のひみつ	13:00-16:30	小学生以上
8/2-8/4	変形菌の観察と飛び出すカード作り アミーバのように動き、キノコのように変身 するふしぎな生物、変形菌。	10:00-11:30 12:30-15:30	小学生以上
8/5-8/7	はっけん博士 おしぼり紙を使った名前さがしをしてみよう。	10:00-12:30 13:30-16:00	小学生
8/5-8/7	昆虫をもっと良く知ろう 昆虫の暮らしや抱いている謎の観察により 昆虫の体の特徴を学びます。	10:00-12:00 13:00-15:30	小学生以上
8/16-8/21	こんが木・あんが木 木で水に浮くのか? 流石の? うづくり(木目出し)にトライ!	10:00-12:30 13:30-16:00	どなたでも
8/23-8/24	二足歩行ロボットによるダンスショー 二足歩行ロボットの歩行の仕組みや ラジオ体操などの演習を体験します。	10:00-12:00 13:00-15:00	小学生以上
8/25-8/26	体験してみよう足湯気分 夏を涼しく感じる足湯の仕組みや 乾のお風呂が気持ちよくなります。	10:00-12:00 13:00-15:30	小学生以上
8/23-8/25	パードランドで楽しもうパートII 身近な材料で簡単な音を作り、 ウグイスの音を出してみよう。	10:30- 12:45- 14:00-	小学3年生以上
8/26-8/28	いろいろな砂 日本のいろいろな場所の砂をさわったり、 顕微鏡で観察しよう。	10:30-12:30 13:30-15:30	小学生以上
8/9-8/14	とびだす顔カードを作ろう! 「Yahoo! きっぽ」 テラノザウルスやオオクワガタの 「とびだす顔カード」を作ってみよう!	10:00-16:00	どなたでも
8/9-8/21	ミュージアム・アドベンチャー ワークシートを使って展示をくわしく見てみよう !発見しよう!自然の不思議。	10:00-11:30 12:30-15:00	小学生
8/16-8/21	地域の記憶を掘り起こせ!! スーパーチャ「ちきゅう」 この船で地域のなぞを解き、 新生命体の発見、マンホールへ挑戦!	10:00-12:00 13:00-16:00	どなたでも
8/5-8/7	モビールを作ろう 紙や粘土を使ったモビールづくり。 うまくバランスがとれるかな?	10:00-12:30 13:30-16:00	小学生以上
8/5-8/7	牛乳パックでポストカードを作ろう 資源の再利用。 手作りのポストカードづくり。	10:30- 11:30- 12:30- 15:00-	小学生以上
8/9-8/14	技術の達人によるものづくり教室 江戸すだれ、絹のペンダント作りなどを通して 伝統工芸の世界を発見。	10:00-12:00 13:30-15:30	どなたでも
8/9-8/14	木材を使った自由工作 木片でなにができるのかな? 自分の好きなものをつくってみよう!	10:00-12:00 13:30-15:30	小学生
8/16-8/21	フラッシュ撮影で走る車「千代もぞく」を作ろう! 金属のブラシとモーターの振動で前進する 手のひらサイズのミニマシン作り。	10:00-11:30 13:00-15:30	小学4年生以上
8/16-8/17	太陽電池をつくろう 太陽電池を使って、 電子メロディーを鳴らそう。	10:00- 13:00-	小学4年生以上
8/16-8/19	光通信にトライ! ビームホースや発光ダイオードを使って、 簡単な光通信を体験します。	10:00- 11:00- 13:00- 14:00-	小学4年生以上
8/20-8/21	橋をつくってみよう 身近にある発泡スチロール、木材、竹ひご、 厚紙などで橋を作ってみよう。	10:00-12:00 13:00-16:00	小学4年生以上
8/16-8/21	万華鏡を作ろう 光の不思議その1。 光の不思議を体験する万華鏡作り挑戦。	10:00-	小学4年生以上
8/16-8/21	電気であらゆる電子のおもちゃ作り 日用品と簡単な電気部品で 電子のおもちゃを作ります。	12:30- 14:30-	小学4年生以上
8/16-8/21	クルクルトンボ ガリガリするとクルクルまわる! トンボづくりに挑戦!	10:00-12:00 13:00-16:00	小学生以上
8/23-8/24	スライムを作ろう 洗濯のりを使って、 スライムを作ります。	10:00-12:00 13:00-15:00	小学生以上
8/27-8/28	ふしぎな顕微鏡工作 顕微鏡を強ひ合わせて鏡を作ると、 あるはずのない壁が見えてきます。	10:00-12:00 13:00-15:00	小学生以上
8/23, 24, 27, 28	風に向かって進むウインドカーを作ろう 風(うちわや扇風機)に向かって進む車。 ウインドカーを作ります。	10:00-12:00 13:00-15:00	小学生以上
8/23, 24, 27, 28	日用品でラジオを作ろう「象ラジオ」 傘でラジオを作ってみよう。 電池がないのにラジオが聞こえます。	11:00- 14:00-	小学4年生以上
8/25-8/26	夜光バッチ・ペンダントを作ろう プラスチックを加工して蛍光塗料をぬった オリジナルバッチ・ペンダントを作ろう。	10:00-12:00 13:00-15:30	小学生以上
8/25-8/26	万華鏡「ビー玉版」を作ろう プラスチック板とビー玉で 万華鏡を作ってみよう。	11:00- 14:00-	小学生以上
8/23-8/28	顕微鏡フィルムでステンドグラスを作ろう 光の不思議その2。 顕微鏡でステンドグラスを作ってみよう。	10:00-12:00	小学4年生以上
8/23	牛乳パックで機作り 牛乳パック30個を使って機を作ります。	12:30- 14:30-	小学4年生以上
8/24-8/25	一弦エレクトリックギターを作ってみよう 一弦で簡単なエレクトリックギターを作ります。	12:30- 14:30-	小学4年生以上
8/26-8/28	君にも作れる光通信 光通信の簡単なおもちゃを作って遊びます。	12:30- 14:30-	小学4年生以上
8/23-8/25	「電子ホタル」をつくろう 発光ダイオードを利用した ホタルのおもちゃを作ります。	10:00- 11:00- 13:00- 14:00-	小学生以上
8/26-8/28	「ガタガタする石」を作ろう 「カルト石」「セルト石」などという 名称で呼ばれるおもちゃです。	10:00-12:30 13:30-16:00	どなたでも

(出典：2005 夏休みサイエンススクエアパンフレット「国立科学博物館」)

(分析結果とその根拠理由)

テクノセンター運営委員会において公開講座等の実施要領が定められ、実施者に実施計画書の作成・提出を求めており、それによって実施予定内容の確認、全体の計画立案が行われている。公開講座等の講座名及び詳しい実施内容はウェブページや地域機関紙、木更津市広報等を通して、広く公開されている。講座の内容は、本校の研究技術力を地域に還元すると同時に、地域のニーズに対応して多岐に及んでおり、講座数は年々増加し2005年度は43講座にも及んだ。また、地域の要請に応じて各種出前授業等にも積極的に講師を派遣している。

以上のことから正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の目的に沿って計画的に実施されていることが分かる。

観点1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

公開講座等の講座数及び受講者数の推移は、資料B-1-①-11（公開講座等の開設数・受講者数の推移）に示した通り、年々増加傾向にあり、2005年度の実績では、421名の参加があった。

2005年度に行った公開講座、オープンセミナー、テレワークセミナーにおける受講者アンケート（アンケート内容：資料B-1-①-11 参照）の結果を示す（資料B-1-②-1）。受講者の満足度については、「充分満足できた」若しくは「概ね満足できた」という回答率は、小中学生対象講座では93.1%、社会人対象講座では90.7%と良好であった。また、小中学生対象講座で、講座が楽しかったという回答の割合は94.8%、社会人対象講座で講座の内容が今後役に立つと回答した割合は90.7%であり、受講者アンケートの結果から、本校の目的である「社会人の生涯教育のサポート、地域小中学生の学習意欲の向上」に対して十分な成果が上がったと考えられる。

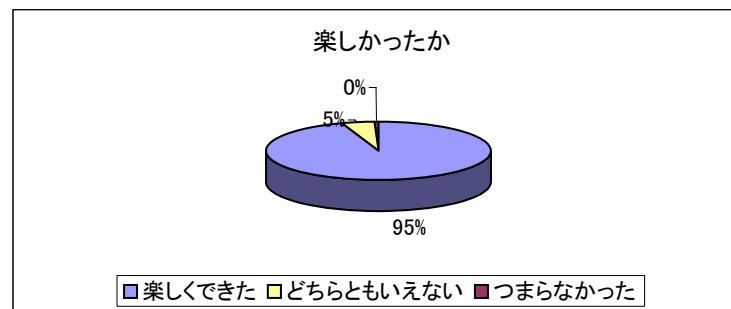
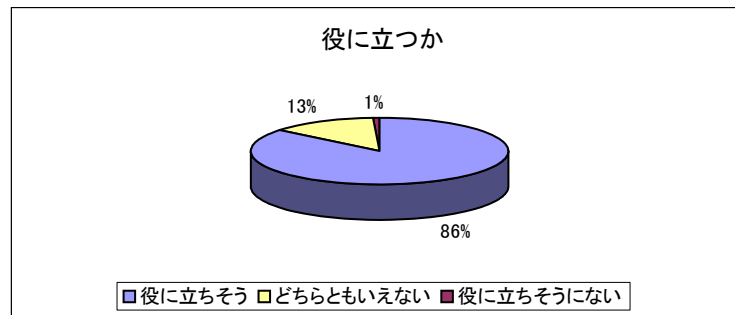
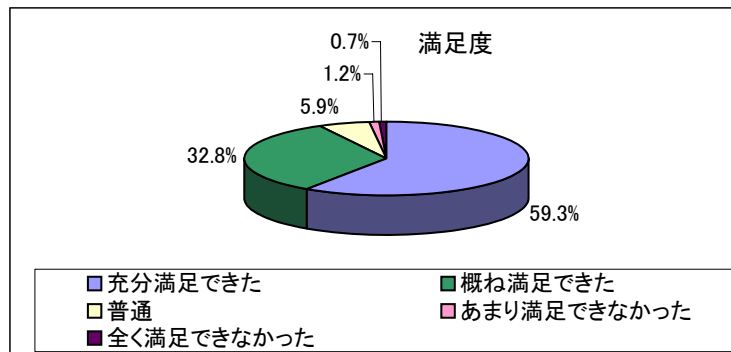
活動成果を検証し、教育サービスの改善を図る目的で、公開講座担当者に対し、公開講座実施報告書の提出を義務付けている（資料B-1-②-2）。実施報告書の内容は、実施計画書からの変更点、前年度からの改善点、実施後に行った受講者アンケートに対するコメント及び反省点、次回開講時に向けての改善点となっており、提出先はテクノセンター運営委員会である。同委員会は、実施報告書の内容を検討し、委員会において講座内容の問題点抽出、改善の勧告を行うシステムはあるが（資料B-1-②-3）、現在のところは、講座実施者の自己点検において十分な改善が行われている。実際の改善例については、平成17年度公開講座実施報告書（[現地閲覧資料32](#)）にて示す。

また、出前授業等においても、実施後に反省会が行われ、改善につなげている（資料B-1-②-4）。

資料B-1-②-1

2005年度公開講座等受講者アンケート結果

	公開講座	オープンセミナー	テレワークセミナー	小中学生	社会人	計(数)	小中学生 (%)	社会人 (%)	計(%)
充分満足できた	23	178	41	148	94	242	63.5%	54.3%	59.3%
概ね満足できた	7	112	15	69	63	134	29.6%	36.4%	32.8%
普通	0	22	2	15	9	24	6.4%	5.2%	5.9%
あまり満足できなかった	0	4	1	1	4	5	0.4%	2.3%	1.2%
全く満足できなかった	0	1	2	0	3	3	0.0%	1.7%	0.7%
役に立ちそう	25	273		171	127	298	82.6%	90.7%	85.9%
どちらともいえない	5	41		34	12	46	16.4%	8.6%	13.3%
役に立ちそうにない	0	3		2	1	3	1.0%	0.7%	0.9%
楽しくできた	28	298	60	221	165	386	94.8%	94.8%	94.6%
どちらともいえない	2	18	0	12	8	20	5.2%	4.6%	4.9%
つまらなかった	0	1	1	0	1	2	0.0%	0.6%	0.5%



(出典：庶務課資料)

公開講座実施報告書の例

平成 17 年度公開講座等実施報告書

平成 18 年 3 月 16 日作成

記載責任者	所属： 電子制御工学科	氏名： 鈴木 聡
-------	-------------	----------

区分	公開講座	オープンセミナー	駅前高専 (テレワークセミナー)
講座の名称	移動ロボット製作教室		
募集状況	募集定員： 25 名	応募者数： 18 名	受講者数： 17 名
実施計画書からの変更点	予定した募集定員より応募者が少なかったため、担当する教職員数を 6 名から 5 名に減らした。		
前回からの改善事項 (H16 年度以前に実施実績がある場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・従来は受験をにらんでか中学 3 年生の参加が多かったが、昨年度あたりから 1 年生の参加も多くなってきた。これに伴い、今年度は講義内容を噛み砕いて、1 年生にもわかるような工夫を凝らした。製作内容は変更していないが、1 年生には特に注意を払うようにスタッフにお願いした。 ・製作のとき、トランジスタの向きを間違える受講生が多かった。これは指導書の図がわかりにくいことと、トランジスタの極性の見分け方を周知していなかったことが原因であることが判明したので、今年度は改善した。 ・パソコンによるプログラミングは良く理解できないという声が多かったので、ロボットを制御するために最低限必要な事柄に絞り、具体例を挙げて詳しく説明するようにした。 ・ホームページを見て公開講座の開催を知ったという受講生が少なくなかったため、ホームページでの宣伝にも力を入れた。 		
受講生に対するアンケートの結果に対するコメントおよび本講座の反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度、理解度の点において、概ね好評であった。 ・「楽しく受講できましたか」、「説明はわかりやすかったですか」という設問に対して、「どちらでもない」という回答が数人いたが、自由記述欄には「先生方が親切で、是非高専に入学したい」と書いてあったので、公開講座を通して高専を知ってもらおうという点では有意義なものであったと考えている。 ・木更津市近郊からの受講者が 2/3 であり、残りは千葉市以北であった。かなり遠くから来る受講者もあり、熱心さに感心した。 ・二足歩行ロボットの製作講座を開いて欲しいという希望が多かった。 		
次回開講時に向けての改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・応募人員が定員に達しなかったため、ホームページ、地域ミニコミ誌などを通して宣伝を強化するとともに、中学校の先生方を通して公開講座の周知をはかる必要がある。 ・アンケートで要求があった二足歩行ロボットを公開講座で製作することは難しいが、昆虫形のロボットや中学生向けのロボットコンテストレベルのものを作らせることは可能であるので、次回以降考えていきたい。 ・本講座で作成する移動ロボットは、パソコンにより制御する。しかし、実際のロボットは自立型でマイクロコンピュータにより制御されるのが普通である。したがって、マイクロコンピュータに関する公開講座も必要と思われるので、これに関しては来年度のテーマに取り入れることにした。 		

(出典：地域共同テクノセンター運営委員会資料、現地閲覧資料 32)

公開講座等に関する会議議事要旨（抜粋）

平成16年度 第6回

地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

日 時 平成17年1月11日（火） 15:20～17:20
 場 所 第1会議室
 欠席者 田村, 相川, 鈴木久, 石井, 庶務課長
 ※今回, 公開講座関係（議題1）のオブザーバーとして総務係長（永井氏）が出席。

【議 題】

1. 平成17年度公開講座について

①実施照会について・・・資料 1-1

②実施計画書について・・・資料 1-2

委員長より資料説明後, 様々な議論がなされ, 特に①について, 講習料収入と支出予算の関係を明らかにし, 年度当初からある程度の既定経費を予算措置すべきとの意見があったが, 議論の結果, 原案どおり①実施照会后, 各講座責任者に②実施計画書を提出させたいので, 庶務係において予算資料（収入・支出見込）を作成後, 本委員会において再検討することとなった。

〔総務係長補足〕

- ・できるだけ講習料収入の範囲でオープンセミナー及びテレワークセミナーを含む全ての講座が開講できることが望ましい。
- ・「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則」第14条第2項の条文に謳われている講習料の減額については, 校長の権限で定められるとされているが, 減額の範囲等, 総務係において後日機構本部へ照会する。（1月12日確認）

第5回 地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年1月17日（火） 15:20～17:15
2. 場 所 第1会議室
3. 出席者 小平（委員長）、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋邦、東、高橋克、事務部長
（欠席者：五十嵐、田村、板垣）

4. 議 事

【議 題】

4. 平成18年度公開講座等について（資料4）

小平センター長から、公開講座については、平成17年度から実施方法を変更し開催している。18年度の実施計画書の提出を各学科・学系に依頼する時期となったが、今年度の実施状況を見て、見直しを図ることの是非について提案があり、検討の結果、今年度と同様とすることが了承された。なお、今後は提出のあった計画書については本委員会で内容を十分精査することとなった。

（出典：地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨）

サイエンススクエア反省会報告書

2005年9月6日

サイエンススクエア反省会 報告書

(文責) 大澤

1. 反省会実施日時：2005年9月6日 (火) 17:10～
 2. 場 所：第一会議室
 3. 参 加 者：(基礎) 高橋、吉井、(M) 板垣、林田、(E) 小平、石井、飯田、浅野、(D) 鈴木、(J) 栗本、大枝、(C) 佐藤、(庶務課) 原、斉藤、仲川、大坪、河野、宮近 (学生課) 椎名
- アンケート結果紹介の後、意見を出し合った。以下に意見のまとめを記す。
- 4年生以下は親が全部作っているケースもあった。
 - 低学年向けのテーマがあっても良いのではない
 - 長時間だと子供の集中力が続かないので、短い時間で終わるよう工夫が必要
 - 低学年と高学年に分けたらどうか
 - 兄弟での参加が多いので下の子供を断るわけにはいかない
 - 整理券方式は人数に限られるので、随時実施のものが必要ではなかったか。
 - フリーの企画で物作りは大変である
 - 10～20分の演示があっても良い
 - 10:00～12:00は班毎に指導をさせれば、随時実施も可能ではないか
 - 朝だけの受付は何とかならないか。午後から来た人が参加できなくて残念そうだった。
 - 受付の方式は科博で長年実施してきたので定着したのだから変更は難しいのでは？
 - やはり随時実施するテーマが必要なのだろう
 - 物作りの回数を増やしても良いのではないか。
 - 午前中2回、午後2回はやれるのではないか
 - 実際に2週目の終盤では1日4回実施したが、昼食をとる時間が無くなって学生が大変そうだった
 - 午後の開始時間を他高専のように13時からなら可能では？
 - 学生は楽しんでたし、回数は増やした方が良いとの学生の意見もあった
 - 時間が余りすぎたのではないか
 - 今回の計画では1企画が90分を予定したため、4回を最初から計画するわけにはいかなかった。しかし、実施してみると早く終わった。時間の見積りは小学生への対応に慣れてくれば正確になると思う
 - 理論の説明はほとんど聞いていないので、やらない方が良い。
 - 大人が単独で実施したケースがあった。
 - 年齢の上限をきちんと明記した方が良いのではないか
 - 作品を比べあうような工夫をすると盛り上がる。
 - 作り方などの資料に学校の名前をもっと大きく入れたほうが良かった。
 - 資料をネットで公開すると良い宣伝にもなる。
 - 共通のスペース (高専全体の宣伝スペース) に進学相談があっても良かったのでは？
 - 中学生限定のテーマがあっても良いかもしれない。
 - みどり館は地下なのでわかり難い。もっと大きな看板 (企画内容が書いてある) があっても良かったのでは？
 - 会場は確かにわかり難かった。
 - 新館の1階にサイエンススクエア専用の案内所もあった。
 - 準備段階では、立て替え払いができるようにしてくれると助かる。
 - 試作段階で、100円ショップやホームセンターに行って自費で材料を購入するケースがあった。立て替え払いができないと不便である。
- <学生からはメールで意見をもらった。以下は学生のメールから>
- 場所が遠いと思いました。
 - 今回のやり方で大丈夫だと思います。でも、群馬高専の様に子供2人くらいに先生か学生が1人付いて進めていくのも子供たちのペースでできていいと思いました。
 - アシスタントは五人くらいが適当だと思います。しかも五人が知り合いなら遠慮なんかせずに仕事が出来ると思います。女子学生が一人は居た方が小さい女の子には良いだろうと思いました。
- <反省会に参加できなかった教職員から>
- アンケートの設問が、小学生が答えるには、表現が少々難しいかなと感じました。内容はそのまま、表現をやわらかくした方が良いと思います。
 - 工作の内容 (偏光板、紙バックの橋作り) については、小学生向きで良かったと思います。
 - 反省点 (よかった点) として、アシスタント学生がとてよく参加者 (子供達) の面倒を見ており、助けられました。
 - アシスタント学生について
 - 5年生・専攻科生は、公開講座等いろいろな場面で学外者の対応にあたった経験を基に小学生の視点にたつて非常に良く指導しており、小学生・保護者に好評だったように思えた。一方、低学年生の指導はいまひとつだったような声もあった。
 - 小中学生対象のこういったイベントの成功・不成功は、アシスタント学生の対応ひとつにかかってくるため、来年度も開催するのであれば経験豊富な高学年生・専攻科生を中心に依頼できればよいと思う。

(出典：地域共同テクノセンター運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

公開講座等の開設講座数・受講者数は年々増加しており、2005年度は43講座の開設講座に421名の参加があった。受講者の満足度は90%を越えることから、十分に活動の成果が上がっていると考えられる。講座実施後に報告書の提出を義務付けてテクノセンター運営委員会で検討するシステムがあり、報告書の内容からも講座の内容、実施日、実施方法等について多くの改善が行われていることが分かり、改善のシステムが十分に機能しているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

公開講座、オープンセミナー等の教育サービスが地域共同テクノセンターの事業として計画的に行われており、地域共同テクノセンター運営委員会によって各講座の実施内容が掌握されている点。

公開講座等の開講数が43講座あり、参加受講者数も421名に達している点。

ものづくり夢フェスタ2004（日本高専学会主催）、2005夏休サイエンススクエア（国立科学博物館）等のものづくり体験教室や文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座に積極的に講師及びアシスタント学生を派遣し、地域小中学生に対して科学技術に対する興味・関心を与え理科の学習意欲向上に大きく貢献している点。

1997年より科学教室「青少年のためのおもしろサイエンス」を定期的に開催しており、参加者が現在に至るまで延べ1937名に達し、成果を挙げている点。

受講者の満足度が、社会人対象講座、小中学生対象講座ともに90%を超えている点。

(改善を要する点)

特に無い。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校では、一般社会人の生涯教育のサポート及び地域小中学生の学習意欲の向上を目的とした公開講座等の教育サービスを地域共同テクノセンター事業の一環として計画的に実施している。公開講座等には、有料の公開講座、無料のオープンセミナーの他に木更津市と協働で行っているテレワークセミナーが含まれる。公開講座等の実施担当者は、公開講座等実施要領に沿って実施計画を立て、実施後は受講者アンケートの分析を行う等して、サービスの改善に努めている。テクノセンター運営委員会では、実施計画書・実施報告書の内容を基に、実施内容の掌握を行っている。公開講座等の実施要領は、ウェブページや地域機関紙等の広報誌を通して積極的に幅広く公開され、開設講座数及び受講者数も年々増加しており、2005年度の実績では、開講講座数43、参加受講者数421名に達した。講座の内容は、一般社会人を対象としたものとしては専門技術や資格取得に関するものの他、パソコン入門、語学、体力作り等広範囲を網羅しており生涯学習のサポートとして適切なものとなっている。また、小中学生を対象としたものでは、パソコンの自作、橋作り、鋳造、レゴロボット等のものづくり体験講座のほか、パソコンリテラシー講座、科学実験教室、スポーツ教室、環境問題等多岐に及んでおり、小中学生の学習意欲の向上に寄与する内容となっている。受講者の満足度も社会人対象講座では90.7%、小中学生対象講座では93.1%とたいへん良好であった。

公開講座等の他にも、文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座、地域小中学校の要請に応じた出前授業に積極的に講師を派遣している。また、「ものづくり夢フェスタ2004（日本高専学会主催）」、「2005夏休サイエンススクエア（国立科学博物館）」等のものづくり体験教室や1997年より定期的に開催し延べ2000名近くが参加した「青少年のためのおもしろサイエンス」等の科学教室にも講師やアシスタント学生を積極的に派遣し、非常に多くの地域小中学生に対して科学技術に対する興味・関心を与え、理科の学習意欲向上に大きく貢献している。

以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の目的に沿って適切に行われ、十分な成果を上げているものと評価できる。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。